NT450 アトラスをお買い上げいただき ありがとうございます。

本書は，お車を安全・快適に社会環境にも優しい運転・操作をしていただくため，正しい取扱いと簡単な点検，手入れ，及び万一のときの処置について説明してあります。
取扱いや点検，手入れ，及び万一のときの処置を誤りますと思わぬ故障や事故の原因となりますので，お車を使用する前に必ずお読みください。

- 本書では取扱いに関する警告表示について次に示す表示や記号を使用しています。

⚠危険	取扱いを誤ると，重大な人身事故に至るもの。
⚠警告	取扱いを誤ると，重大な人身事故に至るおそれがあるもの。
⚠注意	取扱いを誤ると，傷害を受けたり，物損事故のおそれがあるもの。
アドバイス	車の損傷防止，性能を維持するために守っていただきたいこと。
知識	用語の簡単な説明など知っておくと役立つこと。

- 「⚠危険，⚠警告，⚠注意，アドバイス，知識」及び「“必読” 安全で快適な運転をするために」の記載事項を遵守してください。これらを遵守していただかないと傷害などの事故原因になるおそれや，保証に応じられない場合がありますので，よくお読みください。また「⚠注意」に記載している内容でも，状況によっては重大な結果に進展する場合がありますので，必ず遵守してください。
- 本書で使用している数値の単位は SI 単位（国際単位）と従来単位（メートル単位）を併記し，従来単位は｛ ｝内で記載しています。
- ＊表示のある装置は車の仕様により，装着されていない場合があります。
- 保証書及び点検整備項目については，別冊のメンテナンスノートをごらんください。
- 架装物の取扱いについては，架装メーカーの「取扱説明書」をごらんください。
- 取扱説明書は自動車検査証，メンテナンスノートとともに車の中に保管してください。
- 車をゆずられるときは，取扱説明書とメンテナンスノートを車に付けておいてください。
- 車の仕様の相違や改良などにより本書の説明文とイラストがお客様のお車と異なることがありますのであらかじめご了承願います。
- 内容について不明な点がありましたら，お近くの日産販売会社へお問い合わせください。

お客様のお車は
車種・型式　：
エンジン型式：
不明な場合は担当営業スタッフにおたずねください。

本書に記載している車両型式

本書は次表に示す型式の車両について説明してあります。

名称	型式	車輪配列	キャブ幅	サスペンション（前 / 後）	エンジン型式
アトラス	FBA0W	4×2	標準幅	独立懸架 / リーフ	4P10
	FBA2W			独立懸架 / リーフ	
	FBA3W			リーフ / リーフ	
	FBA5W			リーフ / リーフ	
	FBA6W			リーフ / リーフ	
	FEA2W			独立懸架 / リーフ	
	FEA5W			リーフ / リーフ	
	FEA8W			リーフ / リーフ	
	FEB2W		広幅	独立懸架 / リーフ	
	FEB5W			リーフ / リーフ	
	FEB8W			リーフ / リーフ	
	FEB9W			リーフ / リーフ	
	FEBMW			リーフ / リーフ	
	FEC9W			リーフ / リーフ	
	FED9W			リーフ / リーフ	
	FDA0W	4×4（フルタイム 4WD）	標準幅	独立懸架 / リーフ	
	FDA2W			独立懸架 / リーフ	
	FDA4W			独立懸架 / リーフ	
	FDA5W			独立懸架 / リーフ	
	FDA6W			独立懸架 / リーフ	
	FGA2W			独立懸架 / リーフ	
	FGA5W			独立懸架 / リーフ	
	FGB7W	4×4（パートタイム 4WD）	広幅	リーフ / リーフ	

検索のしかた

知りたいことがすぐ探せるようにいろいろな目次があります。

●タイトルから探すとき・・・・・・・・・・・・・・・・・

“ 目次 ” や “ 章ごとの目次 ” をご利用ください。

“ 目次 ” は各章のタイトルが記載してあります。さらに詳しく調べるときは，“ 章ごとの目次 ” や各章のページにある目次をごらんください。

●スイッチなどの名称がわからないとき・・・・・・・・

“ イラスト目次 ” をご利用ください。

“ イラスト目次 ” は “ 外まわり ”，“ 室内 ” 及び “ 計器盤まわり ” の３つに分かれています。取付け位置から目的のスイッチなどを探してください。

●名称から探すとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

巻末の “ さくいん ” をご利用ください。

A，B，C 順及びあいうえお順になっています。名称が分かっているときにごらんください。

●故障や万が一のときは・・・・・・・・・・・・・・・・・

裏表紙の “ 困ったときは ” をご利用ください。

お車が不調になったとき，パンクしたとき，ランプが切れたときなどにごらんください。

目次

章ごとの目次，イラスト目次，警告灯・表示灯目次	
1 章　はじめに	1
2 章　注意，警告ラベル	2
3 章　“必読” 安全で快適な運転をするために	3
4 章　各部の開閉	4
5 章　シート，ハンドルの調整	5
6 章　メーター，警告灯・表示灯の見方	6
7 章　運転装置，スイッチの取扱い	7
8 章　正しい運転のしかた	8
9 章　室内装備品の取扱い	9
10章　ヒーター，エアコンの取扱い	10
11章　オーディオの取扱い	11
12章　寒冷時の取扱い	12
13章　日常（運行前）点検	13
14章　定期点検・簡単な点検，手入れ	14
15章　給油，給脂	15
16章　故障の処置	16
17章　サービスデータ	17
18章　さくいん	18

章ごとの目次

1章 はじめに ····· 1-1

保証について ····· 1-2
全国サービス網 ····· 1-2
日産純正部品について ····· 1-2
車台番号，エンジン番号 ····· 1-3
新車時のならし運転について ····· 1-4
車両データの記録，蓄積及び取扱いについて ····· 1-5

2章 注意，警告ラベル ····· 2-1

注意，警告ラベルについて ····· 2-2
キャブ内はり付けラベル ····· 2-3
車外はり付けラベル ····· 2-6

3章 “必読” 安全で快適な運転をするために ····· 3-1

運転の前に ····· 3-2
運転時には ····· 3-7
お子さまを乗せるときは ····· 3-11
DUONIC 2.0 搭載車の取扱い ····· 3-13
パートタイム 4WD 車の取扱い ····· 3-15
フルタイム 4WD 車の取扱い ····· 3-17
駐停車時には ····· 3-19
12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い ····· 3-24
点検整備をするときは ····· 3-25
故障を防ぐために ····· 3-28
排気処理システムの取扱い ····· 3-30

4章 各部の開閉 ····· 4-1

スターターキー ····· 4-2
エンジンイモビライザー ····· 4-3
ドアの施錠，解錠 ····· 4-6
リモートコントロールエントリーシステム＊ ····· 4-9
ドアの開閉 ····· 4-13
乗降のしかた ····· 4-16
ドアガラスの開閉 ····· 4-18
キャブチルト＊ ····· 4-20
点検口の開閉＊ ····· 4-26
荷台の取扱い ····· 4-28

5章　シート，ハンドルの調整 ····· 5-1

運転席····· 5-2
助手席，中央席＊ ····· 5-5
後席〈ダブルキャブ車〉····· 5-6
シートベルト····· 5-7
ハンドル····· 5-12

6章　メーター，警告灯・表示灯の見方 ····· 6-1

メーターの配置····· 6-2
スピードメーター····· 6-2
タコメーター····· 6-3
水温計····· 6-4
燃料計····· 6-5
尿素水レベルインジケーター····· 6-6
マルチ情報システム····· 6-8
ウォーニング表示，インジケーター表示····· 6-27
ウォーニングランプ，インジケーターランプ····· 6-39
タコグラフ＊ ····· 6-48

7章　運転装置，スイッチの取扱い ····· 7-1

エンジン始動，停止装置
　スタータースイッチ····· 7-3
　暖機スイッチ····· 7-5
　アイドリング調整ボタン＊ ····· 7-6
　エンジンの始動····· 7-7
　暖機運転····· 7-11
　エンジンの停止····· 7-15
　アイドリングストップシステム＊ ····· 7-17
燃料，AdBlue®（尿素水）
　燃料の補給····· 7-24
　AdBlue®（尿素水）の補給 ····· 7-27
運転装置
　ペダル類····· 7-32
　排気ブレーキスイッチ····· 7-33
　ギヤシフトレバー····· 7-35
　DUONIC 2.0 ＊ ····· 7-36
　パートタイム 4WD 車＊ ····· 7-57
　フルタイム 4WD 車＊ ····· 7-66
　駐車ブレーキレバー····· 7-68
　EZGO（イージーゴー）（坂道発進補助装置） ＊ ····· 7-70

ヒルスタートアシスト機能〈DUONIC 2.0 搭載車〉‥ 7-80
照明装置
ライトスイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-87
パッシング，ディマースイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-88
方向指示スイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-88
非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-89
フォグランプスイッチ＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-89
ヘッドランプレベライザースイッチ＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-90
ヘッドランプオートレベライザーシステム＊ ‥‥‥‥‥‥‥ 7-91
ワイパー，ミラー，ホーン
ワイパースイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-92
ウォッシャースイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-93
ミラー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-94
ホーンスイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-99
特殊装置
ダンプトラック＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-100
トランスミッション PTO ＊‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-110
LSD（リミテッドスリップデフ）＊‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-117
作業用補助制動装置＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-118
環境，安全装備
排気処理システム‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-123
SRS エアバッグ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-137
ABS（アンチロックブレーキシステム）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7-148

8章 正しい運転のしかた‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-1

発進時の注意‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-2
走行時の注意‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-3
経済運転のポイント‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-6
ブレーキのかけ方‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-7
登坂，降坂のときは‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-9
悪路，悪天候のときは‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-11
駐車するときは‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-12
荷の積み方‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8-14

9章 室内装備品の取扱い‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-1

電源ソケット＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-2
シガーライター＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-3
灰皿‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-4
コートフック＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-7
サンバイザー＊ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-7
ルームランプ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9-8

けい光灯＊ ····· 9-10
ステップランプ＊ ····· 9-10
ルームミラー····· 9-11
物入れ····· 9-12

10章 ヒーター，エアコンの取扱い ····· 10-1

フロント吹き出し口····· 10-2
リヤ吹き出し口〈ダブルキャブ車〉····· 10-3
マニュアルエアコン＊ ····· 10-4
フルオートエアコン＊ ····· 10-11
リヤエアコン＊ ····· 10-17
リヤヒーター＊ ····· 10-22

11章 オーディオの取扱い ····· 11-1

オーディオの上手な使い方····· 11-2
AM/FM ラジオ（スピーカー一体型）＊ ····· 11-3
AM/FM ラジオ＊ ····· 11-8
AM/FM ラジオ& CD プレーヤー＊ ····· 11-19

12章 寒冷時の取扱い ····· 12-1

冷却水····· 12-2
エンジンオイル····· 12-2
ディーゼル燃料····· 12-2
AdBlue®（尿素水）の補給 ····· 12-2
降雪時の注意····· 12-3
その他の注意····· 12-4
タイヤチェーンの付け方····· 12-5

13章 日常（運行前）点検 ····· 13-1

日常（運行前）点検について····· 13-2
点検時の注意····· 13-3
点検項目····· 13-4
点検内容····· 13-6
1. 前回運転時の異常個所····· 13-6
2. ウォッシャーの液量····· 13-6
3. 冷却水の量····· 13-7
4. タイヤの空気圧····· 13-8
5. タイヤのき裂，損傷及び異常な摩耗····· 13-9
6. タイヤ溝の深さ····· 13-9
7. バッテリーの液量····· 13-10

8. ブレーキリザーバータンクのブレーキ液量 …… 13-11
9. ランプ類の汚れ，損傷 …… 13-12
10. エンジンオイルの量 …… 13-12
11. ファンベルトの緩み（張り具合），損傷 …… 13-15
12. エンジンのかかり具合，異音 …… 13-17
13. ブレーキペダルの踏みしろ …… 13-18
14. 駐車ブレーキの引きしろ …… 13-18
15. ウォッシャー液の噴霧状態 …… 13-19
16. ワイパーのふき取り状態 …… 13-19
17. ランプ類の点灯，点滅具合 …… 13-20
18. エンジンの低速，加速の状態 …… 13-21
19. ブレーキの効き具合 …… 13-21

14章 定期点検・簡単な点検，手入れ …… 14-1

定期点検 …… 14-2
簡単な点検，手入れ …… 14-3
点検，手入れ時の注意 …… 14-4
車載工具 …… 14-6
エンジンオイルフィルターの交換 …… 14-9
燃料フィルターの交換 …… 14-14
エアクリーナーの点検，清掃，交換 …… 14-19
燃料フィルターの水抜き …… 14-23
PCV フィルターの再生方法 …… 14-25
冷却水の補給，交換 …… 14-26
フートブレーキの点検 …… 14-36
駐車ブレーキの点検 …… 14-37
ハンドルの点検 …… 14-38
クラッチペダルの点検＊ …… 14-41
タイヤの交換 …… 14-43
ホイール，ホイールナットの点検 …… 14-60
ワイパーブレードの交換 …… 14-63
バッテリーの点検 …… 14-64
マフラーの機能点検 …… 14-71
デフロスターの点検 …… 14-72
外気導入口の点検 …… 14-72
シートベルトの状態 …… 14-73
車の手入れ …… 14-74
インタークーラーの清掃 …… 14-79
ヒーター，エアコン用エアフィルターの清掃 …… 14-80

15章　給油，給脂 ····· 15-1

オイルの点検，補給，交換時の注意 ····· 15-2
給油脂一覧表 ····· 15-3
エンジンオイルの補給，交換 ····· 15-7
クラッチオイルの点検，補給，交換
〈DUONIC 2.0 搭載車〉 ····· 15-13
トランスミッションオイル（DUONIC 2.0 搭載車も含む）
の点検，補給，交換 ····· 15-14
トランスファーオイルの点検，補給，交換＊ ····· 15-18
デファレンシャルオイルの点検，補給，交換 ····· 15-21
ブレーキ液の点検，補給 ····· 15-24
パワーステアリングオイルの点検，補給 ····· 15-26
給脂 ····· 15-28

16章　故障の処置 ····· 16-1

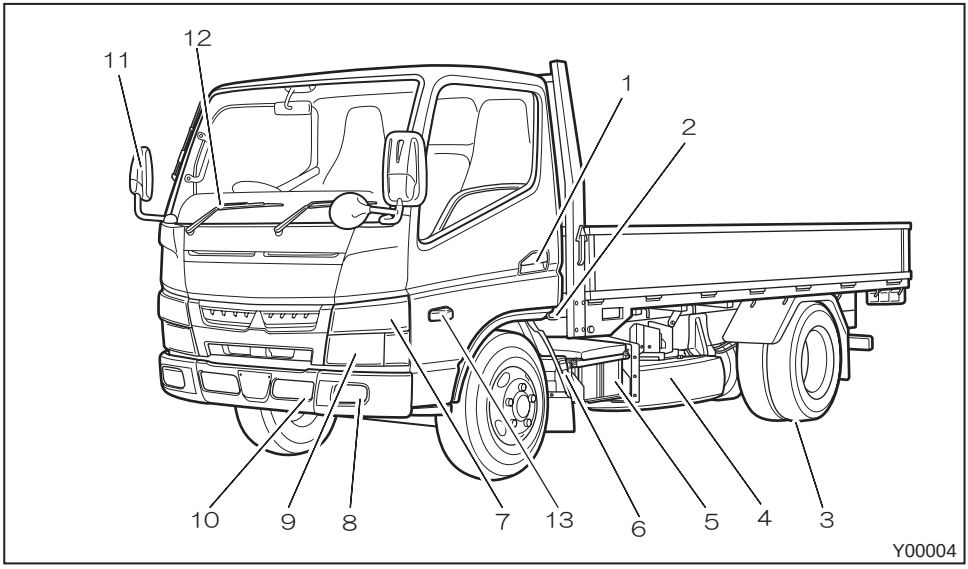
故障の原因と処置 ····· 16-2
故障したとき ····· 16-8
発炎筒の使い方 ····· 16-10
オーバーヒートしたとき ····· 16-11
ヒューズが切れたとき ····· 16-13
リレーがこわれたとき ····· 16-20
ランプが切れたとき ····· 16-22
バッテリーあがりのとき ····· 16-36
燃料タンクが空になったとき ····· 16-40
尿素水タンクが空になったとき ····· 16-40
けん引するとき ····· 16-41

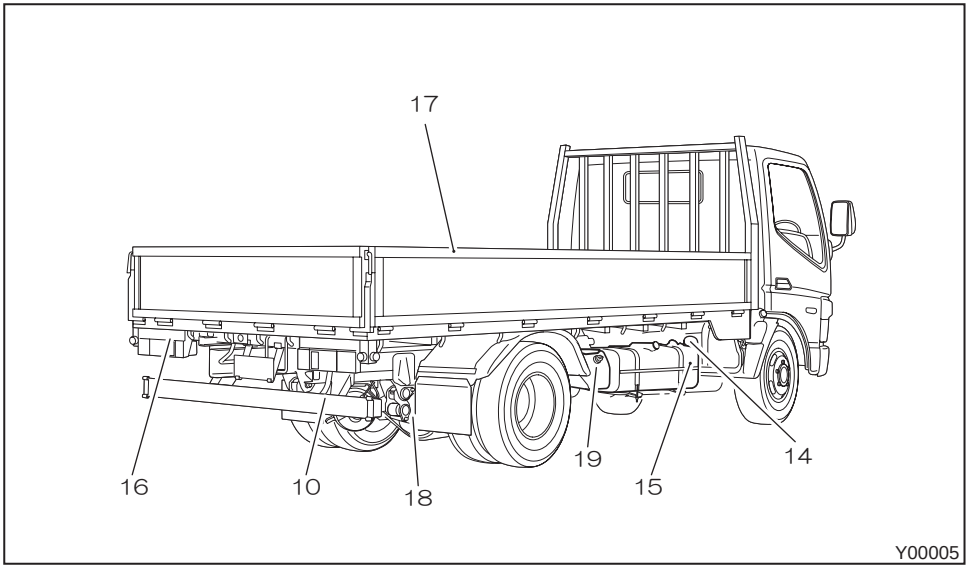
17章　サービスデータ ····· 17-1

18章　さくいん ····· 18-1

イラスト目次

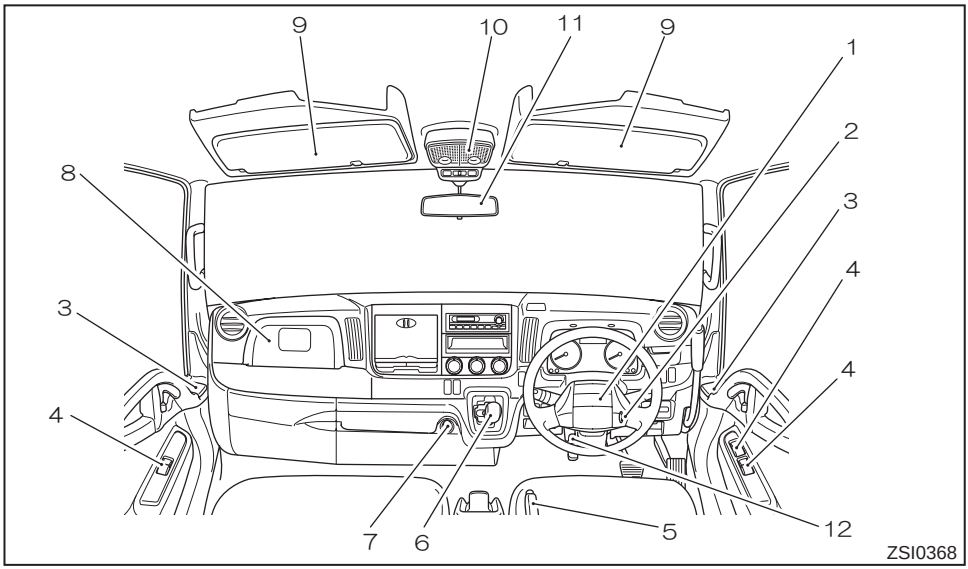
1. 外まわり





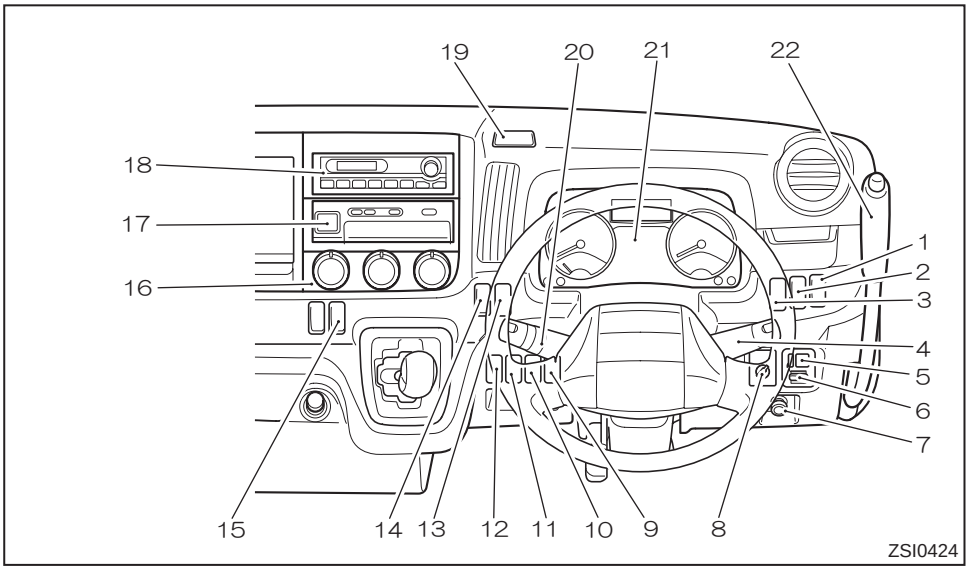
1. ドアアウターハンドル ····· 4-13
2. キャブチルト＊ ····· 4-20
3. タイヤ ····· 13-8, 13-9, 14-43, 14-57
4. スペアタイヤ ····· 14-58
5. バッテリー ····· 13-10, 14-65, 16-36
6. ハイカレントヒューズボックス ····· 16-13
7. 方向指示灯 ····· 13-12, 16-22
8. フォグランプ＊ ····· 13-12, 16-22
9. ヘッドランプ ····· 13-12, 16-22
10. けん引フック ····· 16-41
11. ミラー ····· 7-94
12. ワイパー ····· 13-19, 14-63
13. フロントサイド方向指示灯＊ ····· 13-12, 16-22
14. 燃料フィルター ····· 14-14
15. 燃料タンク ····· 7-25
16. リヤコンビネーションランプ ····· 13-12, 16-22
17. 荷台＊ ····· 4-28
18. マフラー ····· 14-71
19. 尿素水タンク ····· 7-27

2. 室内



1. 運転席 SRS エアバッグ ····· 7-139
2. スタータースイッチ ····· 7-3
3. 灰皿 ····· 9-4
4. パワーウインドースイッチ ····· 4-18
5. 駐車ブレーキレバー ····· 7-69
6. ギヤシフトレバー ····· 7-36
7. 電源ソケット＊ ····· 9-2
シガーライター＊ ····· 9-3
8. キー付きグローブボックス＊ ····· 9-12
助手席 SRS エアバッグ＊ ····· 7-140
9. サンバイザー＊ ····· 9-7
10. ルームランプ ····· 9-8
11. ルームミラー ····· 9-11
12. ハンドルロックレバー ····· 5-12

3. 計器盤まわり



1. PTO スイッチ＊ …… 7-110
2. EZGO（イージーゴー） アジャストスイッチ＊ …… 7-71
3. フォグランプスイッチ＊ …… 7-89
4. ライトスイッチ …… 7-87
　パッシングスイッチ，ディマースイッチ …… 7-88
　方向指示スイッチ …… 7-88
5. 電動リモコンミラースイッチ＊ …… 7-96
6. 電動格納ミラースイッチ＊ …… 7-97
7. アイドリング調整ボタン＊ …… 7-6
8. ヘッドランプレベライザースイッチ＊ …… 7-90
9. けい光灯スイッチ＊ …… 9-10
10. アイドリングストップシステムカットスイッチ＊ …… 7-17
11. ミラーヒータースイッチ＊ …… 7-99
12. DPF クリーニングスイッチ …… 7-125
13. フロントドライブスイッチ＊ …… 7-59
14. ECO モードスイッチ＊ …… 7-43
　HIGH／LOW 切り替えスイッチ＊ …… 7-60
15. EZGO（イージーゴー） メーンスイッチ＊ …… 7-71
　ヒルスタートアシスト機能カットスイッチ＊ …… 7-81
16. ヒーター，エアコンコントロールスイッチ …… 10-4，10-11

17. タコグラフ＊ ····· 6-48
18. オーディオ ····· 11-1
19. 非常点滅灯スイッチ ····· 7-89
20. ワイパースイッチ&ウォッシャースイッチ ····· 7-92, 7-93
排気ブレーキスイッチ ····· 7-34
暖機スイッチ ····· 7-5
21. メーター ····· 6-1
22. ダンプレバー＊，PTO レバー＊ ····· 7-100, 7-110

警告灯・表示灯目次

1. マルチインフォメーションディスプレイ

1.1　ウォーニング表示

名称	表示マーク	地色 / 文字色	参照ページ
エンジン制御	ENG SYS	赤 / 黒	6-28
		橙 / 黒	6-29
DUONIC 2.0 トランスミッション油温＊	T/M OIL	赤 / 黒	7-57
DUONIC 2.0 トランスミッション制御＊	T/M SYS	赤 / 黒	7-55
		橙 / 黒	7-56
キャブチルト＊	CAB TILT	赤 / 黒	4-25
バッテリーイコライザー＊	BAT EQ	赤 / 黒	6-33
SAM	SAM	赤 / 黒	6-33
		橙 / 黒	6-34
メータークラスター	METER	橙 / 黒	6-34
エンジンオイル量	ENG OIL	橙 / 黒	6-35
エンジンオイル及び PCV フィルターウォーニング表示		緑 / 黒	14-25
DPF 過堆積	DPF FULL	橙 / 黒	6-37
SRS エアバッグ	AIR BAG	橙 / 黒	7-147
燃料フィルター	WATER SEPR	橙 / 黒	14-23

1.2 インジケーター表示

名称	表示マーク	地色 / 文字色	参照ページ
ダンプ＊	DUMP	黒 / 橙	7-100
PTO ＊	PTO	黒 / 橙	7-100 7-110
PTO 接続準備＊	PTO READY	黒 / 橙	7-100 7-110
エンジンオイル交換時期	ENG OIL	黒 / 橙	6-21
エンジンオイルフィルター交換時期	OIL FILTER	黒 / 橙	6-21
燃料フィルター交換時期	FUEL FILTER	黒 / 橙	6-21
ブレーキ液交換時期	BRAKE FLUID	黒 / 橙	6-21
エアクリーナー交換時期	AIR FILTER	黒 / 橙	6-21
トランスミッションオイル交換時期	T/M OIL	黒 / 橙	6-21
ホイールハブベアリンググリース交換時期	HUB GREASE	黒 / 橙	6-21
デファレンシャルギヤオイル交換時期	DIFF OIL	黒 / 橙	6-21
パワーステアリングオイル交換時期	P/S OIL	黒 / 橙	6-21
エンジン冷却水交換時期	ENG WATER	黒 / 橙	6-21

2. メーター部

2.1　ウォーニングランプ

名称	表示マーク	色	参照ページ
燃料残量	● （燃料計内）	橙	6-40
ブレーキ		赤	6-40
バキューム		赤	6-40
オーバーヒート		赤	6-40
充電		赤	13-15
エンジン油圧		赤	6-41
エンジン制御		橙	6-41
排気後処理装置（尿素 SCR）		橙	6-42
尿素水品質		赤	6-43
尿素水残量	● （尿素水レベルインジケーター内）	橙	7-134
シートベルト		赤	5-12
ヘッドランプレベリング＊		橙	7-92
作業用補助制動装置＊		橙	7-119
EZGO（イージーゴー）＊		橙	7-71
ヒルスタートアシスト機能＊		橙	7-81

名称	表示マーク	色	参照ページ
ABS		橙	7-151
エンジンイモビライザー		赤	4-3

2.2 インジケーターランプ

名称	表示マーク	色	参照ページ
予熱		橙	7-9
DPF		橙	7-130
		緑	7-129
ヘッドランプ		青	7-88
方向指示灯		緑	7-88 7-89
排気ブレーキ		橙	7-5 7-34
アイドリングストップシステム＊, ヒルスタートアシスト機能＊		橙	7-18 7-81
フォグランプ＊		緑	7-89
EZGO（イージーゴー）＊		緑	7-71
ヒルスタートアシスト機能＊		緑	7-81
4WD ＊		緑	7-58

1章 はじめに

保証について ····· 1-2
全国サービス網 ····· 1-2
日産純正部品について ····· 1-2
車台番号，エンジン番号 ····· 1-3
新車時のならし運転について ····· 1-4
車両データの記録，蓄積及び取扱いについて ····· 1-5

別冊の「メンテナンスノート」に、保証の内容及び点検･整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

● 保証書には、車が故障したときの無料修理の条件や範囲を記載しています。
一度お読みになり確認しておいてください。

全国サービス網

「メンテナンスノート巻末」に、全国の日産販売会社の所在地が記載されています。
定期点検整備や一般整備は最寄りの《日産販売会社》をご利用ください。

日産純正部品について

NISSAN

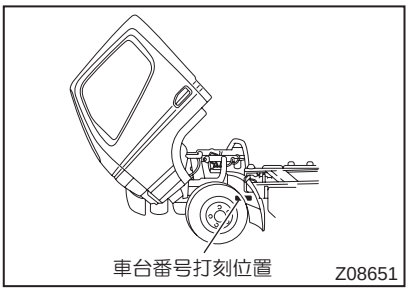
《日産純正部品》は新車に取り付けられている部品と同じ規格で作られており、その品質、性能については日産自動車が保証しています。保守整備に必要な部品、油脂類などは《日産純正部品》をご使用ください。
《日産純正部品》以外の使用によって生じた故障および事故については保証できません。
《日産純正部品》は上記のマークが表示され、《日産販売会社》などでお求めになれます。

車台番号，エンジン番号

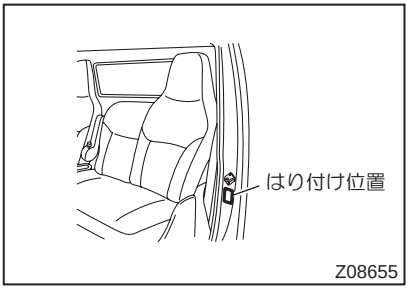
車台番号，エンジン番号は車両の登録，検査のとき必要です。
また，修理や部品注文をお申し付けの際，一緒にご連絡いただければ適切な処理が行えます。

1．車台番号

左側フレームの前輪付近に打刻してあります。
例：FEA2W-500003

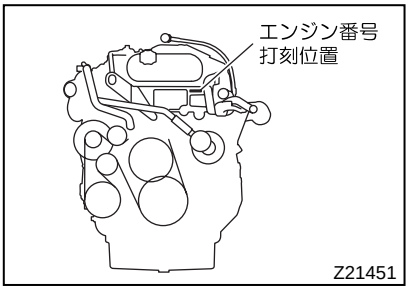


また，助手席側ドアのピラー部に車台番号を記載したプレートがはり付けてあります。

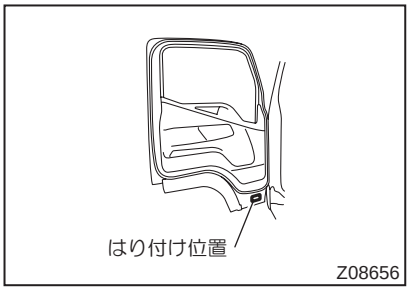


2. エンジン番号

エンジン番号はシリンダーヘッド前側に打刻してあります。
例：4P10- □□□□□□

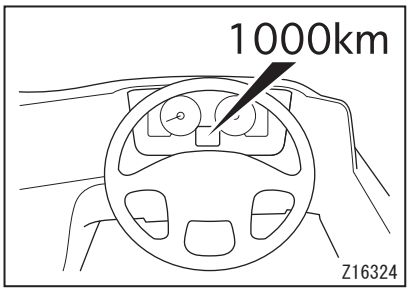


また，助手席側ドアの下部にエンジン型式やトランスミッション型式などを記載したラベルがはり付けてあります。



新車時のならし運転について

新車時の取扱い方によってその後の性能や寿命に影響を及ぼします。
1,000km 走行するまではエンジンの回転数を 2,800rpm までに抑えて無理な運転は行わないようにしてください。



車両データの記録，蓄積及び取扱いについて

1．車両データの記録，蓄積について

お車には，車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されております。お車の仕様により記録されるデータ項目は異なりますが，そのコンピューターは主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- ギヤポジション（マニュアルトランスミッション車は除く）

知識

これらのコンピューターは一般的なデータレコーダーとは異なり，会話などの音声や映像は記録しません。

2．データの取扱いについて

日産販売会社が委託した第三者は，コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお，次の場合を除き日産販売会社が委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力がある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で，使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

2章 注意，警告ラベル

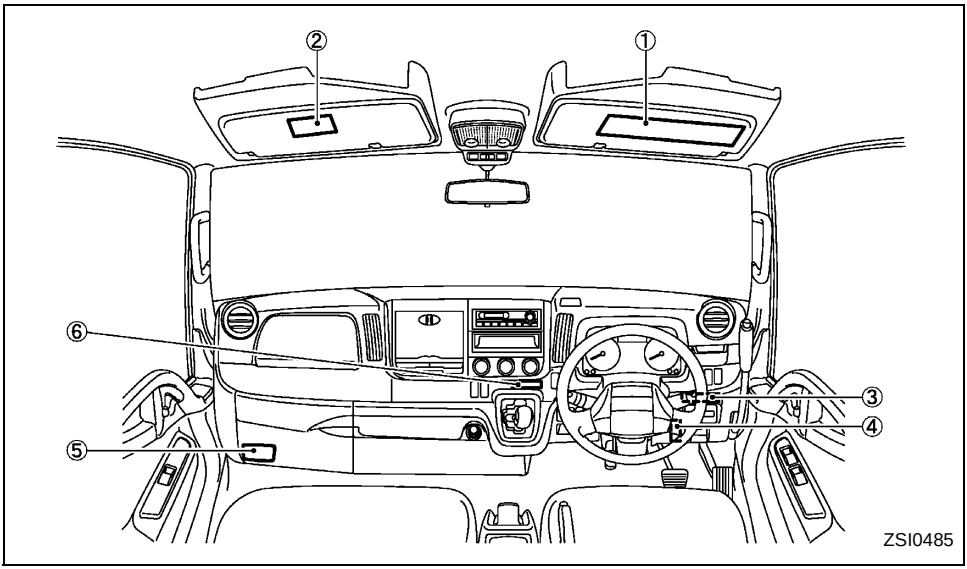
注意，警告ラベルについて ····· 2-2
キャブ内はり付けラベル ····· 2-3
車外はり付けラベル ····· 2-6

注意，警告ラベルについて

- 注意，警告ラベルには重要な内容が記載されています。お車をご使用前に必ずお読みください。
- ラベルの記載事項がかすれて見にくいものや，損傷があるもの，はがれているものがあるときは，日産販売会社にお申し付けください。
- 次に示すラベルはり位置及びラベル記載内容は車種により異なる場合があります。お車にはり付けられているラベルでご確認ください。
  なお，注意，警告ラベルは車両本体についてのみ記載してあります。架装物の注意，警告ラベルは架装メーカーの取扱説明書をごらんください。

キャブ内はり付けラベル

1. 運転席まわり

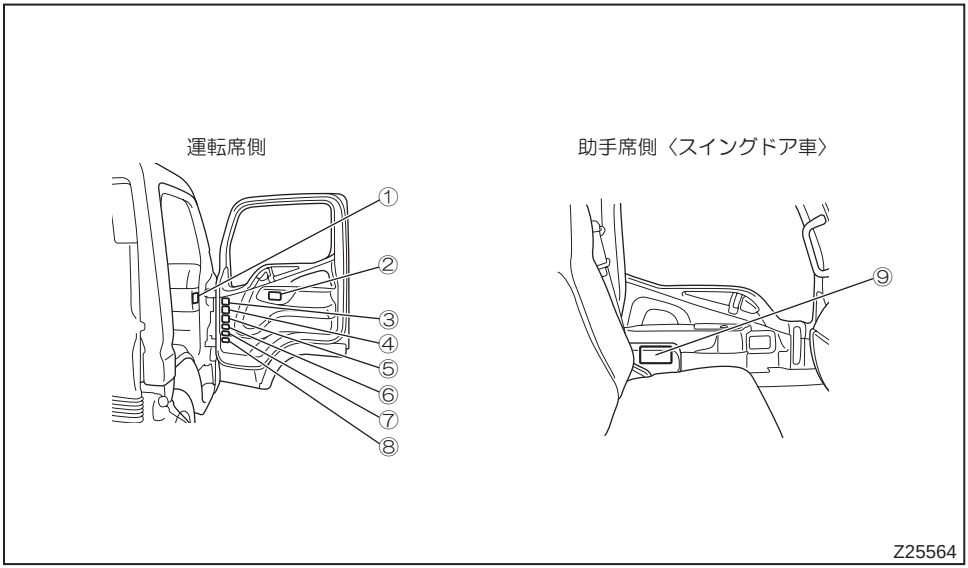


位置	ラベル種類	ラベル内容	参照ページ
①	⚠警告	運転席 SRS エアバッグの取扱い	7-137
	⚠警告	再生制御式 DPF の取扱い	7-125
	⚠警告	公道上での荷役作業時，架装物の取扱い	3-22
	⚠注意	アイドリングストップシステムの取扱い ※1	7-17
	⚠注意	AdBlue®（尿素水）の取扱い	7-27
②	⚠警告	助手席 SRS エアバッグの取扱い ※2	7-137
③	⚠警告	DPF インジケーターランプの取扱い	7-125
④	⚠警告	エンジンオイル量の点検	13-12
⑤	⚠警告	指定ヒューズ使用	16-13
⑥	⚠警告	降坂時の取扱い ※2	8-9

※1：ラベルは貼り付けられてますが，お車の仕様により装置が装着されてない場合があります。

※2：お車の仕様により貼り付けられてない場合があります。

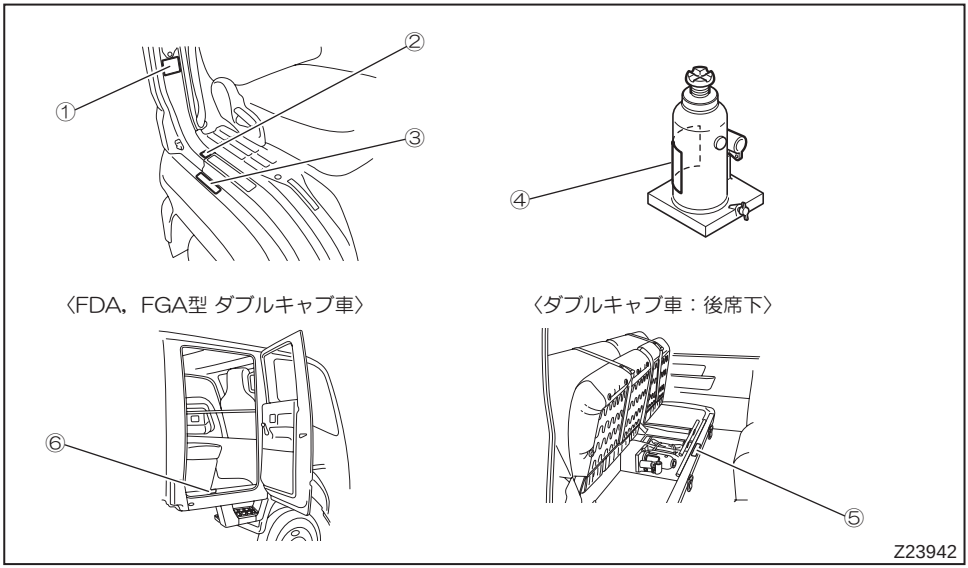
2. ドア



位置	ラベル種類	ラベル内容	参照ページ
①	⚠ 注意	PTO レバーの取扱い ※2	7-110
	⚠ 注意	ダンプレバーの取扱い ※2	7-100
②	⚠ 注意	PTO の取扱い ※2	7-110
③	⚠ 警告	DUONIC 2.0 の取扱い ※2	7-37
④	⚠ 注意	EZGO（イージーゴー）の取扱い ※2	7-71
⑤	⚠ 注意	作業用補助制動装置の取扱い ※2	7-118
⑥	⚠ 注意	4WD 装置の取扱い ※2	7-58
⑦	⚠ 注意	HIGH ／ LOW 切り替えスイッチの取扱い ※ 2	7-60
⑧	⚠ 注意	12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い ※2	3-24
⑨	⚠ 警告	スイングドアの取扱い ※2	4-13

※2：お車の仕様により貼り付けられてない場合があります。

3. 運転席側ドアピラー, ジャッキ, 後席

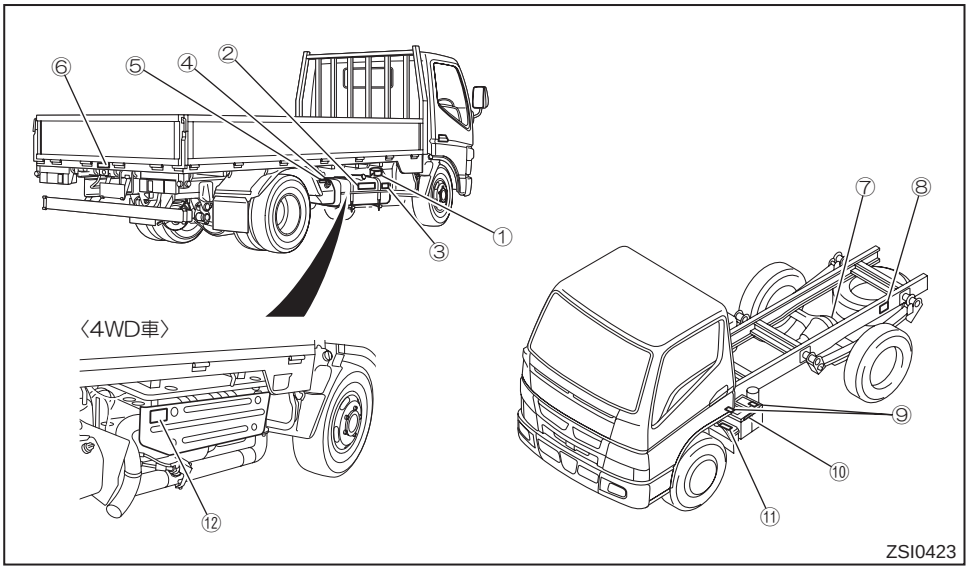


位置	ラベル種類	ラベル内容	参照ページ
①	基準値	タイヤ空気圧	13-8
②	⚠警告	リミテッドスリップデフの取扱い ※2	14-49
③	⚠注意	オーバーフェンダー乗車時の禁止 ※2	4-16
④	⚠警告	ジャッキの取扱い	14-45
⑤	⚠注意	リアエアコン，リヤヒーターの取扱い ※2	5-6
⑥	⚠注意	DPF 再生時の高温部位 ※2	3-30

※2：お車の仕様により貼り付けられてない場合があります。

車外はり付けラベル

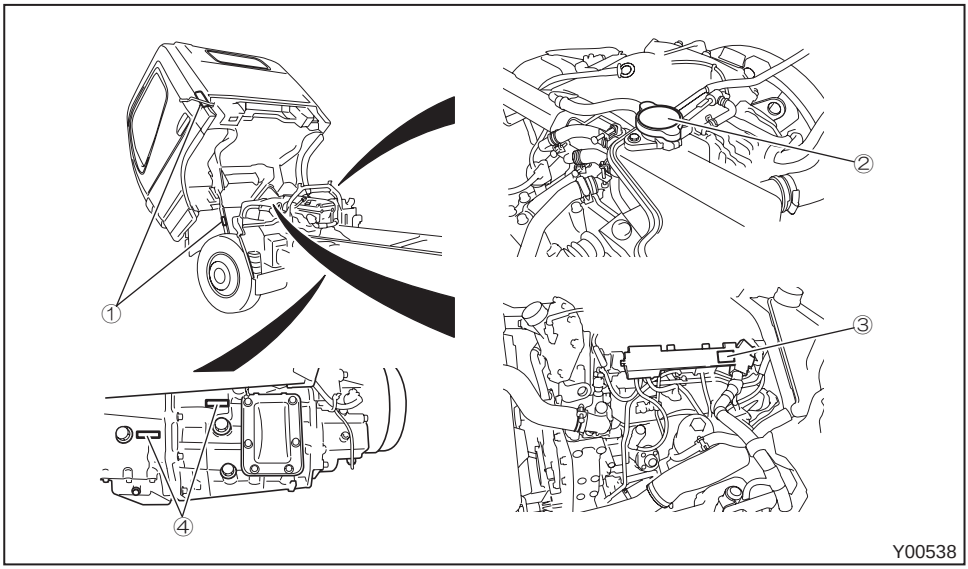
1. 外まわり



位置	ラベル種類	ラベル内容	参照ページ
①	⚠ 注意	燃料フィルターの取扱い	14-14
②	⚠ 注意	軽油使用	7-25
③	⚠ 注意	燃料タンク容量	6-5
④	⚠ 注意	尿素水タンクの足かけ禁止	7-28
⑤	⚠ 注意	AdBlue®（尿素水）の使用	7-28
⑥	⚠ 注意	車両火災防止 ※2	3-5 8-14
⑦	⚠ 注意	LSD（リミテッドスリップデフ）使用オイル ※2	15-21
⑧	⚠ 注意	スペアタイヤキャリアー＊の取扱い	14-58
⑨	⚠ 危険	バッテリーの取扱い	14-64
⑩	⚠ 注意	12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い ※2	3-24
⑪	⚠ 警告	指定ヒューズ使用	16-13
⑫	⚠ 注意	マフラー高温部位	3-30

※2：お車の仕様により貼り付けられてない場合があります。

2. キャブ, エンジンまわり



位置	ラベル種類	ラベル内容	参照ページ
①	⚠警告	キャブチルトの取扱い ※2	4-20
②	⚠警告	プレッシャーキャップの取扱い	14-29
③	⚠注意	エンジンオイルの点検，交換	13-12
④	⚠注意	クラッチ，トランスミッションの使用オイル ※2	15-13 15-14

※2：お車の仕様により貼り付けられてない場合があります。

3章 “必読” 安全で快適な運転をするために

運転の前に ····· 3-2
運転時には ····· 3-7
お子さまを乗せるときは ····· 3-11
DUONIC 2.0 搭載車の取扱い ····· 3-13
パートタイム 4WD 車の取扱い ····· 3-15
フルタイム 4WD 車の取扱い ····· 3-17
駐停車時には ····· 3-19
12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い ····· 3-24
点検整備をするときは ····· 3-25
故障を防ぐために ····· 3-28
排気処理システムの取扱い ····· 3-30

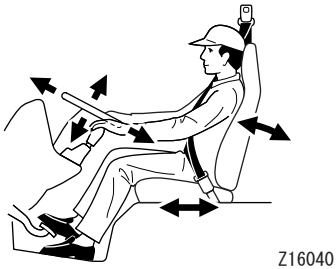
ご使用の前にとくに「守っていただきたいこと」をまとめてあります。ご使用前に必ずお読みください。

運転の前に

● 正しい運転姿勢になるように，シート及びハンドルを調整して

⚠ 警告

シートに深く腰掛け，背もたれから背中を離さない正しい運転姿勢になるように，シート及びハンドルを調整してください。不適切な運転姿勢で運転すると，重大な事故につながるおそれがあります。また，必要以上にハンドルに近づいた姿勢ではSRSエアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。シート及びハンドルの調整は5-2, 5-12 ページをごらんください。



⚠ 注意

シート及びハンドルの調整は走行する前に行ってください。走行中に行うと，運転操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

● シートベルトは必ず装着して

⚠ 警告

● シートベルトは同乗者全員が装着してください。シートベルトを装着しないと急ブレーキをかけたときや，衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。また，SRS エアバッグ装着車はシートベルトを装着しないと SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z16043

● シートベルトは正しく装着してください。シートベルトを正しく装着しないと急ブレーキをかけたときや，衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
シートベルトの装着は 5-7 ページをごらんください。

● シートベルトの装着は走行前に

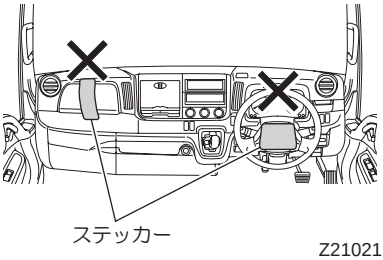
⚠ 注意

シートベルトの装着及び調整は走行する前に行ってください。走行中に行うと，運転操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

● SRS エアバッグ収納部にステッカーなどをはらないで

⚠ 警告

SRS エアバッグ収納部にステッカーなどをはり付けたり，カバーを付けることはしないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z21021

● SRS エアバッグと乗員の間に物を置かないで

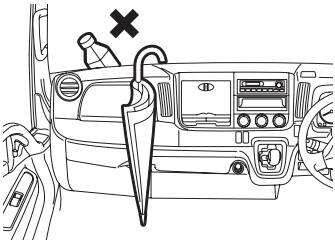
⚠ 警告

ひざの上に物をかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグが作動したときに物が飛ばされたり，SRS エアバッグの正常な作動を妨げ重大な傷害を受けるおそれがあります。

● 助手席 SRS エアバッグ装着車は次のことにも注意して

⚠ 警告

- インストルメントパネルに手や足を乗せたり，顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- インストルメントパネル上部に物を置いたり，傘などを立てかけないでください。SRS エアバッグが作動したとき飛ばされ，重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z21022

● 燃料やスプレー缶などを持ち込まないで

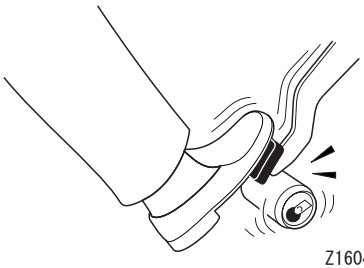
⚠ 警告

車内に燃料やスプレー缶などを持ち込まないでください。容器が破裂したり，蒸発ガスに引火し火災を起こすおそれがあります。

● 運転席の足元付近や車内には運転を妨げるような物を置かないで

⚠ 警告

- 運転席の足元付近に空缶などがあるときは取り除いてください。ブレーキペダルに空缶などがはさまると，ブレーキ操作ができなくなり重大な事故につながるおそれがあります。



Z16041

- フロアーマットは必ず純正品を使用し，正しく敷いてください。純正品以外のフロアーマットは車の大きさに合ってなく，正しく敷けない可能性があります。また，アクセルペダル，ブレーキペダル，クラッチペダルが踏み込めなくなったり，ペダルが戻らなくなり重大な事故につながるおそれがあります。

● フロントガラスに装飾板等を付けないで

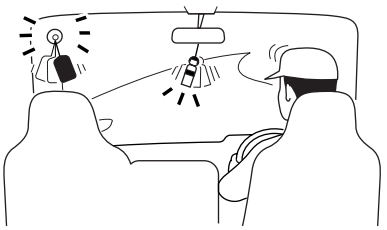
⚠ 注意

フロントガラスに装飾板等を取付けないでください。装飾板等を取付けると法律違反になるおそれがあります。また，直前の視界が妨げられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 窓ガラスにアクセサリー等を取付けないで

⚠ 注意

窓ガラスにアクセサリーやシール等を取付けないでください。運転の妨げになるばかりでなく，吸盤がレンズの働きをして火災を起こすおそれがあります。

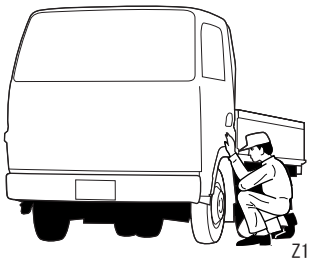


Z16042

● 日常（運行前）点検は必ず行って

アドバイス

日常（運行前）点検を 1 日の運転を始める前に行ってください。
日常（運行前）点検は法律で義務づけられています。
13-2 ページをごらんください。



Z16494

● 積み荷は正しく積んで

⚠ 注意

- 最大積載量を守ってください。過積載は法律で禁止されています。過積載をするとブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 積み荷は正しく積んでください。誤った積み方は積み荷が不安定になるばかりでなく荷台やフレームなどを傷めたり，タイヤがバーストするおそれがあります。
  荷物の積み方については 8-14 ページをごらんください。

● キャブと荷台の間や荷台とフレームの間に燃えやすい物を近づけないで

⚠ 注意

キャブと荷台の間にロープやほろの先端をたらしたり，荷台とフレームの間に木材などの燃えやすい物を差し込んだりしないようにしてください。エンジンや排気管の熱により火災を起こすおそれがあります。

● 燃料を補給するときはエンジンを止めて

⚠ 警告

火災防止のため，燃料を補給するときは必ずエンジンを止めてください。また，たばこ，ライターなどの火気の使用もやめてください。

● 燃料は超低硫黄軽油（硫黄分が 10ppm 以下の軽油）を使用して

⚠ 警告

超低硫黄軽油以外の燃料（※1）を使用しないでください。粗悪な燃料，ガソリン，灯油，重油，アルコール系燃料，バイオ燃料（※2）などを補給し，エンジンを始動すると火災を起こしたり，エンジンやマフラー内の触媒やセラミックフィルターの機能低下により故障するおそれがあります。また，超低硫黄軽油以外の燃料を使用した場合，道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれもあります。
万一，超低硫黄軽油以外の燃料を補給してしまったときは完全に抜き取ってください。
※1：燃料は法律で品質が定められています。経済産業省資源エネルギー庁「揮発油等の品質の確保等に関する法律」
※2:「揮発油等の品質の確保等に関する法律」を満足するバイオ燃料で混合率 5%以下の軽油は除きます。

アドバイス

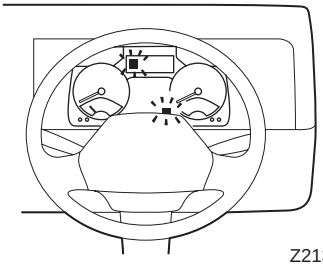
燃料に凍結防止剤や水抜き剤など，あらゆる添加剤を入れないでください。燃料噴射装置や燃料装置が損傷するおそれがあります。

運転時には

● ウォーニングランプが点灯したときは

⚠ 警告

赤色ウォーニングランプが点灯したり，ブザーが鳴ったとき，また，車に異常を感じたときは直ちに安全な場所に停車し，処置を行ってください。そのまま走行を続けると重大な事故につながるおそれがあります。
6-27，6-39 ページをごらんください。
原因がわからないときや修理が困難なときは日産販売会社に連絡してください。

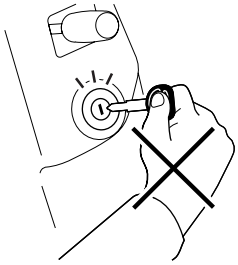


Z21319

● 走行中はエンジンを止めないで

⚠ 警告

- スタータースイッチは走行中“ON”位置以外に操作しないでください。“ACC”位置にするとエンジンが停止しハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。
- スターターキーは走行中，抜き取らないでください。ハンドルが固定され重大な事故につながるおそれがあります。



Z16047

- エンジンを停止した状態で坂道などを利用して車を移動させないでください。エンジンが停止していると，ハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。

● 水たまり走行後や洗車後は

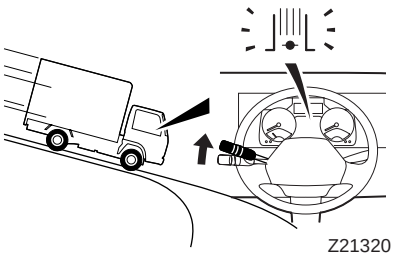
⚠ 注意

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認してから走行してください。
ブレーキドラムやディスクローターに水がかかるとブレーキの効きが極端に悪くなり，思わぬ事故につながるおそれがあります。
このようなときは，周りの車に注意しながら低速で走行し，ブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かしてください。

● 坂道を下るときは

⚠ 警告

下り坂ではフートブレーキの使いすぎに注意してください。必ず，エンジンブレーキ，排気ブレーキを併用してください。
フートブレーキを使いすぎるとフェード現象やベーパーロック現象を起こし，ブレーキの効きが悪くなり重大な事故につながるおそれがあります。8-8 ページをごらんください。



Z21320

● ハンドルを操作するときは

アドバイス

- ハンドルを一杯に切ったまま10秒以上保持しないでください。パワーステアリング装置の故障の原因になります。
- 前輪タイヤが縁石などに接触して拘束された状態で無理にハンドル操作を行わないでください。ステアリング装置の故障の原因になります。

● 携帯電話やカーナビゲーションシステムを使うときは

⚠ 注意

- 運転中に携帯電話などを手に持ちながら使用しないでください。走行中に使用すると，周囲の状況に対する注意が不十分になり事故などにつながるおそれがあります。
- 運転中にカーナビゲーションシステムやラジオなどの操作をしないでください。走行中に操作すると，わき見運転や前方不注意になり事故などにつながるおそれがあります。車を停車させてから操作してください。
  カーナビゲーションシステムの表示装置を見るときも，運転の妨げとならない最小限の時間としてください。

● 滑りやすい路面での走行は

⚠ 注意

雨や雪，または凍結路などの滑りやすい路面では次のことを守ってください。

- 急ハンドルや急ブレーキ操作は避けてください。スリップ事故を起こすおそれがあります。無理のない速度で走行してください。
- 空車時や積み荷が軽いときは，排気ブレーキを作動させないでください。排気ブレーキを作動させるとスリップ事故を起こすおそれがあります。とくに下り坂ではスリップしやすくなります。
- 排気ブレーキを効かせながらカーブ走行するときは，あらかじめスピードを落としてください。滑りやすい路面や段差通過時にタイヤがスリップすると ABS が作動し，排気ブレーキが一時的に解除し思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 悪天候のときは

⚠ 注意

霧のときはフォグランプ＊を点灯し，センターラインや先行車の動きに注意しながら低速で走行してください。

アドバイス

大雨などで冠水している道路は走行しないでください。次の不具合を起こすおそれがあります。万一，冠水している道路を走行し水に浸ってしまったときは速やかに日産販売会社で点検をお受けください。

- エンジン内に水が入ると破損するおそれがあります。
- ハイカレントヒューズボックスの中に水が入るとショートし火災を起こすおそれがあります。
- ホイールハブベアリングまわり，キングピンまわり及びタイロッドエンドまわりに水の浸入があると，さびが発生しベアリングなどが焼き付くおそれがあります。
- マフラー内部に水が入ると触媒，セラミックフィルターやセンサーが破損するおそれがあります。
- フルタイム 4WD 車はフロントアクスル内に水が浸入すると，ベアリングが焼き付きを起こしたり，フロントデファレンシャルギヤオイルに水が混入するおそれがあります。

● ABS（アンチロックブレーキシステム）について

⚠ 注意

ABS は限界を超えた運転を可能にする装置ではありません。滑りやすい路面ではくれぐれも慎重に安全運転を心掛けてください。7-148 ページをごらんください。

● 走行中は駐車ブレーキを効かせないで

⚠ 警告

駐車ブレーキは緊急時を除き走行中に使用しないでください。走行中，駐車ブレーキを効かすと車がスピンまたは横転するおそれがあります。

● DUONIC 2.0 搭載車は走行中にギヤシフトレバーを “N” または “P” 位置にしないで

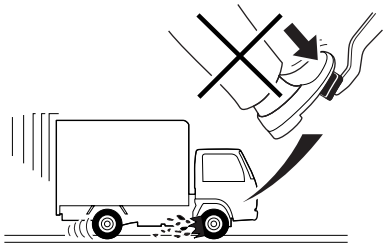
⚠ 警告

ギヤシフトレバーを走行中に “N” または “P” 位置にしないでください。走行中，“N” または “P” 位置にすると，異常音，異常振動が発生し，場合によってはトランスミッション部品の破損や重大な事故につながるおそれがあります。
ギヤシフトレバーを “N” または “P” 位置にする時には必ず停車した状態にしてください。

● 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）したときは

⚠ 警告

走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは急ブレーキをかけないでください。ハンドルを強くとられ重大な事故につながるおそれがあります。あわてずに，ハンドルをしっかり握り徐々にスピードを落として安全な場所に停車してください。



アドバイス

パンクした状態で走行しないでください。ホイールボルトに無理な力がかかり，ホイールボルトの折損やホイールの損傷の原因になります。

● 燃料切れを起こさないように

アドバイス

燃料切れを起こさないようにしてください。燃料切れでエンジンが停止したときは，燃料噴射装置が損傷するおそれがあります。また，燃料切れを起こすと燃料系統にエアが混入し，燃料を補給しただけでは始動できなくなります。エア抜きが必要となります。16-40 ページをごらんください。

お子さまを乗せるときは

● ドア，パワーウインドーの操作は

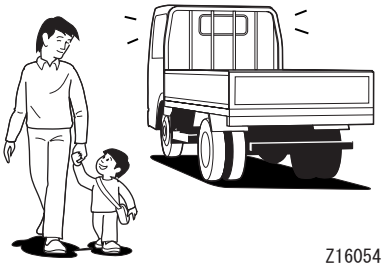
⚠ 警告

- ドアやパワーウインドーなどはお子さまに操作させないでください。お子さまが操作すると頭や手などをはさみ重大な傷害を受けるおそれがあります。
- パワーウインドーを操作してドアガラスを閉めるときは，窓から顔や手を出していないことを確認してください。ドアガラスにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。

● 車から離れるときは

⚠ 警告

車から離れるときはお子さまを車に残さないでください。お子さまのいたずらにより車が発進したり，火災などを起こすおそれがあります。また，炎天下では熱射病などになるおそれがあります。



Z16054

● シートベルトは大人用です。無理に装着しないで

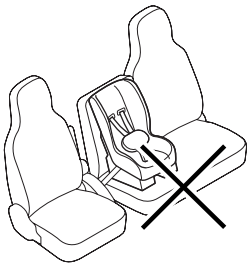
⚠ 警告

- お子さまにもシートベルトを装着させるか，チャイルドシートなどの専用シートを使用してください。ひざの上にお子さまを抱いていても，衝突したときや急ブレーキなどに十分に支えることができずお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 6 歳未満のお子さま及びシートベルトを着けたとき肩のベルトが首，あご，顔などに当たる場合や，腰のベルトが腰骨にかからない小さなお子さまはチャイルドシートなどの専用シートを助手席に取付けてご使用ください。シートベルトをそのまま使用すると衝突したときや急ブレーキをかけたときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

● チャイルドシートなどは中央席＊に装着しないで

⚠ 注意

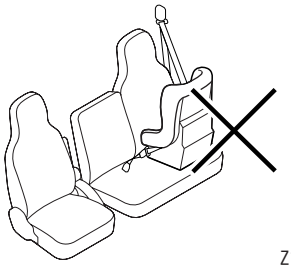
中央席＊にはチャイルドシートなどの専用シートを装着しないでください。運転操作の妨げになり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。



● 助手席 SRS エアバッグ装着車の場合

⚠ 警告

助手席 SRS エアバッグが装着されている場合，チャイルドシートなどの専用シートを後向きに取付けないでください。SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。



● 窓から手や顔を出させないで

⚠ 警告

窓から手や顔を出させないでください。
窓から手や顔を出していると，車外の物などに当たったり，急ブレーキ時に重大な傷害を受けるおそれがあります。

● 運転装置や装備品には触らせないで

⚠ 注意

運転装置や装備品には触らせないでください。
いたずらにより車両故障や思わぬ事故の原因になります。

DUONIC 2.0 搭載車の取扱い

● 発進時のギヤシフトレバーの操作は

⚠ 注意

- 発進時にギヤシフトレバーを“R”または“D”位置にするとクリープ現象で車が動き出します。ギヤシフトレバーを操作するときはブレーキペダルを確実に踏み込んでください。また，駐車ブレーキはギヤシフトレバー操作後に解除してください。
- ギヤポジションインジケーターの表示が点滅中もブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。表示が点滅中に坂道等でブレーキペダルを放すとクリープ力が発生してないため，車両が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シフト位置を確め，周りの安全を確認してから発進してください。

● 空ぶかしをしないで

⚠ 警告

次の操作はしないでください。車が急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。

- 発進時にアクセルペダルを踏んだまま，ギヤシフトレバーを操作しないでください。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。万一，ギヤシフトレバーが“P”位置または“N”位置以外になっていると車が急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。

● PTO ＊を操作するときは

⚠ 注意

PTOを操作するときは必ず駐車ブレーキを効かせ，ギヤシフトレバーを “P” 位置にしてください。“N” 位置でも作動しますが，安全のため “P” 位置で操作してください。“P” または “N” 位置以外にすると車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。“P” または “N” 位置以外に操作したときは，直ちに “P” 位置に戻してください。（P レンジシフトホールド機能装着車は，PTO 操作が “P” 位置のみでしかできません。また，PTO 接続中は “P” 位置以外にできません。）

とくに，PTO 作業時，車外からエンジンをコントロールするときは，必ず駐車ブレーキが効いていること，及びギヤシフトレバーが “P” 位置であることを確認してください。

● 滑りやすい路面での走行は

⚠ 注意

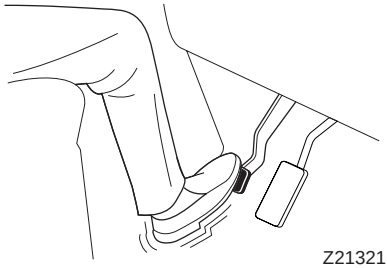
滑りやすい路面（ぬれた路面，凍結路など）ではマニュアルモードで走行してください。オートモードは自動的にシフトダウンするので，予期しないスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。また，オートモードではアクセルペダルをいっぱいに踏み込んだときも自動的にシフトダウンします。このため，急激にアクセルペダルを踏み込むとスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。マニュアルモードで走行するときも，急激なアクセルペダル操作をしたり，シフトダウンをしたときはスリップしやすくなります。

● ブレーキの操作は必ず右足で

⚠ 注意

ブレーキペダルは右足で踏んでください。

慣れない左足でのブレーキペダル操作は，緊急時の反応が遅れ，思わぬ事故につながるおそれがあります。



Z21321

パートタイム 4WD 車の取扱い

● 次のような走行はできるだけ避けて

⚠ 注意

- この 4WD 車は，道路走行を目的とした車両です。常時不整地走行することはやめてください。常時不整地走行をすると車両が損傷し，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 4WD といっても水中走行はできません。やむを得ず水の中を走行しなければならないときは，できるだけ低速で走行してください。
7-58 ページをごらんください。

● けん引するときは

⚠ 注意

けん引するときは全輪を持ち上げるか，前輪を持ち上げて後輪側のプロペラシャフトを取外してから行ってください。

● 乾燥した舗装路では 2WD で走行して

アドバイス

乾燥した舗装路では必ず 2WD で走行してください。4WD で走行すると前輪タイヤの摩耗を早めたり，騒音や燃費が悪くなります。また，駆動部分の故障の原因になります。

● タイヤチェーンの装着について

アドバイス

タイヤチェーンは前輪と後輪に装着してください。前輪のみまたは後輪のみのタイヤチェーン装着はやめてください。ただし，前輪の駆動を解除した場合は，後輪のみにチェーンを装着することが可能です。

● タイヤ，ホイールについて

⚠ 注意

4WD 車は前後のタイヤに駆動力がかかるため，不適切なタイヤを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります。また，駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。タイヤ，ホイールについては次の点に注意してください。

- タイヤは全輪とも指定されたサイズで，メーカー，銘柄，トレッドパターン（溝の模様でリブ，ラグ等）を同一にしてください。とくにスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
- 摩耗差のないタイヤを使用してください。
- タイヤ空気圧は定期的に点検し規定空気圧に調整してください。
- タイヤを交換するときは全輪同時に交換してください。
- ホイールは全輪とも純正ホイールを装着し，ホイールのサイズを変更しないでください。
- タイヤの摩耗を均一にするために 10,000km ごとにタイヤのローテーションを行ってください。

フルタイム 4WD 車の取扱い

● フルタイム 4WD 車の走行について

アドバイス

- この 4WD 車は，市街地など，一般走行を主目的としています。不整地走行を目的としたものではありません。最低地上高も低くなっています。積雪地や凍結路などの走行には有効ですが4WDを過信した無理な走行はしないでください。
- 最低地上高が低いので渡河走行は絶対に行わないでください。

● タイヤチェーンの装着について

アドバイス

タイヤチェーンは装着しないでください。タイヤチェーンを装着するとフロントサスペンション周辺部品に干渉したり，トランスファーの故障につながるおそれがあります。
全輪スノータイヤまたは，スタッドレスタイヤを装着してください。

● けん引するときは全輪を持ち上げて

⚠ 注意

けん引するときは全輪を持ち上げて運んでください。通常のレッカー車によるけん引はできません。前輪や後輪の片方を台車などに載せてレッカー車でけん引すると，駆動装置が過熱し，焼付きを起こしたり，車が台車などから飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

● タイヤ，ホイールについて

⚠ 注意

4WD 車は前後のタイヤに駆動力がかかるため，不適切なタイヤを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります。また，駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。タイヤ，ホイールについては次の点に注意してください。

- タイヤは全輪とも指定されたサイズで，メーカー，銘柄，トレッドパターン（溝の模様でリブ，ラグ等）を同一にしてください。とくにスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
- 摩耗差のないタイヤを使用してください。
- タイヤ空気圧は定期的に点検し規定空気圧に調整してください。
- タイヤを交換するときは全輪同時に交換してください。
- ホイールは全輪とも純正ホイールを装着し，ホイールのサイズを変更しないでください。
- タイヤの摩耗を均一にするために 10,000km ごとにタイヤのローテーションを行ってください。

駐停車時には

● 暖機運転は風通しの良い所で行って

● エンジンを始動するときは排気管付近や後方に燃えやすい物がないか確認して

⚠ 警告

- 換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫や屋内など囲まれた場所では排気ガスが充満し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 排気管を点検し腐食などによる穴やき裂部から排気ガスがもれていないか確認してください。もれている場合は日産販売会社で点検をお受けください。排気ガスがもれたまま使用すると，排気ガスが室内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 排気ガスが室内に侵入してきたときは，窓を全開にするかドアを開け新鮮な空気を室内に入れ換気し，直ちに日産販売会社で点検をお受けください。

⚠ 注意

- 枯れ草や紙くずなど燃えやすい物がある場所には車を止めないでください。走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっているため燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。



Z16057

- エンジンルームの騒音カバー内側に枯れ草等燃えやすい物があるときは取り除いてください。火災を起こすおそれがあります。

● 炎天下での駐車について

⚠ 注意

- 炎天下で駐車するときは，車内にライター，炭酸飲料缶，メガネなどを放置しないでください。
  車内が高温になるため，ライターなどの可燃物が自然発火したり，炭酸飲料缶などが破裂するおそれがあります。また，プラスチック素材のメガネはレンズのコート膜にひび割れが生じたり，変形するおそれがあります。
- 長時間炎天下での駐車時に，車体や室内部品が高温になっているためやけどをするおそれがあります。熱くて触れられないときは布などを当てて触れるようにしてください。

● エンジンをかけたまま車内で仮眠しないで

⚠ 警告

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください。無意識にアクセルペダルやギヤシフトレバーなどを操作して重大な事故につながるおそれがあります。



● 作業用補助制動装置＊を駐車ブレーキとして使用しないで

⚠ 注意

作業用補助制動装置を駐車ブレーキとして使用しないでください。使用するとブレーキカが低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。作業用補助制動装置は坂道などで作業を行う際に，駐車ブレーキのみでは作業の安全を確保できないおそれがあるときに使用する装置で駐車ブレーキではありません。

● 駐車ブレーキは確実に効かせて

⚠ 警告

駐車ブレーキレバーはいっぱいに引いてください。駐車ブレーキレバーの引きが少ないと駐車ブレーキは確実に効きません。駐車中に車が動き重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 坂道での駐車は避けてください。駐車中に車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。やむを得ず坂道に駐車するときはしっかりとブレーキペダルを踏み込んだまま，駐車ブレーキを確実に効かせます。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にします。タイヤに輪止めをかけてください。万一のことを考えて障害物（縁石など）のある方にハンドルを回しておくとより安全です。
- DUONIC 2.0 搭載車は坂道でギヤシフトレバーの “P” 位置のみで駐車しないでください。勾配のきつい坂道で，ギヤシフトレバーを “P” 位置のみで停車するとギヤシフトレバーが重くなり，場合によっては解除できなくなる場合があります。このようなとき，一度ギヤシフトレバーを “N” 位置にし，ギヤシフトポジションインジケーターが “N” を表示していることを確認後，“D” 位置にしてください。

● ドアは安全を確認してから開けて

⚠ 注意

ドアを開ける時は周囲の安全を確認してください。いきなりドアを開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。

● アイドリングストップシステム＊を使用してエンジンが自動停止しているときに

⚠ 警告

エンジンが自動停止した状態で，下り坂などを利用した走行はしないでください。ハンドル操作が重くなりブレーキの効きが極端に悪くなるため，重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジン自動停止中は，ブレーキペダルを必ず踏んでおいてください。車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン自動停止中に運転席を離れるときは，スタータースイッチを “LOCK” 位置にし，駐車ブレーキを確実に効かせてください。車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

● EZGO（イージーゴー）　＊は長時間の駐車に使用しないで

⚠ 注意

長時間の停車や車から離れる場合は，必ず駐車ブレーキを使用してください。EZGO（イージーゴー）を長時間使用すると，ブレーキ力が低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。EZGO（イージーゴー）は坂道での発進を補助するための装置で駐車ブレーキではありません。

● 公道上で荷役作業を行うときは他の交通に注意をうながして

⚠ 警告

公道上で荷役作業を行うときに，架装物（荷台あおりなど）でテールランプ，リヤ方向指示灯が隠れてしまう場合は，停止表示器材などを後続車から見やすい位置に設置し，他の交通に注意をうながしてください。テールランプなどが隠れてしまうと後方から車が確認しづらくなり，思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 灰皿を使用するときには

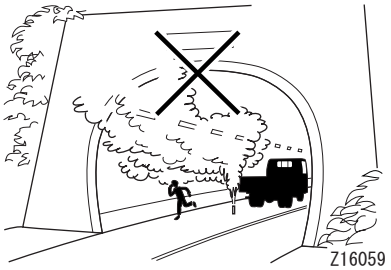
⚠ 注意

- たばこやマッチは火を消してから，ふたを閉じてください。開けたままにしておくと，たばこやマッチの火が他の吸いがらに燃え移り火災を起こすおそれがあります。
- たばこの吸いがら以外の物を入れたり，吸いがらをためすぎないでください。火災を起こすおそれがあります。
- 灰皿を清掃するときは硬いもので叩かないでください。破損するおそれがあります。また，破損した灰皿は，使用せず新品に交換してください。火災を起こすおそれがあります。

● 発炎筒を使用するときは

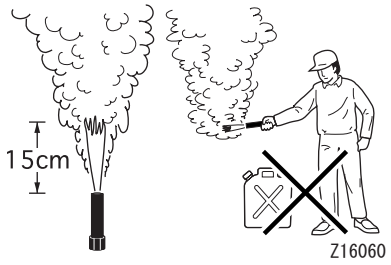
⚠ 警告

● トンネル内では発炎筒を使用しないでください。煙で視界が悪くなり重大な事故につながるおそれがあります。非常点滅灯を使用してください。



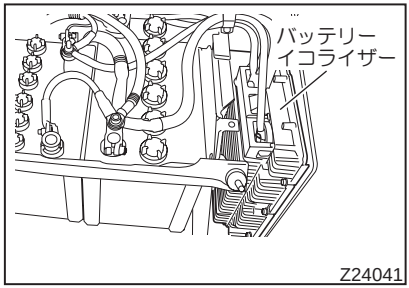
● ガソリンなどの燃えやすい物のそばでは発炎筒を使用しないでください。火災や爆発のおそれがあります。

● 発炎筒に着火するとき，発炎筒の先を顔や体に向けないでください。炎が 15cm 程度吹き出しやけどをするおそれがあります。



12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い

本車両の電圧は，12 ボルトです。
バッテリーイコライザーを搭載している車両には 12 ボルトと 24 ボルトの回路を装備しています。
キャブ内の電装品は 12 ボルト，架装用の電源は，24 ボルトを使用してます。
16-13 ページをごらんください。



● 電装品を取付けるときは

⚠ 注意

電装品を取付けるときは，日産販売会社にご相談ください。市販の電装品を取付けるためにご自身で配線すると，装置の誤作動や配線の過熱により火災を起こすおそれがあります。

● バッテリーあがりのときは

アドバイス

バッテリーあがりのとき，救援車は 12 ボルトの車両を使用してください。24 ボルト車は使用しないでください。16-36 ページをごらんください。

● バッテリーを交換するときは

アドバイス

バッテリーを交換するときは，本書に記載している交換手順で行ってください。
14-64 ページをごらんください。

点検整備をするときは

● バッテリーの取扱いには注意して

⚠ 危険

- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生しています。バッテリー近くでライター，たばこなどの火気の使用や，火花を飛ばさないようにしてください。水素ガスに引火し，爆発するおそれがあります。
  とくにバッテリーあがりで，ブースターケーブルを接続してエンジンを始動するときは注意してください。16-36 ページをごらんください。
- バッテリー液は希硫酸ですので，皮膚や衣服に付着したときは，直ちに多量の水で洗い流し石けんで十分洗ってください。万一，目に入ったときは直ちに多量の清水で洗眼し，眼科医の治療を受けてください。
  バッテリーを取扱うときは保護メガネとゴム手袋を着用してください。

● エンジンが回転しているときは，ファンなどの回転部分に注意して

⚠ 警告

エンジンを点検するときはエンジンを停止してください。やむを得ずエンジンが回転している状態で点検する場合は，ファンなどの回転部分には触れないようにしてください。回転部分に触れると重大な事故を起こすおそれがあります。

● 冷却水の点検や交換をするときは

⚠ 警告

- 冷却水が高温時はプレッシャーキャップを外さないでください。
  むやみに外すと熱湯や蒸気が噴き出して，やけどをするおそれがあります。キャップを外すときは冷却水温が下がってから，厚手の布を重ねてかぶせ，ゆっくりと開けてください。
- ロングライフクーラントは毒性がありますので絶対に飲まないでください。誤って飲んでしまったときは，すぐにおう吐させ医師の治療をお受けください。また，目に入ったときは直ちに多量の清水で洗眼し，直ちに眼科医の治療を受けてください。ロングライフクーラントの取扱いについては14-26ページをごらんください。

● キャブチルト＊するときは

⚠ 警告

キャブをチルトするときは，本書に記載された正しい方法で行ってください。誤った方法でキャブの上げ降ろしをすると手などの体の一部をはさんだり，キャブロックが不完全となるおそれがあります。キャブロックが不完全な状態では，走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながります。
4-20 ページをごらんください。

● エンジンオイルや燃料をこぼしたままにしないで

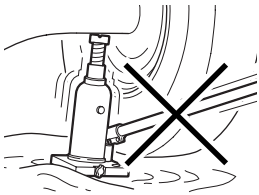
⚠ 警告

排気管などにエンジンオイルや燃料をこぼしたままにしないでください。エンジンオイルや燃料が付着すると熱により火災を起こすおそれがあります。万一，こぼしたときはきれいにふき取ってください。

● ジャッキアップするときは

⚠ 警告

● ジャッキアップするときは平たんで硬い場所で行ってください。坂道及び軟らかい地面ではジャッキが傾いたり滑ったりして重大な事故につながるおそれがあります。



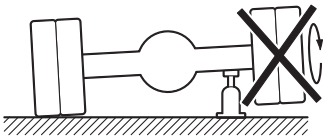
Z23496

● ジャッキアップする前に，駐車ブレーキを確実に効かせて輪止めをしてください。ジャッキアップ中に車が動き重大な事故につながるおそれがあります。
ジャッキアップについては 14-43 ページをごらんください。

● LSD（リミテッドスリップデフ）＊装着車は，ジャッキアップしたときタイヤを回さないで

⚠ 警告

LSD（リミテッドスリップデフ）装着車は，ジャッキアップしたときはタイヤを絶対に回さないでください。後輪の片側だけをジャッキアップした状態で，タイヤを回すと車が動くことがあり，重大な事故につながるおそれがあります。



Z08703

● タイヤを交換するときは

⚠ 注意

バイアスタイヤとラジアルタイヤを混用したり，指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用しないでください。指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用すると，操縦安定性が悪くなり思わぬ事故を起こすおそれがあります。また，次の不具合が発生するおそれがあります。

- ABS の性能が十分に発揮できなくなります。
- スピードメーターの指示速度と実際の速度との誤差が大きくなります。
- DUONIC 2.0 搭載車は変速タイミングが合わなくなり，燃料を多く消費するようになります。

タイヤの交換については 14-43 ページをごらんください。

● 走行直後に点検するときは各部が十分冷えてから行う

⚠ 注意

走行直後に点検するときは各部が十分冷えてから行ってください。走行直後は各部が高温になっているため，やけどをするおそれがあります。

故障を防ぐために

● 本書に記載以外の取扱い方をしないで

⚠ 注意

- 本書に記載以外の取扱い方をしないでください。車の故障の原因になるばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 部品などが損傷したときは，日産販売会社で速やかに修理，交換を行ってください。そのままにしておくと，車の故障の原因になるばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります

● ターボチャージャーの取扱いに気をつけて

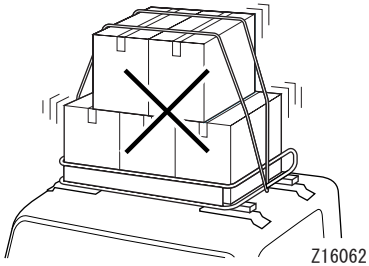
アドバイス

- 登坂や高速道路走行直後にエンジンを止めると，ターボチャージャーの回転軸に供給されているエンジンオイルが異常高温となり回転軸が焼付くおそれがあります。すぐに止めないで必ず３分以上アイドリング運転を行い冷却してください。
- 指定されたエンジンオイルの使用と定められた時期でのエンジンオイルとオイルフィルターの交換をお守りください。お守りいただかないとターボチャージャー回転軸の固着や異音の発生など故障の原因となります。

● キャブルーフ上には重い物を取付けないで

アドバイス

ルーフデッキやドラッグフォイラーなどを取付けるときは取付け専用穴を利用するとともに荷物を含めて50kg 以下にしてください。不適正な取付けを行うとキャブ破損の原因になります。



● 特殊な環境で使用するときは

アドバイス

リフティングマグネットなどを使用して荷降ろしする場合，磁気によりセンサー類が誤作動し車両の性能や機能を損なうおそれがあります。

● 無線機を取付けるときは

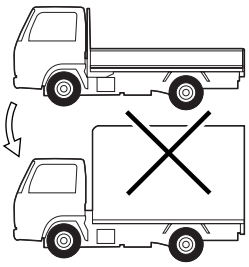
⚠ 注意

電子機器は電波障害に対し十分配慮してありますが，無線機を取付けるときは日産販売会社にご相談ください。無線機の電波障害により思わぬ事故を起こすおそれがあります。

● 不正改造は行わないで

⚠ 注意

- 車両の不正改造は行わないでください。車の性能や機能を損なったり，法律上違反となるおそれがあります。部品を取付けたり，改造するときは日産販売会社にご相談ください。
- 平ボデーの荷台は改造しないでください。車両各部に悪影響を及ぼすおそれがあります。平ボデー以外の荷台を改造するときは日産販売会社にご相談ください。



● 車や SRS エアバッグを修理や廃棄するときは

⚠ 警告

次の個所の修理や改造をするときは日産販売会社にご相談ください。不適切な修理や改造をした場合，SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ハンドルまわりの修理
- インストルメントパネルの修理
- 助手席前のロワーパネル付近の修理
- オーディオの取付
- 車両前方の修理や改造
- サスペンションの修理や改造

⚠ 注意

廃車するときは SRS エアバッグを適切に処理する必要があります。最寄の日産販売会社にご相談ください。
SRS エアバッグが思いがけなく作動し，ケガをするおそれがあります。

● ランプや電装品を取付けるときは

アドバイス

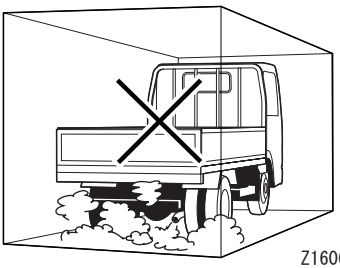
ランプや電装品を取付けるときは，日産販売会社にご相談ください。
ランプや電装品を取付ける場合，コンピューターの設定変更が必要です。また，市販品のランプや電装品には取付けられないものがあります。

排気処理システムの取扱い

● DPF 手動再生を行うときは

⚠ 警告

換気の悪い車庫などでは DPF 手動再生をしないでください。とくに車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



Z16064

⚠ 注意

枯れ草，紙くずなど燃えやすい物があるところで DPF 手動再生をしないでください。また，排気管やマフラー付近に人が近づかないようにしてください。DPF 手動再生中は排気管やマフラー付近及び排気ガスが高温になるため，燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。また，排気管やマフラー付近及び排気ガスには触れないでください。やけどを起こすおそれがあります。



Z16057

● 排気管やマフラーなどの改造はしないで

⚠ 注意

排気管やマフラーの長さや向きを変更したり，DPF や排気ブレーキの改造はしないでください。
DPF 内部でススを燃焼除去するため，高温の排気ガスが排出されます。改造によって火災ややけどを起こすおそれがあります。また，排気ガス浄化機能に悪影響を及ぼす原因になります。改造が必要な場合は日産販売会社へご相談ください。

● マフラーから出てきた水には触れないで

⚠ 注意

マフラーから出てきた水には触れないでください。水はマフラーに内蔵されている酸化触媒の作用により，弱酸性になっています。皮膚等に付着した場合は十分に水で洗い流してください。

● 発進や加速時に排気管から白煙が出ることがあります

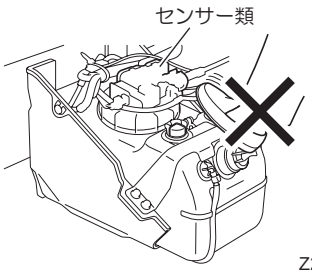
⚠ 注意

寒冷時や長時間のアイドリング運転を続けたときは，必ず周囲の安全を確認してから発進してください。
発進や加速時に排気管から出る白煙により，周囲の視界が妨げられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

● マフラーをけったり，尿素水タンクに足をかけないで

アドバイス

- マフラーをけったり，たたいたりしないでください。内部の酸化触媒やセラミックフィルターが破損するおそれがあります。
- 尿素水タンクに足をかけたり，上に乗ったりしないでください。タンクやセンサー類の破損につながるおそれがあります。



● DPF の状態点検

アドバイス

12か月ごとにDPFの状態点検を行ってください。状態点検を行わないとDPF が損傷するおそれがあります。状態点検は日産販売会社に申し付けください。点検結果によってはDPF の清掃が必要となります。

● エンジンオイル量が規定以上増減した場合

⚠ 注意

- DPF 内部のススを燃焼除去させるため，燃料の一部がエンジンオイルに混入しエンジンオイル量が増えることがあります。エンジンオイルがオイルレベルゲージのFULL（点検用）（○印）を超えているときは直ちにエンジンオイルを交換してください。交換をしないとエンジン故障の原因になり，最悪の場合，意図せぬエンジン回転上昇を招くおそれがあります。
- 次のようなシビアコンディションで使用する場合，エンジンオイル量が早期に増減するためエンジンオイル量の点検は 1 日 1 回，運行前に行ってください。
  - 車速 20km/h 以下の低速走行が主体の場合
  - 頻繁に（10 分以内）エンジンの始動，停止を行う走行が多い場合
  - 短い距離（10km 以下）の走行を繰り返す場合
  - 長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合

● AdBlue®（尿素水）の取扱い

⚠ 注意

AdBlue®（尿素水）は，無色透明，無臭，無害の水溶液（尿素 32.5%，水 67.5%，凍結温度 -11 ℃）で身体に触れても問題ありません。しかし，体質によってはごくまれに炎症を起こすおそれがありますので以下の処置を行ってください。

- 皮膚に付着したときは水で洗い流してください。皮膚の変化や痛みがある場合は，速やかに医師の治療を受けてください。
- 万一，誤って飲み込んでしまったときはコップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み，直ちに医師の治療を受けてください。
- 目に入ってしまったときは直ちに多量の清水で洗い流し，医師の治療を受けてください。

AdBlue，アドブルーは，ドイツ自動車工業会の登録商標です。

● 尿素水は，必ずJIS規格またはISO規格に適合した AdBlue®（アドブルー）を使用して

アドバイス

AdBlue®（尿素水）を使用するときに次のことは行わないでください。
排気後処理装置（尿素 SCR）の破損につながるおそれがあります。
- 希釈しないでください。
- 他の薬品と混ぜたりしないでください。

● AdBlue®（尿素水）を補給するときは

⚠ 警告

尿素水タンクには AdBlue®（尿素水）以外入れないでください。とくに軽油やガソリンを尿素水タンクに入れると，火災や排気後処理装置（尿素SCR）の損傷原因になるおそれがあります。

● AdBlue®（尿素水）を保管するときは

⚠ 注意

高温になる場所に AdBlue®（尿素水）を保管しないでください。
AdBlue®（尿素水）は高温になると，有害なアンモニアが発生するおそれがあります。保管する場合は容器を密封し，容器を開けるときは換気の良い屋外で行ってください。刺激臭がある場合は，むやみに近づかないでください。

アドバイス

AdBlue®（尿素水）を保管，携帯する場合は AdBlue®（尿素水）購入時の容器を使用してください。スチール製容器などで保管すると化学反応により腐食物質が生成され，それを補給すると排気後処理装置（尿素 SCR）が故障を起こすおそれがあります。
7-31 ページをごらんください。

4章 各部の開閉

スターターキー ····· 4-2
エンジンイモビライザー ····· 4-3
ドアの施錠，解錠 ····· 4-6
リモートコントロールエントリーシステム＊ ····· 4-9
ドアの開閉 ····· 4-13
乗降のしかた ····· 4-16
ドアガラスの開閉 ····· 4-18
キャブチルト＊ ····· 4-20
点検口の開閉＊ ····· 4-26
荷台の取扱い ····· 4-28

スターターキー

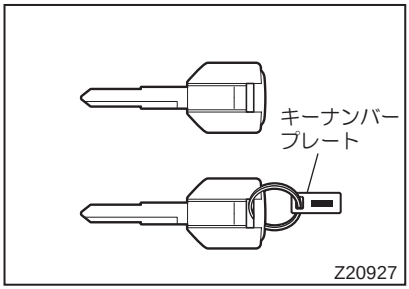
スターターキーにはエンジンイモビライザー（盗難防止装置）機能が付いています。あらかじめ登録されたスターターキーでなければ，エンジンの始動ができません。
エンジンイモビライザーについては 4-3 ページをごらんください。

アドバイス

スターターキーは信号発信機が内蔵された電子機器部品です。故障を防ぐため次のことをお守りください。

- スターターキーを無理に曲げたり，強い衝撃を与えないでください。
- スターターキーを車内の直射日光が当たり高温（60 ℃以上）になるような場所に放置しないでください。
- スターターキーを分解，改造しないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。
- オーディオ，パソコン，テレビなど磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
- 超音波洗浄器などで洗浄しないでください。

- 同じスターターキーが 2 本装備されています。どちらのスターターキーでもドアの施錠，開錠，及びエンジンの始動，停止ができます。
- キーナンバープレートは大切に保管してください。キーナンバーを日産販売会社へご連絡いただければ，新しいキーをお求めになれます。
- スターターキーを紛失したときや新しいスターターキーを作りたいときは日産販売会社にご相談ください。
  同じお車で 6 本まで登録することができます。

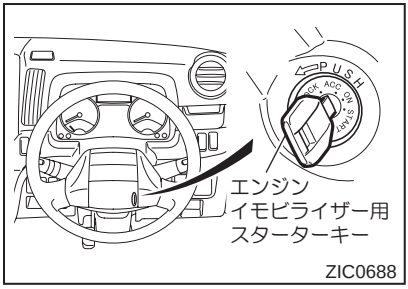


知識

- スターターキーの登録を消去するとき，登録を消去したくないスターターキーも，すべて日産販売会社にお持ちください。
- スターターキーをすべて紛失するとスターターキーの追加登録や消去ができなくなり，イモビライザーコントロールユニットとスターターキーの交換が必要となります。

エンジンイモビライザー

1. 機能

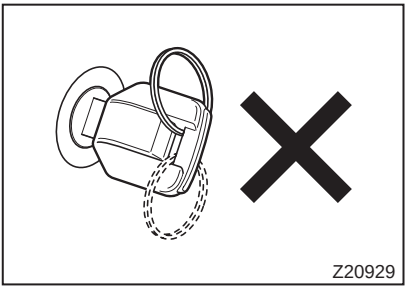


- エンジンイモビライザー（盗難防止装置）は，車両盗難防止のため，あらかじめ登録されたエンジンイモビライザー用スターターキーでなければエンジンを始動できないようにした装置です。
- エンジンイモビライザーはスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にすると自動的に作動します。エンジンイモビライザーの作動中は車両盗難防止のためエンジンを始動できないようにします。
- エンジンイモビライザー用スターターキーは，車に信号を送信することでエンジンイモビライザーを解除し，エンジンを始動できるようにします。

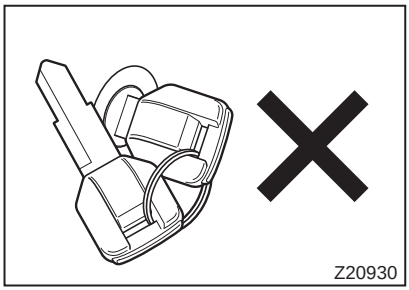
2. 使用時の注意

次のようなときは，車がエンジンイモビライザー用スターターキーからの信号を受信できず，スタータースイッチを“START”位置にしてもエンジンを始動できないことがあります。このときは，エンジンイモビライザー用スターターキーに接触している金属や他のキーを取り除いてからスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置に戻し，再度エンジンを始動します。エンジンが始動できないときは，日産販売会社で点検をお受けください。

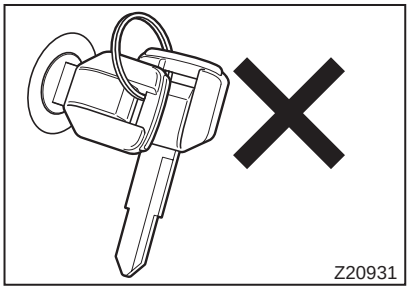
- エンジンイモビライザー用スターターキーのグリップに金属製のリングをのせたままのとき



- エンジンイモビライザー用スターターキーのグリップと他のキーの金属部分が接触しているとき



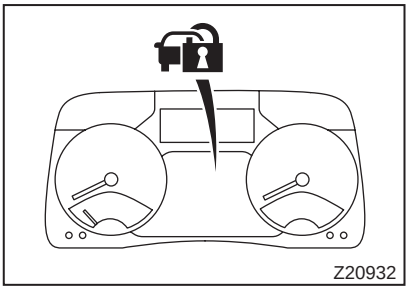
- エンジンイモビライザー用スターターキーが他の車のエンジンイモビライザー用スターターキーと重なっているとき，または近いとき



- 電波を出すキーホルダーやリモートコントロールエントリーシステムのリモコンスイッチがイモビライザー用スターターキーに重なっているとき，または近いとき
- IC チップを内蔵したカードや携帯電話などとイモビライザー用スターターキーを一緒に握っているとき

3. ウォーニングランプが点灯したとき

エンジンイモビライザーが正常なときは，スタースイッチを “ACC” から “ON” にすると ウォーニングランプが点灯し，数秒後に消灯します。
ウォーニングランプが消灯しないときはエンジンイモビライザーの故障が考えられますので次の点検を行います。


Z20932

3.1 エンジンが始動できないとき

①エンジンイモビライザー用スターターキーに金属や他のキーが接触していないか点検します。
接触しているときは金属や他のキーを取り除いてからスタースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置に戻してからエンジンを再始動します。
②エンジンが始動でき，ウォーニングランプが消灯すれば故障ではありません。
③エンジンが始動できず，ウォーニングランプが消灯しないときは他の登録済みスターターキーで始動できるか確認します。そのキーでも始動できないときは，故障が考えられます。日産販売会社にご連絡してください。

3.2 エンジンが始動できるとき

①スタースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置に戻してからエンジンを再始動します。
②ウォーニングランプが消灯すれば故障ではありません。
③ウォーニングランプが消灯しないときは故障が考えられます。早めに日産販売会社で点検をお受けください。

ドアの施錠，解錠

⚠ 警告

車から離れるときはお子さまを車に残さないでください。お子さまのいたずらにより車が発進したり，火災などを起こすおそれがあります。また，炎天下では熱射病などになるおそれがあります。

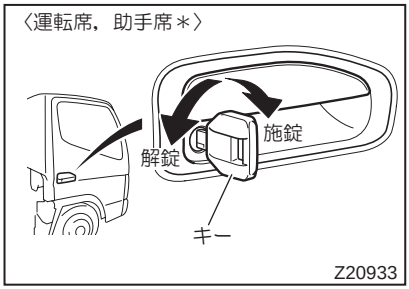
アドバイス

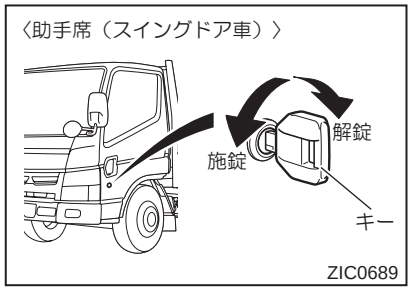
車から離れるときは盗難やいたずら防止のためスターターキーを抜き取り，ドアを施錠してください。またドアガラスも確実に閉めてください。

1. 車外からの施錠，解錠

1.1　キーを使用した施錠，解錠

- 施錠するときはキーを差し込み，車両前方に回します。解錠するときは車両後方に回します。
- 集中ドアロック装着車は運転席ドアをキーで施錠，解錠すると助手席側，後席〈ダブルキャブ車〉も同時に施錠，解錠できます。





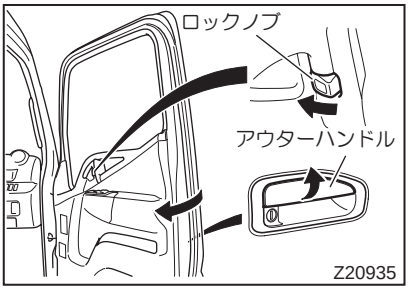
1.2 キーを使用しない施錠

アドバイス

キーを使用しないでドアを施錠する場合は，車内にキーを置き忘れないようにしてください。

1.2.1 運転席，助手席

- 車内のロックノブを車両前方に押し込み，アウターハンドルを引き上げたままドアを閉めます。
- 集中ドアロック装着車は運転席側のロックノブを車両前方に押し込み，アウターハンドルを引き上げたままドアを閉めると助手席側，後席〈ダブルキャブ車〉も同時に施錠できます。

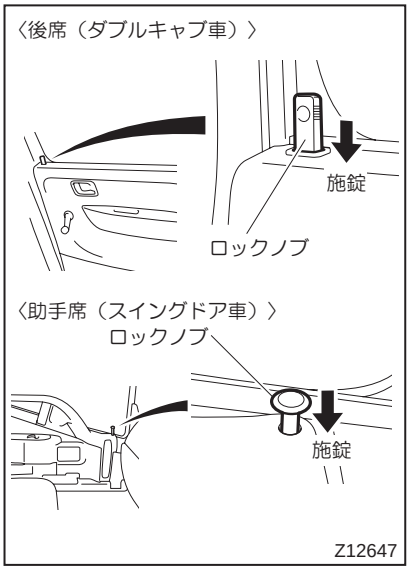


知識

リモートコントロールエントリーシステム装着車はスターターキーがスタータースイッチに差し込まれた状態では，運転席側ドアをこの方法で施錠できません。スターターキーを抜き取ってから施錠をしてください。

1.2.2　後席〈ダブルキャブ車〉，助手席〈スイングドア車〉

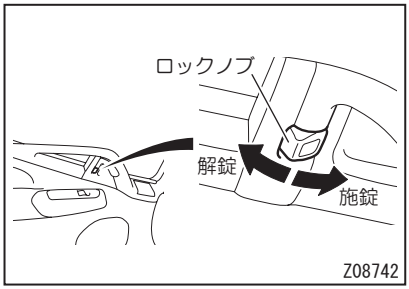
車内のロックノブを押し込みドアを閉めます。



2. 車内からの施錠，解錠

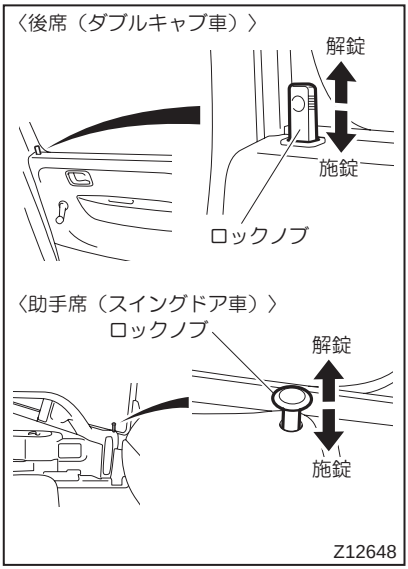
2.1　運転席，助手席

- 施錠するときはロックノブを車両前方に押し込みます。解錠するときはロックノブを車両後方に引きます。
- 集中ドアロック装着車は運転席ロックノブを操作すると，助手席側，後席〈ダブルキャブ車〉も同時に施錠，解錠できます。



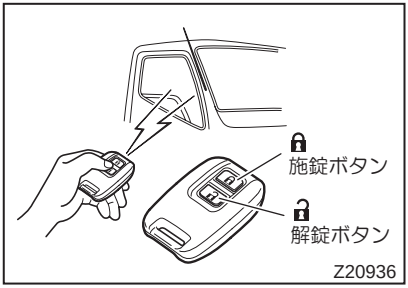
2.2　後席〈ダブルキャブ車〉，助手席〈スイングドア車〉

施錠するときはロックノブを押し込みます。
解錠するときはロックノブを引き上げます。



リモートコントロールエントリーシステム＊

リモコンスイッチの操作により車から離れた所から運転席，助手席，後席〈ダブルキャブ車〉ドアの施錠，解錠ができます。



⚠ 注意

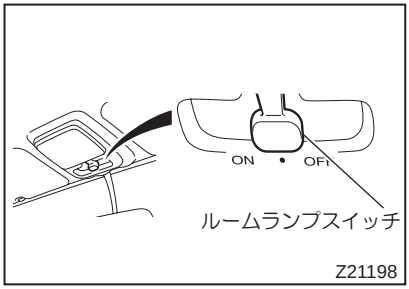
航空機内にリモートコントロールエントリーシステムのリモコンスイッチを持ち込む場合は，スイッチを押さないでください。また，衣服のポケットや，かばんなどに保管する場合でも，簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され，航空機の運行に支障を及ぼすおそれがあります。

アドバイス

- リモコンスイッチは水にぬらしたり，分解したり，落として衝撃を与えたりしないでください。故障の原因になります。
- リモコンスイッチは車内の直射日光が当たり，高温（60 ℃以上）になるような場所に放置しないでください。リモコンスイッチ内の電池の寿命低下や故障の原因になります。
- リモコンスイッチは電池交換時以外はカバーを外さないでください。故障の原因になります。

1. 操作方法

- リモコンスイッチをキャブの中心に向けて操作します。
- 操作するときはキャブ中心から約 3m 以内で行います。
  ボタンを押すと施錠します。
  ボタンを押すと解錠します。
  ボタンを押すときは 1 秒以上確実に押します。なお，1 回押しても作動しない場合は 1 ～ 2 秒後，もう一度押します。
- 施錠，解錠の作動を非常点滅灯（ハザードランプ）及びルームランプの点灯，点滅で確認することができます。なお，ルームランプはルームランプスイッチが “ ● ” 位置でなければドアの施錠，解錠作動の確認はできません。
  - 施錠：ルームランプ及び非常点滅灯が 2 回点滅します。
  - 解錠：非常点滅灯が 1 回点滅します。
    ルームランプが約 10 秒間点灯します。



- リモコンスイッチで施錠したときは，必ずドアのアウターハンドルを引き上げて施錠してあることを確認してください。
- ボタンを押してドアを解錠しても，30 秒以内にドアを開けないと自動的に施錠されます。
- 次の場合はリモコンスイッチを操作しても作動しません。
  - ドアが開いていたり，半ドアのとき
  - スターターキーがスタータースイッチに差し込まれているとき

アドバイス

リモコンスイッチでドアを施錠したとき，車内にスターターキーを置いたままにしないでください。お車の盗難防止のため，スターターキーも一緒に携帯してください。

知識

- リモコンスイッチはキャブから約 3m 以内で作動します。
  近くに TV 塔や発電所，放送局があるなど，周囲の状況により作動距離が変わることがあります。
- リモコンスイッチはスペアを 2 個作ることができます。スペアのリモコンスイッチが必要なときは日産販売会社へご依頼ください。

2. リモコンスイッチの電池交換

リモコンスイッチのボタンを押しても施錠，解錠できないときは，電池の消耗が考えられますので新しい電池と交換してください。

⚠ 警告

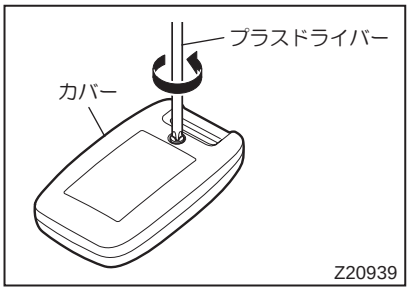
- 電池は事故防止のためお子さまの手の届かない所に保管してください。万一，お子さまが電池を飲み込んだときは，直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池は分解したり，熱を加えたり，水の中に入れないでください。破裂や発火のおそれがあります。

アドバイス

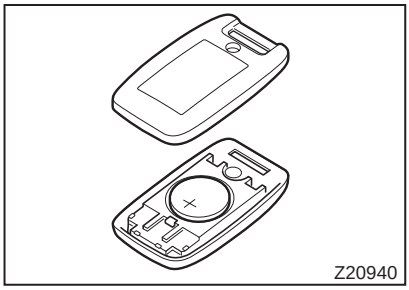
- 電池はピンセットなど金属製のものではさまないでください。ショートするおそれがあります。
- リモコンスイッチ内部を水でぬらさないでください。また，ゴミやホコリが入らないようにしてください。リモコンスイッチの故障の原因になります。
- 古い電池は，公共機関のゴミ処理条例にしたがって適切に処分してください。また，テープやビニールなど絶縁するもので覆い，金属や水などが直接かからないようにしてください。

使用電池	個数
リチウム電池 CR2032	1 個

①ビスを外しカバーを開きます。



②古い電池を取り出し，新しい電池を入れます。電池の “＋” マークを上にします。
③カバー，ビスを取付けます。
④スイッチを操作し，作動を確認します。



ドアの開閉

⚠ 注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を確認してください。いきなりドアを開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアのまま走行するとドアが突然開き，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 風の強いときにドアを開閉すると風にあおられ，急にドアが開閉することがありますので注意してください。
- 下り坂でドアを開けると，車の傾きによりドアが急に開くことがありますので注意してください。
- ドアを閉めるときは手や物をはさまないよう注意してください。

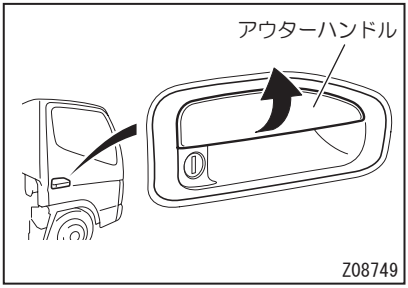
アドバイス

- ドアを開閉するときは必要以上に力を加えずゆっくりと行ってください。必要以上に力を加えるとドア部品の故障の原因になります。
- ドアにぶら下がったり，重量物を掛けたりしないでください。ドア部品の故障の原因になります。

1. 車外から

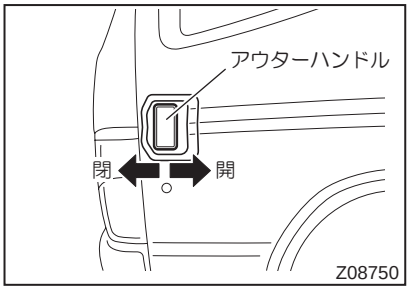
1.1 運転席，助手席，後席〈ダブルキャブ車〉

開けるときはアウターハンドルを手前に引きドアを開けます。



1.2　助手席〈スイングドア車〉

● 開けるときはアウターハンドルを手前に引きながらドアを車両後方へスライドさせます。



知識

スライド中に抵抗を感じますが，そのままスライドさせるとドアが固定されます。

● 閉めるときはアウターハンドルを持ちドアを前方へスライドさせた後，ドアを押し込むようにして確実に閉めます。

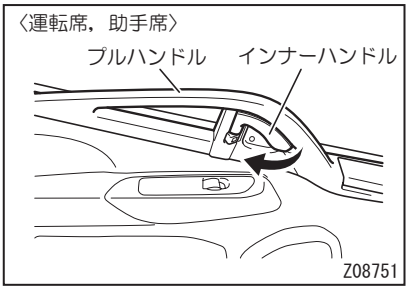
知識

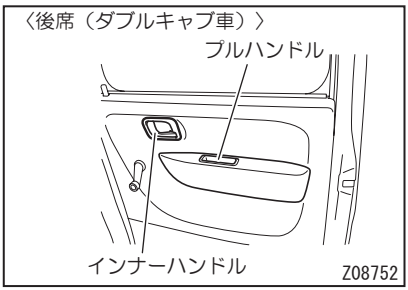
閉めるとき，ドアが固定されているため最初抵抗を感じます。

2. 車内から

2.1 運転席，助手席，後席〈ダブルキャブ車〉

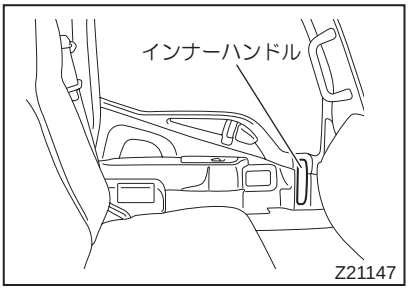
- 開けるときはインナーハンドルを引きドアを押します。
- 閉めるときはプルハンドルを持ってドアを引きます。





2.2 助手席〈スイングドア車〉

- 開けるときはインナーハンドルを引いてドアを外に押し出すようにして車両後方へスライドさせます。
- 閉めるときはインナーハンドルを車両前方へスライドさせた後，ドアを引き込むようにして確実に閉めます。



⚠ 注意

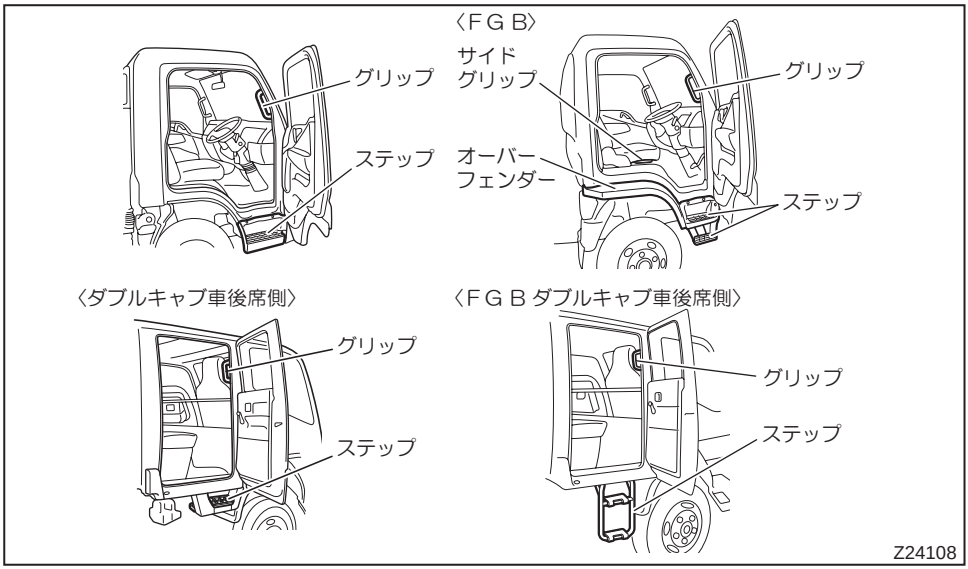
- ドアは必ず閉めてください。開けたまま走行すると発進や停止するときドアに体の一部がはさまれケガをするおそれがあります。また，ドアの故障の原因になります。
- ドアの開閉時はスイングアームやその付近に手や足を置かないでください。手や足をはさまれケガをするおそれがあります。

乗降のしかた

⚠ 注意

- タイヤやホイールに足をかけての乗降は，滑りやすいのでやめてください。ステップを使用してください。
- 雨や雪などのときはステップが滑りやすくなります。とくにステップに雪が付着していたり凍結しているときはグリップをしっかり握り乗降してください。
- くつ底や手に油やグリースなどが付着していると滑りやすくなります。よくふき取ってから乗降してください。
- 乗降するときは，飛び乗ったり，飛び降りたりせずステップ及びグリップを使用して乗降してください。転倒したり，部品が損傷するおそれがあります。
- 手に荷物を持ったままの乗降は止めてください。グリップを正しく握ることができないので，バランスをくずしたときに思わぬケガをするおそれがあります。
- 坂道や風の強いときは乗降中，急にドアが開閉することがありますので注意してください。
- FGB 型は乗降する際，オーバーフェンダー部には足や手をかけないでください。オーバーフェンダーを損傷したり，滑るおそれがあります。

グリップを握り，足をステップに確実に乗せて乗降します。常に身体を３個所以上で保持するようにします。



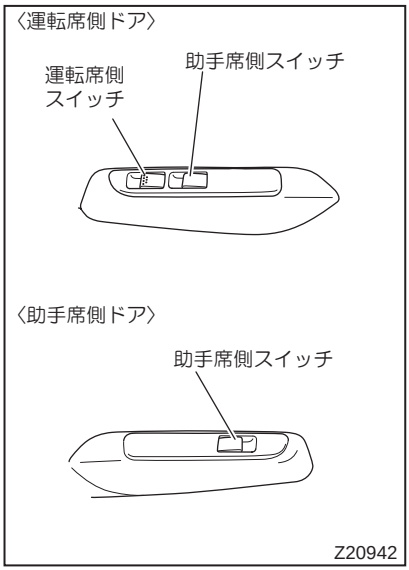
アドバイス

グリップ以外の部品をつかんで乗降しないでください。破損や故障の原因になります。

ドアガラスの開閉

1. パワーウインドー

スタータースイッチが “ON” 位置のときパワーウインドーのスイッチ操作でドアガラスの開閉ができます。



⚠ 警告

- パワーウインドーを操作してドアガラスを閉めるときは，窓から顔や手を出していないことを必ず確認してください。ドアガラスにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。
- パワーウインドーはお子さまに操作させないでください。お子さまが操作すると頭や手などをはさみ重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

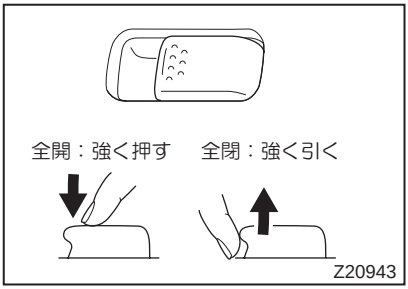
雨天時にドアやドアガラスを開けたままにしたり，飲み物などをこぼしてスイッチに水などがかからないようにしてください。故障の原因になります。

1.1　運転席側スイッチ

スイッチの操作方法によってオート作動とマニュアル作動があります。

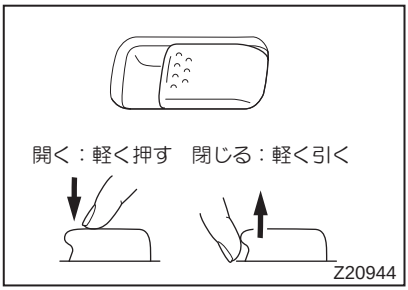
● オート作動

• スイッチを強く押す
　手を離してもドアガラスは自動で全開します。
　途中で止めたいときはスイッチを軽く引きます。
• スイッチを強く引く
　手を離してもドアガラスは自動で全閉します。
　途中で止めたいときはスイッチを軽く押します。



● マニュアル作動

• スイッチを軽く押す
　押している間だけドアガラスが開きます。
　スイッチから手を離すと，その位置でドアガラスは停止します。
• スイッチを軽く引く
　引いている間だけドアガラスが閉まります。
　スイッチから手を離すと，その位置でドアガラスは停止します。



知識

寒冷時，一時的にオート作動ではドアガラスが開閉しないことがあります。そのときはマニュアル作動で開閉してください。

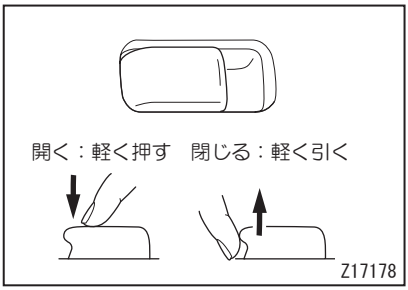
1.2　助手席側スイッチ

● スイッチを軽く押す

押している間だけドアガラスが開きます。
スイッチから手を離すと，その位置でドアガラスは停止します。

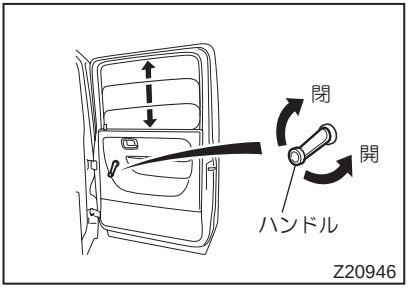
● スイッチを軽く引く

引いている間だけドアガラスが閉まります。
スイッチから手を離すとその位置でドアガラスは停止します。



2. 手動式ドアガラス＊

ハンドルを回すとドアガラスの開閉ができます。



キャブチルト＊

⚠ 警告

- キャブをチルトするときは，本書に記載された正しい方法で行ってください。誤った方法でキャブの上げ降ろしをすると手などの体の一部をはさんだり，キャブロックが不完全となるおそれがあります。キャブロックが不完全な状態では，走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながります。
- キャブの上げ，降ろしを行うときは平坦路で行ってください。平坦路以外でキャブを降ろすとキャブロックが不完全となるおそれがあります。キャブロックが不完全な状態では，走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながります。

1. キャブチルト前の準備

⚠ 警告

- キャブを上げ，降ろしするときは周囲の安全を必ず確認してから作業を行ってください。また，キャブ内に人がいないことも確認してください。
- ルーフデッキなど重量のあるものがルーフ等に取付けられているときは，安全確保のため２人でキャブチルト作業を行ってください。１人で行うと途中でキャブを支えきれなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 重量のある荷物がルーフデッキやキャブ内にあるときは降ろしてください。キャブチルト中，荷物の重さでキャブが急に降りて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

キャブ内の荷物は，固定するかキャブ外に取り出してください。キャブを上げたとき倒れたり，転倒して破損するおそれがあります。

知識

キャブをチルトするときはエアコンを停止してください。エアコンを作動させたままチルトするとエアコンのドレーン水が室内に漏れます。

- 平たんな場所に停車し，マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーをニュートラル位置にし，駐車ブレーキを確実に効かせます。DUONIC 2.0 搭載車はブレーキペダルをしっかりと踏み込んだまま，駐車ブレーキを確実に効かせ，ギヤシフトレバーを “P” 位置にします。
- エンジンを停止しスターターキーを抜き取り，タイヤに輪止めをかけます。
- キャブ内に水があるときは完全に取り除きます。また，ふたが開いたままの飲み物も取り出します。
- キャブを上げたとき障害物に当たらないよう，前方，上方にすきまがあることを確認します。

キャブ仕様	前方（m）	上方（m）
シングルキャブ車	1 以上	1 以上

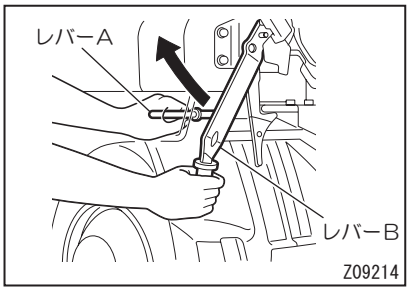
- 左右のドアを確実に閉めます。
- クレーン付の車をキャブチルトするときは，ブームをキャブに当たらない位置にします。

2. キャブの上げ方

⚠ 注意

キャブは勢いよく上げないでください。キャブチルト機構の故障の原因になります。

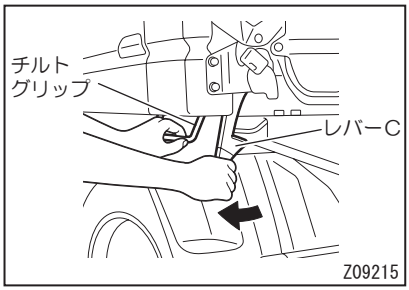
①レバーA を引いたまま，レバーB を引き上げます。レバーB の引き上げが完了するまで，レバーA は引いたままにします。



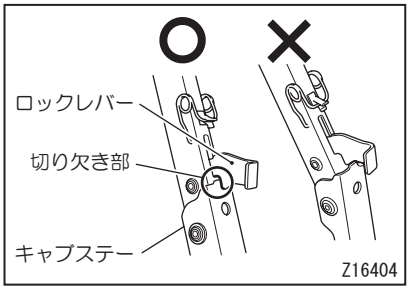
⚠ 注意

レバーA を引いていない状態でレバーB を引き上げないでください。無理にレバーB を引き上げると故障の原因になります。レバーB を引き上げるときは，レバーA を引いた状態で行います。

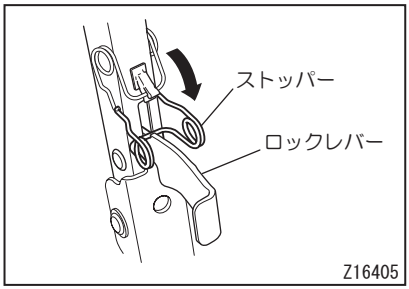
②チルトグリップを握り，レバーC を引きます。キャブが少し浮き上がります。



③チルトグリップを持ちキャブを持ち上げます。キャブステー端部とロックレバーの切り欠き部がかみ合うまでキャブを持ち上げます。
キャブステー端部とロックレバーの切り欠き部がかみ合うとキャブは固定されます。



④チルトグリップを持ったまま，ストッパーをロックレバーにはめ込みます。



⚠ 警告

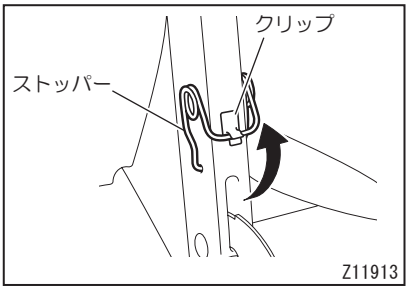
- キャブを上げるときは，必ずチルトグリップを持って上げてください。レバー B やレバー C を持ってキャブを上げると，キャブを降ろすときにキャブロック機構が損傷，またはキャブロックが不完全となるおそれがあります。キャブロック機構が損傷，またはキャブロックが不完全な状態では，走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながります。
- ストッパーは必ずはめ込んでください。はめ込まないとキャブが落下し重大な事故につながるおそれがあります。

3. キャブの降ろし方

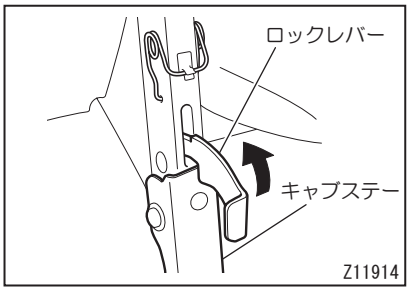
⚠ 警告

- キャブはチルトグリップを持ってキャブを支えながらゆっくり降ろしてください。キャブが急降下すると体をはさまれたり，キャブロックが不完全となることがあります。
- キャブを降ろすときはエンジンルーム内にウエス（布）など燃えやすい物や工具などの置き忘れがないか点検してください。燃えやすい物を置き忘れると火災を起こすおそれがあります。

①ストッパーを解除し，クリップに押し込み固定します。



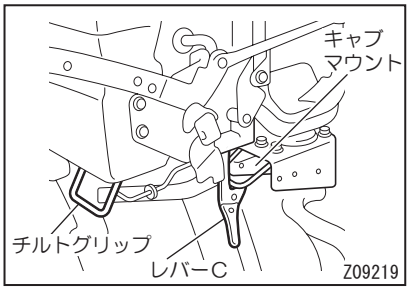
②チルトグリップを持ちキャブを支えます。
ロックレバーを持ち上げてキャブステーを折り曲げます。



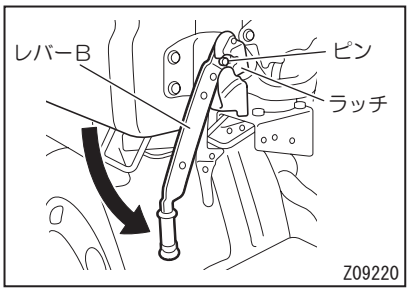
⚠ 警告

- キャブを降ろすときは，必ずチルトグリップを持ってください。レバー B やレバー C を持ってキャブを降ろすと，キャブロック機構が損傷，またはキャブロックが不完全となるおそれがあります。キャブロック機構が損傷，またはキャブロックが不完全な状態では，走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながります。
- キャブステーのロックが解除したらすぐロックレバーから手を離してください。キャブステーが車両後方に折れますので手をはさまれるおそれがあります。

③チルトグリップを持ったまま，レバー C のつめがキャブマウントに掛かるまでキャブを降ろします。



④レバー B をピンがラッチに掛かるまで押し下げます。
レバー B が押し下げれないときは，再度キャブチルトをやり直してください。



4. キャブロックの確認

⚠ 警告

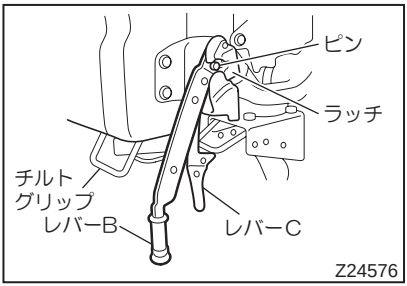
キャブを降ろした後は，キャブがロックされていることを確認してください。万一，キャブのロックが不十分だと走行中にキャブが持ち上がり重大な事故につながるおそれがあります。

キャブを降ろした後，次の確認を行います。不具合があるときは再度キャブチルトをやり直してください。不具合が解消しないときは走行しないで日産販売会社に連絡してください。

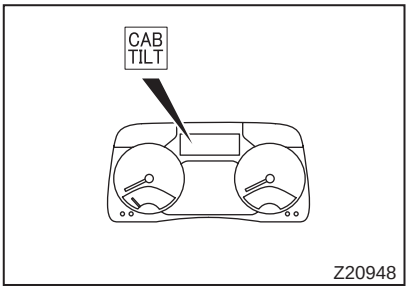
①ラッチがピンに確実に掛かっていることを確認します。また，レバーBを引いても動かないことを確認します。

②レバーCを引きながら，チルトグリップを持ち，キャブを上げる方向に力をかけ，そしてキャブが上がらないことを確認してください。

③万一，キャブが上がる場合は，キャブチルトをやり直します。



④スタータースイッチを “ON” 位置にしマルチインフォメーションディスプレイに CAB TILT が表示されないことを確認します。



⚠ 警告

マルチインフォメーションディスプレイに CAB TILT が表示されたまま走行しないでください。振動などでキャブが上がるおそれがあります。点灯しているときは再度キャブチルトをやり直してください。

点検口の開閉＊

1. エンジン点検口

キャブチルトしない車の点検は，助手席下部のエンジン点検口を開けて行います。

● 開けるとき

①背もたれを前方に倒します。

②フロアーマットをめくり，クランプの先端を下に引きながら，必ずクランプの先端のみを持ち，上に持ち上げ外します。

③シートクッションを持ち上げ，下部の固定フックを外します。

④固定フックを助手席側のグリップにかけ固定します。

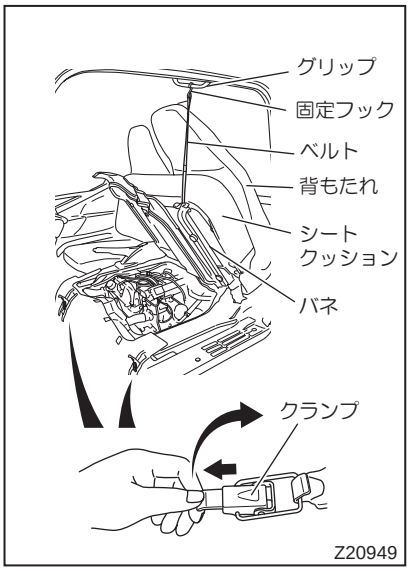
● 閉じるとき

①シート全体を支えながら，固定フックをグリップから外します。

②固定フックをシートクッション下部のバネにかけ固定します。

③シート全体を静かに降ろし，クランプをかけ固定します。

④フロアーマット，背もたれをもとに戻します。

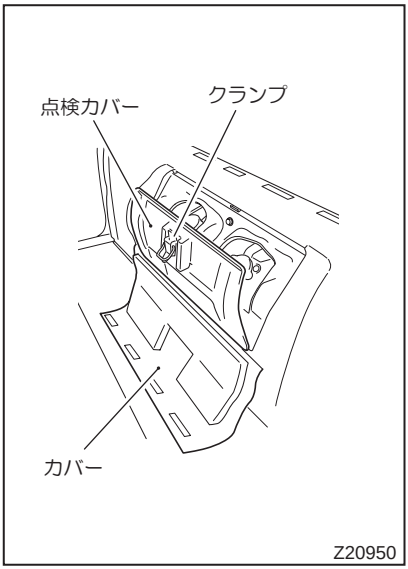


アドバイス

- エンジン点検口を閉じるときはシートベルトやフロアーマットをはさまないでください。
- エンジン点検口を閉じた後はクランプで確実に固定してください。

2. パワーステアリングオイル，冷却水点検口

ダブルキャブ車は後席からパワーステアリングオイルの点検と補給，及び冷却水の補給を行えます。
各作業はカバーを開けてから行います。
①カバーを取外します。
②クランプを引き上げてフックを外し，点検カバーを下げます。
取付けは逆手順で行います。



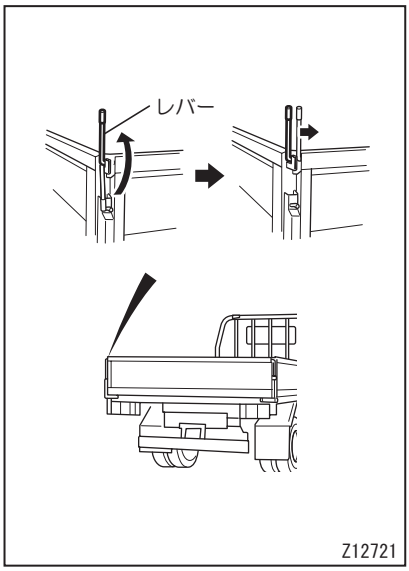
荷台の取扱い

1. リヤゲート

⚠ 注意

- リヤゲートを閉じるときは，リヤゲートチェーンをはさまないでください。リヤゲートやリヤゲートチェーンを破損するおそれがあります。また，ロックが不十分な場合，走行中にリヤゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤゲートを開閉するとき，指などをはさまないよう注意してください。
- リヤゲートを開いたまま走行しないでください。積荷等が落下すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

左右のレバーを上に回し，内側に押すとリヤゲートが開きます。

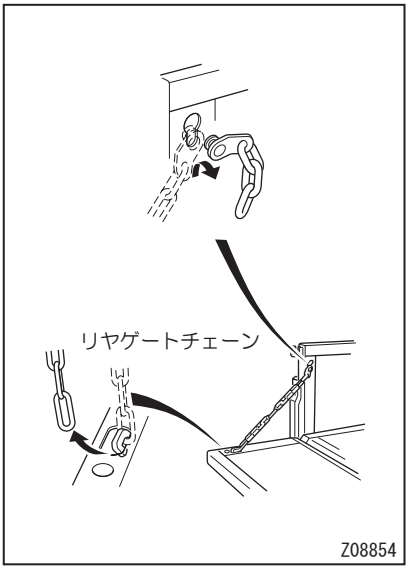


2. リヤゲートチェーン

アドバイス

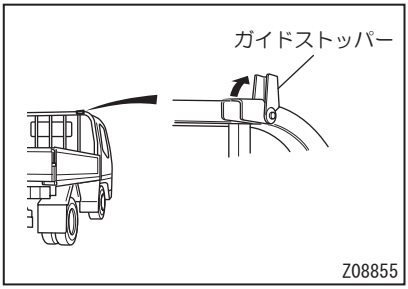
リヤゲートチェーンを使用した状態で，リヤゲートの上にのったり，重量物を載せないでください。破損による落下のおそれがあります。

チェーンを外すときはリヤゲートを少し持ち上げてから行います。



3. ガイドストッパー＊

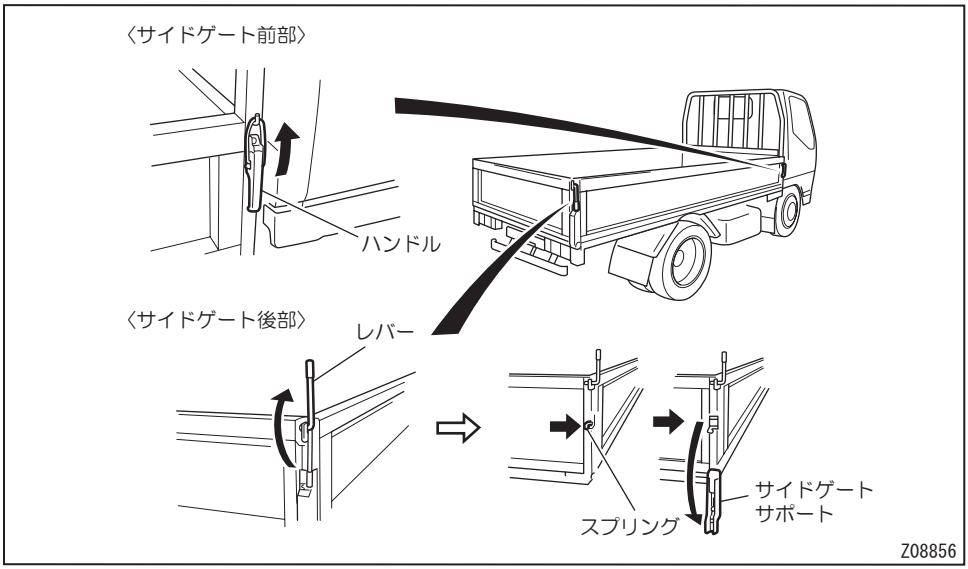
長尺物を鳥居に載せるときはガイドストッパーを起こし，ロープ等で固定します。



4. サイドゲート

⚠ 注意

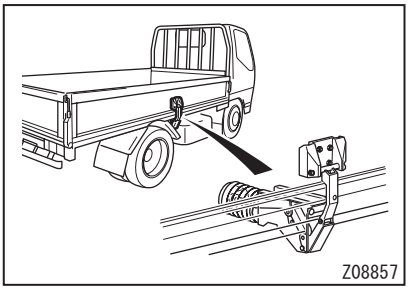
- サイドゲートを開閉するとき，指などをはさまないよう注意してください。
- サイドゲートを開いたまま走行しないでください。積荷等が落下すると思わぬ事故につながるおそれがあります。



- サイドゲート後部
  レバーを引き上げ，スプリングを外側に押しサポートを倒します。
- サイドゲート前部
  ハンドルを引き上げ，ロックを外すとサイドゲートが開きます。

5. あおり開閉補助装置＊

サイドゲート開閉時の操作力を軽減します。開閉操作のときは必ず手をそえて行ってください。



5章 シート，ハンドルの調整

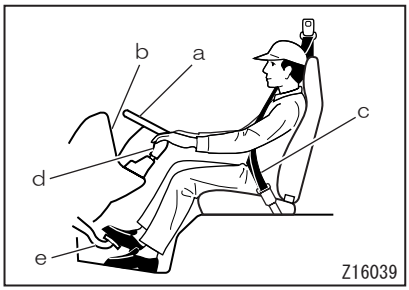
運転席 …… 5-2
助手席，中央席＊ …… 5-5
後席〈ダブルキャブ車〉…… 5-6
シートベルト …… 5-7
ハンドル …… 5-12

運転席

1. 正しい運転姿勢

運転席は正しい運転姿勢になるようシート各部を調整できます。シートに深く腰掛け背もたれから背中を離さずに次の操作ができる位置に調整します。

a. ハンドルを楽に操作できること
b. メーター類が確認できること
c. シートベルトが正しく装着できること
d. 各スイッチやギヤシフトレバーを楽に操作できること
e. ペダルが十分に踏み込めること



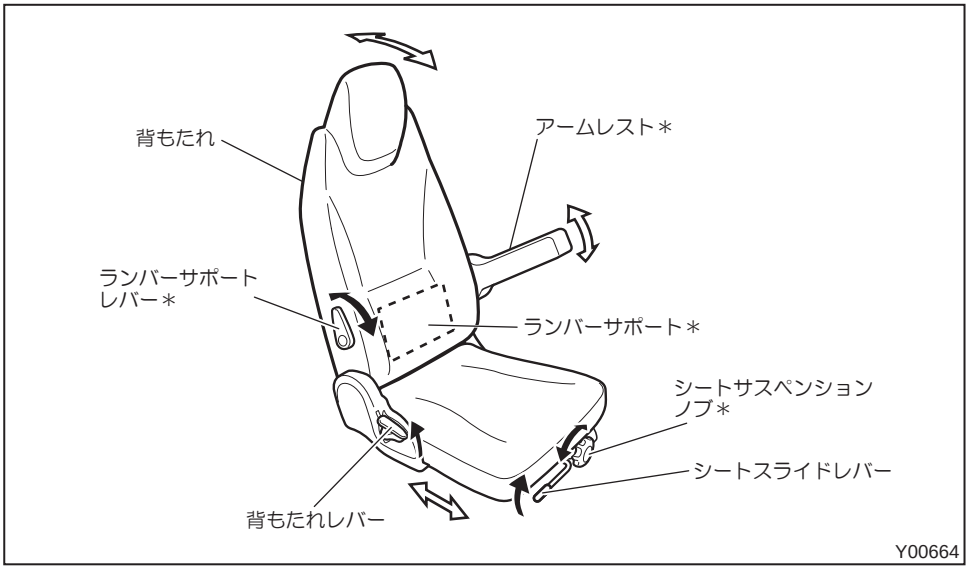
⚠ 警告

シートに深く腰掛け，背もたれから背中を離さない正しい運転姿勢になるようにシート，ハンドルを調整してください。不適切な運転姿勢で運転すると重大な事故につながるおそれがあります。また，必要以上にハンドルに近づいた姿勢では SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

2. 各部の調整

⚠ 注意

- シートの調整は必ず走行する前に行ってください。走行中に行うと，運転操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シート調整後及び走行前には，シートを前後に軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調整するときは，シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手がはさまり思わぬケガをするおそれがあります。



● 背もたれレバー
レバーを引くと背もたれ角度が調整できます。

⚠ 注意

背もたれレバーを操作するときは，背もたれに背中や手などを当てて行ってください。背もたれが急に戻ると顔などに当たり，ケガをするおそれがあります。

● アームレスト＊
アームレストは手前に倒して使用します。使用しないときは後ろに起こします。

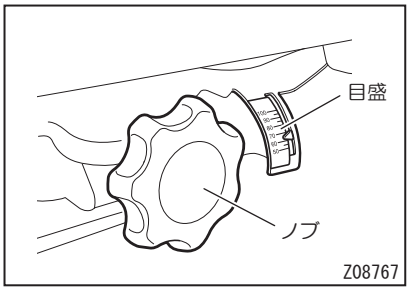
⚠ 注意

アームレストの上に乗ったり，座ったりしないでください。アームレストが破損し，ケガをするおそれがあります。

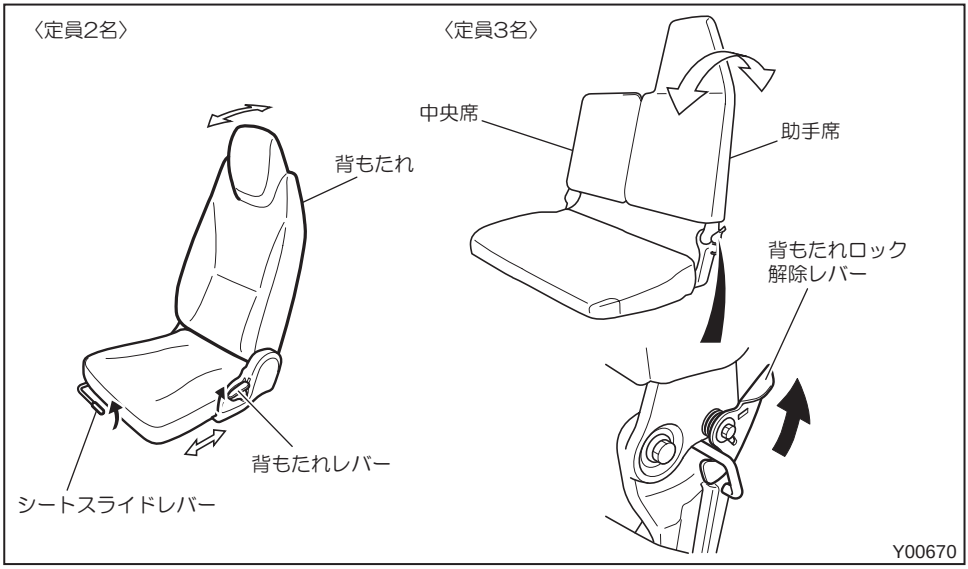
● シートスライドレバー
レバーを引き上げるとシートを前後に調整できます。調整後，レバーから手を離しシートを少し前後させロックさせます。

● ランバーサポートレバー＊
レバーを引くと腰部の硬さが調整できます。

● シートサスペンションノブ＊
ノブを回してご自身の体重に目盛りを合わせます。座ったとき適正な位置になります。



助手席，中央席＊



1. 定員２名シート

シート各部の調整ができます。調整方法は運転席と同じです。5-2 ページをごらんください。

2. 定員３名シート

背もたれロック解除レバーを引くと背もたれを前方に倒すことができます。背もたれを戻したときは背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

知識

背もたれロック解除レバーが重いときは，背もたれの上部を後方に押しながら操作すると軽くなります。

後席〈ダブルキャブ車〉

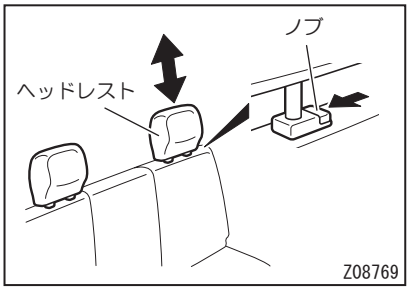
⚠ 警告

- 後席に乗員がいるときは走行前に必ずヘッドレストの中央部が後頭部に当たる位置に調整してください。ヘッドレストを外したまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ヘッドレストは必ず固定される位置で使用してください。固定できない位置で使用すると衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

● ヘッドレスト

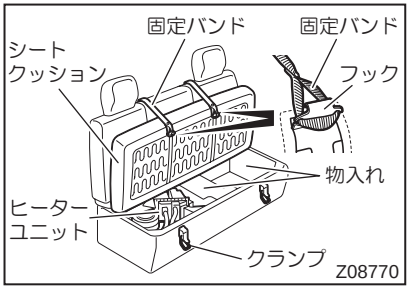
ヘッドレストの中央部が後頭部に当たる位置に調整します。

- 上げるとき
  ヘッドレストをそのまま持ち上げます。
- 下げるとき
  ノブを押しながらヘッドレストを下げます。



● シートクッション

シート下部は物入れになっており，折りたたむことができます。
物を入れるときはシート足元のクランプを外し，シートクッションを持ち上げます。背もたれについている固定バンドの先端部の輪をシートクッションのフックにかけて固定します。
使用後はクッションを戻し，クランプを確実にロックしてください。



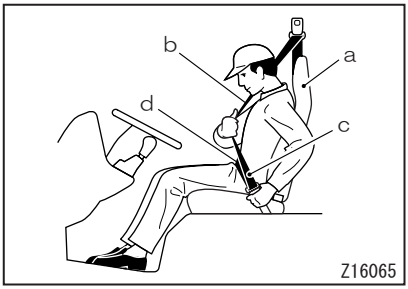
アドバイス

ヒーターユニットが取付けられている物入れには，物を入れないでください。ユニットが損傷するおそれがあります。

シートベルト

シートベルトは衝突や急ブレーキをかけたときの負傷の程度を軽減するために，正しく装着してください。運転する前に必ず全員装着してください。

a. シートを正しい位置に調整し，上体を起こし深く座ること
b. シートベルトが肩に十分かかるようにすること
c. シートベルトがねじれないようにすること
d. 腰部のシートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかけること



⚠ 警告

- シートベルトは同乗者全員が装着してください。シートベルトを装着しないと衝突したときや急ブレーキをかけたときなど，またSRSエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトは正しく装着してください。シートベルトを正しく装着しないと衝突したときや急ブレーキをかけたときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - シートベルトは２人以上で使用しないでください。
  - 上体を起こし，正しい姿勢で装着してください。
  - ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。
  - 腰部のベルトは必ず腰骨の位置にかけてください。また，肩部のベルトも肩にかかるようにシートの位置を調整してください。
  - シートベルトはねじれのないように装着してください。
- 次のようなことはやめてください。衝突したときに十分な効果を発揮できないおそれがあります。なお，シートベルトを修理するときは日産販売会社にご相談ください。
  - シートベルトをドアやシートにはさんで傷付けること。
  - バックルや巻取り装置の内部に異物などを入れること。
  - シートベルトの改造や取外し。
- ベルトにほつれ，切り傷があるときやバックルが正常に作動しない場合はベルトを交換してください。そのまま使用すると衝突したときに十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- 衝突などによって衝撃を受けた場合は，外観に異常がなくても必ず新品に交換してください。軽い衝突の場合でも日産販売会社で点検をお受けください。

⚠ 注意

シートベルトの装着は走行前に行ってください。走行中に行うと運転操作の妨げとなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 妊娠中のかたを乗せる場合

⚠ 警告

- 妊娠中のかたや疾患のあるかたも，万一のときのために必ずシートベルトを正しく装着してください。シートベルトを正しく装着しないと，急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして，母体だけでなく胎児まで重大な傷害に及ぶか，最悪の場合，死亡につながるおそれがあります。ただし，局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので，医師にご相談の上，注意事項を確認してからご使用ください。
- 妊娠中のシートベルトの着用については，基本的に通常，着用するときと同様ですが，腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また，肩部のベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。



● お子さまや幼児を乗せる場合

⚠ 警告

- お子さまにもシートベルトを着用させるか，チャイルドシートなどの専用シートを使用してください。ひざの上にお子さまを抱いていても，衝突や急ブレーキなどのとき十分に支えることができずお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 6 歳未満のお子さま及びシートベルトを着けたとき肩のベルトが首，あご，顔などに当たる場合や，腰のベルトが腰骨にかからない小さなお子さまはチャイルドシートなどの専用シートを助手席に取付けてご使用ください。シートベルトをそのまま使用すると，追突したときや急ブレーキをかけたときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

● シートベルトが汚れたとき
中性洗剤を使用して汚れを洗い落としてください。

⚠ 警告

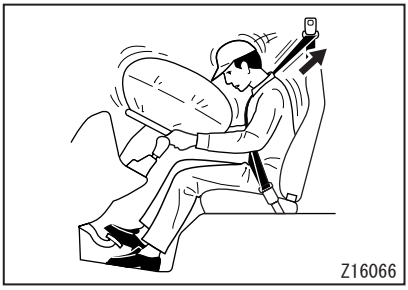
ベルトの汚れを落とすとき，ベンジンやガソリンなどの有機溶剤の使用や，漂白，染色は絶対にしないでください。シートベルトの性能が落ち，衝突したときに十分な効果を発揮できないおそれがあります。

1．ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト＊

SRS エアバッグが装着されている席のシートベルトは，前方から強い衝撃を受けると，最初にプリテンショナーが作動し，その後，ロードリミッターが作動します。

● **プリテンショナー機構**
SRS エアバッグ同様，前方からの強い衝撃を受けるとシートベルトを瞬時に引き込み，運転者及び助手席の乗員をシートにしっかり拘束します。

● **ロードリミッター機構**
シートベルトに一定レベル以上の荷重がかかると，シートベルトの拘束力を一定に保ちながら，シートベルトを少しずつ緩めることにより胸部への衝撃をやわらげる装置です。



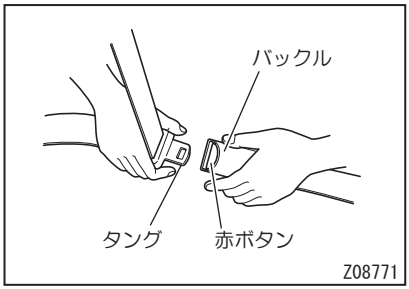
⚠ 注意

廃車するときは日産販売会社へご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し，ケガをするおそれがあります。

知識

ロードリミッター付プリテンショナーシートベルトは一度作動すると再使用できません。日産販売会社で交換してください。

2. ELR(緊急ロック式巻き取り装置)付３点式シートベルト



● 装着

①シートに深く座ります。
②タングをゆっくり引き出します。
③ベルトがねじれていないか確認した後，バックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
④腰部のベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけます。

● 取外し

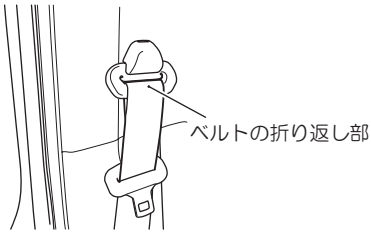
①取外すときは赤ボタンを押します。
②ベルトは自動的に巻き込まれますので，タングを持ちながら戻してください。

⚠ 警告

シートベルトにクリップなどを取付けて，ベルトが巻き込まれないようにすることはやめてください。シートベルトが緩んでいるため，追突したときや急ブレーキをかけたときシートベルトの十分な効果を発揮することができません。

アドバイス

シートベルトの巻き取りが弱くなったときは肩ベルトの折り返し部に汚れが付着し抵抗となっている場合があります。汚れが付着しているときは取り除いてください。



知識

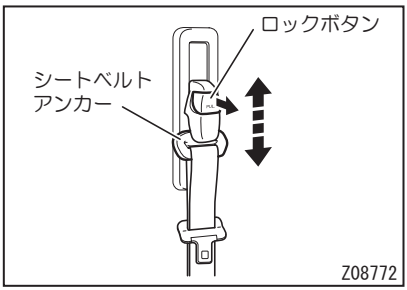
ELR 付シートベルトは普段ベルトが身体の動きに合わせて収縮しますが，強い衝撃を受けたときは自動的にロックされ身体を固定します。ベルトはゆっくり引き出してください。急に引き出すと途中で固定することがあります。

3. 調整式シートベルトアンカー＊

肩部のベルトが首や顔に当たったり，肩から外れるときは，シートベルトアンカーの高さを調整できます。

● **上げるとき**
シートベルトアンカーをそのまま持ち上げます。

● **下げるとき**
ロックボタンを引いたままシートベルトアンカーを下げます。
位置が決まったらシートベルトアンカーを上下に動かし固定します。

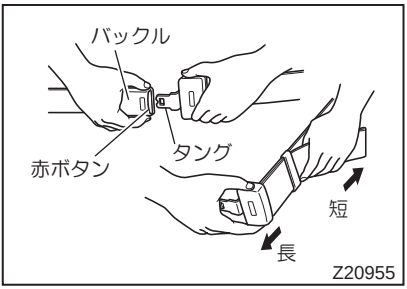


4. 2点式シートベルト＊

● **装着**

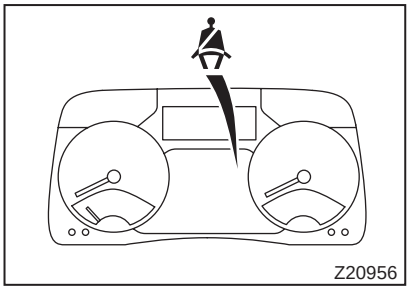
①シートに深く座ります。
②ベルトがねじれていないか確認した後，タングをバックルに “ カチッ ” と音がするまで差し込みます。
③シートベルトを装着した状態でたるみがないようベルトの長さを調整します。調整はタングとベルトを直角にしてからベルトまたはタングを引きます。
④ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけます。

● **取外し**
取外すときは赤ボタンを押します。



5. 運転席シートベルト非着用時警告灯

運転席側のシートベルトを装着せずにスターター スイッチを“ON”位置にすると ウォーニング ランプが点灯し警告します。



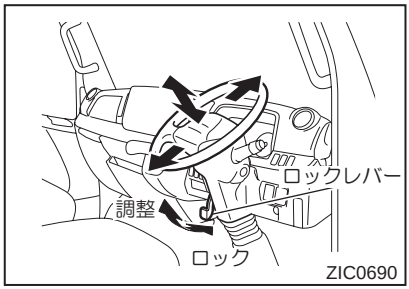
ハンドル

⚠ 注意

ハンドルの調整は停車しているときに行ってください。
走行中に調整を行うと運転操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの位置を上下，前後に調整できます。

- ロックレバーを引き，ハンドル操作しやすい高さと角度に調整します。
- 調整後，ロックレバーを押し込み確実にハンドルをロックします。

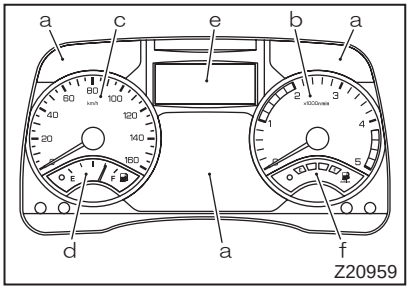


6章 メーター，警告灯・表示灯の見方

メーターの配置 …… 6-2
スピードメーター …… 6-2
タコメーター …… 6-3
水温計 …… 6-4
燃料計 …… 6-5
尿素水レベルインジケーター …… 6-6
マルチ情報システム …… 6-8
ウォーニング表示，インジケーター表示 …… 6-27
ウォーニングランプ，インジケーターランプ …… 6-39
タコグラフ＊ …… 6-48

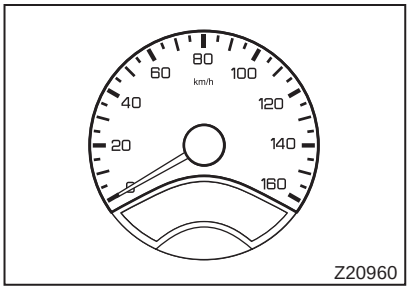
メーターの配置

a. ウォーニングランプ，インジケーターランプ
b. タコメーター
c. スピードメーター
d. 燃料計
e. マルチインフォメーションディスプレイ
f. 尿素水レベルインジケーター



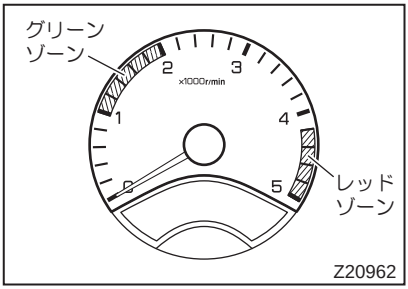
スピードメーター

走行中の車速を km/h で示します。



タコメーター

- エンジンの毎分回転数を示します。
- グリーンゾーンは経済運転の目安としてください。
- レッドゾーンはエンジンオーバーランを示します。この範囲に入らないように走行してください。とくに下り坂やシフトダウン，排気ブレーキ使用時に注意してください。



アドバイス

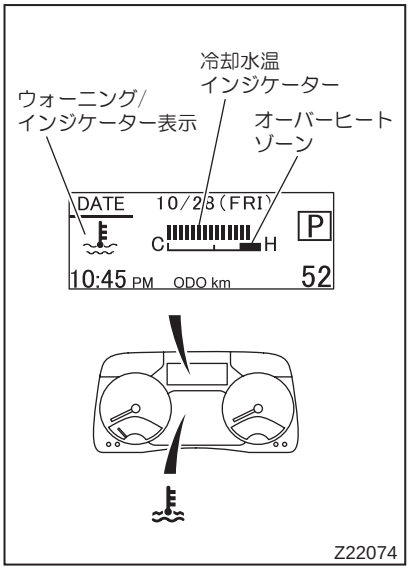
レッドゾーンでの走行は避けてください。エンジン各部に無理が生じ，エンジンを破損することがあります。

知識

エンジンオーバーランとはエンジンが最高回転数を超えて回転することを言います。

水温計

- 水温計はエンジンの冷却水温を示し，マルチインフォメーションディスプレイに表示します。
- 運転中は冷却水温インジケーターが中央付近(8目盛り）を示すのが正常です。
- 冷却水温が高温になると，マルチインフォメーションディスプレイに DATE（橙色）が表示します。
- エンジンがオーバーヒートしたときはウォーニングランプが点灯し，マルチインフォメーションディスプレイに DATE（赤色)が表示します。このとき冷却水温インジケーターは13目盛り以上を示します。同時にブザーが鳴ります。
- オーバーヒートしたときは，16-11 ページを参照し処置してください。



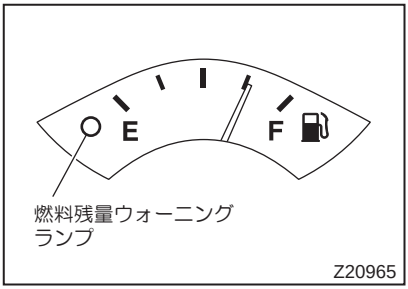
アドバイス

オーバーヒートしたときはエンジンをすぐに止めないでください。水温が急上昇しエンジンが焼付くことがあります。必ずアイドリングよりやや高めで回し続けて冷却してください。

燃料計

- 燃料タンク内の燃料の量を示します。
  F 位置：満量
  E 位置：燃料を補給してください
- 燃料残量ウォーニングランプが点灯したとき，燃料残量の目安は次のとおりです。

燃料残量の目安（dm^3 {L}）	
タンク容量	残量
70 {70}	約 12 {12}
100 {100}	約 17 {17}



- E位置に近づいたとき，または燃料残量ウォーニングランプが点灯したら早めに“超低硫黄軽油”（硫黄分が 10ppm 以下の軽油）を補給してください。
- 燃料切れを起こしたときは燃料系統のエア抜きが必要です。16-40 ページを参照してください。

知識

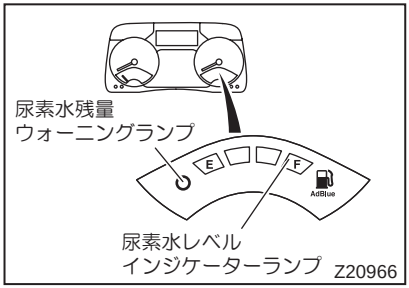
燃料切れでエンジンが停止したときは，燃料噴射装置が故障を起こすおそれがあります。

尿素水レベルインジケーター

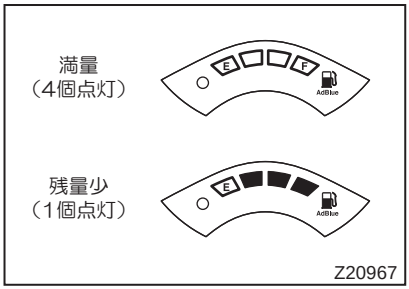
知識

AdBlue®（尿素水）の補給は余裕をもって早めに行ってください。AdBlue®（尿素水）がなくなるとエンジンの再始動ができなくなります。

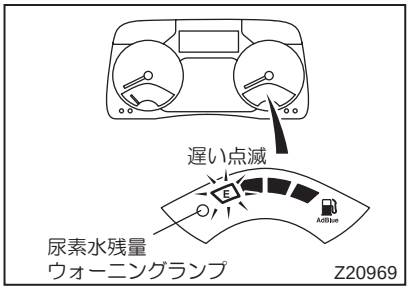
- 尿素水タンク内の AdBlue®（尿素水）の量を示します。
  F（4 個点灯）：　満量
  E（1 個のみ点灯）：AdBlue®（尿素水）を補給してください
  （4 個点滅）：　空



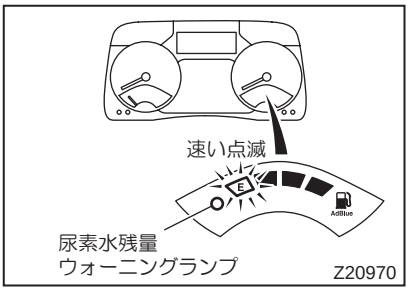
- AdBlue®（尿素水）が満量のときは尿素水レベルインジケーターランプが 4 個点灯し，残量の低下とともに 1 個ずつ消灯します。
- 尿素水レベルインジケーターランプの E 位置のみ点灯しているときは残量が少なくなっています。



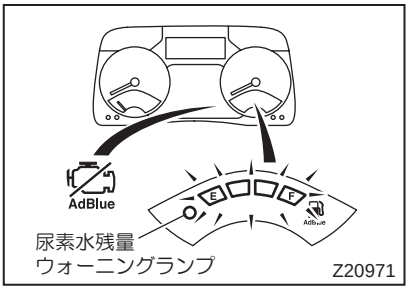
- さらに残量が少なくなるとE位置が点滅（遅い点滅）に変わり，尿素水残量ウォーニングランプが点灯します。早めに AdBlue®（尿素水）を補給してください。このとき，AdBlue®（尿素水）の残量が約 300km 走行可能な量になっています。ただし，走行条件によって多少異なる場合があります。



● さらに残量が少なくなるとE位置の点滅が速い点滅に変わります。直ちにAdBlue®（尿素水）を補給してください。



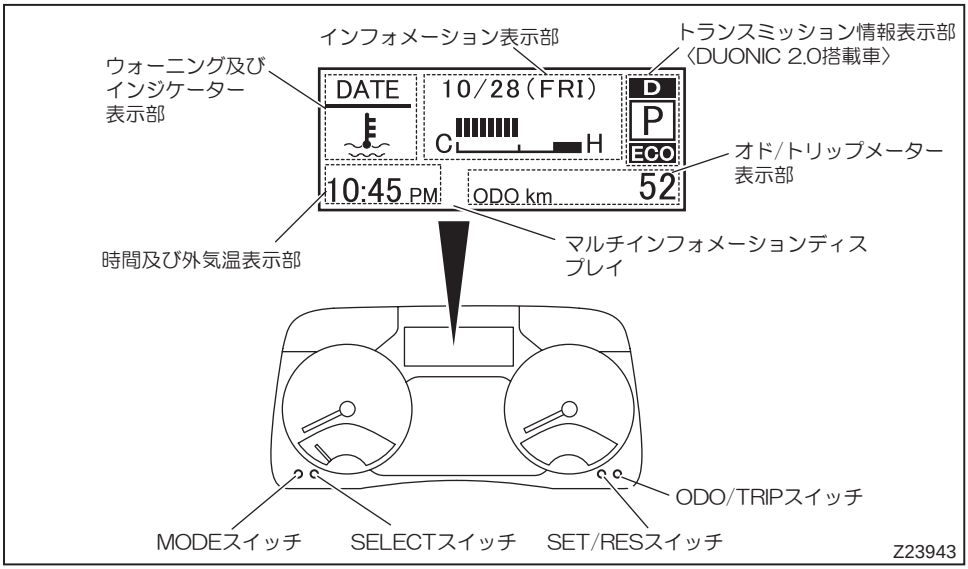
● 尿素水タンクが空になるとF位置からE位置まですべて点滅し，AdBlue が点灯します。このときブザーが鳴ります。7-134 ページをごらんください。



マルチ情報システム

1. 概要

マルチ情報システムはメーター内のマルチインフォメーションディスプレイに次の内容を表示します。



- インフォメーション表示部は，各車両情報を表示します。
  6-11 ページをごらんください。
- ウォーニング及びインジケーター表示部は各ウォーニング表示やインジケーター表示をします。
  6-27 ページをごらんください。
- トランスミッション情報表示部は DUONIC　2.0 のギヤシフトポジションなどを表示します。
  7-40 ページをごらんください。
- オド / トリップメーター表示部は，オドメーター及びトリップメーターを表示します。
  6-10 ページをごらんください。
- 時間及び外気温表示部は，時間を表示できます。またはフルオートエアコン装着車は，外気温を表示することができます。
  6-15 ページをごらんください。

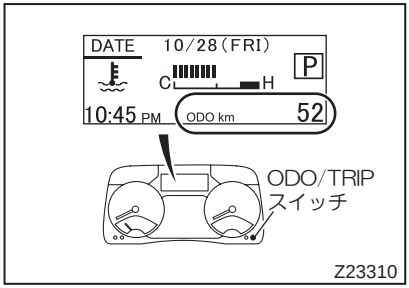
- MODE スイッチは，インフォメーション表示部の表示内容を切り替えるときに使用します。
- SELECTスイッチは，MODEスイッチで選択した表示内容の画面設定を切り替えるときに使用します。
- SET/RES スイッチは，インフォメーション表示部の表示設定を切り替えるときに使用します。
- ODO/TRIP スイッチは，オドメーター（積算距離計）とトリップメーター（区間距離計）を切り替えるときに使用します。

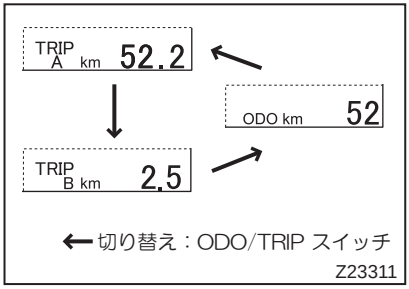
2. オドメーター(積算距離計),トリップメーター(区間距離計)

スタータースイッチが “ON” 位置のとき ODO（オドメーター）または TRIP（トリップメーター）を表示します。ODO/TRIP スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

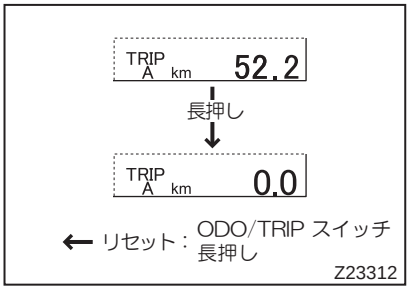
● ODO（オドメーター）
走行した総走行距離を 1km 単位で表示します。

● TRIP（トリップメーター）
2 点区間の走行距離を 0.1km 単位で表示します。
トリップメーターにはTRIP “A” とTRIP “B” があり，それぞれ独立して表示します。



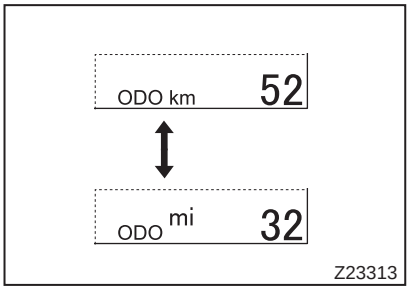


0 に戻すときは ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押します。この場合表示されている方だけ 0.0 に戻ります。



知識

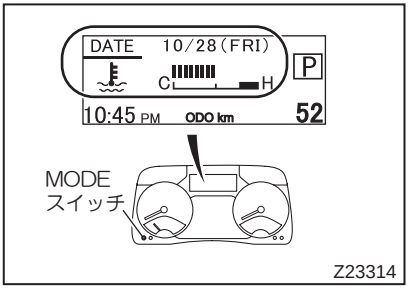
オドメーター及びトリップメーターの表示単位は，燃費表示の単位に連動して変更されます。燃費表示の単位については 6-19 ページをごらんください。

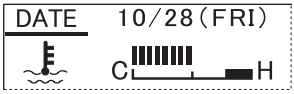
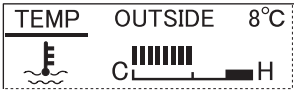
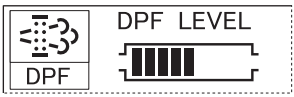
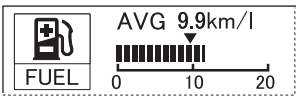
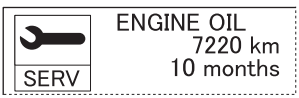
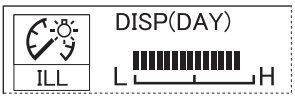


3. ディスプレイ表示内容の切り替え及び設定

● 表示内容の切り替え

- MODE　スイッチを押すと車両のさまざまな情報を表示することができます。
- MODE スイッチを押すと順送り，長押しすると逆送りになります。

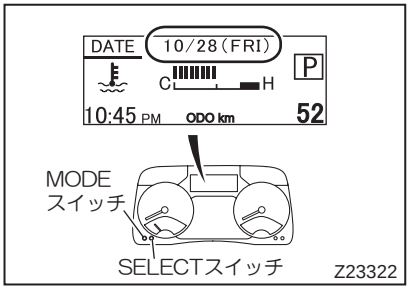


画面	表示項目名 / 内容	参照ページ
	**カレンダー，時計** 日付と時刻を表示します	6-12
	**外気温** **（フルオートエアコン装着車）** キャブ前面付近の車外温度を表示します	6-15
	**DPF モニター** DPF のスス堆積量，手動再生要求表示及び手動再生の残り時間などの情報を表示します	6-17
	**燃費情報** 平均燃費，リアルタイム燃費，瞬間燃費または平均車速を表示します	6-18
	**点検整備情報** オイルやフィルターエレメントを最後に交換してからの走行距離や月数，整備勧告表示を表示します	6-21
	**照明輝度（明るさ調整）** メーターとディスプレイ部の明るさ調整画面を表示します	6-25

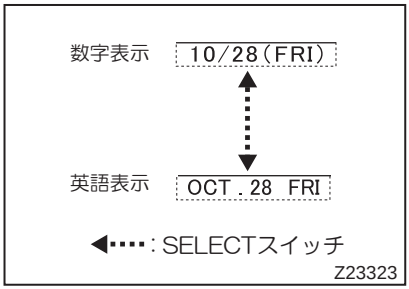
3.1　カレンダー，時計

● **日付，時刻表示**

MODE スイッチを押すと，日付と時刻を表示できます。

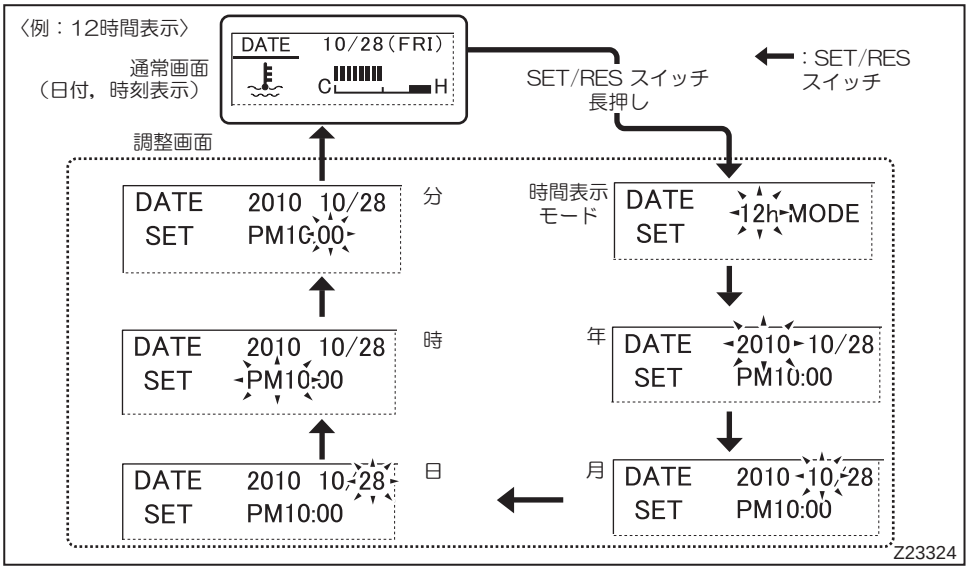


● 日付と時刻を表示中に SELECT スイッチを押すと日付表示を数字表示または英語表示に切替えられます。



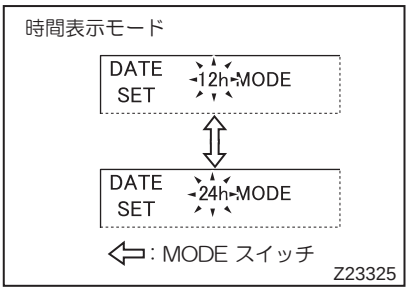
● **日付，時刻合わせ**

①日付，時刻表示中に SET/RES スイッチを長押し，調整画面にします。

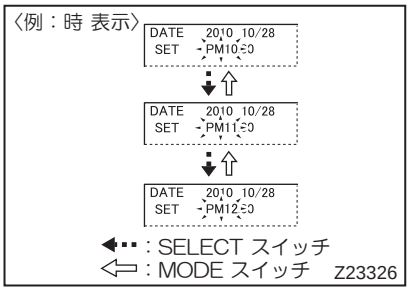


②SET/RES スイッチを押すごとに，“ 通常画面（日付，時刻表示）” → “ 時間表示モード ” → “ 年 ” → “ 月 ” → “ 日 ” → “ 時 ” → “ 分 ” → “ 通常画面 ” の順に繰り返し，表示が点滅します。調整したい表示を点滅させ，MODE スイッチまたは SELECT スイッチを押し，調整します。

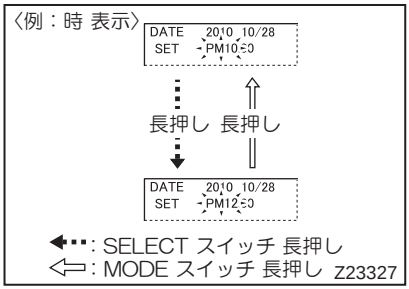
● 時間表示モードを “12h” に選択すると時間が 12 時間で表せます。同様に “24h” を選択すると時間が 24 時間で表せます。



● SELECT スイッチを押すと値が増加し，MODE スイッチを押すと値が減少します。



● スイッチを長押し（0.5 秒以上）すると 2 年，2 月，2 日，2 時間，10 分ずつ変更できます。



③調整後は SET/RES スイッチを押します。

④調整が終わったら通常画面になるまで，SET/RES スイッチを押します。

● **時報合わせ**

カレンダー・時計表示のとき SET/RES スイッチを押し，時報と同時に離すと時報に合わせることができます。

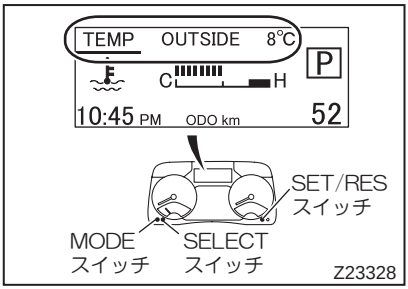
例）11:00 ～ 11:29 のときは 11:00
　　11:30 ～ 11:59 のときは 12:00 になります。

知識

● 年月日をセットすると曜日は自動的に表示されます。
● カレンダーは 2009 年 1 月 1 日～ 2039 年 12 月 31 日の範囲で調整できます。

3.2 外気温＊

MODE スイッチを押し，外気温度表示するとキャブ前面付近の車外温度を表示できます。

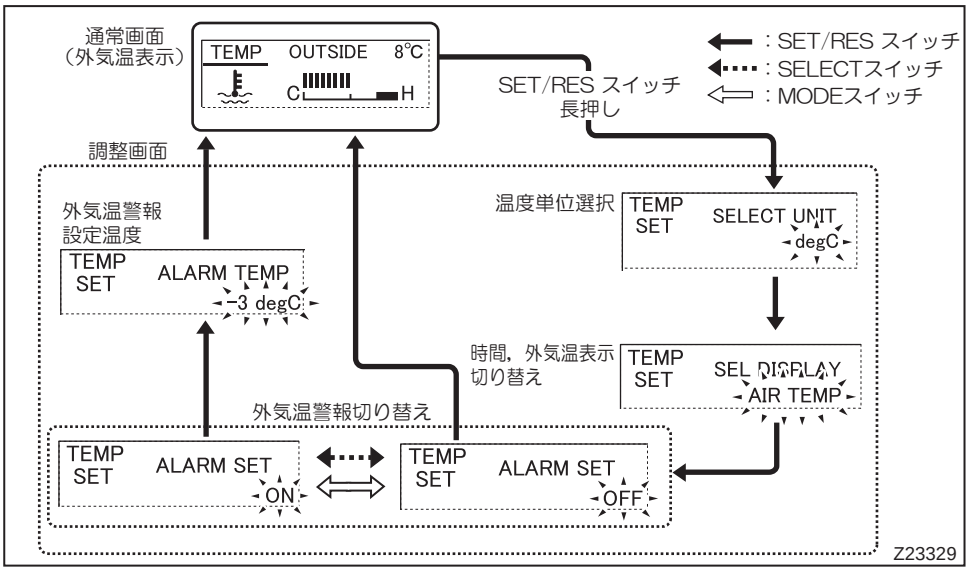


知識

表示温度はキャブ外気導入口の空気温度であるため，周囲の状況や走行条件，及び空調作動状態などにより正しい車外温度を示さないことがあります。

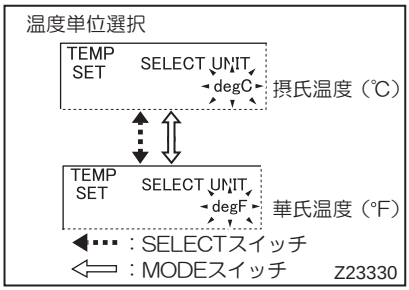
- 外気温モードでは，次の表示の切替えや設定をすることができます。
  - 摂氏温度（deg. C）と華氏温度（deg. F）の切り替え
  - ディスプレイ左下の温度表示と時間表示の切り替え
  - 外気温が設定した温度を下回ったときの警報設定

● 外気温モードの各設定

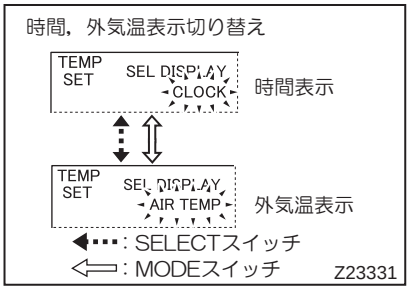


①MODE スイッチを押し，外気温度表示にします。
　SET/RES スイッチを長押しして，調整画面にします。
②SET/RES スイッチを押すごとに，“温度単位選択” → “時間, 外気温表示切り替え” → “外気温警報切り替え” の順に表示します。

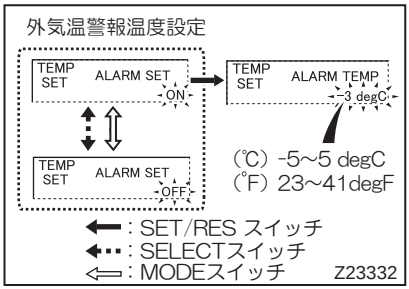
● 温度単位選択画面のときに MODE スイッチまたは SELECT スイッチを押すと摂氏温度表示（℃）と華氏温度表示（°F）を選択できます。



● 時間，外気温度表示切り替え画面のときに MODE スイッチまたは SELECT スイッチを押すとディスプレイ左下の表示を時間または外気温度に切り替えられます。

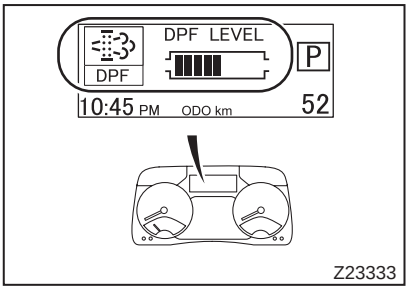


● 外気温警報温度の設定方法
外気温度警報画面のときに MODE スイッチまたは SELECT スイッチを押すと警報の“ON”または“OFF”を選択できます。“ON”を選択すると摂氏温度 -5 ℃から 5 ℃の間（華氏温度 23°F から 41°F の間）で設定することができます。設定温度になるとディスプレイ左下の温度表示が約 1 分間点滅します。

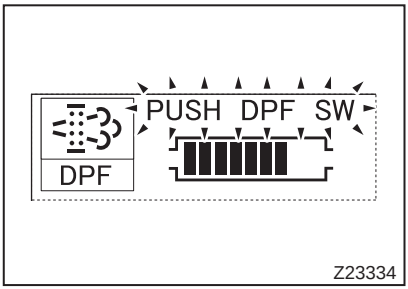


3.3 DPF モニター

DPF のスス堆積量，手動再生要求表示及び手動再生の残り時間などの情報を表示します。また，必要に応じてウォーニング表示またはインジケーター表示で運転者に知らせます。



- DPFのスス堆積量が7目盛り以上になるとDPF手動再生要求表示が表示します。

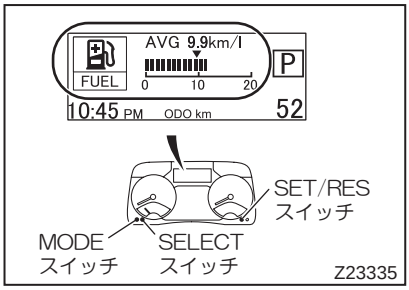


DPF の詳細については 7-125 ページをごらんください。

3.4　燃費情報

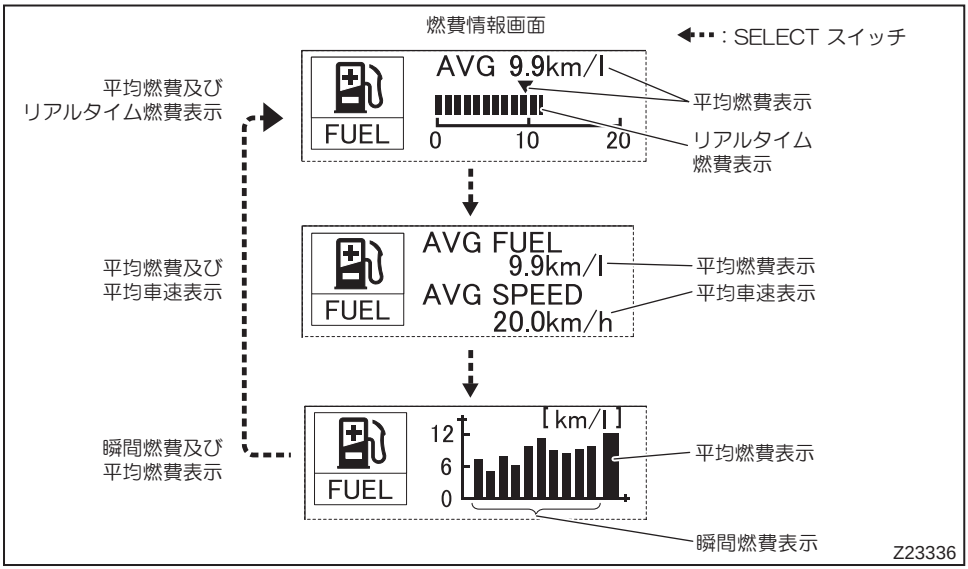
燃費情報は平均燃費，リアルタイム燃費，瞬間燃費または平均車速で表示します。

- 平均燃費は，リセットしてから現在までの燃費を表示します。
- リアルタイム燃費は，0.5秒間の燃費を表示します。
- 平均車速は，リセットしてから現在までの平均車速を表示します。
- 瞬間燃費は，1 分間の燃費を表示します。



● 画面表示の切り替え

①MODE スイッチを押し，燃費情報画面にします。

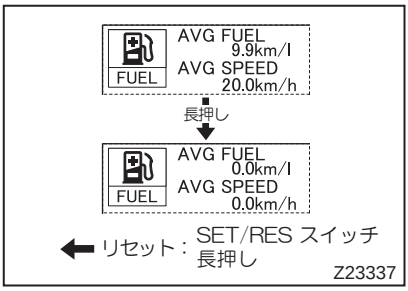


②画面表示方法を変更するときは，SELECT スイッチを押します。
SELECT スイッチを押すごとに次の組み合わせで表示できます。

- 平均燃費及びリアルタイム燃費表示
- 平均燃費及び平均車速表示
- 瞬間燃費及び平均燃費表示

● 表示内容のリセット

平均車速，平均燃費をリセットするときは，SET/RESスイッチを長押し(1秒以上)します。



● **燃費補正係数の修正，燃費表示単位の変更**

燃費補正係数及び燃費表示単位の変更をすることができます。

- 燃費補正係数は通常，変更する必要はありません。しかし，実際の燃費と表示値が極端に異なるときは補正係数を変更します。補正係数を大きくすると平均燃費，リアルタイム燃費及び瞬間燃費の表示値は大きくなります。補正係数を小さくすると各燃費の表示値は小さくなります。

補正係数初期値	1.00

知識

補正係数表示のとき，SET/RES スイッチを 1 秒以上押すと補正係数が初期値(1.00)に戻ります。

- 燃費表示単位は km/l，l/100km，mpg で表示できます。
  - km/l 表示は，1 リットルの燃料で走行できる距離（km）を示します。
  - l/100km 表示は，100km 走行するのに必要な燃料の量を示します。
  - mpg(mile per gallon)表示は，1 ガロンの燃料で走行できる距離(マイル)を示します。

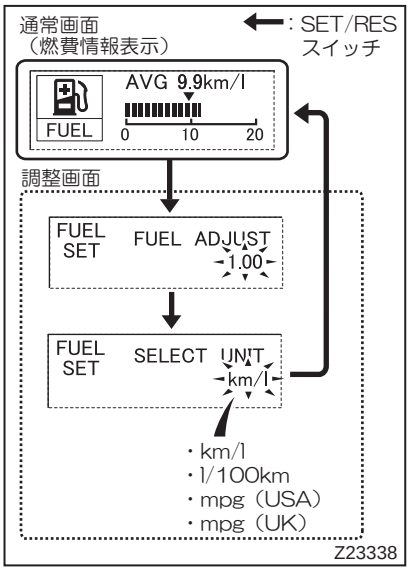
知識

燃費表示の単位を変えるとオドメーター及びトリップメーターの表示単位も変わります。

- “km/l”，“l/100km” を選択するとオドメーター及びトリップメーターの表示単位は，“km” になります。
- “mpg（USA）”，“mpg（UK）” を選択するとオドメーター及びトリップメーターの表示単位は，“mi（mile）” になります。

①MODE スイッチを押し，燃費情報画面にします。
②SET/RES スイッチを押し，調整画面にします。SET/RES スイッチを押すと燃費補正係数，燃費表示単位の順に表示は替わります。
③SELECT スイッチまたは MODE スイッチを押し，係数または表示単位を切り替えます。
- 燃費補正係数は SELECT スイッチを押すと値が増加し，MODE スイッチを押すと値は減少します。スイッチを押し続けると早送りします。
- 燃費表示単位は　SELECT　スイッチを押すと km/l→l/100km → mpg(USA)→ mpg(UK) に替わります。

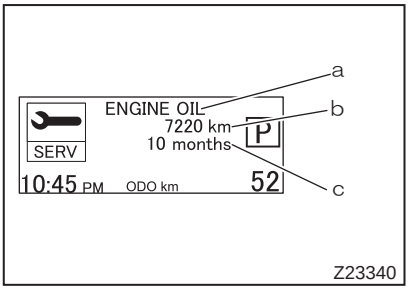
④SET/RES スイッチを押し通常画面に戻します。



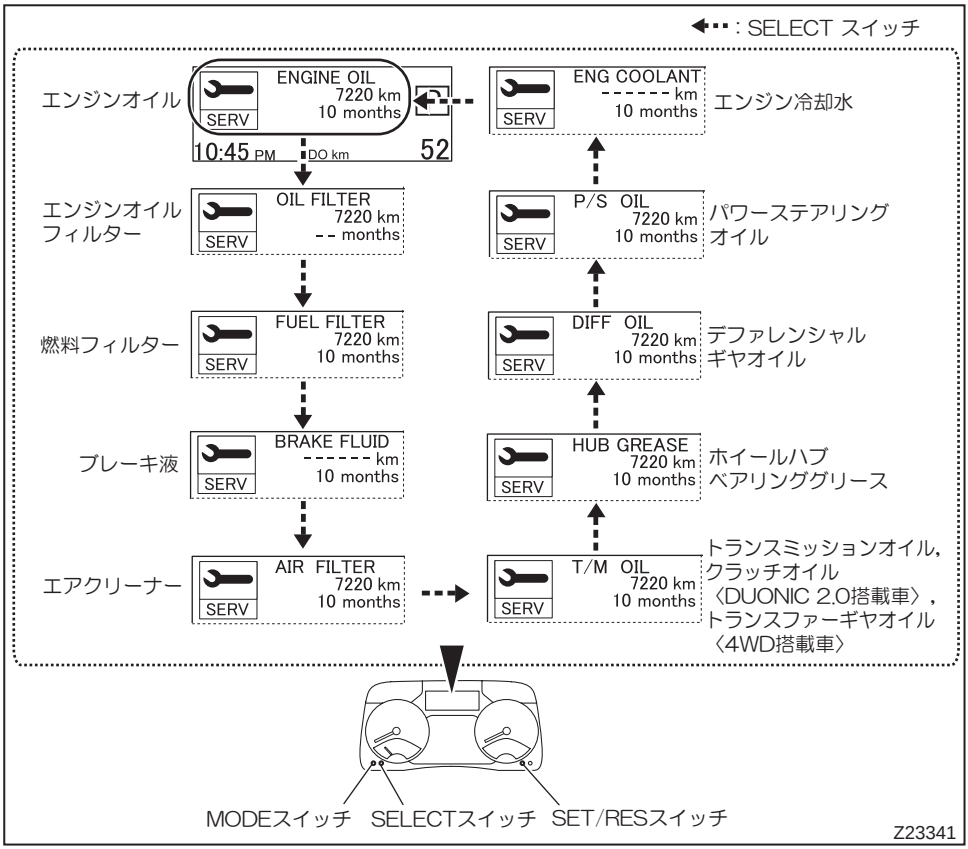
3.5 点検整備情報

マルチインフォメーションディスプレイにオイルやフィルターエレメントを最後に交換してからの距離や月数を表示することができます。

a. 表示項目名
b. 交換後の距離数（点検整備情報のリセット後の距離）
c. 交換後の月数（点検整備情報のリセット後の月数）



● **点検整備情報の表示切り替え**



①MODE スイッチを押し，点検整備情報画面にします。
②SELECT スイッチを押すごとに前回表示していたものから順に切り替わります。

● **整備勧告時期の設定**

各項目の交換時期は次表にしたがい設定します。

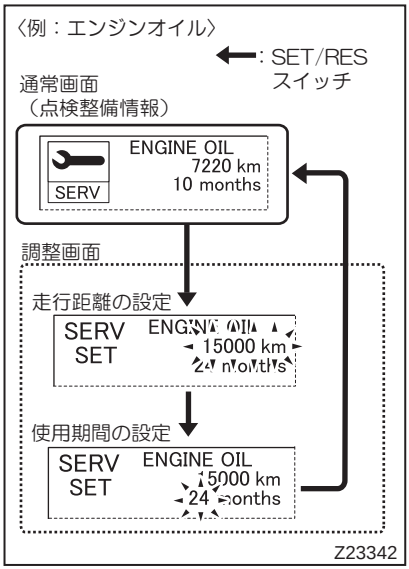
厳しい使われ方（シビアコンディション）をする車や，オイルなどを交換した場合，使用油脂によっては交換時期を変更する必要があります。そのときは次表にしたがい正しい時期に設定してください。

項目	表示項目名	交換時期
エンジンオイル	ENGINE OIL	20,000km または 1 年ごと シビアコンディション時は 10,000km ごと
エンジンオイルフィルター	OIL FILTER	40,000km または 1 年ごと
燃料フィルター	FUEL FILTER	40,000km または 1 年ごと
ブレーキ液	BRAKE FLUID	2 年ごと
エアクリーナー	AIR FILTER	40,000km または 1 年ごと
トランスミッションオイル， クラッチオイル〈DUONIC 2.0 搭載車〉，トランスファーギヤオイル〈4WD 車〉	T/M OIL	80,000km または 2 年ごと
ホイールハブベアリンググリース	HUB GREASE	40,000km または 1 年ごと シビアコンディション時は 20,000km または 1 年ごと
デファレンシャルギヤオイル	DIFF OIL	80,000km または 2 年ごと
パワーステアリングオイル	P/S OIL	50,000km または 1 年ごと
エンジン冷却水	ENG COOLANT	2 年ごと

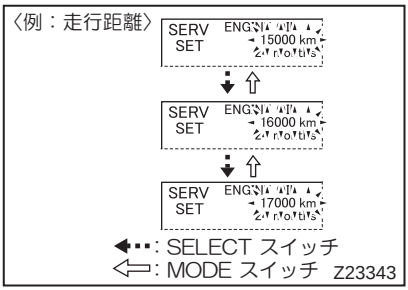
①MODE スイッチを押し，点検整備情報画面にします。

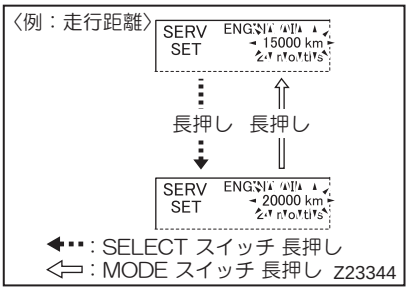
②SELECT スイッチを押して交換時期を変更したい項目の表示にします。

③SET/RESスイッチを押して調整画面にし，“km”表示（走行距離）を選択します。選択すると数字が点滅します。



④SELECT スイッチまたは MODE スイッチを押して調整します。
- SELECT スイッチを押すと 1,000km ずつ増加します。
- MODE スイッチを押すと 1,000km ずつ減少します。
- スイッチを長押しすると 5,000km ずつ増加または減少します。
- 交換時期が使用期間で管理している場合は，“ーーーー km” 表示のままにします。





⑤SET/RES スイッチを押して “month” 表示（使用期間）を選択します。選択すると数字が点滅します。

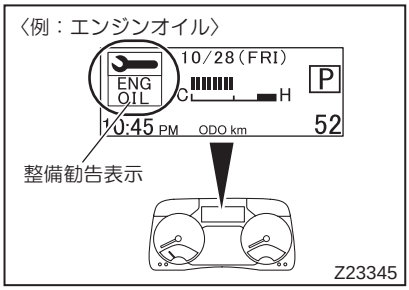
⑥SELECT スイッチまたは MODE スイッチを押して調整します。
- SELECT スイッチを押すと 1ヶ月ずつ増加します。
- MODE スイッチを押すと 1ヶ月ずつ減少します。
- スイッチを長押しすると 2ヶ月ずつ増加または減少します。
- 交換時期が走行距離で管理している場合は，“ーー month” 表示のままにします。

⑦設定が終了したら SET/RES スイッチを押し，点検整備情報画面にします。

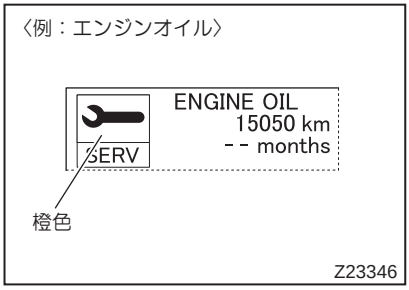
⑧メンテナンス情報をリセットするため点検整備情報画面で “0km”，“0months” が表示されるまで SET/RES スイッチを長押しします。

● **整備勧告表示**

• 各項目の点検整備情報をセットしておくと，交換時期の 1,000km 前または 1 か月前になると整備勧告表示をします。
表示はスタータースイッチを “ON” 位置にするたびに表示します。駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。整備勧告表示が複数あるときは，3 秒間ずつ交互に表示します。



• 設定した期間を過ぎると点検整備情報インジケーターが橙色に変わります。



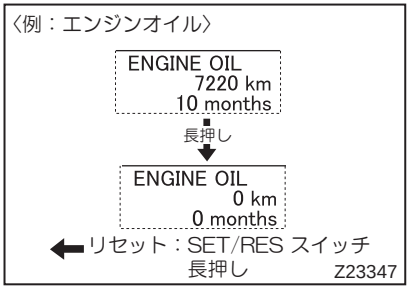
● **点検整備情報のリセット**

各オイル，各フィルターやエンジン冷却水を交換したときは次のように点検整備情報をリセットします。

①MODE スイッチを押し，点検整備情報画面にします。

②SELECT スイッチを押してリセットする項目にします。

③SET/RES スイッチを長押し(1 秒以上)するとリセットします。



知識

各オイル，各フィルターやエンジン冷却水を交換したときは点検整備情報をリセットしてください。

3.6 照明輝度（明るさ調整）

● 照明輝度の切り替え及び調整

● 次の項目の明るさを調整することができます。

• “DISP（DAY）” または “DISP（NIGHT）” を表示しているとき

a. マルチインフォメーションディスプレイ

• “GAUGE(DAY)” または “GAUGE(NIGHT)” を表示しているとき

b. 尿素水レベルインジケーター

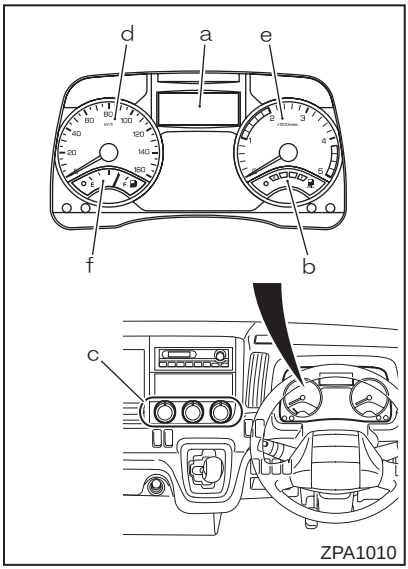
• “GAUGE（NIGHT）” を表示しているとき

c. エアコンコントロールパネルのイルミネーション

d. スピードメーター

e. タコメーター

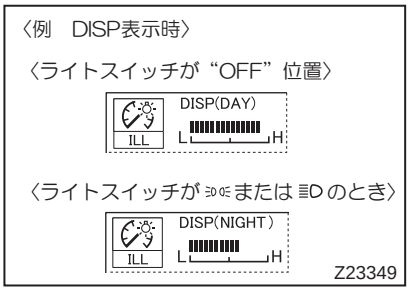
f. 燃料計の目盛り（ライトスイッチが ≡D◇ または ≣D の位置のとき）



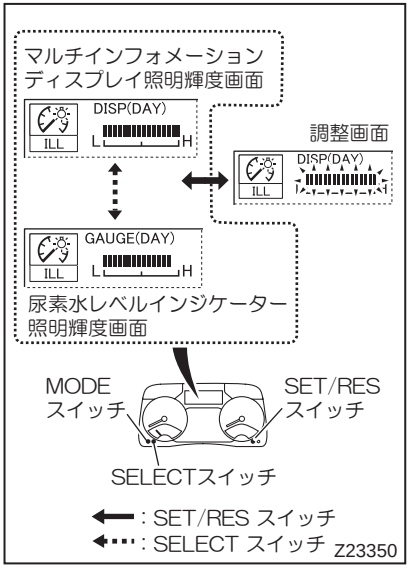
● ライトスイッチが “OFF” 位置のときと ≡D◇ または ≣D のときで輝度画面と調整画面内容が異なります。

• ライトスイッチが “OFF” 位置のとき，マルチインフォメーションディスプレイに “DISP（DAY）” または “GAUGE（DAY）” が表示され，照明が無いとき（昼間）の明るさが調整できます。

• ライトスイッチが ≡D◇ または ≣D のとき，ディスプレイに “DISP(NIGHT)” または “GAUGE(NIGHT)” が表示され，照明があるとき（夜間）の明るさが調整できます。

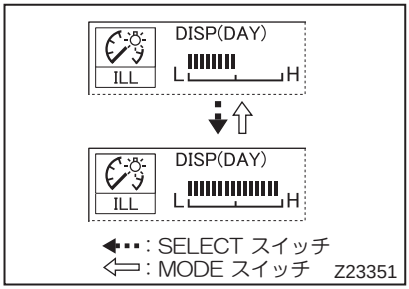


①MODE スイッチを押し，照明輝度画面にします。
②SELECT スイッチを押すと “DISP(DAY)” と “GAUGE（DAY）” を切り替えることができます。ライトスイッチが ≡D or ≡D のとき，“DISP(NIGHT)” と “GAUGE(NIGHT)” を切り替えることができます。
③調整するときは，調整したい画面表示で SET/RES スイッチを押します。



④MODE スイッチまたは SELECT スイッチで明るさを調節します。
- MODE スイッチを押すと暗くなります。
- SELECT スイッチを押すと明るくなります。

⑤明るさ調整後，SET/RES スイッチを押すと照明輝度表示に戻ります。



ウォーニング表示，インジケーター表示

次の状態のときにマルチインフォメーションディスプレイにウォーニング表示やインジケーター表示します。

- 装置に異常が発生したとき
- 装置を作動させたとき
- 点検整備の時期が近づいたとき

1. 表示について

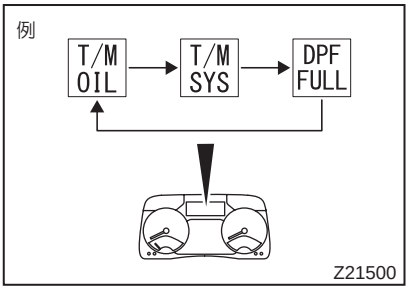
1.1 表示色について

ウォーニング表示及びインジケーター表示には次の種類があり，警告内容や指示内容が異なります。

- 赤色
- 橙色
- 緑色
- 黒色

1.2 複数表示があるとき

複数ウォーニング表示が出たときは，3 秒間隔ごとに表示を切り替えて交互に表示します。



2. ウォーニング，インジケーター表示の内容

2.1　赤色表示及び橙色表示

⚠ 警告

赤色の表示が出たときは，直ちに安全な場所に停車して，処置を行ってください。そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

橙色の表示が出たときは故障や機能の低下などが起きています。
走行するときは十分注意し，早めに処置を行ってください。

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
ENG SYS（赤色）	エンジン制御ウォーニング表示	点灯	エンジン出力を制限しているときに点灯	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • スタータースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にし，エンジンを再始動します • 表示が消えれば異常ではありません • 表示が消えないときはエンジンを停止し，日産販売会社に連絡してください	—

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
ENG SYS （橙色）	エンジン制御ウォーニング表示	点灯	エンジンの点検が必要なときに点灯	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • スタースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にし，エンジンを再始動します • 表示が消えれば異常ではありません • 表示が消えないときは，日産販売会社で点検をお受けください	—
T/M OIL	トランスミッション油温ウォーニング表示＊	点灯	クラッチオイルの温度が高すぎ（このときはブザーが3 回鳴ります）	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ギヤシフトレバーを “P” 位置にし，エンジンをアイドリングよりやや高めで回しながらオイルを冷やします • 表示が消灯すれば走行できます。消灯しないときは日産販売会社に連絡してください	7-57

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
T/M OIL	トランスミッション油温ウォーニング表示＊	点灯	クラッチ温度が高すぎ（このときはブザーが鳴り続けます）※	• 半クラッチを多用したため，クラッチがオーバーヒートしています • マニュアルモードで通常より低いギヤ段を選択し，発進してください • それでも表示が消えないときは，安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンをアイドリングよりやや高めで回しながらクラッチを冷やします • 表示が消え，ブザーも鳴り止めば走行できます。表示が消えない，またはブザーが鳴り止まないときは日産販売会社に連絡してください	7-57

※：次の操作などを行うと半クラッチを多用することになり，クラッチ温度が上昇します。

- 登坂路でアクセル操作のみで停車する操作や長時間の微速操作を行ったとき
- 停車時にギヤシフトレバーを“D”位置または，“R”位置にし，フートブレーキまたは駐車ブレーキを効かせた状態で，アクセルペダルを踏み込む操作を行ったとき
- 大きな段差や縁石を乗り越えるときに微速操作を繰り返し行ったとき

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
T/M SYS（赤色）	トランスミッション制御ウォーニング表示＊	点灯	ＤＵＯＮＩＣ 2.0 の故障	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンを停止します • 再度スタータースイッチを“ON”位置にし，表示が消えないときは走行しないで直ちに日産販売会社に連絡してください	7-55

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
T/M SYS（橙色）	トランスミッション制御ウォーニング表示＊	点灯	DUONIC 2.0 の故障（自動変速または手動変速が可能）	• オートモードで自動変速が可能なときはそのまま走行できますが，速やかに日産販売会社で点検をお受けください • オートモードで自動変速しないときは安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンを停止します • 再度スタータースイッチを“ON”位置にし，表示が消えないときは，ギヤシフトレバーを操作しマニュアルモードで変速し走行できますが速やかに日産販売会社で点検をお受けください • 変速できないときは走行できません。日産販売会社に連絡してください	7-56
CAB TILT	キャブチルトウォーニング表示＊	点灯	キャブチルトのロック不完全（車速が5km/h 以上になるとブザーがなります）	キャブチルトをやり直してください。ランプが消灯しないときは走行しないで日産販売会社に連絡してください	4-25

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
BAT EQ	バッテリーイコライザーウォーニング表示＊	点灯	メーンバッテリーと架装用バッテリーの電気的バランスが異常となったとき	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • スタータースイッチを“LOCK”位置にしてください • 再度スタータースイッチを“ON”位置にし，表示が消えないときは直ちに日産販売会社で点検をお受けください • 表示が消えれば異常ではありません	—
SAM （赤色）	SAM ウォーニング表示	点灯	SAM の電気制御系統の故障	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • スタータースイッチを“LOCK”位置にしてください • 再度スタータースイッチを“ON”位置にし，表示が消えないときは直ちに日産販売会社に連絡してください • 表示が消えれば異常ではありません	—

知識

SAM とは，キャブ及び架装物の電装品制御と電源分配機能を統合したモジュールです。
SAM は，Signal detect and actuation modules の頭字語です。

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
SAM（橙色）	SAM ウォーニング表示	点灯	SAM の電気制御系統の異常（車外ランプの点検が必要なときに点灯）	• 安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • スタータースイッチを “LOCK” 位置にしてください • 車外ランプに異常がないか確認してください。ランプが切れている場合は，交換してください • 再度スタータースイッチを “ON” 位置にした後，交換したランプを点灯状態にし，表示が消えないときは日産販売会社で点検をお受けください • 表示が消えれば異常ではありません	13-20 16-22
METER	メータークラスターウォーニング表示	点灯	メータークラスターの電気系統の故障	• エンジンを停止します • 再度スタータースイッチを “ON” 位置にし，表示が消えないときは走行しないで直ちに日産販売会社に連絡してください	—

表示マーク	名称	点灯／点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
ENG OIL（橙色）	エンジンオイル量ウォーニング表示	点灯	〈フルタイム4WD車以外〉 • スタータースイッチを“ACC”から“ON”位置にしたときに表示した場合は，エンジンオイル量が減っているとき • エンジンが稼働中に表示したときは，エンジンオイル量の低下，またはエンジンオイル品質が低下しているとき	• 平たんな場所に停車し，エンジンオイル量を点検してください • 点検後，表示が消灯すればそのまま走行できます • 表示が消えないときはエンジンオイルを交換してください	13-12 15-7
			〈フルタイム4WD車〉 エンジンオイルに混入する燃料の量が上限を超えている （DPF内部のススを燃焼除去させるため，燃料の一部がエンジンオイルに混入します）	速やかにエンジンオイルを交換してください	15-7
				さらに混入量が増えるとENG SYS（橙色）と交互に表示します。直ちにエンジンオイルを交換してください	

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
ENG OIL（緑色）	エンジンオイル及びPCV フィルターウォーニング表示	点灯	• 長時間のアイドリング運転を頻繁に行い，PCV（吸気還元）フィルターが詰まりやすくなっているとき • 長い期間エンジンオイルが交換されなかったとき	PCV（吸気還元）フィルターの再生または交換を行います。 フィルターの再生を行ってもウォーニングが消えない場合は，エンジンオイルの交換時期です。エンジンオイルを交換しエンジンコントロールユニットのリセットを行ってください	14-25

知識

PCV フィルターを交換しただけでは ENG OIL（緑色）表示は消えません。エンジンオイルも交換しエンジンコントロールユニットのリセットを行ってください。

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	処置	参照ページ
DPF FULL	DPF 過堆積ウォーニング表示	点灯	DPF 内部のスス堆積量が増大しているとき	速やかに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせ，DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行い，DPF 内部のススを燃焼除去してください	7-130 7-131
AIR BAG	SRS エアバッグウォーニングランプ	点灯	SRSエアバッグの電気系統の異常	走行中に点灯したときは速やかに日産販売会社で点検をお受けください	7-147
WATER SEPR	燃料フィルターウォーニング表示	点灯	燃料フィルター内に水増加	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • 燃料フィルターの水抜きを行ってください	14-23

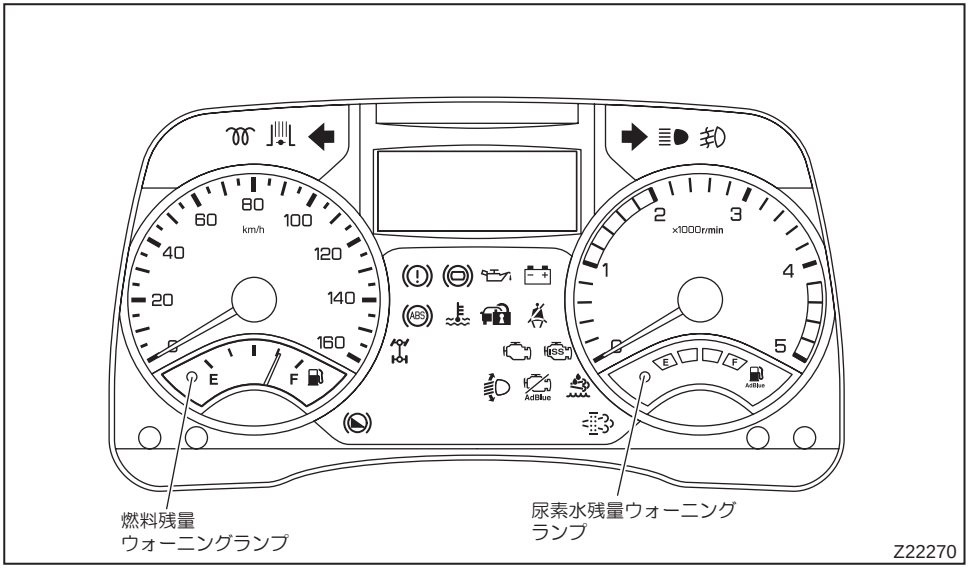
2.2 黒色表示

表示マーク	名称	点灯 / 点滅	点灯または点滅するとき	参照ページ
DUMP	ダンプインジケーター表示＊	点灯	ダンプレバー上昇位置	7-100
PTO	PTO インジケーター表示＊	点灯	〈トランスミッションPTO装着車〉 トランスミッション PTO 接続中に点灯	7-100 7-110
PTO READY	PTO 接続準備インジケーター表示＊	点灯	〈DUONIC 2.0 トランスミッション PTO 装着車〉 トランスミッション PTO 接続準備中に点灯	7-100 7-110
ENG OIL	エンジンオイル交換時期インジケーター表示	点灯	エンジンオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21

表示マーク	名称	点灯／点滅	点灯または点滅するとき	参照ページ
	エンジンオイルフィルター交換時期インジケーター表示	点灯	エンジンオイルフィルター交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	燃料フィルター交換時期インジケーター表示	点灯	燃料フィルター交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	ブレーキ液交換時期インジケーター表示	点灯	ブレーキ液交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	エアクリーナー交換時期インジケーター表示	点灯	エアクリーナー交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	トランスミッションオイル交換時期インジケーター表示	点灯	DUONIC 2.0 搭載車：クラッチオイル及びトランスミッションオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき マニュアルトランスミッション搭載車：トランスミッションオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき 4WD 車：トランスファーギヤオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	ホイールハブベアリンググリース交換時期インジケーター表示	点灯	ホイールハブベアリンググリース交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	デファレンシャルギヤオイル交換時期インジケーター表示	点灯	デファレンシャルギヤオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	パワーステアリングオイル交換時期インジケーター表示	点灯	パワーステアリングオイル交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21
	エンジン冷却水交換時期インジケーター表示	点灯	エンジン冷却水交換時期まで 1,000km または，1 か月を切ったとき	6-21

ウォーニングランプ，インジケーターランプ

各部の異常や装置を作動したときに点灯または点滅します。



⚠ 警告

赤色のウォーニングランプが点灯したときは，直ちに安全な場所に停車して，処置を行ってください。そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。

知識

バッテリーの機能が低下しているときにエンジンを始動すると，異常がなくてもウォーニングランプが点灯することがあります。充電するかバッテリーを新品に交換してください。

表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき	処　置	参照ページ
●	燃料残量ウォーニングランプ	燃料の残量が少なくなったとき	燃料を補給してください	7-25 6-5
(Ⓘ)	ブレーキウォーニングランプ	駐車ブレーキ作動中	—	7-69
		ブレーキ液減少	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ブレーキリザーバータンクのブレーキ液量を点検し，不足しているときは補給してください • ランプが消灯しないときは走行しないで，日産販売会社に連絡してください	13-11 15-24
(Ⓞ)	バキュームウォーニングランプ	バキュームタンク内負圧低下	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車してください。ブレーキの効きが悪くなりますのでブレーキペダルを強く踏み込んでください。駐車ブレーキを確実に効かせます • 停車後，エンジンを中回転にしてランプが消灯するまで待ちます • ランプが消灯しないときやすぐに点灯するときは，走行しないで日産販売会社に連絡してください	—
	オーバーヒートウォーニングランプ	エンジンがオーバーヒートしたとき • ブザーが鳴ります	オーバーヒート時の処置を行ってください	14-29 16-11

表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき	処　置	参照ページ
	充電ウォーニングランプ	充電系統の故障	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます • ファンベルトが切れていないか，ベルトのたわみ量が著しくないか点検してください • 上記点検で異常がないときは，走行しないで日産販売会社に連絡してください	13-15
	油圧ウォーニングランプ	エンジン油圧低下	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車してください • エンジンオイル量を点検し，不足しているときは補給してください • エンジンオイル量が正常なときは，オイル系統の故障です。走行しないで日産販売会社に連絡してください	13-12 15-7
	予熱インジケーターランプ	エンジン予熱装置作動中	—	7-9
	エンジン制御ウォーニングランプ	排気ガス制御システム関連の故障	日産販売会社で点検をお受けください	—

表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき		処　置	参照ページ
	DPF インジケーターランプ	ゆっくり点滅（0.5 秒間隔；橙色）	DPF 内部にスス堆積	点滅を始めてから 50km 走行以内または 1 時間走行以内のどちらか早いうちに DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行ってください	7-130
		速い点滅（0.25秒間隔；橙色）		速やかに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせ，DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行ってください	
		点灯（橙色）	DPF 手動再生中	DPF 手動再生が終了するのを待ってください	
		点灯（緑色）	DPF 自動再生中	—	7-129
	排気後処理装置（尿　素 SCR）ウォーニングランプ	NOxセンサーが異常を検出したとき（点灯したまま，約 300km 走行するとブザーが鳴ります。この状態でエンジンを停止すると，再始動できなくなります）		誤って指定の AdBlue®（尿素水）以外を補給したときは，スタータースイッチを“LOCK”位置にしエンジンを停止した状態で直ちに日産販売会社に連絡し，誤補給した液体の抜き取り及び点検をお受けください	7-135
		排気後処理装置（尿素 SCR）の異常（点灯したまま，約 300km 走行するとブザーが鳴ります。この状態でエンジンを停止すると，再始動できなくなります）		日産販売会社で点検をお受けください	—
		補給した AdBlue®（尿素水）の品質の確認中は点滅		エンジンが再始動できなくなった後，AdBlue®（尿素水）を入れ替えたときに点滅します。 入れ替えた AdBlue®（尿素水）の品質が正常と確認すると点滅は消灯します	7-30 7-31

表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき	処　置	参照ページ
	尿素水品質ウォーニングランプ	NOxセンサーが異常を検出したとき（点灯したまま，約300km走行するとブザーが鳴ります。この状態でエンジンを停止すると，再始動できなくなります）	誤って指定のAdBlue®（尿素水）以外を補給したときは，スタータースイッチを“LOCK”位置にしエンジンを停止した状態で直ちに日産販売会社に連絡し，誤補給した液体の抜き取り及び点検をお受けください	7-135
		尿素水タンクが空のとき（点灯と同時にブザーが鳴ります。この状態でエンジンを停止すると，再始動できなくなります）	AdBlue®（尿素水）を補給できることを確認後，スタータースイッチを“LOCK”位置にしエンジンを停止した状態で直ちにAdBlue®（尿素水）を補給してください	7-134
		エンジンが再始動できなくなった状態で補給または入れ替えをしたAdBlue®（尿素水）の品質の確認中は点滅	エンジンが再始動できなくなった後，AdBlue®（尿素水）を入れ替えたときに点滅します。 入れ替えたAdBlue®（尿素水）の品質が正常と確認すると点滅は消灯します	7-30 7-31
●	尿素水残量ウォーニングランプ	AdBlue®（尿素水）が少なくなったとき	AdBlue®（尿素水）を補給してください	7-134
	ヘッドランプインジケーターランプ	ヘッドランプ上向き点灯中	—	7-88
	方向指示灯インジケーターランプ	方向指示灯または非常点滅灯点滅中	—	7-88 7-89
	排気ブレーキインジケーターランプ	排気ブレーキ作動中	—	7-5 7-34
		暖機システム作動中		
	シートベルトウォーニングランプ	運転席側シートベルト未装着	運転席側シートベルトを装着してください	5-12

表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき		処　置	参照ページ
	ヘッドランプレベリングウォーニングランプ＊	ヘッドランプオートレベライザーシステムの故障		• ヘッドランプオートレベライザーシステムは作動しません • 日産販売会社で点検をお受けください	7-92
	アイドリングストップシステムインジケーターランプ＊	アイドリングストップシステム作動中	早い点滅（0.5 秒点灯）	エンジン自動停止準備中	7-18
			遅い点滅（2 秒点灯）	エンジン自動停止中	
			点灯 • ブザーが鳴ります	• エンジン自動始動解除（エンジン自動停止中にドアを開けたとき） • ブザーは駐車ブレーキを効かせれば鳴り止みます	
			点灯	システムの異常です アイドリングストップシステムスイッチを“OFF”にし，日産販売会社で点検をお受けください	
		ヒルスタートアシスト機能が異常〈DUONIC 2.0 搭載車〉		• 安全な場所に停車してください • ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押し，日産販売会社で点検をお受けください	7-81
	フォグランプインジケーターランプ＊	フォグランプ点灯中		—	7-89
（緑色）	EZGO（イージーゴー）インジケーターランプ＊	EZGO（イージーゴー）作動中		—	7-71
	ヒルスタートアシスト機能インジケーターランプ＊	ヒルスタートアシスト機能作動中		—	7-81

表示マーク	名　　称	点灯または点滅するとき	処　　置	参照ページ
（橙色）	EZGO（イージーゴー）ウォーニングランプ＊	EZGO（イージーゴー）の異常	• 安全な場所に停車してください • EZGO（イージーゴー）　メーンスイッチを“OFF”にし日産販売会社で点検をお受けください	7-71
	ヒルスタートアシスト機能ウォーニングランプ＊	ヒルスタートアシスト機能の異常	• 安全な場所に停車してください • ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押し，日産販売会社で点検をお受けください	7-81
	作業用補助制動装置ウォーニングランプ＊	作業用補助制動装置の異常	• 安全な場所に停車してください • 作業用補助制動装置の作動スイッチを“⇧”方向にし，作業用補助制動装置の使用を中止し，日産販売会社で点検をお受けください	7-119
(ABS)	ABS ウォーニングランプ	ABS システムの故障	• 走行中に点灯したときは直ちに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせてください • エンジンを停止し，再始動します • 走行してランプが消灯すれば正常です • ランプが消灯しないときや，消灯してもしばらくすると点灯するときは日産販売会社で点検をお受けください	7-151
	4WD インジケーターランプ＊	4輪駆動(4WD)走行時	—	7-58

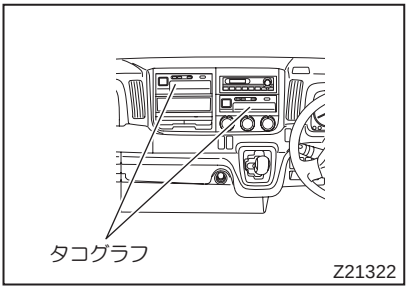
表示マーク	名　称	点灯または点滅するとき	処　置	参照ページ
	エンジンイモビライザーウォーニングランプ	• エンジンイモビライザー用スターターキーの通信不良 • エンジンイモビライザーの故障	• エンジンが始動できないときは，エンジンイモビライザー用スターターキーに金属や他のキーが接触していないか点検します 接触しているときは金属や他のキーを取り除いてからスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にし，エンジンを再始動します • エンジンが始動でき，ランプが消灯すれば故障ではありません • エンジンが始動できず，ランプが消灯しないときは他の登録済みスターターキーで始動できるか確認します。そのキーでも始動できないときは，日産販売会社にご連絡してください	4-3
			• エンジンが始動できるときは，スタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にし，エンジンを再始動します • ランプが消灯すれば故障ではありません • ランプが消灯しないときは日産販売会社で点検をお受けください	

次のランプはスタータースイッチを “ACC” 位置から “ON” 位置にしたとき点灯しますがその後消灯すれば正常です。

表示マーク	名　　称	ランプ消灯状態
	ブレーキウォーニングランプ	エンジンを始動すると消灯 （駐車ブレーキ作動時は点灯のまま）
	バキュームウォーニングランプ	エンジンを始動すると消灯
	充電ウォーニングランプ	エンジンを始動すると消灯
	油圧ウォーニングランプ	エンジンを始動すると消灯
	エンジン制御ウォーニングランプ	エンジンを始動すると消灯
	ABS ウォーニングランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	シートベルトウォーニングランプ	運転席側シートベルトを装着すると消灯
	ヘッドランプレベリングウォーニングランプ＊	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	エンジンイモビライザーウォーニングランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	尿素水品質ウォーニングランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	排気後処理装置（尿素 SCR）ウォーニングランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
●	尿素水残量ウォーニングランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	尿素水レベルインジケーターランプ	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
 （橙色）	EZGO（イージーゴー） ウォーニングランプ＊	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯
	ヒルスタートアシスト機能ウォーニングランプ＊	スタータースイッチ “ON” 後，数秒後に消灯

タコグラフ＊

- 車速や走行距離など運行状態を記録します。
  車の仕様により装着個所が異なります。
- タコグラフの取扱いについては別冊の「タコグラフ取扱説明書」をごらんください。



7章 運転装置，スイッチの取扱い

エンジン始動，停止装置
スタータースイッチ…… 7-3
暖機スイッチ…… 7-5
アイドリング調整ボタン＊ …… 7-6
エンジンの始動…… 7-7
暖機運転…… 7-11
エンジンの停止…… 7-15
アイドリングストップシステム＊ …… 7-17
燃料，AdBlue®（尿素水）
燃料の補給…… 7-25
AdBlue®（尿素水）の補給 …… 7-27
運転装置
ペダル類…… 7-33
排気ブレーキスイッチ…… 7-34
ギヤシフトレバー…… 7-36
DUONIC 2.0 ＊ …… 7-37
パートタイム 4WD 車＊ …… 7-58
フルタイム 4WD 車＊ …… 7-67
駐車ブレーキレバー…… 7-69
EZGO（坂道発進補助装置）＊ …… 7-71
ヒルスタートアシスト機能
〈DUONIC 2.0 搭載車〉…… 7-81
照明装置
ライトスイッチ…… 7-87
パッシング，ディマースイッチ…… 7-88
方向指示スイッチ…… 7-88
非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ…… 7-89
フォグランプスイッチ＊ …… 7-89
ヘッドランプレベライザースイッチ＊ …… 7-90
ヘッドランプオートレベライザーシステム＊ …… 7-91
ワイパー，ミラー，ホーン
ワイパースイッチ…… 7-92
ウォッシャースイッチ…… 7-93
ミラー…… 7-94
ホーンスイッチ…… 7-99

特殊装置
ダンプトラック＊ ····· 7-100
トランスミッション PTO ＊ ····· 7-110
LSD（リミテッドスリップデフ）＊ ····· 7-117
作業用補助制動装置＊ ····· 7-118
環境，安全装備
排気処理システム ····· 7-123
SRS エアバッグ ····· 7-137
ABS（アンチロックブレーキシステム）····· 7-148

スタータースイッチ

スターターキーはスタータースイッチの奥まで確実に差し込んでから回します。スターターキーが回しにくいときは，ハンドルを軽く左右に回しながら行います。

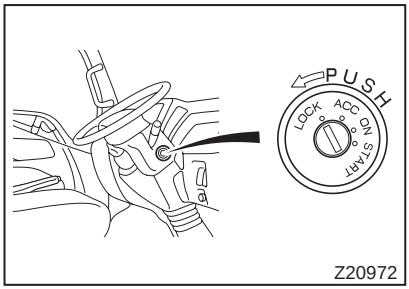
⚠ 警告

- スタータースイッチは走行中 “ON” 位置以外に操作しないでください。“ACC” 位置にするとエンジンが停止しハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。
- スターターキーは走行中，抜き取らないでください。ハンドルが固定され重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンが回転しているときは，スタータースイッチを “START” 位置に回さないでください。スターターが破損するおそれがあります。
- エンジンを止めたときはスターターキーを抜き取ってください。“LOCK”，“ON” や “ACC” 位置のまま放置するとバッテリーあがりを起こし，エンジンが始動できなくなるおそれがあります。
- エンジンを止めたままラジオ，CD プレーヤー等を長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

1. スタータースイッチポジション



●LOCK（ロック）
- スターターキーを抜き差しする位置です。
- 非常点滅灯（ハザードランプ），ターンシグナルランプ，ルームランプ，けい光灯＊が使用できます。
- スターターキーを抜き取るときは，“ACC” 位置でキーを押し込みながら“LOCK”位置まで回します。
- DUONIC　2.0 搭載車は，ギヤシフトレバーが“P” 位置のとき，スターターキーを抜き取れます。
- スターターキーを抜き取り，ハンドルを回すとハンドルがロックされます。

●ACC（アクセサリー）
- エンジンを止める位置です。
- オーディオ，シガーライター＊，電源ソケット＊も使用できるようになります。

●ON（オン）
- エンジン回転の位置です。
- すべての電気回路が作動します。

> **知識**
>
> フルタイム 4WD 車以外はスターターキーが “ON” 位置にあるとき，エンジンオイル量の点検をすることができます。13-12 ページをごらんください。

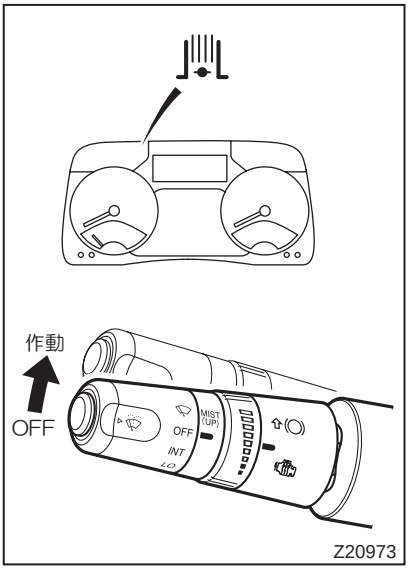
●START（スタート）
- エンジンを始動する位置です。
- エンジンが始動したら，スターターキーから手を離します。自動的に “ON” 位置に戻ります。

2. スターターキー抜き忘れ警報

エンジンを止め，スターターキーを差したままドアを開けると，ブザーが鳴ります。
スターターキーを抜き取り，持って降りてください。

暖機スイッチ

- 暖機運転を早く終了したいときや，駐車中の暖房の効きを高めたいときに使用します。
  スイッチを作動位置にすると暖機システムが作動しエンジンの冷却水が早く暖まり，暖房の効きもよくなります。同時に インジケーターランプが点灯します。
- 暖機システムはエンジン冷却水温が規定の温度に達すると自動で解除します。
  同時に インジケーターランプが消灯します。
  暖機運転終了後はスイッチを “OFF” にします。



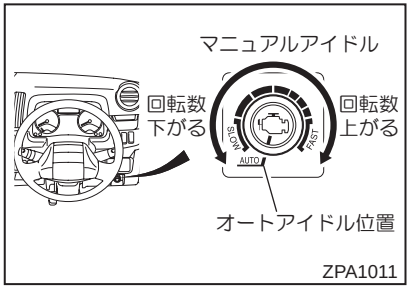
アドバイス

走行するときは必ずスイッチを “OFF” にし暖機システムを解除してください。“ON” のまま走行すると補助ブレーキ（排気ブレーキ）が作動します。

知識

- 暖機スイッチを作動位置にし，暖機システムが作動するとエンジンのアイドリング回転数が自動的に上がり，また排気ブレーキが作動するためエンジン冷却水が早く暖まります。
- 暖機スイッチを “ON” にするときは，アイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にしてください。アイドリング調整ボタンが “AUTO” 位置以外では，暖機システムが作動しない場合があります。

アイドリング調整ボタン＊



● **オートアイドル**

走行時やエンジン始動時に使用します。ノブを左に回し“AUTO” 位置にします。

エンジンアイドリング回転数 （オートアイドル，暖機運転終了後）
約 650rpm

● **マニュアルアイドル**

アイドリング回転数を手動で調整したいときに使用します。

“SLOW”と“FAST”間でアイドリング回転数の調整ができます。ノブを“SLOW”側に回すと回転数が下がります。“FAST” 側に回すと回転数が上がります。

走行するときはノブを “AUTO” 位置にします。

アドバイス

走行するときはアイドリング調整ボタンをオートアイドルにしてください。アイドリング調整ボタンでエンジン回転を上げておくと，急発進やマニュアルトランスミッション搭載車はクラッチ摩耗の原因になります。

知識

- 寒冷時のエンジン始動直後アイドリング回転数が上がることがあります。（アイドリング調整ボタン装着車はオートアイドル時に上がります）アイドリング回転数は冷却水温が上がると適切な回転まで下がります。
- DPF 自動再生中はアイドリング回転数が上がります。（約 800 回転）

エンジンの始動

⚠ 警告

- 換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- エンジンを始動するときは必ず運転席に適切な姿勢で座って行ってください。ドア窓越しや不適切な座り方で始動し，万一急発進したとき重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 排気管付近に枯れ草，紙くずなど燃えやすい物がある所での暖機運転あるいはエンジンをかけたままの停車はしないでください。排気管やマフラー付近が高温になるため，燃えやすい物が触れると火災を起こすおそれがあります。
- DUONIC 2.0搭載車のエンジンの始動はギヤシフトレバーが“P”位置と“N”位置のときできますが，安全のため“P”位置で行ってください。“N”位置でのエンジンの始動は踏切でのエンジン停止など緊急を要するときだけにしてください。

アドバイス

- スターターは 15 秒以上回さないでください。スターターが故障したり，バッテリーあがりの原因になります。
- スターターを 10 秒回し続けてもエンジンが始動しないときは，バッテリー機能回復のため一旦スタースイッチを“ACC”位置に戻し，30 秒後再び始動操作を行ってください。
- スタースイッチを短い間隔で，何度も“START”位置にしないでください。スターター及びエンジンの破損や不調の原因になります。3 秒以上間隔を空けてから操作してください。
- 12 か月ごとにスターターの状態点検を行ってください。スターターの状態点検は日産販売会社に申し付けください。
- フルタイム4WD車以外はスタースイッチを3秒以上“ON”位置にしたときに ENG OIL（橙色）が表示した場合は，必ずエンジンオイル量を点検し，オイル量が減っているときはエンジンオイルを交換してください。
  エンジンオイル量の点検は 13-12 ページをごらんください。

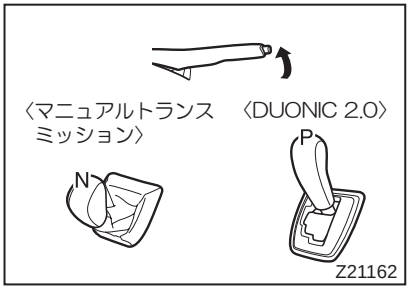
知識

スタータースイッチを “ACC” から “ON” 位置にしたとき排気後処理装置（尿素SCR）のブザー（ピーッ , ピーッ）が約 3 秒間鳴りますが，異常ではありません。

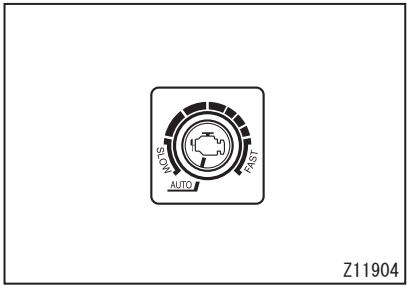
1. エンジンを始動する前に

①次の確認をします。

- 駐車ブレーキが確実に効いていること。
- マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーがニュートラル位置であること。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーが “P” 位置であること。



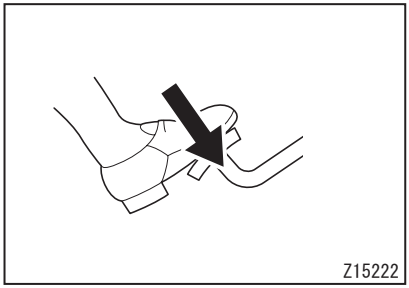
- アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンがオートアイドルであること。



②ブレーキペダルを踏み込みます。

⚠ 注意

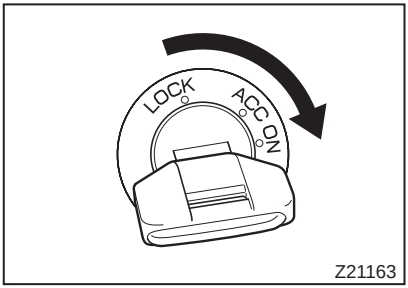
安全のためブレーキペダルはエンジンが始動するまで踏み込んだままにしてください。



2. エンジン始動

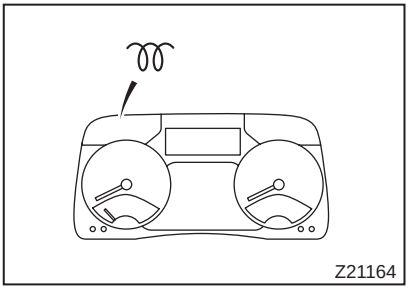
DUONIC 2.0 搭載車のエンジン始動は 7-43 ページをごらんください。

①スタータースイッチを “ON” 位置にします。

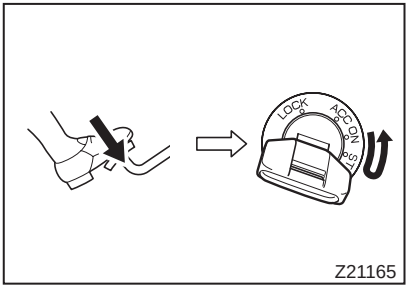


Z21163

② ᨒ インジケーターランプを確認します。


Z21164

- ᨒ **インジケーターランプが点灯しないとき**
  クラッチペダルを踏み込み，スタータースイッチを “START” 位置にし始動します。
- ᨒ **インジケーターランプが点灯したとき**
  消灯するまで待ちます。消灯後クラッチペダルを踏み込みスタータースイッチを “START” 位置にし始動します。



Z21165

③エンジンが始動したらスターターキーから手を離します。すぐに発進操作をしない場合は，ペダルから足を離します。

④エンジンが始動したら１～２分間，暖機運転をします。
7-11 ページをごらんください。

エンジンアイドリング回転数 （オートアイドル，暖機運転終了後）
約 650rpm

知識

- ෆ インジケーターランプ消灯後，エンジンが始動しにくい場合は予熱装置の故障が考えられます。日産販売会社で点検をお受けください。
- 寒冷時のエンジン始動直後アイドリング回転数が上がることがあります。（アイドリング調整ボタン装着車はオートアイドル時に上がります）アイドリング回転数は冷却水温が上がると適切な回転まで下がります。

3. 長時間駐車後の始動

1 週間以上休車後，またはエンジンオイルやオイルフィルターエレメント交換後は次の要領でエンジンを空回しした後，始動してください。

①通常と同様にエンジンを始動しますが，ෆ インジケーターランプの消灯を待つ必要はありません。

②アクセルペダルを踏み込まないでスタータースイッチを“START”位置にし，約 15 秒間エンジンを空回しします。
エンジンが始動したときはスターターキーから手を離し，約 15 秒間アクセルペダルを踏み込まないでください。

アドバイス

長期間駐車しておいた場合はターボチャージャーを保護するために，必ずエンジンを空回ししてから始動してください。

4. キャブチルト時のエンジン始動

点検，手入れなどのとき，キャブをチルトしたまま始動するときは，次の要領で行ってください。

①駐車ブレーキを確実に効かせ，タイヤに輪止めをかけます。

②マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認します。
DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーが“P”位置であることを確認します。

③エンジンルーム付近に人がいないことを確認し,スタータースイッチを“START”位置にしてエンジンを始動します。

暖機運転

1～2 分間，暖機運転を行った後走行してください。
暖機運転を行わないと，次のような不具合があります。

- 始動直後とくに寒冷地ではエンジンが冷えているため，燃料の着火が悪くノッキングを起こしやすくなります。
- エンジンオイルが各部に十分いきわたらない状態で走行したり空ぶかしするとシリンダーやピストンが摩耗し，エンジン故障の原因になります。
- ターボチャージャーの回転軸にエンジンオイルが十分にいきわたらないうちにターボチャージャーが高回転になり故障の原因になります。
- DUONIC 2.0 搭載車は暖機が十分でないと変速に時間がかかる場合があります。

⚠ 警告

換気の悪い車庫などでは暖機運転を行わないでください。とくに車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

⚠ 注意

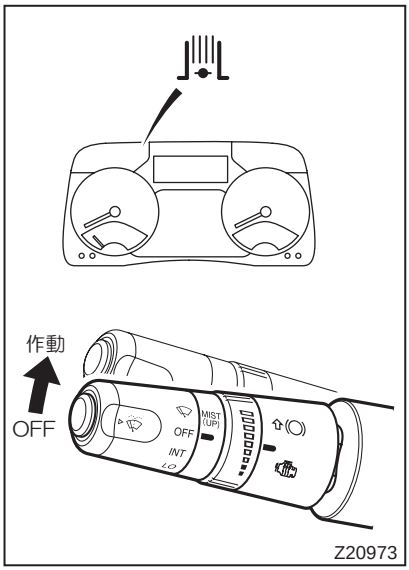
枯れ草，紙くずなど燃えやすい物がある場所での暖機運転はしないでください。
排気管やマフラー付近が高温になるため燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。

知識

- マフラーに内蔵されている酸化触媒の特性上，次の状態になることがありますが，異常ではありません。
  - 長時間のアイドリング運転後の発進や加速時に排気管から白煙が出ることがあります。
  - エンジン始動時や寒冷時で始動直後の発進時に排気管から白煙が出ることがあります。
  - 排気ガスの刺激臭（すっぱいような臭い）がすることがあります。
- 寒冷時のエンジン始動直後アイドリング回転数が上がることがあります。アイドリング回転数は冷却水温が上がると適切な回転まで下がります。
  アイドリング調整ボタン装着車はボタンがオート位置のときにアイドリング回転が上がります。

1．アイドリング調整ボタン未装着車

①暖機運転を早く終了させたいときは暖機スイッチを作動位置にします。同時に インジケーターランプが点灯し必要に応じ自動でエンジン回転数が上がります。



②1～2分間，暖機運転します。

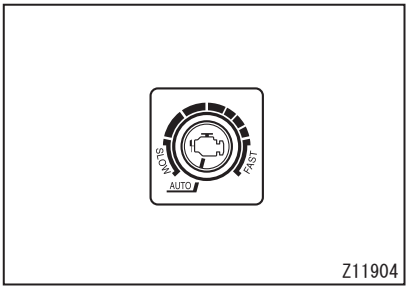
③冷却水温が上がるとアイドリング回転が適切な回転まで下がります。
暖機スイッチを使用したときは，冷却水温が上がると インジケーターランプが消灯します。スイッチを “OFF” にしてください。

2. アイドリング調整ボタン装着車

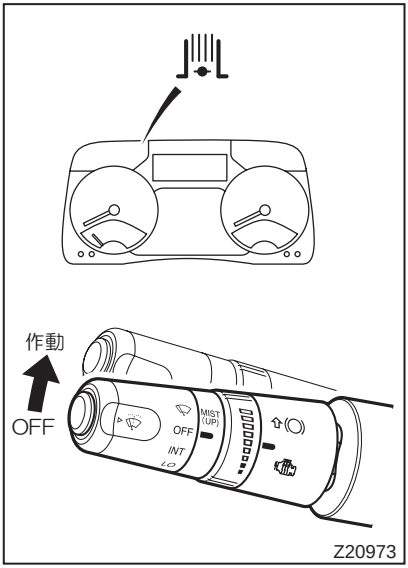
2.1 オートアイドル（AUTO）

通常アイドリング調整ボタンは “AUTO” 位置で使用します。

①アイドリング調整ボタンが “AUTO” 位置になっているか確認します。



②暖機運転を早く終了させたいときは暖機スイッチを作動位置にします。同時に インジケーターランプが点灯し必要に応じ自動でエンジン回転数が上がります。



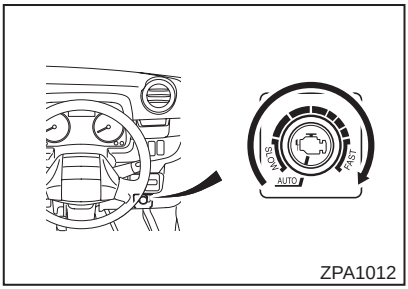
③1 ～ 2 分間，暖機運転します。

④冷却水温が上がるとアイドリング回転が適切な回転まで下がります。
暖機スイッチを使用したときは，冷却水温が上がると インジケーターランプが消灯します。スイッチを “OFF” にしてください。

2.2　マニュアルアイドル

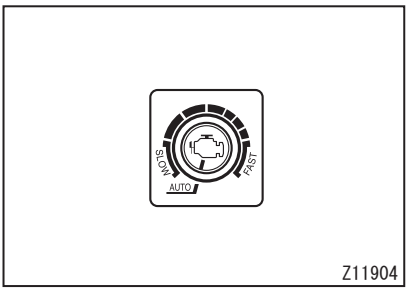
通常アイドリング調整ボタンは“AUTO”位置で使用しますがマニュアルアイドルでも使用できます。“SLOW”（低い）から“FAST”（高い）間で調整できます。

①アイドリング調整ボタンを “FAST” 側に回し，エンジン回転が安定するできるだけ低い回転に調整します。



②1 ～ 2 分間，暖機運転します。

③暖機運転が終了したらアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にします。



エンジンの停止

⚠ 警告

スタータースイッチは走行中 “ON” 位置以外に操作しないでください。“ACC” 位置にするとエンジンが停止しハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。

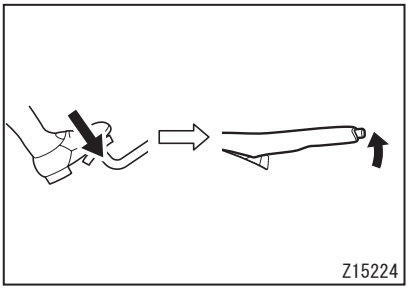
⚠ 注意

- 枯れ草や紙くずなど燃えやすい物がある場所には車を止めないでください。走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっているため燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。
- 停車した状態でハンドルをいっぱいに切ったままエンジンを停止しないでください。パワーステアリング装置の油圧が低下しハンドルが急に戻されケガをするおそれがあります。

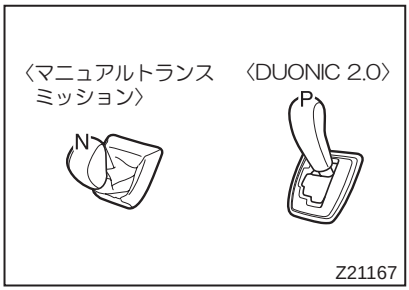
アドバイス

- エンジンの停止はアイドリング時に行ってください。高回転のまま止めるとエンジン故障の原因になります。
- 登坂や高速道路走行直後にエンジンを止めると，ターボチャージャーの回転軸に供給されているエンジンオイルが異常高温となり回転軸が焼付くおそれがあります。すぐに止めないで必ず３分以上アイドリング運転を行い冷却してください。

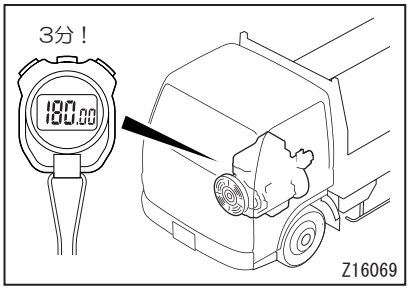
①ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキを効かせます。



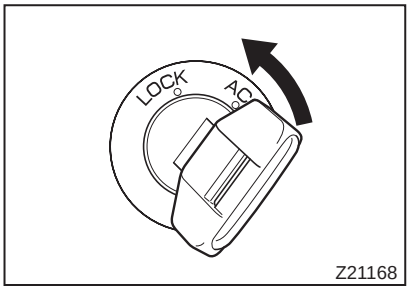
②マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。
DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを“P”位置にします。ギヤポジションインジケーターに“P”が表示されているか確認します。



③約3分間アイドリング運転を行い，エンジンを冷却します。
とくに，上り坂や高速道路走行後は，エンジン各部が高温になっていますので，3 分間以上アイドリング運転を行い冷却します。



④スタータースイッチを“ACC”位置にしエンジンを止めます。



⑤車から離れるときはスターターキーを抜き取りドアを施錠します。

アイドリングストップシステム＊

アイドリングストップシステムは，停車時にエンジンを自動停止，発進時に自動始動することで燃費の向上，排出ガスの低減を目的としたシステムです。

⚠ 警告

エンジンが自動停止した状態で，下り坂での慣性走行はしないでください。
ハンドル操作が重くなりブレーキの効きが極端に悪くなるため，重大な事故につながるおそれがあります。

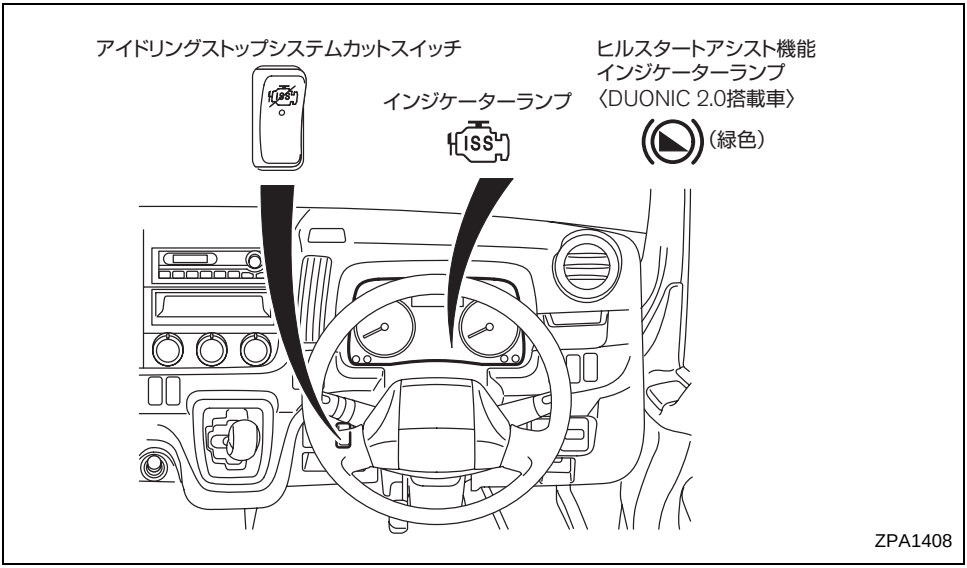
⚠ 注意

- エンジン自動停止中は，ブレーキペダルを必ず踏んでおいてください。車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転席を離れるときは，スタータースイッチを “LOCK” 位置にし，駐車ブレーキを確実に効かせてください。車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- マグネットクレーン周辺等磁界の強い場所ではアイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止してください。システムが誤作動を起こし，思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 車を点検するときは，アイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止してください。点検中にシステムが作動すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

長時間エンジンを停止するときは，バッテリー機能低下防止のため必ずスタータースイッチを “LOCK” 位置にしてください。

1. 装置



● **アイドリングストップシステムカットスイッチ**
アイドリングストップシステムの機能を停止するスイッチです。

● **インジケーターランプ**
アイドリングストップシステムが作動しているときは点滅または点灯します。連続点灯しているときはアイドリングストップシステムの異常です。
インジケーターランプの点滅及び点灯の状態はアイドリングストップシステムの作動状態により次のようになります。

作動状態	インジケーターランプ
エンジン自動停止準備中	早い点滅（0.5 秒点灯）
エンジン自動停止中	遅い点滅（2 秒点灯）
• エンジン自動始動解除時（エンジン自動停止中に運転席側または助手席側のドアを開けたとき） • アイドリングストップシステム異常時	点灯

● **インジケーターランプ（緑色）〈DUONIC 2.0 搭載車〉**
ヒルスタートアシスト機能が作動しているときに点灯します。

2. 操作

2.1 アイドリングストップシステムが作動しないとき

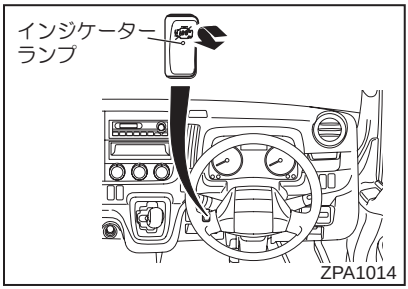
- アイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止しているとき
- PTO ＊を使用しているとき
- 作業用補助制動装置＊を使用しているとき
- バッテリの充電量が不十分なとき
- 冷却水温インジケーターが 4 目盛り以下または 9 目盛り以上のとき
- キャブを上げているとき
- ISS インジケーターランプが点灯しているとき
- DPF 自動再生中または手動再生中
- 運転席側ドアまたは助手席側ドアを開けているとき
- 方向指示スイッチを作動させているときまたは，非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチを押しているとき（DUONIC 2.0 装着車）
- 架装物によりアイドリングストップシステム作動禁止の要求信号が出されたとき

知識

冷却水温が上昇し安定しても，エンジン ECU が空気流量の計測，処理をするとき，一時的にアイドリングストップシステムの機能を停止することがあります。

2.2 カットスイッチ

アイドリングストップシステムカットスイッチを押すとアイドリングストップシステムの機能は停止します。アイドリングストップシステムの機能停止を解除するときはもう一度押します。
アイドリングストップシステムの機能停止中はスイッチのインジケーターランプが点灯します。



知識

アイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止しても，スタータースイッチを一度“LOCK”位置にすると自動的にアイドリングストップシステムが作動可能な状態になります。

2.3　DUONIC 2.0 搭載車

2.3.1　エンジン自動停止

⚠ 注意

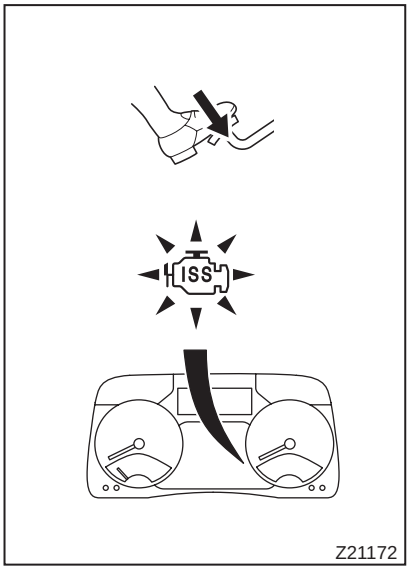
- 停車した状態でハンドルをいっぱいに切ったままエンジンを自動停止しないでください。パワーステアリング装置の油圧が低下しハンドルが急に戻されケガをするおそれがあります。
- エンジン自動停止時はブレーキをしっかり踏み，確実に停車していることを確認してください。また，坂道では必ず駐車ブレーキを使用し確実な停車をしてください。ブレーキカが不足している場合，車両が動きだし思わぬ事故につながるおそれがあります。

車速を一度 10km/h 以上にするとアイドリングストップシステムが作動します。

①ブレーキペダルをしっかり踏み込み，停車します。
停車し，数秒後に ISS インジケーターランプが早く点滅し，遅い点滅に変わるとエンジンが自動停止します。

②エンジン自動停止中は，ブレーキペダルを踏んでおきます。
自動停止中は ISS インジケーターランプが遅い点滅（2 秒点灯）をします。

③坂道では必ず駐車ブレーキを使用し確実に停車します。



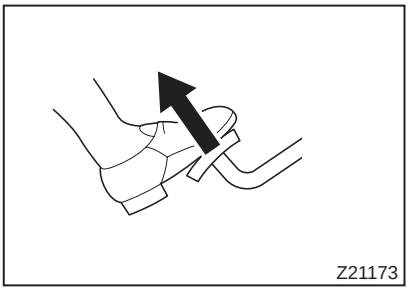
知識

- 停車時，及びエンジン自動停止中にギヤシフトレバーを “D” 位置のままにしておくと，発進時にブレーキペダルから足を離してもクリープ現象が発生するまでの数秒間，ブレーキカを保持する機能があります。
- エンジン自動停止操作完了前に運転席側または助手席側のドアを開けると，エンジンは自動停止しません。エンジンを自動停止させたいときはドアを閉めてください。
- ヘッドランプ（下向き），フォグランプ＊点灯中にアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止すると，ヘッドランプ（下向き），フォグランプ＊を自動消灯します。エンジンが自動始動するとランプは自動点灯します。
- エアコンはアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止後，送風ファンを 1 分間作動します。
  エンジンが自動停止している時間が長く，エアコンを作動したいときはアイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止してからギヤシフトレバーを “P” 位置にし，スタータースイッチでエンジンを始動してください。

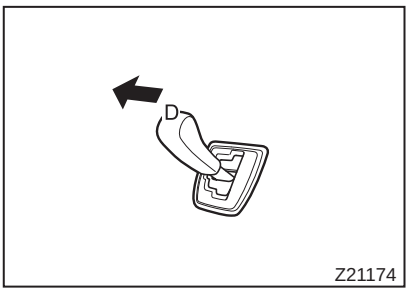
2.3.2　エンジン自動始動

①ブレーキペダルをしっかり踏み込んでおきます。

②ギヤシフトレバーが “D” 位置または “N” 位置のときブレーキペダルから足を離すとエンジンが自動始動します。同時に インジケーターランプが消灯します。


Z21173

- エンジン自動停止中にギヤシフトレバーを “N” または “P” 位置にしたときは，ブレーキペダルを踏んだまま “D” または “R” 位置にするとエンジンが自動始動します。
  ギヤシフトレバーが “D” 位置のとき，ブレーキペダルを踏んだまま，ギヤシフトレバーを “A/M” 位置にするとエンジンが自動始動します。



Z21174

③坂道では必ず駐車ブレーキを使用し発進します。

知識

- エンジンが自動停止中に，駐車ブレーキを効かせないで運転席側または助手席側のドアを開けるとブザーが鳴り警報します。ブザーは駐車ブレーキを効かせれば鳴り止みます。
- エンジンが自動停止中に運転席側または助手席側のドアを開けてシステムが解除された場合は，ギヤシフトレバーを “P” 位置にしてからスタータースイッチでエンジンを始動します。
- ヒルスタートアシスト機能が作動しているときは，アイドリングストップシステムカットスイッチを押し，アイドリングストップシステムの機能を停止したときや，エンジンの自動始動完了後も，(⍉) インジケーターランプ（緑色）は点灯したままでヒルスタートアシスト機能は作動します。

2.4　マニュアルトランスミッション搭載車

2.4.1　エンジン自動停止

⚠ 注意

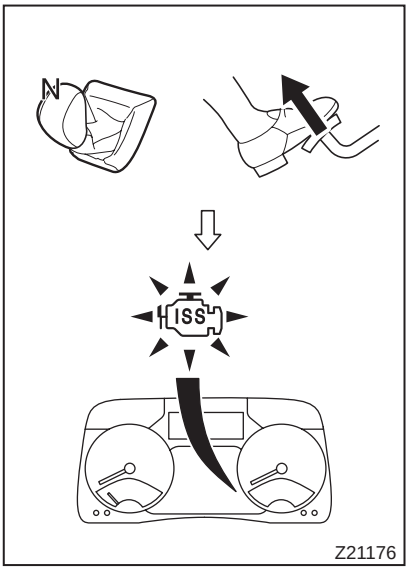
- 停車した状態でハンドルをいっぱいに切ったままエンジンを自動停止しないでください。パワーステアリング装置の油圧が低下しハンドルが急に戻されケガをするおそれがあります。
- エンジン自動停止時はブレーキをしっかり踏み，確実に停車していることを確認してください。また，坂道では必ず駐車ブレーキを使用し確実な停車をしてください。ブレーキカが不足している場合，車両が動きだし思わぬ事故につながる恐れがあります。

車速を一度 10km/h 以上にするとアイドリングストップシステムが作動します。

①ブレーキペダルをしっかり踏み込んで停車し，ギヤシフトレバーをニュートラル位置にしクラッチペダルを離します。ISS インジケーターランプが早く点滅し，遅い点滅に変わるとエンジンが自動停止します。

②エンジン自動停止中は，ブレーキペダルを踏んでおきます。
自動停止中は ISS インジケーターランプが遅い点滅（2 秒点灯）をします。

③坂道では必ず駐車ブレーキを使用し確実に停車します。

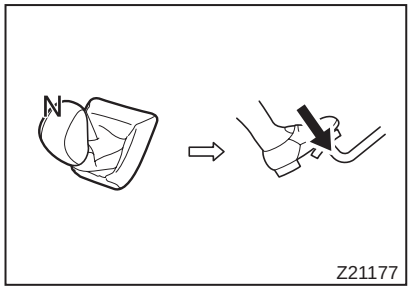


知識

- エンジン自動停止操作完了前に運転席側または助手席側のドアを開けると，エンジンは自動停止しません。エンジンを自動停止させたいときはドアを閉めてください。
- ヘッドランプ（下向き），フォグランプ＊点灯中にアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止すると，ヘッドランプ（下向き），フォグランプ＊を自動消灯します。エンジンが自動始動するとランプは自動点灯します。
- エアコンはアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止後，送風ファンを 1 分間作動します。
  エンジンが自動停止している時間が長く，エアコンを作動したいときはアイドリングストップシステムスイッチを押してアイドリングストップシステムの機能を停止してから，スタータースイッチでエンジンを始動してください。
- EZGO（イージーゴー）＊が作動中に駐車ブレーキを効かせると，EZGO（イージーゴー）は解除します。

2.4.2　エンジン自動始動

①ブレーキペダルをしっかり踏み込んでおきます。
②ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認し，クラッチペダルを踏み込むとエンジンが自動始動します。同時に インジケーターランプが消灯します。
③万一，エンジンが再始動できないときは，ブレーキペダルを踏み込んでおきます。
ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認し，クラッチペダルを踏み込み，スタータースイッチでエンジンを始動します。
④坂道では必ず駐車ブレーキを使用し発進します。



知識

- エンジンが自動停止中に，駐車ブレーキを効かせないで運転席側または助手席側のドアを開けるとブザーが鳴り警報します。ブザーは駐車ブレーキを効かせれば鳴り止みます。
- エンジンが自動停止中に運転席側または助手席側のドアを開けてシステムが解除された場合は，クラッチペダルを踏み込み，スタータースイッチでエンジンを始動します。
- エンストしたときはクラッチペダルを踏み直してもエンジンは自動始動しません。クラッチペダルを踏み込み，スタータースイッチでエンジンを始動してください。
- クラッチペダルを踏み込んだ直後，急にギヤシフトレバーをニュートラル位置以外に変速するとエンジンが自動始動しないことがあります。このときは，いったんギヤシフトレバーをニュートラル位置に戻してからクラッチペダルを踏み直してください。
- エンジンが自動停止直後にクラッチペダルを踏み込むとエンジンの自動始動が一瞬遅れることがあります。

燃料の補給

1. 使用する燃料

● 燃料は超低硫黄軽油（硫黄分が 10ppm 以下の軽油）を使用します。

⚠ 警告

超低硫黄軽油以外の燃料（※1）を使用しないでください。粗悪な燃料，ガソリン，灯油，重油，アルコール系燃料，バイオ燃料（※2）などを補給し，エンジンを始動すると火災を起こしたり，エンジンやマフラー内の触媒やセラミックフィルターの機能低下により故障するおそれがあります。また，超低硫黄軽油以外の燃料を使用した場合，道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれもあります。
万一，超低硫黄軽油以外の燃料を補給してしまったときは完全に抜き取ってください。
※1：燃料は法律で品質が定められています。経済産業省資源エネルギー庁「揮発油等の品質の確保等に関する法律」
※2：「揮発油等の品質の確保等に関する法律」を満足するバイオ燃料で混合率 5%以下の軽油は除きます。

アドバイス

燃料に凍結防止剤や水抜き剤などあらゆる添加剤を入れないでください。燃料噴射装置や燃料装置が損傷するおそれがあります。

● 軽油は気温に合ったものを使用してください。お車を使用する地域のガソリンスタンドで軽油を補給すれば，気温に合った軽油を補給することができます。
● 寒冷地では通常の軽油（JIS 2 号軽油）は，-5 ℃以下になると凍結しますので寒冷地用の軽油を補給します。
● 寒冷地に出かけるときは，現地に到着するまでに半分以下になるよう燃料を給油し，到着後寒冷地用の軽油を補給してください。

軽油種	使用限界温度（目安）
JIS 特 1 号	3 ℃
JIS 1 号	-2.5 ℃
JIS 2 号	-5 ℃
JIS 3 号	-10 ℃
JIS 特 3 号	-17 ℃

使用限界温度は目安ですので表より高い温度で凍結することもあります。

アドバイス

気温に合った軽油を使用してください。燃料タンク内や燃料パイプ内で軽油が凍結すると，エンジンの始動が困難になったり停止する場合があります。

2. 燃料の補給

⚠ 警告

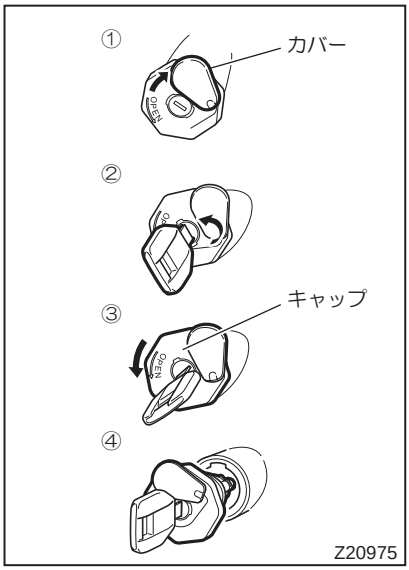
火災防止のため，燃料を補給するときは必ずエンジンを止めてください。また，たばこ，ライターなどの火気の使用も止めてください。

⚠ 注意

キャップを開閉するとき，手を周囲の部品などにぶつけてケガをしないようにしてください。

- 燃料タンクの補給口の周囲に付着したゴミや泥などをふき取ります。
- 燃料タンクキャップの開閉は次のとおりです。

①カバーを開きます。
②スターターキーを差し込み左に回します。
③キャップを左に回し取外します。
④キャップの取付けは逆順序で行ってください。



- 燃料を補給するときはゴミや水等が入らないようにします。
- 燃料補給後はキャップを確実に取付けます。

3. セルフスタンドで給油するときは

⚠ 注意

給油時の燃料吹きこぼれを防止するため次のことを守ってください。燃料が吹きこぼれると火災を起こすおそれがあります。

- 給油ノズルは給油口の奥まで差し込んでください。奥まで差し込まないとオートストップが正しく作動しません。
- 給油ノズルのレバーは完全に引いてください。小流量で給油を行うとオートストップが正しく作動しません。
- オートストップ作動後の継ぎ足し給油はしないでください。

- セルフスタンドに表示されている注意を守って給油をします。
- 給油方法について不明な点はセルフスタンドの係員にご相談してください。

AdBlue®（尿素水）の補給

AdBlue®（尿素水）はマフラー内の排気ガス中に添加（噴射）され，SCR 触媒の作用により排気ガスに含まれる NOx（窒素酸化物）を水と窒素に分解し NOx を低減します。

⚠ 注意

AdBlue®（尿素水）は，無色透明，無臭，無害の水溶液（尿素 32.5%，水 67.5%，凍結温度 -11 ℃）で身体に触れても問題ありません。しかし，体質によってはごくまれに炎症を起こすおそれがありますので以下の処置を行ってください。

- 皮膚に付着したときは水で洗い流してください。皮膚の変化や痛みがある場合は，速やかに医師の治療を受けてください。
- 万一，誤って飲み込んでしまったときはコップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み，直ちに医師の治療を受けてください。
- 目に入ってしまったときは直ちに多量の清水で洗い流し，医師の治療を受けてください。

1. 使用するAdBlue®(尿素水)

尿素水は，必ず JIS 規格または ISO 規格に適合した AdBlue®（アドブルー）を使用してください。

アドバイス

AdBlue®（尿素水）を使用するときに次のことは行わないでください。排気後処理装置（尿素 SCR）の破損につながるおそれがあります。
- 希釈しないでください。
- 他の薬品と混ぜたりしないでください。

指定の AdBlue®（尿素水）以外を使用するとウォーニングランプ及びブザーにより警報します。詳細は 7-134 ページをごらんください。

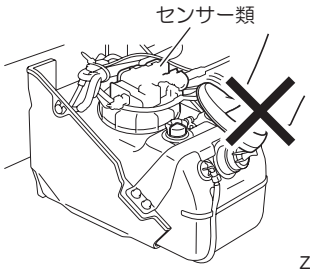
2. AdBlue®(尿素水)の補給

⚠ 警告

尿素水タンクには AdBlue®（尿素水）以外入れないでください。とくに軽油やガソリンを尿素水タンクに入れると，火災や排気後処理装置（尿素 SCR）の損傷原因になるおそれがありますので絶対に入れないでください。

アドバイス

尿素水タンクに足をかけたり，上に乗ったりしないでください。タンクやセンサー類の破損につながるおそれがあります。



知識

- AdBlue®（尿素水）の補給は余裕をもって早めに行ってください。AdBlue®（尿素水）がなくなるとエンジンの再始動ができなくなります。
- AdBlue®（尿素水）は，弊社販売店またはトラックステーションなどでお求めになれます。
- 尿素水タンクが空になってしまったときのために，携帯用の AdBlue®（尿素水）を準備しておくことをお勧めします。

尿素水タンク容量（dm^3 {L}）
約 12 {12}

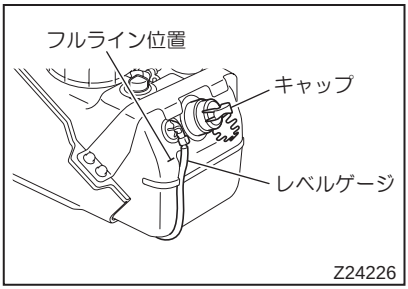
尿素水タンクが空になってから補給する場合や寒冷時に尿素水タンクが空になってから補給する場合は補給後の処置が必要です。

①AdBlue®（尿素水）を補給できることを確認後，スタータースイッチを “LOCK” 位置にしエンジンを停止します。

②尿素水タンクの補給口の周囲に付着したゴミや泥などをふき取ります。

③キャップを反時計方向に回して開けます。

④レベルゲージを見ながらタンクのラインの位置まで補給します。



アドバイス

- スチール製容器などを AdBlue®（尿素水）を入れる容器として使用しないでください。スチール製容器などを使用すると化学反応により腐食物質が生成され，それを補給すると排気後処理装置（尿素 SCR）が故障を起こすおそれがあります。
- AdBlue®（尿素水）を入れる容器や器具は AdBlue®（尿素水）専用として使用してください。他で使用したものや汚れている容器や器具を使用すると AdBlue®（尿素水）の品質が保てなくなり，エンジンの始動ができなくなります。

⑤キャップを閉めるときは，キャップを時計方向に回します。

知識

補給時に AdBlue®（尿素水）をこぼした場合は，布などでふき取った後に水で洗い流してください。

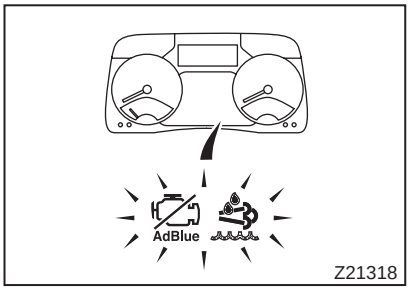
⑥尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給したときは，エンジンの再始動の方法が異なります。次項の “3. 尿素水タンクが空になったときの再始動方法 ” をごらんください。また，寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときは補給後に処置が必要になります。“4. 寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときの処置 ” をごらんください。

3. 尿素水タンクが空になったときの再始動方法

尿素水タンクが空になり，AdBlue®（尿素水）を補給後にエンジンを再始動するときは，次の手順にしたがってエンジンを再始動します。

①AdBlue®（尿素水）を補給後，スタースイッチを “LOCK” から “ON” 位置にします。

②点灯している，ウォーニングランプが点滅に変わり，連続音のブザーが鳴り止むのを待ちます。この間，スタースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にはしないでください。



知識

スタースイッチを “ON” 位置にしてからブザーが止まるまでに少し時間がかかる場合があります。

③ウォーニングランプが点灯から点滅に変わり，ブザーが鳴り止んだらエンジンを再始動します。

再始動後，10 分間程度走行し，補給した AdBlue®（尿素水）が正常と確認すると点滅は消灯します。

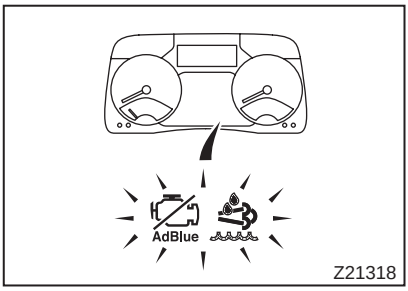
4. 寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときの処置

寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときは必ず次の処置を行います。

①AdBlue®（尿素水）を補給後，一旦スタータースイッチを “LOCK” から “ON” 位置にします。

②点灯している  ， 

ウォーニングランプが点滅に変わり，連続音のブザーが鳴り止むのを待ちます。この間，スタータースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にはしないでください。



知識

スタータースイッチを “ON” 位置にしてからブザーが止まるまでに少し時間がかかる場合があります。

③ウォーニングランプが点灯から点滅に変わり，ブザーが鳴り止んだらエンジンを再始動します。

再始動後，10 分間程度走行し，補給した AdBlue®（尿素水）が正常と確認すると点滅は消灯します。その後，スタータースイッチを “LOCK” 位置にします。

5. AdBlue®(尿素水)の保管について

- 容器を密封し，直射日光が当たらない風通しの良い気温が25℃未満の屋内などで保管してください。
  また，気温が -5 ℃以下の場所では保管しないでください。

⚠ 注意

高温になる場所に AdBlue®（尿素水）を保管しないでください。
AdBlue®（尿素水）は高温になると，有害なアンモニアが発生するおそれがあります。
保管する場合は容器を密封し，容器を開けるときは換気の良い屋外で行ってください。
刺激臭がある場合は，むやみに近づかないでください。

知識

- AdBlue®（尿素水）は凍結しても，溶ければ品質に変化はありません。そのまま使用できます。
- AdBlue®（尿素水）は水分が蒸発しないように容器を密封しておけば品質に変化はありません。
- AdBlue®（尿素水）自体は不燃性の液体ですが，火災などで加熱されると刺激臭が発生することがあります。万一，火災などが発生したときは速やかに安全な場所に避難してください。

- AdBlue®（尿素水）を保管，携帯する場合は AdBlue®（尿素水）購入時の容器を使用してください。なお，やむを得ず他の容器を使用する場合は通常飲料水等に使用される樹脂タンク（PP）でも代用できますが，水やゴミなどの異物が付着していないきれいなもので，AdBlue®（尿素水）で洗浄した容器を使用してください。

アドバイス

AdBlue®（尿素水）を指定以外の容器で保管しないでください。スチール製容器などで保管すると化学反応により腐食物質が生成され，それを補給すると排気後処理装置（尿素 SCR）が故障を起こすおそれがあります。

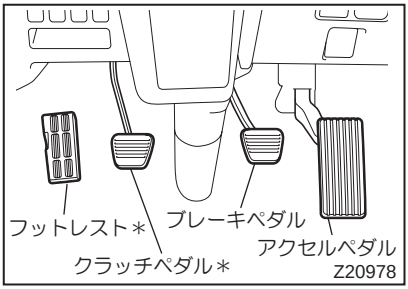
- AdBlue®（尿素水）を廃棄するときは産業廃棄物として処理してください。

アドバイス

AdBlue®（尿素水）は湖沼，海域，河川に廃棄しないでください。環境を破壊するおそれがあります。

ペダル類

● アクセルペダル



アドバイス

エンジンの空ぶかしはしないでください。燃料を無駄に消費するばかりでなく公害のもとになります。

知識

安全のため，アクセルペダルを踏んだまま，ブレーキペダルを踏むとエンジン出力を制限します。

● ブレーキペダル

⚠ 警告

運転席の足元付近に空缶などがあるときは取り除いてください。
ブレーキペダルに空き缶などがはさまると，ブレーキ操作ができなくなり重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

DUONIC 2.0 搭載車はブレーキペダルを右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は，緊急時の反応が遅れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンを始動する前にアクセルペダルとブレーキペダルを踏んで位置を覚えてください。

ディスクブレーキ装着車は走行中ブレーキをかけたとき「キー，キー」という，音が聞こえたらディスクブレーキパッドの交換時期です。日産販売会社で点検をお受けください。

● クラッチペダル＊

⚠ 注意

- クラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。半クラッチになりクラッチの寿命を縮めます。また，エンジンブレーキ，排気ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 変速するときはクラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。クラッチペダルの踏み込み量が少ないと，半クラッチ状態になりクラッチディスクを損傷させ思わぬ事故につながるおそれがあります。

排気ブレーキスイッチ

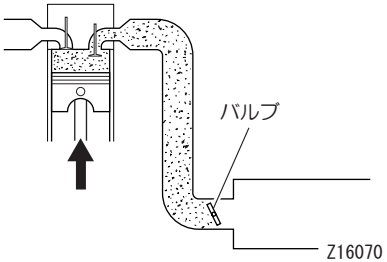
排気ブレーキはエンジンブレーキとともに下り坂や高速走行時などに補助ブレーキとして使用します。

⚠ 注意

- 空車時や積み荷が軽いときに滑りやすい路面では，排気ブレーキを作動させないでください。排気ブレーキを作動させるとスリップ事故を起こすおそれがあります。とくに下り坂ではスリップしやすくなります。
- 排気ブレーキを効かせながらカーブ走行するときは，あらかじめスピードを落としてください。滑りやすい路面や段差通過時にタイヤがスリップすると ABS が作動し，排気ブレーキが一時的に解除し思わぬ事故につながるおそれがあります。

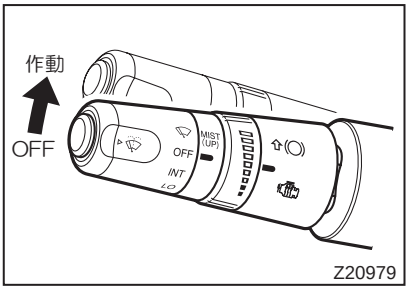
知識

排気ブレーキとは
排気ブレーキは排気管の途中をバルブで遮断し，排気ガスを止めることにより，エンジンブレーキの効果をさらに高める装置です。
降坂時や高速走行時などに補助ブレーキとして使用します。



1. 排気ブレーキの作動

- レバーを前に押すと排気ブレーキが作動します。排気ブレーキが作動中のみ インジケーターランプが点灯します。
- 排気ブレーキを使用しないときは排気ブレーキスイッチを “OFF” にします。スイッチを作動する位置にしておくと，走行中に排気ブレーキが作動したときの制動力が車の抵抗となり，燃費が悪くなります。



アドバイス

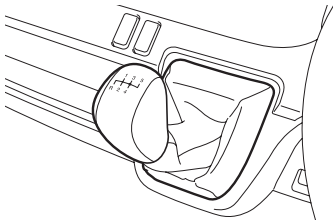
排気ブレーキスイッチを入れっぱなしにしないでください。排気ブレーキスイッチを作動位置のままにしておくと，頻繁に排気ブレーキが作動するため減速と加速を繰り返す運転となり，燃費を悪化させます。道路や交通状況に応じて排気ブレーキスイッチを “OFF” にすることが省エネ運転のコツです。

2. 排気ブレーキが一時的に解除されるとき

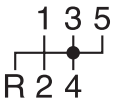
- アクセルペダルまたはクラッチペダルを踏んだとき
- マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーがニュートラル位置，DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーが “N” 位置のとき
- ABS が作動しているとき

ギヤシフトレバー

- ギヤシフトレバーの上面に各ギヤ位置が表示してあります。図示の “●” 部はニュートラル位置です。
- 変速するときはクラッチペダルをいっぱいに踏み込んでから行います。
- “R” にするとバックランプが点灯するとともにバックブザーが鳴ります。
- DUONIC 2.0搭載車は7-37ページをごらんください。



〈シフトパターン〉



Z20980

⚠ 注意

- 変速するときはクラッチペダルをいっぱいに踏み込んだ後，ギヤシフトレバーを操作してください。クラッチペダルの踏み込み量が少ないと，半クラッチ状態になりクラッチディスクを損傷させ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ニュートラル時ギヤシフトレバーに手を乗せ前後方向に押し付けたままにしないでください。車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 前進から後退，または後退から前進するときは車を完全に止めてから行ってください。トランスミッションの損傷の原因になります。
- ニュートラル時ギヤシフトレバーに手を乗せ前後方向に押し付けたままにしないでください。とくにギヤシフトレバーを延長する用品を装着すると小さな押し付け力でギヤシフトレバーが動き，トランスミッションの故障の原因になります。

DUONIC 2.0 ＊

DUONIC 2.0 はクラッチ，トランスミッション及びエンジンを統合的に制御することで，発進または走行時のクラッチ操作やギヤチェンジを自動的に行います。
クラッチ機構は 2 系統のクラッチ（デュアルクラッチ）からなり，変速ショックの少ないスムーズな変速を行います。

知識

DUONIC は Daimler AG の登録商標です。

1. 運転前に知っておいてほしいこと

1.1 エンジンを始動する前に

エンジンを始動する前に，アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いを防ぐためペダルを右足で踏んで，その位置を確認し感覚的に覚えておきます。

1.2 クリープ現象

ギヤシフトレバーが走行位置にあるとき，エンジンのアイドリング回転により，アクセルペダルを踏まなくても車が動き出す現象です。

⚠ 注意

- 発進時にギヤシフトレバーを“R”または“D”位置にするとクリープ現象で車が動き出します。ギヤシフトレバーを操作するときはブレーキペダルを確実に踏み込んでください。駐車ブレーキはギヤシフトレバー操作後に解除してください。
- ギヤポジションインジケーターの表示が点滅中もブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。表示が点滅中に坂道等でブレーキペダルを放すとクリープ力が発生してないため，車両が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

1.3 ブレーキ操作について

⚠ 注意

ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は，緊急時の反応が遅れ，思わぬ事故につながるおそれがあります。エンジンを始動する前にアクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏んで位置を覚えてください。

1.4　エンジンをかけたまま車から降りるとき

駐車ブレーキが確実に効いていることを確認し，ギヤシフトレバーが “P” 位置でギヤポジションインジケーターに “P” が表示されていることを確認して，車から降りてください。エンジンをかけたまま，ギヤシフトレバーが “D” 位置でドアを開けると，連続的にブザーが鳴り警告します。
エンジンをかけた状態でギヤシフトレバーを “R” 位置にすると，断続的にブザーが鳴ります。

1.5　駐車するとき

できるだけ平たんな場所で駐車してください。駐車するときは必ずブレーキペダルを踏んだまま駐車ブレーキを確実に効かせ，ギヤシフトレバーを “P” 位置にしてください。
やむを得ず坂道で駐車するときは，ブレーキペダルをしっかりと踏み込んだ状態で駐車ブレーキを確実に効かせ，ギヤシフトレバーを “P” 位置にしてください。また，輪止めをかけてください。

1.6　“R”（後退）の選択

ギヤシフトレバーを “R” 位置にするときは，車を完全に止めてください。車が動いていると選択できません。

1.7　けん引のしかた

けん引するときは，次のことをお守りください。お守りいただかないと DUONIC 2.0 の損傷の原因になります。

- FB，FE 型の場合は，プロペラシャフトを外すか，けん引専用車で後輪を吊り上げてけん引してください。
- フルタイム 4WD 車は，全輪を持ち上げた状態でけん引してください。
- パートタイム4WD車は全輪を持ち上げるか，前輪を持ち上げて後輪側のプロペラシャフトを取外してからけん引してください。

また，押しがけによるエンジン始動はできません。

1.8　すべりやすい路面での走行

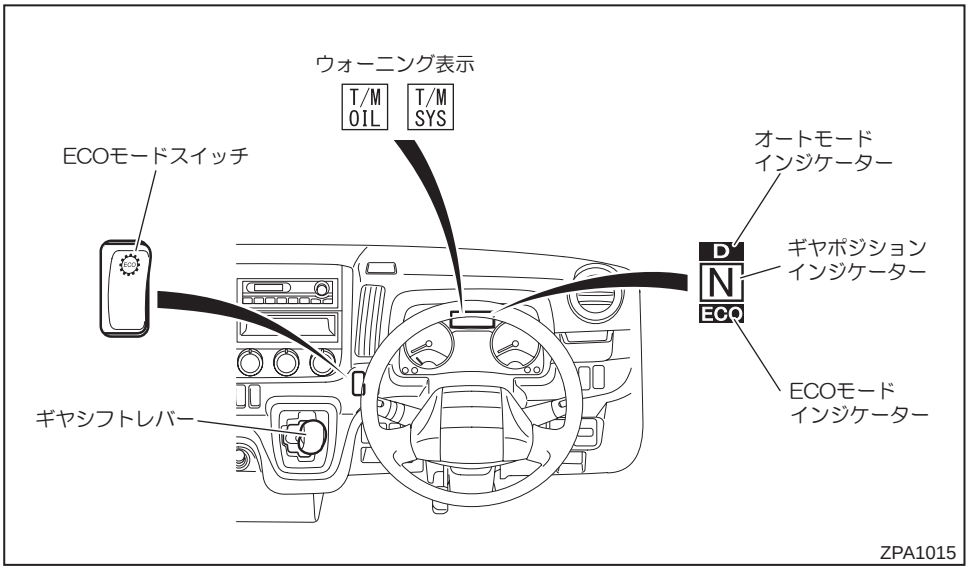
⚠ 注意

滑りやすい路面（ぬれた路面，凍結路など）ではマニュアルモードで走行してください。オートモードは自動的にシフトダウンするので，予期しないスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。また，オートモードではアクセルペダルをいっぱいに踏み込んだときも自動的にシフトダウンします。このため，急激にアクセルペダルを踏み込むとスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。マニュアルモードで走行するときも，急激なアクセルペダル操作をしたり，シフトダウンをしたときはスリップしやすくなります。

1.9　坂道での発進

クリープ機能もありますが，坂道の発進のときに車両が後退する場合があります。そのときは駐車ブレーキを併用して発進してください。

2. 装置



● **ギヤシフトレバー**
DUONIC 2.0 を操作するレバーです。確実に各位置に操作してください。

● **ギヤポジションインジケーター**
トランスミッションの使用ギヤ段を表示します。

● **オートモードインジケーター**
オートモードで走行時に表示します。

● **ECO モードスイッチ**
燃費を向上させるために早めのシフトアップを行います。
オートモードで走行時に使用できます。

● **ECO モードインジケーター**
エコノミーモード作動時に表示します。

● **ウォーニング表示**
DUONIC 2.0 に異常があるとき，マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

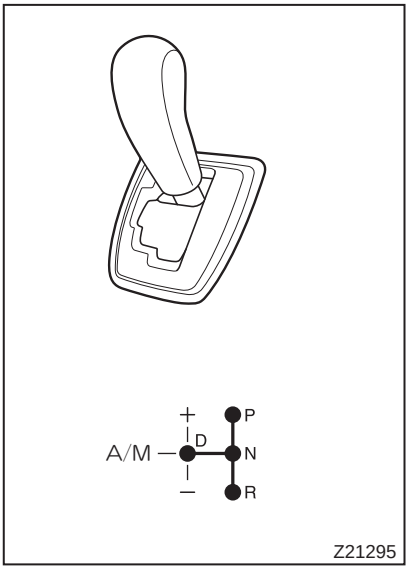
- T/M SYS 表示（赤）
DUONIC 2.0 が故障しているときに表示します。
- T/M OIL 表示（赤）
クラッチオイルの温度が高すぎるとき，またはクラッチ温度が高すぎのときに点灯します。
- T/M SYS 表示（橙）
DUONIC 2.0 が故障しているときに表示します。（自動変速または手動変速ができるときは走行可能）

3. ギヤシフトレバー

DUONIC 2.0 を操作するレバーです。確実に各位置に操作してください。

3.1 ギヤシフトレバーの動かし方

- オートモードからマニュアルモードにするときは，ギヤシフトレバーが“D”位置のとき“＋”または“－”位置にするか，“A/M”位置に押すとマニュアルモードになります。マニュアルモードになるとマルチインフォメーションディスプレイの“ D ”表示が消えます。
- マニュアルモードからオートモードにするときは，ギヤシフトレバーを“D”位置のときに“A/M”位置に押します。オートモードになると“ D ”が表示します。
- マニュアルモードでギヤシフトレバーを“＋”位置，“－”位置または“A/M”位置で手を離すと“D”位置に戻ります。



知識

- エンジンが始動してないと，ギヤシフトレバーを操作してもDUONIC 2.0は作動しません。
- “P”位置から“N”位置，“N”位置から“P”位置，“N”位置から“R”位置にギヤシフトレバーを操作するとき，ブレーキペダルを踏んでないと操作できません。
- バッテリーあがりを起こすとギヤシフトレバーはロックされたままとなり，ブレーキペダルを踏んでもシフト操作ができなくなります。この時，ギヤシフトレバーが“P”位置にあると車両の移動ができなくなります。
  次の方法でバッテリーを復帰させてください。
  - バッテリーを充電する。
  - バッテリーを交換する。14-67 ページをごらんください。
  - ブースターケーブルを使用して救援車の電源を利用する。16-36ページをごらんください。

3.2　シフト位置

P：パーキング

- エンジンを始動するとき，暖機運転をするときなど停車や駐車中に使用する位置です。
- この位置のとき，スターターキーを抜くことができます。
- PTO を操作するときに使用する位置です。

N：ニュートラル

- 動力が伝わらない位置です
- この位置でもエンジンを始動することができますが，安全のため“P”位置で始動してください。

D：ドライブ

- 通常走行するときの位置です。
- オートモードでは，負荷や車速に応じて次のように自動的に変速します。

ギヤ変速段
1←→2←→3←→4←→5←→6

知識

道路勾配や車両重量に応じて，発進ギヤ段を自動的に選択します。平坦路，降坂路では２速，登坂路では１速を選択します。

- この位置からギヤシフトレバーをA/M位置または，＋位置や－位置にするとマニュアルモードになります。

A/M：オートモード / マニュアルモード

オートモード←→マニュアルモードを切り替える位置です。

＋：シフトアップ

- 手動でシフトアップするときの位置です。
- ホールドから“＋”位置に１回操作すると１段シフトアップします。

－：シフトダウン

- 手動でシフトダウンするときの位置です。
- ホールドから“－”位置に１回操作すると１段シフトダウンします。

R：リバース

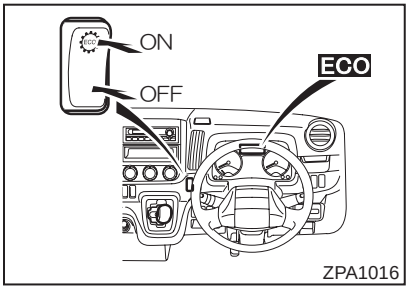
車を後退させるときの位置です。

バックランプが点灯し同時にブザーが鳴ります。

4. ECO モードスイッチ

ECOモードスイッチはオートモードのときに使用できます。
ECO モードスイッチを使用すると，次のような制御を行い，燃費を向上させます。

- ノーマルモードよりシフトアップのタイミングが早くなります。
- アクセルペダルを踏み込んでもシフトダウンしにくくなります。
- ECO モードスイッチを “ON” にすると，マルチインフォメーションディスプレイに “ECO” を表示します。



知識

- ECO モードは積載量が少なく（空車から半積程度），比較的平たんな道路を走行するときに使用します。
- 最大積載時や登坂，降坂路を走行するときはECOモードスイッチをOFFにし，ノーマルモードで走行してください。

5. エンジンを始動するとき

DUONIC 2.0 搭載車のエンジン始動は次のように行ってください。

⚠ 注意

ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は，緊急時の反応が遅れ，思わぬ事故につながるおそれがあります。エンジンを始動する前にアクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏んで位置を覚えてください。

①次の確認をします。

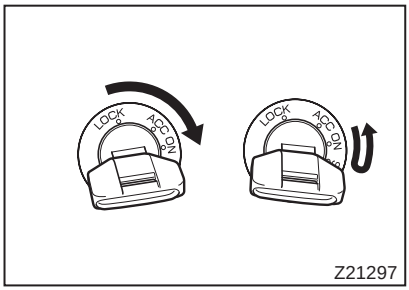
- 駐車ブレーキが確実に効いていること。
- ギヤシフトレバーが “P” 位置であること。
- アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンがオートアイドルであること。

②ブレーキペダルを踏み込みます。

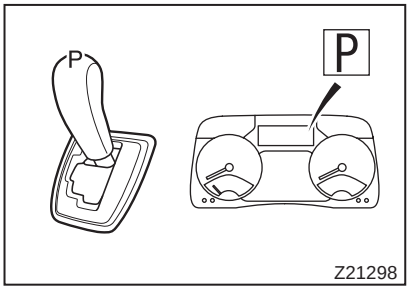
⚠ 注意

安全のためブレーキペダルはエンジンが始動するまで踏み込んだままにしてください。

③スタータースイッチを “ON” 位置にします。
④ ♌ インジケーターランプが点灯するか確認します。
♌ インジケーターが点灯したときは消灯するまで待ちます。



⑤ギヤポジションインジケーターに “P” が表示されていることを確認します。



⑥スタータースイッチを “START” 位置にしてエンジンを始動します。エンジンが始動したらブレーキペダルを離します。7-9 ページをごらんください。
⑦1 ～ 2 分間，暖機運転を行った後走行します。7-11 ページをごらんください。

知識

暖機運転を十分に行ってください。暖機が十分でないと変速に時間がかかる場合があります。

6. 運転のしかた

⚠ 警告

- 発進時にアクセルペダルを踏んだまま，シフトレバーを操作しないでください。車が急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。発進時はブレーキペダルを踏んだ状態で，ギヤシフトレバーを操作してください。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。万一，ギヤシフトレバーが “P” または “N” 位置以外になっていると急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ギヤシフトレバーを “D” または “R” 位置にするときはブレーキペダルをしっかりと踏んだまま，ギヤシフトレバーを操作してください。ブレーキペダルをしっかりと踏まずに “D” または “R” 位置にするとクリープ現象により車が動き出そうとし，思わぬ事故の原因になります。
- 下り坂での発進はギヤシフトレバーを “D” 位置またはマニュアルモードでギヤを選択してください。“N” 位置で発進するとエンジンブレーキが効かなくなり，思わぬ事故の原因になります。
- 段差を乗り越える場合など，急激に路面が変化するときの発進は，アクセルペダルを踏み込み過ぎると思わぬ車速が出ることがありますので，アクセルペダルの踏み込みには注意してください。

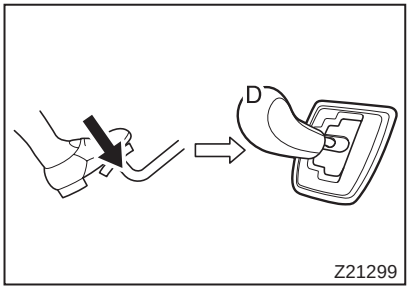
アドバイス

- 発進時アクセルペダルをあおった踏み方はしないでください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。
- 坂道発進などのとき，車が後退しているとき前進ギヤで発進したり，前進しているとき “R” 位置で発進することはしないでください。クラッチやトランスミッションの破損につながります。
- 次の操作は半クラッチを多用することになり，クラッチ温度が上昇します。
  T/M OIL 表示の原因となりますので操作をお控えください。
  - 登坂路ではアクセル操作のみで停車しないでください。クラッチの滑りや破損の原因になります。登坂路で停車するときはブレーキペダルを踏んで停車してください。
  - ギヤシフトレバーを “D” または “R” 位置にし，フートブレーキまたは駐車ブレーキを効かせた状態で，アクセルペダルを踏まないでください。
    トランスミッションの故障につながるおそれがあります。
  - 大きな段差や縁石を乗り越えるときに微速操作を繰り返し行わないでください。クラッチの滑りや損傷の原因になります。

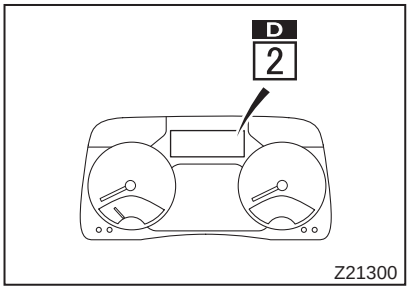
6.1　発進

● オートモードでの発進（1 速または 2 速発進）

①ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま，ギヤシフトレバーを “D” 位置にします。



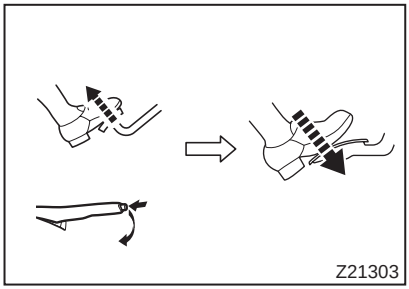
②マルチインフォメーションディスプレイに “ D ” 表示及びギヤポジションインジケーターに “1” または “2” が表示されていることを確認します。



知識

- 道路勾配や車両重量に応じて，発進ギヤ段を自動的に選択します。平坦路，降坂路では 2 速，登坂路では 1 速を選択します。
- 発進するときは，ギヤ段表示が2速または1速を表示しているか確認してください。ABS が作動した後の発進のとき，発進段への変速が遅れる場合があります。
- ギヤポジションインジケーターの表示が点滅しているときは変速中です。変速は完了していません。ブレーキペダルを踏んだままにしてください。

③駐車ブレーキを解放します。ブレーキペダルを徐々に離してから，アクセルペダルをゆっくり踏んで発進します。



● マニュアルモードでの発進（1 速，2 速または 3 速での発進）

知識

- ３速での発進はトランスミッションの故障につながるおそれがありますので下り坂での発進以外には行わないでください。発進のとき，４速以上は選択できません。
- 発進するときは，ギヤ段表示が１速，２速または３速を表示しているか確認してください。ABS が作動した後の発進のとき，発進段への変速が遅れる場合があります。

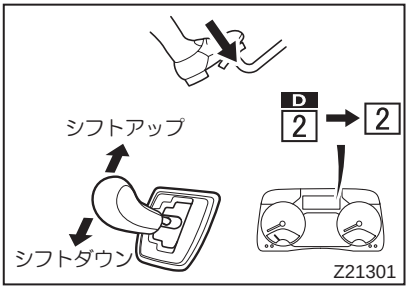
①ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
②ギヤシフトレバーを“D”位置から“＋”または“－”方向に操作します。

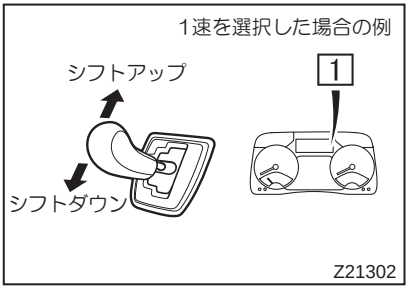
- “＋”方向へ１回操作すると１段シフトアップします。
- “－”方向へ１回操作すると１段シフトダウンします。

マニュアルモードになるとマルチインフォメーションディスプレイの“ D ”表示が消灯します。

また，ギヤシフトレバーが“D”位置のとき“A/M”位置へ押すと“マニュアルモード”と“オートモード”を切り替えることもできます。

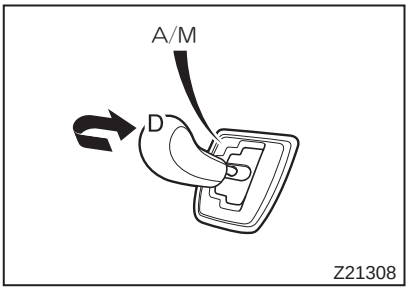
このとき，坂道以外での発進は，通常２速発進になります。登坂路では車両重量と傾斜の程度に応じて１速発進になります。





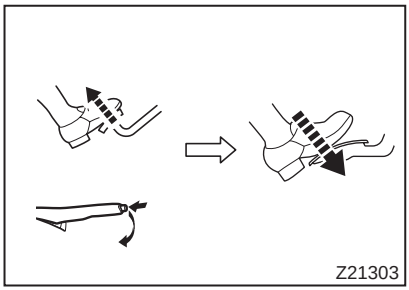
知識

ギヤポジションインジケーターの表示が点滅しているときは変速中です。変速は完了していません。ブレーキペダルを踏んだままにしてください。



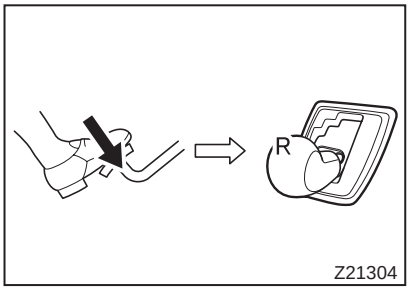
③ギヤポジションインジケーターの表示が希望のギヤ段になっていることを確認します。

④駐車ブレーキを解放します。ブレーキペダルを徐々に離してから，アクセルペダルをゆっくり踏んで発進します。



6.2　後退

①ブレーキペダルをしっかりと踏んだままギヤシフトレバーを“R”位置にします。
②ギヤポジションインジケーターに“R”が表示されていることを確認します。



知識

- 車が動いている状態で，ギヤシフトレバーを“R”位置にしても変速されません。車が停止している状態で，ギヤシフトレバーを“R”位置にしてください。
- ギヤポジションインジケーターの表示が点滅しているときは変速中です。変速は完了していません。ブレーキペダルを踏んだままにしてください。

③駐車ブレーキを解放します。ブレーキペダルを徐々に離し，アクセルペダルをゆっくり踏んで後退します。

7. 通常走行

通常走行ではオートモードを使用すれば運転操作が楽になります。

⚠ 注意

- 走行中はギヤシフトレバーを “N” 位置にしないでください。エンジンブレーキが効かないため思わぬ事故の原因になります。また，トランスミッション本体の故障の原因になります。
- 滑りやすい路面（ぬれた路面，凍結路など）ではマニュアルモードで走行してください。オートモードは自動的にシフトダウンするので，予期しないスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。また，オートモードではアクセルペダルをいっぱいに踏み込んだときも自動的にシフトダウンします。このため，急激にアクセルペダルを踏み込むとスリップが発生し思わぬ事故につながるおそれがあります。
  マニュアルモードで走行するときも，急激なアクセルペダル操作をしたり，シフトダウンをしたときはスリップしやすくなります。

知識

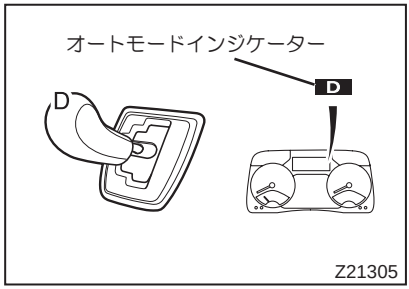
- 寒冷時，トランスミッションオイルの温度が低い場合，一時的にオートモードでのシフトダウン（3→2，2→1）する速度が遅くなる場合がありますが異常ではありません。オイルの温度が上がれば元に戻ります。
- 変速時ギヤが入りにくいときに変速タイミングが遅れることがあります。変速タイミングの遅れがたびたび発生する場合は，日産販売会社で点検をお受けください。

7.1　オートモードでの走行

発進後ギヤシフトレバーを“D”位置にし，オートモードで走行するとアクセルペダルの踏み込み量や車速に応じて次のように自動的に変速します。

ギヤ変速段
1←→2←→3←→4←→5←→6

このときオートモードインジケーター“ D ”を表示します。

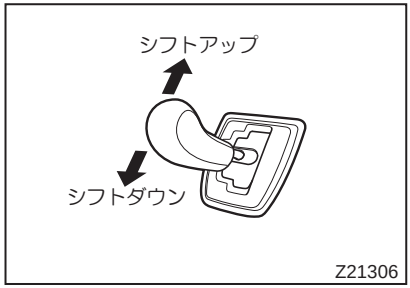


知識

道路勾配や車両重量に応じて，発進ギヤ段を自動的に選択します。平坦路，降坂路では２速，登坂路では１速を選択します。

7.2　マニュアルモードでの走行

ギヤシフトレバーを“D”位置から“A/M”位置に操作します。“＋”または“－”方向に操作してもオートモードからマニュアルモードへ切り替えられます。
マニュアルモードになるとマルチインフォメーションディスプレイの“ D ”表示が消灯します。
マニュアルモードで走行中は車速に応じて変速してください。車速が上昇または低下しても現在走行しているギヤ段に固定されます。

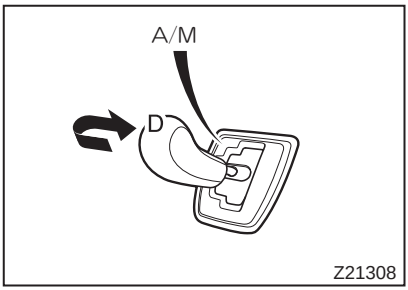


- “＋”方向に１回操作すると１段シフトアップします。
- “－”方向に１回操作すると１段シフトダウンします。
- ギヤシフトレバーを“＋”または“－”方向へ数回操作すると，エンジン回転が常用範囲であれば操作回数に見合ったギヤ段になります。

知識

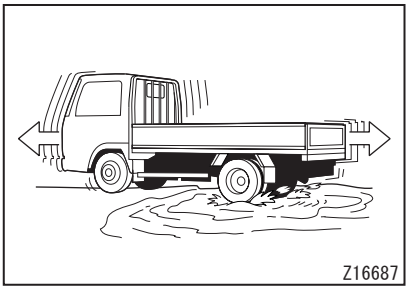
- マニュアルモードでシフトアップやシフトダウンをした場合，変速後のエンジン回転数が常用範囲から外れるときは変速されません。
  このときは，アクセルペダルまたはブレーキペダルで車速を調整してから，再度ギヤシフトレバーを操作してシフトアップ，またはシフトダウンをします。
- 寒冷時，トランスミッションオイルの温度が低い場合，マニュアルモードでのシフトダウンが制限される場合があります。
  このときはアクセルペダルを戻すか，またはブレーキペダルを踏んで減速してから，再度シフトダウンします。

マニュアルモードからオートモードにするときはギヤシフトレバーを “A/M” 位置へ押します。



8. ぬかるみ，雪道や砂地からの脱出

ギヤシフトレバーを “D” ⟷ “N” 位置に交互に入れ，車をゆすりながら脱出します。



⚠ 注意

車を前後にゆすりながら脱出するときは周囲の安全を必ず確認してから行ってください。

アドバイス

脱出操作は 5 分以上続けないでください。トランスミッションの油温やクラッチの温度が急激に上昇します。

9. 一時停止

- 信号や渋滞などで一時停止する場合，車速の低下とともにクラッチが切れ，次のように自動的に変速します。
  - オートモードのときは 2 速へ自動的に変速されます。なお，登坂路では車両重量と傾斜の程度に応じて 1 速になります。
  - マニュアルモードのときは停車時のギヤ段が3速以上のとき，2速へ自動的に変速されます。なお，登坂路では車両重量と傾斜の程度に応じて 1 速になります。
- 停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み込んだままにしてください。
- 停車時間が長くブレーキペダルから足を離したいときは，駐車ブレーキを効かせ，ギヤシフトレバーを “P” 位置にしてから足を離します。
- アイドリングストップシステム装着車は，一時停止中にギヤシフトレバーを “D” 位置にしておくと，発進時にブレーキペダルから足を離してもクリープ現象が発生するまでの間，制動力を数秒間保持します。ギヤシフトレバーを “N” 位置にして停車したときやエンジン自動停止中に “N” 位置にすると制動力は保持しません。
  アイドリングストップシステムについては 7-17 ページをごらんください。
- 上り坂での一時停車時は，ヒルスタートアシスト機能を使用してください。ヒルスタートアシスト機能については 7-81 ページをごらんください。

⚠ 警告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一，ギヤシフトレバーが “N” または “P” 位置以外になっていると急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

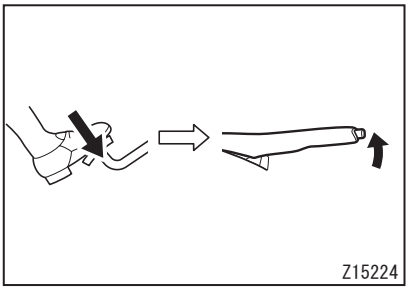
登坂路ではアクセル操作のみで停車しないでください。クラッチの滑りや破損の原因になります。登坂路で停車するときはブレーキペダルを踏んで停車してください。

10. 駐車するとき

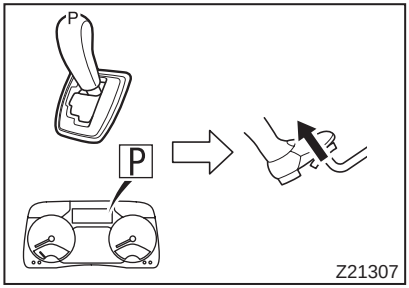
⚠ 注意

- 坂道での駐車は避けてください。駐車中に車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。やむを得ず坂道に駐車するときは駐車ブレーキを確実に効かせてください。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にし，タイヤに輪止めをかけてください。万一のことを考えて障害物（縁石など）のある方にハンドルを回しておくとより安全です。
- ギヤシフトレバーの “P” 位置のみで駐車しないでください。また，急な坂道で，ギヤシフトレバーを “P” 位置のみで駐車するとギヤシフトレバーが重くなり，場合によっては解除できなくなることがあります。このときは，一度ギヤシフトレバーを “N” 位置にし，ギヤシフトポジションインジケーターが “N” を表示していることを確認後，“D” 位置にしてください。

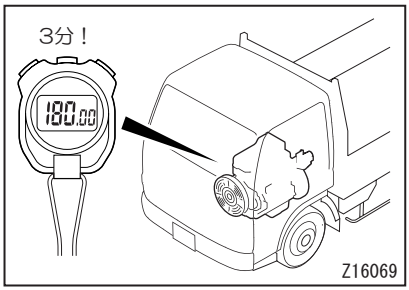
①できるだけ平たんな場所に停車します。
②ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキをいっぱいに引きます。



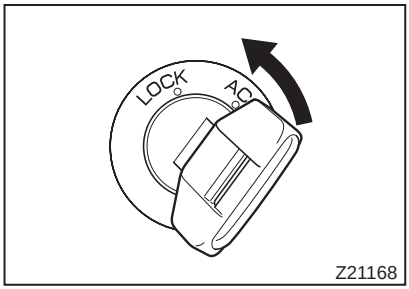
③ギヤシフトレバーを “P” 位置にします。ギヤポジションインジケーターに “P” が表示されたらブレーキペダルから足を離します。



④約3分間アイドリング運転を行い，エンジンを冷却します。
とくに，上り坂や高速道路走行後は，エンジン各部が高温になっていますので，３分間以上アイドリング運転を行い冷却します。



⑤スタータースイッチを “ACC” 位置にしエンジンを止めます。



⑥車から離れるときはスターターキーを抜き取りドアを施錠します。

知識

ギヤシフトレバーが “D” 位置のときにエンジンをかけたまま，運転席または助手席ドアを開けると連続的にブザーが鳴ります。
ギヤシフトレバーを “P” または “N” 位置にするか，エンジンを停止するか，ドアを閉めるとブザーは鳴り止みます。
エンジンをかけた状態でギヤシフトレバーを “R” 位置にすると，断続的にブザーが鳴ります。
なお，エンジンを停止するときは，“P” 位置で行ってください。

11. エンジンをかけたまま車から降りるとき

次のことを必ず確認し車から降りてください。
①駐車ブレーキが確実に効いていること。
②ギヤシフトレバーが “P” 位置であること。
③ギヤポジションインジケーターに “P” が表示されていること。

知識

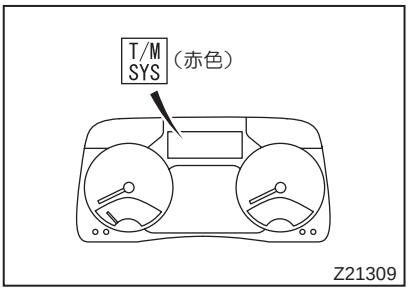
ギヤシフトレバーが “D” 位置のときにエンジンをかけたまま，運転席または助手席ドアを開けると連続的にブザーが鳴ります。
ギヤシフトレバーを “P” または “N” 位置にするか，エンジンを停止するか，ドアを閉めるとブザーは鳴り止みます。
エンジンをかけた状態でギヤシフトレバーを “R” 位置にすると，断続的にブザーが鳴ります。
なお，エンジンを停止するときは，“P” 位置で行ってください。

12. ウォーニング表示したとき

ウォーニング表示したときは DUONIC 2.0 のシステムの故障です。直ちに処置をしてください。

12.1 T/M SYS ウォーニング表示（赤色）

● **走行中点灯したとき**
直ちにブレーキペダルを踏み，安全な場所に停車します。

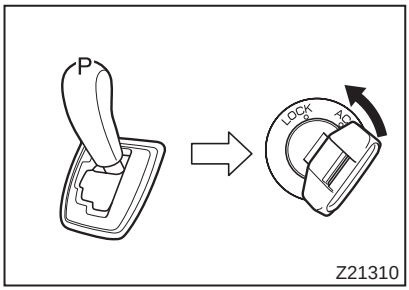


● 停車後の処置

①ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンを停止します。

②エンジンを始動します。
エンジンが始動できないときは，日産販売会社に連絡してください。

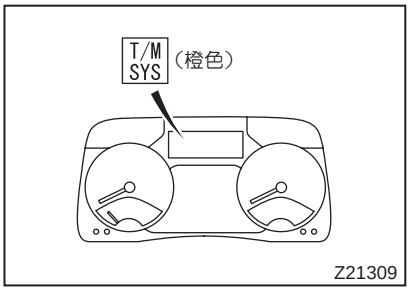
③エンジン始動後，T/M SYS ウォーニング表示（赤色）が表示しなければそのまま走行できます。
再び表示するときは，走行しないで直ちに日産販売会社に連絡してください。



12.2 T/M SYS ウォーニング表示（橙色）

● 走行中点灯したとき

- オートモードで自動変速が可能な場合は，そのまま走行できますが，速やかに日産販売会社で点検をお受けください。
- オートモードで自動変速しない場合は安全な場所に停止します。

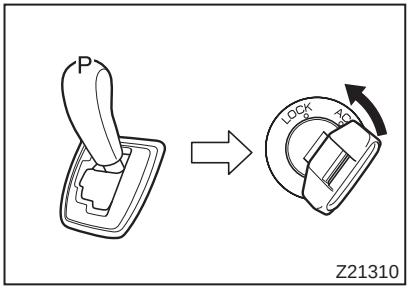


● 停車後の処置

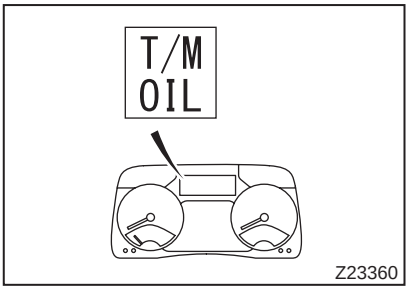
①ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンを停止します。

②エンジンを始動します。
エンジンが始動できないときは，日産販売会社に連絡してください。

③エンジン始動後，T/M SYS ウォーニング表示（橙色）が表示しなければそのまま走行できます。
再び表示するときは，ギヤシフトレバーを操作し，マニュアルモードで変速できれば走行できますが速やかに日産販売会社で点検をお受けください。変速できないときは走行できません。日産販売会社に連絡してください。



12.3 T/M OIL ウォーニング表示



● ウォーニング表示し，ブザーが3回鳴ったときの処置（クラッチオイルの温度が高すぎるとき）

- ギヤシフトレバーを“P”位置にし，アイドリング調整ボタン未装着車はアクセルペダルを踏み，エンジンをアイドリングよりやや高めで回しながら冷やします。
  アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，エンジンをアイドリングより高めで回しながら冷やします。7-6 ページをごらんください。
- ウォーニング表示が消えれば走行できます。ウォーニング表示が消えない場合や，たびたび表示する場合は油漏れ等が発生しているおそれがありますので日産販売会社に連絡してください。

● ウォーニング表示し，ブザーがなり続けたときの処置（クラッチの温度が高すぎるとき）

- 半クラッチを多用したため，クラッチがオーバーヒートしています。
- マニュアルモードで通常より低いギヤ段を選択し，発進してください。
- それでも表示が消えないときは，安全な場所に停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます。
- ギヤシフトレバーを“P”位置にし，アイドリング調整ボタン未装着車はエンジンをアイドリングよりやや高めで回しながらクラッチを冷やします。アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，エンジンをアイドリングより高めで回しながら冷やします。7-6 ページをごらんください。
- ウォーニング表示が消え，ブザーも鳴り止めば走行できます。表示が消えない，またはブザーが鳴り止まないときは日産販売会社に連絡してください。

アドバイス

すぐにエンジンを止めないでください。トランスミッション焼き付きの原因となります。T/M OIL ウォーニング表示が消えてからエンジンを止めてください。

パートタイム 4WD 車＊

路面の状況に応じ 2WD（後輪駆動）と 4WD（全輪駆動）を切り替えて使用します。
山岳部などの悪路，積雪路などを 4WD で走行すると，より大きな駆動力を発揮します。

⚠ 注意

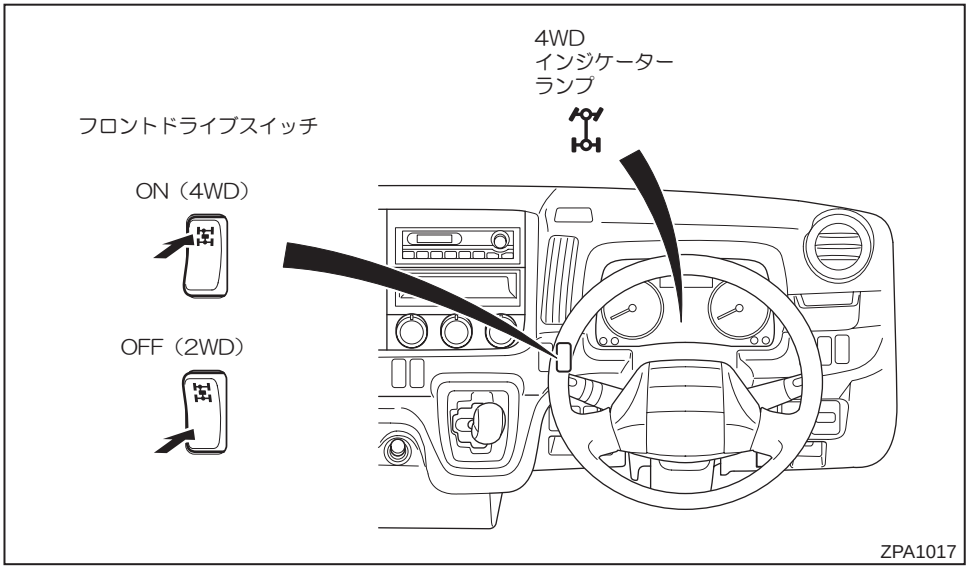
- この 4WD 車は，道路走行を目的とした車両です。常時不整地走行することはやめてください。常時不整地走行をすると車両が損傷し，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 4WD 車は前後のタイヤに駆動力がかかるため，不適切なタイヤを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります。また，駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
  タイヤ，ホイールについては次の点に注意してください。
  - タイヤは全輪とも指定されたサイズで，メーカー，銘柄，トレッドパターン（溝の模様でリブ，ラグ等）を同一にしてください。とくにスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
  - 摩耗差のないタイヤを使用してください。
  - タイヤ空気圧は定期的に点検し規定空気圧に調整してください。
  - タイヤを交換するときは全輪同時に交換してください。
  - ホイールは全輪とも純正ホイールを装着し，ホイールのサイズを変更しないでください。
  - タイヤの摩耗を均一にするために 10,000km ごとにタイヤのローテーションを行ってください。
- けん引するときは全輪を持ち上げるか，前輪を持ち上げて後輪側のプロペラシャフトを取外してから行ってください。

アドバイス

乾燥した舗装道路では必ず 2WD で走行してください。4WD で走行すると前輪タイヤの摩耗を早めたり，騒音や燃費が悪くなります。また，駆動部分の故障の原因になります。

1. DUONIC 2.0 搭載車

1.1 装置



- フロントドライブスイッチ
  2 輪駆動（2WD）と 4 輪駆動（4WD）に切り替えます。
- 4WD インジケーターランプ
  4WD のときにインジケーターランプを点灯します。

1.2 走行レンジの選択

走行レンジは次の種類があります。使用状況によって切り替えてください。

走行レンジ	インジケーターランプの点灯	使用状況
2WD	－	通常走行
4WD		積雪地，凍結路，砂地などの 2 輪駆動で走行できない悪路のとき

1.3 2WD，4WD の切り替え方

- 2WD → 4WD

①フリーホイールハブ（前両輪）を “LOCK” 位置にします。7-63 ページをごらんください。

②フロントドライブスイッチを “ON” にします。

③ インジケーターランプの点灯を確認します。

● 4WD → 2WD

①フロントドライブスイッチを “OFF” にします。

② インジケーターランプの消灯を確認します。

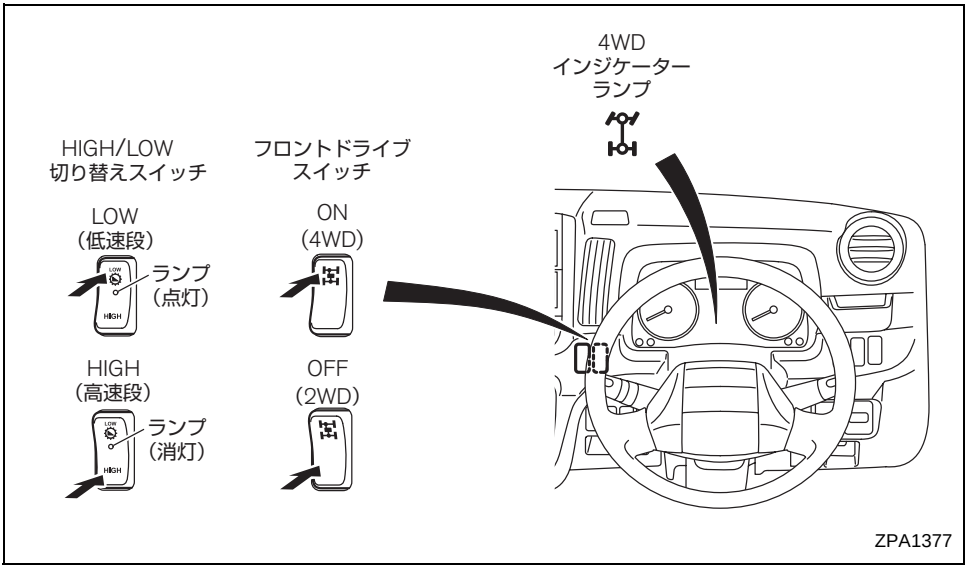
③フリーホイールハブ（前両輪）を “FREE” 位置にします。7-63 ページをごらんください。

知識

- 走行中，停車中いずれの場合でも切り替え操作はできます。
- ギヤが切り替わらないときは，アクセルペダルを戻してから，軽く踏み込むことによりギヤが切り替わります

2. マニュアルトランスミッション搭載車（HIGH ／ LOW 切り替えスイッチ付き）

2.1 装置



● フロントドライブスイッチ

後輪のみ駆動する２輪駆動と前輪も駆動する４輪駆動に切り替えるスイッチです。スイッチを “ON” にすると４輪駆動になり，“OFF” にすると２輪駆動になります。

● HIGH ／ LOW 切り替えスイッチ
フロントドライブスイッチが ON（4WD）のとき，トランスファーのギヤ位置を“HIGH”（高速段）と“LOW”（低速段）に切り替えるスイッチです。ギヤの切り替えをするときには，ギヤの切り替えが完了するまでスイッチを長く押す必要があります。
● 4WD インジケーターランプ
4WD のときにインジケーターランプを点灯します。

2.2 走行レンジの選択

走行レンジは次の種類があります。使用状況によって切り替えてください。

走行レンジ	4WD インジケーターランプ	HIGH ／ LOW 切り替えスイッチランプ	使用状況
2WD高速段	－	 消灯	通常走行
4WD高速段		 消灯	積雪地，凍結路，砂地など 2 輪駆動で走行できない悪路のとき
4WD低速段		 点灯	大きな駆動力を必要とする急坂路，ぬかるみなどの悪路走行のとき

2.3 2WD，4WD の切り替え方

● 2WD 高速段 → 4WD 高速段
①フリーホイールハブ（前両輪）を “LOCK” 位置にします。7-63 ページをごらんください。
②フロントドライブスイッチを “ON” にします。
③ インジケータランプの点灯を確認します。
● 4WD 高速段 → 2WD 高速段
①フロントドライブスイッチを “OFF” にします。
② インジケータランプの消灯を確認します。
③フリーホイールハブ（前両輪）を “FREE” 位置にします。7-63 ページをごらんください。

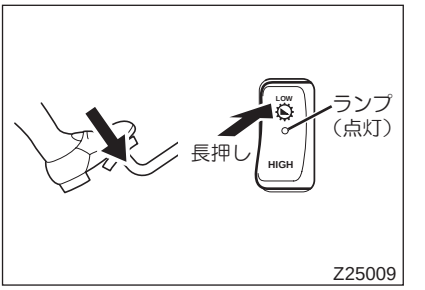
知識

- クラッチペダルは踏み込む必要はありません。
- 走行中，停車中いずれの場合でも切り替え操作はできます。
- ギヤが切り替わらないときは，アクセルペダルを戻してから，軽く踏み込むことによりギヤが切り替わります。
- 4WD低速段から2WDには切り替わりません。必ず4WD高速段にしてから2WDへの切り替えをしてください。

2.4　高速段，低速段の切り替え方

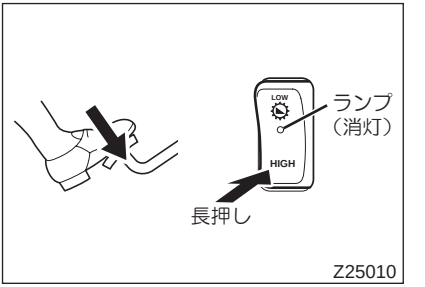
- 4WD 高速段 → 4WD 低速段

①停車し，クラッチペダルを踏み込みます。
②HIGH／LOW 切り替えスイッチの“LOW”側を長押しします。スイッチのランプが点灯しますが，ランプ点灯後も 2 秒以上押し続けます。
③スイッチのランプが点灯したらクラッチペダル、及びスイッチの操作を終了します。



- 4WD 低速段 → 4WD 高速段

①停車し，クラッチペダルを踏み込みます。
②HIGH／LOW切り替えスイッチの“HIGH”側を長押しします。スイッチのランプが消灯しますが，ランプ消灯後も 2 秒以上押し続けます。
③その後，クラッチペダル，及びスイッチの操作を終了します。



知識

2WD 時は，低速段の選択はできません。高速段を選択してください。4WD 時のみ低速段と高速段の選択が可能です。

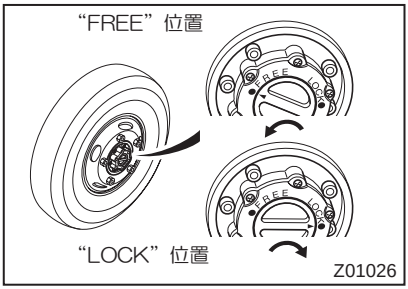
⚠ 注意

- HIGH／LOW 切り替えスイッチの操作は走行中に行わないでください。走行中にスイッチを操作してもレンジが切り替わりません。必ず停車し，クラッチペダルを踏んでから切り替えてください。
- HIGH／LOW切り替えスイッチはスイッチのランプが点灯後，または消灯後も２秒以上確実に押し続けてください。スイッチを押している時間が短いと，ギヤがかみ合わず走行できなくなります。このようなことが発生した場合は，再度ギヤの切り替えをやり直してください。
- 坂の途中での切り替えは行わないでください。

3. フリーホイールハブ

4WD 車は 2WD で走行しているときでも，前輪は駆動装置（デファレンシャル，プロペラシャフト，トランスファー）と接続されています。このようなときフリーホイールハブは前輪の駆動装置を切り離すことができ，タイヤのみ自由に回転させて経済的に運転するための装置です。

- FREE
  2WD で走行するときは，“FREE” 位置にあわせます。
- LOCK
  4WD で走行するときは，“LOCK” 位置にあわせます。



知識

4WDで走行するときは,フリーホイールハブを両輪とも“LOCK”位置にしてください。“FREE”位置では4WD走行はできません。

⚠ 注意

- フリーホイールハブは両輪とも“FREE” 位置,または “LOCK” 位置の状態にして走行してください。片輪のみ “FREE” 位置，または “LOCK” 位置の状態で走行するとフリーホイールハブの故障の原因となったり，走行に悪影響を及ぼし，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行後，フリーホイールハブに触れないでください。フリーホイールハブが高温になっている場合があるため，やけどをするおそれがあります。

4. 4WD の使い方

⚠ 注意

4WD でオフロード（砂地，ぬかるみなどの悪路）や積雪路，凍結路を走行するときは運転操作を誤らないよう十分注意してください。

4.1　積雪路や凍結路の走行

積雪や凍結の状態を確かめて，4WD でゆっくり発進します。
タイヤチェーンやスノータイヤを使用することをお勧めします。タイヤチェーンの付け方は 12-5 ページをごらんください。

4.2　砂地やぬかるみの走行

- 砂地，ぬかるみの状態を確かめて，4WD でゆっくり発進します。必要なら車から降りて路面の状態を確かめます。低速で，できるだけ一定の速度で走行します。
- 運転中の急加速，急ブレーキ，急ハンドルはタイヤが砂や泥に埋もれて動かなくなる場合がありますので極力避けます。

4.3　急な坂を上るとき

4WD にして，駆動力を有効に使います。
石，砂及び凹凸の少ない所を選び，上り始めと終わりはなだらかな傾斜を選んで走行します。

4.4　急な坂を降りるとき

- 4WD にして，タイヤがスリップしないようにエンジンブレーキを使いゆっくり降ります。
- 降坂時，急ブレーキをかけるとタイヤがスリップし，車がコントロールできなくなることがありますので，できるだけ降りる前に斜面の状態を確認します。
- 途中で変速をしないであらかじめ，斜面の状態に応じた変速ギヤを選んでおきます。

4.5 渡河するとき

4WD といっても水中走行はできません。やむを得ず水の中を走行しなければならないときは，4WD にして次の要領で行い，できるだけ早く水の中から上がってください。
また，水中走行を行った場合は，速やかに日産販売会社で点検をお受けください。

- 水深が浅い所を選んで波が立たないようにゆっくり走行します。
- 渡河後，ブレーキの効き具合を点検します。ブレーキの効きが悪いときは前後の車に十分注意し，低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かします。
- 渡河後，電気系統などに浸水がないか各部を点検します。また，次の “4WD 走行時の注意 ” の項をごらんください。

アドバイス

- 渡河走行中は絶対に変速しないでください。
- ひどいぬかるみを走行するときは，タイヤチェーンを付けると効果があります。また，悪路用タイヤも用意してあります。日産販売会社にご相談ください。
- 水中走行はしないでください。
  次の不具合を起こすおそれがあります。
  - フロント及びリヤアクスルに水が浸入します。
  - ハイカレントヒューズに水が入るとショートし，火災を起こすおそれがあります。
  - トランスミッション内に水が入ると，DUONIC 2.0 のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

5. 4WD 走行時の注意

- 4WD 走行時はハンドル感覚が若干変わりますので慣れるまで注意して運転してください。
- タイトコーナーブレーキ現象は異常ではありません。発生したとき2WDに戻せば解消します。

知識

タイトコーナーブレーキ現象とは 4WD で乾燥した舗装の急カーブを低速で走行したとき，ブレーキをかけたときと同じような状態になる現象をいいます。これは 4 つのタイヤの軌跡がそれぞれ違った半径で動くために起こる現象で 4WD 時に発生する特有の現象です。

- 水の中の走行はやめてください。
  - やむを得ず水の中を走行したときは直ちにエンジン，トランスミッション，トランスファー，フロントアクスル及びリヤアクスル，電気系統などに浸水がないか点検してください。もしオイルが白く濁っていたら水が浸入していますので，オイル交換が必要です。
  - 室内に水が浸入したときは，カーペットなどを乾かしてください。そのままにしておきますとさびの原因になります。
- オフロード走行後は次の点検を行ってください。
  - 石などにより損傷した個所がないか点検してください。
  - ブレーキの効き具合を点検し，異常があるときは日産販売会社で点検をお受けください。
  - プロペラシャフト及びフロント，リヤスプリングにグリースを給脂してください。15-28 ページをごらんください。

フルタイム 4WD 車＊

アドバイス

- この 4WD 車は，市街地など，一般走行を主目的としています。不整地走行を目的としたものではありません。最低地上高も低くなっています。積雪地や凍結路などの走行には有効ですが 4WD を過信した無理な走行はしないでください。
- 最低地上高が低いので渡河走行は絶対に行わないでください。

1．タイヤ，ホイールについて

⚠ 注意

4WD 車は前後のタイヤに駆動力がかかるため，不適切なタイヤを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく，思わぬ事故につながるおそれがあります。また，駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。タイヤ，ホイールについては次の点に注意してください。

- タイヤは全輪とも指定されたサイズで，メーカー，銘柄，トレッドパターン（溝の模様でリブ，ラグ等）を同一にしてください。とくにスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
- 摩耗差のないタイヤを使用してください。
- タイヤ空気圧は定期的に点検し規定空気圧に調整してください。
- タイヤを交換するときは全輪同時に交換してください。
- ホイールは全輪とも純正ホイールを装着し，ホイールのサイズを変更しないでください。
- タイヤの摩耗を均一にするために10,000kmごとにタイヤのローテーションを行ってください。

2. けん引するとき

⚠ 注意

全輪を持ち上げた状態で運んでください。通常のレッカー車によるけん引はできません。前輪や後輪の片方を台車などに載せてレッカー車でけん引すると，駆動装置が過熱し，焼付きを起こしたり，車が台車などから飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

3. タイヤチェーン

アドバイス

タイヤチェーンは装着しないでください。タイヤチェーンを装着するとフロントサスペンション周辺部品に干渉したり，トランスファーの故障につながるおそれがあります。
全輪スノータイヤまたは，スタッドレスタイヤを装着してください。

駐車ブレーキレバー

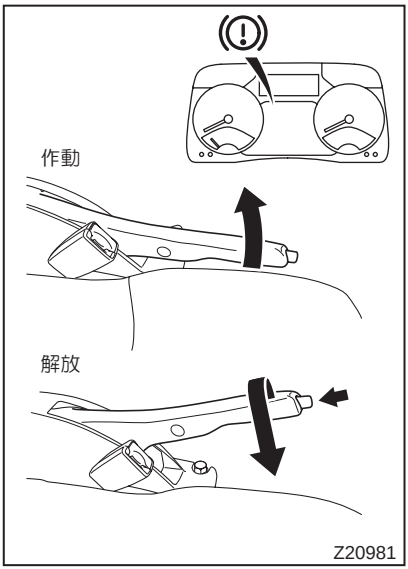
⚠ 警告

駐車ブレーキは緊急時を除き走行中に使用しないでください。走行中，駐車ブレーキを急激に効かすと車がスピンまたは横転するおそれがあります。

1. 駐車ブレーキレバーの操作

● **作動**
レバーをいっぱいに引き上げます。同時に (!) ブレーキウォーニングランプが点灯します。

● **解放**
レバーを少し引き上げ，先端のボタンを押しながらそのまま下まで戻します。(!) ブレーキウォーニングランプの消灯を確認してください。



⚠ 警告

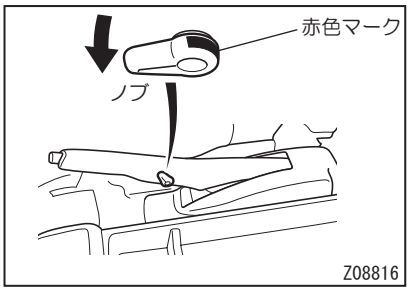
駐車ブレーキレバーはいっぱいに引いてください。駐車ブレーキレバーの引きが少ないと駐車ブレーキは確実に効きません。駐車中に車が動き重大な事故につながるおそれがあります。駐車ブレーキレバーを引いて，(!) ウォーニングランプが点灯しても駐車ブレーキが確実に効いているとは限りません。
(!) ブレーキウォーニングランプの点灯と駐車ブレーキの効きとは関係ありません。

2. 駐車ブレーキレバーの可倒＊

駐車ブレーキを効かせたままレバーを下げることができます。助手席または運転席への移動のとき使用します。

● 下げるとき
レバーが駐車位置の状態で，ノブを矢印方向に押したままレバーを下げます。
（ノブ上面に赤色マークが現れます）

● 戻すとき
レバーを元の駐車位置まで引き上げます。このときノブも元の位置に戻ります。赤色マークが見えなくなったことを確認してください。



⚠ 注意

レバーを下げる際，指をレバー下部にはさまないよう注意してください。

3. 駐車ブレーキ警報

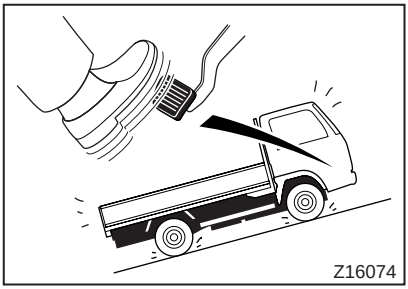
- 駐車ブレーキを解放しないで車速 12km/h 以上で走行したとき 3 秒後にブザー（ピー，ピーの断続音）が鳴り警報します。
- ブザーが鳴ったときはただちに安全な場所に停車し，駐車ブレーキを解放してください。

⚠ 注意

駐車ブレーキを効かせたまま走行しないでください。駐車ブレーキの早期摩耗や過熱で効きが悪くなったり火災を起こすおそれがあります。

EZGO（坂道発進補助装置）＊

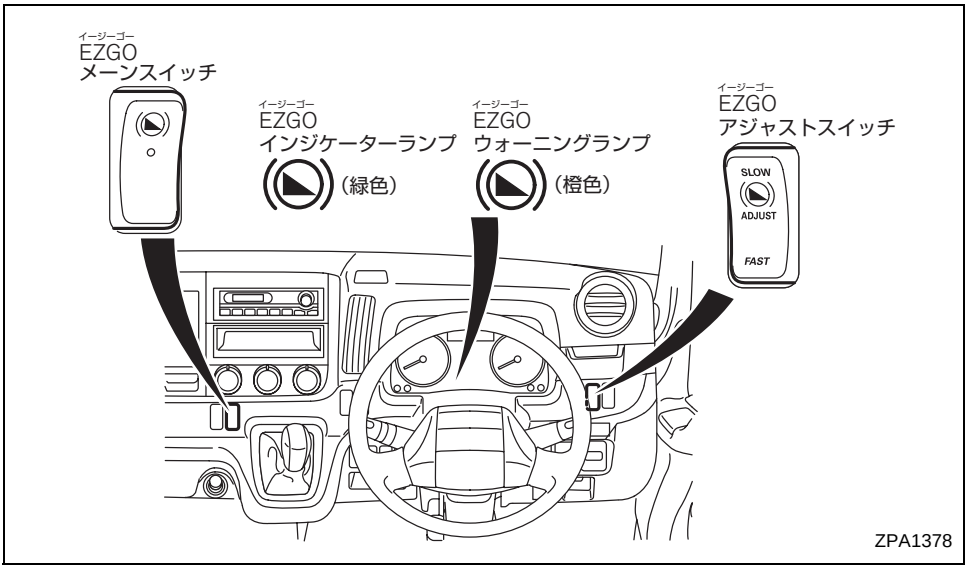
EZGO は坂道での一時停止時にブレーキペダルを踏み込んだときの液圧をそのまま保持し，ブレーキペダルから足を離しても車を停止させることができます。車を発進させると自動的に解除し坂道発進を楽にすることができる装置です。



⚠ 注意

長時間の停車や車から離れる場合は，必ず駐車ブレーキを使用してください。EZGO を長時間使用すると，ブレーキカが低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。
EZGO は坂道での発進を補助するための装置で駐車ブレーキではありません。

1. 装置



● **EZGO メーンスイッチ**

“ON” で EZGO が使用できる状態になります。“OFF” で EZGO は解除します。

● **(緑色) インジケーターランプ**

EZGO 作動中に点灯します。

● **(橙色) ウォーニングランプ**

- スタータースイッチを “ON” 位置にしたとき点灯し，数秒後に消灯すれば正常です。スタータースイッチを “ON” 位置にしても点灯しないときや数秒後に消灯しないときは，日産販売会社で点検をお受けください。
- 走行中に点灯したときは EZGO の故障が考えられます。EZGO メーンスイッチを “OFF” にし日産販売会社で点検をお受けください。

● **EZGO アジャストスイッチ**

ブレーキ解除のタイミングを調整するときに使用します。

●ヒューズ交換時の注意

⚠ 注意

ヒューズやハイカレントヒューズを交換するときは，スタースイッチを“LOCK”位置，各スイッチを OFF 位置にしてください。通電したままヒューズやハイカレントヒューズを交換すると電気装置が故障するおそれがあります。なお，EZGO 作動中に EZGO のヒューズやハイカレントヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され，坂道では車が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヒューズの交換については 16-13 ページをごらんください。

2. 操作

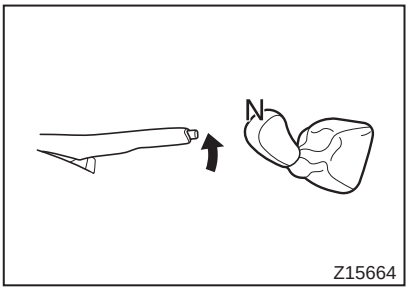
2.1 EZGO の作動確認

システムを使用する前に正常に作動するか確認します。

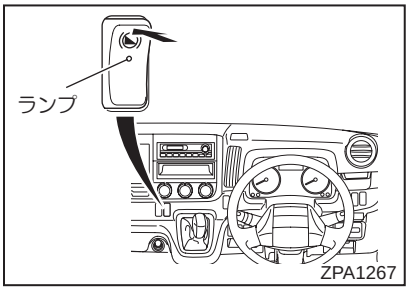
⚠ 注意

確認作業は平たんな場所で，車のまわりの安全を確認してから行ってください。

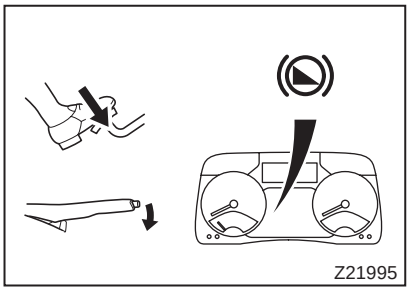
①駐車ブレーキが効いていることを確認します。
②ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認します。
③エンジンを始動します。



④EZGOメーンスイッチを“ON”にします。同時にスイッチ内のランプが点灯します。



⑤ブレーキペダルを確実に踏み込んだまま，駐車ブレーキを解放します。
(Ⓟ) インジケーターランプ（緑色）が点灯したことを確認します。ランプが点灯すれば機能は正常です。
⑥駐車ブレーキを効かせ (Ⓟ) インジケーターランプ（緑色）が消灯したことを確認します。ランプが消灯すれば機能は正常です。


Z21995

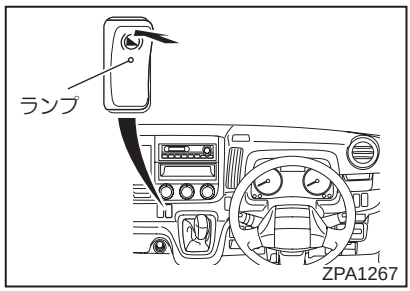
EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“ON”にしブレーキペダルを踏み込んでも (Ⓟ) インジケーターランプ（緑色）が点灯しないときや，(Ⓟ) ウォーニングランプ（橙色）が点灯したときはEZGO（イージーゴー）の異常です。EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“OFF”にし日産販売会社で点検をお受けください。

2.2　EZGO（イージーゴー）を作動させるとき

⚠ 注意

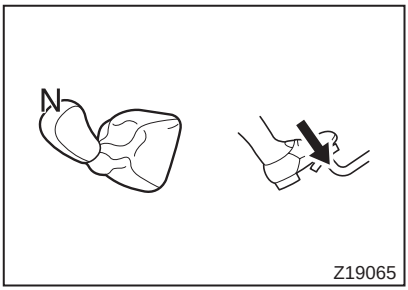
EZGO（イージーゴー）が作動しているときに次の操作を行わないでください。操作をするとEZGO（イージーゴー）が解除され車が動き，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“OFF”にしたとき
- 駐車ブレーキを効かせたとき
- スタータースイッチを“ACC”，“LOCK”位置にしたとき
- ヒューズやバッテリーを外したとき

①EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“ON”にします。同時にスイッチ内のランプが点灯します。

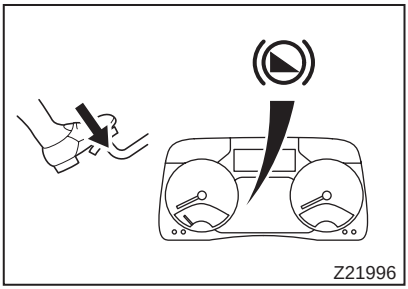


ZPA1267

②ブレーキペダルを踏んで停止します。
③ギヤシフトレバーをニュートラル位置にするか，クラッチペダルをいっぱいに踏み込んだままにします。



④ブレーキペダルは (◺) インジケーターランプ（緑色）が点灯するまで踏み込んだままにします。



知識

ブレーキペダルを1 秒以上踏み込まないとシステムは作動しません。(◺) インジケーターランプ（緑色）が点灯するまで確実に踏み込みます。

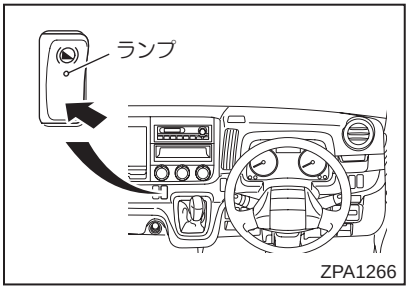
⑤ (◺) インジケーターランプ（緑色）が点灯したらブレーキペダルから足を離します。ブレーキペダルから足を離してもシステムが作動していますので車は停止状態を保ちます。
⑥クラッチペダルをいっぱいに踏み込みギヤを入れます。クラッチをつないで発進するとブレーキは解除され，同時に (◺) インジケーターランプ（緑色）が消灯します。

知識

- クラッチペダルの踏み込みが足りないと発進時にブレーキが解除されないことがあります。
- クラッチをつないだときのブレーキ解除タイミングが，ご自身のブレーキ解除タイミングと合わないときは調整してください。7-79 ページをごらんください。
- EZGO を作動させたままドアを開けたときや，長時間（10 分以上）システムを作動させたままのときはブザーが鳴り警報します。ブレーキペダルを踏み込むか，EZGO を解除してください。
- 急な坂道ではブレーキペダルの踏み込みが足りないとき車が動き出すことがあります。ブレーキペダルを増し踏みするか，駐車ブレーキを効かせてください。駐車ブレーキを効かせると EZGO は解除します。
- 急ブレーキやタイヤをロックさせて停車したとき，EZGO は作動しないときがあります。再度ブレーキペダルを踏み直し EZGO を作動させるか，駐車ブレーキを効かせてください。
- EZGO 作動中でも，ブレーキペダルから足を離すとストップランプは消灯します。
- アイドリングストップシステム装着車はエンジン自動停止中にブレーキペダルを何度も踏み込むと，ブレーキペダルが重くなることがあります。
- アイドリングストップシステム装着車はクラッチペダルを踏み込み，エンジン自動始動が完了するまで発進操作をしないでください。
  エンジン自動始動が完了する前に発進操作を行うと，EZGO が解除しなかったり，意図しないタイミングで EZGO が解除する場合があります。
- アイドリングストップシステム装着車はエンジン自動停止中も EZGO は作動しますが，エンストしたときは EZGO は作動しません。

2.3 EZGO（イージーゴー）を解除するとき

EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“OFF”にします。同時にスイッチ内のランプが消灯します。



アドバイス

次の場合はEZGO（イージーゴー）を使用しない方が運転しやすいことがあります。

- 発進，停止を繰り返して微妙な位置に停止させたいとき
  （車をプラットホームなど微妙な位置に止めるとき，EZGO（イージーゴー）を使用するとクラッチを急に接続したり，アクセルペダルを急に踏み込むと思わぬ車の飛び出しがあります）
- 長い下り坂の渋滞時など，クラッチ操作がわずらわしいとき
- 凍結した道路や雪道でブレーキペダルを踏むと装置が作動するとき
  （凍結した道路や雪道では停車直前にEZGO（イージーゴー）が作動することがあります）

3. ウォーニングランプ（橙色）が点灯及び警報ブザーが鳴ったとき

- 次の表に示す必要な処置を行ってください。
- ウォーニングランプ（橙色）が点灯したときは，EZGO メーンスイッチを “OFF” にし日産販売会社で点検をお受けください。

状況	警報		処置
	ウォーニングランプ（橙色）	ブザー	
EZGO 作動中に，駐車ブレーキを効かせないでドアを開けたとき	—	ピ ー ッ，ピ ー ッ，ピーッの断続音	駐車ブレーキを確実に効かせるか，ブレーキペダルを踏んで EZGO を解除します
EZGO 作動中に自然に車が動いたとき	—	ピ ー ッ，ピ ー ッ，ピーッの断続音	駐車ブレーキを効かせて EZGO を解除するか，ブレーキペダルを増し踏みしてください
EZGO を長時間（10 分以上）作動させたままのとき	—	ピ ー ッ，ピ ー ッ，ピーッの断続音	駐車ブレーキを効かせるか，ブレーキペダルを踏んで EZGO を解除します
EZGO 作動中に，スタータースイッチを “ACC” 及び “LOCK” 位置にしたとき，または EZGO メーンスイッチを “OFF” にしたとき	—	ピピピピの断続音	EZGO が解除しましたので，駐車ブレーキを効かせるか，ブレーキペダルを踏んでください
EZGO が異常終了したとき	—	ピピピピの断続音	次のいずれかの処置を行います • 駐車ブレーキを効かせます • 一度，EZGO メーンスイッチを “ OFF” にします • スタータースイッチを “ ACC”，または，“ LOCK” 位置にします
EZGO が故障したとき	点灯	—	安全な場所に停車し，EZGO メーンスイッチを “OFF” にしEZGOが作動しないようにします

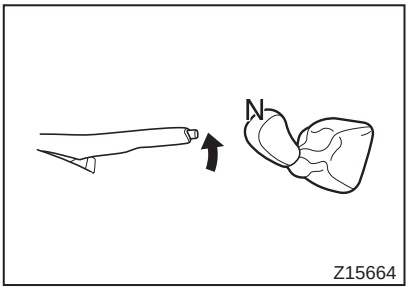
4. ブレーキ解除タイミング調整

次の場合はブレーキ解除のタイミング調整を行ってください。
- 発進時にブレーキの引きずり感があるとき（解除が遅い）
- 坂道での発進時に車が下がるとき（解除が早い）
- 発進時のブレーキ解除タイミングが自分の希望に合わないとき

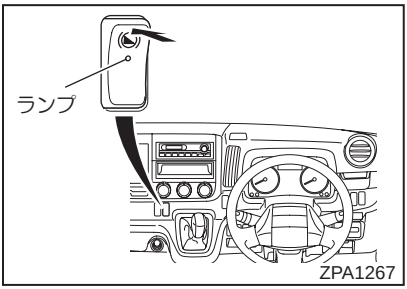
⚠ 注意

- ブレーキ解除タイミング調整作業は，平たんな場所で車のまわりの安全を確認してから行ってください。坂道で行うと車が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調整後の確認を坂道で行うときは，車のまわりの安全を確認してから行ってください。確認中に車が下がったときは駐車ブレーキを効かせるか，ブレーキペダルを踏み込み停車してください。
- 調整が適切でないとブレーキやクラッチの早期摩耗や損傷の原因になります。また，作動しても車が動くことがあり思わぬ事故につながるおそれがあります。

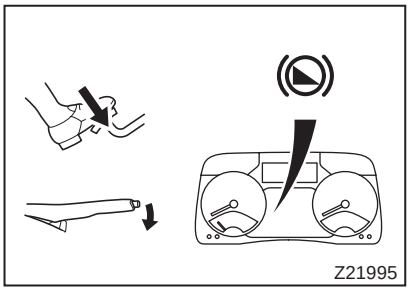
①駐車ブレーキが効いていることを確認します。
②ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認します。
③エンジンを始動します。



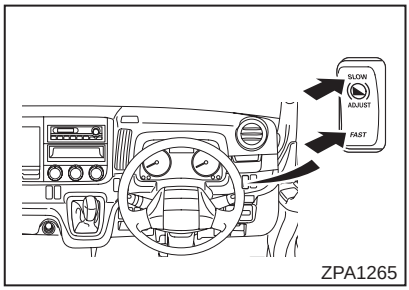
④EZGO（イージーゴー）メーンスイッチを“ON”にします。同時にスイッチ内のランプが点灯します。



⑤ブレーキペダルを確実に踏み込み，駐車ブレーキを解除します。
(Ⓟ) インジケーターランプ（緑色）が点灯したことを確認します。



⑥EZGO（イージーゴー）アジャストスイッチで調整します。
- 発進時にブレーキのひきずり感があるとき（ブレーキ解除が遅い）は スイッチの “FAST” を押します。
- 坂道で発進時に車が下がるとき（ブレーキ解除が早い）はスイッチの “SLOW” を押します。



- EZGO（イージーゴー）アジャストスイッチはブレーキ解除のタイミングを中立位置からそれぞれ2 段階変えることができます。スイッチを押したときの “ ピィ ” と鳴るブザー音の回数で，次のように確認できます。

EZGO（イージーゴー）アジャストスイッチ	“ SLOW”（ブレーキ解除を遅くする側）			“ FAST”（ブレーキ解除を早くする側）	
	2段目	1段目	中立位置	1段目	2段目
ブザー回数	3回	2回	1回	2回	3回

- EZGO（イージーゴー）アジャストスイッチは押す回数が増えるほどブレーキ解除のタイミングが大きく変化します。

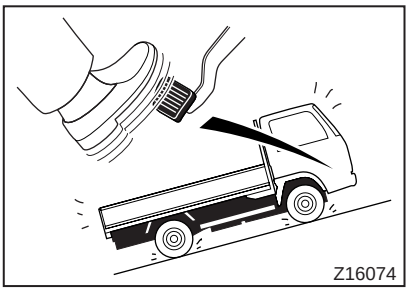
⑦坂道で車を発進させ，希望のブレーキ解除タイミングに調整できているか確認します。タイミングが合っていないときは再度平たんな場所で調整します。

知識

- EZGO（イージーゴー） アジャストスイッチを押しても希望のブレーキ解除タイミングに合わないときは日産販売会社で点検をお受けください。
- EZGO（イージーゴー） アジャストスイッチで希望のブレーキ解除タイミングに合わせた後，EZGO（イージーゴー） を約 100 回使用すると，調整後の位置が中立位置になります。
- ブレーキ解除タイミングを “FAST” 側に調整した後，クラッチペダルをいっぱいに踏み込まずに発進するとブレーキが解除しないときがあります。このときはクラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。それでもブレーキが解除しないときは日産販売会社で点検をお受けください。

ヒルスタートアシスト機能〈DUONIC 2.0 搭載車〉

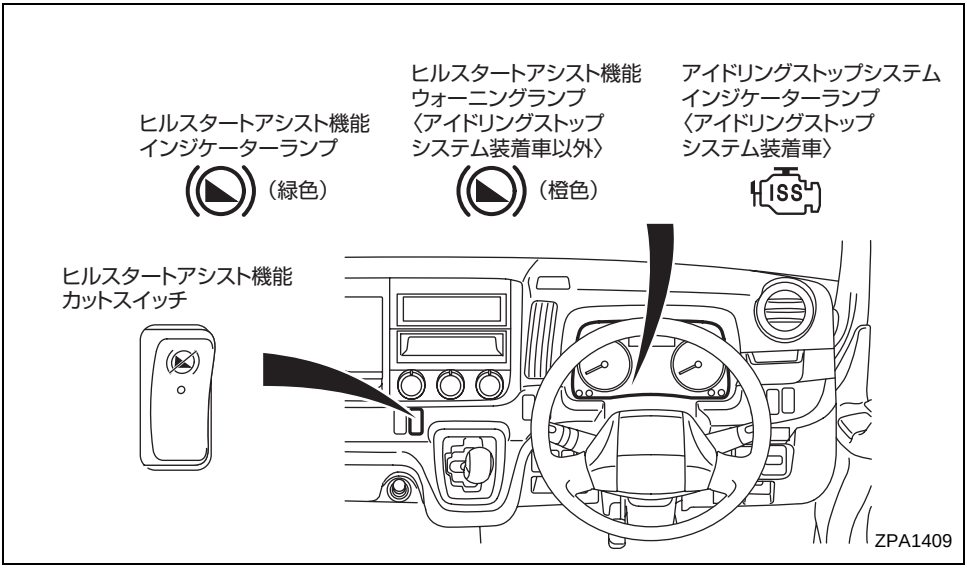
ヒルスタートアシスト機能は上り坂で発進するとき，ブレーキペダルから足を離しても発進するまでの間，制動力を数秒間保持して坂道発進を補助する装置です。



⚠ 注意

長時間の停車や車から離れる場合は，必ず駐車ブレーキを使用してください。ヒルスタートアシスト機能を長時間使用すると，システムが強制的に解除され思わぬ事故につながるおそれがあります。ヒルスタートアシスト機能は上り坂での発進を補助するための装置で駐車ブレーキではありません。

1. 装置



- **ヒルスタートアシスト機能カットスイッチ**
  ヒルスタートアシスト機能を停止するスイッチです。
- **インジケーターランプ（緑色）**
  ヒルスタートアシスト機能作動中に点灯します。
- **インジケーターランプ〈アイドリングストップシステム装着車〉，ウォーニングランプ（橙色）〈アイドリングストップシステム装着車以外〉**
  ヒルスタートアシスト機能が故障した時に点灯します。
  点灯したときはヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押して，日産販売会社で点検をお受けください。
- **ヒューズ交換時の注意**

⚠ 注意

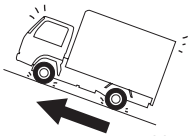
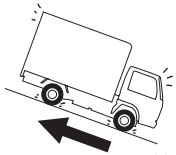
ヒューズやハイカレントヒューズを交換するときは，スタータースイッチを“LOCK”位置，各スイッチをOFF位置にしてください。通電したままヒューズやハイカレントヒューズを交換すると電気装置が故障するおそれがあります。なお，ヒルスタートアシスト機能作動中にヒルスタートアシスト機能のヒューズやハイカレントヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され，坂道では車が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヒューズの交換については16-13ページをごらんください。

2. 作動

2.1 ヒルスタートアシスト機能が作動するとき

ヒルスタートアシスト機能は，ギヤシフトレバーが “D” 位置または “R” 位置で上り坂で停止したときに自動的に作動します。

ギヤシフトレバー位置	
“D” 位置	“R” 位置
前進で登板時	後退で登板時
 Y00541	 Y00542

ただし，平坦路や下り坂で停止したときは作動しません。

知識

次のときは (P) インジケーターランプ（緑色）が点灯せず，ヒルスタートアシスト機能が作動しない場合があります。

- 緩い上り坂のとき
- うねりや起伏などがある路面に停車したとき
- 積み荷により車体が傾斜しているとき
- 急ブレーキやタイヤをロックさせて停車したとき
- ヒルスタートアシスト機能に異常があるとき

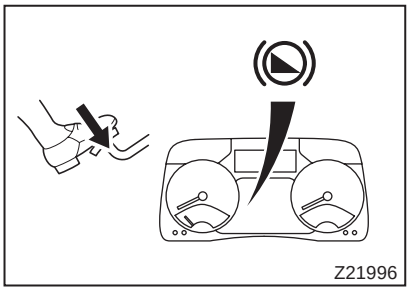
2.2 ヒルスタートアシスト機能を作動させる

⚠ 注意

ヒルスタートアシスト機能が作動しているときに次の操作を行わないでください。操作をするとシステムが解除され車が動き，思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押し，ヒルスタートアシスト機能を停止させたとき
- ギヤシフトレバーを操作したとき
- スタータースイッチを “ACC” 位置にしたとき
- ヒューズやバッテリーを外したとき

①ブレーキペダルをしっかり踏み込み停車します。
②ブレーキペダルを ⓐ インジケーターランプ（緑色）が点灯するまで踏み込んだままにします。



知識

ブレーキペダルは数秒以上踏み込まないとシステムは作動しません。ⓐ インジケーターランプ（緑色）が点灯するまで確実に踏み込みます。

③ ⓐ インジケーターランプ（緑色）が点灯したらブレーキペダルから足を離して発進するまでの数秒間，制動力が保持されます。
発進するときはブレーキペダルから足を離してからアクセルペダルをゆっくり踏んで発進します。発進できるようになるとブレーキは解除され，同時に ⓐ インジケーターランプ（緑色）が消灯します。

⚠ 注意

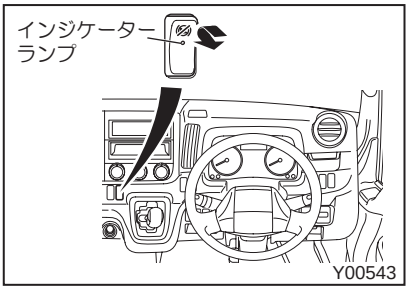
ヒルスタートアシスト機能作動中，ブレーキペダルから足を離して数秒経過すると，警報ブザーが鳴り，その後，システムが強制的に解除されます。アクセルペダルを踏み込んで発進するかブレーキペダルを再度しっかり踏み込んでください。システムが解除されると車が動き，思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- アクセルペダルの踏み込みが足りないと，ブレーキが解除されないことがあります。
- 積載量が多いときや，急な上り坂では車が後退する場合があります。このときは駐車ブレーキを使用し，発進してください。
- ギヤシフトレバーが “R” 位置のときはバックブザーが鳴るため，ヒルスタートアシスト機能の警報ブザーは聞こえづらくなります。
- ヒルスタートアシスト機能が作動中でもブレーキペダルから足を離すとストップランプは消灯します。
- アイドリングストップシステム装着車はエンジンが自動停止してもヒルスタートアシスト機能は作動します。

2.3 ヒルスタートアシスト機能を解除するとき

ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押すとヒルスタートアシスト機能が停止します。ヒルスタートアシスト機能の停止を解除するときにはもう一度押します。
ヒルスタートアシスト機能停止中はスイッチのインジケーターランプが点灯します。



知識

- ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押し，ヒルスタートアシスト機能を停止しても，スタータースイッチを一度“LOCK”位置にすると自動的にヒルスタートアシスト機能が作動可能な状態になります。
- アイドリングストップシステム装着車はエンジン自動停止中にヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押しシステムを解除しても，(P) インジケーターランプ（緑色）が消灯しない場合がありますが故障ではありません。

アドバイス

次の場合はヒルスタートアシスト機能を使用しない方が運転しやすい場合があります。

- 発進，停止を繰り返して停車位置を調整するとき
  （車をプラットホームなどの停車位置に合わせて止めるとき，ヒルスタートアシスト機能を使用し，アクセルペダルを急に踏み込むと思わぬ車の飛び出しがあります）
- 滑りやすい路面で車を完全に停止させず，ブレーキペダルを調整して，微速で走行させたいとき
  （滑りやすい路面では停車直前にヒルスタートアシスト機能が作動することがあります）
- 滑りやすい路面で発進するとき

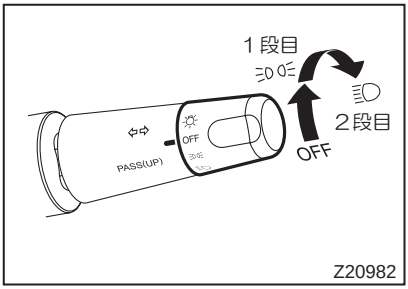
3. インジケーターランプ，ウォーニングランプ（橙色）が点灯及び警報ブザーが鳴ったとき

- 次の表に示す必要な処置を行ってください。
- インジケーターランプ〈アイドリングストップシステム装着車〉，ウォーニングランプ（橙色）〈アイドリングストップシステム装着車以外〉が点灯したときは，ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押し，日産販売会社で点検をお受けください。
- 警報ブザーが鳴った後，システムは強制的に解除されます。警報ブザーが鳴った時は，アクセルペダルを踏み込んで発進するかブレーキペダルを再度しっかり踏み込んでください。

状況	警報		処置
	インジケーターランプまたはウォーニングランプ（橙色）	ブザー	
ヒルスタートアシスト機能を作動させた後，ブレーキペダルから足を離して数秒経過したとき	—	ピッピッピッの断続音	アクセルペダルを踏み込んで発進するかブレーキペダルを再度しっかり踏み込んでください
ヒルスタートアシスト機能が故障したとき	点灯	—	安全な場所に停車し，ヒルスタートアシスト機能カットスイッチを押してヒルスタートアシスト機能が作動しないようにします
ヒルスタートアシスト機能作動中に，駐車ブレーキを効かせないで運転席側または助手席側のドアを開けたとき〈アイドリングストップシステム装着車〉	—	連続音	ブザーは駐車ブレーキを効かせると鳴り止みます

ライトスイッチ

スタータースイッチが “ON” 位置のとき使用できます。
スイッチを回すと〇印ランプが点灯します。



ランプ名称	≡D（2 段目）	≡D（1 段目）	OFF
ヘッドランプ	〇	—	—
クリアランスランプ	〇	〇	—
テールランプ	〇	〇	—
ライセンスランプ	〇	〇	—
メーター照明	〇	〇	—

⚠ 注意

ランプが点灯しているときや消灯直後はレンズに触れないでください。レンズが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。

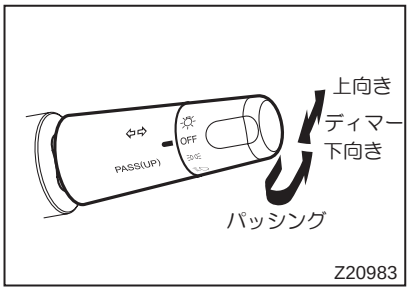
アドバイス

エンジンを停止し，ヘッドランプなどを長時間点灯しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

パッシング，ディマースイッチ

1. パッシング

レバーを手前に引き上げるとその間だけヘッドランプの上向きが点灯します。
同時に ≣◗ インジケーターランプが点灯します。



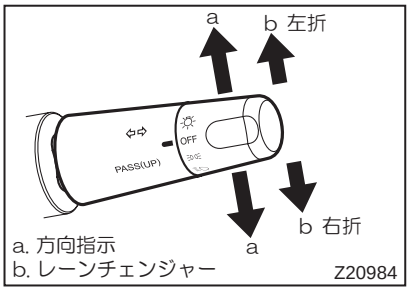
2. ハイビーム

ヘッドランプを点灯させた状態でレバーを下に押すとヘッドランプが上向き（ハイビーム）に，レバーを引き上げると下向き（ロービーム）に切り替わります。ハイビーム点灯時は同時に ≣◗ インジケーターランプが点灯します。

方向指示スイッチ

1. 方向指示

レバーを操作すると操作した側の方向指示灯が点滅します。同時に ⬅➡ インジケーターランプが点滅します。
レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。
ゆるいカーブなどで自動で戻らないときは手で戻してください。

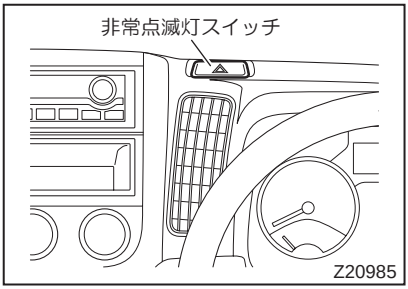


2. レーンチェンジャー

レバーを軽く操作すると，その間だけ方向指示灯が点滅します。同時に ⬅➡ インジケーターランプが点滅します。

非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ

路上で緊急停止するときに使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時に ◀▶ インジケーターランプが点滅します。
もう一度スイッチを押すと消灯します。

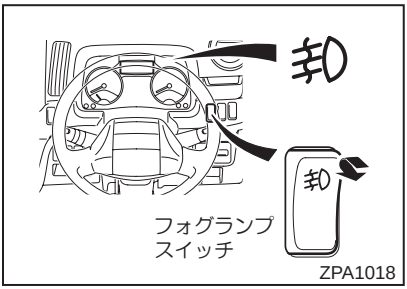


アドバイス

エンジンを停止し，非常点滅灯を長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

フォグランプスイッチ＊

霧や雪などで見通しの悪いときに使用します。
ライトスイッチが ≡D◇ または ≡◇ 位置のとき，フォグランプスイッチを押すとフォグランプが点灯します。フォグランプが点灯しているときは ≡◇ インジケーターランプが点灯します。
再度，押すと消灯します。



⚠ 注意

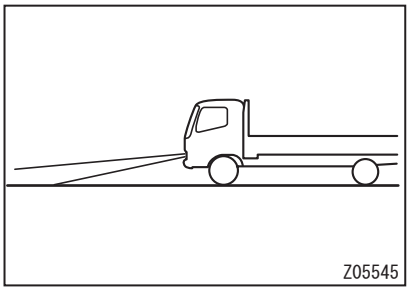
ランプが点灯しているときや消灯直後はレンズに触れないでください。レンズが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。

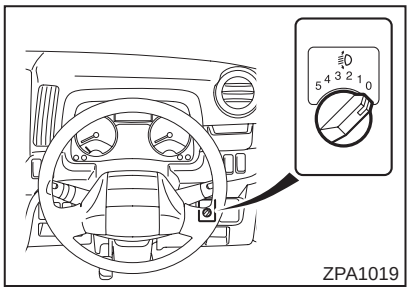
ヘッドランプレベライザースイッチ＊

⚠ 注意

- ヘッドランプの照射方向は積載量や積載位置により変化します。対向車のフロントガラスや前を走行する車のミラーを照らすようなときは，ヘッドランプレベライザースイッチで照射方向を下向きに調整してください。
- 照射方向を必要以上に下げないでください。視界が悪くなります。

- ヘッドランプの照射方向（光の照らす方向）は，荷物の重さや位置によって変化します。
- 荷物をのせて，ヘッドランプの下向き照射方向がいつもより上向きになった場合は，ヘッドランプレベライザースイッチを回して照射方向を下向きに調整します。数字が大きくなるほど，下向きになります。
- 空車時は通常，スイッチを“0”の位置にします。





ヘッドランプオートレベライザーシステム＊

ヘッドランプオートレベライザーシステムは，荷物の積み降ろしの車両姿勢の変化に応じて，ヘッドランプの照射方向（光の照らす方向）を適正に制御するシステムです。
照射方向は次の状態のときにライトスイッチを ≡D 位置にすると制御されます。

- 停車中に荷物の積み降ろしをしているとき
- 平坦な舗装路を約 40km/h 以上で走行しているとき
  （路面状況によっては照射方向を制御するまでの時間が異なります）

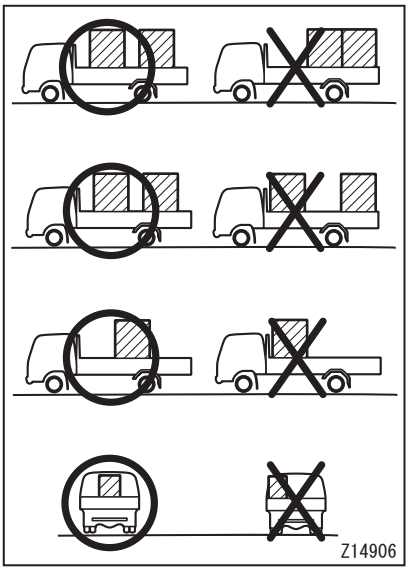
知識

スタータースイッチを“ACC”から“ON”位置にしたとき，システムが作動しヘッドランプの照射方向が動くことがありますが異常ではありません。

1．荷物の積み方と走行時の注意

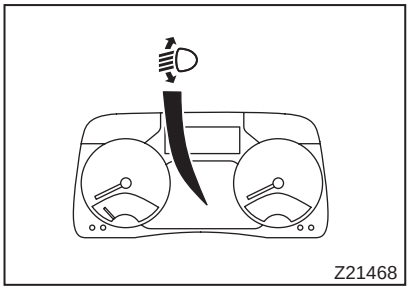
ヘッドランプオートレベライザーシステム装着車を取扱うときは次のことをお守りください。取扱いを誤まるとヘッドランプの照射方向によっては，対向車のフロントガラスや前を走行する車のミラーを照らし思わぬ事故につながるおそれがあります。また，照射方向が下がりすぎると視界が悪くなることがあります。

- 荷物（荷物の重量）は，かたよらないように均等に積んでください。かたよった積み方をするとヘッドランプの照射方向が適正に制御できないことがあります。照射方向は平坦な舗装路を走行すると適正に制御されます。
- 縁石に乗り上げたときや急な坂道では，システムが正常に作動しません。照射方向は平坦な舗装路を走行すると適正に制御されます。



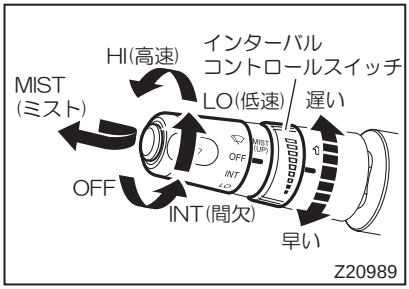
2. ウォーニングランプ

- ウォーニングランプが点灯したときやスタータースイッチを“ACC”から“ON”位置にすると点灯し，その後消灯しないときや走行中に点灯したときはヘッドランプオートレベライザーシステムの故障が考えられます。日産販売会社で点検をお受けください。
- ウォーニングランプが消えているにもかかわらず照射方向が異常と感じるときはシステムの調整が必要です。日産販売会社で点検をお受けください。



ワイパースイッチ

OFF：停止
INT： 間欠作動
　インターバルコントロールスイッチを操作することにより，作動間隔を３～14 秒の範囲で変えられます。
LO： ゆっくりと動きます。
HI： 速く動きます。
MIST：レバーを手前に引き上げると１回動きます。



アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままワイパーを作動させないでください。ワイパーアーム破損の原因になります。
- ガラスが乾いているときは，ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーブレードを傷つけるおそれがあります。必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。
- 凍結などでワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いているときは，ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。
- ワイパーを長時間使用していなかったときには，ワイパーブレードとガラスの間にホコリや砂などがたまっていることがあります。
　そのまま作動させるとガラスに傷をつけますので清掃してから使用してください。

ウォッシャースイッチ

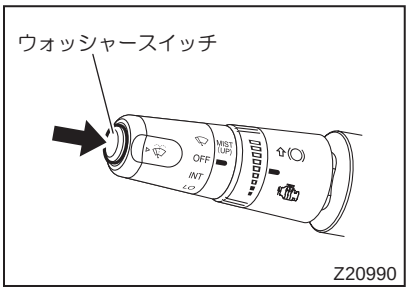
⚠ 注意

寒冷時はガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。ガラスに噴射した液が凍結し，視界が悪くなるおそれがあります。ヒーターなどを使ってガラスを暖めてください。

アドバイス

- ウォッシャースイッチは周囲の状況をよく確認してから操作してください。使用状況によってはウォッシャー液が周囲に飛散するおそれがあります。
- ウォッシャースイッチは連続 20 秒以上操作しないでください。モーターが焼付くおそれがあります。
- ウォッシャー液がないときはウォッシャースイッチを操作しないでください。モーターが焼付くおそれがあります。

ボタンを押している間，フロントガラスにウォッシャー液が噴射され，ワイパーが数回作動します。



ミラー

⚠ 注意

- 狭い道路を走行するときや右左折時は，内輪差に十分注意し，ミラーや側方確認窓で安全を確認してください。
- 狭い道を走行するときは，張り出したミラーが歩行者などに当たらないよう注意してください。
- 運転中ミラーを見ると視線が大きく移動します。前方の安全には十分注意してください。
- 雨天走行時はミラーに水滴が付着し，後方の視界が悪くなります。車を停車させ水滴をふき取り視界を確保してください。

1. 写影の調整

正しい運転姿勢を取り，後方や側面及び直前，直左の状況が十分に確認できるようにするため，アウトサイドミラー及びフロントアンダーミラーの写影を次のように調整します。また鏡面が汚れている場合は清掃します。

⚠ 注意

写影の調整は走行前に行ってください。
走行中に調整すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

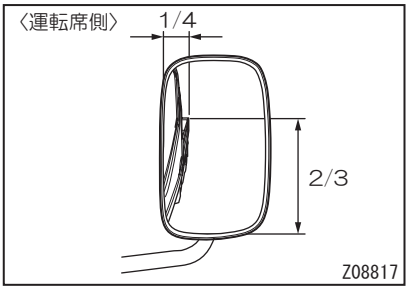
1.1　アウトサイドミラー

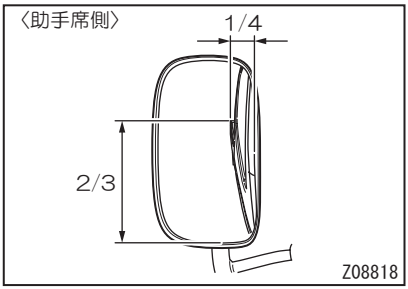
● **左右方向**

鏡の約 1/4 に車体側面が写るようにします。

● **上下方向**

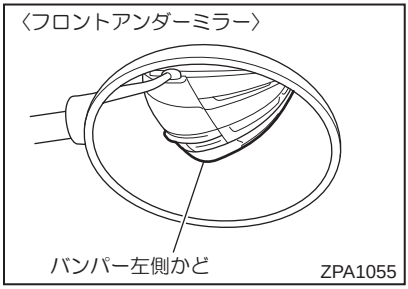
運転席側は右ドアガラスの後部下側かど，助手席側は左ドアガラスの後部下側かどが鏡の 2/3 の高さに写るようにします。





1.2　フロントアンダーミラー

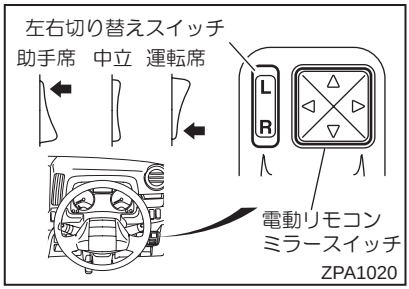
バンパー左側かどが中央部に写るようにします。



1.3　電動リモコンミラー＊

電動リモコンミラースイッチの操作で左右のアウトサイドミラーの角度が調整できます。
スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のとき操作できます。

①左右切り替えスイッチを押して調整するアウトサイドミラーを選択します。
②リモコンミラースイッチの“△”部を押してアウトサイドミラーの角度を調整します。
③左右切り替えスイッチは，調整後中立位置にします。



2. ミラーの格納

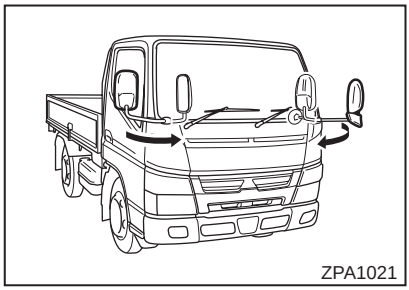
狭い道を曲がるときや，狭い道で対向車とすれ違うとき及び駐車するときに格納します。

⚠ 注意

アウトサイドミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方視界が確認できず思わぬ事故につながるおそれがあります。

2.1　手動格納＊

アウトサイドミラーを手で内側に動かすことができます。
戻すときはアウトサイドミラーがロックされるまで回します。



2.2 電動格納＊

電動格納ミラースイッチの操作でアウトサイドミラーを内側に格納することができます。スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のとき操作できます。電動格納ミラースイッチは“助手席側”のみと“運転席側と助手席側”の両方格納できるタイプがあります。“運転席側と助手席側”が格納できるタイプは，両側同時格納または片側格納ができます。

⚠ 注意

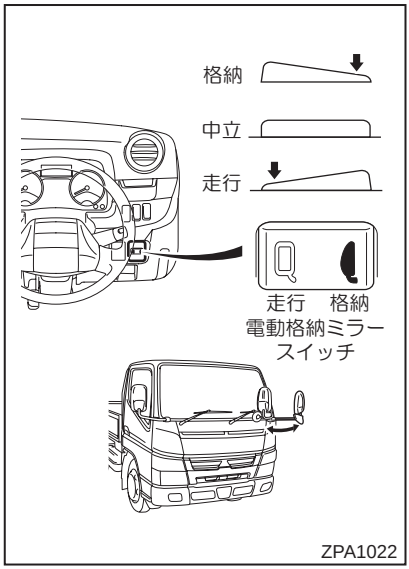
- 走行中は電動格納ミラースイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アウトサイドミラー格納操作をする前に，アウトサイドミラー付近に人や障害物がないことを確認してください。格納するアウトサイドミラーに体の一部をはさまれケガをするおそれがあります。また，故障の原因にもなります。

アドバイス

- 電動格納ミラースイッチは中立の位置にしたまま走行しないでください。ミラーが振動して像が見にくくなるおそれがあります。
- 緊急時以外はアウトサイドミラーを手で動かさないでください。故障の原因になります。
- ミラー作動中に障害物などに当たるとその位置で自動停止しますので，停止から約6秒後に電動格納ミラースイッチを押しなおしてください。停止直後にスイッチを操作しても作動しません。

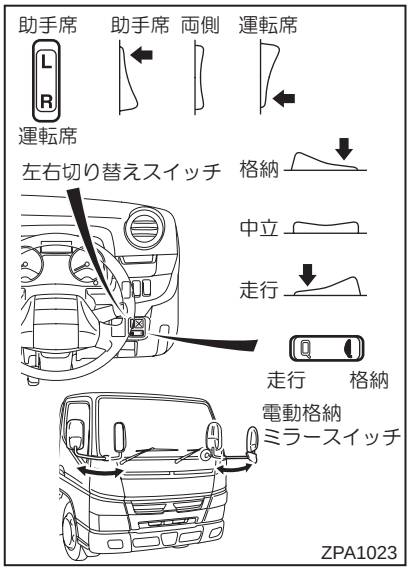
● **助手席側格納タイプ**

- 電動格納ミラースイッチを押すとミラーを格納または走行位置に動かすことができます。
- ミラー作動途中にスイッチを中立位置にするとその位置で停止します。



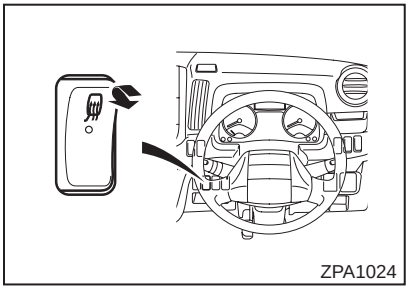
● **運転席側と助手席側格納タイプ**

- 電動格納ミラースイッチを押すとミラーを格納または走行位置に動かすことができます。ミラー作動途中にスイッチを中立位置にするとその位置で停止します。
- 左右切り替えスイッチを押すと運転席側と助手席側の両側同時格納または片側格納を切り替えることができます。



3. ミラーヒータースイッチ＊

スタータースイッチが “ON” 位置のとき使用できます。
スイッチを押すと左右のミラーのくもりや霜が取れます。
くもりや霜が取れたらスイッチを再度押します。
スイッチを “ON” にしたまま，約 30 分経つと自動的に切れます。


ZPA1024

アドバイス

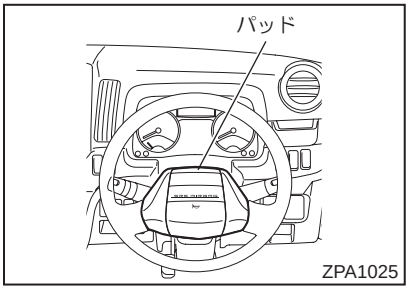
エンジンを止めたまま使用しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

ホーンスイッチ

⚠ 警告

ハンドルのパッドなど SRS エアバッグ収納部を強くたたいたり，過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

ハンドル中央のパッドを押すとホーンが鳴ります。



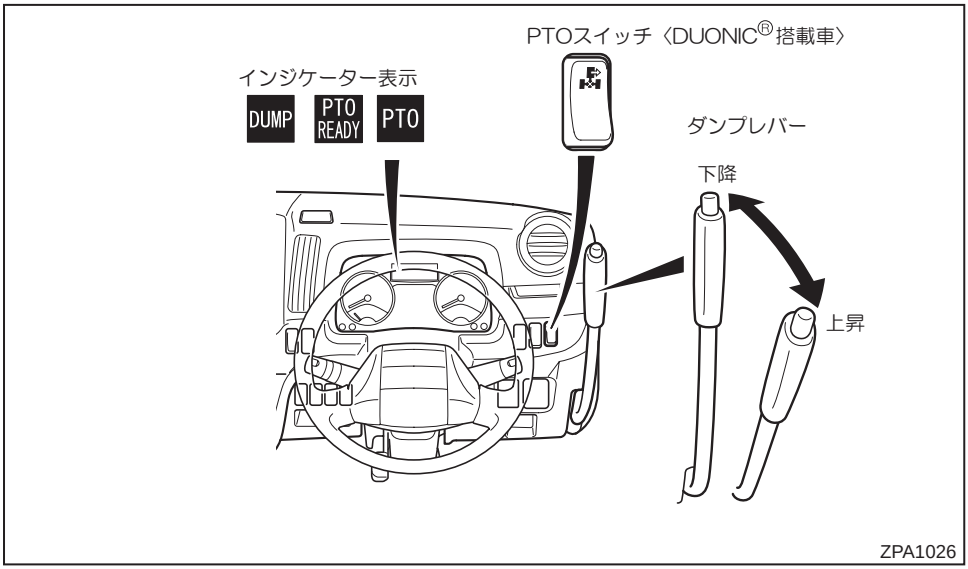
ZPA1025

ダンプトラック＊

ダンプトラックの取扱いについて説明してあります。架装物の取扱いについては架装メーカーの取扱説明書をごらんください。

1. 装置

1.1　FEBM 型ダンプ車以外



● PTO スイッチ〈DUONIC 2.0 搭載車〉
トランスミッションからの動力を取り出すPTOを“ON”，“OFF”するスイッチです。

● ダンプレバー
荷台を上昇または下降させるレバーです。
ボタンを押しながら上昇位置にすると荷台が上昇します。
下降位置にすると荷台は下降します。荷台を上昇または下降の途中で一時的に停止させるときはレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

● マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示
- マニュアルミッション搭載車は，ダンプレバーを上昇位置に操作しトランスミッションPTO が接続されると PTO を表示します。
- DUONIC 2.0搭載車は，PTOスイッチを“ON”にしトランスミッションPTOが接続されると PTO を表示します。

- PTO READY はトランスミッション PTO 接続中に表示します。
- DUMP はダンプレバーが上昇位置のとき表示します。

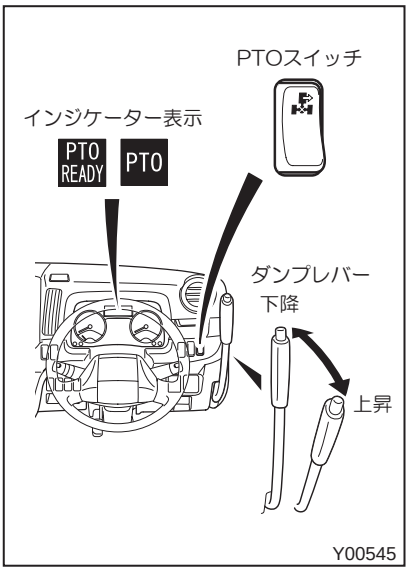
1.2 FEBM 型ダンプ車

●PTO スイッチ

トランスミッションからの動力を取り出す PTO を “ON”，“OFF” するスイッチです。

●ダンプレバー

荷台を上昇または下降させるレバーです。
ボタンを押しながら上昇位置にすると荷台が上昇します。
下降位置にすると荷台は下降します。荷台を上昇または下降の途中で一時的に停止させるときはレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。



●マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示

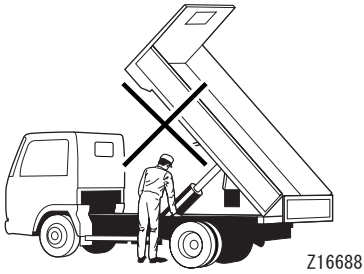
- マニュアルミッション搭載車はトランスミッション PTO が接続されると PTO を表示します。
- DUONIC 2.0 搭載車は，トランスミッション PTO 接続中に PTO READY を表示し，接続されると PTO を表示します。

2. 操作

ダンプトラックの一般的な操作について説明してあります。ダンプ操作及び取り扱い詳細は架装メーカーの取扱説明書をごらんください。

⚠ 警告

- 上昇または下降している荷台の下には絶対に入らないでください。荷台にはさまれ重大な事故につながるおそれがあります。
- ダンプ操作時は車の周りや荷台に人や障害物がないことを確認してください。周りや荷台に人や障害物があると重大な事故につながるおそれがあります。整備等でやむを得ず荷台の下に入るときは安全処置を必ず行ってください。7-109 ページをごらんください。



- 荷台を上昇したまま放置することは絶対にやめてください。荷台が下がり重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ダンプ操作は必ず平たんな場所で行ってください。傾斜地や軟弱な地盤では車が横転し思わぬ事故につながるおそれがあります。また，各部のねじれにより故障の原因になります。
- 荷台を上昇したまま走行することは絶対にやめてください。荷台を損傷し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アイドリングストップシステム装着車はアイドリングストップシステムカットスイッチを押してください。PTO 作動中，アイドリングストップシステムは作動しませんが PTO の接続を解除後，不意にアイドリングストップシステムが作動し思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

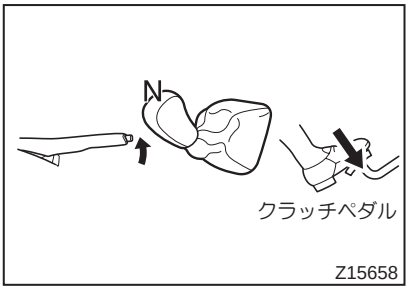
PTO 作動中，アイドリングストップシステムは作動しません。
PTO の作動前にアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止したりして操作がわずらわしいときはアイドリングストップシステムカットスイッチを押してください。

2.1　荷台の上昇

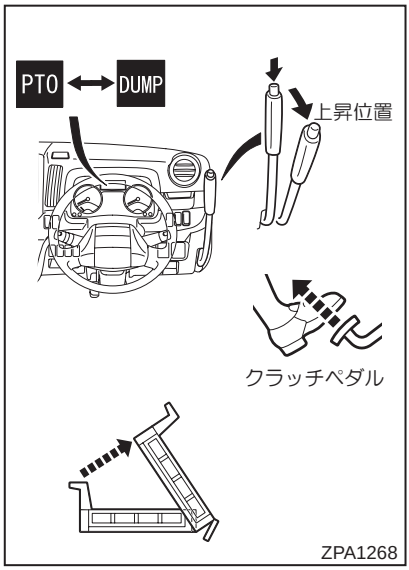
2.1.1　FEBM 型ダンプ車以外

● マニュアルトランスミッション搭載車

①ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキを効かせます。
②ギヤシフトレバーをニュートラル位置にし，エンジンをアイドリング回転にします。
③クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。



④ボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置にします。ボタンから手を離すとダンプレバーはロックします。
⑤マルチインフォメーションディスプレイに PTO ，DUMP が交互に表示することを確認します。
⑥アクセルペダルをゆっくり踏み込みながらクラッチペダルを徐々に戻します。荷台が上昇します。荷台は最上昇すると自動で止まります。



⚠ 注意

荷台を一時的に途中で止めたときはダンプレバーから手を離さないでください。ダンプレバーは上昇位置と下降位置の途中ではロックされません。ダンプレバーから手を離すと荷台が上昇または下降し思わぬ事故につながるおそれがあります。

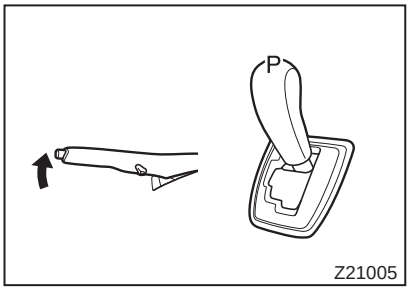
知識

荷台を一時的に途中で止めたいときはボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

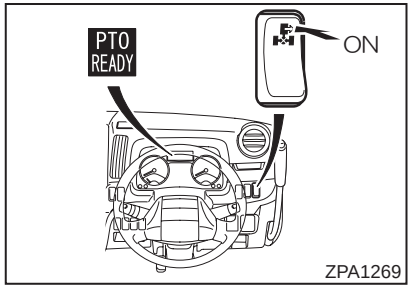
● DUONIC 2.0 搭載車

①ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキを効かせます。

②ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンをアイドリング回転にします。



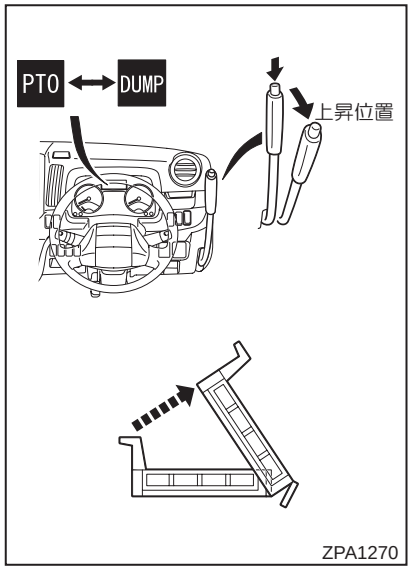
③PTO スイッチを押し，ON にします。マルチインフォメーションディスプレイに PTO READY を表示していることを確認します。



④ボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置にすると PTO ，DUMP を交互に表示し，荷台が上昇します。アクセルペダルを踏み込めば上昇速度が速くなります。ボタンから手を離すとダンプレバーはロックします。

⚠ 注意

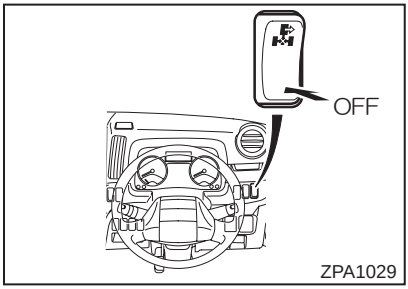
荷台を一時的に途中で止めたときはダンプレバーから手を離さないでください。ダンプレバーは上昇位置と下降位置の途中ではロックされません。ダンプレバーから手を離すと荷台が上昇または下降し思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

荷台を一時的に途中で止めたいときはボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

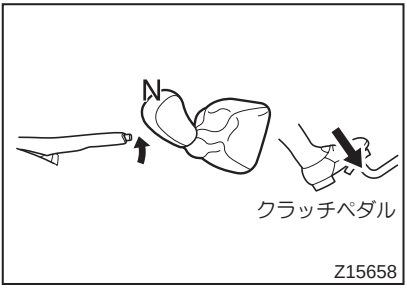
⑤荷台は最上昇すると自動的に止まります。
⑥PTO スイッチを押し，OFF にします。



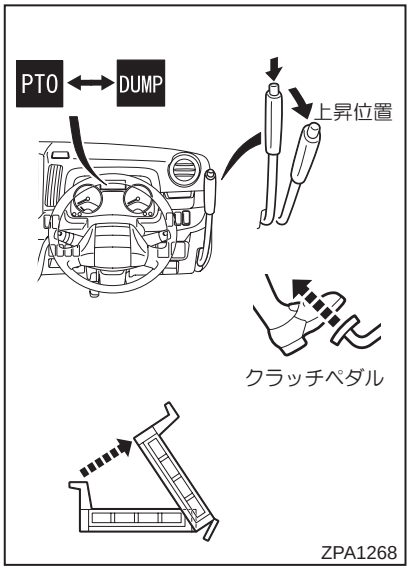
2.1.2　FEBM 型ダンプ車

● マニュアルトランスミッション搭載車

①ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキを効かせます。
②ギヤシフトレバーをニュートラル位置にし，エンジンをアイドリング回転にします。
③クラッチペダルをいっぱいに踏み込み PTO スイッチを押し，ON にします。



④マルチインフォメーションディスプレイに PTO を表示するのを確認後，クラッチペダルを徐々に戻します。
⑤ダンプレバーのボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置にすると荷台が上昇します。
このときアクセルペダルを踏み込めば上昇速度が速くなります。
ボタンから手を離すとダンプレバーはロックします。
⑥荷台は最上昇すると自動で止まります。
⑦クラッチペダルを踏み込んで PTO スイッチを OFF にします。



⚠ 注意

荷台を一時的に途中で止めたときはダンプレバーから手を離さないでください。ダンプレバーは上昇位置と下降位置の途中ではロックされません。ダンプレバーから手を離すと荷台が上昇または下降し思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ダンプレバーは中立位置の状態を長く続けないでください。
ダンプ装置の油圧ポンプの油圧が上昇し，故障の原因になります。

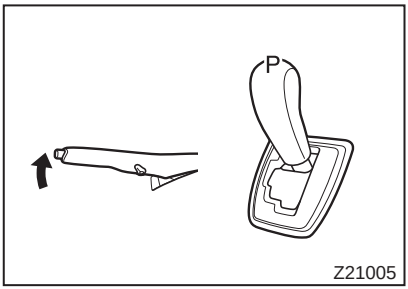
知識

荷台を一時的に途中で止めたいときはボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

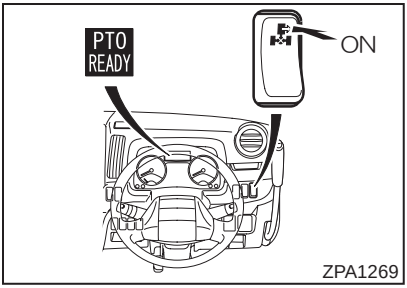
● DUONIC 2.0 搭載車

①ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキを効かせます。

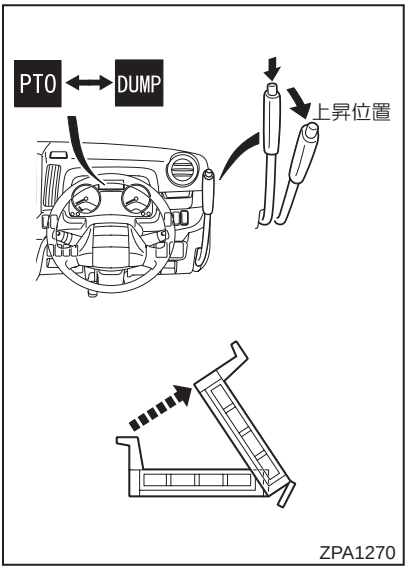
②ギヤシフトレバーを“P”位置にし，エンジンをアイドリング回転にします。



③PTO スイッチを押し，ON にします。マルチインフォメーションディスプレイに PTO READY を表示しPTO の接続が完了すると PTO を表示します。



④ダンプレバーのボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置にすると荷台が上昇します。
このときアクセルペダルを踏み込めば上昇速度が速くなります。
ボタンから手を離すとダンプレバーはロックします。



⚠ 注意

荷台を一時的に途中で止めたときはダンプレバーから手を離さないでください。ダンプレバーは上昇位置と下降位置の途中ではロックされません。ダンプレバーから手を離すと荷台が上昇または下降し思わぬ事故につながるおそれがあります。

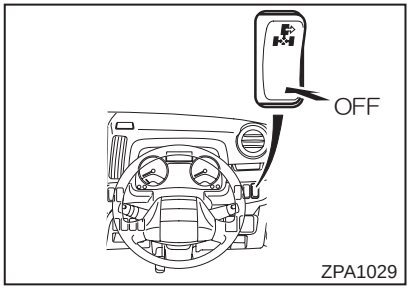
アドバイス

ダンプレバーは中立位置の状態を長く続けないでください。
ダンプ装置の油圧ポンプの油圧が上昇し，故障の原因になります。

知識

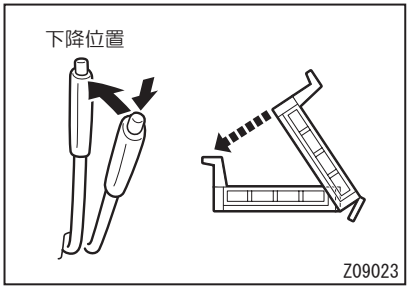
荷台を一時的に途中で止めたいときはボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

⑤荷台は最上昇すると自動的に止まります。
⑥PTO スイッチを押し，OFF にします。



2.2　荷台の下降

①エンジンをアイドリング回転または停止にします。
②ボタンを押しながらダンプレバーを下降位置にします。荷台が降りてきます。ボタンから手を離すとダンプレバーはロックします。



⚠ 注意

荷台を一時的に途中で止めたときはダンプレバーから手を離さないでください。ダンプレバーは上昇位置と下降位置の途中ではロックされません。ダンプレバーから手を離すと荷台が上昇または下降し思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

下降中の荷台を急上昇させたり，途中で急停止させたりすると故障の原因になります。ダンプレバーはゆっくり操作してください。

知識

荷台を一時的に途中で止めたいときはボタンを押しながらダンプレバーを上昇位置と下降位置の途中で止めます。

2.3 走行するときは

⚠ 注意

荷台を上昇したまま走行することは絶対にやめてください。荷台を損傷し思わぬ事故につながるおそれがあります。

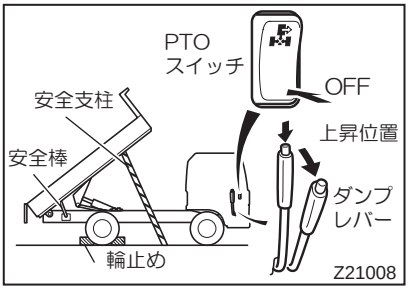
- 荷台は完全に降りていることを確認します。
- ダンプレバーは必ず下降位置にあることを確認しボタンを押さずにダンプレバーを動かし，ロックされていることを確認します。
- マルチインフォメーションディスプレイの PTO，PTO READY（DUONIC 2.0 搭載車），DUMP（FEBM 型ダンプ車以外）の表示が消えていることを確認します。

2.4 点検，手入れ

⚠ 警告

整備などでやむを得ず荷台の下に入るときは，必ず空車状態で行い，さらに次の処置を行ってください。荷台にはさまれ重大な事故につながるおそれがあります。

①駐車ブレーキを確実に効かせ，タイヤに輪止めをかけます。
②荷台を上昇させます。DUONIC 2.0 搭載車及びFEBM型ダンプ車はPTOスイッチを押し，OFFにします。
③エンジンを止めます。
④安全棒をセットします。安全棒が荷台側受け皿に入るまで荷台を下降させます。
⑤安全支柱（10cm 角以上の十分な強度のある角材など）を２本用いて荷台の両側を支えます。
⑥ダンプレバーは上昇位置にしてください。



トランスミッション PTO ＊

⚠ 注意

- PTO の接続はアイドリング回転数で行ってください。また，アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にしてください。アイドリング調整ボタンでエンジン回転を上げた状態で，PTO を接続するとエンジン回転数が上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- PTO 使用中は インジケーターランプが点滅していないことを確認してください。
  インジケーターランプが点滅したまま，長時間 PTO 作動するとエンジン出力が変動し，思わぬ事故を起こすおそれがあります。
  PTO を使用する前にインジケーターランプが点滅している場合は，DPF 手動再生を行ってから PTO を使用してください。PTO 使用中にインジケーターランプが点滅した場合は，作業を中断し DPF 手動再生を行ってください。7-130 ページをごらんください。
- アイドリングストップシステム装着車はアイドリングストップシステムカットスイッチを押してください。PTO 作動中，アイドリングストップシステムは作動しませんが PTO の接続を解除後，不意にアイドリングストップシステムが作動し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- PTO を操作するときは必ず駐車ブレーキを効かせ，DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にしてください。“N” 位置でも作動しますが，安全のため “P” 位置で操作してください。“P” または “N” 位置以外にすると車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。(P レンジシフトホールド機能装着車は，PTO 操作が “P” 位置のみでしかできません。また，PTO 接続中は “P” 位置以外にできません。)
  とくに，PTO 作業時，車外からエンジンをコントロールするときは，必ず駐車ブレーキが効いていること，及び DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーが “P” 位置であることを確認してください。
- 走行するときは PTO の接続を解除してください。
  PTO を作動させたまま走行すると架装物が作動してしまうことがあり思わぬ事故につながるおそれがあります。また，架装物の故障の原因になります。

知識

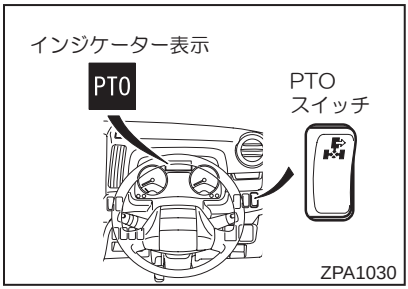
- PTO とは
  Power Take-Off の略称で動力取り出し装置のことです。
  トランスミッション PTO はトランスミッションから動力を取り出して油圧ポンプなどを駆動します。
- PTO 作動中，アイドリングストップシステム＊は作動しません。PTO の作動前にアイドリングストップシステムが作動しエンジンが自動停止したりして操作がわずらわしいときはアイドリングストップシステムカットスイッチを押してください。
- PTO 使用中は，DPF 自動再生及び DPF 手動再生は作動しません。
- DUONIC 2.0搭載車は，PTO接続中にギヤシフトレバーを“P”または“N”位置以外にしたり，走行中に PTO スイッチを押すと PTO を表示し，ブザーが鳴り警報します。（P レンジシフトホールド機能装着車は，PTO 接続中は “P” 位置以外にできません。）

1. スイッチ式

1.1 マニュアルトランスミッション搭載車

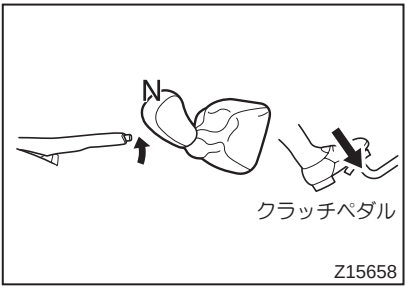
1.1.1 装置

- **PTO スイッチ**
  PTO を接続，または解除するときに使用します。
- **マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示**
  PTO はトランスミッション PTO が接続したときに表示します。



1.1.2 PTO の接続

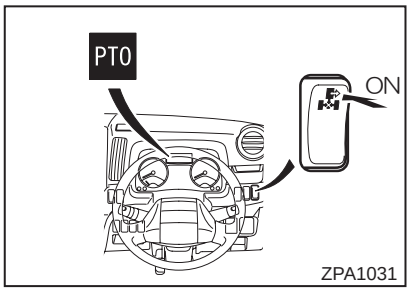
①駐車ブレーキが効いていることを確認します。
②ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認します。
③クラッチペダルを踏み込みエンジンを始動し，暖機運転完了後，アイドリング回転にします。
④アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にします。



⑤ インジケーターランプが点滅していないことを確認します。点滅している場合は，PTO 接続前に DPF 手動再生を行います。

⑥クラッチペダルをいっぱいに踏み込み PTO スイッチを押し，ON にします。

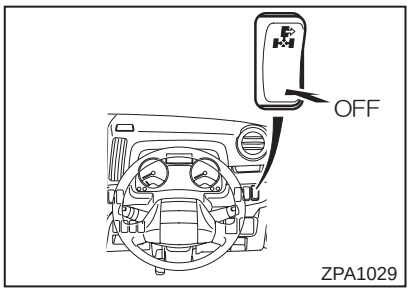
⑦マルチインフォメーションディスプレイに PTO を表示するのを確認後，クラッチペダルをゆっくり離すと PTO が接続されます。



1.1.3　PTO の解除

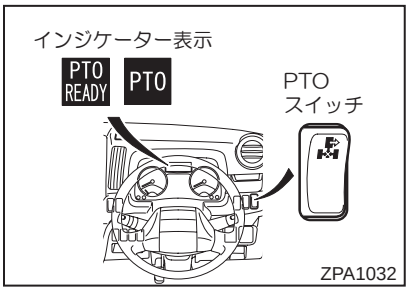
①クラッチペダルをいっぱいに踏み込み，PTO スイッチを押し，OFF にします。

②マルチインフォメーションディスプレイの PTO 表示が消えます。



1.2 DUONIC 2.0 搭載車

1.2.1 装置



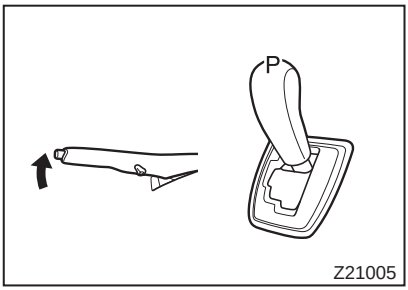
● PTO スイッチ

PTO を接続，または解除するときに使用します。

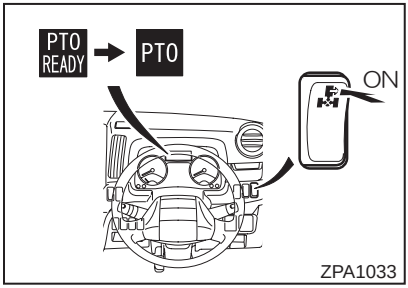
● マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示

- PTO READY はトランスミッション PTO 接続中に表示します。
- PTO はトランスミッション PTO が接続したときに表示します。

1.2.2 PTO の接続



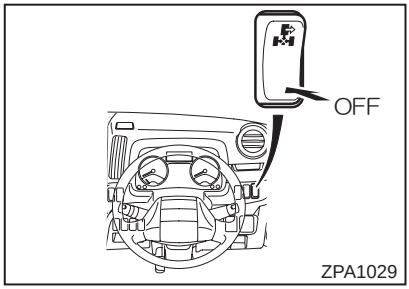
①駐車ブレーキが効いていることを確認します。
②ギヤシフトレバーが “P” 位置であることを確認します。
③ブレーキペダルを踏み込みエンジンを始動し，暖機運転完了後，アイドリング回転にします。
④アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にします。
⑤ インジケーターランプが点滅していないことを確認します。点滅している場合は，PTO 接続前に DPF 手動再生を行います。
⑥PTO スイッチを押し，ON にします。
⑦マルチインフォメーションディスプレイに PTO READY を表示し，PTOの接続が完了すると PTO を表示します。



> **知識**
>
> 状況によっては PTO READY を表示しない場合もありますが，異常ではありません。

1.2.3　PTO の解除

PTO スイッチを押し，OFF にします。
マルチインフォメーションディスプレイの PTO READY，PTO が消えているのを確認します。

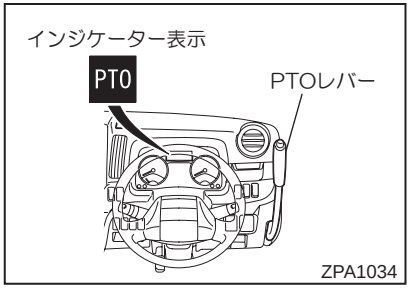


2. レバー式

2.1　マニュアルトランスミッション搭載車

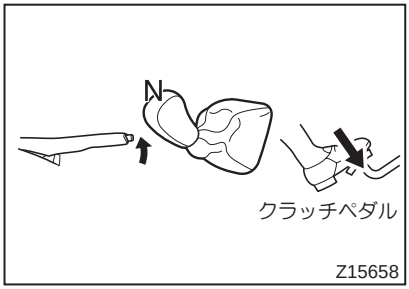
2.1.1　装置

- **PTO レバー**
  PTO を接続，または解除するときに使用します。
- **マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示**
  PTO はトランスミッション PTO が接続したときに表示します。

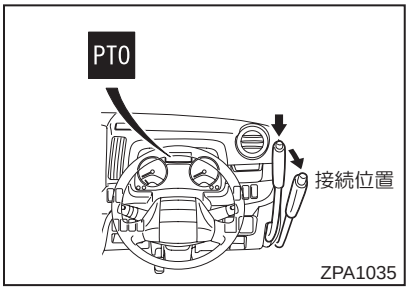


2.1.2　PTO の接続

①駐車ブレーキが効いているのを確認します。
②ギヤシフトレバーがニュートラル位置であることを確認します。
③クラッチペダルを踏み込みエンジンを始動し，暖機運転完了後，アイドリング回転にします。
④アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にします。
⑤ インジケーターランプが点滅していないことを確認します。点滅している場合は，PTO 接続前に DPF 手動再生を行います。



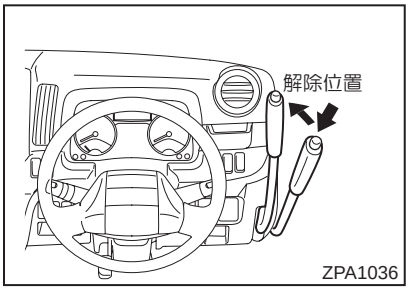
⑥クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
⑦ボタンを押しながら PTO レバーを接続位置にします。
⑧マルチインフォメーションディスプレイに PTO を表示するのを確認します。



⑨クラッチペダルをゆっくりと離すと PTO が接続されます。

2.1.3　PTO の解除

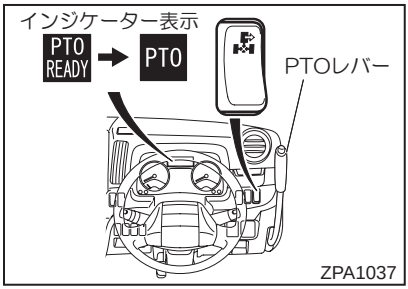
①クラッチペダルをいっぱいに踏み込み，ボタンを押しながら PTO レバーを解除位置にします。
②マルチインフォメーションディスプレイの PTO が消えます。
③ボタンを押さずに PTO レバーを動かし，ロックされていることを確認します。



2.2　DUONIC 2.0 搭載車

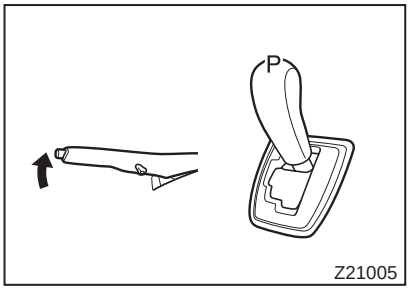
2.2.1　装置

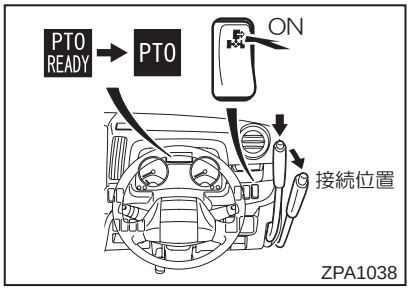
- **PTO レバー**
  PTO を接続，または解除するときに使用します。
- **PTO スイッチ**
  PTO を接続，または解除するときに使用します。
- **マルチインフォメーションディスプレイインジケーター表示**
  - PTO READY はトランスミッション PTO 接続中に表示します。
  - PTO はトランスミッション PTO が接続したときに表示します。



2.2.2　PTO の接続

①駐車ブレーキが効いているのを確認します。
②ギヤシフトレバーが “P” 位置であることを確認します。
③ブレーキペダルを踏み込みエンジンを始動し，暖機運転完了後，アイドリング回転にします。
④アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンを “AUTO” 位置にします。
⑤ インジケーターランプが点滅していないことを確認します。点滅している場合は，PTO 接続前に DPF 手動再生を行います。
⑥PTO スイッチを押し，ON にします。
⑦マルチインフォメーションディスプレイに PTO READY を表示します。
⑧ボタンを押しながら PTO レバーを接続位置にします。
⑨PTO が接続されると PTO を表示します。
⑩PTO レバーを解除位置にし，再度接続するときは手順 ⑦ からやり直します。



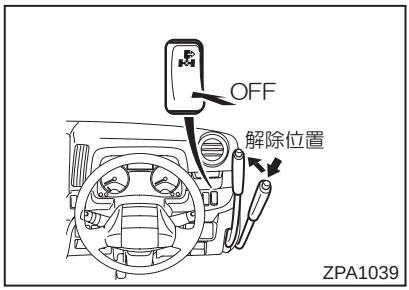


知識

状況によっては PTO READY を表示しない場合もありますが，異常ではありません。

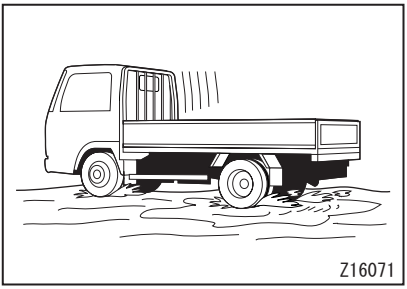
2.2.3　PTO の解除

①PTO スイッチを押し，OFF にします。
②マルチインフォメーションディスプレイの PTO が消灯し，PTO READY が表示します。
③PTO レバーを解除位置にします。PTO READY が消灯したことを確認します。



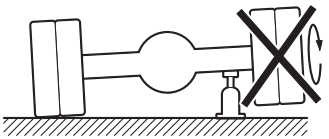
LSD（リミテッドスリップデフ）＊

リミテッドスリップデフ（Limited Slip Differential）は通常の旋回時の差動作用のほかに，スリップなどによる片輪の空転を自動的に防止します。
このため，悪路での走破性や，雪道，ぬかるみからの脱出性が向上します。


Z16071

⚠ 警告

ジャッキアップしたときはタイヤを回さないでください。後輪の片側をジャッキアップした状態で，タイヤを回すと車が動くことがあり重大な事故につながるおそれがあります。


Z09031

知識

- リミテッドスリップデフ装着車は運転席側ドアピラー部にリミテッドスリップデフ装着車であることを示すラベルがはってあります。
- リミテッドスリップデフ装着車のデファレンシャルオイルはリミテッドスリップデフ専用オイルを使用してください。

● 走行時の注意

- 滑りやすい路面での旋回中アクセルペダルを踏み込みすぎると，車両が横滑りして安定を失うことがあります。
- 左右タイヤの空気圧及び外径が異なっていると加速時にハンドルをとられたり，タイヤが異常摩耗する原因になります。
- 積み荷は均等に積んでください。
  後ろにかたよった積み方をすると直進性が多少強くなります。

作業用補助制動装置＊

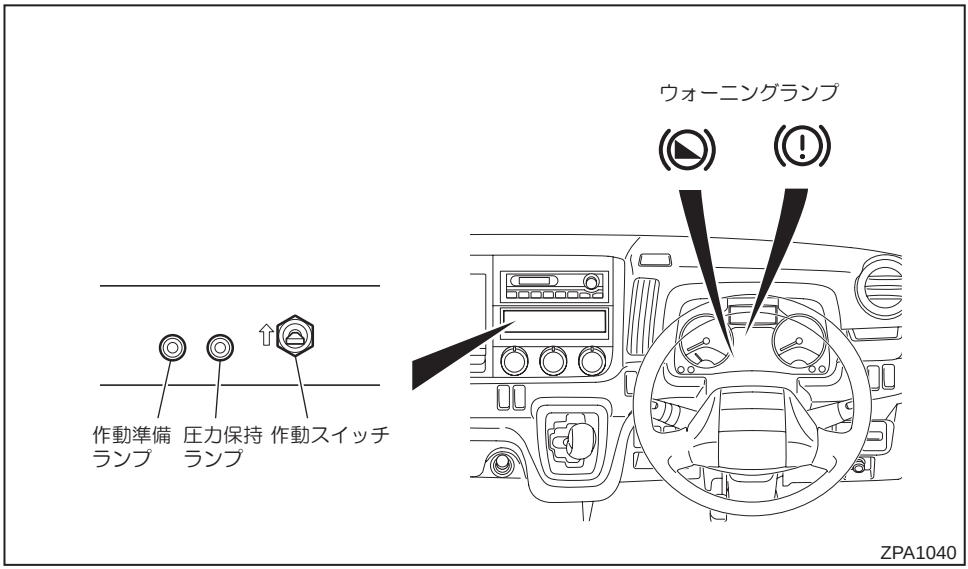
作業用補助制動装置とはエンジンをかけたままで一時停車し，各種作業を行うときにブレーキペダルを踏んだときと同様に車輪にブレーキを効かせる装置です。
駐車ブレーキのみでは作業の安全を確保できないおそれがあるときに使用します。

⚠ 注意

作業用補助制動装置を操作するときは，安全のため次のことをお守りください。

- 使用中は車から離れないでください。また，警報ホーンが鳴ったときは直ちに作動を解除し安全な場所に移動してから日産販売会社に連絡してください。
- 使用中はエンジンを停止しないでください。
  エンジンを停止したまま使用しますと，必要なブレーキ力が確保できなくなるおそれがあります。
- 駐車ブレーキを確実に作動させるとともに，必ず輪止めを併用してください。
- 駐車ブレーキのみで停車できない坂道では使用しないでください。
- 1 時間以上の長時間にわたる使用はしないでください。
- 作業時以外は使用しないでください。駐車ブレーキとしての使用はできません。
- 作業用補助制動装置はブレーキ装置に大きな負担がかかりますので，安全のため定期点検時には必ず定期交換部品の交換を実施してください。別冊の《メンテナンスノート》をごらんください。

1. 装置



- **作動スイッチ**
  作業用補助制動装置を作動，または解除するときに使用します。
- **作動準備ランプ**
  作業用補助制動装置が作動準備状態のときに点灯します。
- **圧力保持ランプ**
  作業用補助制動装置が作動中に点灯します。

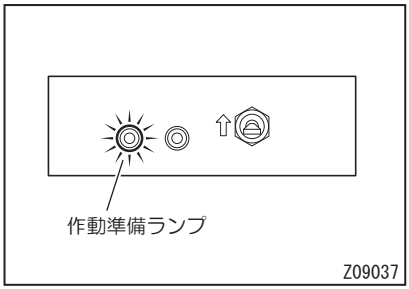
2. 作動準備

- 駐車ブレーキを確実に効かせ (!) ウォーニングランプと作動準備ランプが点灯していることを確認します。
- すべてのタイヤに輪止めをかけます。
- エンジンはアイドリング回転で回しておきます。
- (◣) ウォーニングランプ（橙色）が消灯していることを確認します。

3. 操作

3.1 作動

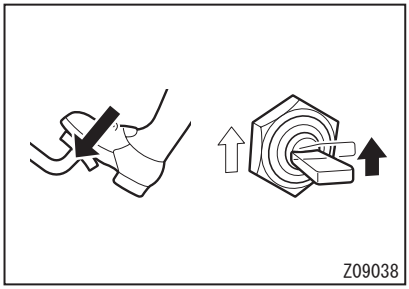
①作動準備ランプが点灯していることを確認します。



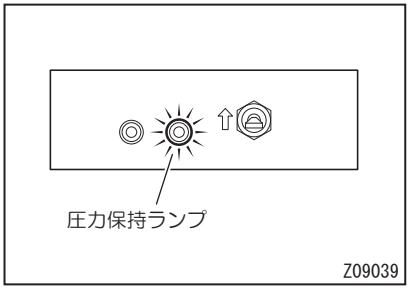
知識

駐車ブレーキの効きが不足していると作動準備ランプは点灯しません。作動準備ランプが点灯するまで駐車ブレーキレバーを引いてください。
作動準備ランプが点灯しないと作業用補助制動装置は作動しません。

②ブレーキペダルを強く踏み込んだまま，作動スイッチを約2秒以上，“⇧”方向に保持します。



③圧力保持ランプが点灯したら作動スイッチを離し，ブレーキペダルを戻します。



知識

ブレーキカが不足していると圧力保持ランプは点灯しません。圧力保持ランプが点灯しないときはブレーキペダルを強く踏み込んだまま再度作動スイッチを約 2 秒以上“⇧”方向に保持してください。

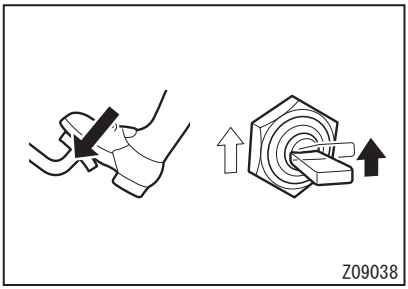
④システムが作動します。再度圧力保持ランプが点灯していることを確認してください。

⚠ 注意

作動中に警報ホーンが鳴ったときはブレーキの制動力が低下しています。直ちに運転席に戻り作動を解除した後安全な場所に移動してから日産販売会社に連絡してください。

3.2 解除

①ブレーキペダルを強く踏み込んだまま，作動スイッチを“⇧”方向に保持します。



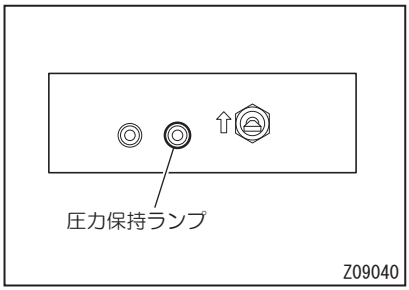
⚠ 注意

坂道で解除するときは必ずブレーキペダルを踏み込んだまま行ってください。

知識

駐車ブレーキを解放しても作業用補助制動装置は解除されません。駐車ブレーキが確実に効いている状態で解除してください。

②圧力保持ランプが消灯するのを確認します。
③システムが解除します。
④駐車ブレーキを解放し作動準備ランプと
　Ⓟ ウォーニングランプが消灯するのを確認します。
　消灯すると駐車ブレーキが解除します。

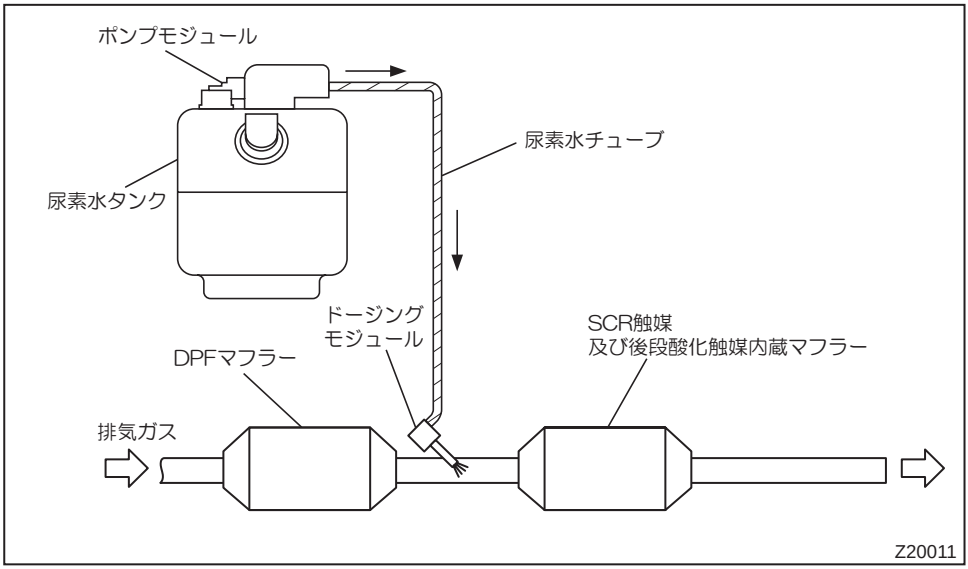


排気処理システム

1. 排気処理システムについて

1.1 概要

- 排気処理システムは，再生制御式 DPF システムと排気後処理装置（尿素 SCR）を組み合わせたシステムです。
- 再生制御式 DPF システムは，排気ガスに含まれるスス（粒子状物質）をマフラー内のセラミックフィルターに捕集し，前段酸化触媒の作用によりフィルター上のススを燃焼除去（フィルターの連続再生）します。
- 低速走行などではフィルターを連続再生できないときがあります。そのときは，自動的に排気温度を上げて再生（燃焼除去）を行います（DPF 自動再生）。また，極低速走行やエンジン始動，停止の繰り返しが多い走行などでは自動的にフィルターを再生できないときがあります。そのときは停車して手動で再生（燃焼除去）を行う必要があります（DPF 手動再生）。
- 排気後処理装置（尿素 SCR）は，AdBlue®（尿素水）を SCR 触媒の上流に添加（噴射）することにより NOx を水と窒素に分解し，NOx を低減します。



知識

- SCR は Selective Catalytic Reduction の略で，選択（的）触媒還元のことです。
- 寒冷地での AdBlue®（尿素水）の解凍，保温のため，尿素水タンクと尿素水チューブにはヒーター機能が付いています。
- AdBlue®（尿素水）の温度が低いとき，アイドリング回転数がわずかに上がることがあります。AdBlue®（尿素水）が温まると，アイドリング回転数は元に戻ります。

1.2　点検，手入れ時の注意

● 尿素水添加システム

尿素水添加システムはスタータースイッチを “LOCK” 位置にした後も約 2 分間作動しています。点検，手入れなどでバッテリーや電気系統のコネクターを外すときは 2 分以上経過してから行ってください。

● マフラー

DPF や SCR マフラーにはセラミックフィルターや触媒が内蔵されています。

⚠ 注意

マフラーから出た水には触れないでください。水はマフラーに内蔵されている酸化触媒の作用により，弱酸性になっています。皮膚等に付着した場合は十分水で洗い流してください。

アドバイス

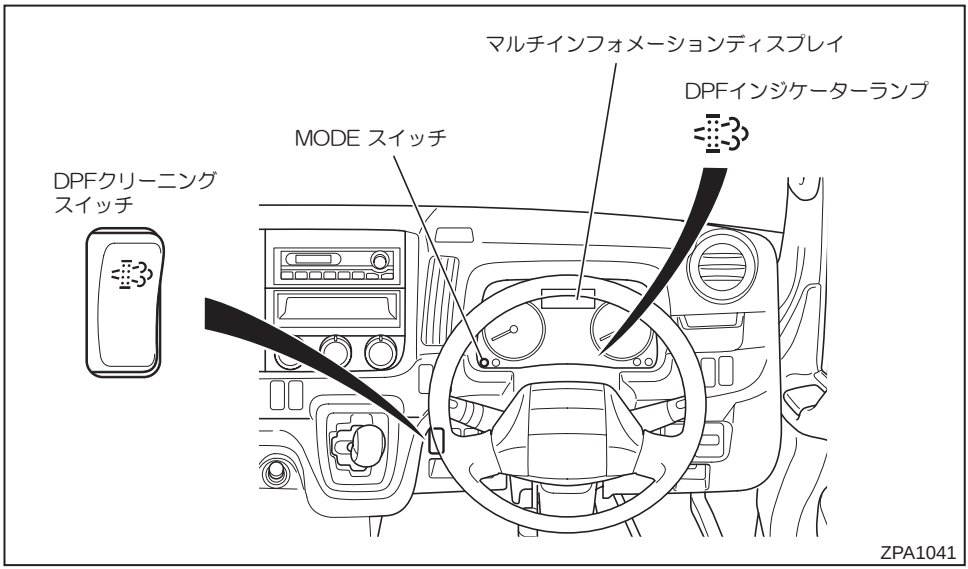
- マフラーをけったり，たたいたりしないでください。触媒やセラミックフィルターが破損するおそれがあります。
- 車の使われ方によっては早期にもかかわらず排気管や吊り具に著しいさびが発生する場合があります。
  目視にて異常があったときは速やかに日産販売会社で点検をお受けください。
- 排気管やマフラーの長さや向きを変更しないでください。次の原因になるおそれがあります。改造が必要な場合は日産販売会社へご相談ください。
  - DPF 内部のススを燃焼除去する際，高温の排気ガスが排出されるため，火災ややけどの原因。
  - 排気ガス浄化機能に悪影響を及ぼす原因。

知識

- 排気ガスを浄化してから排出するため，従来のディーゼル車の排気ガスの臭いと異なります。
- エンジン始動時や寒冷時で始動直後の発進時にマフラーから白煙（水蒸気）が出ることがありますが，異常ではありません。

2. 再生制御式 DPF システム

2.1 装置

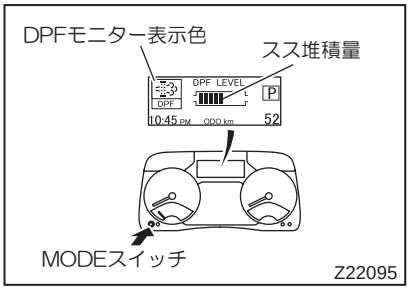


- **DPF クリーニングスイッチ**
  DPF 内部のススを手動で燃焼除去するときに使用します。
- **マルチインフォメーションディスプレイ**
  DPF のスス堆積量，手動再生表示，手動再生の残り時間やウォーニング表示などを行います。
- **MODE スイッチ**
  マルチインフォメーションディスプレイの表示設定を行うときに使用します。
- **DPF インジケーターランプ**
  ランプの点灯及び点滅で DPF の状態を知らせます。

2.2　DPF のスス堆積量インジケーター

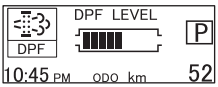
スス堆積量をDPFモニター表示で確認することができます。

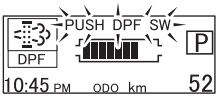
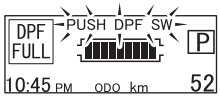
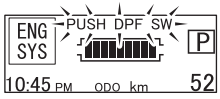
- MODE スイッチを押して DPF モニター表示にすると堆積量が表示します。
- ススの堆積量は9段階で表示します。ススの堆積量が増減すると表示段数も増減します。段数によってマルチインフォメーションディスプレイの DPF 表示色が変わります。
  1～6 段目は緑色
  7～9 段目は橙色

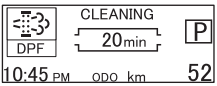


2.3　DPF のウォーニングランプ，インジケーター表示一覧

- DPF のスス堆積量によってはインジケーター表示やウォーニングランプ点灯 / 点滅をします。
- マルチインフォメーションディスプレイに DPF のスス堆積量が表示します。ススの堆積量によっては手動再生を行ってください。

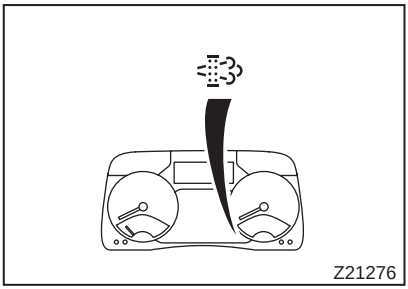
スス堆積量 インジケーター表示	インジケーター及び ウォーニングランプ 点灯 / 点滅	自動再生 / 手動再生	参照 ページ
堆積量が 6 目盛り以下のとき  Z22096	—	—	—

スス堆積量 インジケーター表示	インジケーター及び ウォーニングランプ 点灯 / 点滅	自動再生 / 手動再生	参照 ページ
堆積量が 7，8 目盛りのとき  Z22097 • “PUSH DPF SW” が点滅 • DPF 表示が緑から橙色に変化	（橙色）がゆっくり（0.5 秒間隔）点滅	点滅開始後，50km 走行または 1 時間走行以内のどちらか早いうちに手動再生を行ってください	7-130 7-131
堆積量が 9 目盛りのとき  Z22098 • “PUSH DPF SW” が点滅 • DPF FULL が表示	（橙色）が速い（0.25 秒間隔）点滅	速やかに安全な所に停車し，手動再生を行ってください	7-130 7-131
堆積量が過堆積のとき  Z22099 • “PUSH DPF SW” が点滅 • ENG SYS が表示	（橙色）が速い（0.25 秒間隔）点滅	速やかに安全な所に停車し，手動再生を行ってください。 ENG SYS ウォーニング表示するとエンジン出力を制限します	7-130 7-131

スス堆積量 インジケーター表示	インジケーター及び ウォーニングランプ 点灯 / 点滅	自動再生 / 手動再生	参照 ページ
DPF 自動再生中表示  Z22100 • “CLEANING” が表示 • 堆積量インジケーターが点滅	• （緑色）が点灯 • 7目盛りを超えて手動再生要求がある場合は，が緑色と橙色を交互に表示します	DPF 自動再生中	7-129
DPF 手動再生中表示  Z22101 手動再生残り時間が表示	（橙色）が点灯	DPF 手動再生中	7-130

2.4 DPF 自動再生

- DPF が連続再生できないときは自動的に再生（燃焼除去）します。
  DPF の自動再生中 （緑色）インジケーターランプが点灯します。
  排気ガスの温度を上げるため，エンジン音やアイドリング回転数などが変化しますが通常どおり走行できます。
- 自動再生中はDPFモニターに切り替えると堆積量インジケーター上部に “CLEANING” が表示します。また，堆積量インジケーターが点滅します。



⚠ 注意

自動再生中に停車するときは，排気管やマフラー付近に枯れ草，紙くずなど燃えやすいものがないか確認してください。排気管やマフラー付近及び排気ガスが高温になっているため，燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。

知識

- DPF 自動再生中は，エンジン音が変化したり，停車中アイドリング回転数が上がり（800 回転）排気ブレーキバルブが作動しますが異常ではありません。
- DPF 自動再生中はアイドリングストップシステム＊は作動しません。
- PTO ＊使用中は，DPF 自動再生は作動しません。
- ススの堆積量が４目盛り以上のとき，DPF クリーニングスイッチを インジケーターが橙色の点灯になるまで押し続けると手動再生ができます。
- ENG OIL 及び ENG SYS（橙色）を交互に表示しているときは，DPF の自動再生をしません。

2.5　DPF 手動再生

極低速走行やエンジン始動，停止の繰り返しが多いとき，DPF 内部のススが自動的に燃焼除去できない場合があります。このときは，停車して手動で再生（燃焼除去）する必要があります。（橙色）インジケーターランプが点滅したら手動再生を行います。

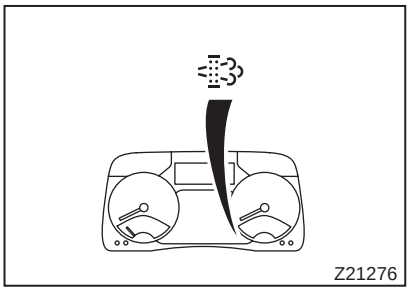
知識

次のいずれかの状態で使用すると DPF 自動再生が作動しない場合があるため，インジケーターランプが点滅する頻度が多くなります。

- 車速 20km/h 以下の低速走行が主体の場合
- 頻繁に（10 分以内）エンジンの始動，停止を行う走行が多い場合
- 短い距離（10km 以下）の走行を繰り返す場合
- 毎回エンジンが暖機される前にエンジンを停止する場合

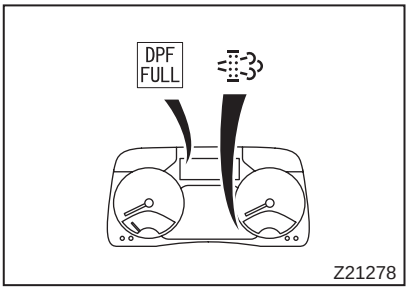
● **（橙色）インジケーターランプがゆっくり（0.5 秒間隔）点滅したとき**

50km 走行または 1 時間走行以内のどちらか早いうちに，DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行い，DPF 内部のススを燃焼除去してください。PTO 使用中の場合は，作業を中断し DPF 手動再生を行ってください。



● （橙色）インジケーターランプが速く（0.25 秒間隔）点滅したとき

速やかに安全な場所に停車し，DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行い，DPF 内部のススを燃焼除去してください。



アドバイス

（橙色）インジケーターランプが速く点滅したときやマルチインフォメーションディスプレイに DPF FULL を表示したときは，速やかに DPF クリーニングスイッチで DPF 手動再生を行ってください。そのまま走行を続けると DPF の目詰まりやシステムの故障を起こすおそれがあります。

2.6 DPF 手動再生操作方法

インジケーター表示，ウォーニング表示や（橙色）インジケーターランプが点滅したときは，次の要領で DPF 手動再生を行い，DPF 内部のススを燃焼除去する必要があります。DPF 手動再生時間は多重表示モニターに表示します。DPF 手動再生は条件により異なりますが，通常約 20 分で終了します。

⚠ 警告

換気の悪い車庫などでは DPF 手動再生をしないでください。とくに，車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

⚠ 注意

枯れ草，紙くずなど燃えやすい物があるところで DPF 手動再生をしないでください。また，排気管やマフラー付近に人が近づかないようにしてください。DPF 手動再生中は排気管やマフラー付近及び排気ガスが高温になるため，燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。また，排気管やマフラー付近及び排気ガスには触れないでください。やけどするおそれがあります。

アドバイス

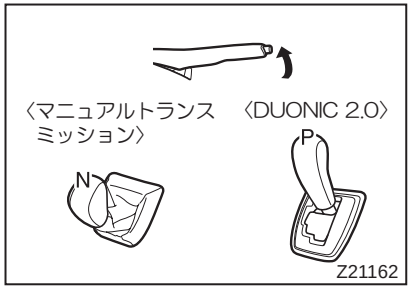
次のような状態や場所では手動再生を行わないでください。

- 荷台のあおりを下げた状態で手動再生を行うと，マフラーの熱により周辺部品が破損するおそれがあります。
- 塗装されている路面で手動再生を行うと，高温の排気ガスにより路面が変色するおそれがあります。
- 生垣などの前で手動再生すると，高温の排気ガスにより枯れるおそれがあります。

知識

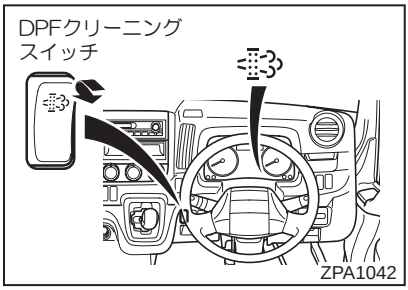
- DPF 手動再生は次の状態のとき作動しません。
  - エンジン始動後，10 秒経ってないとき
  - 冷却水インジケーターが 5 目盛り以下のとき（暖機運転後に行ってください）
  - PTO スイッチ＊を “ON”，PTO レバー＊を接続位置にしているとき
  - アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込んでいるとき
  - 車両が動いているとき
  - DUONIC 2.0 搭載車は，ギヤシフトレバーが “P” または “N” 位置以外のとき
  - マニュアルトランスミッション搭載車はクラッチペダルを踏み込んでいるとき
  - ENG OIL 及び ENG SYS（橙色）を交互に表示しているとき
- （橙色）インジケーターランプ点滅時及び DPF 手動再生中はアイドリングストップシステム＊は作動しません。
- DUONIC 2.0 搭載車はエンジン始動後 30 秒間は，DPF 手動再生ができません。

①安全な場所に停車しエンジンを暖機運転します。
②駐車ブレーキを確実に効かせギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” または “N” 位置にし，そのまま 30 秒以上待ちます。
③アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンが “AUTO” 位置であることを確認します。



④PTO 装着車は PTO の接続を解除します。7-110 ページをごらんください。

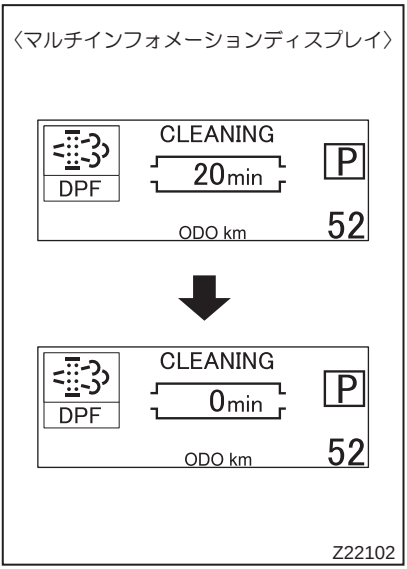
⑤エンジンはかけたままDPFクリーニングスイッチを インジケーターランプ（橙色）が点滅から点灯に変わるまで押します。アイドリング回転数が上がり（1,500 回転）DPF 手動再生を開始します。手動再生が始まるとマルチインフォメーションディスプレイに手動再生残り時間が表示します。DPF 手動再生中は排気ブレーキバルブも作動することがあります。



⑥手動再生残り時間が約 0 分になりアイドリング回転数が元に戻り，（橙色）インジケーターランプが消灯すると DPF 手動再生が終了します。DPF 手動再生終了後は通常どおり走行できます。

⑦DPF 手動再生を途中で中止するときは，次のいずれか 1 つを行ってください。

- DPF クリーニングスイッチを再度押します。
- アクセルペダルを踏み込みます。
- マニュアルトランスミッション搭載車はクラッチペダルを踏み込みます。



知識

- DPF 手動再生を途中で中止したときは，DPF 手動再生は完了していないため，再度速やかに DPF 手動再生をしてください。
- ススの堆積量が４目盛り以上のとき，前述の方法で DPF 手動再生をすることができます。

3. 排気後処理装置（尿素 SCR）

- 排気後処理装置（尿素 SCR）は尿素水タンクに AdBlue®（尿素水）がなくなるとエンジンが再始動できなくなります。尿素水タンクが空にならないように余裕を持って補給してください。

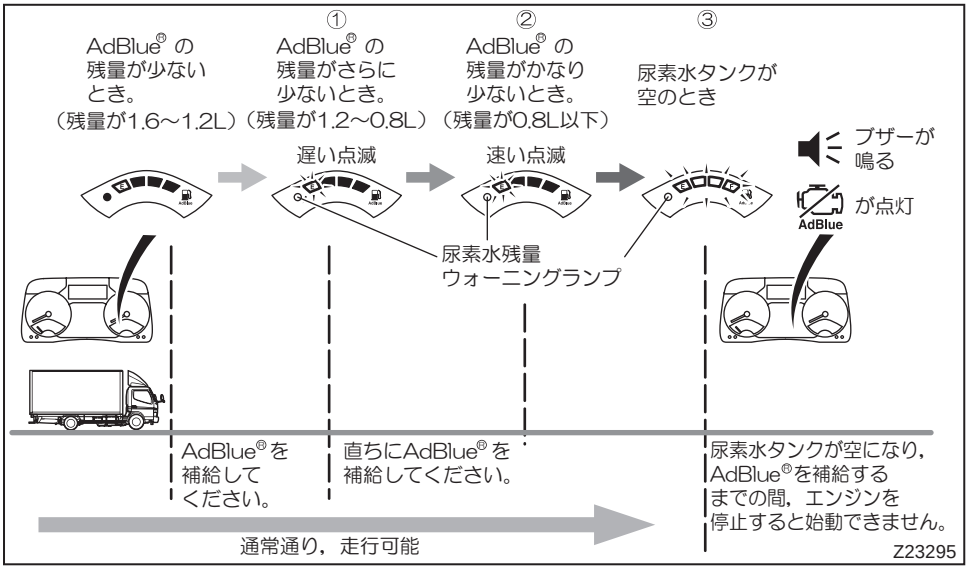
知識

尿素水タンクが空になったときのために，携帯用の AdBlue®（尿素水）を準備しておくことをお勧めします。

次の状態のときウォーニングランプやインジケーターランプが点灯し，場合によってはブザーが鳴ります。適切に処置を行ってください。

3.1　AdBlue®（尿素水）の残量が少なくなり，その後空になったとき

AdBlue®（尿素水）の補給方法は 7-28 ページをごらんください。



①尿素水残量ウォーニングランプが点灯し，尿素水レベルインジケーターの“E”位置が遅く点滅したときは AdBlue®（尿素水）の残量が少なくなっています。早めに AdBlue®（尿素水）を補給してください。

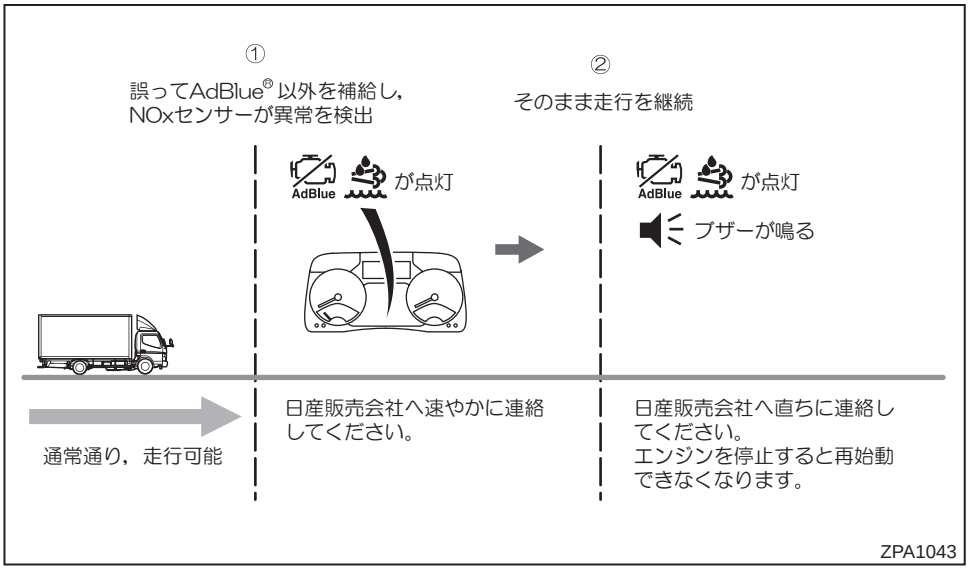
②尿素水残量ウォーニングランプが点灯したまま，尿素水レベルインジケーターの“E”位置が速い点滅に変わったときは AdBlue®（尿素水）の残量が少なくなっています。直ちに AdBlue®（尿素水）を補給してください。

③尿素水タンクが空になると尿素水残量ウォーニングランプに加え，AdBlue ウォーニングランプの点灯及び尿素水レベルインジケーターが速い点滅をし，連続音のブザーが鳴ります。

このとき，スタータースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にするとエンジンが再始動できなくなります。

3.2 AdBlue®（尿素水）以外を補給したとき

誤って指定の AdBlue®（尿素水）以外（水や低濃度の AdBlue®（尿素水）など）を補給したときは，スタータースイッチを “LOCK” 位置にし，エンジンを停止した状態で直ちに日産販売会社に連絡し，誤補給した液体の抜き取り及び点検をお受けください。



①誤って AdBlue®（尿素水）以外を補給した場合，NOx センサーが異常を検出し AdBlue 及び ウォーニングランプが点灯します。

②そのまま走行を継続し約 300km 走行すると連続音のブザーが鳴ります。この状態でスタータースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置にすると，エンジンが再始動できなくなります。

アドバイス

ウォーニングランプが点灯した状態で走行すると，排気ガス中に NOx が増加し環境に悪影響を及ぼすだけでなく，排気後処理装置（尿素 SCR）の損傷原因になるおそれがあります。

知識

誤って指定の AdBlue®（尿素水）以外（水や低濃度の AdBlue®（尿素水）など）を補給したときは，300km 走行以内に指定の AdBlue®（尿素水）に入れ替えてください。300km 走行後エンジンが再始動できなくなったとき，1 回に限り，補給した指定の AdBlue®（尿素水）の品質が正常と判断するまでの間，エンジンを再始動できます。補給した指定の AdBlue®（尿素水）の品質が正常と判断されたときは，通常状態に戻ります。しかし，再度異常と判断されたときは，AdBlue®（尿素水）の入れ替えを行ってもエンジンを再始動できません。
AdBlue®（尿素水）の入れ替え作業は日産販売会社にお申し付けください。

SRS エアバッグ

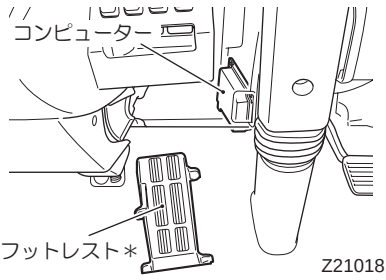
運転席，助手席＊ SRS エアバッグは，スタータースイッチが “ON” 位置のとき運転者または助手席同乗者に重大な危害が及ぶような強い衝撃を車両前方より受けたときに，シートベルトの働きを補って，運転者または助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげる装置です。

知識

SRS とは Supplemental Restraint System の略語で補助拘束装置の意味です。

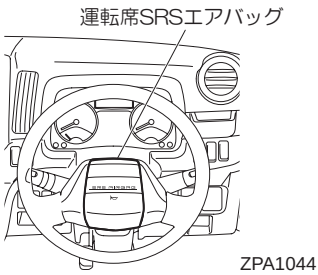
⚠ 警告

- SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず装着してください。
  シートベルトをしていないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が発揮されず，重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートは正しい位置に調整し背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRS エアバッグが作動したとき，エアバッグにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRS エアバッグのコンピューターに水をかけたり衝撃をあたえたりしないでください。
  SRS エアバッグが誤作動したり，衝突したときなど SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
  SRS エアバッグのコンピューターは運転席側の左足元付近にあります。

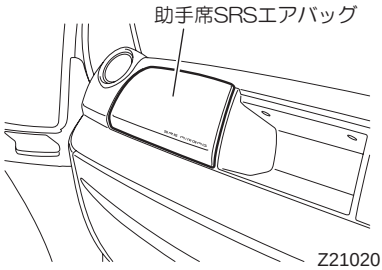


⚠ 警告

- 運転席，助手席＊ SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり，ひび割れがあるときは日産販売会社で点検を受けてください。
  衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

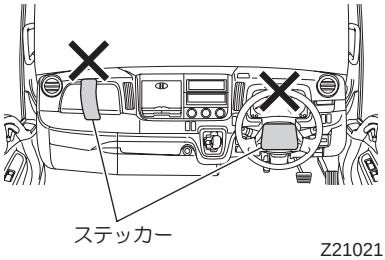


ZPA1044



Z21020

- SRS エアバッグ収納部にステッカーなどをはり付けたり，カバーを付けることはしないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z21021

⚠ 注意

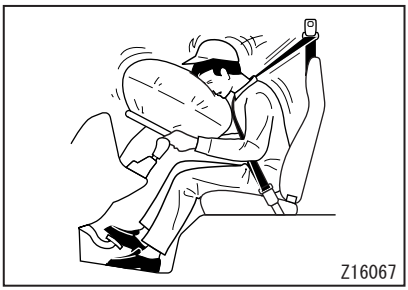
SRS エアバッグ構成部品及びその周辺は膨らんだ後は高温になりますので触らないでください。やけどするおそれがあります。

知識

- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため，SRSエアバッグとの接触によりすり傷や打撲などを受けることがあります。
- 助手席 SRS エアバッグ＊が膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグが膨らむときかなり大きな音がし，白煙が出ますが火災ではありません。
  また，人体への影響もありません。ただし，呼吸器系の疾患がある人や皮膚が弱い人は，一時的にのどや皮膚に刺激を感じることがあります。
  残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときは，できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚が弱い人の場合，まれに皮膚を刺激することがあります。
- 膨らんだ SRS エアバッグはすぐにしぼむので視界を妨げません。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。日産販売会社でSRSエアバッグ構成部品を交換してください。
  また，事故にあってエアバッグが膨らまなかった場合でも安全のため，日産販売会社で点検をお受けください。

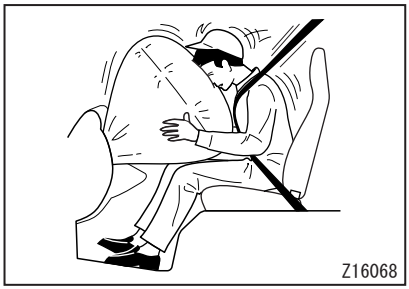
1．運転席 SRS エアバッグ

運転席SRSエアバッグはハンドルの中に装備されています。



2. 助手席 SRS エアバッグ＊

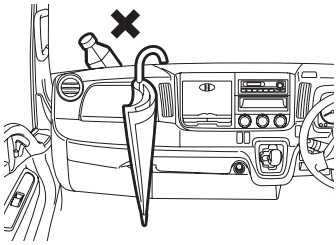
助手席SRSエアバッグは助手席前のインストルメントパネルの中に装備されています。
助手席SRSエアバッグは同乗者がいなくても運転席 SRS エアバッグと同時に作動します。

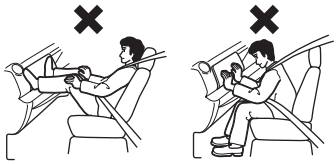


● 助手席同乗者への注意

⚠ 警告

- インストルメントパネルの上に物を置いたり，傘などを立てかけないでください。
  また，前面ガラスにアクセサリーを取付けないでください。SRS エアバッグが正常に膨らむのを妨げたり，膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの前端に座ったり，インストルメントパネルに手や足を乗せたり，顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。助手席 SRS エアバッグが作動したとき，エアバッグにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- かばんなどの荷物をかかえたり，ひざの上に置いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグが作動したときに荷物が飛ばされたり，エアバッグの正常な作動を妨げ重大な傷害を受けるおそれがあります。

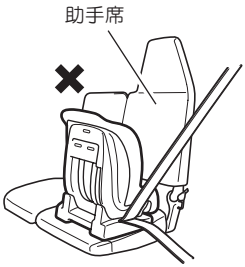




● 助手席にお子さまを乗せる場合の注意

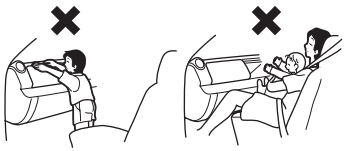
⚠ 警告

● チャイルドシートなどの専用シートを後向きに取付けないでください。助手席 SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z21024

● お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり，ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグが作動したとき重大な傷害を受けるおそれがあります。



Z21025

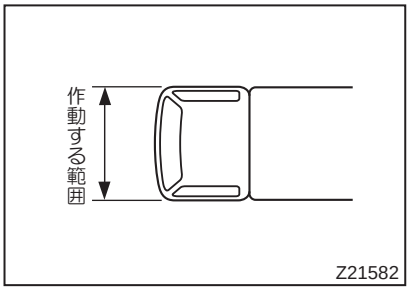
⚠ 注意

中央席＊にはチャイルドシートなどの専用シートを取付けて，子供を乗せないでください。運転操作の妨げとなり思わぬ事故を起こすおそれがあります。

3. 運転席，助手席 SRS エアバッグの作動条件

3.1 作動するとき

乗員に重大な危害が及ぶような強い衝撃を車両の前方から強く受けたとき



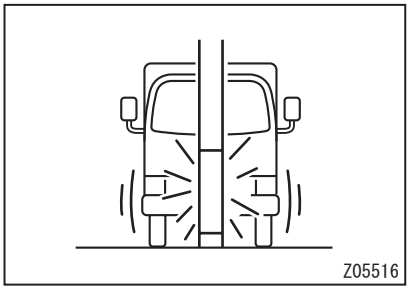
知識

- 衝突による車両の変形，損傷が大きくても衝突の状況により室内への衝撃が大きくならない場合は，SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- SRS エアバッグはシートベルトの働きを補い，頭部への衝撃をやわらげる装置のため，シートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれがない衝突では作動しにくくなっています。

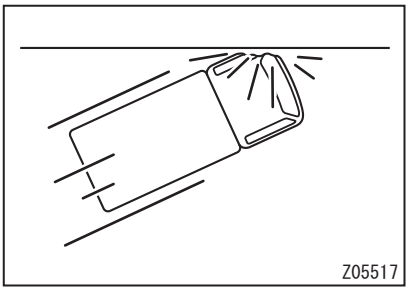
3.2 作動しないことがあるとき

衝突により車両前部が大きく変形しても，衝突の状況により乗員への衝撃が大きくならない場合がありますので，車両の変形，損傷と SRS エアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

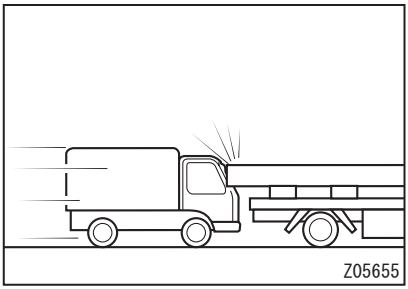
- 電柱や木立など狭い範囲に正面衝突したとき



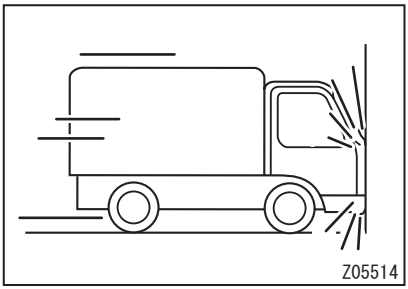
● 斜め前方から衝突したとき



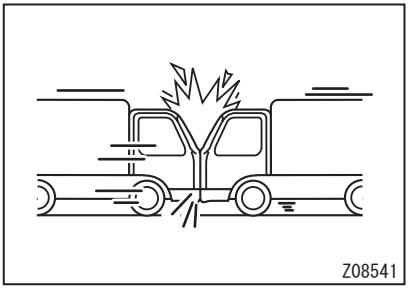
● トラックなどの荷台にフロントガラス部分から衝突したとき



● 約25km/h以下の速度でコンクリートのような硬い壁に衝突したとき



● 停車中の同程度の重さの車両へ約50km/h以下で正面衝突したとき



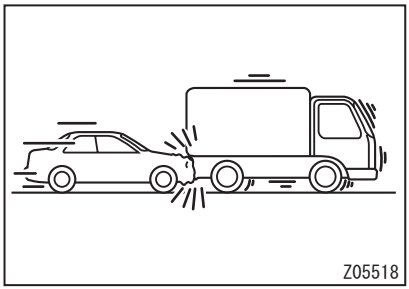
知識

衝撃を吸収するもの（車やガードレールのように変形，移動するもの）に衝突したときは，衝突による衝撃が緩められるため，SRS エアバッグが作動する車速が高くなります。

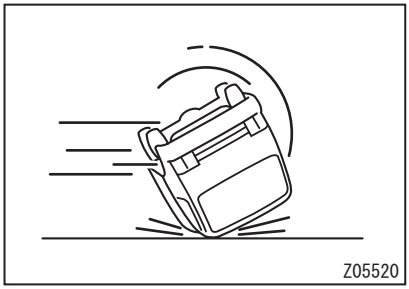
3.3　本来の効果が発揮されないとき

次のような場合は，SRS エアバッグが作動することもありますが，SRS エアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がありません。

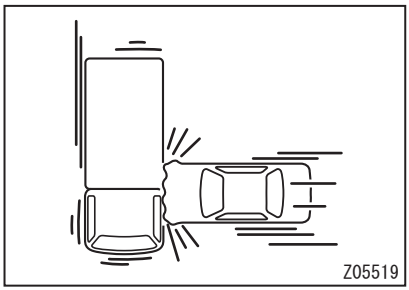
● 追突されたとき



● 横転，転覆したとき



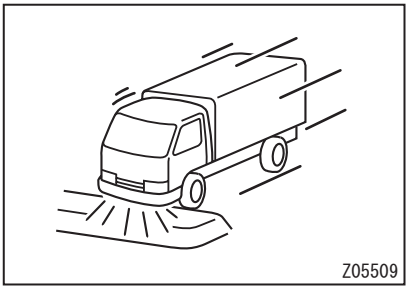
● 側面から衝突されたとき



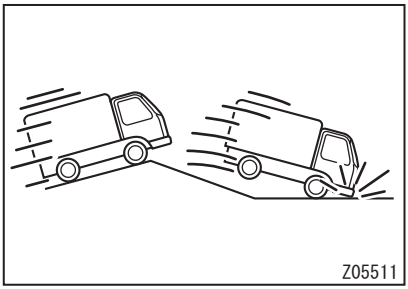
3.4　作動することがあるとき

走行中，車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

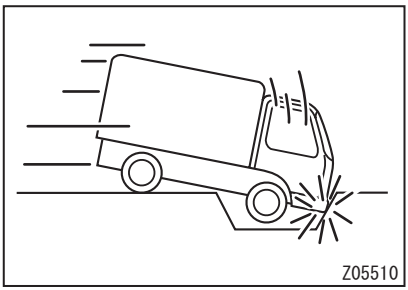
● 中央分離帯や縁石などに衝突したとき



● ジャンプして地面にぶつかったとき



● 深い穴や溝に落ちたとき



4. 取扱い上の注意

⚠ 警告

- 次の個所の修理や改造をするときは日産販売会社にご相談ください。不適切な修理や改造をした場合，SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ハンドルまわりの修理
  - インストルメントパネルの修理
  - 助手席前のロワーパネル付近の修理
  - オーディオの取付け
  - 車両前方の修理や改造
  - サスペンションの修理や改造
- ハンドルのパッドなどSRSエアバッグ収納部を強くたたいたり，過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

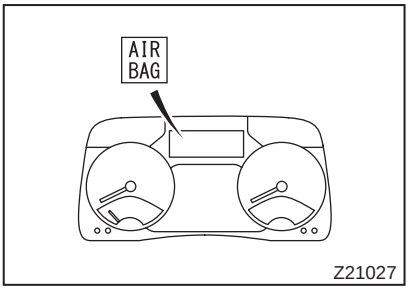
- 廃車するときはSRSエアバッグを適切に処理する必要があります。日産販売会社にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し，ケガをするおそれがあります。
- 電気テスターを使って，エアバッグの回路診断はしないでください。SRS エアバッグが誤作動し，ケガにつながるおそれがあります。

アドバイス

車をゆずられるときは SRS エアバッグ装着車であることを説明し，取扱説明書を付けておいてください。

5. ウォーニング表示

マルチインフォメーションディスプレイに AIR BAG を表示したときはSRSエアバッグの故障ですので日産販売会社で点検を受けてください。



⚠ 警告

SRS エアバッグが故障したまま走行を続けると，衝突したときなど SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

6. EDR(イベントデータレコーダー)機能について

6.1 車両データの記録，蓄積について

この車両に装備されている SRS エアバッグシステムのコンピューターは，EDR 機能を備えています。

このコンピューターは，SRS エアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに，SRS エアバッグシステムが作動したときに以下の車両データを記録，蓄積します。

- 車速
- SRS エアバッグシステムの作動に関する情報
- SRS エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は一般的なデータレコーダーとは異なり，会話などの音声や映像は記録しません。

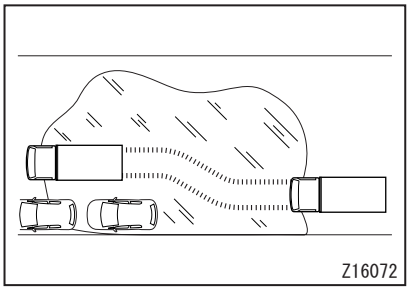
6.2　データの取扱いについて

日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は，EDR に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として，取得，利用することがあります。
なお，日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は，取得したデータを以下の場合を除き，第三者へ開示，提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など，法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的処理を行うなど，使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ABS（アンチロックブレーキシステム）

滑りやすい路面や空車時または積荷が少ないときに，ブレーキをかけるとタイヤがロックし，横滑りが生じやすくなります。このようなときにコンピューター制御で各車輪のブレーキを適切にコントロールし，タイヤのロックを起きにくくする装置です。
また，EBD の機能により，軸重に適した制動力を分配し，全輪ロック限界付近まで ABS の作動を遅らせます。



⚠ 注意

- ABS は限界を超えた運転を可能にする装置ではありません。滑りやすい路面ではくれぐれも慎重に安全運転を心掛けてください。
- 必ずしも制動距離が短くなるとは限りません。過信せず十分な車間距離をとってください。

知識

EBD とは，Electronic Brake force Distribution の略で電子制御制動力配分装置のことです。

1. 運転上の注意

1.1 ブレーキペダルを踏むとき

ABSが作動してもブレーキペダルを力いっぱいに踏み続けることが必要です。
ABS が作動するとブレーキペダルが振動（細かい振動や，ゆっくりした動き）することがありますが，異常ではありません。さらに，ブレーキペダルを強く踏み続けてください。また，車体にわずかな振動を感じたり，モーターの作動音が聞こえることがありますが，システムが正常に作動していることを示すもので異常ではありません。

1.2 制動距離について

制動距離は路面状況により異なります。
砂利道や深い新雪などの道路ではABS未装着車に比べて制動距離が長くなることがあります。

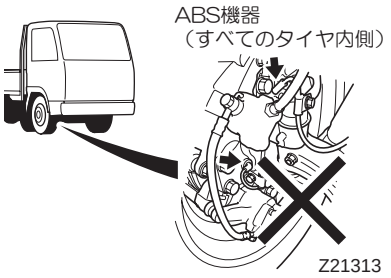


1.3　ハンドル操作について

急ブレーキをかけて作動したとき，若干，左右にハンドルをとられるように感じることがあります。とくに，片側だけ凍結しているような滑りやすさが左右で異なるような路面では，ハンドル修正が必要なことがあります。

アドバイス

- タイヤ内側には ABS の機器や電気配線などがあります。足まわりなどを清掃する高圧の水や，高圧洗浄機の蒸気が直接かからないようにしてください。装置を傷付けたり，故障の原因になります。
- 無線機を搭載するときや，タイヤサイズを変更する場合は，事前に日産販売会社にお問い合わせください。



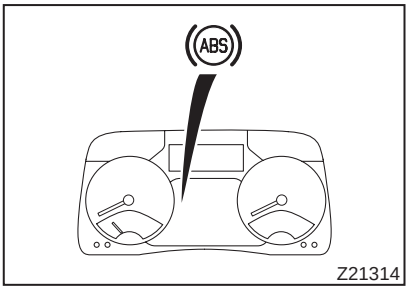
知識

とっさのときに慌てないように，ABS の作動を正しく理解し，作動に慣れることが重要です。次のことを理解しておいてください。

- 普通の路面で，急ブレーキをかけていないのに ABS が作動することがあります。
  空車時または積荷が少ないときは，乾いた路面で強めにブレーキをかけると，後輪のみ ABS が作動する場合がありますが異常ではありません。後輪のみ ABS が作動しても，さらに，ブレーキを踏み込むと前輪の制動力が増し，制動距離が短くなります。
- タイヤがロックしなくても ABS は作動します。
  ABS は車輪の速度や加速度を検出して制御を行います。車両の安全性を確保するため，タイヤが完全にロックしないように制御を行っています。
- ABS 作動中はシステムが制動力を調整するため，ポンピングブレーキ（ブレーキペダルを 2 ～ 3 回に分けて踏む）は必要ありません。ポンピングブレーキを使用した場合は，ブレーキペダルを離している分，制動距離が長くなります。

2. ウォーニングランプが点灯したとき

走行中に(ABS)ウォーニングランプが点灯したときは ABS の故障が考えられます。安全な場所に停車し，次の点検を行います。
①エンジンを一旦停止し，再度始動します。
②走行しても消灯しないときや，消灯してしばらくすると再び点灯するときは故障です。早めに日産販売会社で修理をお受けください。



知識

- ABS が故障しウォーニングランプが点灯したままの場合，ABS 機能はなくなりますがブレーキは通常どおり効きます。ウォーニングランプが点灯したままのときは早めに日産販売会社で修理をお受けください。
- エンジンを連続して空ぶかししたときに ABS ウォーニングランプが点灯することがありますが異常ではありません。一旦エンジンを停止し，再始動してください。

(ABS)ウォーニングランプはエンジン始動時，スタータースイッチを “ON” 位置にしたとき点灯し，数秒後に消灯すれば正常です。
スタータースイッチを “ON” 位置にしても点灯しないときや数秒後に消灯しないときは日産販売会社で点検をお受けください。

8章 正しい運転のしかた

発進時の注意 …… 8-2
走行時の注意 …… 8-3
経済運転のポイント …… 8-6
ブレーキのかけ方 …… 8-7
登坂，降坂のときは …… 8-9
悪路，悪天候のときは …… 8-11
駐車するときは …… 8-12
荷の積み方 …… 8-14

発進時の注意

- DUONIC 2.0 搭載車の操作方法を確認してから発進してください。7-37 ページをごらんください。
- 駐車後や信号待ちなどで停車したあとは，人や障害物など車の周りの安全を十分確認してください。
- 後退するとき安全確認できない場合は，車から降りて後方を確認してください。
- ウォーニングランプ（赤色）が点灯していないか，マルチインフォメーションディスプレイにウォーニング表示が出ていないか確認してください。

⚠ 警告

DUONIC 2.0 搭載車は次の操作をしないでください。車が急発進し，重大な事故につながるおそれがあります。

- 発進時にアクセルペダルを踏んだまま，ギヤシフトレバーを操作しないでください。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。万一，ギヤシフトレバーが “P” 位置または “N” 位置以外になっていると急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

DUONIC 2.0 搭載車は，発進時にギヤシフトレバーを “R” または “D” 位置にするとクリープ現象で車が動き出します。ギヤシフトレバーを操作するときはブレーキペダルを確実に踏み込んでください。また，駐車ブレーキはギヤシフトレバー操作後に解除してください。
ブレーキペダルをしっかりと踏まずに “R” または “D” 位置にするとクリープ現象により車が動き出そうとし，思わぬ事故の原因になります。

- 駐車ブレーキを確実に解放してください。
- 発進は静かに行ってください。急発進や半クラッチを長く使用するとクラッチを傷める原因となります。

走行時の注意

走行中は次の点に注意してください。また，異常が認められたときは直ちに停車して原因を調べてください。原因がわからないときや修理が困難なときは日産販売会社に連絡してください。

⚠ 警告

- スタータースイッチは走行中“ON”位置以外に操作しないでください。“ACC”位置にするとエンジンが停止しハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。
- スターターキーは走行中，抜き取らないでください。ハンドルが固定され重大な事故につながるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で坂道などを利用して車を移動させないでください。エンジンが停止していると，ハンドルが重くなり，ブレーキの効きが極端に悪くなるため重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中にエンジンが止まったときは，ブレーキペダルを通常より強く踏んで減速し，安全な場所に停車してください。
  走行中にエンジンが止まると，ブレーキの効きが極端に悪くなったり，ハンドル操作が重くなり重大な事故につながるおそれがあります。
- 次のときは直ちに安全な場所に停車し，処置を行ってください。6-27，6-39 ページをごらんください。
  - 赤色ウォーニングランプが点灯したとき
  - マルチインフォメーションディスプレイにウォーニング表示が出たとき
  - ブザーが鳴ったとき
  - 車に異常を感じたとき

⚠ 注意

- 法定速度を守って走行してください。
  速度超過や過積載，積み荷の誤った積み方をすると車両の安定性やブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
- マニュアルトランスミッション搭載車はクラッチを切ったまま，あるいはギヤシフトレバーをニュートラル位置，DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを“N”位置にしたまま走行しないでください。
  エンジンブレーキ，排気ブレーキが効かなくなりフートブレーキの負担が多くなります。
- マニュアルトランスミッション搭載車は半クラッチは多用しないでください。また，クラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。半クラッチになりクラッチの寿命を縮めます。また，エンジンブレーキ，排気ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転中に携帯電話などを手に持ちながら使用しないでください。走行中に使用すると，周囲の状況に対する注意が不十分になり事故などにつながるおそれがあります。
- 運転中にカーナビゲーションシステムやラジオなどの操作をしないでください。走行中に操作すると，わき見運転や前方不注意になり事故などにつながるおそれがあります。車を停車させてから操作してください。
  カーナビゲーションシステムの表示装置を見るときも，運転の妨げとならない最小限の時間としてください。

- 急旋回，急ブレーキは緊急時以外は避けてください。高速走行時には横転のおそれがあります。
- DUONIC 2.0搭載車のブレーキの操作は必ず右足で行ってください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は緊急時の反応が遅れ，思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 異音，異常な振動，異臭，ハンドル操作及びブレーキの効き異常などを感じたら，直ちに安全な場所に停車し原因を調べてください。原因がわからなかったり，ご自分で修理できないときは日産販売会社に連絡してください。
- 狭い道路を走行するときや右左折時には内輪差に十分注意し，ミラーで後方の安全を確認してください。

アドバイス

- ハンドルを一杯に切ったまま 10 秒以上保持しないでください。パワーステアリング装置の故障の原因になります。
- 前輪タイヤが縁石などに接触して拘束された状態で無理にハンドル操作を行わないでください。ステアリング装置の故障の原因になります。

- 走行中にパンクしたときは，急ブレーキを避けハンドルをしっかりと握り，徐々にスピードを落として安全な場所に停車します。タイヤ交換は他の交通の妨げとならない安全で平たんな場所で行います。タイヤの交換については 14-43 ページをごらんください。

アドバイス

パンクした状態で走行しないでください。ホイールボルトに無理な力がかかり，ホイールボルトの折損やホイールの損傷の原因になります。

1．高速道路走行時の注意

高速道路を走行するときは，次のことを守って走行してください。

- 日常（運行前）点検をとくに入念に行ってください。
- スピード感がにぶります。常に速度を確認し，車間距離を十分にとって走行してください。
- 雨のときや水のたまった路面を高速走行するときは，スピードを控えて運転してください。ハイドロプレーニング現象が起き，ハンドルやブレーキが効かなくなることがあります。13-9 ページをごらんください。
- 高速での連続運転はエンジンその他に無理がかかります。余裕をもって走行してください。

⚠ 警告

走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは急ブレーキをかけないでください。ハンドルを強くとられ重大な事故につながるおそれがあります。
あわてずに，ハンドルをしっかり握り徐々にスピードを落として安全な場所に停車してください。

経済運転のポイント

燃料の節約やタイヤ寿命延長のため，次のことを守ってください。

- 暖機運転は 1 ～ 2 分間行ってください。長すぎる暖機運転は燃料の無駄使いです。
- エンジンの空ぶかしはしないでください。
- 急発進，急加速，急減速はできるだけ避けてください。
- 加速時の変速はエンジンを最高回転までひっぱらずに早めに行ってください。
  DUONIC 2.0 搭載車は ECO モードスイッチを使用してください。7-43 ページをごらんください。
- 車を停車しているときはエンジンを止めてください。車から離れるときや駐車時などは，たとえ短い時間でもエンジンを停止してください。
- アイドリングストップシステム装着車はアイドリングストップシステムを使用してください。7-17 ページをごらんください。
- スピードは控えめにし，できるだけ定速走行をしてください。不要なアクセルの加減速は燃料を多く消費します。タコメーターのグリーンゾーンが経済運転の目安です。
- タイヤ空気圧は適正に調整してください。13-8 ページをごらんください。
- タイヤローテーションは定期的に行ってください。14-57 ページをごらんください。
- 指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用しないでください。DUONIC 2.0（トランスミッション）＊の変速タイミングが合わなくなり燃料を多く消費するおそれがあります。
- 空気抵抗の少ない荷姿になるような積み方を心掛けてください。8-14 ページをごらんください。
- 排気ブレーキスイッチを入れっぱなしにしないでください。頻繁に排気ブレーキが作動するため減速と加速を繰り返す運転となります。道路や交通状況に応じて排気ブレーキスイッチを OFF にしてください。

ブレーキのかけ方

⚠ 警告

坂道を下るときはフートブレーキのみではなくエンジンブレーキ，排気ブレーキを併用してください。フートブレーキを使いすぎるとベーパーロック現象やフェード現象を起こしブレーキの効きが悪くなり重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 急な下り坂，及び長い下り坂ではあらかじめブレーキテストを行い，フートブレーキや排気ブレーキが正常に作動することを確認してください。
- 空車時や積み荷が軽いときに滑りやすい路面では，排気ブレーキを作動させないでください。排気ブレーキを作動させるとスリップ事故を起こすおそれがあります。とくに下り坂ではスリップしやすくなります。
- 排気ブレーキを効かせながらカーブ走行するときは，あらかじめスピードを落としてください。滑りやすい路面や段差通過時にタイヤがスリップすると ABS が作動し，排気ブレーキが一時的に解除し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 急ブレーキは緊急時以外行わないでください。急ブレーキは強いショックを伴い思わぬ事故につながるおそれがあります。また，タイヤの摩耗を早め，各部の故障の原因にもなります。
- 水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認してから走行してください。ブレーキ各部に水が入るとブレーキの効きが極端に悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。このようなときは，周りの車に注意しながら低速で走行し，ブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かしてください。
- マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーをニュートラル位置，DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “N” 位置にして走行しないでください。エンジンブレーキ，排気ブレーキが働かないのでフートブレーキの負担が大きくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- **エンジンブレーキとは**
  走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキで，トランスミッションが低速段ほど効きが良くなります。
- **ベーパーロック現象とは**
  フートブレーキを使いすぎるとブレーキ機器の過熱により，ブレーキ液が沸騰し気泡が発生します。ブレーキペダルを踏み込んでも気泡を圧縮するだけでブレーキが効かなくなる現象です。
- **フェード現象とは**
  フートブレーキを使いすぎるとパッドやライニングが異常過熱します。異常過熱したパッドやライニングは摩擦力が減少するためブレーキの効きが悪くなる現象です。
- **ブレーキパッドやブレーキライニングからの煙の発生について**
  フートブレーキを使用しているとパッドやライニングが高温になり，パッドやライニング内の成分が気化し煙が発生する場合があります。煙が発生していてもブレーキの効きが著しく低下することはありません。
  しかし，さらにフートブレーキを使い続けると，ベーパーロック現象やフェード現象を起こすおそれがあります。

- エンジンブレーキ，排気ブレーキを使用し十分減速します。
- ブレーキペダルは２～３回に分けて踏むと安定した制動力が得られます。
- 車速，積み荷や道路状況によって制動距離は変わります。

⚠ 警告

- 駐車ブレーキは緊急時を除き走行中に使用しないでください。走行中，駐車ブレーキを急激に効かすと車がスピンまたは横転するおそれがあります。
- ブレーキ装置の故障やブレーキ液が漏れているときは走行しないでください。ブレーキの効きが悪いため，そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。

登坂，降坂のときは

1. 上り坂

マニュアルトランスミッション搭載車及びDUONIC 2.0搭載車をマニュアルモードで走行しているときは速度が落ちはじめたら早めにシフトダウンを行い，エンジンに負担をかけないようにしてください。

知識

登坂路で発進するとき，車が後退する場合があります。
このときは駐車ブレーキを併用し，発進してください。
EZGO（イージーゴー） 装着車は EZGO（イージーゴー） を使用すると坂道発進が楽になります。7-71 ページをごらんください。
DUONIC 2.0 搭載車はヒルスタートアシスト機能を使用してください。7-81 ページをごらんください。

2. 下り坂

⚠ 警告

下り坂ではフートブレーキの使いすぎに注意してください。必ず，エンジンブレーキ，排気ブレーキを併用してください。
また，マニュアルトランスミッション搭載車はクラッチを切ったまま，あるいはギヤシフトレバーをニュートラル位置，DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “N” 位置にしたまま走行しないでください。エンジンブレーキ，排気ブレーキが効かなくなりフートブレーキの負担が多くなります。
フートブレーキを使いすぎるとフェード現象やベーパーロック現象を起こし，ブレーキの効きが悪くなり重大な事故につながるおそれがあります。8-8 ページをごらんください。

⚠ 注意

急な下り坂や長い坂を降りるときはあらかじめブレーキテストを行い，フートブレーキや排気ブレーキが正常に作動することを確認してください。

- 下り坂では上るときに使用したのと同じギヤ位置にしてエンジンブレーキ，排気ブレーキを併用し，スピードの出しすぎに注意してください。
- シフトダウンするときは十分に減速してから変速を行ってください。
  1 段飛び越しのシフトダウンやエンジンが高回転のままシフトダウンを行うと変速後オーバーランを起こすおそれがあります。6-3 ページをごらんください。

アドバイス

下り坂ではエンジンをオーバーランさせないようにしてください。エンジン各部に無理が生じ，エンジンを破損することがあります。タコメーターの針がレッドゾーンに入らないスピードに抑えてください。

悪路，悪天候のときは

- 砂利道やぬかるみなどは低速ギヤで一定速度を保ちながら走行してください。
- 凹凸路ではスピードを十分に落とし，車体下部を打ちつけないよう走行してください。
- ぬかるみなどから脱出できなくなったときは，むやみにエンジンをふかさないでください。
  ますます穴が深くなり脱出が困難になります。古毛布，砂利などをタイヤの下に入れてからギヤを 1 速と後退に交互に入れ(DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “D” 位置と “N” 位置に交互に入れ)，車を前後にゆすりながら脱出します。

⚠ 注意

雨や雪，または凍結路などの滑りやすい路面では次のことを守ってください。

- 急ハンドルや急ブレーキ操作は避けてください。スリップ事故を起こすおそれがあります。無理のない速度で走行してください。
- 空車時や積み荷が軽いときは，排気ブレーキを作動させないでください。排気ブレーキを作動させるとスリップ事故を起こすおそれがあります。とくに下り坂ではスリップしやすくなります。
- 排気ブレーキを効かせながらカーブ走行するときは，あらかじめスピードを落としてください。滑りやすい路面や段差通過時にタイヤがスリップすると ABS が作動し，排気ブレーキが一時的に解除し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキの効きを確認してから走行してください。
  ブレーキドラムやディスクローターに水がかかるとブレーキの効きが極端に悪くなり，思わぬ事故につながるおそれがあります。
  このようなときは，周りの車に注意しながら低速で走行し，ブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かしてください。
- 雪または凍結路を走行するときは，タイヤチェーン，スノータイヤまたはスタッドレスタイヤを装着してください。
  フルタイム 4WD 車は，タイヤチェーンは使用できません。スノータイヤまたはスタッドレスタイヤを装着してください。
- 霧のときはフォグランプ＊を点灯し，センターラインや先行車の動きに注意しながら低速で走行してください。

アドバイス

大雨などで冠水している道路は走行しないでください。次の不具合を起こすおそれがあります。万一，冠水している道路を走行し水に浸ってしまったときは，速やかに日産販売会社で点検をお受けください。

- エンジン内に水が入ると破損するおそれがあります。
- ハイカレントヒューズボックスの中に水が入るとショートし火災を起こすおそれがあります。
- ホイールハブベアリングまわり，キングピンまわり及びタイロッドエンドまわりに水の浸入があると，さびが発生しベアリングなどが焼き付くおそれがあります。
- マフラー内部に水が入ると触媒，セラミックフィルターやセンサーが破損するおそれがあります。
- フルタイム 4WD 車はフロントアクスル内に水が浸入すると，ベアリングが焼き付きを起こしたり，フロントデファレンシャルギヤオイルに水が混入するおそれがあります。

駐車するときは

⚠ 警告

- 仮眠するときは必ずエンジンを止めてください。無意識にアクセルペダルやギヤシフトレバーなどを操作して重大な事故につながるおそれがあります。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。
- 駐車ブレーキレバーはいっぱいに引いてください。駐車ブレーキレバーの引きが少ないと駐車ブレーキは確実に効きません。駐車中に車が動き重大な事故につながるおそれがあります。駐車ブレーキレバーを引いて，(!) ウォーニングランプが点灯しても駐車ブレーキが確実に効いているとは限りません。(!) ブレーキウォーニングランプの点灯と駐車ブレーキの効きとは関係ありません。

⚠ 注意

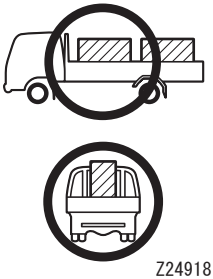
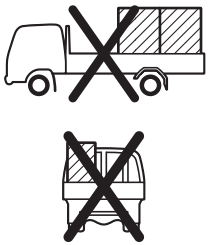
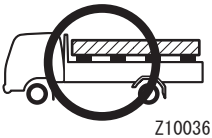
- 坂道での駐車は避けてください。駐車中に車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。やむを得ず坂道に駐車するときはブレーキペダルをしっかりと踏み込んだまま，駐車ブレーキを確実に効かせます。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にします。タイヤに輪止めをかけてください。万一のことを考えて障害物（縁石など）のある方にハンドルを回しておくとより安全です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすい物がある場所には車を止めないでください。走行直後は排気管やマフラー付近が高温になっているため燃えやすい物が近くにあると火災を起こすおそれがあります。
- EZGO（イージーゴー）＊，作業用補助制動装置＊，ヒルスタートアシスト機能＊は駐車ブレーキではありません。駐車時は必ず駐車ブレーキを効かせてください。
- DUONIC 2.0搭載車は坂道でギヤシフトレバーの “P” 位置のみで駐車しないでください。勾配のきつい坂道で，ギヤシフトレバーを “P” 位置のみで停車するとギヤシフトレバーが重くなり，場合によっては解除できなくなる場合があります。このようなとき，一度ギヤシフトレバーを “N” 位置にし，ギヤシフトポジションインジケーターが “N” を表示していることを確認後，“D” 位置にしてください。

①できるだけ平たんな場所に停車します。
②ブレーキペダルをしっかりと踏み込んだまま駐車ブレーキをいっぱいに引きます。
③マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。
　DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にします。
④約３分間エンジンをアイドリング運転した後，エンジンを停止します。
⑤車から離れるときはスターターキーを抜き取りドアを施錠します。

荷の積み方

⚠ 注意

- 最大積載量を守ってください。過積載をするとブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また，車の各部に悪影響を与え車の寿命を縮めるおそれがあります。
- 積み荷は次のように正しく積んでください。誤った積み方は積み荷が不安定になるばかりでなく荷台やフレームなどを傷めたり，タイヤがバーストするおそれがあります。また，積み荷は，荷滑りのないよう滑り止めを行うとともにワイヤ等で確実に固定してください。

荷物はかたよらないように均等に積んでください。	 Z24918	 Z24919
荷物を高く積まないでください。高荷は横風を受けたときや旋回時に横転するおそれがあります。	 Z10034	 Z10035
荷物の下にウマを用いるときは，ウマの位置を均等に配置してください。	 Z10036	 Z10037
長尺重量物を積むときは極力荷台後端より出さず，ウマを使用してください。鳥居と荷台後端で支えるのはやめてください。	 Z10038	 Z10039
荷物が落ちないようロープ掛け，ほろ掛けを確実に行ってください。また，ロープやほろがバタつかないようしっかり固定してください。	 Z10040	 Z10041

⚠ 注意

- キャブと荷台の間にロープやほろの先端をたらしたり，荷台とフレームの間に木材などの燃えやすい物を差し込んだりしないようにしてください。エンジンや排気管の熱により火災を起こすおそれがあります。

アドバイス

キャブ後方にあるエンジンの吸気ダクトにほろ等がかぶさらないようにしてください。また，吸い込まれないように注意してください。
吸気ダクトがふさがれると出力不足等が発生し，エンジン不調の原因になります。

9章 室内装備品の取扱い

電源ソケット＊ ····· 9-2
シガーライター＊ ····· 9-3
灰皿 ····· 9-4
コートフック＊ ····· 9-7
サンバイザー＊ ····· 9-7
ルームランプ ····· 9-8
けい光灯＊ ····· 9-10
ステップランプ＊ ····· 9-10
ルームミラー ····· 9-11
物入れ ····· 9-12

電源ソケット＊

電源ソケットはプラグタイプの電気製品の電源として使用できます。

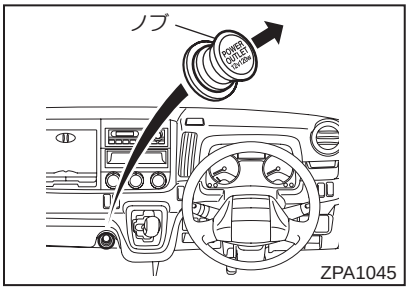
⚠ 注意

- 電源ソケットの挿入口内部に水などが入らないようにしてください。電源ソケットの挿入口内部に水などが入ってしまったときは，ショートによる火災を起こすおそれがありますので，日産販売会社で清掃をお受けください。
- 使用直後は電源ソケットや電源プラグが熱くなっている場合がありますので，やけどに注意してください。
- 電源ソケットに指や金属などを入れないでください。やけどやショートの原因になるおそれがあります。電源ソケットを使用しないときは，ノブを差し込んでください。
- 電源ソケットにはプラグタイプのものを使用してください。プラグタイプ以外のものやシガーライターを差し込むとソケットの故障やショートするおそれがあります。

アドバイス

- 二またソケットなどでタコ足配線を行わないでください。ヒューズが切れる可能性があります。
- 定格電圧は 12V で許容負荷は 120W（10A）までです。許容負荷以上の使い方をするとヒューズが切れるおそれがあります。
- 電気製品のプラグは奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが不完全だと異常過熱し，ヒューズが切れる可能性があります。
- エンジンを停止し，電気製品を長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンが始動できなくなるおそれがあります。
- 電気製品のプラグを差し込むときや抜くときは電気製品の電源スイッチを“OFF”にするか，スタータースイッチを“LOCK”位置にしてください。

スタータースイッチが “ON” または “ACC” 位置のとき使用できます。
使用するときはノブを引き抜きます。使用しないときはノブを差し込んでおきます。

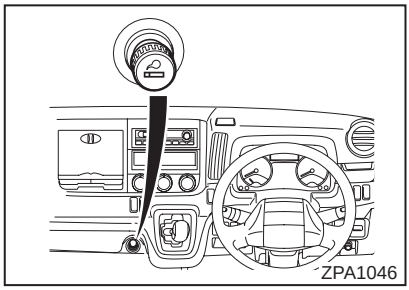


シガーライター＊

⚠ 注意

- お子さまにはシガーライターを触らせないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターの金属部分には触らないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターを手で押し込んだままにしないでください。過熱して火災を起こすおそれがあります。
- シガーライターが 30 秒以上たっても戻らないときはすぐに引き抜いてください。過熱して火災を起こすおそれがあります。故障していますので，シガーライターを使用せず速やかに日産販売会社で修理を受けてください。
- シガーライターを押し込んだまま車から離れないでください。火災を起こすおそれがあります。
- シガーライターを変形させたときは日産自動車の純正部品と交換してください。変形はシガーライターの飛び出し不良となり火災を起こすおそれがあります。
- 交換するときは 12V のシガーライターにしてください。24V のシガーライターなどを使用すると火災や故障を起こすおそれがあります。
- シガーライターを電源とする電気製品は使用しないでください。過大電流が流れ配線が過熱し，火災を起こすおそれがあります。また，シガーライターのソケット内部を損傷させるおそれがあります。
- シガーライターの挿入口内部に水などが入ってしまったときは，ショートによる火災を起こすおそれがありますので，日産販売会社で清掃をお受けください。

スタータースイッチが“ON”または“ACC”位置のとき使用できます。
シガーライターを押し込み手を離します。しばらくすると赤熱し音がして戻ります。



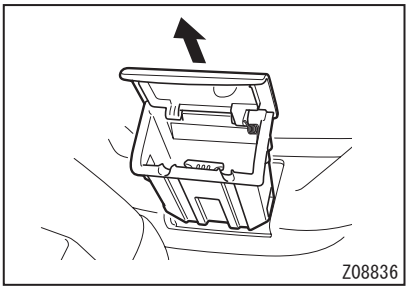
灰皿

⚠ 注意

- たばこやマッチは火を消してから，ふたを閉じてください。開けたままにしておくと，たばこやマッチの火が他の吸いがらに燃え移り火災を起こすおそれがあります。
- たばこの吸いがら以外の物を入れたり，吸いがらをためすぎないでください。火災を起こすおそれがあります。
- 灰皿を清掃するときは硬いもので叩かないでください。破損するおそれがあります。また，破損した灰皿は，使用せず新品に交換してください。火災を起こすおそれがあります。

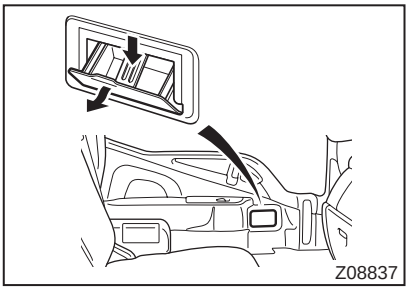
1. 運転席及び助手席ドア部

- 使用するときはふたを上に上げます。
- 掃除するときは，ふたを持って本体を上方に抜き取ります。



2. 助手席〈スイングドア車〉

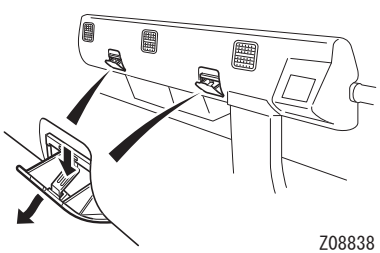
- 使用するときは手前に倒します。
- 掃除するときは，スプリングを倒したまま手前に外します。
- 取付けるときは，灰皿下部を溝に差し込んでからスプリングを押したまま押し込みます。



3. 後席〈ダブルキャブ車〉

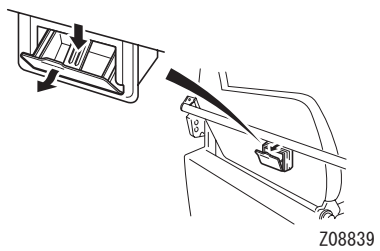
- 使用するときは手前に倒します。
- 掃除するときは，スプリングを倒したまま手前に外します。
- 取付けるときは，灰皿下部を溝に差し込んでからスプリングを押したまま押し込みます。

〈タイプ1〉



Z08838

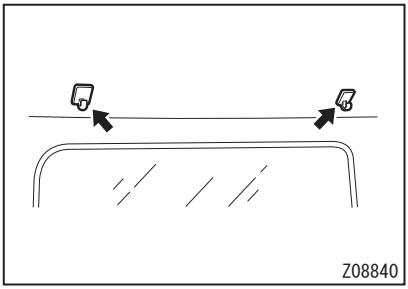
〈タイプ2〉



Z08839

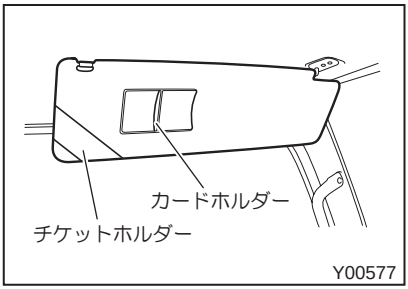
コートフック＊

衣類などを掛けるとき使用します。



サンバイザー＊

- 日差しがまぶしいときに使用します。
- 横からの日差しがまぶしいときは一端を外して回すとドア側のサイドバイザーとしても使用できます。
- 運転席側サンバイザーの裏側にはカードホルダー及びチケットホルダーが付いています。



ルームランプ

⚠ 注意

ルームランプまたはマップランプは走行中に点灯させないでください。夜間，明るくなった室内がフロントガラスに写ります。視界が妨げられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

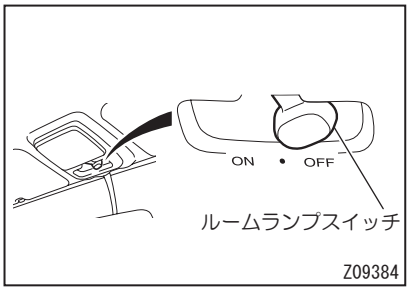
アドバイス

エンジンを停止しルームランプまたはマップランプを長時間点灯しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

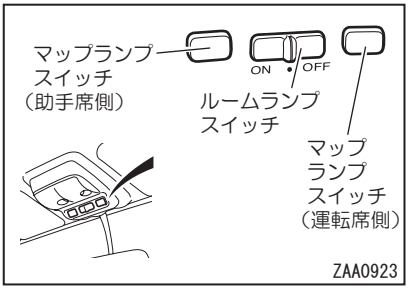
スタータースイッチの位置に関係なく使用できます。
ルームランプスイッチの位置によってルームランプは次のようになります。

1. ルームランプ＊

- **ON 位置**
  ： 常時点灯します。
- **●位置**
  ： ドアを開けると点灯，閉じると消灯します。
  エンジン停止時にドアを閉じると減光しながら約 10 秒後に消灯します。
- **OFF 位置**
  ： 常時消灯します。



2. マップランプ付ルームランプ＊



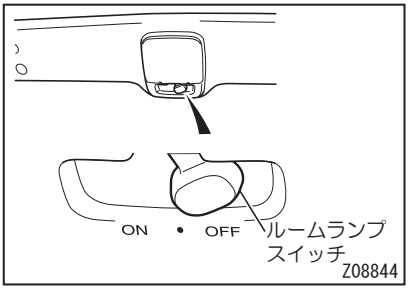
● **ON 位置**
：常時点灯します。

● **●位置**
：ドアを開けると点灯，閉じると消灯します。
エンジン停止時にドアを閉じると減光しながら約 10 秒後に消灯します。

● **OFF 位置**
：常時消灯します。

マップランプスイッチ
：スイッチを押した側のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。

3. 後席用ルームランプ〈ダブルキャブ車〉



● **ON 位置**
：常時点灯します。

● **●位置**
：ドアを開けると点灯，閉じると消灯します。

● **OFF 位置**
：常時消灯します。

けい光灯＊

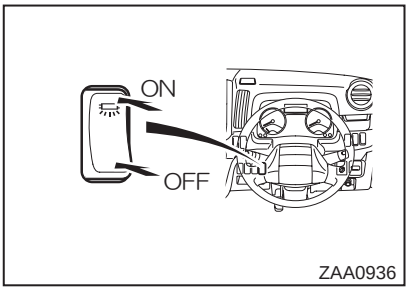
⚠ 注意

けい光灯は走行中に点灯させないでください。夜間，明るくなった室内がフロントガラスに写ります。視界が妨げられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

エンジンを停止し，けい光灯を長時間点灯しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

点灯するときは，けい光灯スイッチを“ON”にします。消灯するときはけい光灯スイッチを“OFF”にします。

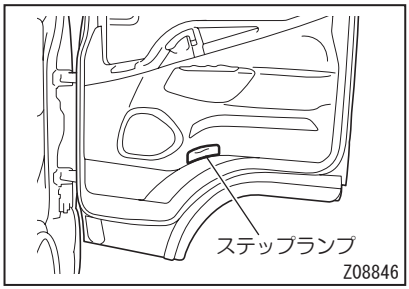


ステップランプ＊

- ドアを開けたとき点灯し閉じると消灯します。
- 次のときドアを開けたまま，約5分経つと自動的に消灯します。
  - スターターキーを抜いている，またはスターターキーが“LOCK”位置のとき
  - ブレーキペダルを踏んでないとき

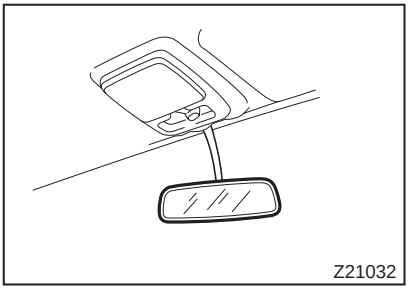
知識

非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅しているときは消灯しません。

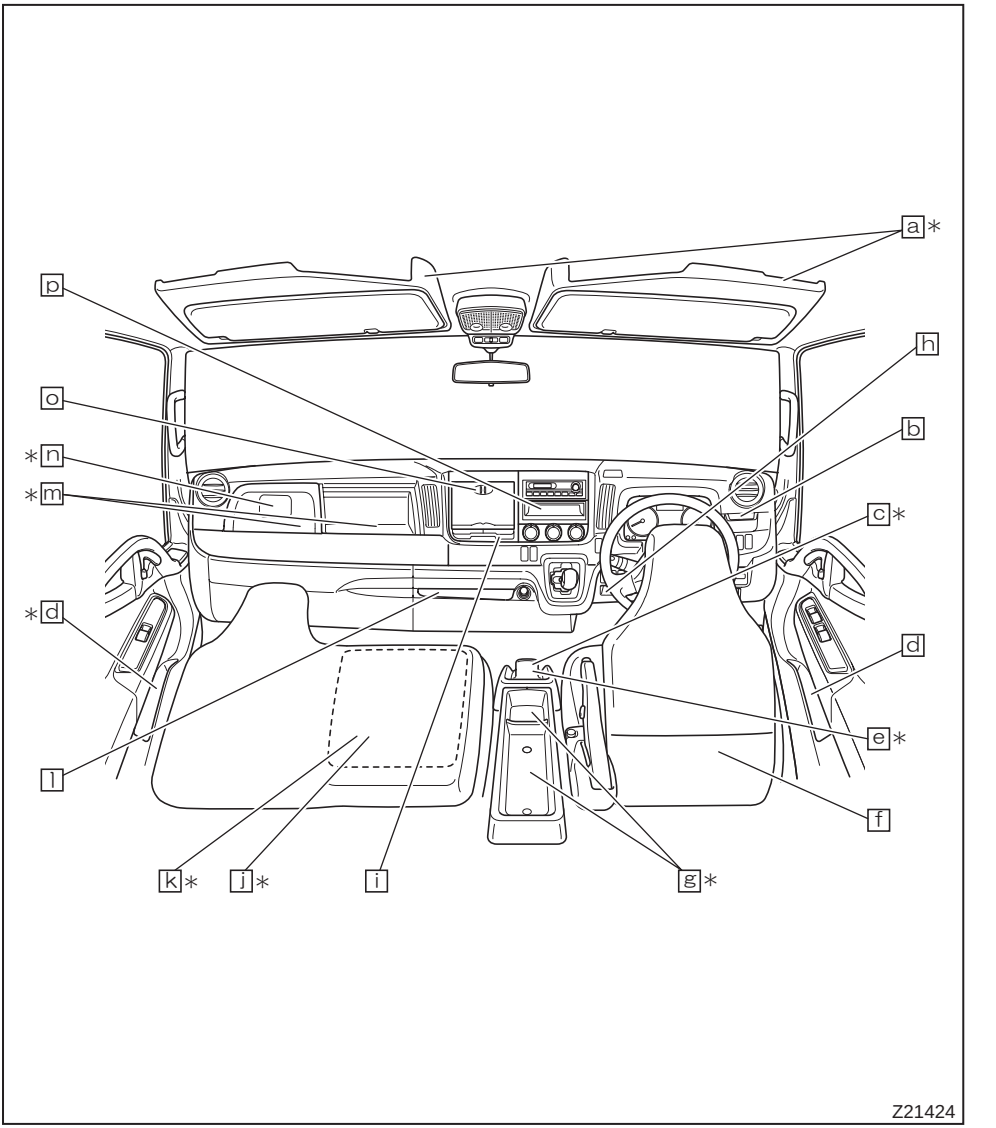


ルームミラー

後方が確認できる角度に調整します。



物入れ



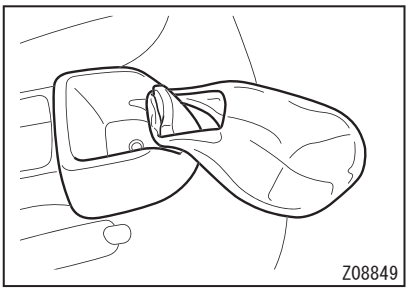
[a]オーバーヘッドトレイ＊

⚠ 注意

重い物や転がりやすい物を載せないでください。走行中落下し，ケガをするおそれがあります。

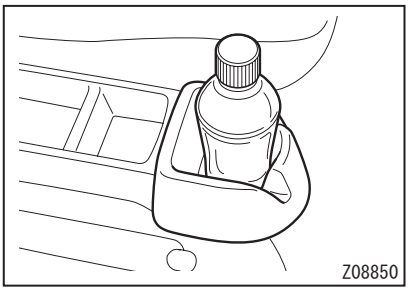
[b]縦型物入れ

[c]コンビニフック＊



[d]ドアポケット＊

[e]センタートレイ＊



[f]シートバックポケット

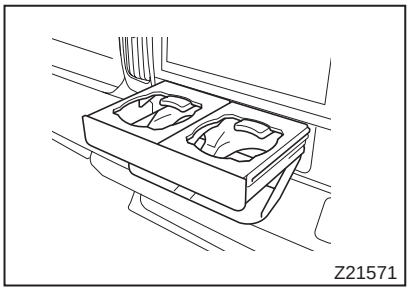
アドバイス

シートバックポケットに物を入れ過ぎたり，ポケットを無理に引っ張らないでください。シートが破れるおそれがあります。

[g]センターコンソール＊

[h]物入れ＊

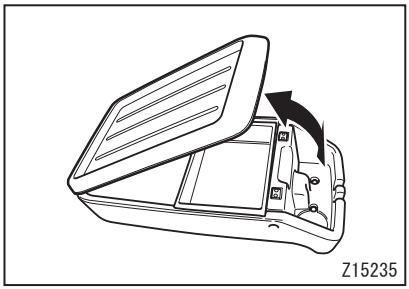
ⓘカップホルダー
使用するとき引出します。使用しないときは収納しておきます。


Z21571

⚠ 注意

運転席周りのスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないでください。故障の原因となったり，車両火災につながるおそれがあります。万一，電装品に飲み物などをこぼしたときは日産販売会社で点検をお受けください。

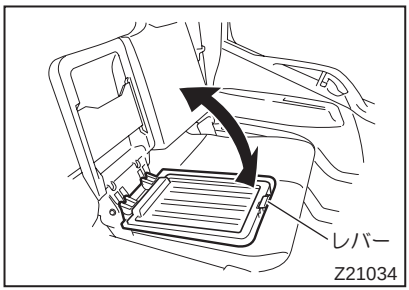
ⓙフロアコンソール＊


Z15235

アドバイス

走行するときはふたを閉めてください。開けたまま走行すると，ふたのヒンジ部を損傷するおそれがあります。

ⓚマガジンラック付センタートレイ＊
中央席＊のレバーを引き背もたれを倒すとトレイとマガジンラックを使用できます。

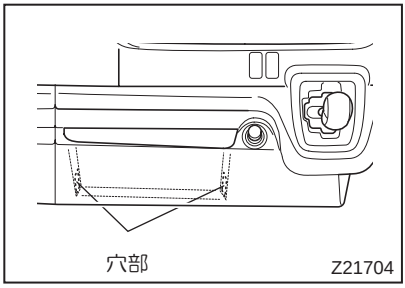


Z21034

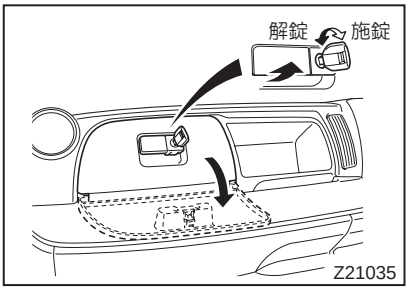
l インストロアポケット

知識

インストロアポケットにペンなどを落としてしまったときは，長い棒などを使用し，ポケット内側側面底部の穴部より取り出してください。



m キー付グローブボックス＊
ノブを引いて開けます。
スターターキーでふたを施錠，解錠できます。



n インストアッパーボックス（左サイド部）＊

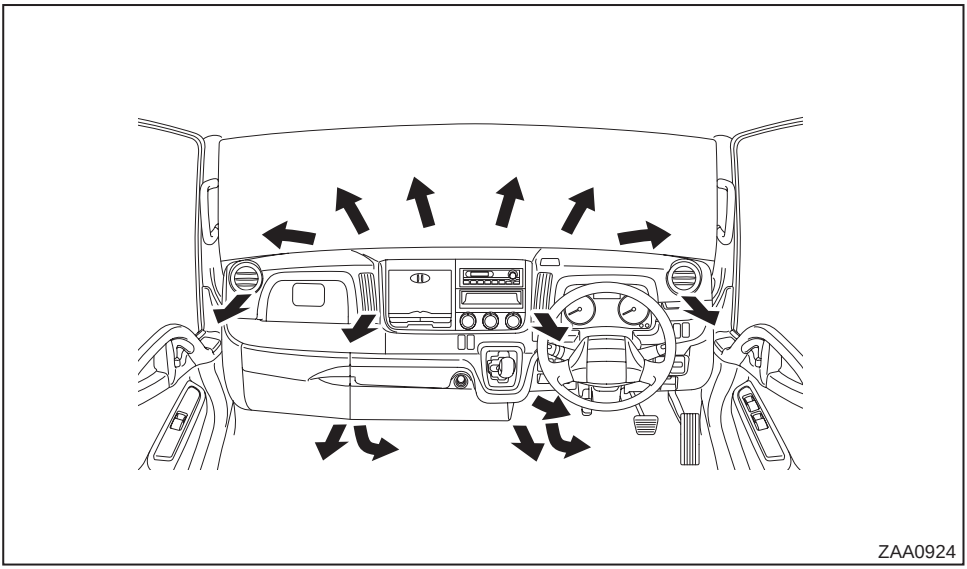
o インストアッパー 2DIN ボックス（リッド付）

p インストアッパー 1DIN オープンボックス

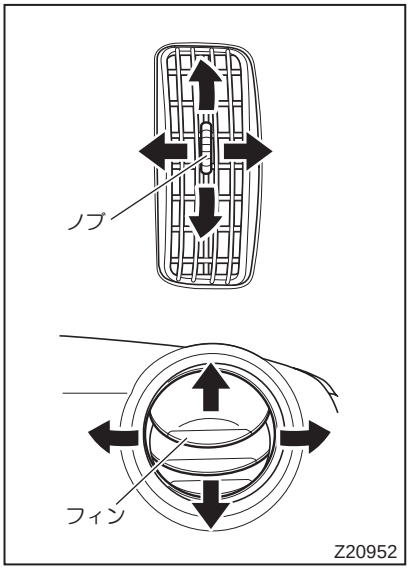
10章 ヒーター，エアコンの取扱い

フロント吹き出し口 …… 10-2
リヤ吹き出し口〈ダブルキャブ車〉…… 10-3
マニュアルエアコン＊ …… 10-4
フルオートエアコン＊ …… 10-11
リヤエアコン＊ …… 10-17
リヤヒーター＊ …… 10-22

フロント吹き出し口



- 上下の風向きはノブまたはフィンを上下に動かし，お好みの風向きに調整します。
- 左右の風向きは吹き出し口の右側，または左側を押してお好みの風向きに調整します。
- 閉めるときはノブまたはフィンを下側に動かします。
  開けるときはノブまたはフィンを上側に動かします。

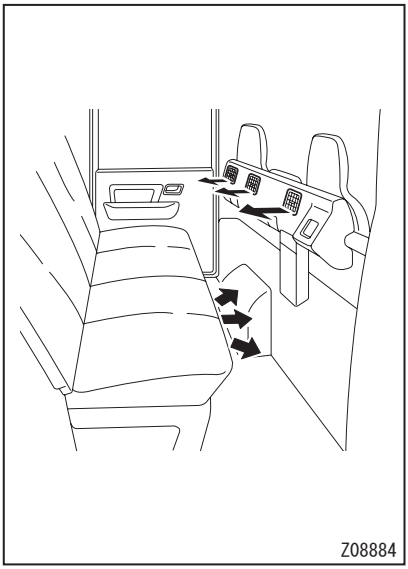


アドバイス

ドアガラスへ吹き出す風の妨げになるためフロントガラスとインストルメントパネルの間に物を置かないでください。

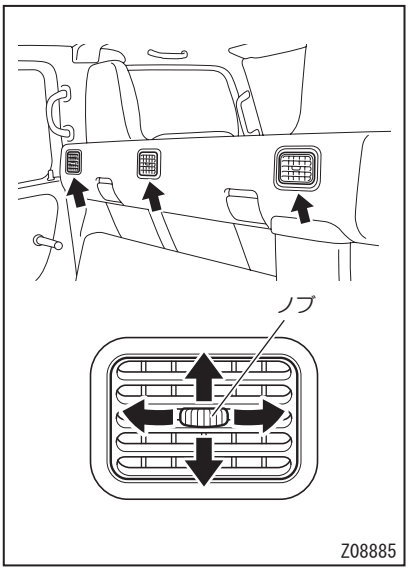
リヤ吹き出し口〈ダブルキャブ車〉

1. リヤエアコン装着車吹き出し口

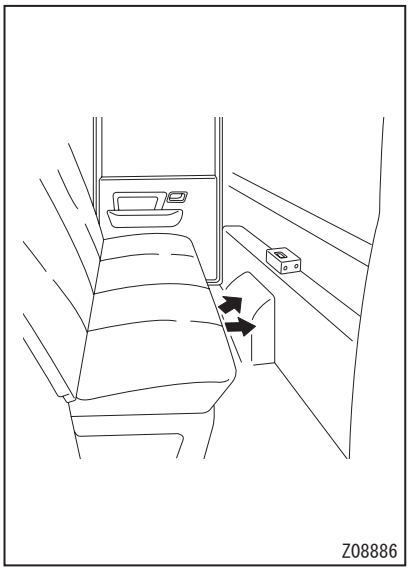


● 風向き調整

- 左右の風向きはノブを左右に動かし，お好みの風向きに調整します。
- 上下の風向きは吹き出し口の上側，または下側を押してお好みの風向きに調整します。



2. リヤヒーター装着車吹き出し口



マニュアルエアコン＊

⚠ 警告

車から離れるときはお子さまを車に残さないでください。何らかの原因でエアコンが停止した場合，車内の温度が上昇し熱射病などになるおそれがあります。

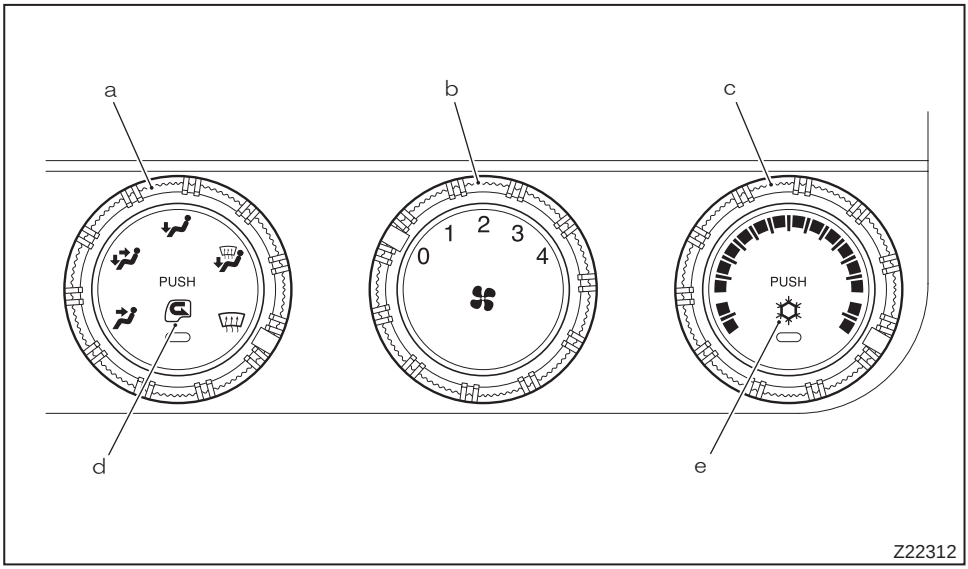
アドバイス

冷媒ガスは大気中に放出しないでください。
整備や廃車するときは，日産販売会社に相談し，冷媒ガスを回収してください。

知識

- 暖機運転時や駐車中に暖房を使うときは，暖機スイッチを作動位置にしておくと暖房の効きが良くなります。
- DPF 手動再生時にエアコンの効きが悪くなる場合がありますが異常ではありません。

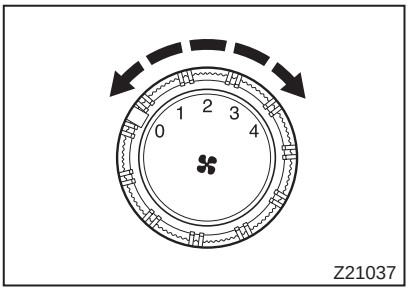
1. 各スイッチの使い方



a. 吹き出し口切り替えダイヤル
b. 風量調整ダイヤル
c. 温度調整ダイヤル
d. 内外気切り替えスイッチ
e. エアコンスイッチ

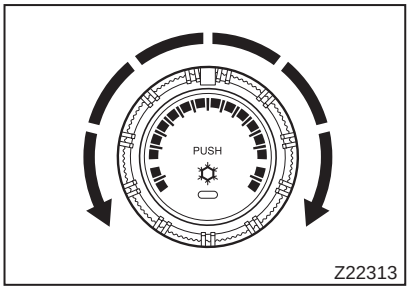
1.1 風量調整ダイヤル

風量を 4 段階に調整できます。
風量を強くするときは右へ，弱くするときは左へ回します。



1.2　温度調整ダイヤル

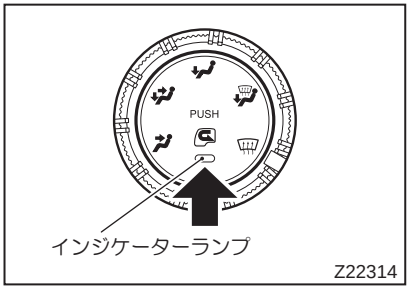
送風温度を高くするときは右へ，低くするときは左へ回します。



1.3　内外気切り替えスイッチ

スイッチを押すと内気循環と外気導入の切り替えができます。内気循環に切り替わるとスイッチ内のインジケーターランプが点灯します。

外気導入：　通常走行時
内気循環：　早く冷房，暖房したいときや外気が汚れているとき

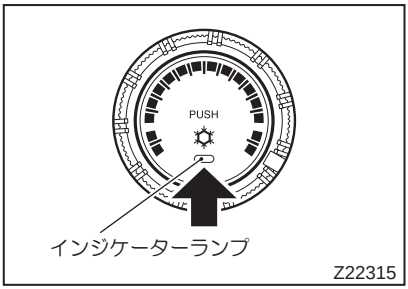


知識

- 通常は外気導入で使用してください。
- 湿度の高いときに内気循環で長時間使用すると窓ガラスがくもりやすくなります。
- スタータースイッチが “OFF” 位置で内外気切り替えスイッチを押した場合，スタータースイッチが “ON” 位置になった時点で切り替わります。

1.4 エアコンスイッチ

スイッチを押すとエアコン（冷房・除湿機能）が作動します。
スイッチ内のインジケーターランプが点灯します。
もう一度押すとエアコンは停止します。



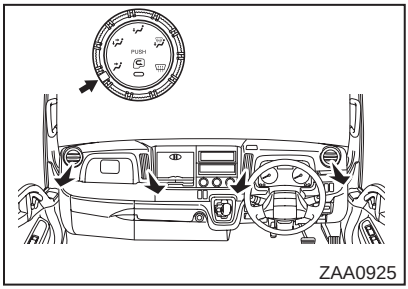
知識

- スタータースイッチが“OFF”位置でエアコンスイッチを押した場合，スタースイッチが“ON”位置になった時点で切り替わります。
- 風量調整ダイヤルが停止位置でエアコンスイッチを押した場合，風量調整ダイヤルが作動位置になった時点で切り替わります。

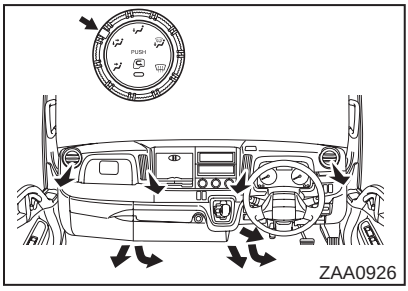
1.5 吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

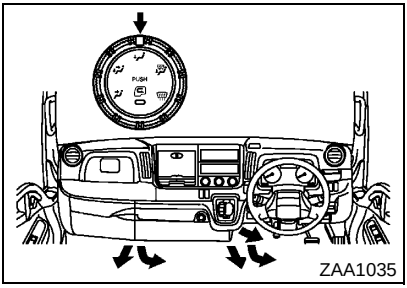
- 上半身に送風したいとき



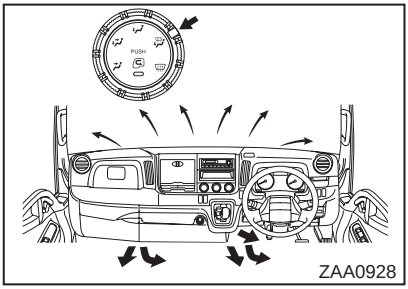
- 上半身と足元に送風したいとき



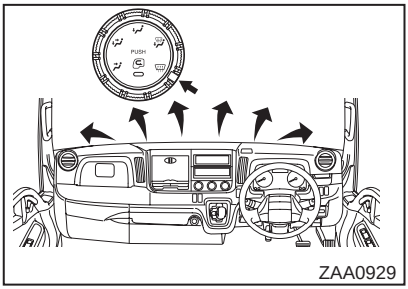
● 足元に送風したいとき



● 足元とフロントガラスに送風したいとき



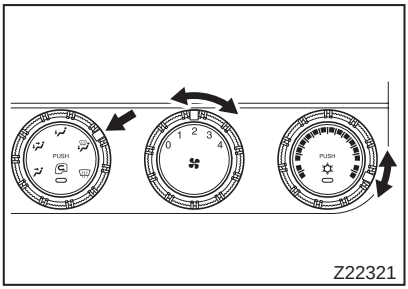
● フロントガラスに送風したいとき



2. 使い方

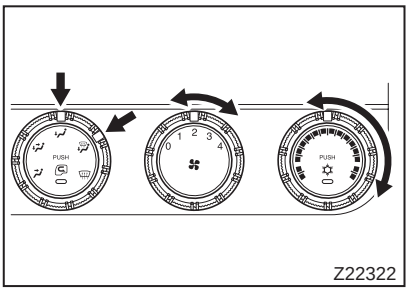
2.1 暖房したいとき

● 室内を早く暖めたいとき
吹き出し口切り替えダイヤルを“ ”にします。



Z22321

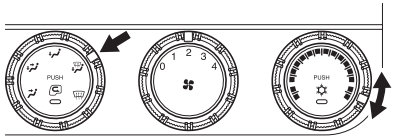
● 室内を通常で暖めたいとき
吹き出し口切り替えダイヤルを“ ”または“ ”にします。



Z22322

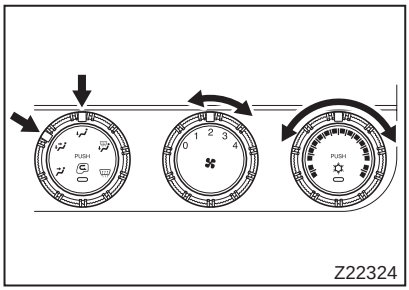
知識

吹き出し口切り替えダイヤルが“ ”のとき，温度調整ダイヤルを最大付近で長時間使用するとフロントガラスがくもることがあります。くもりを取りたいときは吹き出し口切り替えダイヤルを“ ”にします。



Z22323

2.2　頭寒足熱にしたいとき

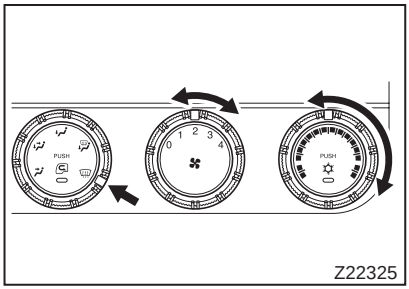


2.3　窓ガラスのくもりを取りたいとき

くもりを早く取りたいときは風量調整ダイヤルで風量を最大にし，温度調整ダイヤルで温度を最高にしてください。

知識

エアコンを使用すると除湿効果でくもりが早く取れます。

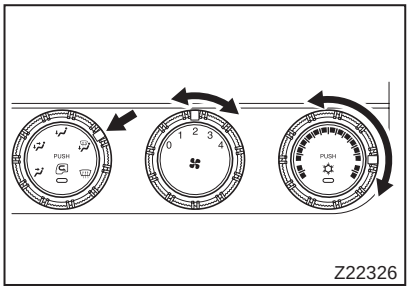


2.4　暖房とくもり止めを同時にしたいとき

吹き出し口切り替えダイヤルを “ ” にします。

知識

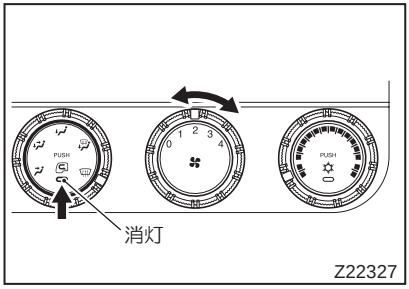
エアコンを使用すると除湿効果でくもりが早く取れます。



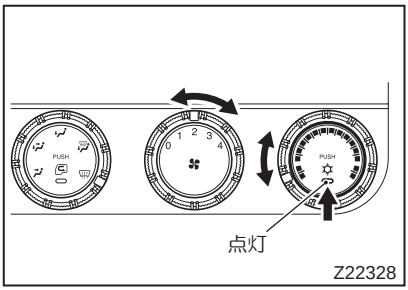
2.5　換気したいとき

内外気切り替えスイッチを押して外気導入にし，吹き出し口切り替えダイヤルを “ ” にします。

外気導入に切り替わるとスイッチ内のインジケーターランプが消灯します。



2.6 冷房したいとき



フルオートエアコン＊

⚠ 警告

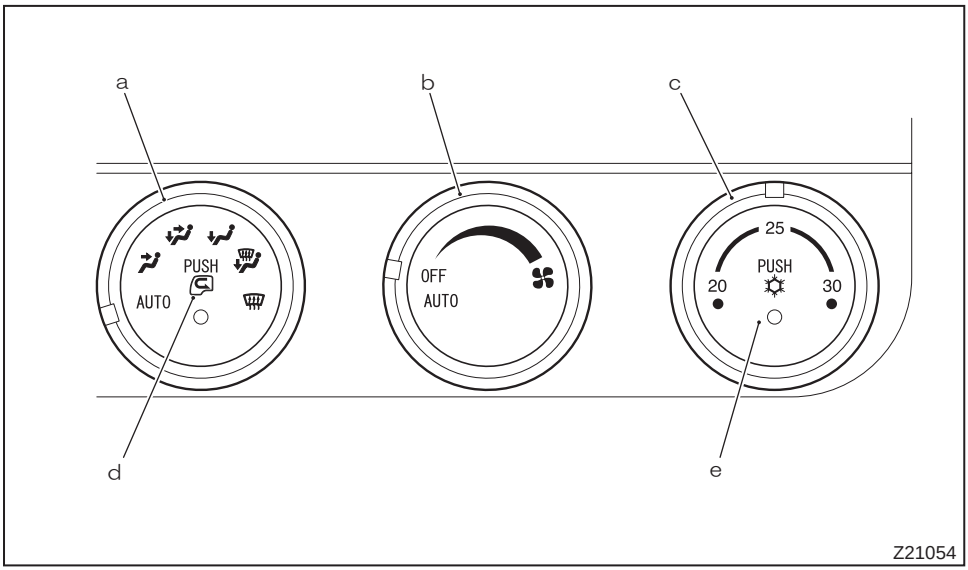
車から離れるときはお子さまを車に残さないでください。何らかの原因でエアコンが停止した場合，車内の温度が上昇し熱射病などになるおそれがあります。

アドバイス

冷媒ガスは大気中に放出しないでください。
整備や廃車するときは，日産販売会社に相談し，冷媒ガスを回収してください。

知識

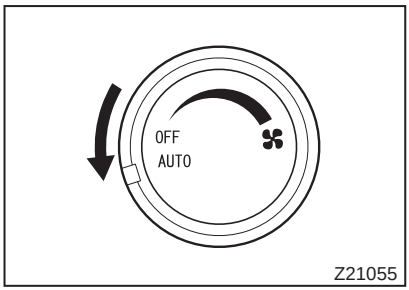
- 暖機運転時や駐車中に暖房を使うときは，暖機スイッチを作動位置にしておくと暖房の効きが良くなります。
- DPF 手動再生時にエアコンの効きが悪くなる場合がありますが異常ではありません。



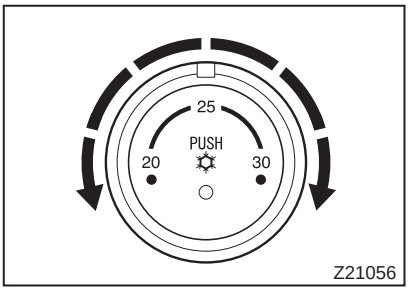
a.　吹出し口切り替えダイヤル
b.　風量調整ダイヤル
c.　温度調整ダイヤル
d.　内外気切り替えスイッチ
e.　エアコンスイッチ

1. 自動で使うとき

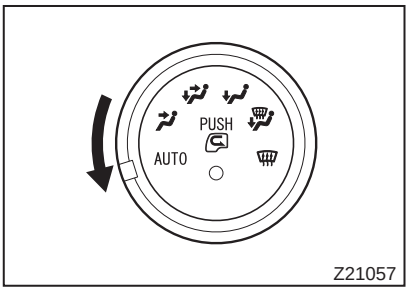
①風量調整ダイヤルを “AUTO” にします。



②希望温度を温度調整ダイヤルで設定します。
設定温度は 18 ～ 29 ℃の間で調整できます。



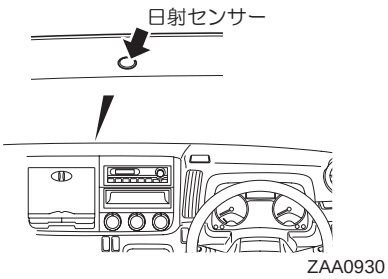
③吹き出し口切り替えダイヤルを“AUTO”にします。
吹き出し口切り替え（ , を除く），風量，エアコンの“ON”，“OFF”及び内外気の切り替えを自動調整します。



④作動を停止するときは風量調整ダイヤルを OFF にします。

アドバイス

日射センサーの上に物を置いたり，覆ったりしないでください。日射を考慮した空調ができなくなります。



知識

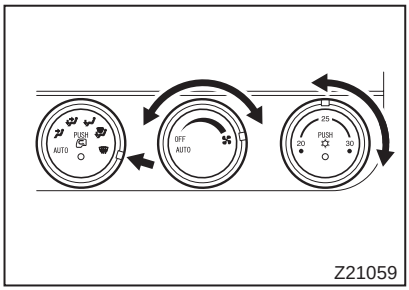
- “AUTO”作動中に風量調整ダイヤル，吹き出し口切り替えダイヤル及び内外気切り替えスイッチを操作すると操作した機能が優先します。操作した機能以外は自動制御されます。
- エアコンが“OFF”のときは内外気切り替えは自動で切り替わりません。

2. 手動で使うとき

- お好みに合わせて各ダイヤルを操作してください。
  自動（AUTO）作動中でも，操作した機能が優先されます。
- 操作した機能以外は自動制御されます。
- 作動を停止するときは風量調整ダイヤルを OFF にします。

2.1　フロントガラスのくもりを取りたいとき

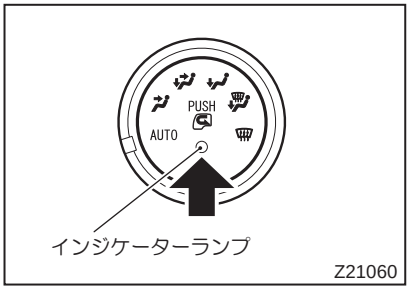
- 吹き出し口切り替えダイヤルを にするとエアコンが自動で作動し外気導入になります。
- くもりを早く取りたいときは風量調整ダイヤルで風量を最大にし，温度調整ダイヤルで温度を最高にしてください。



Z21059

2.2　車内に汚れた空気を入れたくないとき

- 内外気切り替えスイッチを押して内気循環にします。
- 内気循環に切り替わるとスイッチ内のインジケーターランプが点灯します。
- スイッチを押すごとに外気導入と内気循環が切り替わります。



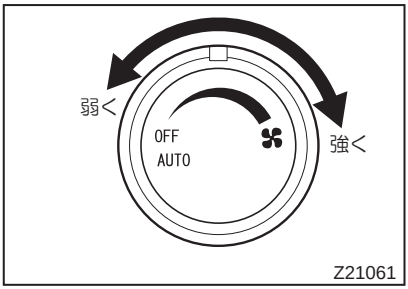
Z21060

知識

- 吹き出し口切り替えダイヤル及び風量調整ダイヤルが “AUTO” のとき内外気切り替えスイッチを操作すると内外気切り替え機能が手動に切り替わります。
- 内外気切り替え機能を “AUTO” にするには吹き出し口切り替えダイヤルまたは風量調整ダイヤルを “AUTO” 以外にし，再度 “AUTO” にします。
- 通常は外気導入で使用してください。
- 湿度の高いときに内気循環で長時間使用すると窓ガラスがくもりやすくなります。

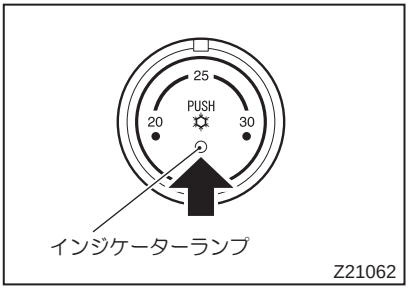
2.3　風量を変えたとき

風量を強くするときは風量調整ダイヤルを右へ，弱くするときは左へ回します。



2.4　除湿・冷房したいとき

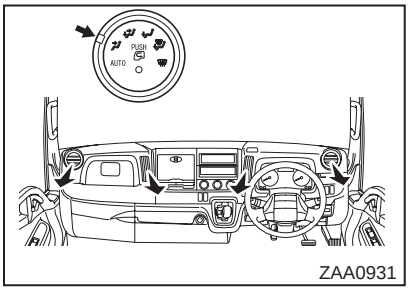
エアコンスイッチを押すとエアコン（除湿，冷房機能）が作動し，スイッチ内のインジケーターランプが点灯します。
もう一度押すとエアコンは停止します。



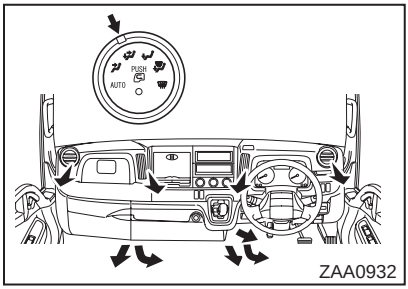
2.5　吹き出し口を切り替えたいとき

吹き出し口切り替えダイヤルを回すごとに吹き出し口が切り替わります。

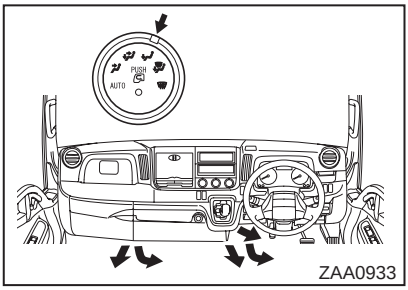
- 上半身に送風したいとき



- 上半身と足元に送風したいとき

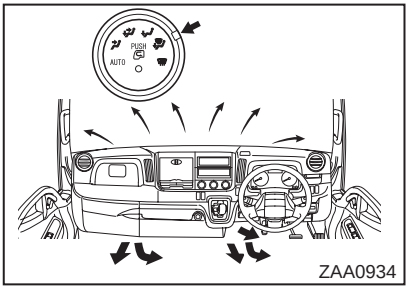


● 足元に送風したいとき



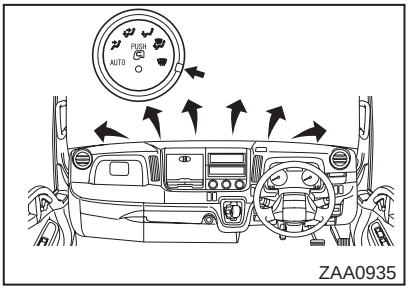
ZAA0933

● 足元とフロントガラスに送風したいとき



ZAA0934

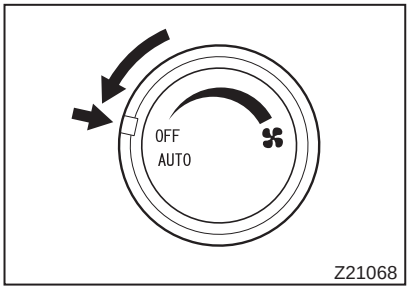
● フロントガラスに送風したいとき



ZAA0935

2.6　すべての作動を停止するときは

風量調整ダイヤルを OFF にします。



Z21068

リヤエアコン＊

⚠ 警告

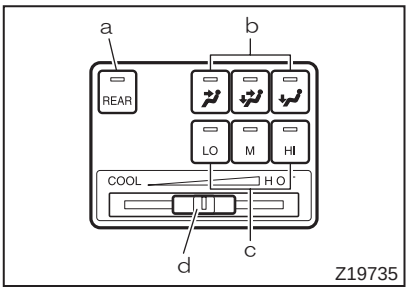
車から離れるときはお子さまを車に残さないでください。何らかの原因でエアコンが停止した場合，車内の温度が上昇し熱射病などになるおそれがあります。

知識

- リヤエアコンを使用するときは，運転席側のエアコンを作動させておいてください。リヤエアコンのみでは冷房運転できません。
- 暖機運転時や駐車中に暖房を使うときは，暖機スイッチを作動位置にしておくと暖房の効きが良くなります。

1. 各スイッチの使い方

a. 電源スイッチ
b. 吹き出し口切り替えボタン
c. 風量調整ボタン
d. 温度調整レバー

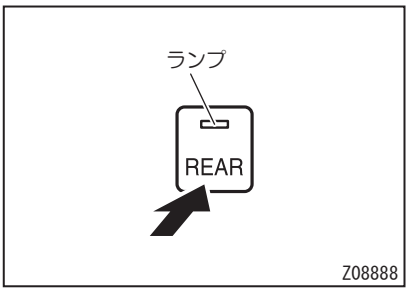


知識

各スイッチ，ボタン内のランプは ON のとき，点灯します。

1.1 電源スイッチ

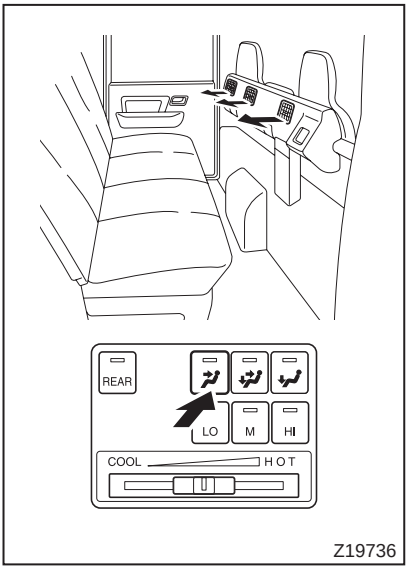
スイッチを押すとリヤエアコンの送風機が作動します。同時にスイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すとリヤエアコンの送風機が停止します。同時にスイッチ内のランプが消灯します。



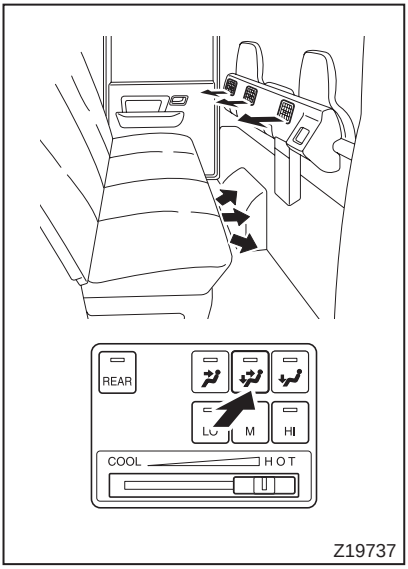
1.2　吹き出し口切り替えボタン

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

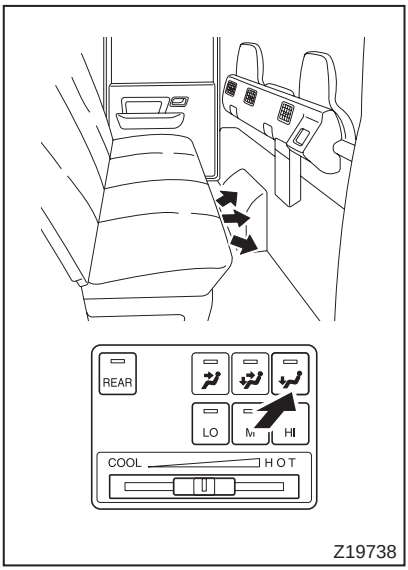
● 上半身に送風したいとき



● 上半身と足元に送風したいとき



● 足元に送風したいとき



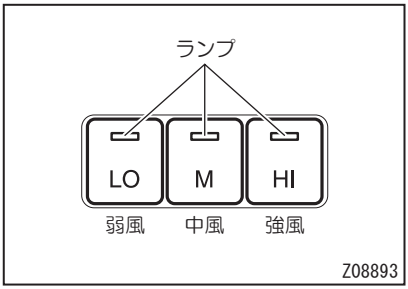
1.3　風量調整ボタン

風量を３段階に調整できます。

LO　：風量弱

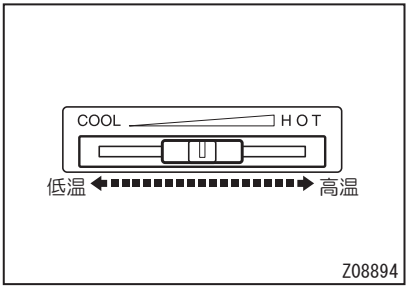
M　：風量中

HI　：風量強



1.4　温度調整レバー

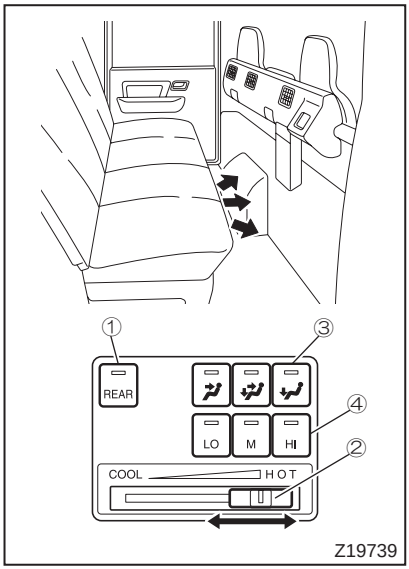
送風温度を高くするときは “HOT” 側へ，低くするときは “COOL” 側にします。



2. 使い方

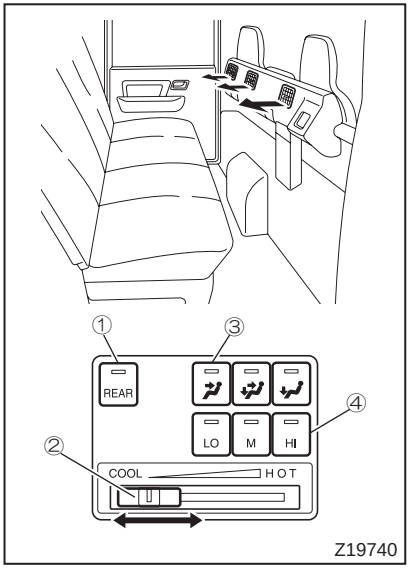
2.1　暖房したいとき

①電源スイッチを ON にします。
②温度調整レバーで温度を調整します。
③吹き出し口切り替えボタンを にします。
④風量調整ボタンで風量を調整します。



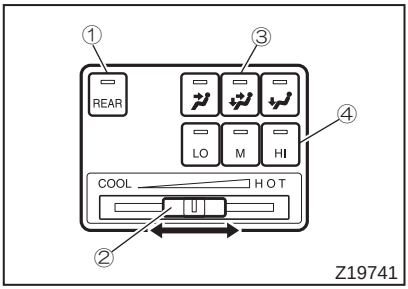
2.2　冷房したいとき

運転席側のエアコンスイッチを ON にします。
①電源スイッチを ON にします。
②温度調整レバーを調整します。
③吹き出し口切り替えボタンを にします。
④風量調整ボタンで風量を調整します。



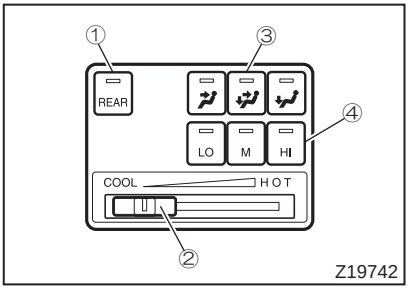
2.3　除湿したいとき

運転席側のエアコンスイッチを ON にします。
①電源スイッチを ON にします。
②温度調整レバーを中間位置ぐらいにします。
③吹き出し口をお好みの位置にします。
④風量調整ボタンで風量を調整します。



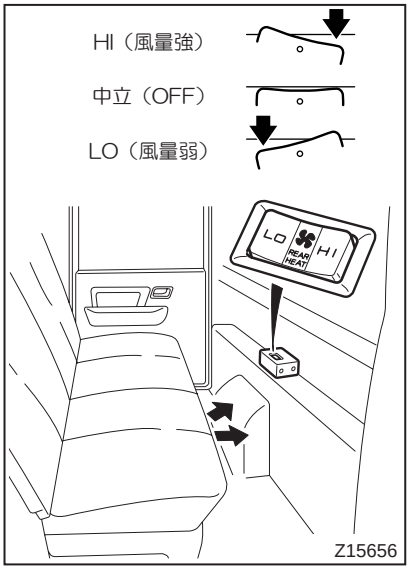
2.4　送風したいとき

①電源スイッチを ON にします。
②温度調整レバーをお好みの位置にします。
③吹き出し口を，お好みの位置にします。
④風量調整ボタンで風量を調整します。



リヤヒーター＊

ヒータースイッチを操作すると後席下から温風が送風されます。



知識

- 暖機運転時や駐車中に暖房を使うときは，暖機スイッチを作動位置にしておくと暖房の効きが良くなります。
- リヤヒーターを使用しないときは，スイッチを中立位置（OFF）にしておきます。

11章 オーディオの取扱い

オーディオの上手な使い方 ····· 11-2
AM/FM ラジオ（スピーカー一体型）＊ ····· 11-3
AM/FM ラジオ＊ ····· 11-8
AM/FM ラジオ& CD プレーヤー＊ ····· 11-19

オーディオの上手な使い方

⚠ 注意

- オーディオの操作は停車中に行ってください。走行中に操作すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中は車外の音が聞こえる程度に音量を調整してください。車外の音が聞こえないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

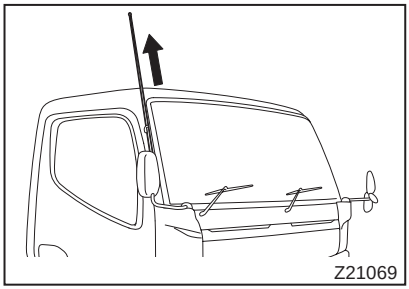
アドバイス

万一の場合は（異物が入った，水がかかった，煙が出る，変な匂いがするなど）直ちに使用を中止し，日産販売会社で点検をお受けください。ご自身で修理したり，そのまま使用しないでください。

- 車内で無線機や携帯電話を使用するとオーディオから雑音がでることがあります。携帯電話はオーディオからできるだけ離して使用してください。
- 走行中は電波状態が変動するため，ラジオの受信状態が不安定になることがあります。

1．アンテナの取扱い

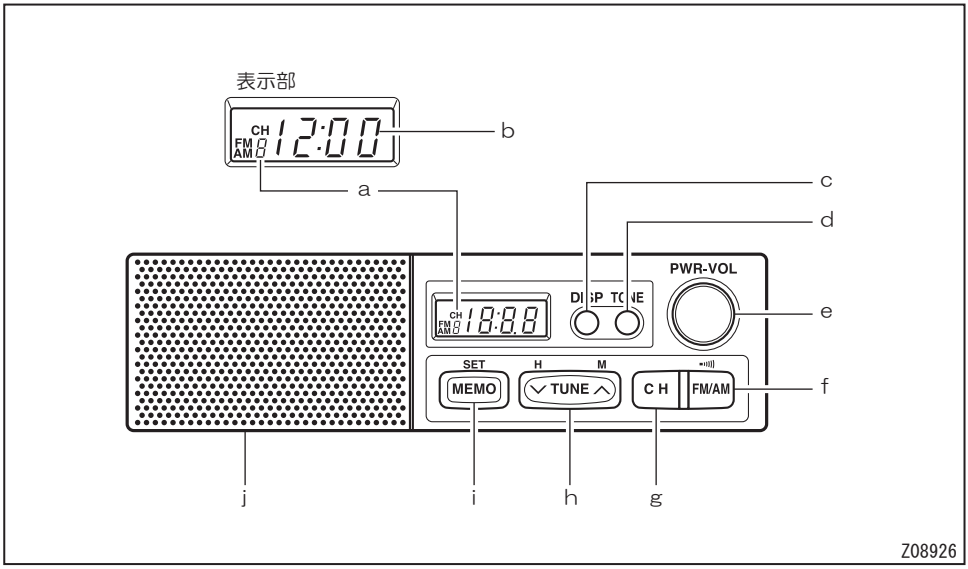
ラジオを聞くときはアンテナを伸ばしてください。



アドバイス

天井の低い所へ入るときは，アンテナを縮めてください。アンテナが折れることがあります。

AM/FM ラジオ（スピーカー一体型）＊

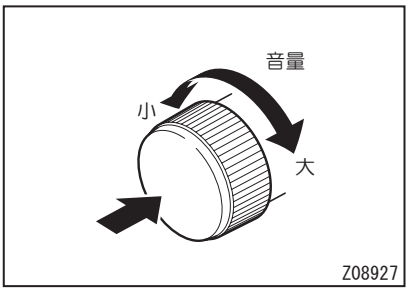


a. チャンネル番号
b. 時刻表示または周波数
c. ディスプレイボタン
d. 音質調整ボタン
e. 電源 / 音量調整ノブ
f. AM/FM バンド切り替えボタン / 交通情報ボタン
g. チャンネルボタン
h. TUNE（選局）ボタン
i. MEMO ボタン
j. スピーカー

1. 音量, 音質を調整するとき

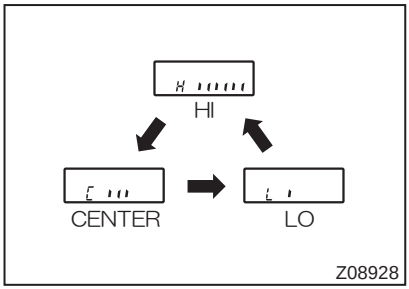
1.1 音量を調整するとき

- 音量調整ノブで調整します。
- ノブを右に回すと音量が大きく，左に回すと小さくなります。

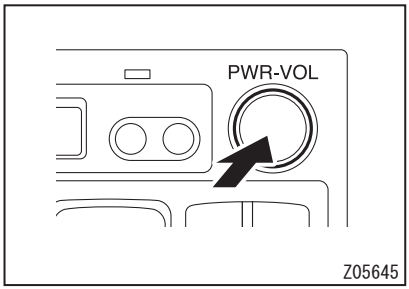


1.2　音質を調整するとき

- 音質調整ボタンを押して調整します。
- 高音域の強弱を 3 段階に調整できます。
  音質調整ボタンを押すごとに LO（弱）→ HI（強）→ CENTER（中）と切り替わり，表示部に調整状態が表示されます。



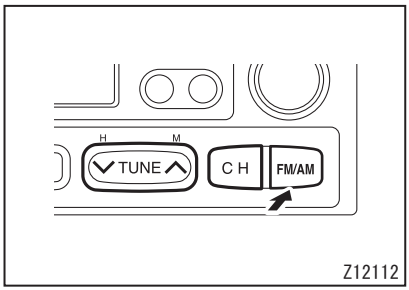
①スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のときに電源ノブを押し電源を入れます。
切りたいときはもう一度ノブを押します。



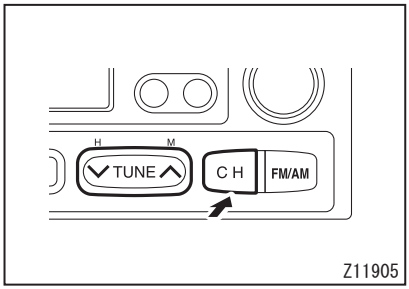
②聞きたい放送局を選局します。

● あらかじめ記憶されている放送局を選局するとき

- “FM/AM” ボタンを押しAM放送, FM 放送のいずれかのバンドを選びます。
- ボタンを押す（2 秒未満）ごとにバンド表示が切り替ります。

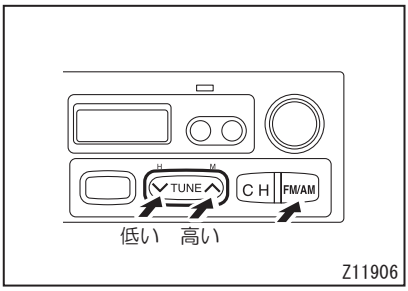


- “CH” ボタンを押し記憶されているチャンネル “1” ～ “6” を選択します。



● 手動で選局するとき

- “FM/AM” ボタンを押しAM放送,FM放送のいずれかのバンドを選びます。
- “TUNE” ボタンを押す(0.5 秒未満)ごとに受信周波数が変化します。
  ∧：周波数の高い方へ選局するとき
  ∨：周波数の低い方へ選局するとき



● 放送局を自動で選局するとき

- “FM/AM” ボタンを押しAM放送,FM放送のいずれかのバンドを選びます。
- “TUNE” ボタンを 0.5 秒以上押します。選局が始まり受信状態の良い放送局で止まります。
  ∧：周波数の高い方へ選局するとき
  ∨：周波数の低い方へ選局するとき

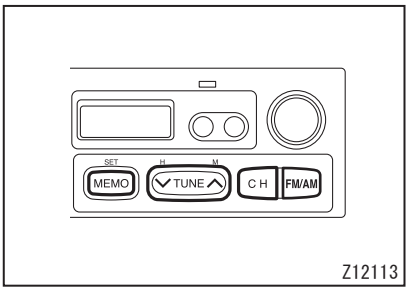
知識

受信電波が弱く自動選局できないときは，手動で選局してください。

1.3 放送局を記憶させるとき

“FM/AM” ボタンに各 6 局記憶させておくことができます。

① “FM/AM” ボタンを押しAM放送,FM放送のいずれかのバンドを選びます。
② “TUNE” ボタンを押し記憶したい放送局に合わせます。
③ “MEMO” ボタンを押しチャンネル表示を点滅させます。
④ “CH” ボタンを押し,記憶させたいチャンネルを表示させます。
⑤ “MEMO” ボタンを押し，記憶させます。

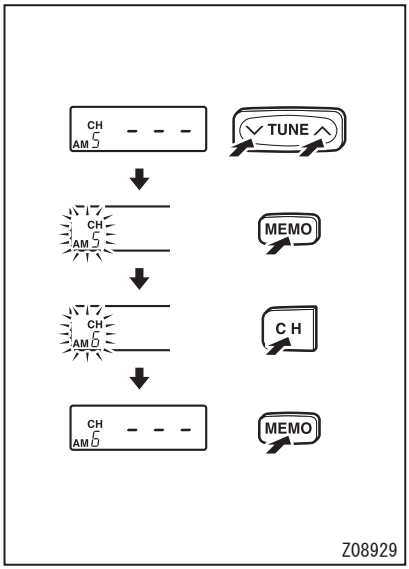


知識

- すでに記憶されているチャンネルに新しい局を記憶させると，前に記憶した局は自動的に消去されます。
- バッテリーやヒューズを長時間取外すと各チャンネルに記憶された局は消去されます。再度，記憶し直してください。

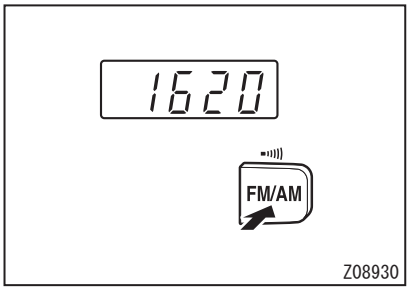
1.4　記憶した放送局を消去するとき

①“TUNE”ボタンのV側または∧側を押して表示部を“ーーーー”とします。
②“MEMO”ボタンを押し，チャンネル表示を点滅させます。
③“CH”　ボタンを押して消去したいチャンネルを選びます。
④再び　“MEMO”　ボタンを押すとそのチャンネルの記憶が消去されます。
⑤消去されると表示部は“CH AM5 ーーーー”のように表示されます。記憶が消去されたチャンネルは“CH”ボタンでの選局のとき，飛ばして受信します。
ただし，1から3チャンネルは記憶されていない状態でも呼び出します。



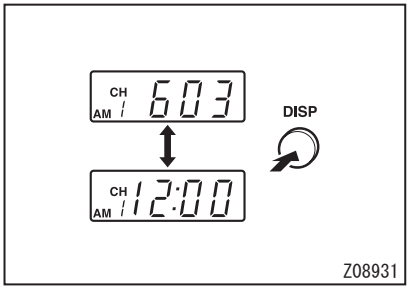
1.5　交通情報を聞くとき

- 交通情報を放送している地域で“FM/AM”ボタンを約 2 秒以上押し続けると交通情報局（1620kHz または 1629kHz）を自動受信します。
- 受信中にもう一度“FM/AM”ボタンを押すと元の状態に戻ります。
- 交通情報を受信できないときは約 5 秒後に元の状態に戻ります。



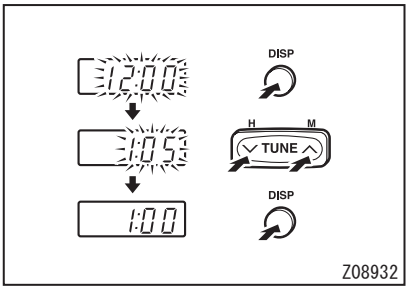
2. 時計を使うとき

- ラジオ受信中　“DISP”　ボタンを押すごとに時刻表示と受信周波数表示に切り替わります。
- 交通情報受信中に　“DISP”　ボタンを押しても切り替わりません。



2.1 時刻を合わせるとき

①スタースイッチを“ACC”または“ON”位置にします。
②“DISP”ボタンを1.5秒以上押し時刻表示を点滅させます。
③“TUNE”ボタンを押し“時”,“分”を合わせます。
∨：“時” 合わせ
∧：“分” 合わせ
ボタンを押し続けると早送りします。
④“DISP” ボタンを押します。



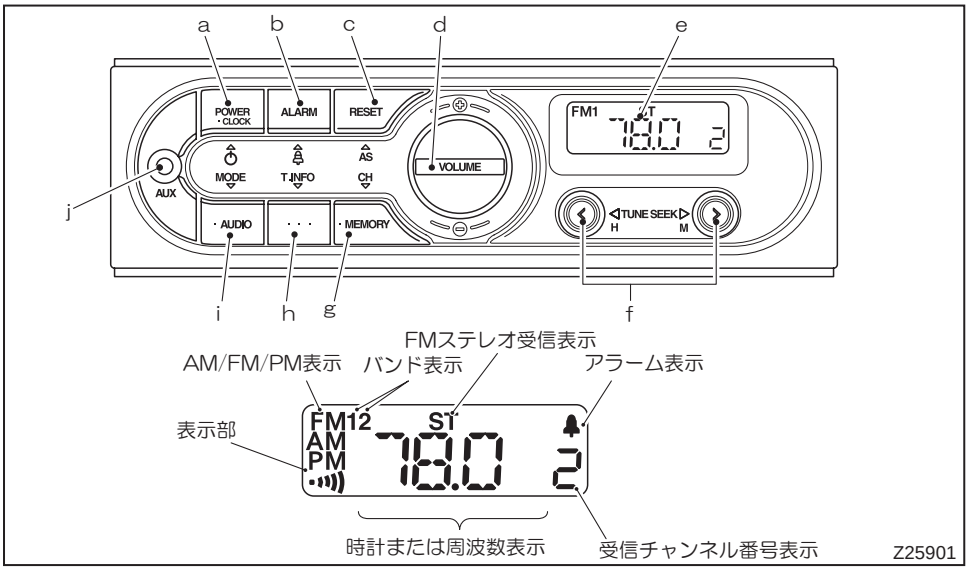
2.2 時報に合わせるとき

①“DISP” ボタンを 1.5 秒以上押し時刻表示を点滅させます。
②時報と同時に “MEMO” ボタンを押します。
例:11:00～11:29 のときは 11:00 に,11:30～11:59 のときは 12:00 になります。

知識

バッテリーやヒューズを長時間外すと時計はリセットされ 1:00 になります。再度時刻合わせを行ってください。

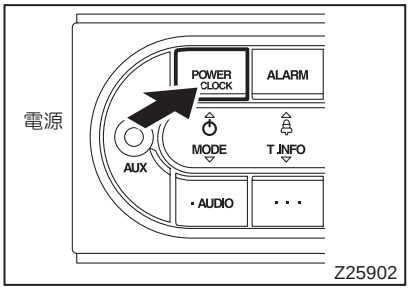
AM/FM ラジオ＊



a. POWER/CLOCK ボタン
b. ALARM ボタン
c. RESET/AS ボタン
d. 音量調整ボタン
e. 表示部
f. ＜＞チューニングボタン
g. MEMORY/CH ボタン
h. T. INFO ボタン
i. AUDIO/MODE ボタン
j. AUX 入力端子

1. AM/FM ラジオを使うときは

AM/FM ラジオを使うときは電源を ON にしてください。
スタータースイッチが “ACC” または “ON” 位置のときに “POWER/CLOCK” ボタンを押す（1 秒未満）と電源が入ります。表示部に周波数が表示され，約 5 秒後に時刻表示になります。
電源を切るときはもう一度ボタンを押します。

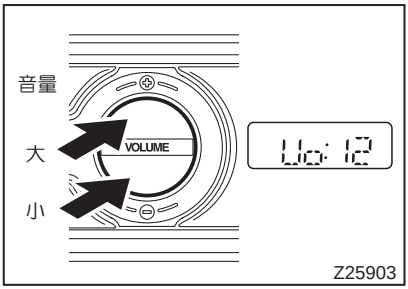


2. 音量, 音量バランス, 音質を調整するとき

2.1 音量を調整するとき

- 音量調整ボタンを押す（1 秒未満）ごとに音量が変化します。
  ＋：音量を大きくするとき
  －：音量を小さくするとき
- 音量調整ボタンを 1 秒以上押し続けると音量が連続で変化します。
- 音量 0 ～ 31 の範囲で調節できます。

• 表示部に音量が表示されます。
例：音量 12



2.2 音質，バランスを調整するとき

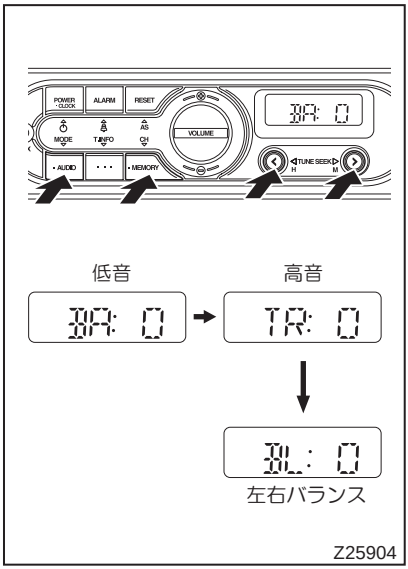
“AUDIO/MODE”ボタンと“MEMORY/CH”ボタン，＜＞チューニングボタンを操作することにより音質，左右音量バランスを調整することができます。

①“AUDIO/MODE” ボタンを 2 秒以上押すと“ピッ”という音が鳴り，AUDIO 調整モードに切り替わります。

②“MEMORY/CH” ボタンを押して調整したいモードを選択します。

- “MEMORY/CH” ボタンを押すごとに調整モードが切り替わり表示部にモードが表示されます。
  BA（低音）→ TR（高音）→ BL（左右バランス）→調整モード解除

③調整したいモードで＜＞チューニングボタンを押し，調整をします。



● 機能表示

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	調整内容
低音 （BASS）	BA：	-5 ～ +5	表示部に BA と表示されます。0 より小さくなると低音が抑えられ，数字が大きくなると低音が強調されます。
高音 （TREBLE）	TR：	-5 ～ +5	表示部に TR と表示されます。0 より小さくなると高音が抑えられ，数字が大きくなると高音が強調されます。
左右音量バランス （BALANCE）	BL：	R5 ～ L5	表示部に BL と表示されます。 表示部に BL：L と表示され，数字が大きくなると左側のスピーカーの音が強くなります。 表示部に BL：R と表示され，数字が大きくなると右側のスピーカーの音が強くなります。

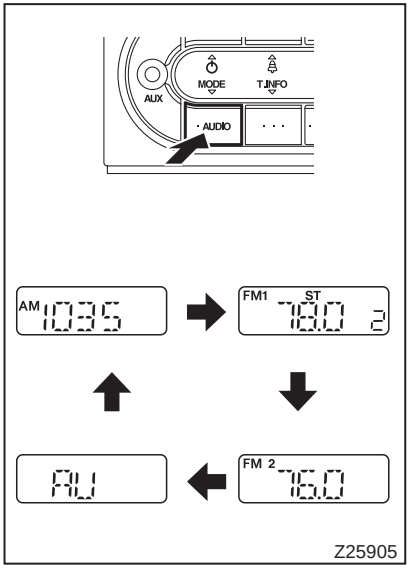
3. ラジオを聞くとき

3.1　聞きたい放送局を選局するとき

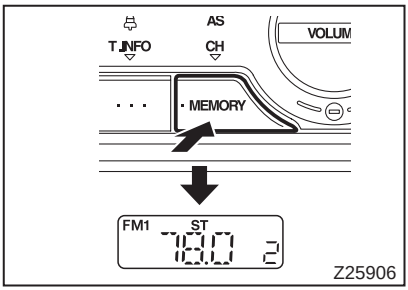
● あらかじめ記憶されている放送局を選局するとき

- “AUDIO/MODE” ボタンを押し AM，FM1，FM2 いずれかのバンドを選びます。
- ボタンを押す（2 秒未満）ごとにバンド表示が切り替わります。

AM → FM1 → FM2 → AUX



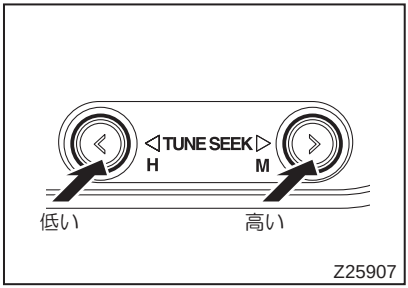
• “MEMORY/CH” ボタンを押し（0.5 秒未満）記憶されているチャンネル “1” ～ “6” を選択します。



● 記憶されていない放送局を手動で選局するとき

• “AUDIO/MODE” ボタンで AM 放送または FM 放送を選択します。

• ＜＞チューニングボタンを押す（0.5 秒未満）ごとに受信周波数が変化します。
周波数は表示部に表示されます。AM 放送は 9kHz，FM 放送は 0.1MHz ずつ変化します。
＞：周波数の高い方へ選局するとき
＜：周波数の低い方へ選局するとき



● 記憶されていない放送局を自動で選局するとき

• “AUDIO/MODE” ボタンで AM 放送または FM 放送を選択します。

• ＜＞チューニングボタンを0.5秒以上押すと “ピッ” という音が鳴り，選局を始めます。受信状態の良い放送局で止まります。
＞：周波数の高い方へ選局するとき
＜：周波数の低い方へ選局するとき

知識

受信電波が弱く自動選局できないときは，手動で選局してください。

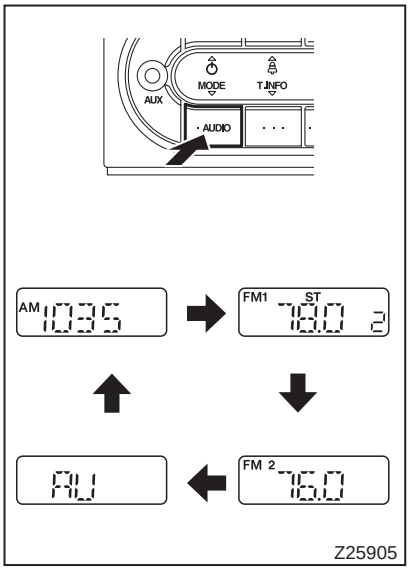
3.2　放送局を記憶させるとき

● 次の 2 通りの方法があります。

- “MEMORY/CH” ボタンで希望の放送局を選んで記憶します。AM, FM1, FM2 に各 6 局記憶できます。
- “RESET/AS” ボタンで自動的に記憶します。AM, FM1, FM2 に各 6 局記憶できます。

● 手動で記憶させるとき

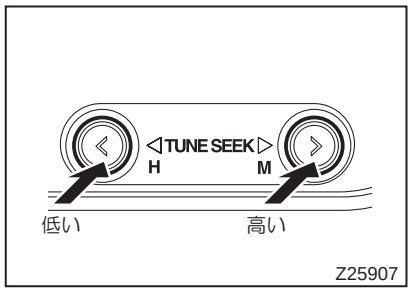
①“AUDIO/MODE” ボタンで AM, FM1, FM2 いずれかのバンドを選択します。



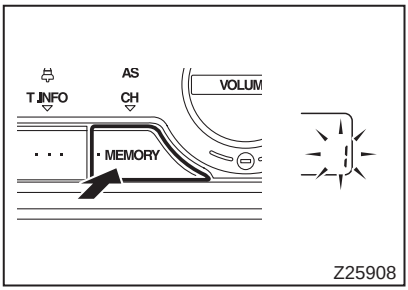
②＜＞チューニングボタンで記憶したい放送局を表示させます。

＞：周波数の高い方へ選局するとき

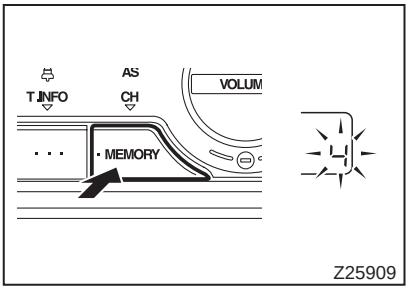
＜：周波数の低い方へ選局するとき



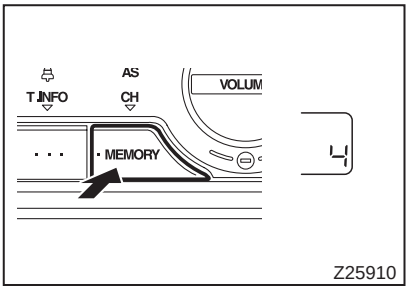
③“MEMORY/CH”ボタンを0.5秒以上押すと“ピッ”という音が鳴り，チャンネル表示が点滅します。



④“MEMORY/CH”ボタンを押し(0.5秒未満)，記憶させたいチャンネルを表示させます。

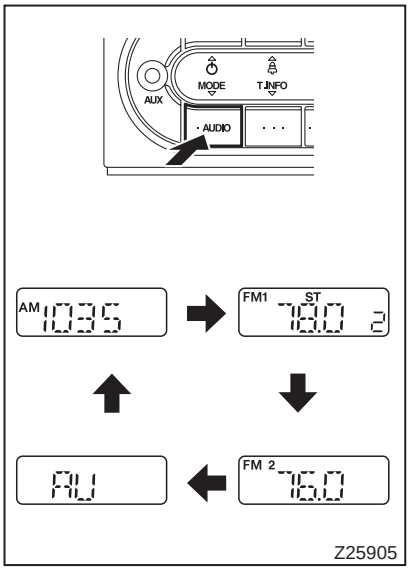


⑤“MEMORY/CH”ボタンを0.5秒以上押すと“ピッ”という音が鳴り，チャンネルが記憶されます。



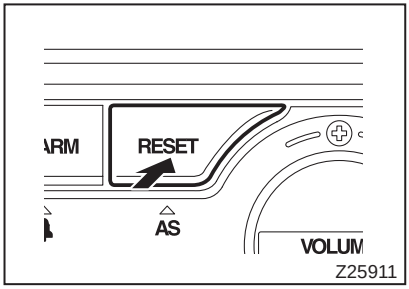
● 自動で記憶させるとき

① “AUDIO/MODE” ボタンで AM, FM1, FM2 いずれかのバンドを選択します。



② “RESET/AS” ボタンを 2 秒以上押すと “ピッ” という音が鳴り, 受信状態の良い放送局を周波数の低い局からCH1～CH6に自動的に記憶されます。

③他のバンドも同様に記憶させます。

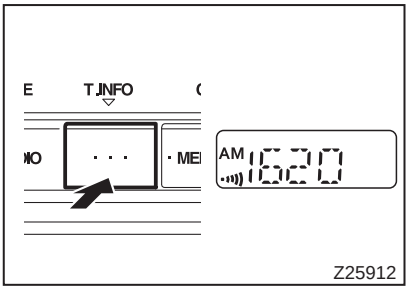


知識

- すでに記憶されているチャンネルに新しい局を記憶させると, 前に記憶した局は自動的に消去されます。
- バッテリーやヒューズを長時間取外すと各チャンネルに記憶された局は消去されます。再度, 記憶し直してください。

3.3 交通情報を聞くとき

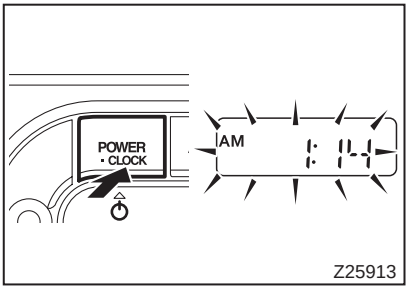
- 交通情報を放送している地域で “T.INFO” ボタンを押すと交通情報局（1620kHz または 1629kHz）を自動受信します。交通情報受信中に＜＞チューニングボタンを押すと 1620kHz と 1629kHz を切り替えます。初期の交通情報局は 1620kHz です。
- 表示部に周波数と交通情報表示（ マーク）が表示されます。
- ラジオに戻すときはもう一度 “T.INFO” ボタンを押します。



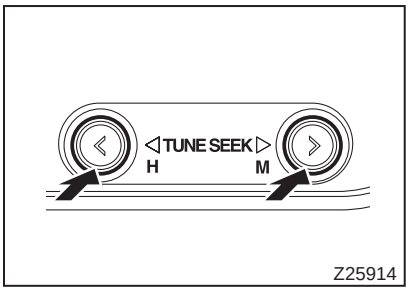
4. 時計の時刻を合わせるとき

4.1 時刻を合わせるとき

①時刻表示中に“POWER/CLOCK”ボタンを1秒以上押すと “ピッ” という音が鳴り表示部の時計表示が点滅します。



②“＜” ボタン及び “＞” ボタンを押し “時”，“分” を合わせます。
＜：“時” 合わせ
＞：“分” 合わせ
ボタンを押し続けると早送りします。



③時刻合わせが完了したら “POWER/CLOCK” ボタンを押します。

知識

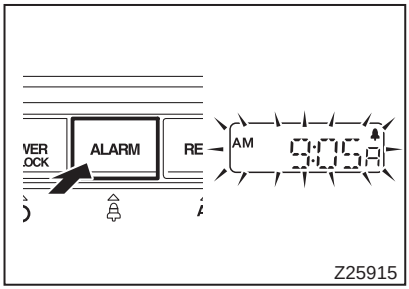
- “POWER/CLOCK” のかわりに “RESET/AS” ボタンを押して（2 秒未満）時刻合わせを完了すると，秒がリセットされます。
- 時刻合わせは，スタースイッチが “ACC” 及び “ON” 位置であればラジオの電源が OFF でも行えます。ただし “ ピッ ” という音は鳴りません。
- 表示部の時刻表示が点滅している状態で 15 秒経過すると，そのときの表示時刻が設定されます。

5. アラームを使うとき

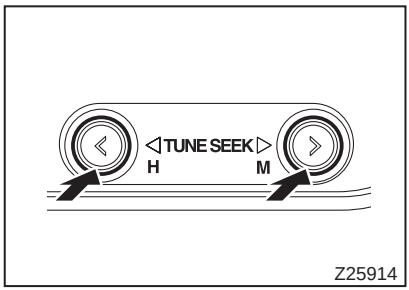
あらかじめ設定した時刻にアラームを鳴らすことができます。

5.1　アラームの設定

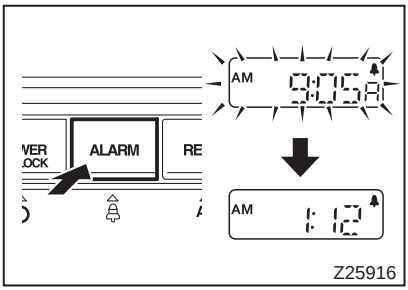
①“ALARM” ボタンを2秒以上押すと “ピッ” という音が鳴り，表示部の時刻表示と ⫶ マークが点滅します。



②この状態で＜＞チューニングボタンを押しアラームを鳴らしたい時刻に合わせます。
“＜” ボタンで “時”，“＞” ボタンで “分” を合わせます。
ボタンを押しつづけると早送りします。



③“ALARM” ボタンを押します。表示部の時刻表示と マークの点滅が止まりアラームの設定が完了しアラームが ON になります。

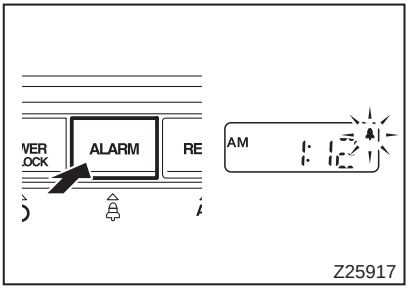


知識

- アラームの時刻設定は，ラジオの電源が OFF でも行えます。ただし“ピッ”という音は鳴りません。
- アラームの時刻設定は，スタータースイッチの位置に関係なく設定できます。

5.2 アラームの ON/OFF 切り替え

- “ALARM” ボタンを押す（2 秒未満）ごとにアラームの ON/OFF が切り替わります。
- アラームが ON のときは表示部に マークが表示され，OFF のときは表示されません。
- アラームはラジオを聞いているときでもラジオの音声と同時に鳴ります。
- アラームは設定した時刻になると 3 分間鳴ります。鳴っているアラームを止めるときは電源ボタン以外のボタンを押します。電源ボタンを押したときはアラームは止まりますがラジオの電源が ON/OFF します。



知識

- アラームの ON/OFF 切り替えは，ラジオの電源が OFF でも行えます。
- バッテリーやヒューズを取外すと設定したアラーム時刻は解除されます。
- アラームはスタータースイッチの位置に関係なく作動します。ご使用にならないときはアラームを OFF にしてください。

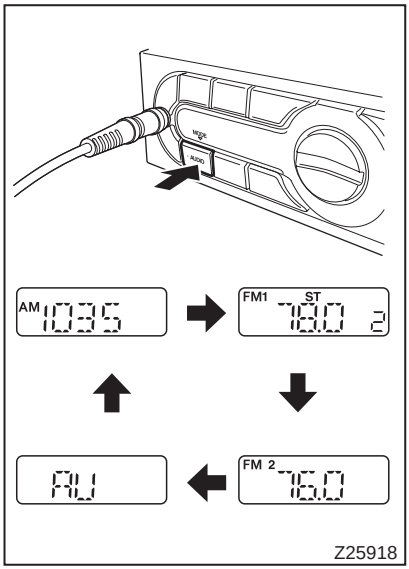
6. AUX 入力を使うとき

AUX 入力端子に市販のポータブルオーディオなどを接続して音楽を聞くことができます。

- “AUDIO/ MODE” ボタンを押し，AUX のバンドを選びます。
- ボタンを押すごとにバンド表示が切り替わります。

  AM → FM1 → FM2 → AUX

  ↑ ┗━━━━━━━━━━━━━━━┛
- 接続には，市販の 3.5mm ステレオミニプラグコードを使用してください。



AM/FM ラジオ& CD プレーヤー＊

1. ご使用の前に

アドバイス

- ディスク差し込み口にコインなどの異物を差し込まないでください。
- 故障の原因になりますので，各ボタンは強く押しすぎないでください。また表示部（液晶）には触れないでください。

知識

- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり，正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- ヒーターを付けた直後や，車内の湿度が高い場合にオーディオの内部に結露が生じることがあります。この状態では CD プレーヤーが正しく動作しません。
  このようなときは CD を取り出し電源を入れたまましばらく放置し，結露を蒸発させてください。

1.1 CD（コンパクトディスク）の取扱いについて

- または マークが付いている CD 以外は使用できません。CD-R/RW は再生できない場合があります。
- 四角や八角などの特殊な形状のCDは使用できません。必ず円形のものを使用してください。
- CD は必ずケースに入れて保管してください。また，直射日光に当たる場所や高温，多湿の場所などに置かないでください。
- CD の鏡面（ラベルの反対側の面）に直接指が触れると CD が汚れ，音が悪くなる場合があります。必ず CD の中心の穴と端をはさんで持ってください。
- 汚れを取るときは，柔らかい布で CD の中心から外側へ直角方向にふき取ってください。シンナー，帯電防止剤などは絶対に使用しないでください。
- き裂が入ったり，大きくそったCD，ラベル面に印刷できるCDは使用しないでください。プレーヤーの故障の原因になります。
- CD にボールペンなどで文字を書いたり，紙やシールなどをはり付けないでください。

- 新しい CD を使うときは，CD の中心の穴や端に “ バリ ”（CD の加工過程で，はみ出た余分な材料）がないことを確認してください。“ バリ ” がついたまま使用すると，CD が挿入できなかったり音飛びの原因になります。“ バリ ” があるときは，ボールペンなどで取り除いてから使用してください。

1.2　ディスク，USB 機器とファイルについて

このオーディオでは音楽 CD（CD-R，CD-RW）と MP3/WMA ファイルの入った CD（CD-R，CD-RW），USB 機器を再生できます。

1.2.1　ディスクについて

CD-R/CD-RW をご使用の場合，書き込みの方式やディスクの状態により，再生できない場合があります。

再生できないのは以下のようなディスクです。

- ゆがんでいたり，傷や汚れがついたディスク
- データが壊れているディスク

1.2.2　USB 機器について

「USB マスストレージクラス」に準拠した USB メモリなどの USB 機器を再生することができます。なお，iPod，iPhone には対応していません。

知識

- 使用する USB 機器が「USB マスストレージクラス」に準拠しているかは，USB 機器の販売メーカーにお問い合わせください。
- 記録されているデータを消失してしまったときのために，貴重なデータは必ずパソコンなどにバックアップをとっておいてください。
- iPod，iPhone をご使用になる場合は，AUX 入力端子をご利用ください。
- iPod，iPhone は，米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

1.2.3　MP3/WMA ファイルについて

- MP3（MPEG Audio LAYER3）は，音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
- WMA（Windows Media® Audio）は，Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。

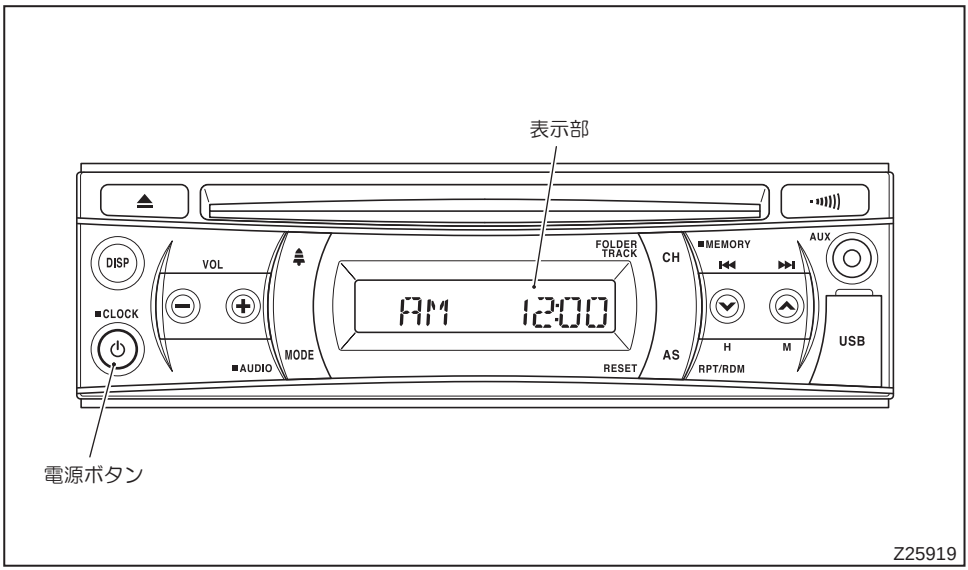
知識

Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Media® は，米国 Microsoft Corporation の米国及び / またはその他の国における登録商標または商標です。

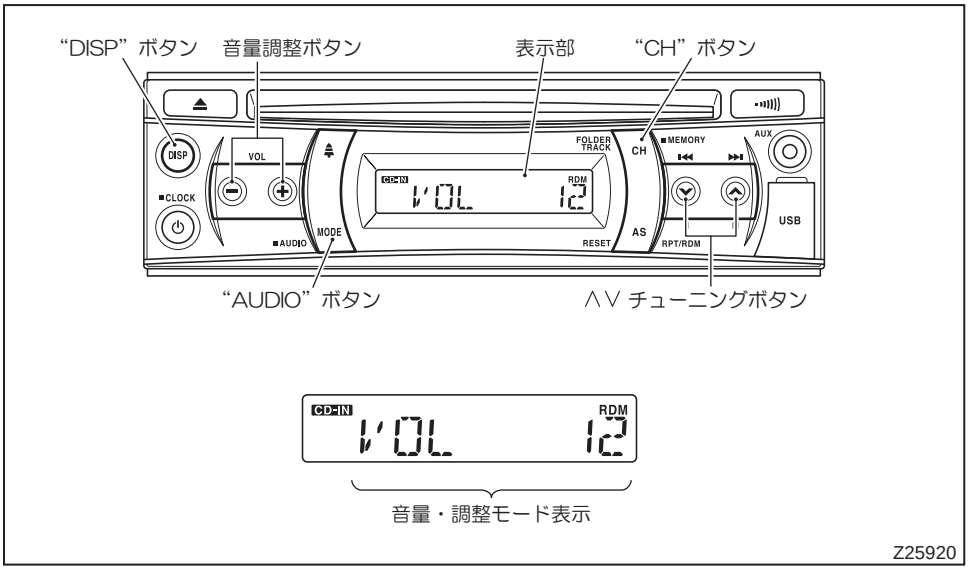
- 以下のファイルは再生できません。
  - 不適当なフォーマットの MP3 ファイル
  - 個人用の著作権管理機能（DRM）が有効となっている WMA ファイル
  - WAVE などその他のオーディオファイル
- 音楽 CD（CD-DA）データと MP3/WMA ファイルが混在していると，先に検出されたどちらか一方のデータしか再生されません。また，このような CD では音が出ないなど正常に再生されない場合があります。

2. AM/FM ラジオ& CD プレーヤーを使うときは



AM/FM ラジオ& CD プレーヤーを使うときは電源を ON にしてください。
スタータースイッチが “ACC” または “ON” 位置のときに電源ボタンを押すと電源が入ります。
表示部に前回最後に使ったモードが表示され，約 5 秒後に時刻表示になります。
電源を切るときはもう一度ボタンを押します。

3. 音量, 音質を調整するとき

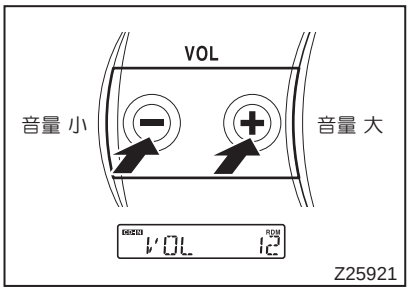


Z25920

3.1　音量を調整するとき

- 音量調整ボタンで調整します。
- ＋を押すと音量が大きく，－を押すと小さくなります。
- ボタンを長押しすると，音量が変化し続けます。
- 音量 0 ～ 30 の範囲で調節できます。

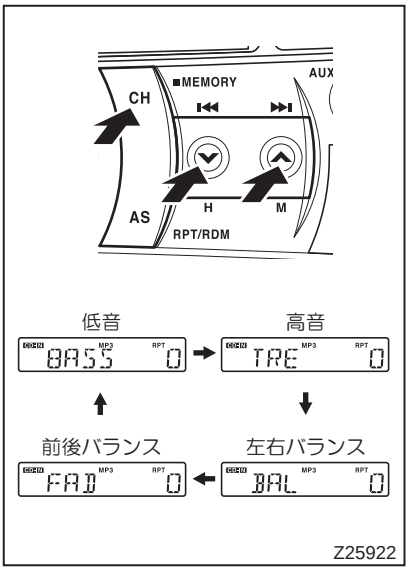
・表示部に音量が表示します。
例：音量 12



Z25921

3.2 音質，バランスを調整するとき

“AUDIO” ボタンと “CH” ボタン，∧∨チューニングボタンを操作することにより音質，前後音量バランス，左右音量バランスを調整することができます。



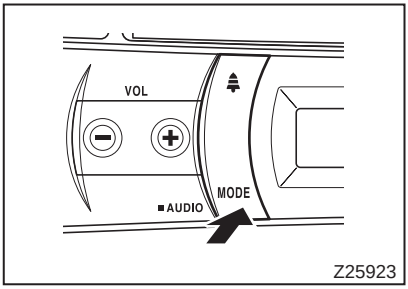
Z25922

① “AUDIO” ボタンを2秒以上押してオーディオ調整モードに入ります。

② “CH” ボタンを押して調整したいモードを選択します。

- “CH” ボタンを押すごとに調整モードが切り替わり表示部にモードが表示されます。
  “BASS”（低音）→ “TRE”（高音）→ “BAL”（左右バランス）→ “FAD”（前後バランス）
  5 秒間操作しないと自動的に調整モードが解除します。

③調整したいモードで∧∨チューニングボタンを押し調整します。



Z25923

● **機能表示**

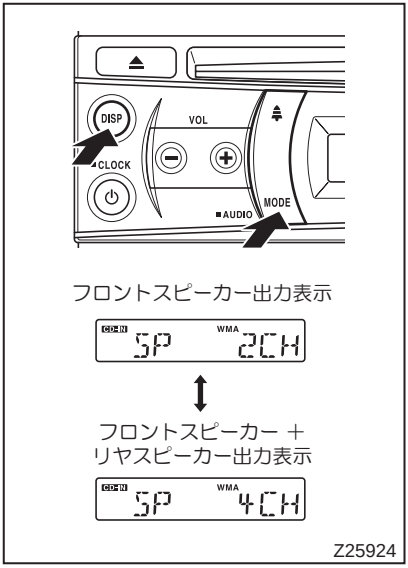
調整モード	モード表示	調整レベル範囲	調整内容
低音 （BASS）	BASS	-7 ～+ 7	表示部に “BASS” と表示されます。0 より小さくなると低音が抑えられ，数字が大きくなると低音が強調されます。
高音 （TREBLE）	TRE	-7 ～+ 7	表示部に “TRE” と表示されます。0 より小さくなると高音が抑えられ，数字が大きくなると高音が強調されます。
左右音量バランス （BALANCE）	BAL	R8 ～ L8	表示部に “BAL” と表示されます。 表示部に “BAL L” と表示され，数字が大きくなると左側のスピーカーの音が強くなります。 表示部に “BAL R” と表示され，数字が大きくなると右側のスピーカーの音が強くなります。
前後音量バランス （FADER）	FAD	R8 ～ F8	表示部に “FAD” と表示されます。 表示部に “FAD F” と表示され，数字が大きくなると前側のスピーカーの音が強くなります。 表示部に “FAD R” と表示され，数字が大きくなると後側のスピーカーの音が強くなります。

知識

リヤスピーカー未装着車は，前後音量バランス機能（FADER）でリヤスピーカーの出力を高めていくと，スピーカーの音がだんだん小さくなります。リヤスピーカー未装着車は前後音量バランス（FADER）を中間点もしくは前寄りの位置にしてください。

3.3 スピーカー出力切り替え

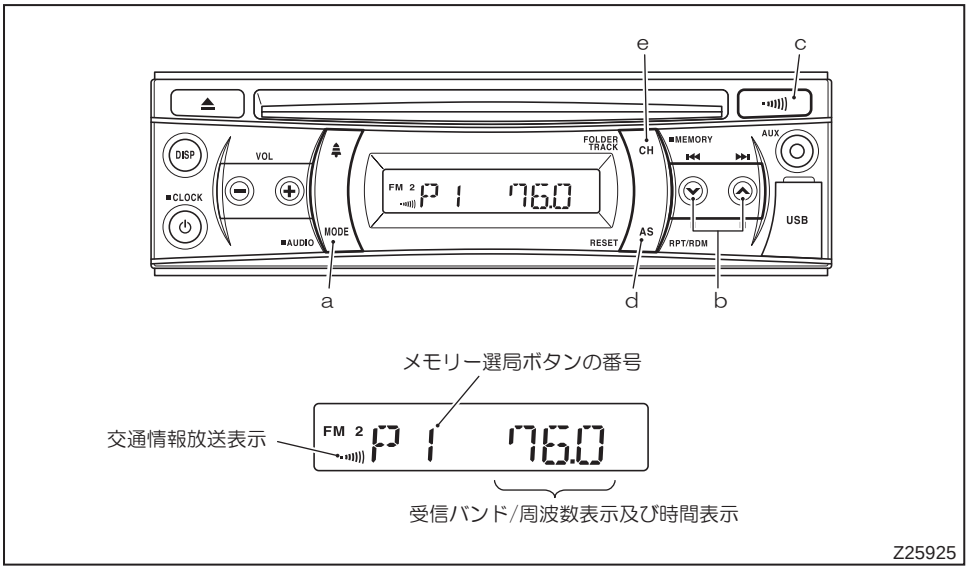
- “DISP”ボタンを押しながら“AUDIO”ボタンを押すとフロントスピーカー出力，フロントスピーカー＋リヤスピーカー出力に切り替えられます。



知識

フロントスピーカー出力にすると前後音量バランス機能（FADER）が使用できなくなります。

4. ラジオを聞くとき



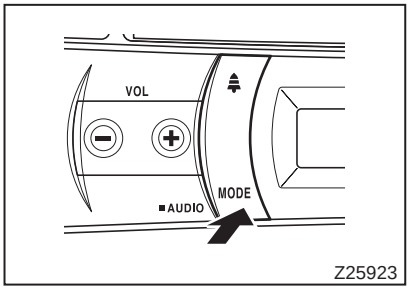
a. モード切り替えボタン
b. ∧∨チューニングボタン
c. 交通情報ボタン
d. 自動選局・記憶ボタン
e. メモリー選局ボタン

4.1 ラジオを聞くときは

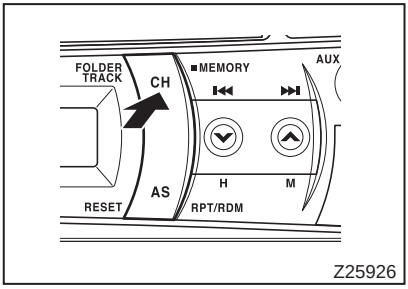
聞きたい放送局を選局します。

- “MODE” ボタンを押します。
  スイッチを押すたびに以下のように切り替わります。
  AM → FM1 → FM2 → CD → USB → AUX

  ディスクが入っていないときは CD モードには切り替わりません。USB 機器が接続されていないときは USB モードには切り替わりません。

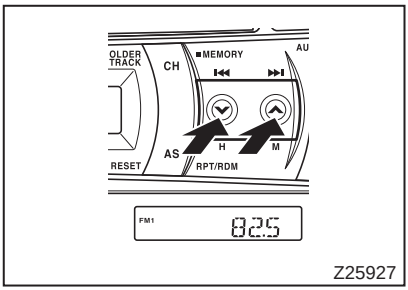


● あらかじめ記憶されている放送局を選局するとき
• “CH” ボタンを押します。
● 記憶されていない放送局を選局するとき
∧∨チューニングボタンを押します。



4.2 手動で選局するとき

∧∨チューニングボタンを押します。
∧：周波数の高い方へ選局するとき
∨：周波数の低い方へ選局するとき



4.3 自動で選局するとき

∧∨チューニングボタンを 0.5 秒以上長押しします。
“ピッ” という音が鳴り，選局を始めます。受信状態が良い放送局で止まります。
∧：周波数の高い方へ選局するとき
∨：周波数の低い方へ選局するとき

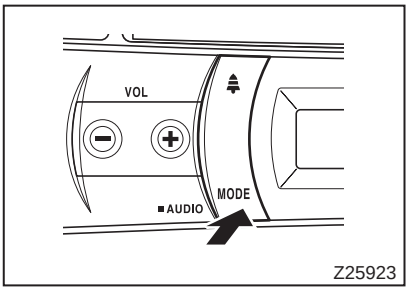
知識

受信電波が弱く自動選局できないときは，手動で選局してください。

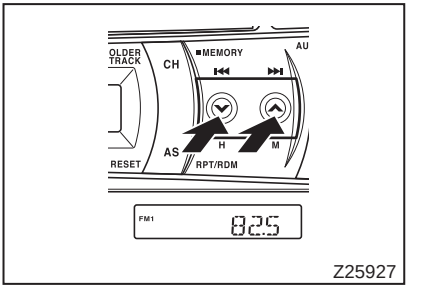
4.4 放送局を記憶させるとき

4.4.1 手動で記憶させるとき

① “MODE” ボタンで FM1，FM2，AM いずれかのバンドを選択します。



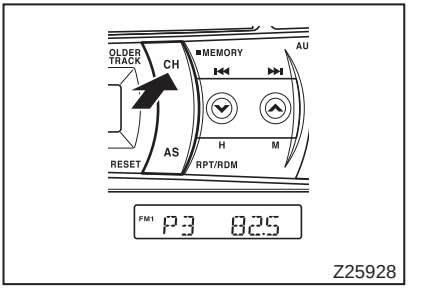
②∧∨チューニングボタンで記憶したい放送局を表示します。
∧：周波数の高い方へ選局するとき
∨：周波数の低い方へ選局するとき
∧∨チューニングボタンを 0.5 秒以上長押しすると“ピッ”という音が鳴り受信状態が良い放送局で止まります。



知識

受信電波が弱く自動選局できないときは，手動で選局してください。

③“CH”ボタンを長押しし，メモリーモードに入ります。
④“CH”ボタンを押し，記憶したいメモリー選局番号を選択します。
⑤“CH”ボタンを長押しします。
“ピッ”という音が鳴り，放送局を記憶します。



知識

- すでに記憶されているメモリー選局番号に新しい放送局を記憶すると，前に記憶した放送局は自動的に消去されます。
- バッテリーやヒューズを取外すと各チャンネルに記憶された局は消去されます。再度，記憶し直してください。

4.4.2　自動で記憶させるとき

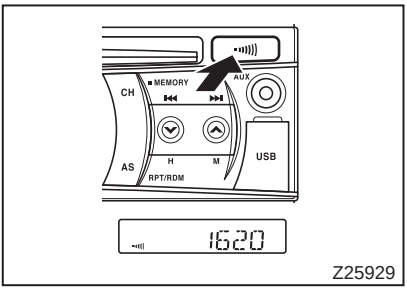
①“MODE”ボタンで FM1，FM2，AM いずれかのバンドを選択します。
②“AS”ボタンを長押しします。
“ピッ”という音が鳴り，自動選局が始まります。受信状態が良い放送局を探し出し，メモリー選局番号 1 ～ 6 に周波数の低い方から記憶します。

知識

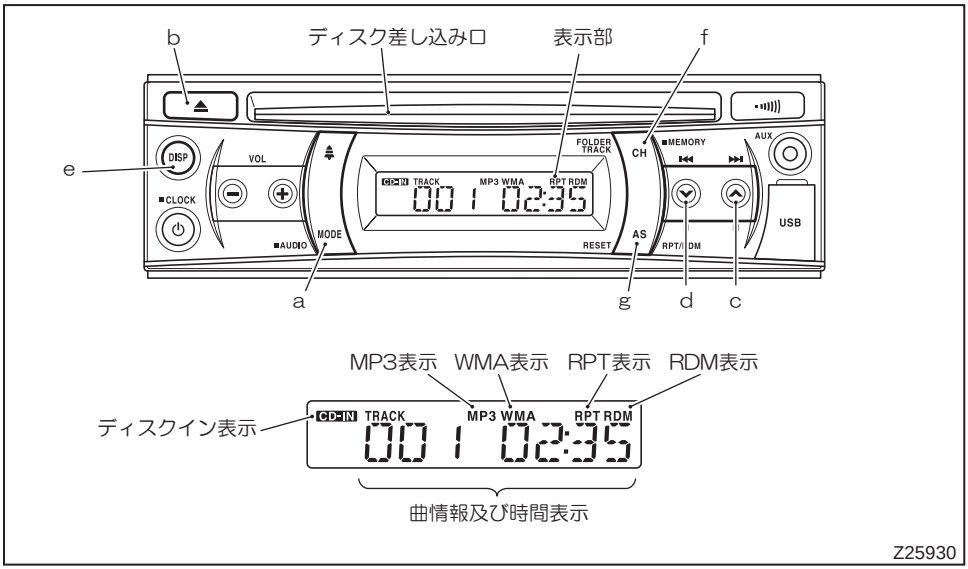
受信電波が弱く 6 局未満しか受信できないときは受信できた局のみ登録され，1 局も受信できないときは登録されずに元の状態に戻ります。

4.5　交通情報を聞くとき

- 交通情報を放送している地域で))))) ボタンを押すと))))) マークが表示され，交通情報局を自動受信します。
  初期設定は 1620kHz に設定してあります。
- ∧∨チューニングボタンを押すと 1620kHz と 1629kHz を切り替えられます。
- 元の状態に戻すときは))))) ボタンを押します。



5. CD プレーヤーで CD を聞くとき



a. モード切り替えボタン
b. ディスクイジェクトボタン
c. トラック選択アップボタン，
フォルダー選択アップボタン
（MP3/WMA），
早送りボタン
d. トラック選択ダウンボタン，
フォルダー選択ダウンボタン
（MP3/WMA），
早戻しボタン
e. 表示部画面切り替えボタン
f. フォルダー／トラックボタン
（MP3/WMA）
g. リピート／ランダムボタン

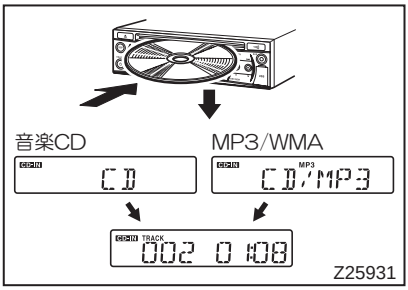
- スタータースイッチが　“ACC”　または　“ON”　位置のときに電源ボタンまたは“MODE” ボタンを押すか，CD を差し込めば電源が入ります。
- ラジオや USB 機器を聞いているときでも，CD を差し込めば CD に切り替わります。

5.1 再生するときは

①ディスクのラベル面を上にしディスクを差し込みます。

②自動的に電源が入り，ディスク再生が始まります。

- 音楽CDは“CD”を2秒表示後曲番と演奏時間を表示します。その後時刻表示画面に切り替わります。
- MP3 または WMA ファイルの入った CD は“CD/MP3” を 2 秒表示後曲番と演奏時間を表示します。その後時刻表示画面に切り替わります。



アドバイス

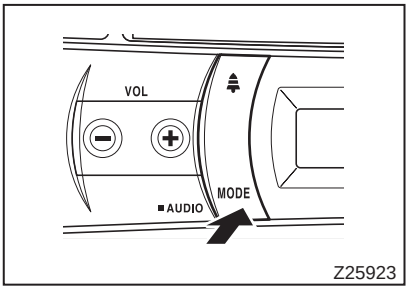
8 センチ（シングル）CD は使用できません。また，アダプターは故障の原因になりますので使用しないでください。

知識

- ディスクイン表示が表示しているときは，すでにディスクが挿入されています。
- 読み込みのため，差し込んでから再生が始まるまで少し時間がかかる場合があります。また，CD-RW は通常の CD に比べて読み込みに時間がかかる場合があります。

5.2 ラジオを聞いているときに CD に切り替えたいとき

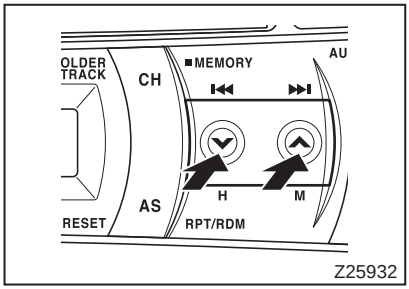
CD が入った状態で“MODE” ボタンを押して CD モードに切り替えると前に演奏していたところから再生します。



5.3　基本的な操作

● 早送り，早戻しをするとき

- ∧∨チューニングボタンを押し続けます。押している間ディスクを早送り，早戻しします。
  ∧：早送り
  ∨：早戻し
- ボタンから手を離すと再生に戻ります。

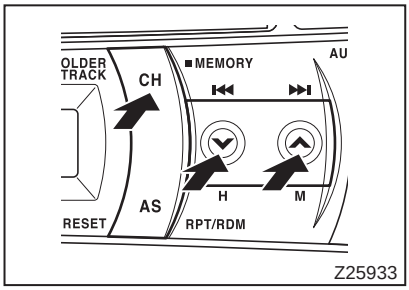


● 頭出しをするとき

∧∨チューニングボタンを聞きたいトラック番号まで押します。
∧：トラック番号増加
∨：トラック番号減少

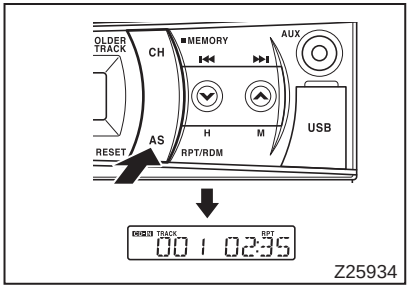
● フォルダーの頭出しをするとき（MP3/WMA）

①“CH” ボタンを押すとフォルダー選択モードに切り替わります。
②∧∨チューニングボタンを聞きたいフォルダーまで押します。
∧：次のフォルダー
∨：前のフォルダー
③もう一度 “CH” ボタンを押すとトラック選択モードに戻ります。



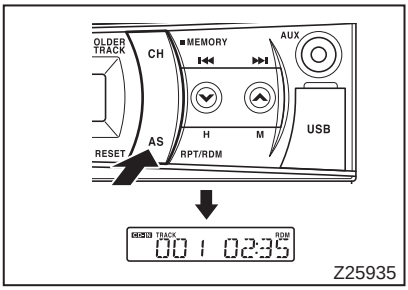
5.4　同じ曲を繰り返し聞くとき

- “RPT/RDM” ボタンを押します。
- “RPT” が表示されます。(曲と曲の間で押すと次の曲を繰り返し再生します)
- 解除するときは “RPT/RDM” ボタンを2回押します。



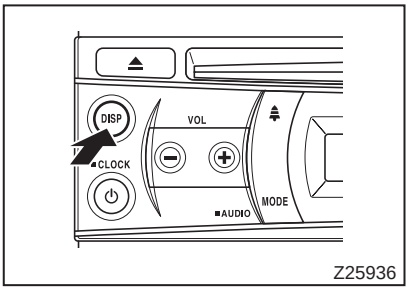
5.5 ランダムな曲順で聞くとき

- “RPT/RDM” ボタンを２回押します。
  ディスクの曲順と異なった順に曲が再生します。
- “RDM” が表示されます。
- もう一度押すと解除します。



5.6 再生中の表示の切り替え（MP3/WMA）

- “DISP” ボタンを押すごとに，トラック番号 再生時間→フォルダ番号 再生時間→ファイル名→フォルダ名→タイトル TAG →アルバム TAG→アーティスト TAG→時刻表示の順に表示が切り替わります。
- 時刻表示以外を選択した場合は，何も操作をしないと５秒後に時刻表示に戻ります。



知識

タグが登録されていない場合は “NO TAG” が表示されます。

5.7 CD を取り出すとき

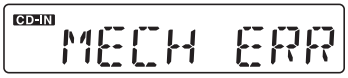
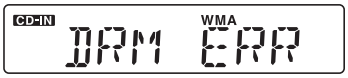
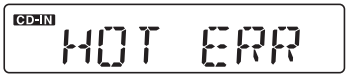
- “EJECT” ボタンを押すと再生が止まり，ディスクが出てきます。
- CD を取り出すと最後に受信していたラジオを受信します。

知識

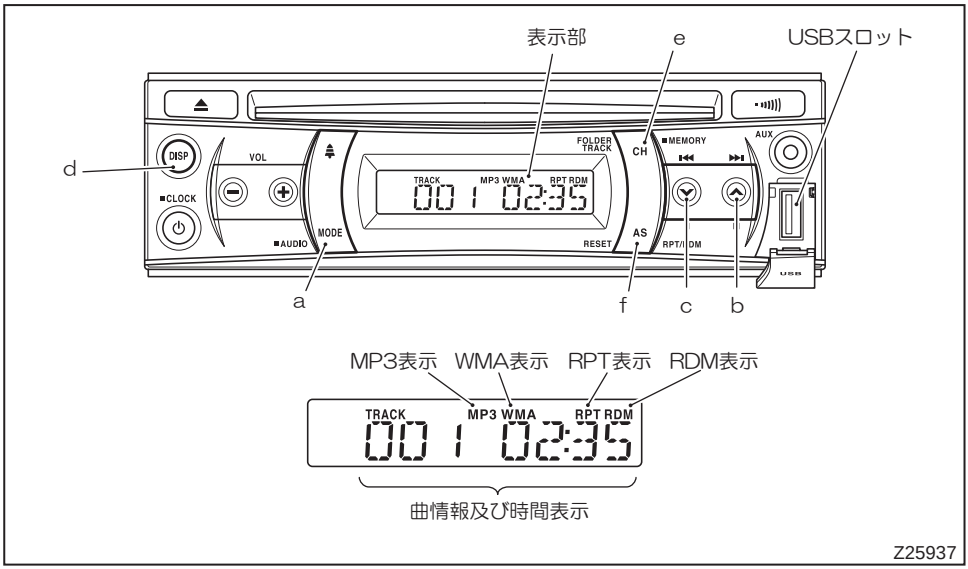
ホコリなどからディスクを守るため，ディスクが出てきた状態で 10 秒間取り出さずにいると自動的にディスクを収納します。

5.8 CD を聞いているときに

表示部に ERR と表示したときは次の原因が考えられます。

表示部	原因	処置
	本機にディスクが引っかかり，取り出せない	日産販売会社へ連絡してください
	• ディスクの表裏を逆に入れた • 音楽用ディスクではないものが入っている • ディスクに傷，汚れ，ゆがみ等の異常があり読み取れない	• ディスクを正しく入れ直します • 音楽用ディスクを入れます • ディスクに異常がないか点検してください
	CD に書き込まれているデータが不適当	適切なデータ形式を確認してください
	個人用の著作権管理機能（DRM）が有効となっている WMA ファイルが入っている	
	本機内部のピックアップレンズの汚れまたは寿命	• ピックアップレンズをクリーニングしてください • 改善されない場合は日産販売会社へ連絡してください
	プレーヤー内部が高温になっている	ディスクを取り出し，内部の温度が下がるまでお待ちください

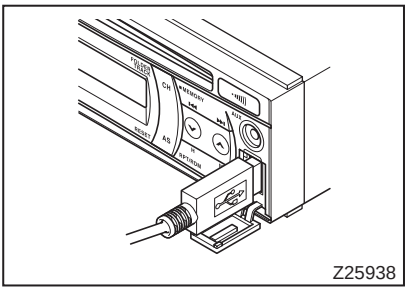
6. USB 機器のオーディオファイルを聞くとき



a. モード切り替えボタン
b. トラック選択アップボタン，フォルダー選択アップボタン，早送りボタン
c. トラック選択ダウンボタン，フォルダー選択ダウンボタン，早戻しボタン
d. 表示部画面切り替えボタン
e. フォルダー／トラックボタン（MP3/WMA）
f. リピート／ランダムボタン

6.1　再生するときは

①USB スロットルカバーを開けます。
②USB スロットに USB 延長ケーブルを接続します。


Z25938

アドバイス

USB 機器を本体に挿入すると突起物となり，運転中に何らかの危険を及ぼす場合があります。必ず市販の延長 USB ケーブルをご使用ください。

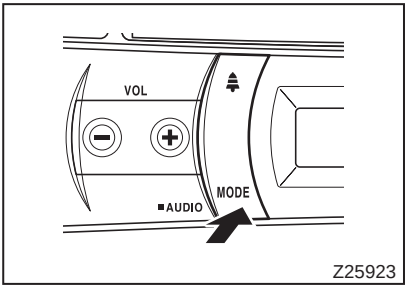
③USB 延長ケーブルに USB 機器を接続します。
④“MODE” ボタンを押して USB モードに切り替えると自動的に再生が始まります。

知識

- USB 機器はコネクターの奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが不完全だと USB 機器を認識しない場合があります。
- 収録されている曲数によっては読み込みに時間がかかる場合があります。

6.2　ラジオを聞いているときに USB に切り替えたいとき

USB 機器が接続された状態で “MODE” ボタンを押してUSBモードに切り替えると前に演奏していたところから再生します。

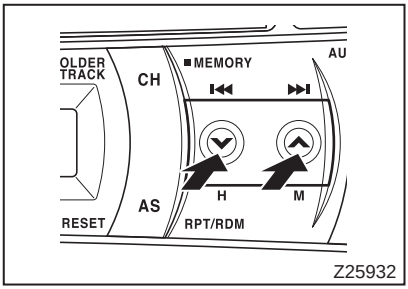


Z25923

6.3 基本的な操作

●早送り，早戻しをするとき

- ∧∨チューニングボタンを押し続けます。押している間楽曲を早送り，早戻しします。
  ∧：早送り
  ∨：早戻し
- ボタンから手を離すと再生に戻ります。

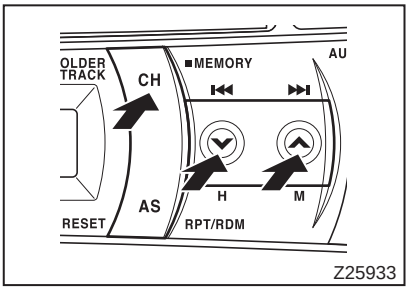


●頭出しをするとき

∧∨チューニングボタンを聞きたいトラック番号まで押します。
∧：トラック番号増加
∨：トラック番号減少

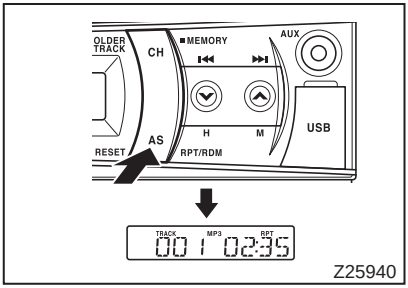
●フォルダーの頭出しをするとき

①“CH” ボタンを押すとフォルダー選択モードに切り替わります。
②∧∨チューニングボタンを聞きたいフォルダーまで押します。
∧：次のフォルダー
∨：前のフォルダー
③もう一度 “CH” ボタンを押すとトラック選択モードに戻ります。



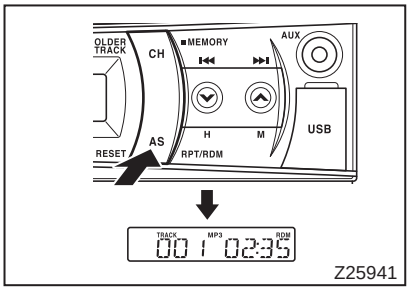
6.4 同じ曲を繰り返し聞くとき

- “RPT/RDM” ボタンを押します。
- “RPT”が表示されます。(曲と曲の間で押すと次の曲を繰り返し再生します)
- 解除するときは“RPT/RDM”ボタンを2回押します。



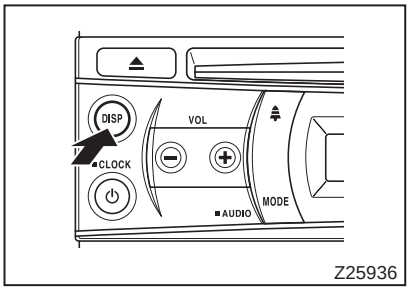
6.5　フォルダー内の曲をランダムな曲順で聞くとき

- “RPT/RDM” ボタンを２回押します。
  フォルダー内の曲順と異なった順に曲が再生します。
- “RDM” が表示されます。
- もう一度押すと解除します。



6.6　再生中の表示の切り替え

- “DISP” ボタンを押すごとに，トラック番号　再生時間→フォルダ番号　再生時間→ファイル名→フォルダ名→タイトル TAG →アルバム TAG→アーティスト TAG→時刻表示の順に表示が切り替わります。
- 時刻表示以外を選択した場合は，何も操作をしないと５秒後に時刻表示に戻ります。



知識

タグが登録されていない場合は “NO TAG” が表示されます。

6.7　USB 機器 を取外すとき

①“MODE” ボタンを押して USB モード以外のモードに切り替えます。
②USB スロットから延長ケーブルを取外します。
③USB スロットのカバーを閉じます。

アドバイス

- USB 機器の取外しは，USB 機器にアクセスしていないときに行ってください。次のようなときに行うとデータが破損する場合があります。
  - 読み込み中に USB 機器を取外したり電源を OFF にしたとき
  - 静電気，電気ノイズの影響を受けたとき
- USB 機器を車内に放置しないでください。直射日光や高温などの影響により，USB 機器が変形したり故障する場合があります。

6.8 USB 機器のオーディオファイルを聞いているときに

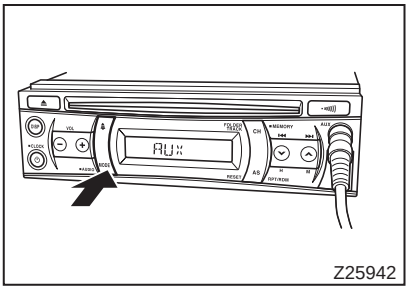
表示部に ERR と表示したときは次の原因が考えられます。

表示部	原因	処置
HUB ERR	本機にHUB機器を接続している	本機はHUB機器のご使用はできません
USB ERR	非対応のUSBが接続されている	USB を取外し，対応しているUSBを接続してください
READ ERR	USBに異常があり読み取れない	USBに異常がないか点検してください
MP3 FILE ERR	USBに書き込まれているデータが不適当	適切なデータ形式を確認してください
WMA DRM ERR	個人用の著作権管理機能（DRM）が有効となっている WMA ファイルが入っている	
NO FILES	MP3/WMA ファイルが入っていない	

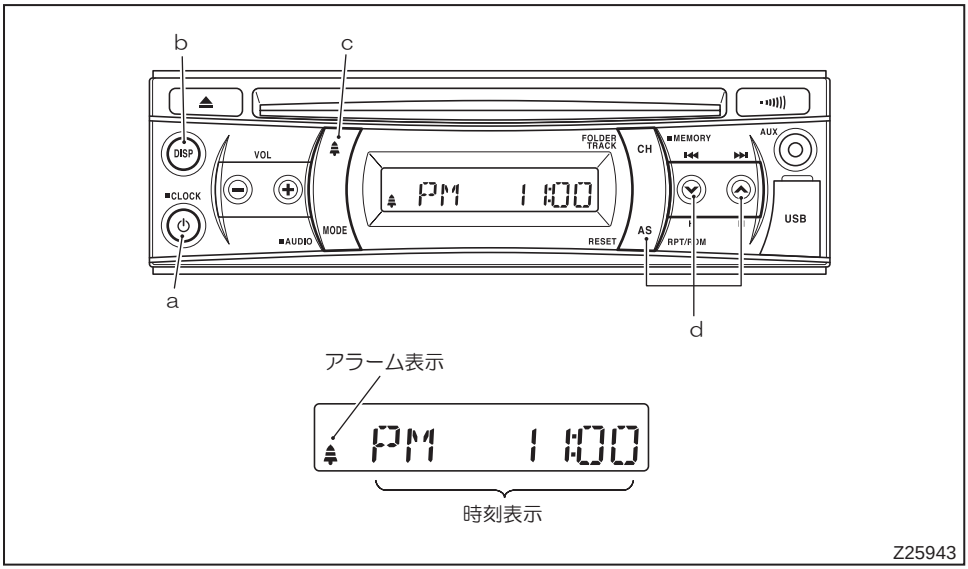
7. AUX 入力を使うとき

AUX 入力端子に市販のポータブルオーディオなどを接続して聞くことができます。

- “MODE” ボタンを押して AUX モードに切り替えます。
- 接続には，市販の 3.5mm ステレオミニプラグコードを使用してください。

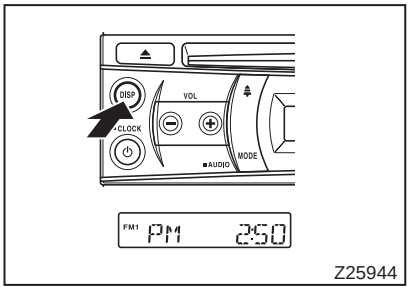


8. 時計を使うとき



a. 電源ボタン
b. 表示部画面切り替えボタン
c. アラームボタン
d. 時刻調整ボタン

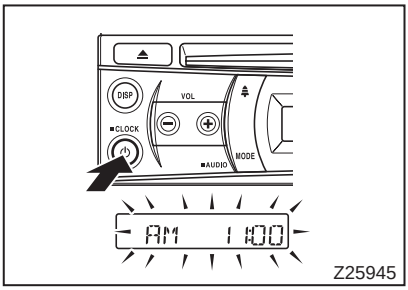
8.1 表示部を切り替えるとき



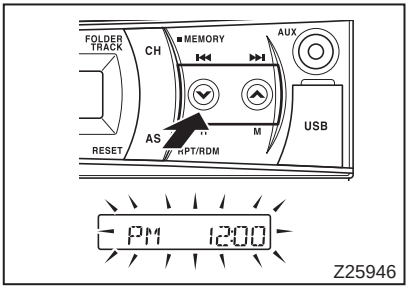
- ラジオを聞いているときに “DISP” ボタンを押すごとに時刻表示→周波数表示の順に切り替わります。
- 音楽 CD を聞いているときに “DISP” ボタンを押すごとに時刻表示→トラック番号　再生時間の順に切り替わります。
- MP3/WMA を聞いているときに “DISP” ボタンを押すごとに，時刻表示→トラック番号　再生時間→フォルダ番号　再生時間→ファイル名→フォルダ名→タイトル TAG→アルバム TAG→アーティスト TAG の順に切り替わります。
- 約 5 秒経つと時刻表示になります。

8.2 時刻を合わせるとき

①現在時刻が表示された状態で電源ボタンを長押しします。“ピッ”と音が鳴り，時刻表示が点滅します。

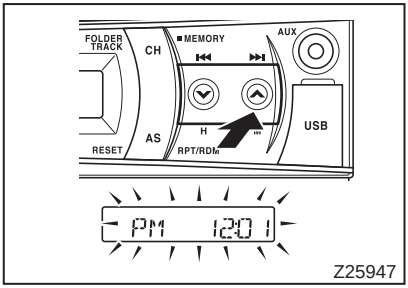


②∨チューニングボタンを押し，“時”を合わせます。
ボタンを押すごとに 1 時間進みます。押し続けると 1 時間ずつ進み続けます。



③∧チューニングボタンを押し，“分”を合わせます。
ボタンを押すごとに 1 分進みます。押し続けると 1 分ずつ進み続けます。

④時刻合わせが完了したら電源ボタンを 1 秒以上長押しします。
1 秒未満の場合，設定の完了と同時にオーディオの電源が OFF になります。

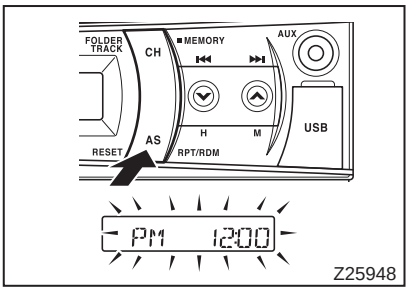


8.3 時報に合わせるとき

①時刻を調整モード中に時報と同時に“AS”ボタンを押します。

30 分未満は切り捨てられ，30 分以上は切り上げられます。

例： 12:00 ～ 12:29 のときは 12:00 に
12:30 ～ 12:59 のときは 1:00 になります。



②電源ボタンを 1 秒以上長押しします。
1秒未満の場合，設定は完了の完了と同時にオーディオの電源が OFF になります。

9. アラームを使うとき

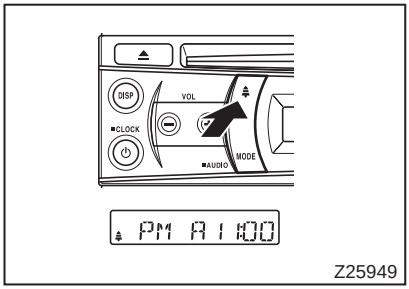
あらかじめ設定した時刻にブザーを鳴らすことができます。

知識

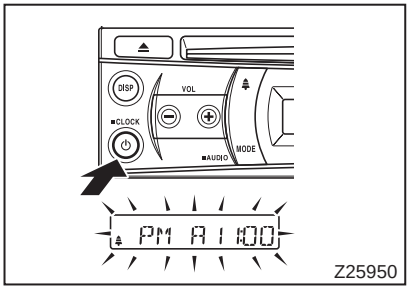
バッテリーやヒューズを取外すと時間はリセットされます。再度，アラーム時刻合わせを行ってください。

9.1　アラームを設定するとき

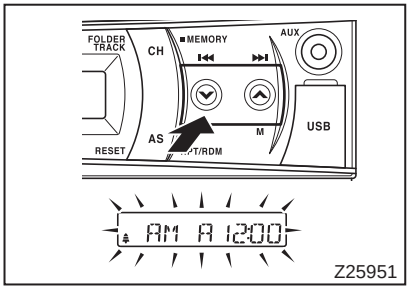
① ボタンを押し（2 秒未満），アラーム時刻表示にします。
アラーム時刻表示で約 5 秒経過すると時刻表示に戻ります。



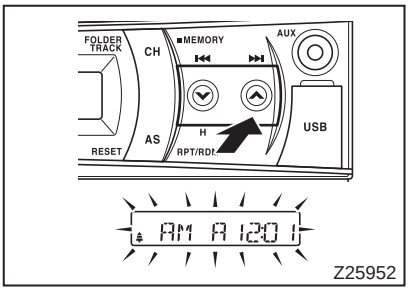
②アラーム時刻表示中に電源ボタンを長押しします。
“ ピッ ” と音が鳴り，時刻表示が点滅します。



③∨チューニングボタンを押し，“ 時 ” を合わせます。
ボタンを押すごとに 1 時間進みます。押し続けると 1 時間ずつ進み続けます。



④∧チューニングボタンを押し，“ 分 ” を合わせます。
ボタンを押すごとに 1 分進みます。押し続けると 1 分ずつ進み続けます。
⑤電源ボタンを 1 秒以上長押しします。
1 秒未満の場合，設定の完了と同時にオーディオの電源が ON/OFF します。

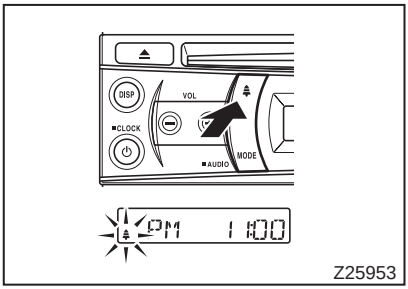


知識

スターターキー位置が“LOCK”または“ACC”の位置のときでもアラーム時刻を設定できます。ただし，“ ピッ ” という音は鳴りません。

9.2 アラームを鳴らすとき

- ボタンを長押しするごとにアラームの ON/OFF が切り替わります。
このとき “ ピッ ” と音が鳴ります。
- アラームが ON のときは表示部に マークが表示され，OFF のときは表示されません。
- アラームはラジオや CD を聞いているときでも音声と同時に鳴ります。
- アラームは設定した時刻になると 3 分間鳴ります。鳴っているアラームを止めるときは電源ボタン以外のボタンを押します。電源ボタンを押したときはアラームは止まりますがオーディオの電源が ON/OFF します。



知識

- スタータースイッチが“LOCK”または“ACC”位置のときでも“ALARM”ボタンを長押しすると，アラーム ON/OFF が切り替わります。ただし，“ ピッ ” という音は鳴りません。
- アラームはスタータースイッチの位置に関係なく作動します。ご使用にならないときはアラームを OFF にしてください。

12章 寒冷時の取扱い

冷却水 ····· 12-2
エンジンオイル ····· 12-2
ディーゼル燃料 ····· 12-2
AdBlue®（尿素水）の補給 ····· 12-2
降雪時の注意 ····· 12-3
その他の注意 ····· 12-4
タイヤチェーンの付け方 ····· 12-5

冷却水

- 工場出荷時は冷却水には日産純正ロングライフクーラントが添加されています。
  このロングライフクーラントは不凍液と防錆剤の性能を兼ね備えていますので凍結するおそれはありませんが，念のため寒冷期に入る前にロングライフクーラント濃度が適正か日産販売会社で点検を受けてください。
- 使用過程車では日産純正ロングライフクーラントを規定の濃度で添加してください。
  14-26 ページをごらんください。

エンジンオイル

外気温が低下するとエンジンオイルの粘度が増し，早朝などにエンジンの始動がしにくくなります。気温に合った粘度のオイルに交換してください。15-7ページをごらんください。

ディーゼル燃料

通常のディーゼル燃料では凍結して始動できなくなることがあります。
寒冷地に出かけるときは現地に到着するまでに燃料が半分以下になるように給油しておき，到着後できるだけ早く現地の寒冷地用ディーゼル燃料を補給してください。7-25 ページをごらんください。

AdBlue®（尿素水）の補給

寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給してそのまま駐車するときは処置が必要です。処置方法については 7-31 ページの “4. 寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときの処置 ” をごらんください。

知識

寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給したときに，この処置を行わずに放置し，尿素水タンク内が凍結すると，解凍するまでエンジンが再始動できなくなる場合がありますので補給直後に必ず行ってください。

降雪時の注意

● 走行前には次のことを注意してください。
- ヘッドランプなどのランプ類やライセンスプレートに付いた雪や氷を取り除いてください。
- バンパー裏のエアコン用コンデンサーに雪や氷が付着しているときは，取り除いてください。雪や氷が付着したままエアコンを使用すると，エアコンの故障や性能低下の原因になります。

● 雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置が凍結し，ブレーキの効きが悪くなる場合があります。このため，走行中は前後の車や道路状況に注意し，ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効きを確認します。効きが悪い場合は低速で走行しながら効きが回復するまで数回ブレーキペダルを踏んでください。

● 足まわりやフェンダー内側に付いた雪や氷塊は部品に傷が付かないように取り除いてください。タイヤ内側には ABS の機器や電気配線などがあります。雪を取り除くときは注意してください。

● 駐車するときは坂道を避け，できるだけ平たんな場所で，風や雪が直接かからないような場所を選んで車両がなるべく風下を向くように止めてください。
ブレーキ装置が凍結し，駐車ブレーキが解放できなくなるおそれがあるときは，次のように駐車を行ってください。

①停車して駐車ブレーキをかけます。
②エンジンを止めます。
マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーの位置を 1 速または後退にします。
DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にします。
③車が動くことがないように輪止めをします。
④駐車ブレーキを戻します。

その他の注意

- エンジン始動は 7-7 ページの方法で行ってください。
  エンジンがかからないときはスターターキーを“ACC”または“LOCK”位置に戻し，少し時間をおいてバッテリーの回復を待ってから再び始動してください。
- 気温の低下とともにバッテリーの性能も低下します。バッテリー液量や比重を点検してください。14-64 ページをごらんください。
- 最低気温が -25 ℃以下になる酷寒地域では，特別な油脂を使用しなければなりません。詳細につきましては日産販売会社にご相談ください。
- ウインドーウォッシャー液の濃度を寒冷時用にしてください。13-6 ページをごらんください。
- 駐車ブレーキケーブルなどの外皮，またはブーツなどが損傷しているものは交換してください。
- 冬季に冷房を使用しないときでもその機能を維持するために月に 1 度は冷房を作動させてください。

アドバイス

- ドアが凍結した場合は無理に開けるとドアまわりのゴムがはがされたり，き裂が入るおそれがありますので，湯をかけてください。なお，後で水分を十分にふき取っておいてください。
- 寒冷地ではドアのキー穴やゴム部品が凍結し開かなくなることがありますので洗車後はドアまわりの水分をよくふき取ってください。また，凍結防止効果の高いシリコン等をキー穴やゴム部品に塗り付けてください。
- 寒冷時に洗車を行うときは，燃料タンクキャップのキー穴に直接水がかからないようにしてください。燃料タンクキャップが開かなくなることがあります。また，洗車後はキャップまわりの水分をよくふき取ってください。

タイヤチェーンの付け方

タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったチェーンを装着してください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

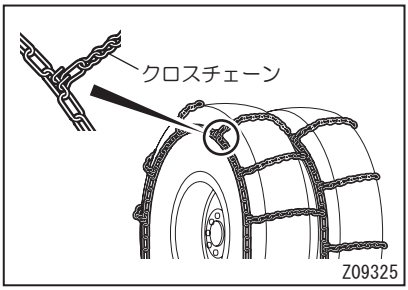
⚠ 注意

タイヤチェーンは緩みのないように取付けてください。緩んだまま走行すると，他の部品と干渉し思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行中異音がする場合は，直ちに車を安全な場所に止めタイヤチェーンの装着状態を確認してください。

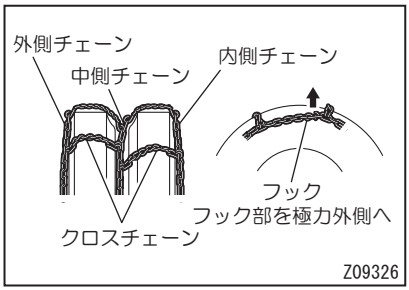
アドバイス

- タイヤチェーンを取付けたときはなるべく 30km/h 以下で走行してください。
- タイヤチェーンを取付けるときはチェーンに添付されている取扱説明書をごらんください。
- タイヤチェーンは駆動輪に装着してください。
- フルタイム 4WD 車はタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンを装着するとフロントサスペンション周辺部品に干渉したり，トランスファーの故障につながるおそれがあります。
  全輪スノータイヤまたは，スタッドレスタイヤを装着してください。
- パートタイム 4WD 車はタイヤチェーンを前輪，後輪に装着してください。前輪のみまたは後輪のみのタイヤチェーン装着はやめてください。ただし，前輪の駆動を解除した場合は，後輪のみにチェーンを装着することが可能です。

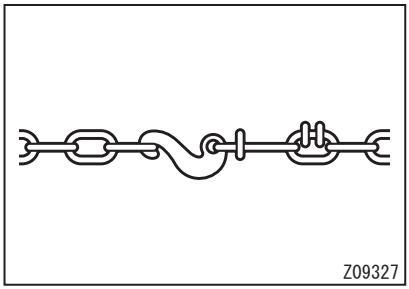
①クロスチェーンの折り曲げが外になるようにチェーンをタイヤにかぶせます。



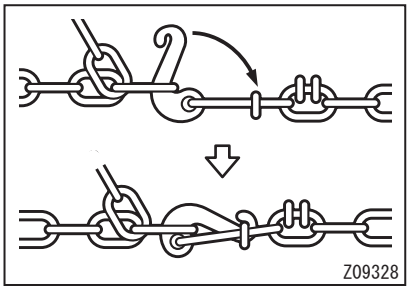
②内側チェーンが余らないようにフックを連結します。さらに内側タイヤのクロスチェーンを外側に引きながら内側チェーンの緩みを取ります。



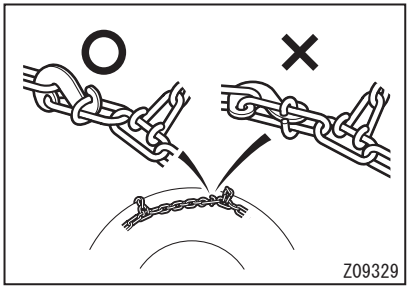
③外側チェーンのフックを図のように仮止めします。



④中側チェーンを極力絞りフックを連結します。
⑤外側チェーンの両端をいっぱいに引っ張ってフックを連結します。

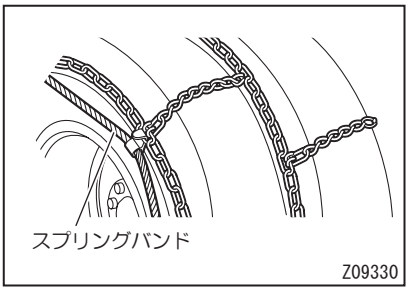


⑥フックはタイヤ側面に対し平らになるように連結し，またチェーンのねじれがないようにしてください。
⑦余ったチェーンは針金などで固定し，他のものと接触しないようにします。



⑧スプリングバンドをかけます。スプリングバンドは各つめが外向きになるように等間隔に取付けます。

⑨約5～10分ぐらい走行したら緩みや外れがないか点検します。

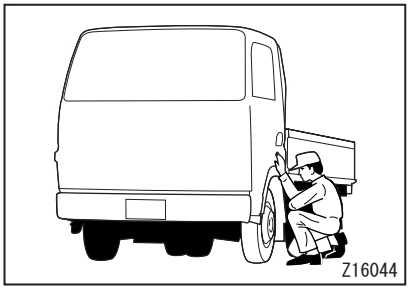


13章 日常（運行前）点検

日常（運行前）点検について ····· 13-2
点検時の注意 ····· 13-3
点検項目 ····· 13-4
点検内容 ····· 13-6
1. 前回運転時の異常個所 ····· 13-6
2. ウォッシャーの液量 ····· 13-6
3. 冷却水の量 ····· 13-7
4. タイヤの空気圧 ····· 13-8
5. タイヤのき裂，損傷及び異常な摩耗 ····· 13-9
6. タイヤ溝の深さ ····· 13-9
7. バッテリーの液量 ····· 13-10
8. ブレーキリザーバータンクのブレーキ液量 ····· 13-11
9. ランプ類の汚れ，損傷 ····· 13-12
10. エンジンオイルの量 ····· 13-12
11. ファンベルトの緩み（張り具合），損傷 ····· 13-15
12. エンジンのかかり具合，異音 ····· 13-17
13. ブレーキペダルの踏みしろ ····· 13-18
14. 駐車ブレーキの引きしろ ····· 13-18
15. ウォッシャー液の噴霧状態 ····· 13-19
16. ワイパーのふき取り状態 ····· 13-19
17. ランプ類の点灯，点滅具合 ····· 13-20
18. エンジンの低速，加速の状態 ····· 13-21
19. ブレーキの効き具合 ····· 13-21

日常（運行前）点検について

1 日の運転を始める前に必ず日常（運行前）点検を行ってください。
点検の結果，異常があるときは修理をしてから運行してください。ご自身で修理ができないときは日産販売会社に修理を依頼してください。
簡単な点検により常に車の状態を知っておくと思わぬトラブルを未然に防止できます。



知識

日常（運行前）点検は道路運送車両法により運転者に義務づけられています。

点検時の注意

- 車の周りの安全を確認します。
- 駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
- マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーがニュートラル位置であるか確認します。DUONIC 2.0搭載車はギヤシフトレバーが“P”位置であるか確認します。
- タイヤに輪止めをかけます。

⚠ 警告

- 換気の悪い場所などではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫や屋内など，囲まれた場所では排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- キャブを降ろすときはエンジンルーム内にウエス（布）など燃えやすい物や，工具の置き忘れがないか点検してください。燃えやすい物を置き忘れると火災を起こすおそれがあります。

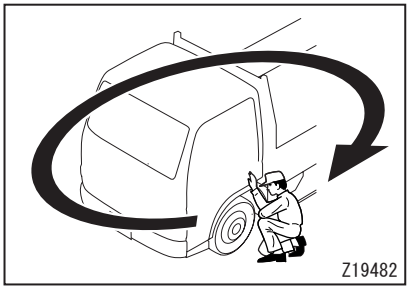
⚠ 注意

- キャブを上げて点検するときやエンジン点検口を開けて点検するときは，必ずエンジンを停止してください。エンジンの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣類などが巻き込まれ思わぬケガをするおそれがあります。
- ボデーの端部などでケガをしないように点検してください。

点検項目

- 日常（運行前）点検は車の周りやエンジンルームをのぞいたり，運転席に座って車の状態を見ることによって容易にできます。次の順序で行うと効率のよい点検ができます。
- ※ 印の点検項目は車の走行距離及び，運転時の状態から判断し，適切な時期に行ってください。
  たとえば，長距離を走行するときや，洗車，給油を行うときなどを目安に行ってください。
  なお，シビアコンディションの場合（低速走行主体や頻繁なエンジンの始動，停止，短距離走行の繰り返し，長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合），エンジンオイル量の点検は１日１回，車を運転する前に行ってください。
- 点検前に
  １　前回運転時の異常個所
- 車の周りを一周しながら

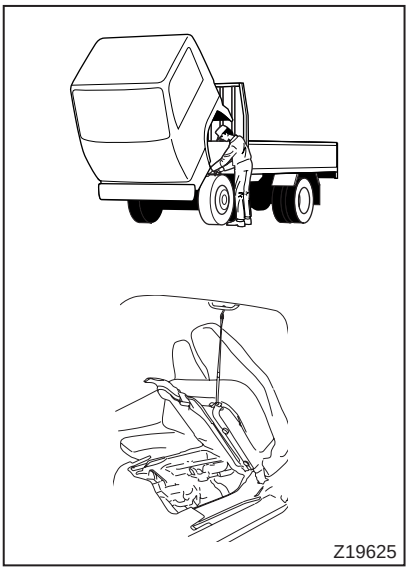
※２　ウォッシャーの液量
※３　冷却水の量
４　タイヤの空気圧
５　タイヤのき裂，損傷及び異常な摩耗
※６　タイヤ溝の深さ
※７　バッテリーの液量
８　ブレーキリザーバータンクのブレーキ液量
９　ランプ類の汚れ，損傷



● キャブをチルトしてまたはエンジン点検口を開けて

※ 10 エンジンオイルの量

※ 11 ファンベルトの緩み（張り具合），損傷



● 運転席に座って

※ 12 エンジンのかかり具合，異音

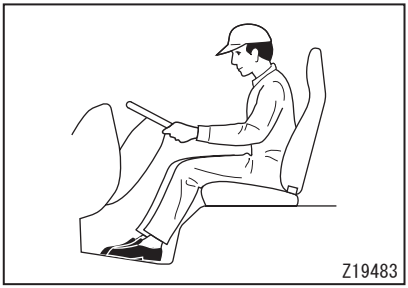
13 ブレーキペダルの踏みしろ

14 駐車ブレーキレバーの引きしろ

※ 15 ウインドーウォッシャー液の噴霧状態

※ 16 ワイパーのふき取り状態

17 ランプ類の点灯，点滅具合



● 安全な場所で走行しながら

※ 18 エンジンの低速，加速の状態

19 ブレーキの効き具合

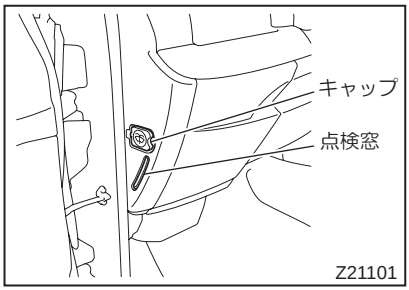
点検内容

1. 前回運転時の異常個所

前日または前回の運転中に異常があった個所を点検します。異常がありご自身で修理ができないときは日産販売会社に修理を依頼してください。

2. ウォッシャーの液量

①助手席側のドアを開けます。
②ウインドーウォッシャー液の量を点検窓から点検します。
液面が点検窓から見えないときは，ウインドーウォッシャー液を補給します。
③キャップを外し，ウォッシャー液を補給します。
④ウォッシャー液補給後，キャップを確実に取付けます。



ウォッシャー液は《純正ウインドーウォッシャー液》と水道水を規定の割合で混合します。混合割合は外気温により異なります。

● **ウォッシャータンク容量**

ウォッシャータンク容量（dm^3 {L}）
約 2.9 {2.9}

● **ウォッシャー混合割合**

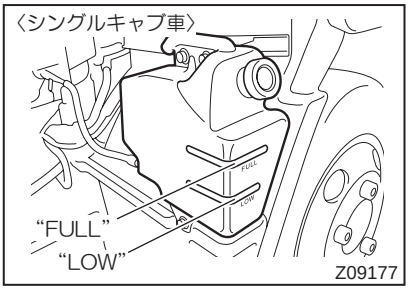
季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液 1：水道水 2	約 -10 ℃
寒冷地の冬期	原液 1：水道水 1	約 -20 ℃

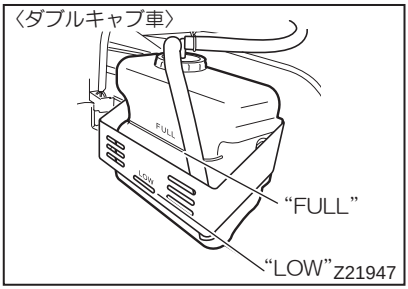
アドバイス

石けん水や台所洗剤を使用しないでください。ノズルの目詰まりや塗装面のしみなどの原因になります。

3. 冷却水の量

①点検はエンジン始動前の冷却水が冷えているときに行います。
②リザーバータンク内の冷却水面が“FULL”と“LOW”の線の間にあれば良好です。
③冷却水面が“LOW”の線より下の場合は，冷却系統から冷却水の漏れがないか点検した後，冷却水を“FULL”の線まで補給してください。14-29 ページをごらんください。
④冷却水が異常に減少しているときや，短期間で再び減少するときは冷却系統から水漏れが発生しているおそれがあります。
日産販売会社で点検をお受けください。





知識

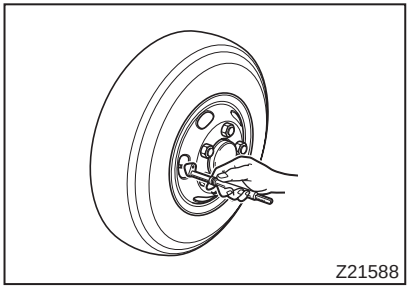
冷却水量の点検はエンジンを始動する前に行います。冷却水温が高いと温度による水の膨張で水量が実際より多くなります。

4. タイヤの空気圧

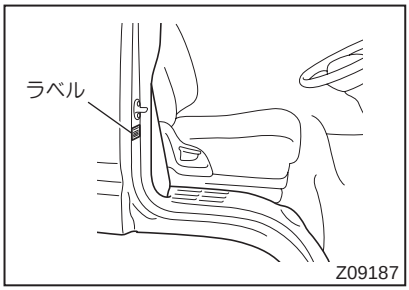
⚠ 注意

標準空気圧に調整してください。空気圧が低すぎるとタイヤが過熱し，バースト（破裂）事故につながるおそれがあります。また，タイヤの空気圧が低すぎたり，高すぎたりすると乗り心地が悪くなり積み荷も傷みやすくなります。

①エアゲージを使用して空気圧が適当であるか点検します。
空気圧が不良のときは標準空気圧に調整してください。
②エアゲージを使用してスペアタイヤの空気圧が適当であるか点検します。
③空気圧の点検及び調整は必ず走行前のタイヤが冷えている状態で行ってください。


Z21588

④タイヤの標準空気圧を示したラベルが運転席側ドアピラー部にはり付けてあります。



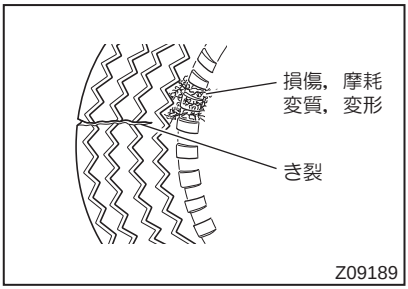
Z09187

アドバイス

- タイヤの空気圧を点検するときは，タイヤが冷えているときに点検してください。走行直後はタイヤの発熱によりタイヤ内の空気が膨張し，約 1 割程度空気圧が高くなっています。異常ではありませんので空気を抜かないでください。タイヤが冷えれば正常値に戻ります。
- タイヤの空気圧は自然低下します。エアゲージで点検してください。
- スペアタイヤの空気圧もエアゲージで点検してください。
- ダブルタイヤの内側と外側タイヤで空気圧の差をつけないでください。

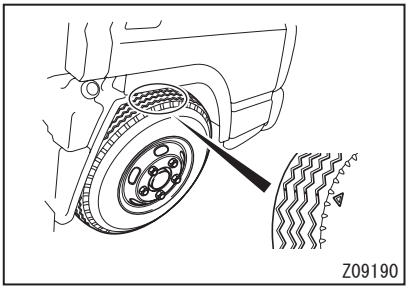
5. タイヤのき裂，損傷及び異常な摩耗

①タイヤの接地面や側面にき裂や損傷がないか，極端にすり減っている個所がないか点検します。
②タイヤにくぎ，石，その他異物が刺さったり，かみ込んだりしていないか点検します。
③タイヤの膨張や変形がないか点検します。また，油や薬品等の付着によりタイヤのゴムが軟化していないか手で触り点検します。スペアタイヤも同時に点検してください。
異常があるときは新品タイヤに交換してください。14-43 ページをごらんください。

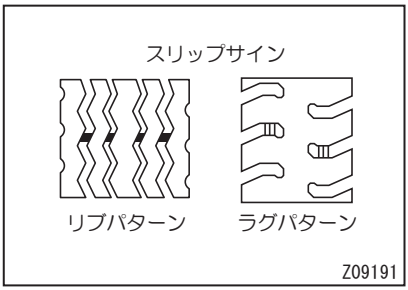


6. タイヤ溝の深さ

①タイヤ溝の残りの深さを点検します。
②残り溝が 1.6mm 以下になるとスリップサイン表示位置（△ マーク）にスリップサイン（溝の一部がなくなる）が現れます。
スリップサインの出たタイヤは危険です。新品タイヤに交換してください。また，一般走行時と高速走行時では残り溝深さ限度が異なります。下表の限度値以下のタイヤは新品に交換してください。14-43 ページをごらんください。



タイヤ溝の深さの限度（mm）	
一般走行	1.6 以上
高速走行	2.4 以上（下記タイヤ以外）
	3.2 以上　215/70R タイヤ 225/80R タイヤ



⚠ 注意

タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗し，残り溝が少ないとスリップや高速走行時のハイドロプレーニング現象を起こしやすくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

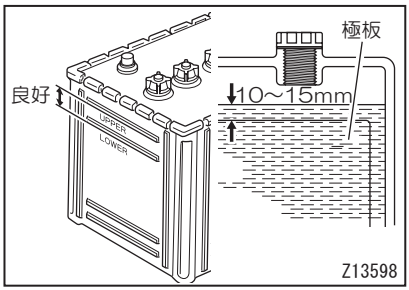
知識

ハイドロプレーニング現象とは，水のたまった路面を高速走行するとき，一定速度以上になるとタイヤが路面から浮き上がり，水上を滑走する状態になって車が操縦不能になる現象をいいます。

7. バッテリーの液量

⚠ 警告

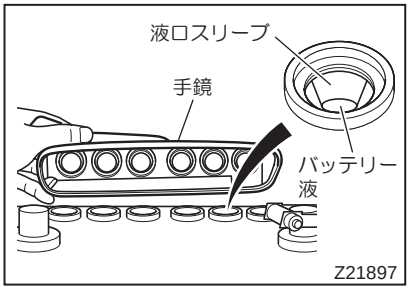
ダンプ車は荷台を上昇させた状態で点検や整備をすることは絶対にやめてください。荷台にはさまれ重大な事故につながるおそれがあります。



①バッテリー液面がバッテリーケース側面の“UPPER”レベルラインと“LOWER”レベルラインの間にあるか点検します。
②“LOWER”レベルライン以下のときはバッテリー液または蒸留水を“UPPER”レベルラインまで補給します。
③レベルライン表示のないバッテリーは，液面が極板上 10 ～ 15mm が正常範囲です。

● 架装物やバッテリーケーブルなどでバッテリーの液量が直接見えない車両は，次のように点検を行います。

- FEBM 型ダンプ車はバッテリーのターミナル部からバッテリーケーブルを取外します。バッテリーケーブルを取外すときは必ず車載されている絶縁スパナを使用してください。
- バッテリーのキャップを取外します。
- 手鏡などを利用してバッテリーの液量を確認します。
- 液口スリーブまでバッテリー液があるか確認します。



アドバイス

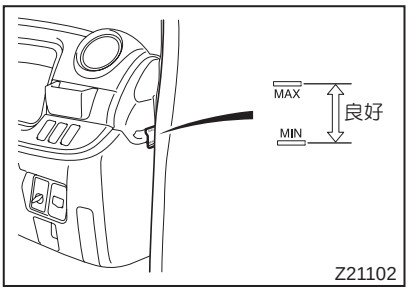
- FEBM 型ダンプ車は，バッテリーのターミナル部からバッテリーケーブルを取外すときには必ず車載されている絶縁スパナを使用してください。絶縁スパナ以外を使用すると荷台と工具が接触し，ショートするおそれがあります。
- バッテリー液を補給したときは必ず充電または走行してください。とくに冬期はバッテリー液が凍結しバッテリーケースを破損するおそれがあります。
- バッテリー液は上限（UPPER）レベルラインを超えて補充しないでください。上限（UPPER）以上入れると液があふれ，バッテリー端子などの腐食の原因になります。

8. ブレーキリザーバータンクのブレーキ液量

アドバイス

点検時はリザーバータンクのキャップを開けないでください。むやみに開けるとブレーキ液に水分やゴミなどの異物が混入することがあります。

①ブレーキリザーバータンク内の液量が規定の範囲にあるか点検します。
②液面が“MAX”と“MIN”の線の間にあれば良好です。液面が“MIN”の線より下の場合は，ブレーキ液配管系に液漏れのないことを確認した後，ブレーキ液を補給します。
ブレーキ液の補給については 15-24 ページをごらんください。



⚠ 注意

ブレーキ液面が異常に低下しているときは，ブレーキ液配管系から液漏れがしているおそれがあります。速やかに日産販売会社で点検をお受けください。

知識

ディスクブレーキ装着車はブレーキパッドが摩耗することにより，リザーバータンクの液面が下がります。

③リザーバータンク内の異物の有無を点検し，異物が沈殿しているときは日産販売会社で点検，洗浄をお受けください。

9. ランプ類の汚れ，損傷

①各ランプ類のレンズ及びリフレクターに汚れ，損傷及び変色がないか点検します。
②汚れ，損傷及び変色があるときは部品を交換してください。ランプの交換については 16-22 ページをごらんください。

10. エンジンオイルの量

フルタイム 4WD 車以外のエンジンオイル量の点検は，マルチインフォメーションディスプレイの ENG OIL（橙色）表示とオイルレベルゲージを使用する 2 とおりの方法があります。ENG OIL（橙色）表示での点検は簡易点検です。正確なエンジンオイル量はオイルレベルゲージで点検します。
フルタイム 4WD 車のエンジンオイル量の点検は，オイルレベルゲージを使用して点検します。

⚠ 注意

- エンジンオイルは，使用条件によりオイル量が増減します。日常（運行前）点検で走行距離や運行時の状況等から適切な時期にオイル量の点検を行ってください。また次のようなシビアコンディションで使用する場合，エンジンオイル量が早期にオイルレベルゲージの FULL（点検用）（〇印）を超える，または LOW を下回る場合がありますので，エンジンオイル量の点検は 1 日 1 回，運行前に行ってください。
  - 車速 20km/h 以下の低速走行が主体の場合
  - 頻繁に（10 分以内）エンジンの始動，停止を行う走行が多い場合
  - 短い距離（10km 以下）の走行を繰り返す場合
  - 長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合
- ENG OIL（橙色）を表示したときフルタイム 4WD 車以外は，エンジンオイル量の低下またはエンジンオイルに燃料が混入しエンジンオイルの品質が低下した場合に表示されます。平たんな場所に停車し，エンジンオイル量を点検してください。
  フルタイム 4WD 車は，速やかにエンジンオイルを交換してください。
- ENG OIL（橙色）及び ENG SYS（橙色）を交互に表示しているときは，直ちにエンジンオイルを交換してください。そのまま使用するとエンジン故障の原因になり，最悪の場合，意図せぬエンジン回転上昇を招くおそれがあります。

アドバイス

- 点検は平たんな場所で行ってください。車が傾斜している状態では，正確にエンジンオイル量を点検できません。
- 日常（運行前）点検では，エンジンを始動する前に行います。エンジン運転時，または停止直後では正確にエンジンオイルの量を点検できません。エンジンを停止し，15 分以上待ってから点検してください。

10.1 ENG OIL（橙色）表示での点検（簡易点検）＊

①スタースイッチを“ON”位置にし，3 秒以上待ちます。

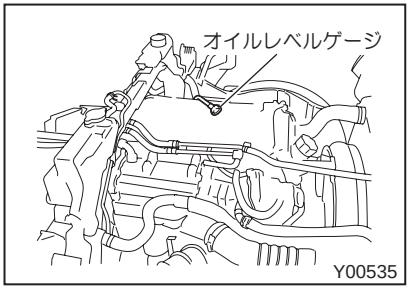
②マルチインフォメーションディスプレイに ENG OIL（橙色）が表示されたときは，エンジンオイル量が LOW より少なくなっています。エンジンオイルを交換してください。
マルチインフォメーションディスプレイに ENG OIL（橙色）が表示されないときはエンジンオイル量は適切です。そのままエンジンを始動できます。

アドバイス

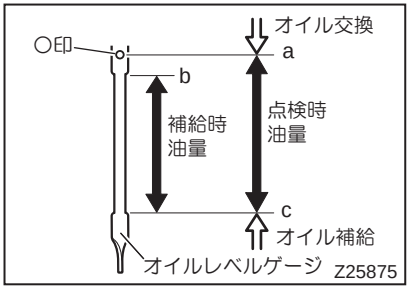
- エンジンオイル量を点検するときは，平たんな場所で行ってください。車両が傾いている状態では，正しいエンジンオイル量を検出できません。
- エンジンオイル量の点検後は，速やかにエンジンを始動するか，スターターキーを抜き取ってください。バッテリーあがりの原因になります。
- エンジンオイル量を適切に検出するため，エンジンの停止時間を計測しています。エンジンオイル交換後，万一 ENG OIL（橙色）の表示が消えないときは，エンジンを始動して 2 分以上稼働させます。その後エンジンを 1 時間以上停止させた後，再びエンジンオイルを点検してください。

10.2 オイルレベルゲージでの点検

①キャブを上げます。4-20ページをごらんください。
キャブチルトできない車はエンジン点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。
②オイルレベルゲージを抜き取り，付着したエンジンオイルを布で拭き取ります。
③再びオイルレベルゲージをいっぱいに差し込み，静かに抜き取ります。



④オイルレベルゲージに付着したエンジンオイルを確認します。
- 図の点検時油量の範囲（FULL（点検用）から LOW の間）にあれば問題ありません。
- FULL（点検用）を超えている場合は，エンジンオイルを交換します。
- LOWより少ない，またはLOWに近い場合は，エンジンオイルを補給します。
- 著しくエンジンオイルが汚れている場合は，オイルを交換します。
（エンジンオイルの交換，補給要領は 15-7 ページをごらんください。）



a（○印）　　：FULL（点検用）
b（切り欠き上側）：HIGH（給油用）
c（切り欠き下側）：LOW

⚠ 注意

エンジンオイルの位置が FULL（点検用）（○印）を超えているときは直ちにオイルを交換してください。そのまま使用するとエンジン故障の原因になり，最悪の場合，意図せぬエンジン回転上昇を招くおそれがあります。

知識

DPF 内部のススを燃焼除去するため，燃料の一部がエンジンオイルに混入することがあります。このためエンジンオイル量が増えることがありますが異常ではありません。また，エンジンオイルから燃料臭がする場合がありますが異常ではありません。

⑤点検後はオイルレベルゲージをいっぱいに差し込みます。

11. ファンベルトの緩み(張り具合), 損傷

⚠ 注意

ファンベルトを点検するときは必ずエンジンを停止してください。エンジンの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などが巻き込まれ思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ベルトに損傷がある場合は，速やかに日産販売会社へ交換をご依頼ください。ベルトの切断等によりエンジンが破損するおそれがあります。
- 点検時にはベルトに油脂を付着させないでください。ベルトのスリップの原因になります。

11.1 ファンベルト

11.1.1 緩み（張り具合）

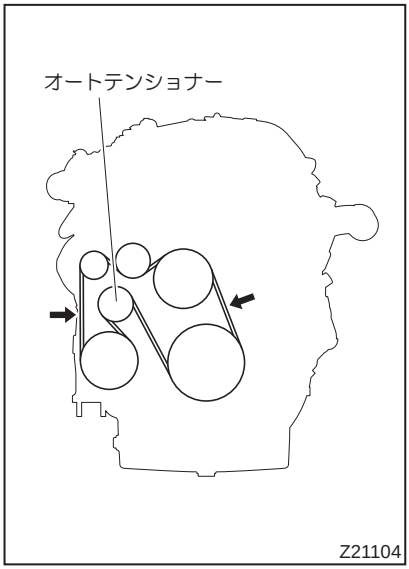
ベルトの張りはオートテンショナーにより自動調整されますので調整の必要はありません。

オートテンショナーが正常に作動しているか点検します。

①キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。
　キャブチルトできない車はエンジン点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。

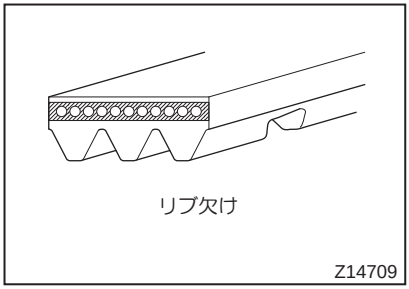
②ファンベルトの図示矢印部のどちらかを手のひらで押し，適切な張りがあるか点検します。

③ベルトのたわみ量が著しいときは，日産販売会社で点検をお受けください。



11.1.2 損傷具合

ベルトの損傷具合を点検します。き裂や損傷があるときは早めに交換してください。交換作業は分解を必要としますので日産販売会社へお申し付けください。



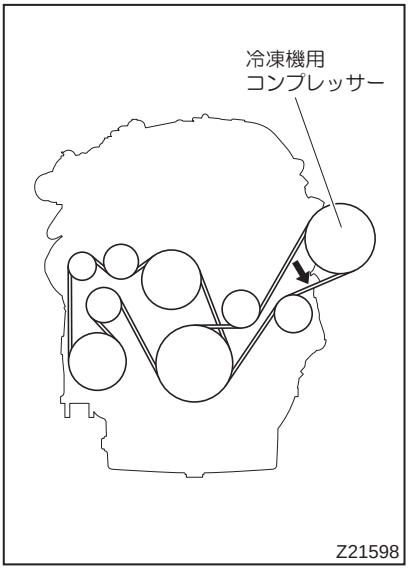
11.2 冷凍機用ベルトの緩み（張り具合），損傷＊

ベルトの緩み（張り具合），及びベルトに損傷がないか点検します。

11.2.1 緩み（張り具合）

①キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。

②冷凍機ベルトの矢印部を押します。ベルトのたわみ量が著しいときは，日産販売会社で点検をお受け下さい。

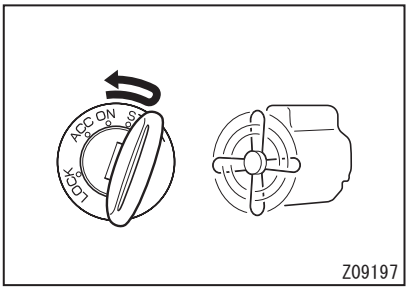


11.2.2 損傷具合

ベルトの損傷具合を点検します。き裂や損傷があるときは早めに交換してください。交換作業は分解を必要としますので日産販売会社へお申し付けください。

12. エンジンのかかり具合，異音

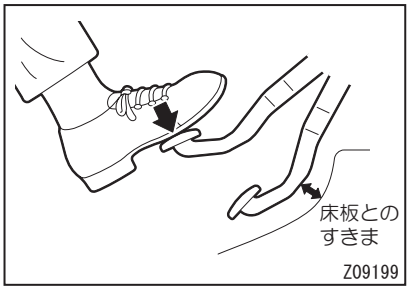
エンジンが速やかに始動するか点検します。
また，エンジン始動時及びアイドリング運転時に異音がないか点検します。
異常があるときは日産販売会社で点検をお受けください。



13. ブレーキペダルの踏みしろ

①エンジンを始動しアイドリング回転状態にします。
②ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み，床板とのすきまが規定値であるか点検します。

ブレーキペダルと床板とのすきま（mm）
10 以上

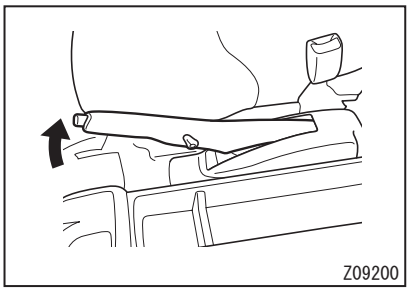


③ブレーキペダルの踏みごたえが適当であるかも点検します。
柔らかくスポンジを踏むように感じるときはブレーキ液漏れや空気の混入が考えられます。異常があるときは日産販売会社で点検をお受けください。

14. 駐車ブレーキの引きしろ

①駐車ブレーキレバーを解放した状態から約294N {30kgf} の操作力で引いたときのノッチ音（カチ，カチ音）の数が規定値であるか点検します。規定値以外のときは日産販売会社で点検をお受けください。

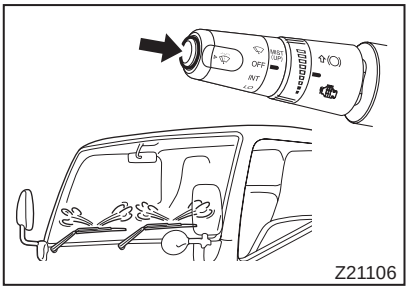
駐車ブレーキレバーの引きしろ （操作力　約 294N {30kgf} 時）
7～9 ノッチ



②駐車ブレーキレバーを引いたときラチェットが確実にかんでいることを点検します。

15. ウォッシャー液の噴霧状態

- ウインドーウォッシャースイッチを “ON” にしウォッシャー液がフロントガラスに噴射するか点検します。
- ウォッシャータンクにウォッシャー液があるのに噴射しないときはウォッシャーノズルの詰まりが考えられます。ノズル穴を細い針金で清掃します。清掃後も噴射しないときは日産販売会社で点検をお受けください。

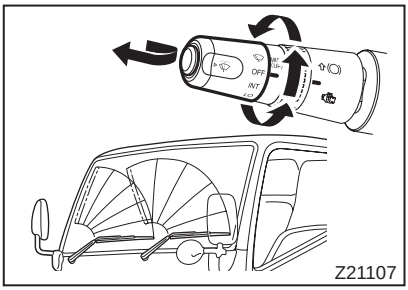


アドバイス

- ウォッシャースイッチは連続 20 秒以上操作しないでください。モーターが焼付くおそれがあります。
- ウォッシャー液がないときはウォッシャースイッチを操作しないでください。モーターが焼付くおそれがあります。

16. ワイパーのふき取り状態

- ワイパーのふき取り状態を点検するときはウォッシャースイッチを “ON” にしウォッシャー液をフロントガラスに噴射してから行います。
- ワイパースイッチを “INT”，“LO”，“HI”，“MIST” に操作し正しく作動するか点検します。作動状態に不具合があるときは日産販売会社で点検をお受けください。
- ワイパーの拭き取りにむらやビビリがあるときは，ワイパーブレードを点検します。ワイパーブレードが劣化しているときは交換してください。

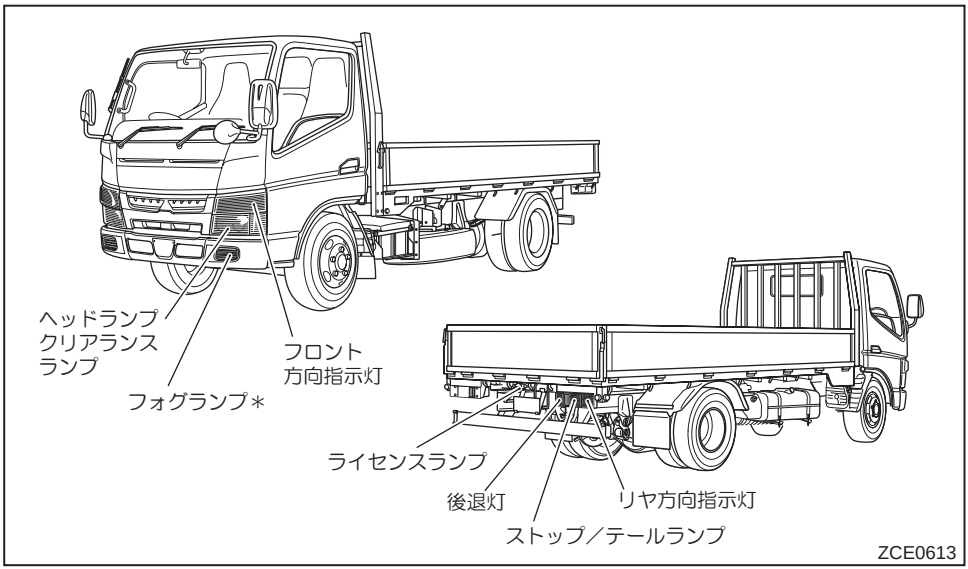


アドバイス

ワイパーのからぶきはフロントガラスを傷付けますので，ガラス面が乾いているときは必ずウォッシャー液を噴射してから動かしてください。

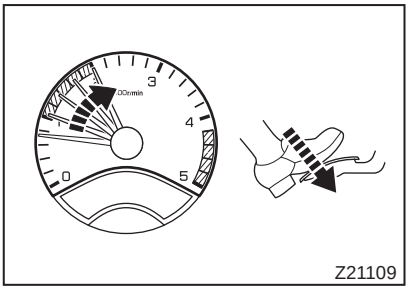
17. ランプ類の点灯，点滅具合

各スイッチを作動させ，各ランプが点灯または点滅するか点検します。また，照射方向や明るさなどに異常がないか点検します。



①スタースイッチを “ON” 位置にします。
②運転席の各スイッチを作動させ，各ランプの点灯，点滅状態を点検します。
③ブレーキペダルを踏み込んで，ストップランプが点灯するか確認します。
④ギヤシフトレバーを “R” 位置にしたとき，後退灯が点灯するか確認します。
⑤点検で点灯や点滅しないときは球切れやヒューズ切れが考えられます。不具合部品を交換してください。16-13，16-22 ページをごらんください。
⑥不具合部品を交換しても点灯や点滅しないときは日産販売会社で点検をお受けください。

18. エンジンの低速，加速の状態



- エンジンを暖機運転した状態で，アイドリング回転が円滑に続くか点検します。また，適正なアイドリング回転数であるか点検します。

エンジンアイドリング回転数（rpm） （暖機運転終了後，アイドリング調整ボタン装着車はオートアイドル）
約 650

アイドリング調整ボタン未装着車のアイドリング回転数は自動で調整されます。アイドリング調整ボタン装着車のアイドリング回転数はアイドリング調整ボタンをオートアイドルにしておけば自動で調整されます。

- 車の周りの安全を確認し，徐行や走行状態がスムーズか，またアクセルペダルを徐々に踏み込んだときペダルに引っ掛かりがなくエンジン回転が円滑に上昇するか点検します。
- 走行状態が不安定だったり，アクセルペダルの踏み込み量に対し車のスピードが追従しないときは日産販売会社で点検をお受けください。

知識

寒冷時のエンジン始動直後アイドリング回転数が上がることがあります。（アイドリング調整ボタン装着車はオートアイドル時に上がります）アイドリング回転数は冷却水温が上がると適切な回転まで下がります。

19. ブレーキの効き具合

⚠ 注意

点検は見通しの良い安全な場所で行い，周囲の状況に十分注意してください。

①車の周りの安全を確認します。
②車を徐行させブレーキペダルを踏み込み，ブレーキの効き具合，片効きがないか点検します。また，ブレーキペダル操作時はペダルがスムーズに踏み込め，引っかかりや踏力の急激な変動等がないか点検します。
③異常があるときは走行せず日産販売会社に連絡してください。

14章 定期点検・簡単な点検，手入れ

定期点検 …… 14-2
簡単な点検，手入れ …… 14-3
点検，手入れ時の注意 …… 14-4
車載工具 …… 14-6
エンジンオイルフィルターの交換 …… 14-9
燃料フィルターの交換 …… 14-14
エアクリーナーの点検，清掃，交換 …… 14-19
燃料フィルターの水抜き …… 14-23
PCV フィルターの再生方法 …… 14-25
冷却水の補給，交換 …… 14-26
フートブレーキの点検 …… 14-36
駐車ブレーキの点検 …… 14-37
ハンドルの点検 …… 14-38
クラッチペダルの点検＊ …… 14-41
タイヤの交換 …… 14-43
ホイール，ホイールナットの点検 …… 14-60
ワイパーブレードの交換 …… 14-63
バッテリーの点検 …… 14-64
マフラーの機能点検 …… 14-71
デフロスターの点検 …… 14-72
外気導入口の点検 …… 14-72
シートベルトの状態 …… 14-73
車の手入れ …… 14-74
インタークーラーの清掃 …… 14-79
ヒーター，エアコン用エアフィルターの清掃 …… 14-80

定期点検

1. 検査(車検)と定期点検整備の違い

- 検査（車検）は，その時点での国の基準（保安基準）に適合しているかをテスターや目視によってチェックするもので，検査に合格したからといって次の検査まで安心して乗り続けられることを約束するものではありません。
- 定期点検整備は今悪い個所を整備するだけでなく，今後の劣化や摩耗の度合いを予測して予防整備も行います。予防整備は大きな故障や余分な出費を防ぐとともに，次の点検までの安心を提供します。

2. 定期点検要領

- 定期点検には法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）のほかに，弊社が指定するメーカー指定点検項目（シビアコンディション（厳しい使われ方）項目及び定期交換部品を含む）があり，法令で定められた期間での実施が義務付けられています。別冊の《メンテナンスノート》にしたがい点検整備を実施ください。
- 本章及び 15 章（給油，給脂）では， 簡単な点検， 手入れについて記載してありますので一部の点検整備はご自身で実施することができますが，ご自身ではできない点検整備項目及び本書に記載のない点検整備項目につきましては，メンテナンスノートをサービス工場へご提示のうえ，お近くの弊社販売店にお申し付けください。

3. 点検時期表の見方

本書では次のように点検時期，交換時期を表示しています。

	点検時期	交換時期	
1 →	自家用：6 か月ごと		
2 →	事業用：3 か月ごと（距離項目）	40,000km ごと	← 5
3 →	（シビアコンディション項目）		

4 → 新車時の点検は 1,000km 走行時に行います。

1： 自家用自動車の点検時期が 6 か月ごとであることを示します。

2： 事業用自動車の点検時期が 3 か月ごとであることと，距離（時間）項目であることを示します。
距離（時間）項目とは走行距離（稼動時間）が次の条件に当てはまる場合は，1 回に限り点検整備を省略できます。ただし，連続して省略はできません。

- ●3 か月点検項目
  新規検査日または前回点検から走行距離が 2,000km 以下の場合
- ●6 か月点検項目
  新規検査日または前回点検から走行距離が 4,000km 以下の場合
- ● 12 か月点検項目
  新規検査日または前回点検から走行距離が 8,000km 以下の場合

3： 点検時期がシビアコンディション項目であることを示します。
シビアコンディションとは弊社が指定する厳しい使われ方をする場合の点検時期を示します。事業用車両で厳しい使われ方をする場合は，1 か月ごとに点検整備をします。
〈厳しい使われ方の条件〉
次の条件のいずれか 1 つに当てはまれば「厳しい使われ方」に該当します。

- ● 走行距離または稼動時間の 30%以上が悪路（凸凹路，砂利道，未舗装路等），雪道，多塵地帯の場合
- ● 走行距離が多い場合（1 か月に 10,000km 以上走行する場合）
  または稼動時間が多い場合（1 か月に 500 時間以上稼動する場合）
- ● 走行距離または稼動時間の 30%以上が山道，登降坂路の場合
- ● 発進，停止の繰り返しが多い場合，もしくは走行距離または稼動時間の 30%以上が低速走行の場合
- ● 頻繁なエンジンの始動，停止，もしくは短い距離の走行を繰り返す場合
- ● 長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合

4： 新車時から 1,000km 走行時の点検を弊社が指定していることを示します。
5： 交換時期が 40,000km ごとであることを示します。

知識

点検または交換時期に使用期間と走行距離を併記しているものは，どちらか早いほうで点検または交換します。

簡単な点検，手入れ

- ● 本章では，ご自身でできる簡単な点検，手入れについても記載してあります。また給油，給脂については，15 章に記載してあります。
- ● 点検内容，点検時期，注意事項など記載内容を十分確認し，点検整備を行ってください。
- ● ご自身で点検整備を行った場合には，必ずその結果をメンテナンスノートに記入いただき生涯記録簿としてご活用ください。
- ● ご自身ではできない点検整備項目及び本書に記載のない点検整備項目につきましては，メンテナンスノートをサービス工場へご提示のうえ，お近くの弊社販売店にお申し付けください。

点検，手入れ時の注意

⚠ 警告

- エンジンの点検，手入れを行うときは，必ずスターターキーを抜き取るか“LOCK”位置にしてください。エンジンの燃料噴射装置には高電圧がかかる部品があります。スタータースイッチが“ON”位置のまま点検，手入れを行うと感電するおそれがあります。やむを得ずスタータースイッチを“ON”位置のまま点検，手入れを行うときは電気配線やコネクターには触れないようにしてください。
- エンジンを点検するときはエンジンを停止してください。やむを得ずエンジンが回転している状態で点検する場合は，ファンなどの回転部分には触れないようにしてください。回転部分に触れると重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

マフラー内部から出てきた水には触れないでください。水はマフラーに内蔵されている酸化触媒の作用により，弱酸性になっています。皮膚等に付着した場合は十分に水で洗い流してください。

- 駐車ブレーキを確実に効かせてください。
- ブレーキペダルを踏み込んだまま，ギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。DUONIC 2.0 搭載車は，エンジンを止める前に，ブレーキペダルを踏み込んだままギヤシフトレバーを“P”位置にし，ギヤポジションインジケーターに“P”が表示されていることを確認してください。
- エンジンを止め，スターターキーを必ず抜き取ってください。
- 平たんな場所で行ってください。
- タイヤに輪止めをかけてください。
- 走行直後は，エンジンや排気管など各部が高温になっていますので，触るとやけどするおそれがあります。冷えた状態で行ってください。
- エンジンの上に乗らないでください。パイプ類や補機類に足を掛けると破損や故障の原因になります。
- 点検，手入れ終了後は，エンジンルーム内にウエス（布）など燃えやすい物や工具などの置き忘れがないか，点検してください。
- 点検，手入れ後はオイル漏れや液漏れ，及び水漏れがないか点検してください。

アドバイス

- フィルターやエレメントなど交換する部品は純正部品を使用してください。また，オイルやグリースは弊社が推奨するものを使用してください。純正部品以外を使用したり，推奨以外のオイルやグリースを使用すると故障の原因になります。
- エンジンまわりのカバー類は取外したままにしないでください。
  法律で定められた騒音規制値となるように各種カバー類を取付けてあります。不正な改造は法律に違反します。
- 電気系統の点検，整備をするときは，必ずバッテリーの㊀端子からケーブルを取外してください。バッテリーイコライザー搭載車は，必ず 2 個所とも㊀端子からケーブルを取外してください。
  また，取外すときは次のことに注意してください。
  バッテリーイコライザー搭載車はメーンバッテリーの㊀端子のみを取外した状態でも，架装側 24 ボルトバッテリーの㊀端子に電圧がかかっていることがあります。このとき，架装側 24 ボルトバッテリーの㊀端子と荷台，フレームがスパナーなどで接触するとショートすることがあります。
- 尿素水添加システムはスタータースイッチを“LOCK”位置にした後も約2分間作動しています。点検，整備などでバッテリーや電気系統のコネクターを外すときは 2 分以上経過してから行ってください。

知識

交換後のオイルや冷却水などは定められた方法で処理してください。むやみに廃却すると法律違反になります。ご自身で処理できないときは日産販売会社にご相談ください。

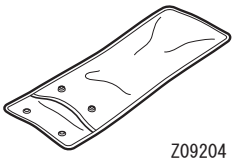
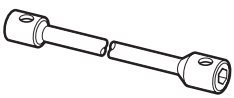
車載工具

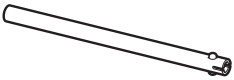
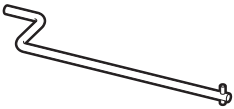
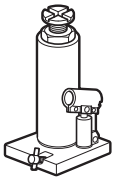
1. 車載工具一覧

次の工具を車載しています。なお，車の仕様により車載されていない工具もあります。
弊社販売店には日常点検，手入れや分解，整備のときに必要な工具を各種用意しています。必要に応じてお求めください。
また，FEBM 型ダンプ車は絶縁スパナを車載しています。バッテリーの点検や交換するときは，車載されている絶縁スパナをご使用ください。

アドバイス

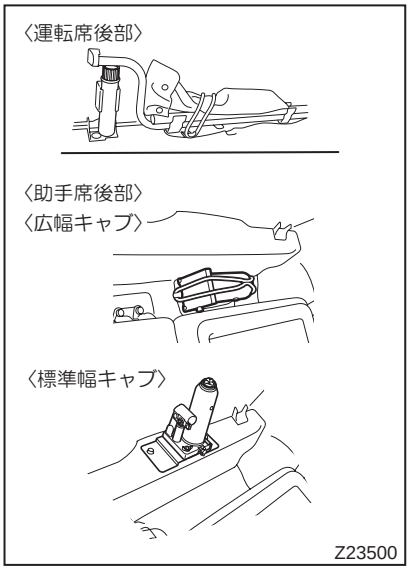
- 車載工具は決められた目的以外には使用しないでください。
- 摩耗や衝撃などにより絶縁スパナの絶縁被膜下地（黄色）が露出したときは使用しないでください。絶縁被膜下地（黄色）が露出したまま使用すると感電するおそれがあります。
- 工具にエンジンオイルや燃料などが付着したときはきれいにふき取ってください。

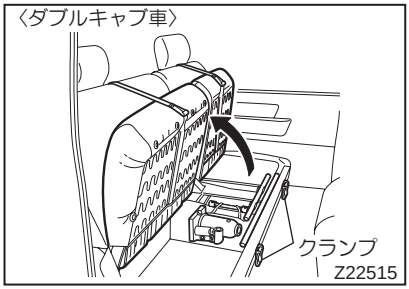
名称	工具	用途	適応機種	参照ページ
ツールバッグ＊	 Z09204	ホイールナットレンチ収納用	全車	—
	 Z09943	絶縁スパナ収納用	FEBM 型ダンプ車	—
ホイールナットレンチ	 Z09205	ホイールナットの脱着用	全車	14-49

名称	工具	用途	適応機種	参照ページ
レンチハンドル	 Z09206	ホイールナットレンチ及びオイルジャッキ用	FBA0 型	14-43
	 Z09207		上記以外	14-43
スペアタイヤハンドル	 Z09209	スペアタイヤ脱着用	下記以外	14-58
	 Z21573		F □ A 型シングルキャブ車リヤオーバーハング置きスペアタイヤ装着車	14-58
オイルジャッキ	 Z09211	タイヤ交換時のジャッキアップ用	全車	14-45
絶縁スパナ	 Y00278	バッテリーケーブル脱着用	FEBM 型ダンプ車	—

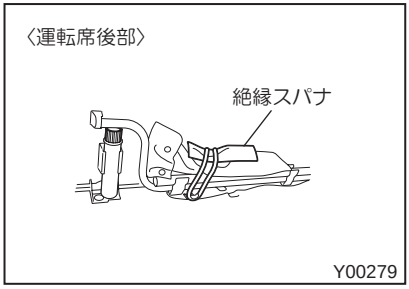
2. 車載工具格納場所

車載工具は運転席，助手席の後部に収納されています。使用するときはシートの背もたれを前方に倒して取り出します。
ダブルキャブ車は後席シート下の物入れに収納してあります。使用するときはシートクッションを持ち上げて取り出します。





絶縁スパナは，他の車載工具と同じ場所に収納されてます。



エンジンオイルフィルターの交換

⚠ 警告

排気管，スターターなどにエンジンオイルをこぼさないようにしてください。エンジンオイルが付着すると熱により火災を起こすおそれがあります。こぼしたときはきれいにふき取ってください。

⚠ 注意

- 走行直後はオイルフィルターの交換を行わないでください。エンジンが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- エレメント交換の際，作業スペースが狭いので周囲の部品のエッジ等でケガをしないようにしてください。

1. 交換時期

交換時期
40,000km または 1 年ごと

アドバイス

エンジンオイルフィルターの交換時期とエンジンオイルの交換時期は異なります。エンジンオイルの交換時期は，エンジンオイルの補給，交換，または別冊の《メンテナンスノート》をごらんください。

2. 交換

知識

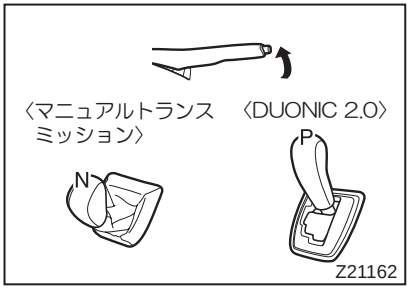
エレメントを廃却するときは地方自治体の定める条例にしたがって処理をしてください。ご自身で処理できないときは日産販売会社にご相談ください。

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②タイヤに輪止めをかけます。
③エンジンが冷えているときは，エンジンオイルの温度が約40℃になるまで暖機運転をします。（エンジンオイルの温度が 0 ℃付近から 40 ℃程度まで上がるのにアイドリング回転で約 20 分かかります。）完了後は，エンジンを停止します。

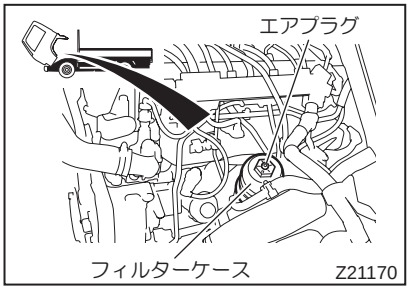
知識

暖機運転を行ってください。暖機運転を行わないと，フィルターケースを取外すときにエンジンオイルが吹きこぼれることがあります。

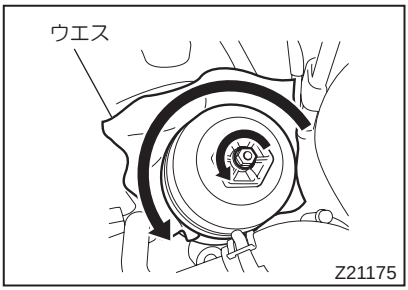
④ギヤシフトレバーが “P” 位置またはニュートラルになっていることを確認します。
⑤キャブを上げます。4-20ページをごらんください。キャブチルトできない車はエンジン点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。
⑥エレメント交換前に，ゴミが入らないようフィルターケース周りを清掃します。



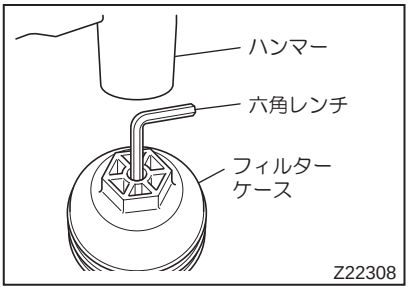
⑦フィルターケースを左に回し(約 2.5 回転)緩めます。
⑧フィルターケースのエアプラグを左に回して取外します。プラグは新品に交換します。プラグを取外した後フィルターケース内のオイルが落ちるまで 5 分以上待ちます。
エンジンオイルを交換するときは，オイルフィラーキャップを外し，ドレーンプラグを外します。15-11 ページをごらんください。



⑨フィルターケースを左に回して取外します。取外すときにオイルがたれないようにウエスなどをそえます。



⑩フィルターエレメントをフィルターケースから取外します。
フィルターエレメントのツメが固くて取外せない場合は，フィルターケースのエアプラグの穴に六角レンチ等を挿入し，ハンマーなどで軽くたたいて取外します。



アドバイス

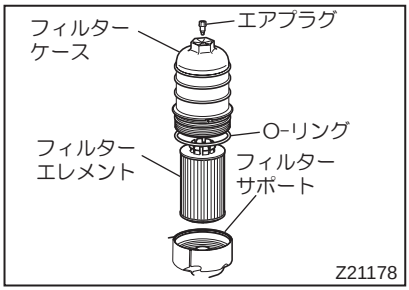
六角レンチは 4mm，または 5/32inch を使用してください。これらより六角レンチが太いとエアプラグの O- リングシール面を傷付けるおそれがあり，また細いとエレメントを貫通するおそれがあります。

⑪フィルターサポートのO-リング当たり面及びフィルターケースのO-リング溝を清掃します。
⑫ケースのO-リングを新品に交換します。取付けるとき，O-リングにエンジンオイルを薄く塗ります。

アドバイス

O- リングは新品のエレメントに付属しているものを使用してください。

⑬穴部を下にして新品のエレメントを取付けます。



アドバイス

- フィルターケースやプラグを取付けるとき，O- リングがねじれて損傷しないようにしてください。
- エレメントは再使用しないでください。

⑭新品のエアプラグをフィルターケースに締付けます。

締付けトルク（N·m {kgf·m}）
1.5±0.6 {0.15±0.06}

アドバイス

- エアプラグは新品のエレメントに付属しているものを使用してください。
- エアプラグ及びフィルターケースを締付けるときは，規定のトルク以上で締付けないでください。規定のトルク以上で締付けると，エアプラグ及びフィルターケースが破損するおそれがあります。

⑮フィルターケースを締付けます。

締付けトルク（N·m {kgf·m}）
25～30 {2.5～3.0}

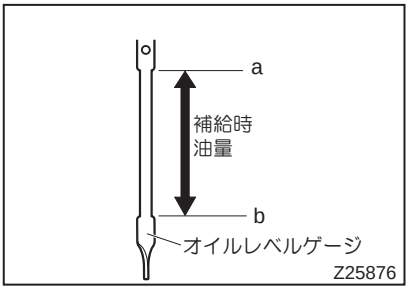
エンジンオイルの交換を行ったときは，エンジンオイルの補給，及びエンジンコントロールユニットのリセットを行います。15-11 ページをごらんください。

⑯7-10 ページの “ 長時間駐車後の始動 ” 要領にしたがいエンジンをクランキングします。

⑰エンジンを始動し水温計が８目盛り（インジケーター中央）程度になるまで暖機運転します。

⑱エンジンを停止し，15 分以上おいてからエンジンオイルの量を確認します。オイルが図の補給時油量の範囲にない場合はオイルを補給，または排出し，⑰の手順へ戻り再度点検を行います。

⑲オイルフィルターやドレーンプラグからオイルが漏れていないことを確認します。



a（切り欠き上側）：HIGH（給油用）
b（切り欠き下側）：LOW

知識

- 点検または交換時期に使用期間と走行距離を併記しているものは，どちらか早いほうで点検または交換します。
- 交換後のオイルなどは定められた方法で処理してください。むやみに廃却すると法律違反になります。ご自身で処理できないときは日産販売会社にご相談ください。

燃料フィルターの交換

⚠ 警告

- エレメント交換中は，たばこ，ライターなどの火気の使用は絶対にやめてください。また，必ずエンジンを止めてください。火災を起こすおそれがあります。
- 燃料をこぼしたままにしないでください。火災を起こすおそれがあります。万一，こぼしたときはきれいにふき取ってください。

⚠ 注意

- 走行直後はエレメントの交換を行わないでください。燃料フィルターが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- エレメント交換の際，作業スペースが狭いので周囲の部品のエッジ等でケガをしないようにしてください。
- エレメントを交換する際，専用工具を使用してください。取付け方が適正でないと燃料漏れやフィルター損傷の原因になります。専用工具がないときは，日産販売会社に依頼してください。
- フィルターケースに傷等をつけないでください。燃料漏れの原因になります。

アドバイス

- 交換するエレメントは純正部品の新品を使用してください。また，交換時期を過ぎて使用しないでください。燃料噴射装置の故障の原因になります。
- エレメント交換の際，燃料系統に異物が混入しないように注意してください。燃料噴射装置の故障の原因になります。
- 燃料フィルターをけったり，たたいたりしないでください。内部のセンサーが破損するおそれがあります。

知識

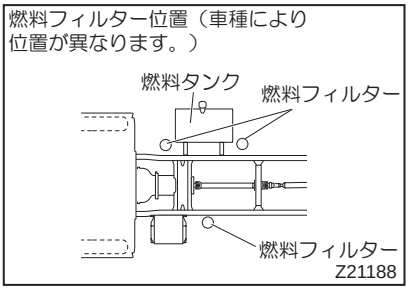
FEBM 型ダンプ車は燃料フィルターを交換する際，スペアタイヤを取外してから行ってください。また，交換後は取外したスペアタイヤを確実に取り付けてください。

1. 交換時期

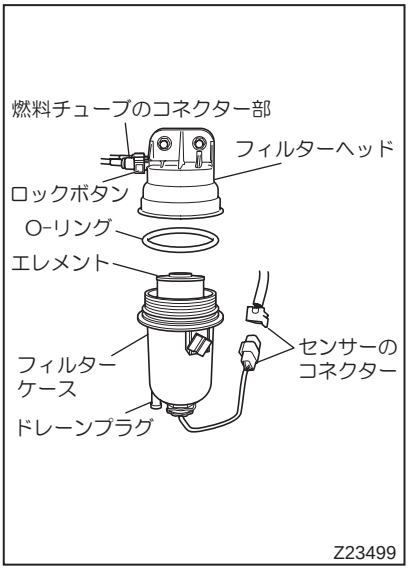
交換時期
40,000km または 1 年ごと

2. 交換

燃料フィルターは図示の個所にあります。

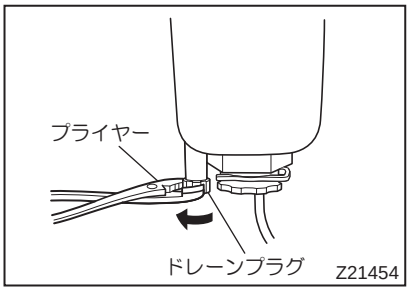


①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②タイヤに輪止めをかけます。
③エレメント交換前に新品のエレメントにゴミが入らないように燃料フィルターの周りを清掃します。
④燃料フィルターの下に燃料受け缶を置きます。
⑤燃料チューブ2個所を取外します。燃料チューブはコネクター部のロックボタンを押しながら引き抜きます。コネクターを取外すとき，燃料が一瞬噴き出すため，コネクター部にウエスなどを当てます。

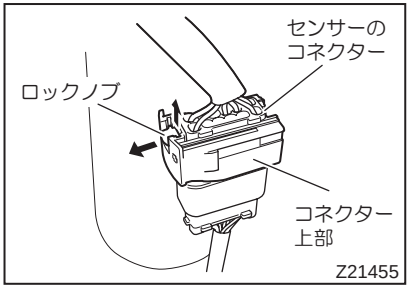


⑥ドレーンプラグとフィルターケースにペンなどを使用し，合マークを付けます。
⑦フィルターケース内の燃料を排出します。プライヤーなどでフィルターケースのドレーンプラグを少し左に回し，排出します。
⑧燃料排出後，ドレーンプラグを合いマークが合う位置まで右に回して締付けます。

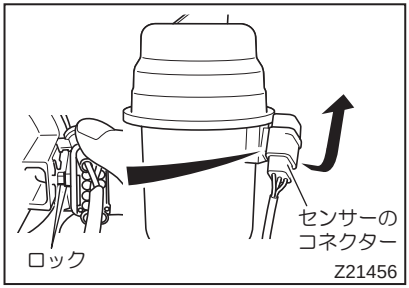
締付けトルク（N·m {kgf·m}）
1.5 {0.15}



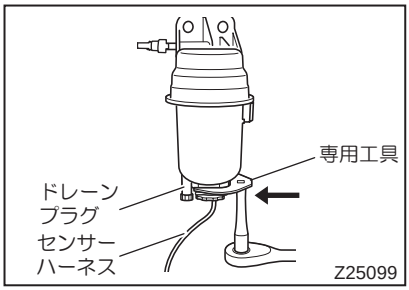
⑨センサーのコネクターを取外します。ロックノブを引き上げてコネクター上部を引き出し取外します。



⑩フィルターケースからセンサーのコネクターを取外します。コネクター下部を手前に引きロックを外し，真上に引き抜きます。



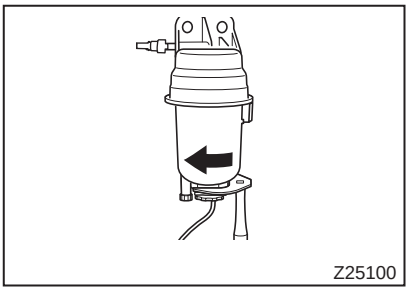
⑪専用工具（別売品）をドレーンプラグと反対方向から水平に差し込みます。



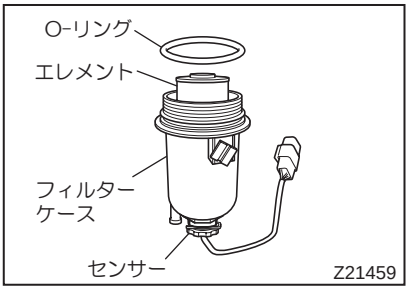
アドバイス

- 専用工具は必ずドレーンプラグと反対方向から水平に差し込んでください。
  反対方向以外から挿入すると専用工具が浅くしか掛らなくなり，フィルターケースが破損するおそがあります。
- 専用工具を挿入するときはセンサーハーネスをはさまないようにしてください。

⑫フィルターケースを左に回し取外します。ケース内に残っている燃料を排出します。



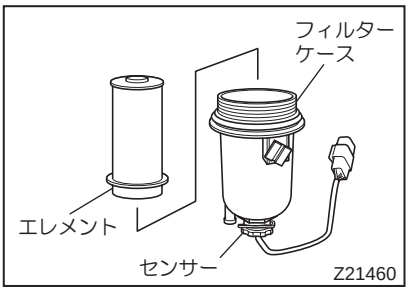
⑬エレメントをまっすぐ引き抜きます。
⑭フィルターケースの O- リングを新品に交換します。
新品のO-リングにエンジンオイルを薄く塗り，フィルターケースに取付けます。



アドバイス

- エレメントはまっすぐ脱着してください。脱着のときに傾けると内部のセンサーが破損するおそれがあります。
- O- リングは新品のエレメントに付属しているものを使用してください。

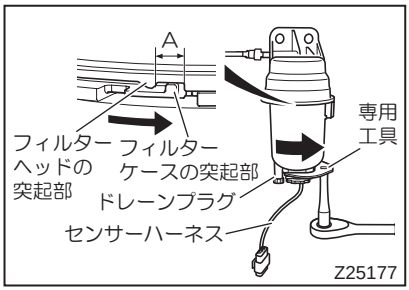
⑮フィルターケースに新品の《純正エレメント》を図示の向きに取付けます。
エレメントはまっすぐ挿入します。



アドバイス

- フィルターケースを取付けるとき，O-リングがねじれて損傷しないよう注意してください。
- エレメントは再使用しないでください。

⑯専用工具（別売品）をドレーンプラグと反対方向から水平に差し込みます。



アドバイス

- 専用工具は必ずドレーンプラグと反対方向から水平に差し込んでください。
  反対方向以外から挿入すると専用工具が浅くしか掛らなくなり，フィルターケースが破損するおそがあります。
- 専用工具を挿入するときはセンサーハーネスをはさまないようにしてください。

⑰フィルターケースを右に回し取付けます。
フィルターケースの突起がフィルターヘッドの突起を乗り越えて“A”の範囲に入っていることを確認します。突起が確認しづらい場合は、フィルターヘッドとケースに目印として合マークを付けてください。

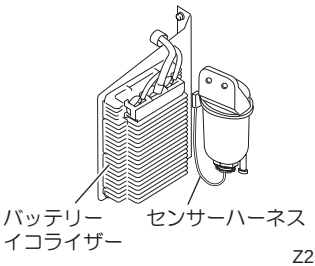
アドバイス

フィルターケースを取付けるときはフィルターケースの突起がフィルターヘッド突起を乗り越えて，“A”の範囲に入っていることを確認してください。
フィルターケースの回り方が足りなかったり，回し過ぎると燃料漏れやフィルターケース損傷の原因になります。

⑱センサーのコネクターをフィルターケースに取付け，センサーのコネクターを接続します。取外しの逆手順で行います。

アドバイス

バッテリーイコライザ搭載車は，センサーハーネスとバッテリーイコライザーが干渉しないようにしてください。
バッテリーイコライザーからの熱でセンサーハーネスが破損するおそれがあります。



⑲燃料チューブのコネクターを燃料フィルターに取付けます。燃料チューブのコネクターを燃料フィルターに取付けるときはカチッというロック音がした後も，さらに押し込み奥まで挿入します。
取付け後，コネクターを持ち軽く前後に押し引きし，確実にロックしていることを確認します。
⑳スタースイッチを30秒間“ON”位置にした後，“ACC”位置にして燃料系統のエア抜きを行います。
㉑エンジンを始動し，燃料漏れがないか点検します。

知識

エレメントを交換すると，燃料系統にエアが混入します。エアが混入するとエンジンを始動できません。エンジン始動前にエア抜きを行ってください。

エアクリーナーの点検，清掃，交換

1．点検，清掃，交換時期

アドバイス

- エアクリーナーの清掃は，指定されている清掃時期に行ってください。エレメントの清掃を行わないと，DPF 内部にススが早期に堆積し，故障の原因になります。また，必要以上の頻繁な清掃はエレメントを損傷したり，エンジン内部にほこりや異物を吸い込む原因となります。
- 清掃時期前でもエレメントの目詰まりによるエンジン出力不足等があるときはエレメントを清掃または交換してください。

点検時期（清掃時期）	交換時期
自家用：6 か月ごと（距離項目） 事業用：3 か月ごと（距離項目） （シビアコンディション項目）	40,000km または 1 年ごと

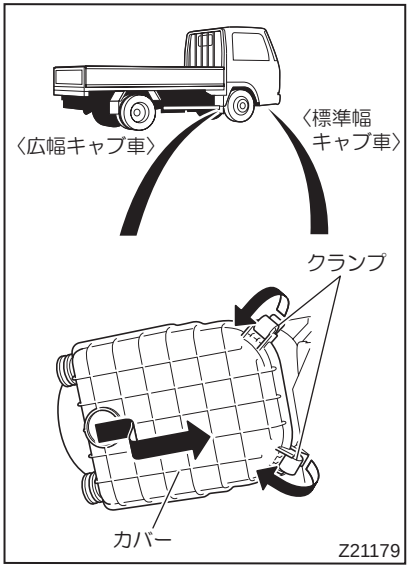
2. 取外し，取付け

⚠ 注意

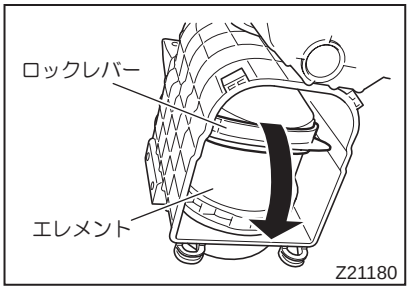
カバーを脱着するときは，周囲の部品のエッジ等でケガをしないように厚手の手袋などはめてください。

● **取外し**

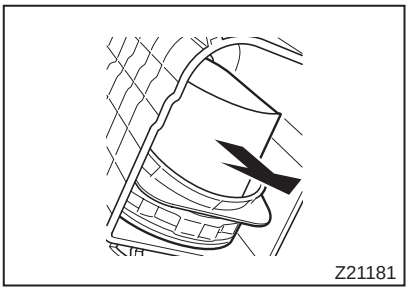
①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②タイヤに輪止めをかけます。
③クランプ2個所を外し，カバーをクランプ側に引き抜き取外します。



④エレメントケースのロックレバーを“UNLOCK”位置にします。

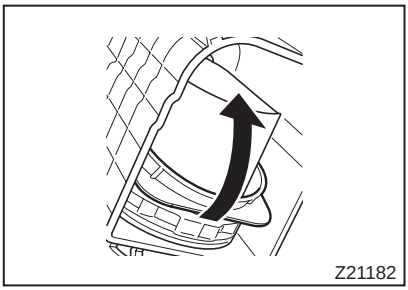


⑤エレメントをまっすぐに引き抜きます。

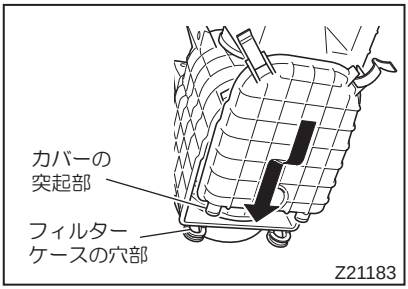


● **取付け**

①エレメントとエレメントケースをまっすぐに差し込みます。
②エレメントケースのロックレバーを“LOCK”位置にします。



③カバーの突起部をフィルターケースの穴部に差し込み，カバーを取付け，クランプで固定します。



アドバイス

エレメントは確実に取付けてください。パッキンの破れやクランプの緩みなどがありますとエンジン内部にホコリや異物を吸い込み，ピストンやライナーなどの早期摩耗の原因になります。

3. 点検，清掃

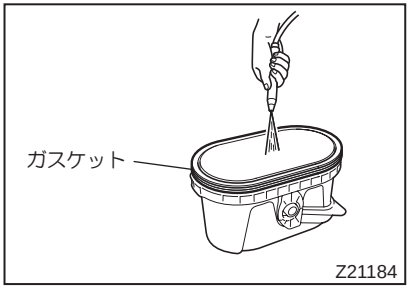
⚠ 注意

エレメントを清掃するときは防塵マスク等を付け，ホコリを吸わないようにしてください。人体に悪影響を与えるおそれがあります。

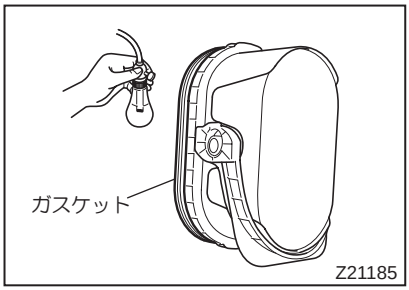
アドバイス

- エレメント清掃時の圧縮空気圧は 686kPa {7kgf/cm^2} 以下で行ってください。エレメントが損傷するおそれがあります。
- エレメントを打ち付けたり，強くたたかないでください。エレメントが損傷するおそれがあります。
- 油煙やスス等で黒く汚れているときは，交換時期にかかわらず新品に交換してください。

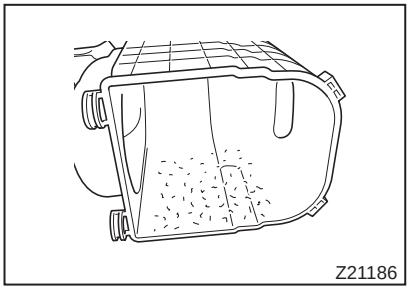
①エレメントのガスケット側から，圧縮空気を面全体にまんべんなく吹き付けてホコリを落とします。



②エレメントのガスケット側からライトをあて，光の漏れがないか点検します。また，ガスケットにき裂や損傷がないか点検します。

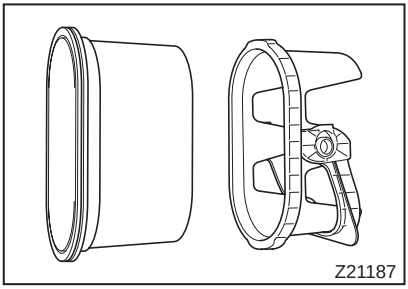


③ケースやカバーの内側に付着しているホコリ等をウエスなどで清掃します。とくに，シール部は念入りに清掃します。



4. 交換

エレメントは必ず日産自動車《純正エレメント》を使用してください。
エレメントケースからエレメントを取外し，新品と交換します。



知識

エレメントを廃却するときは地方自治体の定める条例にしたがって処理してください。ご自身で処理できないときは日産販売会社にご相談ください。

燃料フィルターの水抜き

エンジン回転中，燃料フィルター内に一定以上の水がたまると WATER SEPR ウォーニング表示します。表示したら速やかにフィルター内の水抜きを行ってください。

⚠ 警告

- 水抜き中は，たばこ，ライターなどの火気の使用は絶対にやめてください。また，必ずエンジンを止めてください。火災を起こすおそれがあります。
- 燃料をこぼしたままにしないでください。火災を起こすおそれがあります。万一，こぼしたときはきれいにふき取ってください。

⚠ 注意

- 走行直後は燃料フィルターの水抜きを行わないでください。燃料フィルターが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- 水抜きの際，作業スペースが狭いので周囲の部品のエッジ等でケガをしないようにしてください。
- フィルターケースに傷等をつけないでください。燃料漏れの原因になります。

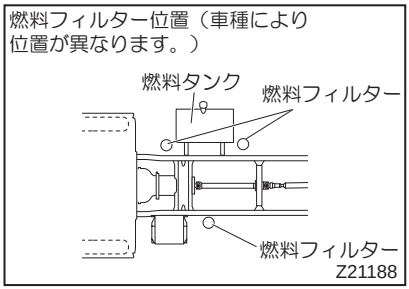
アドバイス

燃料フィルターをけったり，たたいたりしないでください。内部のセンサーが破損するおそれがあります。

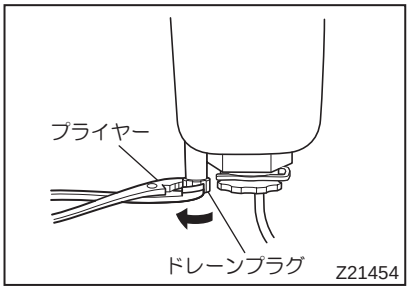
知識

FEBM 型ダンプ車は燃料フィルターの水抜きする際，スペアタイヤを取外してから行ってください。また，水抜き後は取外したスペアタイヤを確実に取り付けてください。

燃料フィルターは図示の個所にあります。
①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②タイヤに輪止めをかけます。
③燃料フィルターの下に燃料受け缶を置きます。



④ドレーンプラグとフィルターケースにペンなどを使用し，合マークを付けます。プライヤーなどで燃料フィルターのドレーンプラグを少し左に回し，燃料フィルター内の水を排出します。
⑤燃料が排出されるようになったらドレーンプラグを合いマークが合う位置まで右に回して締付けます。



締付けトルク（N·m {kgf·m}）
1.5 {0.15}

⑥スタータースイッチを30秒間“ON”位置にした後，“ACC”位置にして燃料系統のエア抜きを行います。
⑦エンジンを始動し，燃料漏れがないか点検します。

⚠ 警告

- 排水と同時に燃料も排出されます。周囲に付着した燃料はきれいにふき取ってください。熱により火災を起こすおそれがあります。
- フィルター周りから燃料が漏れていないことを確認してください。燃料が漏れていると火災を起こすおそれがあります。

知識

燃料フィルターの水を排出すると，燃料系統にエアが混入します。エアが混入するとエンジンを始動できません。エンジン始動前にエア抜きを行ってください。

PCV フィルターの再生方法

PCV フィルターを再生するときは，次の要領で行ってください。

①安全な場所で停車し，駐車ブレーキを確実に効かせギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを P 位置にします。

②エンジン回転数が 4,200rpm になるようにアクセルペダルをいっぱいに踏み込み，そのまま 2 分間待ち，アクセルペダルを戻します。

③エンジン回転がアイドリング回転数になったときにウォーニングランプが消えていることを確認します。

知識

上記の操作を行ってもウォーニングランプが消えないときは，エンジンオイルの交換時期です。エンジンオイルを交換し，必ずエンジンコントロールユニットのリセットを行ってください。

冷却水の補給，交換

1. 使用冷却水

⚠ 警告

- ロングライフクーラントは毒性がありますので絶対に飲まないでください。誤って飲んでしまったときはすぐにおう吐させ，医師の治療をお受けください。また，目に入ったときはすぐに清水で洗眼し，医師の治療をお受けください。
- ロングライフクーラントは密閉された室内など換気の悪い所では使用しないでください。誤ってロングライフクーラントの蒸発ガスを多量に吸い込んだときは，空気の新鮮な場所に移り暖かくして安静にしてください。もし，吐き気など体の不調があるときは医師の治療をお受けください。

⚠ 注意

- ロングライフクーラントを保管するときは確実にふたをして，お子さまの手の届かない所に置いてください。
- ロングライフクーラントに火気を近づけないでください。蒸発ガスに引火してやけどをするおそれがあります。
- ロングライフクーラントが皮膚に付着したときは，すぐに紙や布でふき取り，多量の水及び石けんで十分に洗ってください。皮膚に変化があったり痛みがある場合は医師の治療をお受けください。衣服に付着したときもすぐに水，及び洗剤で洗ってください。

冷却水はロングライフクーラントと水道水を規定の割合で混合したものを使用します。
ロングライフクーラントは防錆と凍結防止を兼ねていますので年間を通じて使用できます。

ロングライフクーラント
日産純正ロングライフクーラント

稼働する地域の最低気温を基に混合割合を次の表から求めます。

ロングライフクーラント混合割合	
最低気温（℃）	割合（%）
-10	30
-15	35
-20	40
-25	45
-30	50
-35	55
-40	60

アドバイス

- 不凍液，防錆剤，及び他銘柄のロングライフクーラントとの混用は行わないでください。
- 冷却水を補給するときは，注入してあるロングライフクーラントと同一銘柄を使用し，同一濃度にしてください。
- 水だけを補給しないでください。冷却水の濃度が薄くなり防錆効果，凍結防止効果が低下します。
- ロングライフクーラントは30%～60%の範囲で使用してください。30%以下になると防錆効果が，60%以上では凍結防止効果が低下します。

知識

- リザーバータンク内のロングライフクーラントを混合した冷却水に沈殿物が発生することがありますが機能上問題ありません。
- ロングライフクーラントを混合した冷却水は産業廃棄物として処理してください。ご自身で処理できないときは，日産販売会社にご相談ください。

2. 冷却水量

冷却水量（dm^3 {L}）		
標準幅キャブ車		約 13.0 {13.0}
広幅キャブ車		約 13.7 {13.7}
リヤエアコン装着車	標準幅キャブ車	約 14.1 {14.1}
	広幅キャブ車	約 14.8 {14.8}
リヤヒーター装着車	FBA，FEA 型	約 14.2 {14.2}
	FDA，FGA 型	約 13.9 {13.9}
	FEB 型	約 14.9 {14.9}
	FGB 型	約 14.5 {14.5}

3. 交換時期

交換時期
2 年ごと

アドバイス

冷却水を指定された時期を過ぎて使用していると，エンジンや冷却装置がさびなどによって損傷するおそれがあります。指定された時期に冷却水を交換してください。

知識

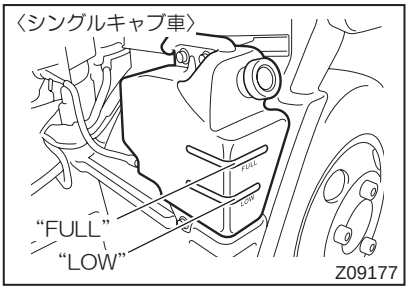
日産純正ロングライフクーラントと水道水を混合した冷却水は 2 年間使用後，クーラント補強剤を 1 年ごとに入れることにより，6 年間交換せずに使用できます。14-34 ページをごらんください。

● 冷却水量の点検については 13-7 ページをごらんください。

4. 補給

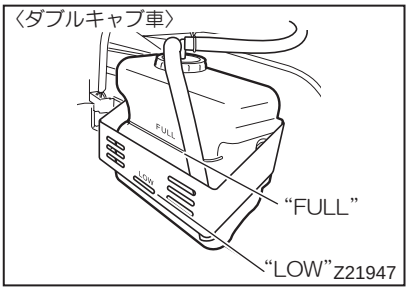
4.1 日常（運行前）点検での補給

リザーバータンクのキャップを外し“FULL”の線まで冷却水を補給します。補給後はキャップを確実に取付けてください。



アドバイス

冷却水の補給は通常リザーバータンクから行ってください。サージタンクからは行わないでください。



4.2 オーバーヒートしたときの補給

オーバーヒートしたときはリザーバータンク以外にラジエーター本体の冷却水が不足していることがあります。

オーバーヒートしたときの冷却水の補給については 16-11 ページをごらんください。

⚠ 警告

冷却水が高温時，プレッシャーキャップを絶対に外さないでください。
むやみに外すと熱湯や蒸気が噴き出して，やけどをするおそれがあります。キャップを外すときは冷却水温が下がってから，厚手の布を重ねてかぶせ，ゆっくりと開けてください。

5. 交換

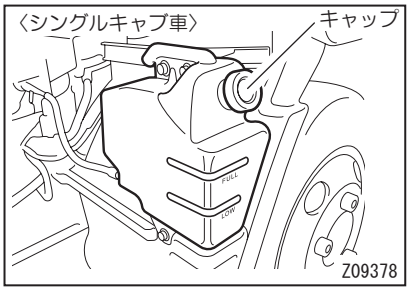
⚠ 注意

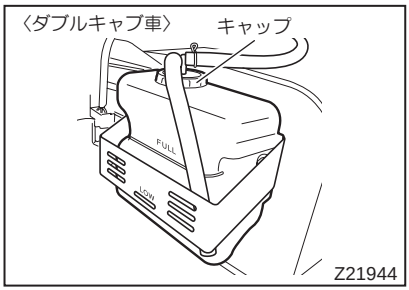
走行直後の冷却水は高温になっています。すぐに冷却水の排出を行うとやけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。

知識

交換したロングライフクーラントを混合した冷却水は産業廃棄物として処理してください。ご自身で処理できないときは，日産販売会社にご相談ください。

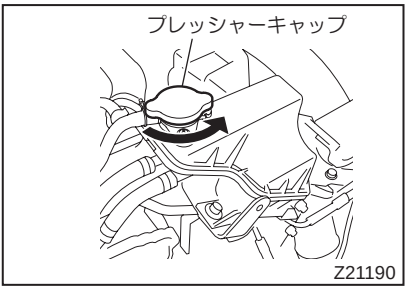
①ラジエータードレーンコックの下に冷却水受け缶を置きます。
②リザーバータンクのキャップを取外します。



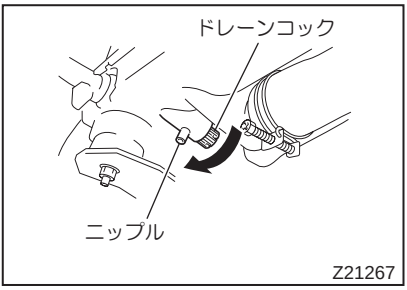


③シングルキャブ車のキャブチルトできる車は，キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。
ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。

④サージタンクのプレッシャーキャップを左に回し外します。



⑤ラジエーター下部のドレーンコックを左に回して緩め，冷却水を排出します。



知識

ラジエータードレーンのニップルに内径 7mm のホース（市販品）を取付けると冷却水が飛散せずに排出できます。

⑥冷却水が完全に排出したらドレーンコックを締付けます。

締付けトルク（N·m {kgf·m}）
2.5±0.5 {0.25±0.05}

⑦エンジンの冷却系統を洗浄します。

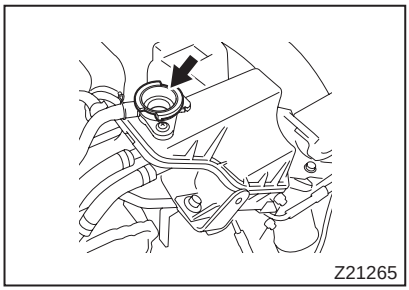
- サージタンクの給水口から水道水（温水が良い）を入れ，プレッシャーキャップを右に回し確実に締付けます。
- キャブを上げた車はキャブを降ろします。
- エンジンを始動し，マルチインフォメーションディスプレイの冷却水温インジケーター目盛りが 8 段目になるまでアイドリング回転を上げます。
  表示方法については 6-11 ページをごらんください。
  アイドリング調整ボタン未装着車はアクセルペダルを踏み，アイドリングよりやや高めで回します。アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，アイドリングよりやや高めで回します。7-6 ページをごらんください。
  約 10 分間アイドリング運転した後，冷却水を排出します。排出される冷却水がきれいになるまで数回繰り返し洗浄します。

● 排出される冷却水の汚れがひどいときは日産販売会社で点検をお受けください。

⑧ラジエータードレーンコックが確実に取付けてあることを確認します。

⑨シングルキャブ車のキャブチルトできる車は，キャブを上げます。ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。

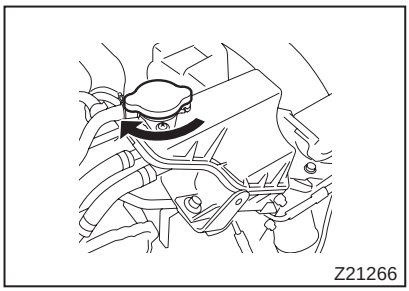
⑩規定の濃度の冷却水（日産純正ロングライフクーラント＋水道水）をサージタンクの給水口からいっぱいになるまで，エアが混入しないようゆっくりと給水します。


Z21265

アドバイス

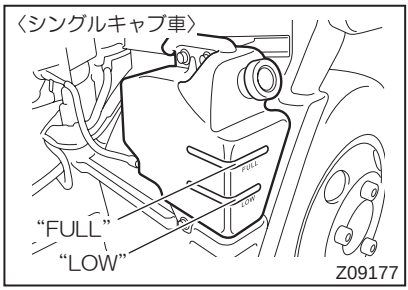
ダブルキャブ車は冷却水をあふれさせないようにゆっくり給水してください。

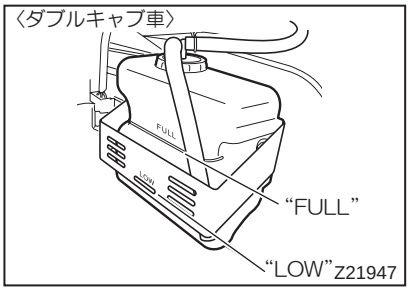
⑪給水口までいっぱいに補給したら，冷却水が減らないことを確認し，プレッシャーキャップを右に回し確実に締付けます。


Z21266

⑫キャブを上げた車はキャブを降ろします。

⑬ラジエーターに給水した冷却水と同じものを，リザーバータンクの “FULL” の線まで給水します。





⑭アイドリング調整ボタン未装着車はアクセルペダルを踏み，エンジンを規定のアイドリング回転数よりやや高めで回し続け冷却系統のエア抜きをします。アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，規定のアイドリング回転数よりやや高めで回し続け冷却系統のエア抜きをします。
冷却水温インジケーターの目盛りが 8 段目まで上がったら，さらに約 10 分間アイドリング運転した後停止します。

アドバイス

冷却系統のエア抜きは必ず行ってください。エア抜きが不十分だと冷却性能が低下したり，エンジン部品が破損するおそれがあります。

⑮エンジンが冷えるまで待ちます。
キャブチルトできる車はキャブを上げます。ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。
プレッシャーキャップを開け，不足した冷却水を補給します。
⑯プレッシャーキャップを右に回して確実に締め込みます。

アドバイス

プレッシャーキャップは確実に閉じてください。プレッシャーキャップが確実に閉じられていないとオーバーヒートしたとき，熱湯や蒸気が噴き出すおそれがあります。

⑰キャブを上げた車はキャブを降ろします。ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を閉めます。エンジンを始動し冷却水が漏れていないか点検します。

アドバイス

- 冷却水を交換し走行した後はラジエーターの冷却水量を点検してください。
- ラジエーター前面の泥やホコリを定期的に清掃してください。冷却性能が低下したりさびの原因になります。

6. クーラント補強剤

冷却水にクーラント補強剤を 1 回補給すると，冷却水の交換時期を 1 年延長することができます。
次の要領で使用してください。

クーラント補強剤
日産純正ロングライフクーラント補強剤

アドバイス

- クーラント補強剤は 1 年ごとに 4 回(4 年間)まで補給することができ，最長 6 年間冷却水を交換せず使用できます。6 年を超えると冷却水の性能が低下しますので交換してください。
- クーラント補強剤は “ 日産純正ロングライフクーラント ” を使用している車のみ使用できます。他銘柄のロングライフクーラントには使用できません。

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②タイヤに輪止めをかけます。
③ラジエータードレーンコックの下に冷却水受け缶を置きます。
④キャブチルトできる車はキャブを上げます。ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。
⑤ラジエーター下部のドレーンコックを左に回して緩め，冷却水を約 0.5dm^3{0.5L}抜きます。
⑥ドレーンコックを右に回し締付けます。

締付けトルク（N·m {kgf·m}）
2.5±0.5 {0.25±0.05}

⑦冷却水のロングライフクーラント濃度を規定の濃度に調整します。
14-26 ページをごらんください。

知識

冷却水の濃度の測定は “ クーラントテスター ”（市販品）を使用します。

⑧サージタンクのプレッシャーキャップを左に回し外します。
⑨クーラント補強剤を約 0.5dm^3 {0.5L} 補給します。
⑩プレッシャーキャップを右に回して確実に締付けます。
⑪キャブを上げた車はキャブを降ろします。ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を閉めます。

アドバイス

プレッシャーキャップは確実に閉じてください。プレッシャーキャップが確実に閉じられていないとオーバーヒートしたとき，熱湯や蒸気が噴き出すおそれがあります。

フートブレーキの点検

⚠ 警告

ブレーキは保安上重要な装置です。点検で異常があったときは走行しないで修理してください。そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。
異常が認められたときは日産販売会社に連絡してください。

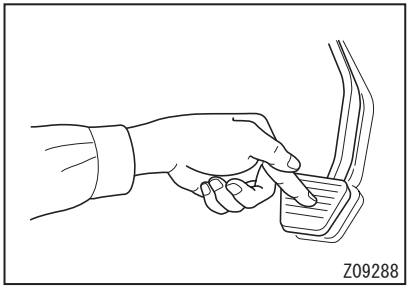
1. ブレーキペダルの遊び点検

ブレーキペダルの遊び点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと （シビアコンディション項目）

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

ブレーキペダルの遊び（mm）
0.1 ～ 3（ペダルのパッド中央）

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②エンジンを停止させ，スタータースイッチを“ON” 位置にします。
③ブレーキペダルが通常より踏みごたえが重くなるまでペダルを数回踏み込みます。
④ブレーキペダルのパッド中央を指で押し，抵抗を感じるところまでの遊び量が基準値内か点検します。



2. ブレーキの効き具合，ブレーキペダルの踏みしろ

- ブレーキの効き具合点検については 13-21 ページをごらんください。
- ブレーキペダルの踏みしろ点検については 13-18 ページをごらんください。

駐車ブレーキの点検

⚠ 警告

駐車ブレーキの点検を行い，異常があるときは走行しないで修理してください。そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。
異常が認められたときは日産販売会社で点検をお受けください。

1. 駐車ブレーキの効き具合

駐車ブレーキの効き具合点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

乾燥した下り坂で駐車ブレーキを効かせたときその場で停車状態を保てるか点検します。
坂道のないときは車を車速 5km/h 以下で走行させ，駐車ブレーキを効かせたときの効き具合を点検します。
駐車ブレーキの効きが悪いときは日産販売会社で点検をお受けください。

⚠ 注意

駐車ブレーキの点検は見通しの良い安全な場所で行い，周囲の状況に十分注意してください。

2. 駐車ブレーキレバーの引きしろ

● 駐車ブレーキレバーの引きしろ点検については 13-18 ページをごらんください。

ハンドルの点検

⚠ 警告

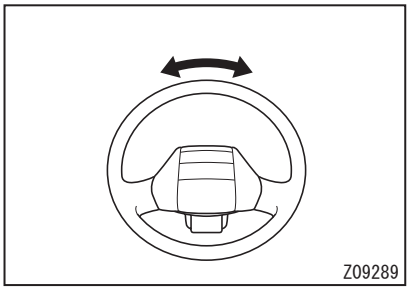
ハンドルは保安上重要な装置です。点検で異常があったときは走行しないで修理してください。そのまま走行すると重大な事故につながるおそれがあります。
異常が認められたときは日産販売会社に連絡してください。

1. ハンドルの遊び

ハンドルの遊び点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②ギヤシフトレバーがマニュアルトランスミッション搭載車はニュートラル位置，DUONIC 2.0 搭載車は “P” 位置であることを確認します。
③ハンドルの遊びをエンジン停止時とアイドリング回転時の両方で点検します。
④ハンドルを最初の抵抗があるところまで左右に回し，遊び量が基準値内か点検します。どちらか一方でも基準値を外れるときは日産販売会社に連絡してください。

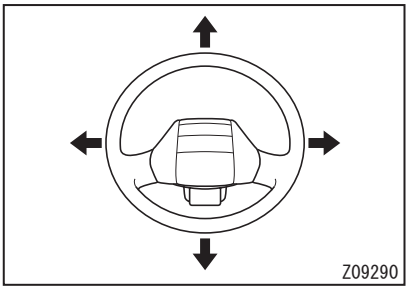


ハンドルの遊び（mm）		
エンジン停止時	フロント独立懸架式サスペンション車	20 以下
	フロントリジッドリーフ式サスペンション車	10 ～ 20
アイドリング回転時		5 ～ 50

2. ハンドルのガタ

ハンドルのガタ点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。
①ハンドル調整レバーは確実にロックされていることを確認してください。
②ハンドルを上下，左右，前後に動かし，大きなガタがないか点検します。



3. ハンドルの操作具合

ハンドルの操作具合点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

⚠ 注意

ハンドルの操作具合の点検は見通しの良い安全な場所で行い，周囲の状況に十分注意してください。

車を低速走行させハンドルの操作具合を点検します。

- **ハンドルの振れ，取られ点検**
  走行中ハンドルが異常に振られたり，左右に取られたり，操作が異常に重くないか点検します。
- **ハンドルの戻り点検**
  走行中，旋回から直進にハンドル操作したとき異常な重さや引っかかりがないか点検します。

4. ホーンの作用

知識

ホーンを鳴らすときは周囲に人がいないことを確認してください。

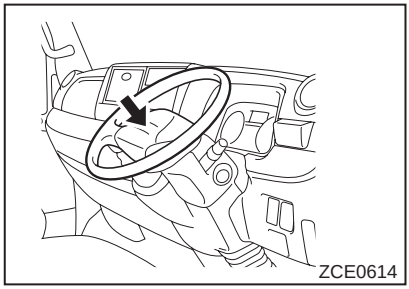
ホーンの点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

①ホーンを鳴らし，音量及び音質を点検します。

②鳴らないときはヒューズ切れが考えられます。16-13 ページをごらんください。

③ヒューズ切れがなくても鳴らないときや音が小さい，または音が途切れるときは，日産販売会社で点検をお受けください。



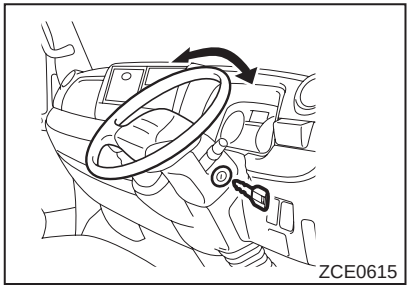
5. ハンドル固定装置の点検

ハンドル固定装置の点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

①スターターキーを抜き取り，ハンドルを右または左へ半回転する途中でハンドルが回らなくなり確実に固定するか点検します。

②ハンドルが固定しないときは，日産販売会社で点検をお受けください。

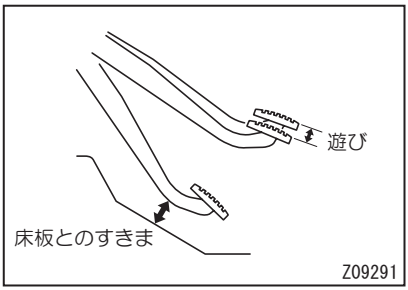


クラッチペダルの点検＊

1. クラッチペダルの遊び点検

クラッチペダルの遊び点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと （シビアコンディション項目）

クラッチペダルの遊び （クラッチペダルのパッド中央）（mm）
0.2 ～ 4



①エンジンが停止していることを確認します。
②駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
③クラッチペダルのパッド中央を指で押し，抵抗を感じるところまでの遊び量が基準値内か点検します。
基準値以外のときは日産販売会社で点検をお受けください。

2. クラッチが切れたときの床板とのすきま

クラッチが切れたときの床板とのすきま 点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと （シビアコンディション項目）

床板とのすきま（mm）
20 以上

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②エンジンを始動しアイドリング回転にします。
③クラッチペダルをいっぱいに踏み込みギヤシフトレバーを前進最高段にします。
④クラッチペダルを徐々に戻し，クラッチがつながる直前のクラッチペダルと床板のすきまが基準値内か点検します。基準値以下のときは日産販売会社で点検をお受けください。

アドバイス

車が急発進しないよう十分注意してください。また周囲の状況に十分注意してください。

知識

クラッチがつながる直前はエンジン音が変化したり振動が発生します。

3. クラッチの作用

クラッチの作用点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②エンジンを始動しアイドリング回転にします。
③クラッチペダルを踏み込んだとき異音がしないか，ペダルがスムーズに踏み込め，引っかかりや踏力の急激な変動等がないか，また，異常に重たくないか点検します。
④クラッチペダルを徐々に戻したとき滑りがなく，つながりが滑らかであるか点検します。
⑤異常があるときは日産販売会社で点検をお受けください。

タイヤの交換

1. タイヤについて

- お車に装着できるタイヤは決まっています。指定のタイヤサイズが分からないときは日産販売会社にお問合せください。

⚠ 注意

バイアスタイヤとラジアルタイヤを混用したり，指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用しないでください。指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用すると，操縦安定性が悪くなり思わぬ事故を起こすおそれがあります。また，次の不具合が発生するおそれがあります。

- ABS の性能が十分に発揮できなくなります。
- スピードメーターの指示速度と実際の速度との誤差が大きくなります。
- DUONIC 2.0（トランスミッション）＊の変速タイミングが合わなくなり，燃料を多く消費するようになります。

- タイヤ及びディスクホイールにき裂，損傷などのないものを使用します。
- ディスクホイールを組み替えたときは，バランスを取ってから使用してください。
- 新品のタイヤは走行時発熱しやすく摩耗が進みやすいため，荷重の少ない前輪に 2 本セットで取付けてください。また，60km/h 以下の速度で 200km 以上ならし運転を行い，空気圧の点検を行ってください。
- 後輪のダブルタイヤで摩耗による外径差があるときは内外タイヤ外径差が 6mm 以下で使用し，外径の小さいタイヤを内側に取付けます。

知識

タイヤを廃棄するときはタイヤ販売業者に処理を依頼してください。

2. ジャッキアップの前に

⚠ 警告

- ジャッキアップしたときは車の下に入らないでください。ジャッキが外れた場合，重大な事故につながるおそれがあります。やむを得ず車の下で作業をするときは，必ずフレーム下面にスタンド等をかけ安全を確保してください。
- 駐車ブレーキを確実に効かせてください。
- ジャッキアップするときは平たんで地面のかたい場所で行ってください。坂道，及びやわらかい地面ではジャッキが傾いたり滑って重大な事故につながるおそれがあります。
- ジャッキは指定されたジャッキアップポイントにかけてください。ジャッキアップポイント以外にかけるとジャッキが外れて重大な事故につながるおそれがあります。
- ジャッキやジャッキアップポイントに油脂類が付着していないか確認してください。ジャッキが滑り重大な事故につながるおそれがあります。付着しているときはふき取ってください。
- ジャッキアップ中はエンジンを始動しないでください。エンジンの振動でジャッキが外れ重大な事故につながるおそれがあります。
- 長時間ジャッキアップするときは安全のためフレーム下面にジャッキスタンドなどの保持具をかけ安全を確保してください。
- 2 台以上のジャッキを同時に使用しないでください。ジャッキが外れ重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ジャッキは必要以上に上げないでください。ジャッキが損傷するおそれがあります。
- 車載されているジャッキはその車専用ですので他車には使用しないでください。

①車を平たんで地面のかたい場所を選んで停車し，駐車ブレーキを確実に効かせます。
②エンジンは必ず停止します。
③路上等でタイヤの交換をするときは安全な場所に停車し，非常点滅灯や停止表示板を使用します。
　スペアタイヤの脱着は 14-58 ページをごらんください。
④車内の同乗者は降りてください。
⑤ジャッキアップするタイヤと対角位置にあるタイヤの前後に輪止めをかけてください。

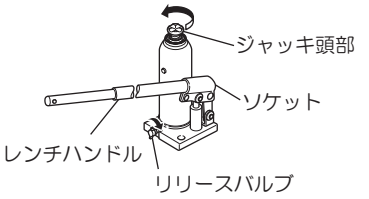
3. ジャッキの使い方

アドバイス

ジャッキの使用方法及び取扱い要領がジャッキに貼り付けられていますので，ご使用前に必ず確認してください。

3.1 上げるとき

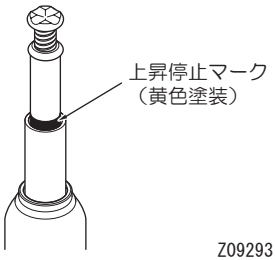
①ジャッキアップポイントが高いときはジャッキの頭部を左に回し高さを調整します。
②リリースバルブをレンチハンドル（車載工具）先端の切り欠きで右にいっぱいに回し締込みます。
③レンチハンドルをソケットに差し込み，上下に動かします。



Z14144

アドバイス

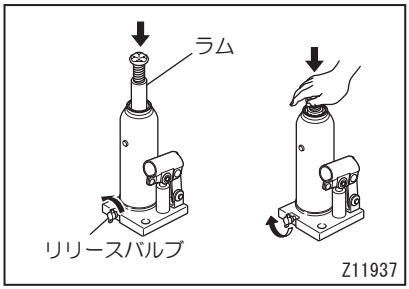
独立懸架式サスペンション車のジャッキは２段伸縮タイプです。２段目の上昇マーク（黄色）が現れたらジャッキアップ操作を止めてください。操作を続けるとジャッキが損傷するおそれがあります。



Z09293

3.2　下げるとき

①リリースバルブをレンチハンドル先端の切り欠きで左にゆっくり回します。リリースバルブは２回転以上回さないでください。



⚠ 注意

リリースバルブはゆっくり回してください。急激に回すと車が急激に落下しジャッキが外れるおそれがあります。

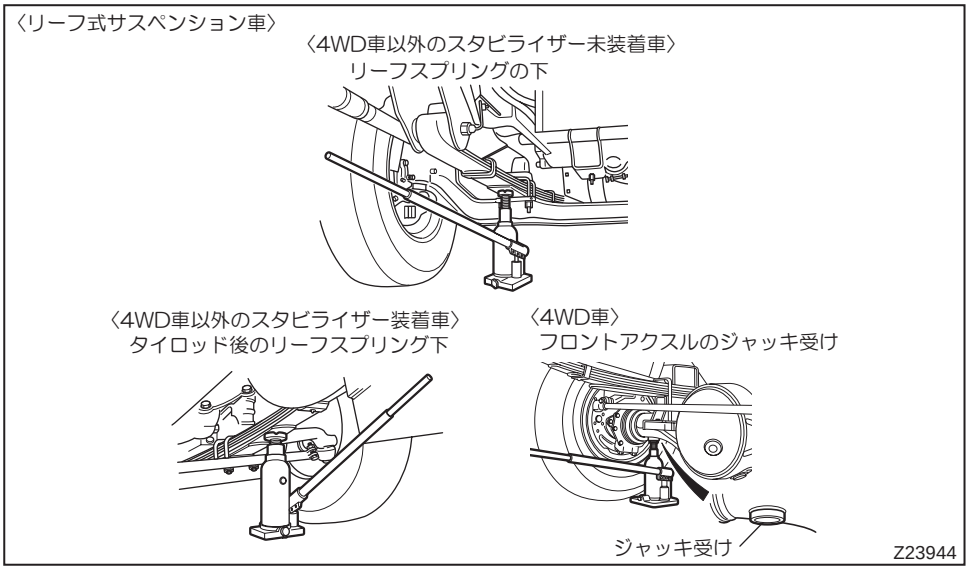
アドバイス

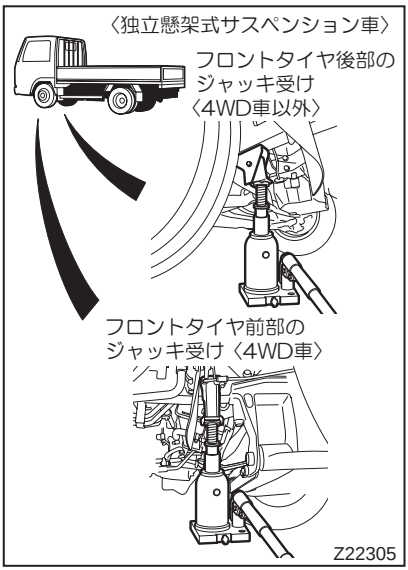
車を下げているとき，ジャッキを急に停止させないでください。ジャッキが破損するおそれがあります。

②ジャッキを車から取り出し，ジャッキ頭部を上から押しラムを下げます。
③リリースバルブを右にいっぱいに回し締めます。
④ジャッキ頭部を伸ばして使用したときは右に回して縮めます。

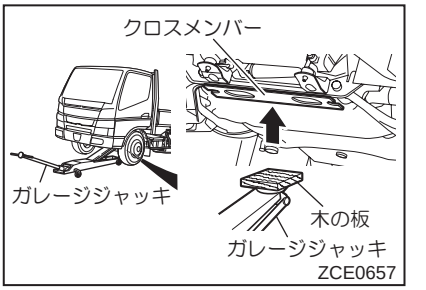
4. ジャッキアップポイント

4.1 前輪ジャッキアップポイント



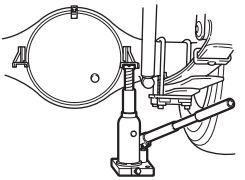


独立懸架式サスペンション車をガレージジャッキで前輪をジャッキアップするときは，サスペンションのクロスメンバー中央部分に木の板などをはさんで行います。

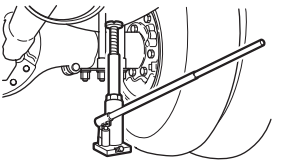


4.2　後輪ジャッキアップポイント

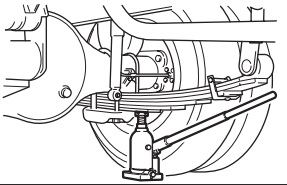
〈ジャッキ受け装着車〉
リヤアクスルハウジングのジャッキ受け



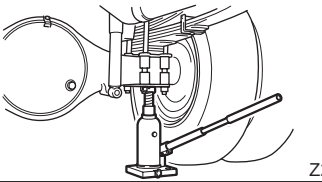
〈アクスル上面リーフスプリング装着車の低床車〉
リーフスプリングの下



〈アクスル下面リーフスプリング装着車のジャッキ受け未装着車〉
リーフスプリングの下



〈前記以外車〉
リヤアクスルハウジングの下



Z23945

5. タイヤの取外しかた

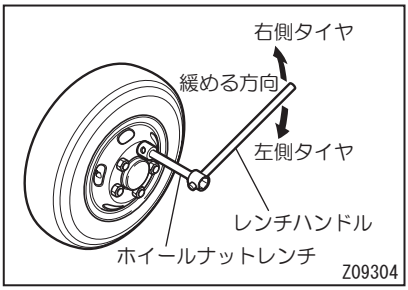
⚠ 警告

- ジャッキアップしたときは車の下に入らないでください。ジャッキが外れた場合，重大な事故につながるおそれがあります。やむを得ず車の下で作業するときには，必ずフレーム下面にスタンド等をかけ安全を確保してください。
- ジャッキは指定されたジャッキアップポイントにかけてください。ジャッキアップポイント以外にかけるとジャッキが外れて重大な事故につながるおそれがあります。
- 後輪ダブルタイヤの外側タイヤを取外すときは，内側タイヤのみを木材等に乗り上げた状態で取外さないでください。シングルナット方式で取付けられているダブルタイヤはホイールナットを外せば内外側タイヤを同時に取外せるため，重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

レンチハンドル（車載工具）はホイールナットレンチ（車載工具）からレンチハンドルが少しはみ出るまで差し込んでください。
ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深くかけてください。かけかたが浅いと力を入れたときレンチハンドルやホイールナットレンチが外れ思わぬケガをすることがあります。

①駐車ブレーキを確実に効かせ，ジャッキアップするタイヤと対角位置にあるタイヤの前後に輪止めをかけます。
②ジャッキをジャッキアップポイントにあて，タイヤが浮き上がらない程度にジャッキアップします。
③ホイールナットをホイールナットレンチで少し緩めます。ホイールナットは少し緩めるだけで取外さないでください。

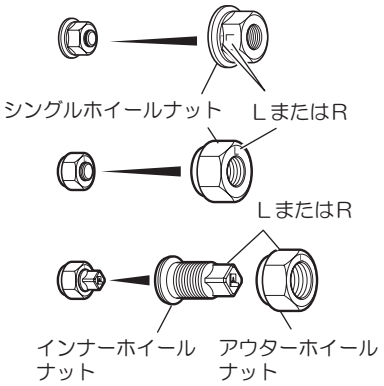


アドバイス

ホイールナットは緩めすぎないでください。緩めすぎてねじ部を損傷させるおそれがあります。ねじ部を損傷した場合はホイールボルトとホイールナットをセットで交換してください。

知識

- ホイールナットは右側タイヤは右ねじ（R マーク），左側タイヤは左ねじ（L マーク）です。
- ダブルナット方式ダブルタイヤの外側のタイヤだけを取外すときはインナーホイールナットを緩める必要はありません。

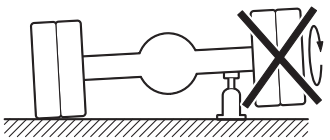


Z17050

④タイヤが地面から離れるまでジャッキアップします。

⚠ 警告

リミテッドスリップデフ装着車はジャッキアップしたときタイヤを絶対に回さないでください。後輪の片側だけをジャッキアップした状態で，タイヤを回すと車が動くことがあり，重大な事故につながるおそれがあります。



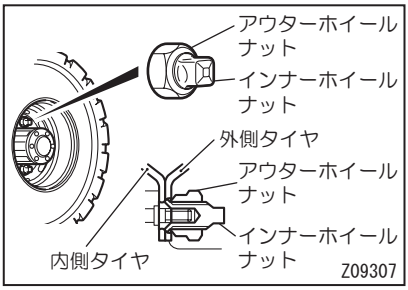
Z09031

アドバイス

タイヤを取外すときホイールボルト及びインナーホイールナットのねじ部を損傷させないようにしてください。ねじ部を損傷した場合はホイールボルトとホイールナットをセットで交換してください。

⑤ホイールナットを次のように外し，タイヤを取外します。

- **シングルタイヤ（シングルナット方式）**
  ホイールナットをすべて外し，タイヤを取外します。
- **ダブルタイヤ（シングルナット方式）**
  ホイールナットをすべて外し，内，外側タイヤを同時に取外します。
- **ダブルタイヤ（ダブルナット方式）**
  - アウターホイールナットをすべて外し外側のタイヤを取外した後，一旦ジャッキを下げタイヤを接地させます。
  - ホイールナットレンチの逆側（四角穴）でインナーホイールナットを少し緩め，再びジャッキアップします。
  - インナーホイールナットを外し，タイヤを取外します。



知識

シングルナット方式のダブルタイヤは内，外側タイヤを同時に取外せます。

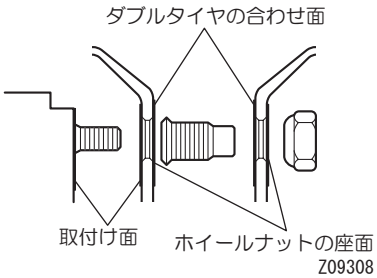
6. タイヤの取付けかた

⚠ 警告

- ホイールボルト，ナットのねじ部が損傷していたり伸びているもの，ディスクホイールにき裂や損傷及び段付き摩耗のあるものは新品の純正品に交換してください。そのまま使用し続けるとホイールナットの緩みや脱輪（タイヤの脱落）の原因になります。脱輪は路上故障や他の交通の妨げとなるばかりでなく，場合によっては重大な事故につながるおそれがあります。
- ホイールナットを締付けるときは，ホイールボルトのねじ部及びホイールナット底面部にグリースやエンジンオイルなどを塗布しないでください。万一，塗布してしまうと締付け力が過大になり，ホイールボルトの伸びや折損，ディスクホイールのナット座面の変形などを起こし，脱輪の原因になります。

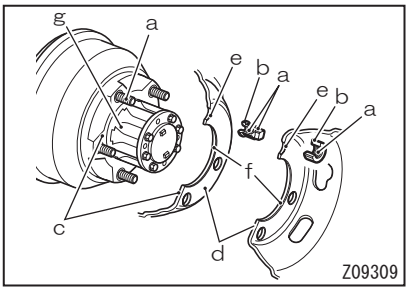
⚠ 注意

- タイヤを取付ける前にタイヤ取付け各部を清掃してください。汚れているとホイールナットが緩む原因になります。
- ホイールナットは必ず規定のトルクで締付けてください。締付けが足りなかったり，締付け過ぎると各部品が損傷し，脱輪を起こすおそれがあります。
- ディスクホイールの取付け面，ダブルタイヤの合わせ面，ホイールナットの座面，ホイールハブの取付け面には追加塗装しないでください。塗膜が厚くなりホイールナットが緩む原因になります。追加塗装がしてあるときは，塗装をはがし，ワイヤーブラシなどで清掃してください。
- タイヤを装着し50～100km走行後，ホイールナットを規定の締付けトルクで増し締めしてください。初期なじみによりホイールナットの締付けトルクが低下し，ホイールナットが緩む原因になります。



①タイヤを取付ける前に各部を清掃します。

a. ホイールボルト，ホイールナットのねじ部
b. ホイールナットの取付け面または球面部
c. ディスクホイールの取付け面
d. ディスクホイールの合わせ面
e. ディスクホイールのホイールナット取付け部
f. ディスクホイール内面
g. ハブのガイド部



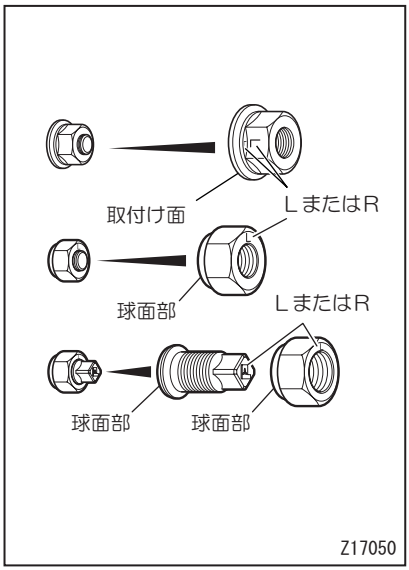
清掃と同時にねじ部の損傷や各取付け面にき裂，損傷，摩耗がないか点検します。不具合があるときは部品を交換する必要があります。ねじ部に損傷があるときはホイールボルトとホイールナットをセットで交換します。また，ホイールボルトが折損しているときは，そのタイヤの全てのホイールボルトとホイールナットを交換します。

②ディスクホイールのボルト穴をホイールボルトに合わせてタイヤを取付けます。

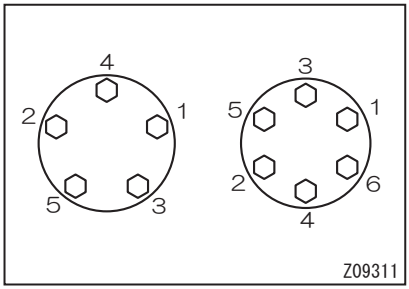
アドバイス

タイヤを取付けるときホイールボルト及びホイールナットのねじ部を損傷させないようにしてください。ねじ部を損傷した場合はホイールボルトとホイールナットをセットで交換してください。

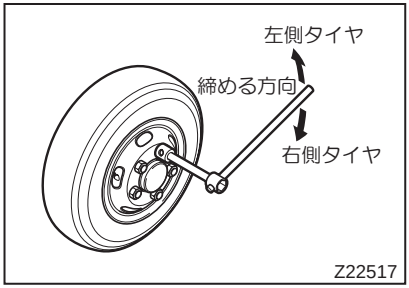
③ホイールボルトがディスクホイールのボルト穴の中央になるようタイヤをセットし，ガタつかない程度に軽くホイールナットを締付けます。
ホイールナットは右側タイヤは右ねじ（R マーク），左側タイヤは左ねじ（L マーク）です。
ホイールナットは取付け面または球面部がディスクホイール側です。
④ジャッキのリリースバルブを左にゆっくり回しタイヤを静かに下ろします。



⑤ホイールナットを対角線上に２～３回に分けて締付けます。最後に規定の締付けトルクで締付けます。



締付けトルクはトルクレンチを用いるのが確実な方法です。
トルクレンチがない場合は次表の方法で行ってください。

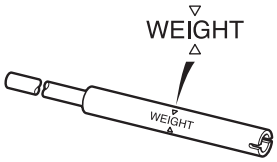


⚠ 注意

- レンチハンドル（車載工具）はホイールナットレンチ（車載工具）からレンチハンドルが少しはみ出るまで差し込んでください。
  ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深くかけてください。かけかたが浅いと力を入れたときレンチハンドルやホイールナットレンチが外れ思わぬケガをすることがあります。
- ホイールナットの締付けはトルクレンチでの作業が正規であり，ソケットレンチ及びレンチハンドルでの作業は緊急用です。ソケットレンチ及びレンチハンドルでホイールナットの締付け作業を行った場合は，なるべく早めにトルクレンチにてトルクを確認してください。

アドバイス

車載されているレンチハンドルに“WEIGHT”マークが表示されているものは，“WEIGHT”マークの“△”位置で力をかけてください。“△”位置以外ではホイールナットを適正な締付けトルクで締付けられません。



Z09530

車種	締付け方法	締付けトルク（N·m {kgf·m}）
FBA0 型	WEIGHT マーク位置に 600N{60kgf}のカをかける。	170 ～ 230 {17 ～ 23}
上記以外	レンチハンドルの先端に 800N {80kgf} の力をかける。	450 ～ 550 {45 ～ 55}

⑥後輪のダブルタイヤは次の要領で取付けます。

- **シングルナット方式**

  内側，外側のタイヤをディスクホイールのボルト穴の中央になるようセットし，ガタつかない程度にホイールナットを締付けます。タイヤを降ろしホイールナットを対角線上に２～３回に分けて締付けます。最後に規定の締付けトルクで締付けます。

● ダブルナット方式

内側のタイヤを取付け，一旦ジャッキアップします。
外側のタイヤをホイールボルトがディスクホイールのボルト穴の中央になるようセットし，ガタつかない程度にホイールナットを締付けます。
再度タイヤを降ろしホイールナットを対角線上に２～３回に分けて締付けます。最後に規定の締付けトルクで締付けます。

⚠ 注意

ダブルナット方式の外側タイヤのみを交換したときは必ずインナーホイールナットを規定の締付けトルクで増し締めしてからアウターホイールナットを締付けてください。インナーホイールナットの締付けを忘れるとホイールナットが緩む原因になります。

知識

内側タイヤと外側タイヤのエアバルブはなるべく，対角になるように位置をずらして取付けてください。

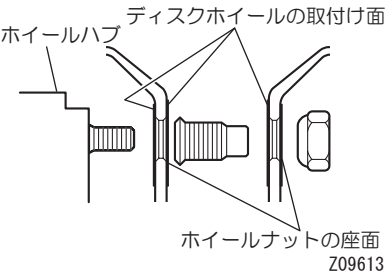
7. タイヤのローテーション

タイヤは積載，取付け位置によってそれぞれ異なった摩耗をします。タイヤの摩耗を均一にし寿命をのばすため定期的にローテーションしてください。また，走行経路や走行条件によっては早めに実施してください。

タイヤのローテーション時期
10,000km ごと

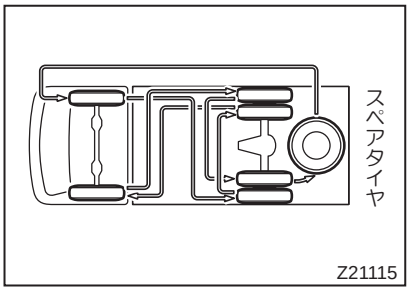
⚠ 注意

- タイヤのローテーションをしてから50～100km走行後，ホイールナットを規定の締付けトルクで増し締めしてください。初期なじみによりホイールナットの締付けトルクが低下し，ホイールナットが緩む原因になります。
- バイアスタイヤとラジアルタイヤを混用したり，指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用しないでください。指定サイズ以外のタイヤ及びディスクホイールを使用すると，操縦安定性が悪くなり思わぬ事故を起こすおそれがあります。また，次の不具合が発生するおそれがあります。
  - ABS の性能が十分に発揮できなくなります。
  - スピードメーターの指示速度と実際の速度との誤差が大きくなります。
  - DUONIC 2.0（トランスミッション）＊の変速タイミングが合わなくなり，燃料を多く消費するようになります。
- タイヤローテーションにより，ディスクホイール取付け面の追加塗装面が，相手部品（ホイールハブ，ホイール）との取付け面となるときは，ホイールの取付け面，及びホイールナットの座面の塗装をはがし，ワイヤーブラシなどで清掃した後，取付けてください。塗装をはがさずに使用すると，厚い塗膜のためホイールナットが緩む原因になります。



- 新品のタイヤは走行時発熱しやすく摩耗が進みやすいため，荷重の少ない前輪に 2 本セットで取付けてください。また，60km/h 以下の速度で 200km 以上ならし運転を行い，空気圧の点検を行ってください。
- 後輪のダブルタイヤで摩耗による外径差があるときは内外タイヤ外径差が 6mm 以下で使用し，外径の小さいタイヤを内側に取付けます。

● タイヤローテーションの一例を図に示します。



8. スペアタイヤの点検，脱着

⚠ 警告

スペアタイヤがガタついたまま取付けられていると，走行中にスペアタイヤを落し，重大な事故につながるおそれがあります。確実に固定できないときは荷台等に保管のうえ日産販売会社で点検をお受けください。

アドバイス

後部スペアタイヤ装着車は後退時，障害物などに当たらないようにしてください。当たるとスペアタイヤが緩むおそれがあります。
万一，障害物などに追突してしまったときは，スペアタイヤが確実に固定されているか点検してください。

知識

スペアタイヤの空気圧は自然に少しずつ漏れますので，標準圧より高めにしてください。使用するときに標準圧に戻します。

8.1　スペアタイヤの点検

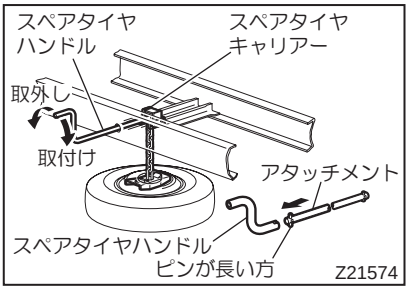
①スペアタイヤが確実に巻き上げられ固定されているか，タイヤを足等でゆすって点検します。
②タイヤが動くときは各部に異常がないことを確認のうえ，確実に巻き上げてください。
③それでもタイヤが動くときは，スペアタイヤを荷台等に保管のうえ日産販売会社で点検をお受けください。

8.2 スペアタイヤの脱着

8.2.1 吊り下げ式＊

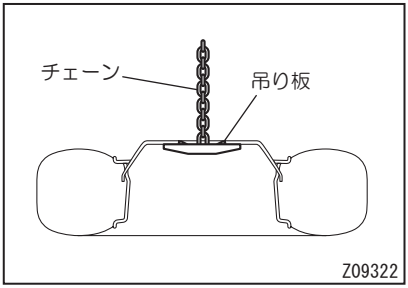
● 取外し

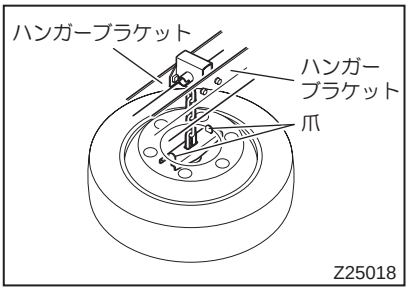
スペアタイヤハンドル（車載工具）をスペアタイヤキャリアーに差込み左に回します。
分割式スペアタイヤハンドルはアタッチメントのピンが長い方をスペアタイヤハンドルに差し込んで使用します。



● 取付け

①スペアタイヤのホイールディスクの凸面を上に向けて置きます。
②吊り板の爪がディスクホイール穴の内側に入るように，吊り板をディスクホイール穴に確実に入れます。
③吊り板とハンガーブラケットが平行となるように向きを合わせ，スペアタイヤハンドルをスペアタイヤキャリアーに差し込み右に回し巻き上げます。巻き上げるときは吊り板がディスクホイール穴の中央位置になるように巻き上げます。





⚠ 注意

- スペアタイヤを巻き上げるとき，チェーンがねじれていないか，吊り板がずれていないか確認してください。また，巻き上げた後にスペアタイヤと周辺部品とのすきまがあるかを確認してください。チェーンのねじれや吊り板のずれ，スペアタイヤと周辺部品の干渉，及び吊り板の爪とハンガーブラケットの隙間不足は，走行中のスペアタイヤ脱落の原因になり思わぬ事故につながります。
- スペアタイヤを巻き上げるとき，タイヤバルブが吊り板に当たらないようタイヤの向きを調整してください。吊り板との干渉は，タイヤバルブ損傷の原因になります。

④スペアタイヤ巻き上げ後，スペアタイヤハンドルを約 295N {30kgf} の力で締め上げ，スペアタイヤハンドルを逆転させないで抜き取ります。

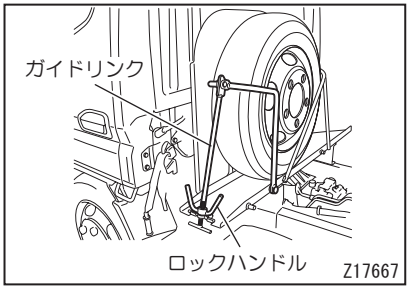
⚠ 注意

スペアタイヤハンドルを約 295N {30kgf} の力で締め上げスペアタイヤを固定します。締付けが不十分だと走行中スペアタイヤを落すおそれがあり，思わぬ事故につながります。

⑤スペアタイヤが確実に巻き上げられ固定されているか，タイヤを足等でゆすって確認します。ガタがあるときは吊り板やディスクホイールに異常がないことを確認のうえ，再度締め上げます。それでもガタがなくならないときは脱落のおそれがありますので，荷台等に保管のうえ日産販売会社で点検をお受けください。

8.2.2　縦置き式＊

①ロックハンドルを緩め，ガイドリンクを倒してスペアタイヤを取外します。
②取付けるときは，ホイールディスク面を車両後方側（図示の方向）にして，タイヤとキャリアが平行になるように載せます。
③ロックハンドルを 196N {20kgf} 以上の力で締付けます。
④スペアタイヤが確実に固定されているか，タイヤをゆすって確認します。ガタがあるときは再度締付け直します。

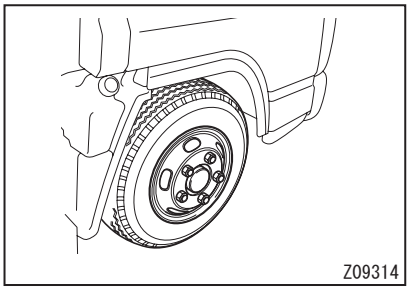


ホイール，ホイールナットの点検

1．ホイールの点検

ホイールの状態点検時期
事業用：3 か月ごと

ホイール（リム，ディスクホイール）に傷，へこみ，き裂，さびなどがないか点検します。
とくに，ディスクホイールのボルト穴まわり，飾り穴まわりのき裂，損傷，段付き摩耗を点検します。



異常があるホイールは新品の純正品と交換してください。

2. ホイールナットの緩み

ホイールナットの緩み点検時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと （シビアコンディション項目）

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

⚠ 注意

- ホイールナットは必ず規定のトルクで締付けてください。締付けが足りなかったり，締付け過ぎると各部品が損傷し，脱輪（タイヤの脱落）を起こすおそれがあります。
- ダブルタイヤ点検時，アウターホイールナットだけでなくインナーホイールナットも締付けてください。インナーホイールナットはアウターホイールナットだけを締付けても締付けられません。インナーホイールナットの締付けをしないとホイールナットが緩む原因になります。

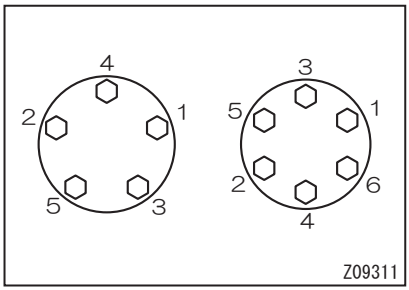
ホイールナットが規定トルクで締付けられていることをトルクレンチなどで点検します。なお，ディスクホイール，ホイールナット交換後やタイヤローテーション後は初期なじみにより締付けトルクが低下することがあります。交換後，50 ～ 100km 走行後に規定の締付けトルクでホイールナットの締付けを行ってください。

車種	締付け方法	締付けトルク （N·m {kgf·m}）
FBA0 型	WEIGHT マーク位置に 600N {60kgf} の力をかける。	170 ～ 230 {17 ～ 23}
上記以外	レンチハンドルの先端に 800N {80kgf} の力をかける。	450 ～ 550 {45 ～ 55}

ホイールナット締付け後もホイールナットがたびたび緩むときは，日産販売会社で点検をお受けください。

● シングルナット方式

ホイールナットを規定の締付けトルクで締付けます。締付け順序は図示のとおり，対角線上に行います。



● ダブルナット方式

２回に分けて次の要領で点検します。

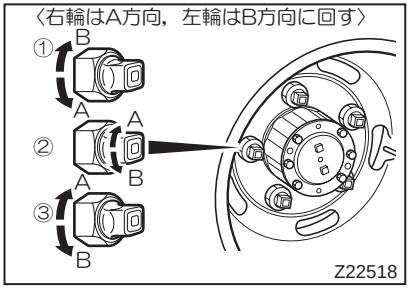
①アウターホイールナットを次のように緩めます。

- ５本ボルトは図示１－２－３または４－５
- ６本ボルトは図示１－４－５または２－３－６

②緩めたアウターホイールナットのインナーホイールナットを規定トルクで締付けます。

③緩めたアウターホイールナットを規定トルクで締付けます。

④残りのアウターホイールナット，インナーホイールナットも①～③と同じ要領で点検します。



⚠ 注意

- レンチハンドル（車載工具）はホイールナットレンチ（車載工具）からレンチハンドルが少しはみ出るまで差し込んでください。
  ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深くかけてください。かけかたが浅いと力を入れたときレンチハンドルやホイールナットレンチが外れ思わぬケガをすることがあります。
- ホイールナットの締付けはトルクレンチでの作業が正規であり，ソケットレンチ及びレンチハンドルでの作業は緊急用です。ソケットレンチ及びレンチハンドルでホイールナットの締付け作業を行った場合は，なるべく早めにトルクレンチにてトルクを確認してください。

知識

ホイールナットは右側タイヤは右ねじ（R マーク），左側タイヤは左ねじ（L マーク）です。

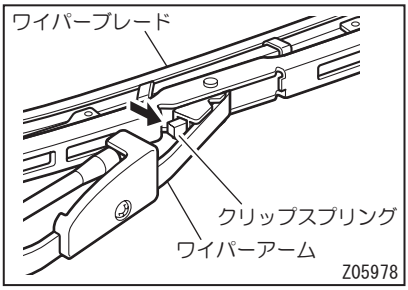
ワイパーブレードの交換

1. ワイパーブレードの交換

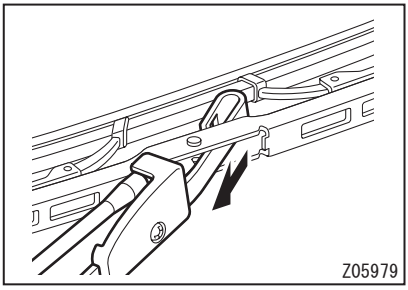
アドバイス

ワイパーブレードを取外したままアームを倒したり，ワイパーを作動させないでください。フロントガラスに傷がつくことがあります。

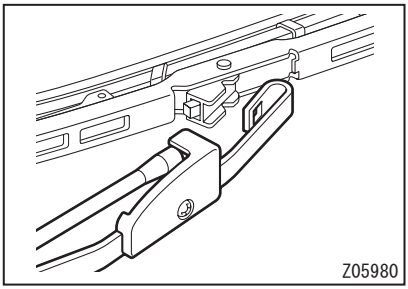
①ワイパーアームを起こします。



②クリップスプリングを矢印の方向に押し，ワイパーブレードをワイパーアームに押し込み取外します。

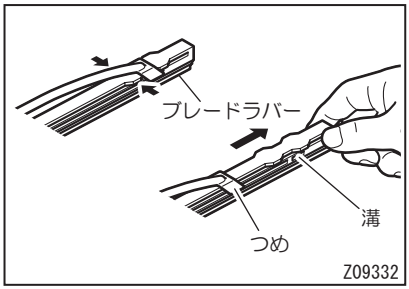


③ワイパーブレードを取付けるときは逆手順で行い，ワイパーブレードがワイパーアームにロックされることを確認します。



2. ブレードラバーのみの交換

①ワイパーアームを起こします。
②ブレードラバーの両側（➡部）を指先で押し，つめをブレードラバーの溝から外します。
③ブレードラバーを引き抜き新品の《純正ワイパーブレードラバー》に交換します。
④取付けは取外しの逆手順で行い，ワイパーブレードのつめがブレードラバーの溝に確実に入っていることを確認します。



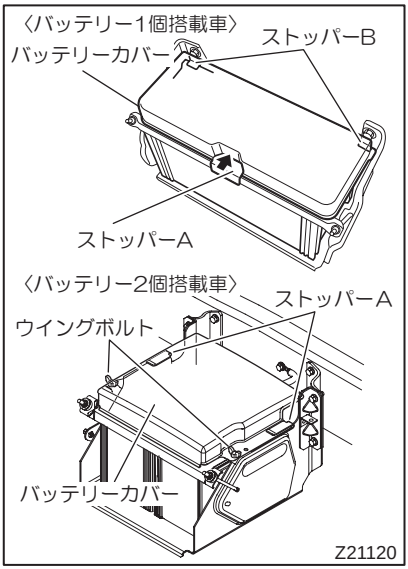
バッテリーの点検

⚠ 危険

- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生しています。バッテリー近くでライター，たばこなどの火気の使用や，火花を飛ばさないようにしてください。水素ガスに引火し，バッテリーの爆発の原因になります。とくにバッテリー上がりで，ブースターケーブルを接続してエンジンを始動するときは注意してください。
- バッテリーを外すときはバッテリーケーブルの㊀端子側から行い，取付けるときはバッテリーケーブルの㊀端子側を最後にしてください。㊀端子がバッテリーに接続されていると工具などが㊉端子と車体に触れたときにショートし火花がでることがありバッテリーから発生している水素ガスに引火し，爆発の原因になります。
- バッテリー液は希硫酸ですので，皮膚や衣服に付着したときは，直ちに多量の水で洗い流し石けんで十分洗ってください。万一，目に入ったときは直ちに多量の清水で洗眼し，眼科医の治療を受けてください。バッテリーを取扱うときは保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリー液量が下限（LOWER）レベルライン以下のまま使わないでください。劣化を早めたり，バッテリーの発熱や爆発の原因になります。
- バッテリーを保管するときは端子が上面になるようにしてください。横倒しにすると液漏れや火災の原因になります。また，お子さまが触れない場所に保管してください。

1. バッテリーカバーの脱着

〈バッテリー 1 個搭載車〉
①図の矢印部分を押しカバーをストッパー A から取外します。
②カバーを手前へ引きストッパー B から取外します。
③取付けは逆順序で行います。取付け後カバーが外れないことを確認します。
〈バッテリー 2 個搭載車〉
①ウイングボルト（2 個所）を取外します。
カバーを手前へ引きストッパー A から取外します。
②取付けは逆順序で行います。取付け後カバーが外れないことを確認します。



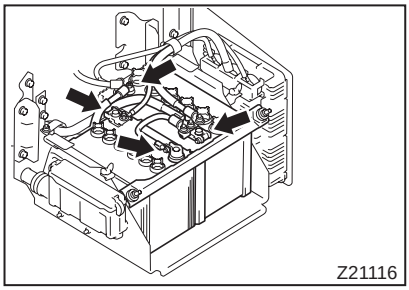
2. バッテリーの液量

バッテリー液量の点検については 13-10 ページをごらんください。

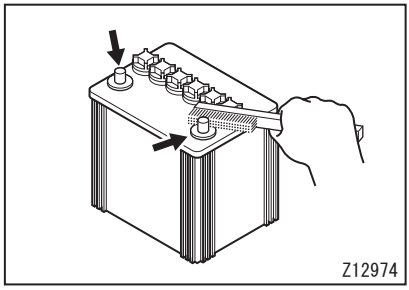
3. ターミナル部の接続状態

ターミナル部の接続状態点検時期
自家用：12 か月ごと 事業用：3 か月ごと

①バッテリーのターミナル部にバッテリーケーブルが確実に取付けられているか点検します。
②ターミナル部に汚れや腐食があるときは清掃します。



③端子部が腐食し白い粉が付着しているときは，ぬるま湯でよく洗いふき取ります。端子部が著しく腐食しているときはバッテリーケーブルを外し，ワイヤーブラシや紙やすりで磨きます。清掃後は端子部にグリースを薄く塗っておきます。



アドバイス

- バッテリーの取付けは確実に行ってください。取付けが不完全ですと，走行中の振動でケースや極板を傷めバッテリーの寿命を短くします。
- バッテリーを充電するときは車から外して行ってください。

知識

バッテリーを廃却するときは，バッテリー販売業者に処理を依頼してください。

4. バッテリーの脱着

⚠ 警告

ダンプ車は荷台を上昇させた状態で点検や整備をすることは絶対にやめてください。荷台にはさまれ重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- バッテリーイコライザー搭載車はメーンバッテリーの㊀端子のみを取外した状態でも，架装側 24 ボルトバッテリーの㊀端子に電圧がかかっていることがあります。このとき，架装側 24 ボルトバッテリーの㊀端子と荷台，フレームがスパナーなどで接触するとショートすることがありますので注意してください。
- 尿素水添加システムはスタータースイッチを“LOCK”位置にした後も約2分間作動しています。バッテリーを取外すときは 2 分以上経過してから行ってください。
- バッテリーの取付けは確実に行ってください。取付けが不完全ですと，走行中の振動でケースや極板を傷めバッテリーの寿命を短くします。
- バッテリーを充電するときは車から外して行ってください。
- FEBM 型ダンプ車は，バッテリーのターミナル部からバッテリーケーブルを取外すときには必ず車載されている絶縁スパナを使用してください。絶縁スパナ以外を使用すると荷台と工具が接触し，ショートするおそれがあります。

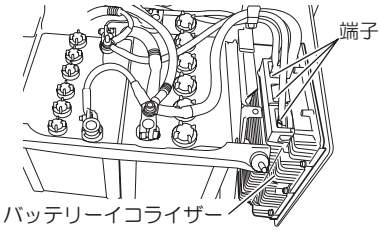
知識

バッテリーを廃却するときは，バッテリー販売業者に処理を依頼してください。

4.1　タイプ 1（バッテリーイコライザー搭載車）

⚠ 注意

バッテリー脱着をするときは，バッテリーボックスの横のバッテリーイコライザーの端子は外さないでください。
万一，外れたときは日産販売会社に連絡してください。



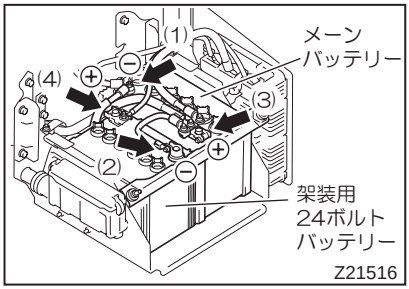
知識

バッテリーイコライザーとは，メーンバッテリーと架装用 24 ボルトバッテリーの間の電気的なバランスを制御し，メーンバッテリーを保護するための装置です。

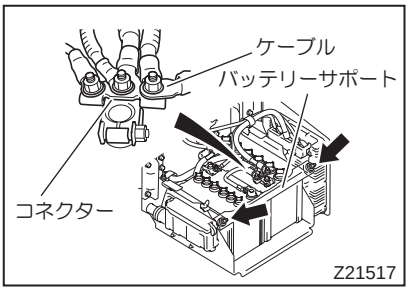
● 取外し

①バッテリーのターミナル部のバッテリーケーブル（➡ 印部）を図の順序に取外します。

- メーンバッテリーの㊀側ターミナル (1) を取外します。
- 架装用 24 ボルトバッテリーの㊀側ターミナル (2) を取外します。
- メーンバッテリーの㊉側ターミナル (3) を取外します。
- 架装用 24 ボルトバッテリーの㊉側ターミナル (4) を取外します。



②バッテリーサポート取付けナット（➡ 印部）を取外します。
③バッテリーサポートを取外し，バッテリーを取外します。



⚠ 注意

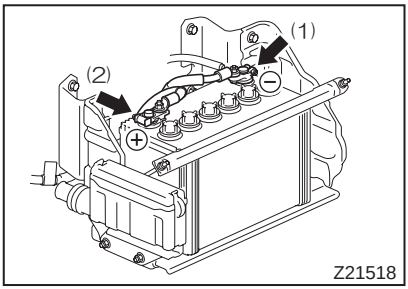
バッテリー端子のコネクターとケーブルは取外さないでください。また，バッテリーボックスの横のバッテリーイコライザーの端子は外さないでください。
万一，配線の取付け方を誤ると火災や電気系統の故障につながるおそれがあります。

● **取付け**

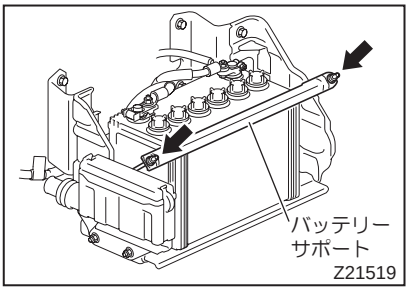
取付けは取外しの逆手順で行います。取付け後，バッテリーが確実に固定され，バッテリーサポートとターミナル部が接触していないことを確認します。

4.2 タイプ２（バッテリー１個搭載車）

①バッテリーのターミナル部のバッテリーケーブル（➡ 印部）を図の順序に取外します。

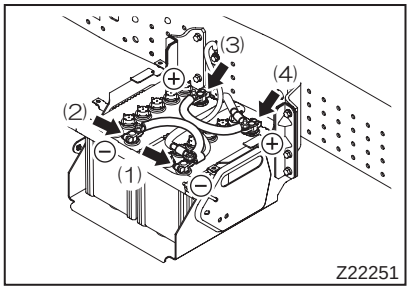


②バッテリーサポート取付けナット（➡ 印部）を取外します。
③バッテリーサポートを取外し，バッテリーを取外します。
④取付けは逆順序で行います。取付け後，バッテリーが確実に固定されていることを確認します。

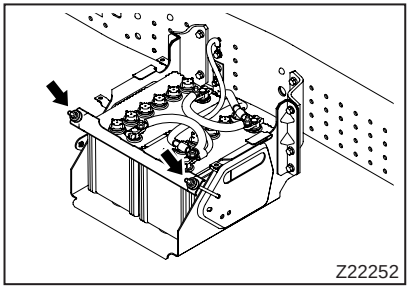


4.3　タイプ３（バッテリー２個搭載車（バッテリーイコライザー未搭載車））

①バッテリーのターミナル部のバッテリーケーブル（➡ 印部）を図の順序に取外します。



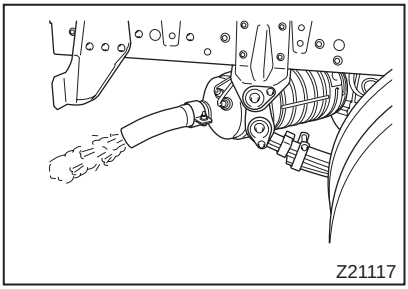
②バッテリーサポート取付けナット（➡ 印部）を取外します。
③バッテリーサポートを取外し，バッテリーを取外します。
④取付けは逆順序で行います。取付け後，バッテリーが確実に固定されていることを確認します。



マフラーの機能点検

マフラーの機能点検時期
12 か月ごと

エンジンを始動し暖機運転をします。エンジン回転数を変化させ排気音や排気ガスの色に異常がないか点検します。



⚠ 注意

マフラーから出た水には触れないでください。水はマフラーに内蔵されている酸化触媒の作用により，弱酸性になっています。皮膚等に付着した場合は十分水で洗い流してください。

アドバイス

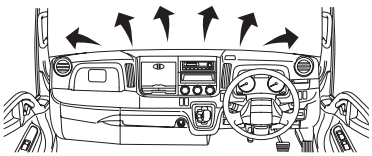
- マフラーをけったり，たたいたりしないでください。マフラー内部の触媒やセラミックフィルターが破損するおそれがあります。
- 車の使われ方によっては早期にもかかわらず排気管や吊り具に著しいさびが発生する場合があります。
  目視にて異常があったときは速やかに日産販売会社で点検をお受けください。

デフロスターの点検

点検時期
12 か月ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

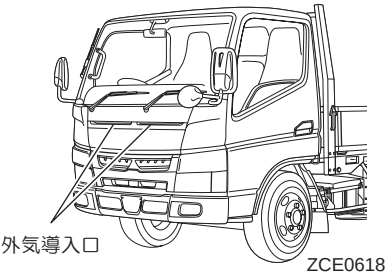
- ヒーターまたはエアコンを作動させます。
- デフロスター（フロントガラス及びドアガラスに送風）に切り替え，吹き出し口に手を当てて点検します。
- 風量が少ない，または切り替えができないときは，日産販売会社で点検をお受けください。


ZCE0617

外気導入口の点検

1．外気導入口

外気導入口が付着物等でふさがっていないことを確認してください。ふさがっているときは取除いてください。そのまま使用していると外気導入位置に切り替わったとき，吹き出し口からの風の出が悪くなります。



ZCE0618

アドバイス

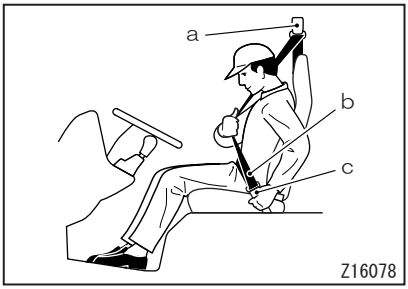
外気導入口に高圧洗浄機の蒸気を直接吹きかけないでください。室内に水が浸入したり，ワイパーモーターの故障の原因になります。

シートベルトの状態

点検時期
12 か月ごと

シートベルトに損傷がないか点検します。
またシートベルトを装着してバックルのかみ具合に異常がないか点検します。

a. 車体及びシート取付け部のボルトの緩みやガタはないか
b. ほつれや切り傷がないか
c. バックル及び巻き取り装置の内部に異物が入ってないか



車の手入れ

1．洗車

次のようなときは必ず洗車します。

- 海岸地帯を走行したとき
- 凍結防止剤，融雪剤を散布した道路を走行したとき
- コールタール，ばい煙，樹液，鳥のふんなどが付着したとき
- ほこりや泥で汚れたとき

⚠ 注意

下まわりを洗うときは，板金部分などの端でケガをしないよう注意してください。

アドバイス

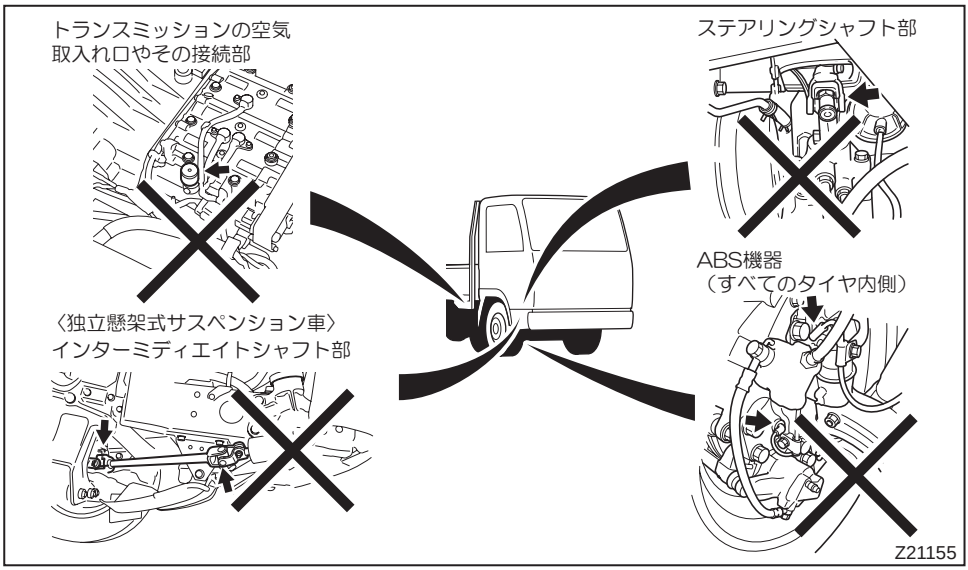
- バンパーに乗ってフロントガラスを清掃するとき，ワイパーアームなどをつかまないでください。故障の原因になります。
- ヘッドランプ，方向指示灯などの樹脂レンズ表面の汚れを落とすときは，洗車ブラシなどは使用しないでください。レンズ表面を傷付けるおそれがあります。水で十分洗い流してからやわらかい布などでふき取ってください。
- 洗車時は外気導入口から水が浸入しないようエアコンの内外気切り替えスイッチで内気循環にしてください。外気導入口から水が浸入すると電装品の故障の原因になります。
- 洗車を行うときは，マフラー内部に水が入らないようにしてください。マフラー内に水が入るとセンサー類が破損するおそれがあります。
- シンナーやガソリンで清掃しないでください。塗装面の損傷やプラスチック，樹脂部品の変色やき裂の原因になります。
- 海岸地帯や冬期に凍結防止剤，融雪剤を散布した道路を走行したときは，タイヤハウスやシャシー下まわりをとくに念入りに洗車してください。そのまま放置しておくと早期にさびが発生し，シャシー下まわり部品の破損などの原因になります。
  お車を長期間使用するために，1 日の作業が終了したら洗車を励行してください。
- 寒冷地ではドアのキー穴やゴム部品が凍結し開かなくなることがありますので洗浄後はドアまわりなどの水分をよくふき取ってください。また，凍結防止効果の高いシリコン等を塗布してください。
- 寒冷時に洗車を行うときは，燃料タンクキャップのキー穴に直接水がかからないようにしてください。燃料タンクキャップが開かなくなることがあります。また，洗車後はキャップまわりの水分をよくふき取ってください。

高圧洗浄機を使用してエンジンルームや車の下まわりなどを洗車するときは，高圧洗浄機の蒸気や水が次の個所に直接かからないようにしてください。

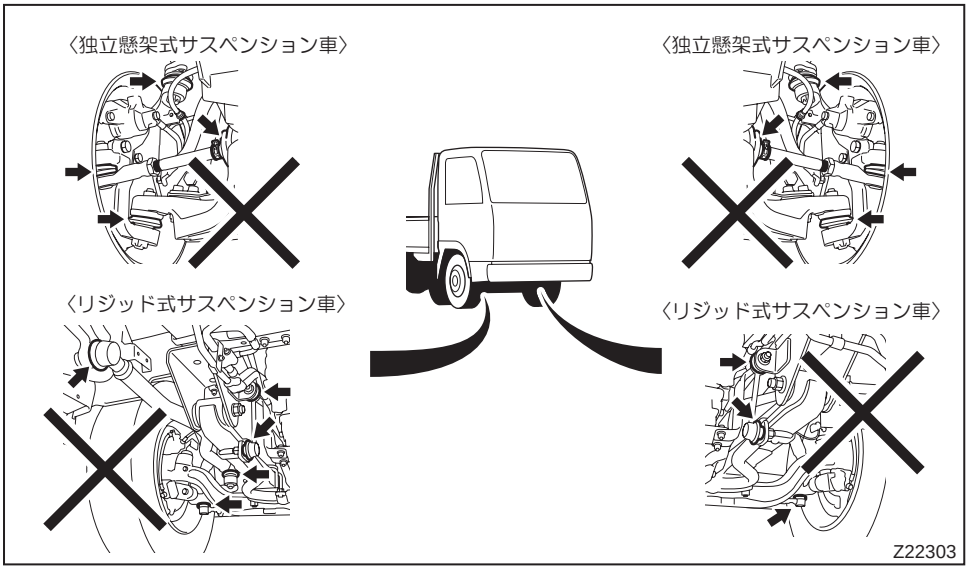
アドバイス

高圧洗浄機の蒸気や水が直接かかると，部品の損傷や電装品に水が浸入し故障の原因になります。

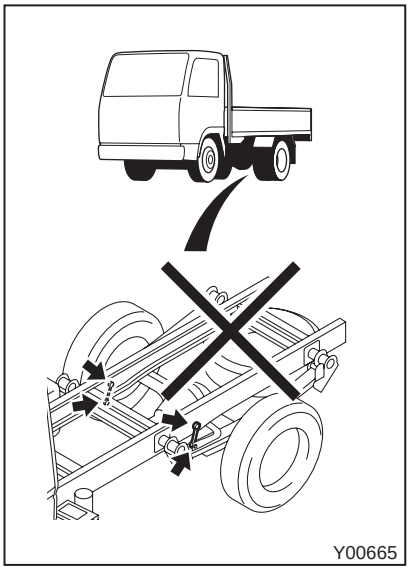
- エンジンの空気取入れ口やその接続部
- スターター，オルタネーター，コネクターなどの電装品
- ハイカレントヒューズボックス
- エンジン燃料噴射装置の各部品
- 灯火器
- 外気導入口
  外気導入口の位置については 14-72 ページをごらんください。
- タイヤまわり
  ステアリングシャフトのユニバーサルジョイント部，ABS 機器があります。



● 前軸ダストカバー部
フロントサスペンション部（左右）にかじ取り装置のダストカバー部，スタビライザーリンク部〈スタビライザー装着車〉，前軸ダストカバー部があります。



● 後軸ダストカバー部〈リヤスタビライザー装着車〉
リヤサスペンション部(左右)にスタビライザーリンクのダストカバー部があります。



1.1　海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行後の洗車

海岸地帯や凍結防止剤，融雪剤を散布した道路を走行した時は，1 日の作業が終了したら次の要領で洗車を励行してください。

- 洗車には水道水を使用します。
- 高圧スチーム洗浄機などを使用してタイヤハウスやシャシー下まわり（フレームの内側と外側，サスペンション，アクスルなど）を念入りに洗浄します。
- ワックス系の防錆剤（軟質の防錆剤）が塗布されている車両を高圧スチーム洗浄機などで洗浄する場合，防錆剤のはく離や溶解するおそれがあるので次のことを守ってください。
  - スチームの温度を 40 ℃以下にし，圧力を 4.9MPa {50kgf/cm^2} 以下にします。
  - 洗浄機のノズルは洗浄面から 40cm 以上離します。
  - 洗浄機のノズルを同じ個所に集中させないでください。
- 洗浄後はエアを吹き付けて，溜まっている水を吹き飛ばして乾燥させます。溜まっている水を温風乾燥や自然乾燥させると，塩分などが濃縮され腐食の原因になります。

2. ワックスがけ

塗装面を保護するために月に 1 回程度のワックスがけをお勧めします。ワックスがけは洗車後の塗装面の温度が体温以下のときに直射日光を避けて行います。

アドバイス

- 塗装面が熱いときにワックスをかけるとしみの原因になります。
- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスを使用すると塗装面が傷付き光沢が失われます。《純正ワックス》の使用をお勧めします。

3. さびや腐食の点検

- 車両の下まわりや足まわりのさびや腐食によって，思わぬ事故や故障を起こすことがあります。洗車後などにさびの発生や穴空きなどがないか点検します。さびのある場合はワイヤーブラシなどでさびを落とした後，補修塗装や防錆剤を塗布します。穴空きなどがある場合は速めに日産販売会社で補修をお受けください。
- お車を長く，安心してご使用いただくために少なくとも 1 年に 1 回は，さびや腐食の入念な点検，及び補修塗装や防錆剤の塗布が必要です。

4. 内装品の手入れ

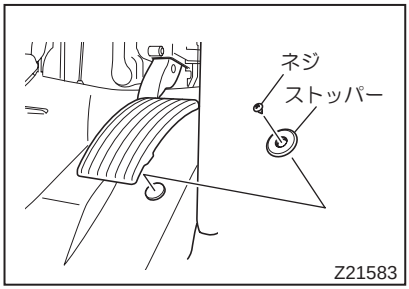
アドバイス

- シンナー，ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。
- フロアーマットを取付けたまま水をかけて洗うことはやめてください。床がさびる原因になるとともに，各種リレー，スイッチ，コンピューター，アクセルペダルに水がかかり故障の原因になります。フロアーマットを洗うときは車両から取外し，洗浄後は裏面のフェルト材をよく乾燥させてから取付けてください。また，フロアーマットを取付けるときはアクセルペダルなどの作動部分と干渉しないようにしてください。
- 室内に直接，ホースなどで水をかけて洗うことはやめてください。床がさびる原因になるとともに，各種リレーやコンピューターなどの電気製品に水がかかり故障の原因になります。万一，室内に水がたまっているときは床の水抜きプラグを外して水を排出するか，布などで完全にふき取ってください。

①掃除機などでホコリを取り除きます。
②柔らかい布に中性洗剤の水溶液を含ませて，汚れをふき取ります。
③柔らかい布を真水にひたし，固くしぼって，残った洗剤分をきれいにふき取ります。
④風通しのよい日陰で乾燥させます。

4.1　フロアーマットを取外して清掃するときは

①アクセルストッパーのネジを取外し，ストッパーを取外します。
②ストッパーを取付けるときは，フロアーマットの切り欠き部が噛みこまないようにします。



⚠ 注意

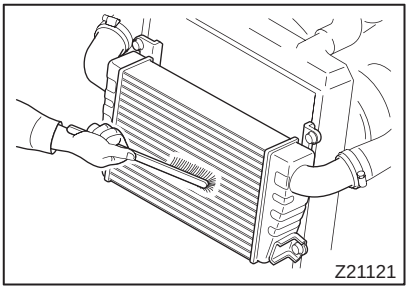
フロアーマットを取付けるときは，フロアーマットがアクセルペダルなどの作動部分と干渉しないようにしてください。アクセルペダルが完全に戻らず思わぬ事故を起こすおそれがあります。

知識

ストッパーのネジが取外せないときは，日産販売会社にお申し付けください。

インタークーラーの清掃

インタークーラー前面にゴミや泥が多量に付着するとエンジン性能に悪影響があります。ブラシ等で清掃してください。



アドバイス

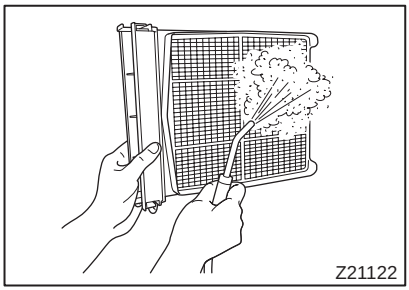
インタークーラー前面を先のとがった物で清掃しないでください。インタークーラー前面に傷が付くおそれがあります。

ヒーター，エアコン用エアフィルターの清掃

1. 清掃

定期的にエアフィルターを取外し，水洗いまたはエアを吹き付けて清掃します。

清掃時期
6 か月ごと



⚠ 注意

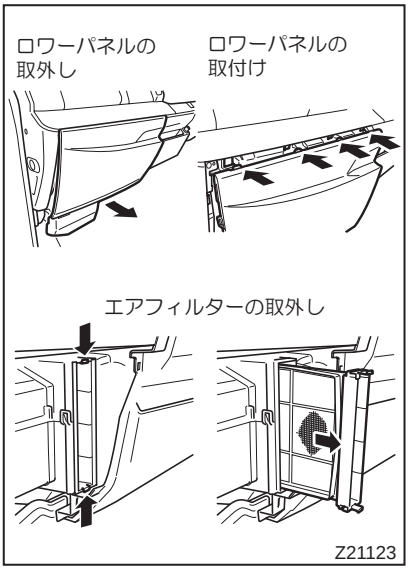
エアフィルターを清掃するときは防塵マスク等を付け，ホコリを吸わないようにしてください。人体に悪影響を与えるおそれがあります。

アドバイス

定期的にエアフィルターを取外して清掃してください。エアフィルターがゴミやホコリで詰まると，ヒーターやエアコンの風の出が悪くなります。

2. エアフィルターの脱着

①助手席前ロワーパネルを取外します。
②エアフィルターのつまみを内側に押して引き出します。
③助手席前ロワーパネルの取付けは，パネルの上側のつめを取付け部に合わせてから，押し込みます。



15章 給油，給脂

オイルの点検，補給，交換時の注意 …… 15-2
給油脂一覧表 …… 15-3
エンジンオイルの補給，交換 …… 15-7
クラッチオイルの点検，補給，交換
〈DUONIC 2.0 搭載車〉…… 15-13
トランスミッションオイル（DUONIC 2.0 搭載車も含む）
の点検，補給，交換 …… 15-14
トランスファーオイルの点検，補給，交換＊ …… 15-18
デファレンシャルオイルの点検，補給，交換 …… 15-21
ブレーキ液の点検，補給 …… 15-24
パワーステアリングオイルの点検，補給 …… 15-26
給脂 …… 15-28

オイルの点検，補給，交換時の注意

- 車の周りの安全を確認します。
- 駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
- ギヤシフトレバーがニュートラル位置であるか確認します。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーが“P”位置であるか確認します。
- 平たんな場所でエンジンを止め，スターターキーを必ず抜き取ります。
- タイヤに輪止めをかけます。
- 走行直後は，エンジンや排気管など各部が高温になっていますので，触れるとやけどをするおそれがあります。冷えた状態で行ってください。
- オイルなどを交換するときは，必ず排油用の容器を準備してください。
- 交換後はオイル漏れや液漏れがないか点検してください。

⚠ 警告

キャブを降ろすときはエンジンルーム内にウエス（布）など燃えやすい物や，工具の置き忘れがないか点検してください。燃えやすい物を置き忘れると火災を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行直後はオイルの交換を行わないでください。オイルが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- エンジン停止直後はエンジン，排気管，ラジエーターなどに触れないでください。高温になっているためやけどをするおそれがあります。
- ボデーの端部などでケガをしないように点検してください。

アドバイス

オイルやグリースは弊社が推奨するものを使用してください。純正部品以外を使用したり，推奨以外のオイルやグリースを使用すると故障の原因になります。

知識

- 点検または交換時期に使用期間と走行距離を併記しているものは，どちらか早いほうで点検または交換します。
- 交換後のオイルなどは定められた方法で処理してください。むやみに廃却すると法律違反になります。ご自身で処理できないときは日産販売会社にご相談ください。

給油脂一覧表

給脂個所	時期	使用油脂または使用液類	油量または液量（dm^3 {L}）	参照ページ
エンジン	**点検・補給：** 日常（運行前）	• ふそうエンジンオイル DH-2	• オイル交換時 約 5.5 {5.5} • オイル，フィルター同時交換時 約 6.0 {6.0}	13-12
	交換： • 20,000km または 1 年ごと • シビアコンディション時は 10,000kmごと※			15-7

※10,000km を交換時期とするシビアコンディションとは，主に次のような走行をする場合です。

- 車速 20km/h 以下の低速走行が主体の場合
- 頻繁に（10 分以内）エンジンの始動，停止を行う走行が多い場合
- 短い距離（10km 以下）の走行を繰り返す場合
- 長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合

マルチ情報システムの整備勧告時期の設定は上記表にしたがい設定します。

給脂個所	時期	使用油脂または使用液類	油量または液量（dm^3 {L}）	参照ページ
クラッチ〈DUONIC 2.0 搭載車〉	**点検・補給：** 自家用 6 か月ごと 事業用 3 か月ごと （シビアコンディション項目） **交換：** 80,000km または 2 年ごと	ふそう ATF-SP Ⅲ	2.0 {2.0}	15-13
トランスミッション（DUONIC 2.0 搭載車も含む）	**点検・補給：** 自家用 6 か月ごと （距離項目） 事業用 3 か月ごと （距離項目） （シビアコンディション項目） 新車時は走行距離 1,000km を目安に点検 **交換：** 80,000km または 2 年ごと	日産純正ミッションオイル GL-4 （API：GL-4, SAE：75W-85）	約 3.5 {3.5} • 標準 PTO 及び大容量 PTO 装着車は約 0.3 {0.3} 増	15-14
トランスファー＊	**点検・補給：** 自家用 6 か月ごと （距離項目） 事業用 3 か月ごと （距離項目） （シビアコンディション項目） 新車時は走行距離 1,000km を目安に点検 **交換：** 80,000km または 2 年ごと	日産純正ミッションオイル GL-4 （API：GL-4, SAE：75W-85）	〈FDA，FGA 型〉 約 1.5 {1.5} 〈FGB 型 DUONIC 2.0 搭載車〉 約 3.6 {3.6} 〈FGB 型 マニュアルトランスミッション搭載車〉 約 3.1 {3.1}	15-18

給脂個所	時期	使用油脂または使用液類	油量または液量（dm^3 {L}）	参照ページ
デファレンシャル	**点検・補給：** 自家用 6 か月ごと（距離項目） 事業用 3 か月ごと（距離項目）（シビアコンディション項目） 新車時は走行距離 1,000km を目安に点検 **交換：** 80,000km または 2 年ごと	• 日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API：GL-5, SAE：80W-90） • 連続登坂などの高負荷な条件で使用時は，GL-5 SAE140 使用 • LSD（リミテッドスリップデフ）装着車は，日産純正デフオイルハイポイド LSD（API：GL-5, SAE：80W-90）使用	• リヤ 〈FBA0W 型〉 約 1.8 {1.8} 〈FBA2W, FEA2W, FEB2W，FDA, FGA 型〉 約 2.7 {2.7} 〈上記以外〉 約 4.5 {4.5} • フロント 〈FDA，FGA 型〉 約 0.9 {0.9} 〈FGB 型〉 約 3 {3}	15-21
ブレーキ	**点検・補給：** 日常（運行前） 自家用 1 年ごと 事業用 3 か月ごと **交換：** 2 年ごと	日産純正ブレーキフルード No. 2500（DOT3）	所要	13-11 15-24
パワーステアリング	**点検・補給：** 自家用 1 年ごと 事業用 3 か月ごと（距離項目） 新車時は走行距離 1,000km を目安に点検 **交換：** 50,000km または 1 年ごと 新車時は走行距離 1,000km を目安に交換	• ふそう ATF	所要	15-26

給脂個所	時期	使用油脂または使用液類	油量または液量（dm^3 {L}）	参照ページ
プロペラシャフト	**補給：** 自家用６か月ごと 事業用３か月ごと （シビアコンディション項目） 新車時は走行距離1,000km を目安に補給	三菱ホイールベアリンググリース	所要	15-28
リヤスプリング		三菱シャシーグリース		
フロントアクスルキングピン軸受部〈リジッドリーフ式サスペンション車〉		• 三菱オートグリスターグリース • 三菱シャシーグリース	所要	15-28
ダブルカルダンジョイント〈FGB 型〉	**補給：** 30,000km または1 年ごと	三菱ホイールベアリンググリース	所要	15-28
ホイールハブベアリング	**交換：** • 40,000km または1 年ごと • 20,000km または1 年ごと （シビアコンディション項目）	三菱ホイールベアリンググリース	所要	※
等速ボールジョイント〈FDA，FGA，FGB 型〉	**交換：** 30,000km または1 年ごと	協同油脂 NTG2218-M	所要	※
ドアヒンジ	**補給：** 自家用６か月ごと 事業用３か月ごと （シビアコンディション項目） 新車時は走行距離1,000km を目安に補給	三菱シャシーグリース	所要	15-32
アンカーフック〈キャブチルト車〉				15-32

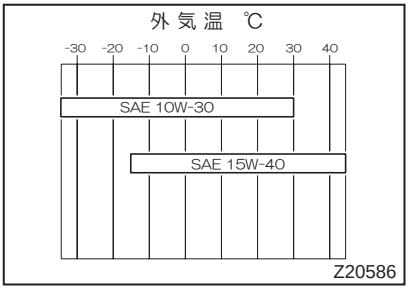
参照ページ欄の ※ マークの給脂は分解したり，特別な装置を必要としますので，最寄りの日産販売会社へお申し付けください。

エンジンオイルの補給，交換

1. 使用油脂

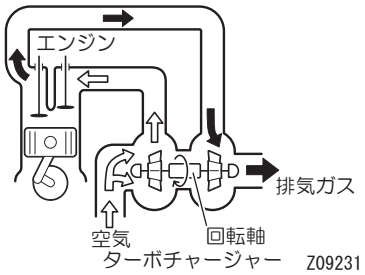
エンジンオイルはエンジンの性能や寿命，始動性に大きく影響しますので必ず指定のオイル及び粘度のものを使用してください。

使用油脂
ふそうエンジンオイル DH-2



アドバイス

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定のエンジンオイルを使用しないとオイル中の成分がDPF 内部のセラミックフィルターに早期に堆積してしまい，DPF の機能を長時間維持できなくなるおそれがあります。
- ターボチャージャーの回転軸は高温下で高速回転しています。その潤滑と冷却はエンジンオイルで行っています。そのため，指定のエンジンオイルを定められた時期に交換しないとターボチャージャー回転軸の固着，異音の発生などの原因になります。



2. 油量

油量（dm^3 {L}）	
オイル交換時	約 5.5 {5.5}
オイル，フィルター同時交換時	約 6.0 {6.0}

アドバイス

油量は目安です。オイルの量は必ずオイルレベルゲージを使用し確認してください。

3. 交換時期

交換時期	
標準	20,000km または 1 年ごと
シビアコンディション ※	10,000km ごと

※10,000km を交換時期とするシビアコンディションとは，主に次のような走行をする場合です。

- 車速 20km/h 以下の低速走行が主体の場合
- 頻繁に（10 分以内）エンジンの始動，停止を行う走行が多い場合
- 短い距離（10km 以下）の走行を繰り返す場合
- 長時間のアイドル運転を頻繁に行う場合

なお，シビアコンディションの場合，エンジンオイル量の点検は 1 日 1 回，車を運転する前に行ってください。

⚠ 注意

- DPF 内部のススを燃焼除去させるため，燃料の一部がエンジンオイルに混入しエンジンオイル量が増えることがあります。定められた時期に点検や交換をしないとエンジン故障の原因になり，最悪の場合，意図せぬエンジン回転上昇を招くおそれがあります。
- エンジンオイルは，使用条件によりオイル量が増減します。日常（運行前）点検で走行距離や運行時の状況等から適切な時期にオイル量の点検を行ってください。またシビアコンディションで使用する場合，エンジンオイル量が早期に増減するためエンジンオイル量の点検は 1 日 1 回，運行前に行ってください。

アドバイス

エンジンオイルは定められた時期（20,000km ごとまたは 1 年ごと。シビアコンディションで使用する場合は 10,000km ごと）に交換してください。定められた時期に交換をしないとエンジンオイルの性能が劣化しエンジン故障の原因となります。

4. 点検

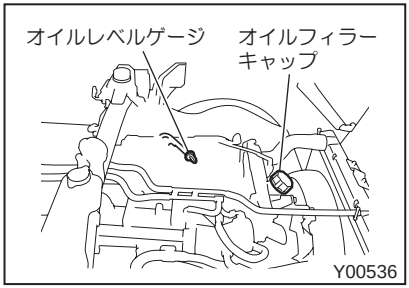
エンジンオイル量の点検については 13-12 ページをごらんください。

5. 補給

⚠ 警告

補給時に排気管，スターターなどにエンジンオイルをこぼしたままにしないでください。エンジンオイルが付着すると熱により火災を起こすおそれがあります。万一，こぼしたときはきれいにふき取ってください。

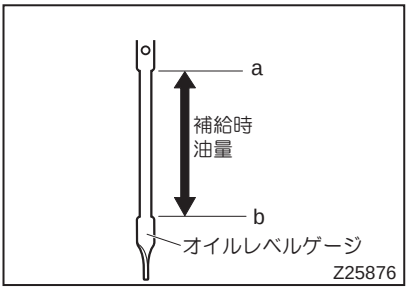
①オイルフィラーキャップの周りを清掃し，補給時にゴミなどが入らないようにします。
②オイルフィラーキャップを外し，指定のエンジンオイルを補給します。



アドバイス

- 補給するときにオイルをこぼさないように注意してください。
  万一，こぼしたオイルがファンベルトに付着すると，ベルトのスリップの原因になります。
- オイルはオイルレベルゲージの HIGH（給油用）（切り欠き上側）を超えて入れないでください。オイルを無駄に消費するとともに，オイルが通常より早期にオイルレベルゲージの FULL（点検用）（〇印）を超える原因になります。

③オイルフィラーキャップを閉め，5分以上おいてからオイルの量を確認します。オイルが図の補給時油量の範囲にない場合は，オイルを補給，または排出し調整します。
④エンジンを始動し水温計が８目盛り（インジケーター中央）程度になるまで暖機運転します。
⑤エンジンを停止し，１５ 分以上おいてからオイルの量を再度確認します。オイルが図の補給時油量の範囲にない場合はオイルを補給，または排出して調整し，④の手順へ戻り再度点検を行います。



a（切り欠き上側）：HIGH（給油用）
b（切り欠き下側）：LOW

⑥ドレーンプラグからオイルが漏れていないことを確認します。

6. 交換

⚠ 警告

補給時に排気管，スターターなどにエンジンオイルをこぼしたままにしないでください。エンジンオイルが付着すると熱により火災を起こすおそれがあります。万一，こぼしたときはきれいにふき取ってください。

⚠ 注意

走行直後はエンジンオイルの交換は行わないでください。エンジンオイルが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。

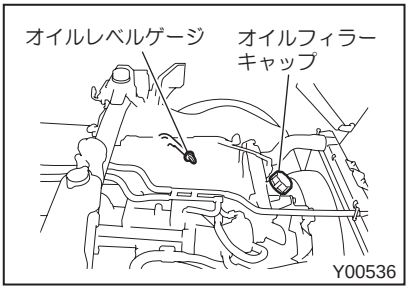
アドバイス

補給するときにオイルをこぼさないように注意してください。
万一，こぼしたオイルがファンベルトに付着すると，ベルトのスリップの原因になります。

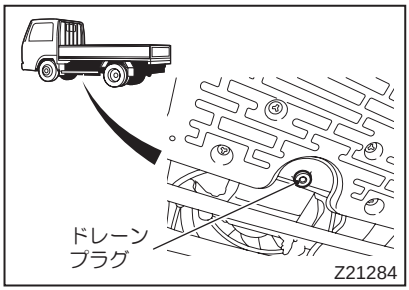
知識

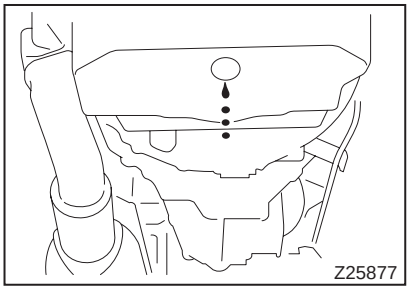
エンジンオイルは少し暖かいうちに排出すると容易にできます。

①キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。
　キャブチルトできない車はエンジン点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。
②オイルフィラーキャップの周りを清掃し，補給時にゴミなどが入らないようにします。
③オイルフィラーキャップを外します。



④ドレーンプラグを外し，エンジンオイルを排出します。
オイルの排出は，オイルの垂れかたが “ しずく ” になるまで行います。

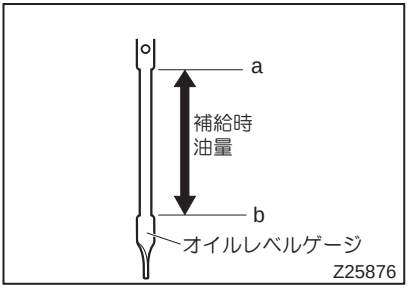




⑤エンジンオイルが完全に排出したら，ガスケットを新品に交換し，ドレーンプラグを締付けます。

締付けトルク（N·m {kgf·m}）
30±10 {3.0±1.0}

⑥オイルフィラーからエンジンオイルを補給します。
⑦オイルフィラーキャップを閉め，5分以上おいてからオイルの量を確認します。オイルが図の補給時油量の範囲にない場合は，オイルを補給，または排出し調整します。
⑧7-10ページの “長期間駐車後の始動” 要領にしたがいエンジンをクランキングします。
⑨エンジンを始動し水温計が8目盛り（インジケーター中央）程度になるまで暖機運転します。
⑩エンジンを停止し，15 分以上おいてからオイルの量を再度確認します。オイルが図の補給時油量の範囲にない場合はオイルを補給，または排出して調整し，⑨の手順へ戻り再度点検を行います。



a（切り欠き上側）：HIGH（給油用）
b（切り欠き下側）：LOW

⑪ドレーンプラグからエンジンオイルが漏れていないことを確認します。
⑫エンジンコントロールユニットをリセットします。次項 “ エンジンコントロールユニットのリセット ” をごらんください。

アドバイス

オイルはオイルレベルゲージのHIGH（給油用）（切り欠き上側）を超えて入れないでください。オイルを無駄に消費するとともに，オイルが通常より早期にオイルレベルゲージのFULL（点検用）（○印）を超える原因になります。

7. エンジンコントロールユニットのリセット

①スタースイッチを “ON” 位置にします。エンジンは始動しないでください。
②アクセルペダルを床に当たるまで踏み込んだまま 20 秒以上待ちます。
③上記の状態のままで（アクセルペダルを踏み込んだまま）ブレーキペダルを６回以上踏み込みます。リセットすると ENG SYS（橙色）を約 10 秒間表示し，その後消灯します。
④スターターキーを “LOCK” 位置にし，2 分間待ちます。

知識

エンジンコントロールユニットではエンジンオイルの交換時期を計算しています。
上記の操作はエンジンオイル交換時期の情報をリセットするために行います。

クラッチオイルの点検，補給，交換 〈DUONIC 2.0 搭載車〉

1. 使用油脂

使用油脂
ふそう ATF-SP Ⅲ

2. 油量

油量（dm^3 {L}）
2.0 {2.0}

3. 点検，交換時期

点検時期	交換時期
自家用：6 か月ごと 事業用：3 か月ごと （シビアコンディション項目）	80,000km または 2 年ごと

4. 点検，補給，交換

点検，補給，交換作業は日産販売会社にお申し付けください。

トランスミッションオイル（DUONIC 2.0 搭載車も含む）の点検，補給，交換

1. 使用油脂

使用油脂
日産純正ミッションオイル GL-4（API：GL-4, SAE：75W-85）

2. 油量

油量（dm^3 {L}）
約 3.5 {3.5} 標準PTO及び大容量PTO装着車は約0.3{0.3}増

3. 点検，交換時期

点検時期	交換時期
自家用：6 か月ごと（距離項目） 事業用：3 か月ごと（距離項目） （シビアコンディション項目）	80,000km または 2 年ごと

新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

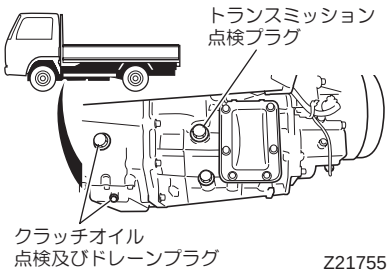
4. 点検，補給

⚠ 注意

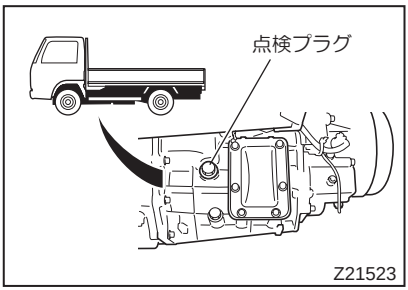
走行直後のトランスミッションオイルの点検は行わないでください。トランスミッションが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。

知識

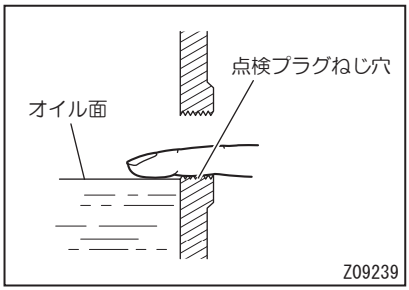
DUONIC 2.0 搭載車のトランスミッション点検プラグの車両前側には，クラッチオイルの点検プラグ及びドレーンプラグがありますので位置を間違えないようにしてください。



①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認し，タイヤに輪止めをかけます。
②点検プラグを外します。取外した点検プラグを清掃します。



③トランスミッションオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか指をまっすぐに入れて点検します。
不足しているときはトランスミッションオイルを点検プラグねじ穴から口元まで補給します。



④トランスミッションオイルを補給したときは，1分以上たってから同様に点検プラグねじ穴に指をまっすぐに入れ，トランスミッションオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか確認します。
⑤点検プラグのガスケットを新品に交換します。
⑥点検プラグのねじ部にシール剤を塗布し，点検プラグを締付けます。

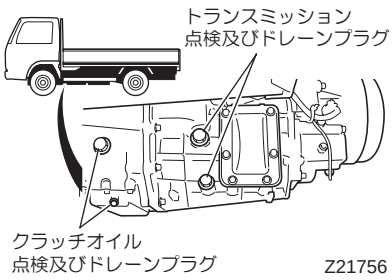
シール剤
スリーボンド　1105

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）
68.6±14.7 {7±1.5}

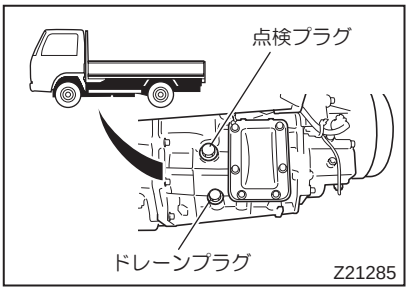
5. 交換

知識

- トランスミッションオイルは少し暖かいうちに排出すると容易にできます。
- DUONIC　2.0 搭載車のトランスミッション点検プラグ及びドレーンプラグの車両前側には，クラッチオイルの点検プラグ及びドレーンプラグがありますので位置を間違えないようにしてください。



①点検プラグ及びドレーンプラグを外し，トランスミッションオイルを排出します。



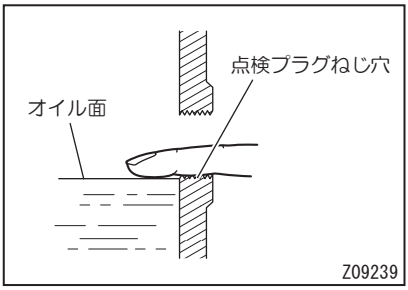
②磁石が付いているドレーンプラグは付着した鉄粉を清掃します。
③ドレーンプラグのガスケットを新品に交換します。
④ドレーンプラグのねじ部にシール剤を塗布します。

シール剤
スリーボンド　1105

⑤トランスミッションオイルが完全に排出したら，ドレーンプラグを締付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク （N·m {kgf·m}）
68.6±14.7 {7±1.5}

⑥点検プラグ穴からトランスミッションオイルを口元まで補給し，1 分以上たってから図のように点検プラグねじ穴に指をまっすぐに入れ，トランスミッションオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか確認します。



⑦点検プラグもドレーンプラグと同様にガスケットを新品に交換し，ねじ部にシール剤を塗布し，締付けます。

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）
68.6±14.7 {7±1.5}

トランスファーオイルの点検，補給，交換＊

1. 使用油脂

使用油脂
日産純正ミッションオイル GL-4（API：GL-4, SAE：75W-85）

2. 油量

油量（dm^3 {L}）		
FDA，FGA 型		約 1.5 {1.5}
FGB 型	DUONIC 2.0 搭載車	約 3.6 {3.6}
	マニュアルトランスミッション搭載車	約 3.1 {3.1}

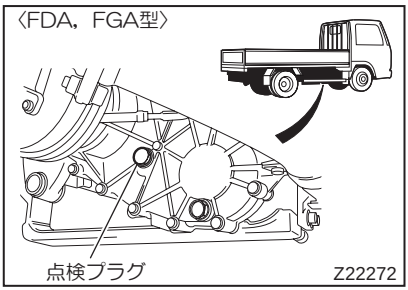
3. 点検，交換時期

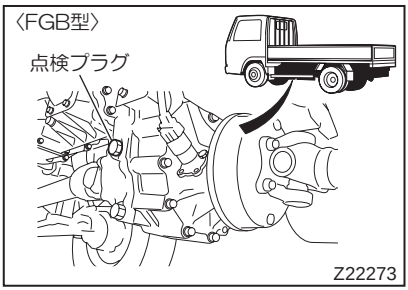
点検時期	交換時期
自家用：6 か月ごと（距離項目） 事業用：3 か月ごと（距離項目） （シビアコンディション項目）	80,000km または 2 年ごと

新車時の点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

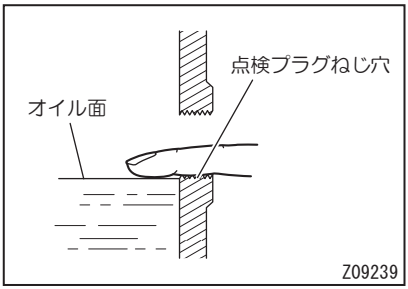
4. 点検，補給

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②ギヤがニュートラル位置であることを確認します。
③点検プラグを外します。取外した点検プラグを清掃します。





④トランスファーオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか指をまっすぐに入れて点検します。
不足しているときはトランスファーオイルを点検プラグ穴から口元まで補給します。
⑤トランスファーオイルを補給したときは，1分以上たってから同様に点検プラグねじ穴に指をまっすぐに入れ，トランスファーオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか確認します。



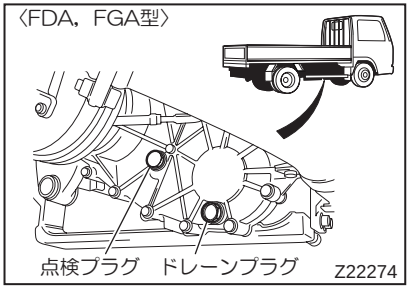
⑥点検プラグのガスケットを新品に交換します。
⑦点検プラグのねじ部にシール剤を塗布し，点検プラグを締付けます。

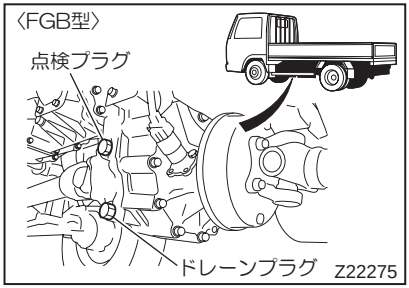
シール剤
スリーボンド 1105

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）
53.9 ～ 83.3 {5.5 ～ 8.5}

5. 交換

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認します。
②ギヤがニュートラル位置であることを確認します。
③点検プラグ及びドレーンプラグを外します。
　ドレーンプラグは磁石になっています。付着した鉄粉を清掃してください。





④ドレーンプラグのガスケットを新品に交換します。
⑤ドレーンプラグのねじ部にシール剤を塗布します。

シール剤
スリーボンド 1105

⑥トランスファーオイルが完全に排出したら，ドレーンプラグを締付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク （N·m {kgf·m}）
53.9 ～ 83.3 {5.5 ～ 8.5}

⑦点検プラグ穴からトランスファーオイルを口元まで補給します。
⑧点検プラグもドレーンプラグと同様にガスケットを新品に交換し，ねじ部にシール剤を塗布し，締付けます。

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）
53.9 ～ 83.3 {5.5 ～ 8.5}

デファレンシャルオイルの点検，補給，交換

1. 使用油脂

使用油脂
日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API：GL-5, SAE：80W-90）

- 連続登坂など高負荷な条件で使用するときはGL-5 SAE140を使用してください。ただし，外気温は 10 ℃以上で使用してください。
- LSD（リミテッドスリップデフ）装着車は日産純正デフオイルハイポイド LSD（API：GL-5, SAE：80W-90）を使用してください。

2. 油量

油量（dm^3 {L}）		
リヤ	FBA0W 型	約 1.8 {1.8}
	FBA2W，FEA2W，FEB2W，FDA，FGA 型	約 2.7 {2.7}
	上記以外	約 4.5 {4.5}
フロント	FDA，FGA 型	約 0.9 {0.9}
	FGB 型	約 3 {3}

3. 点検，交換時期

点検時期	交換時期
自家用：6 か月ごと（距離項目） 事業用：3 か月ごと（距離項目） （シビアコンディション項目）	80,000km または 2 年ごと

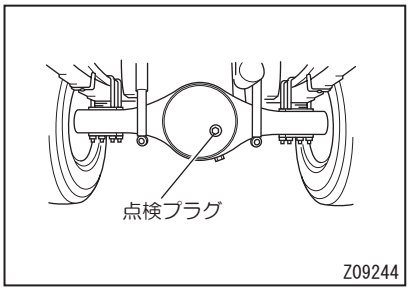
新車時点検は走行距離 1,000km を目安に行います。

4. 点検，補給

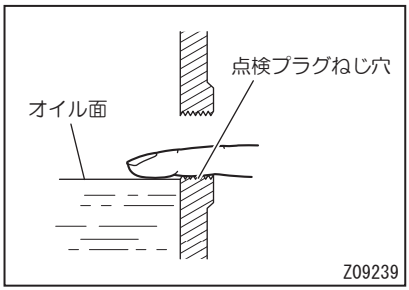
⚠ 注意

走行直後はデファレンシャルオイルの点検は行わないでください。デファレンシャルオイルが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認し，タイヤに輪止めをかけます。
②点検プラグを外します。

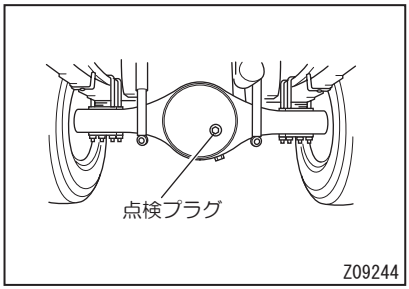


③デファレンシャルオイルが点検プラグねじ穴の口元まであるか点検します。
不足しているときはデファレンシャルオイルを点検プラグねじ穴から口元まで補給します。



④点検プラグのガスケットを新品に交換し，締付けます。

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）		
FDA，FGA 型	フロント	50±10 {5±1}
上記以外		110±10 {11±1}



5. 交換

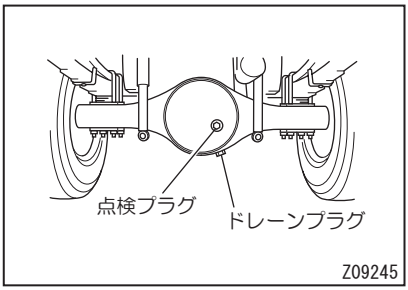
⚠ 注意

走行直後はデファレンシャルオイルの交換は行わないでください。デファレンシャルが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。

知識

デファレンシャルオイルは少し暖かいうちに排出すると容易にできます。

①駐車ブレーキが確実に効いていることを確認し，タイヤに輪止めをかけます。
②点検プラグ及びドレーンプラグを外し，デファレンシャルオイルを排出します。
③ドレーンプラグのガスケットを新品に交換します。
④デファレンシャルオイルが完全に排出したらドレーンプラグを締付けます。



ドレーンプラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）		
FDA，FGA 型	フロント	64±5 {6.5±0.5}
上記以外		110±10 {11±1}

⑤点検プラグねじ穴からデファレンシャルオイルを口元まで補給します。
⑥点検プラグもドレーンプラグと同様にガスケットを新品に交換し，締付けます。

点検プラグ締付けトルク（N·m {kgf·m}）		
FDA，FGA 型	フロント	50±10 {5±1}
上記以外		110±10 {11±1}

ブレーキ液の点検，補給

⚠ 注意

- ブレーキ液は必ず２年ごとに交換してください。長期間使用しますと水分を吸収し沸点が大幅に低下します。沸点が低下するとベーパーロック現象が発生しやすくなります。
- 銘柄の異なるブレーキ液を混用しないでください。混用するとブレーキ液の性状が変化し沸点の低下やブレーキ部品が損傷することがあります。銘柄の異なるブレーキ液を使用するときは全てのブレーキ液を交換してください。
- ブレーキ液にエンジンオイル，軽油，ギヤオイルなどの鉱物油を混用させないでください。少しでも鉱物油が混用するとブレーキ装置の不良，ブレーキの引きずりなどの原因になります。
- ブレーキ液は吸湿性が強いので，点検や補給及び保管中に水分が混入しないよう取扱いには注意してください。
- ブレーキ液の補給に使用する容器は水分，鉱物性オイルやゴミなどの付着していないきれいなものを使用してください。
- ブレーキ液を補給するときはリザーバータンク内にゴミなどの異物が混入しないよう注意してください。異物が混入しますとブレーキ装置の故障の原因になります。

アドバイス

ブレーキ液は塗装をはがしたり，ランプの樹脂製レンズを劣化させますので，こぼしたときはすぐにふき取るか，よく水洗いしてください。

1. 使用油脂

使用油脂
日産純正ブレーキフルード No. 2500（DOT3）

2. 点検, 交換時期

点検時期	交換時期
自家用：1 年ごと 事業用：3 か月ごと	2 年ごと

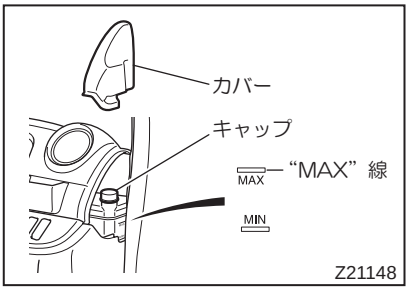
ブレーキ液の交換作業は分解を必要としますので日産販売会社へお申し付けください。

3. 点検

ブレーキ液量の点検については 13-11 ページをごらんください。

4. 補給

①カバーを外します。
②リザーバータンクのキャップ付近をきれいに清掃します。
③キャップを開けブレーキ液をリザーバータンクの “MAX” の線まで補給します。
④キャップ及びカバーを確実に取付けます。



アドバイス

ブレーキ液はリザーバータンクの “MAX” 線以上は補給しないでください。液漏れの原因になります。

パワーステアリングオイルの点検，補給

⚠ 注意

- 銘柄の異なるパワーステアリングオイルを混用しないでください。混用するとオイルの性状が変化しパワーステアリング装置の故障の原因になります。
- パワーステアリングオイルの補給容器はきれいなものを使用してください。異物が混入するとパワーステアリング装置の故障の原因になります。

1. 使用油脂

使用油脂
ふそう ATF

2. 点検，交換時期

点検時期	交換時期
自家用：1 年ごと 事業用：3 か月ごと（距離項目）	50,000km または 1 年ごと

- 新車時点検，交換は走行距離 1,000km を目安に行います。
- パワーステアリングオイルの交換は日産販売会社へお申し付けください。

3. 点検，補給

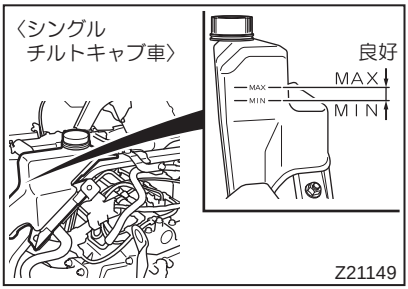
①平たんな場所に停車し，駐車ブレーキを効かせます。
②マニュアルトランスミッション搭載車はギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “P” 位置にします。
③前輪を直進状態にしエンジンを停止します。
④タイヤに輪止めをかけます。
⑤シングルキャブ車のキャブチルトできる車は，キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。
ダブルキャブ車はパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。

知識

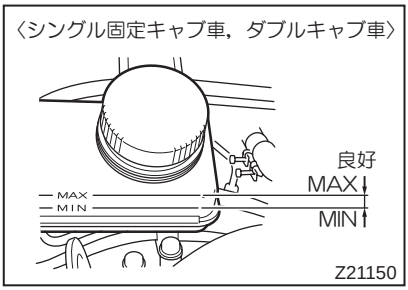
パワーステアリングオイル量の点検はエンジン停止後オイルが冷えているときに行ってください。油温が上昇するとオイル面も上昇しますので正確なパワーステアリングオイル量の点検ができません。

⑥リザーバータンクのキャップ付近をきれいに清掃します。

⑦リザーバータンク内のパワーステアリングオイル量が規定の範囲にあるか点検します。また，リザーバータンク内のパワーステアリングオイルに汚れがないか点検します。パワーステアリングオイルが汚れているときは日産販売会社で交換してください。



⑧オイル面が“MAX”と“MIN”の間にあれば良好です。
不足しているときはキャップを開け，“MAX”の線までパワーステアリングオイルを補給してください。



⚠ 注意

パワーステアリングオイルが異常に不足しているときはオイル漏れのおそれがあります。日産販売会社で点検をお受けください。

アドバイス

パワーステアリングオイルを“MAX”の線以上は補給しないでください。オイル漏れの原因になります。

⑨補給後はキャップを確実に取付けます。

給脂

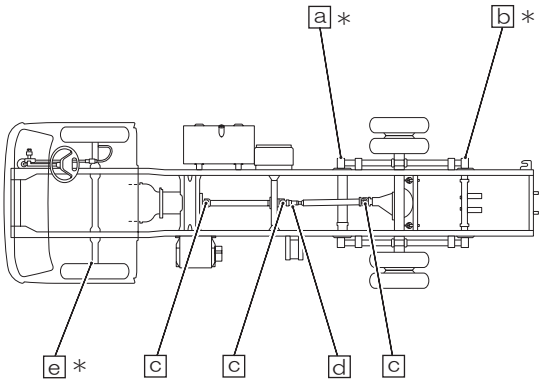
1. グリースニップル

アドバイス

- グリースニップルに付着しているホコリや泥をきれいにふき取ってから指定のグリースを給脂してください。
- 配線やゴムホースなどに付着したグリースや，あふれ出たグリースはふき取ってください。

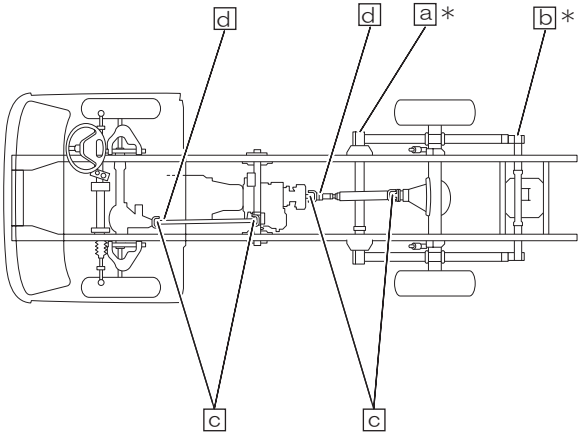
駐車ブレーキが確実に効いていることを確認し，タイヤに輪止めをしてからグリースの給脂をします。

〈FB，FE型〉

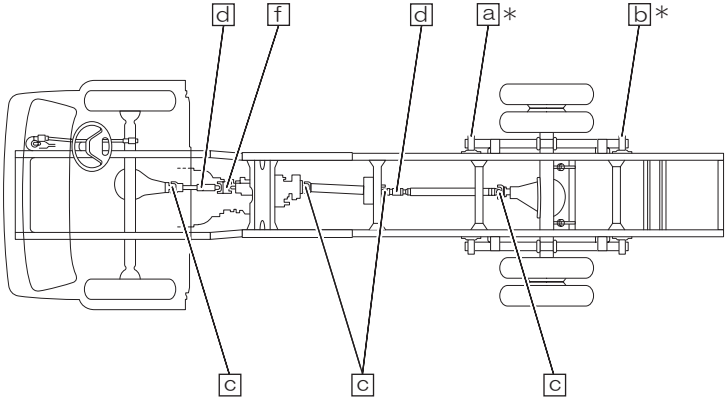


Z21151

〈FDA，FGA型〉



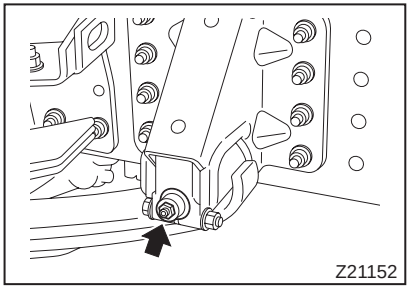
〈FGB型〉



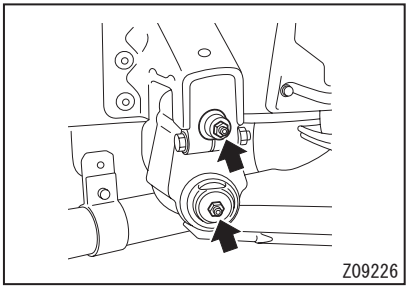
Z22276

● 自家用６か月ごと，事業用３か月ごと（シビアコンディション項目）に給脂
新車時は走行距離 1,000km を目安に給脂
《三菱シャシーグリース》

a リヤスプリング前（左右２個所）＊

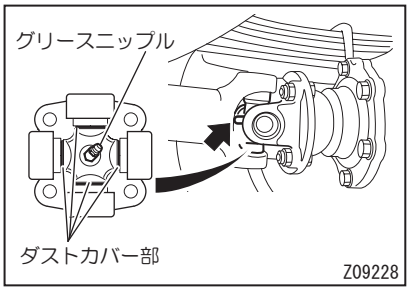


b リヤスプリング後（左右４個所）＊

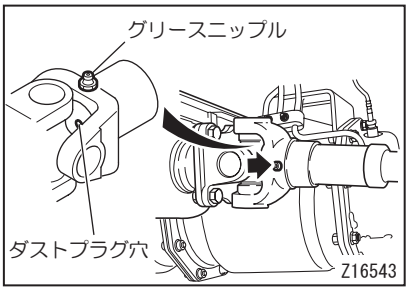


《三菱ホイールベアリンググリース》

c プロペラシャフトのユニバーサルジョイント
ユニバーサルジョイントのダストカバー部（4 個所）からグリースが出るまで給脂します。

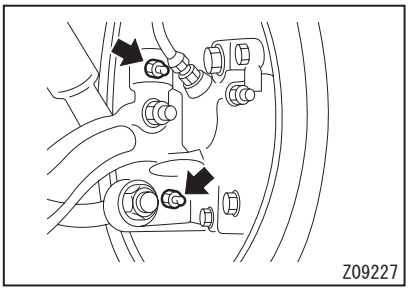


d プロペラシャフトのスリップジョイント
スリップジョイントダストプラグ穴からグリースが出るまで給脂します。



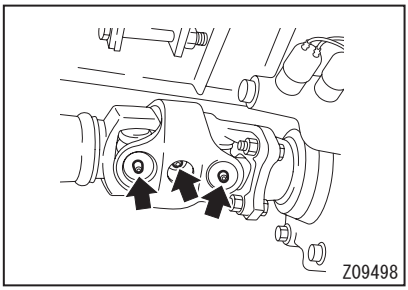
● **自家用 6 か月ごと，事業用 3 か月ごと（シビアコンディション項目）に給脂**
新車時は走行距離 1,000km を目安に給脂
《三菱オートグリスターグリースまたは三菱シャシーグリース》

ⓔフロントアクスルキングピン軸受部
（左右 4 個所）
〈リジッドリーフ式サスペンション車〉



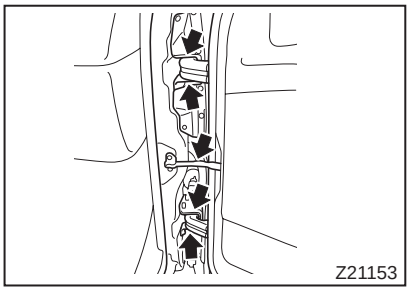
● **30,000km または 1 年ごとに給脂**
《三菱ホイールベアリンググリース》

ⓕプロペラシャフトのダブルカルダン
ジョイント〈FGB 型〉



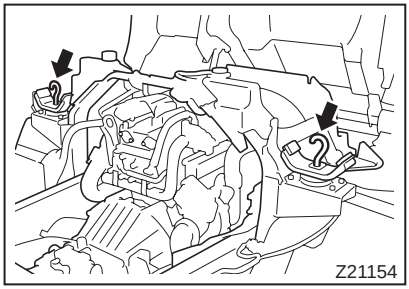
2. ドアヒンジ(左右ドア，ダブルキャブ車は前後左右ドア)

● **自家用６か月ごと，事業用３か月ごと（シビアコンディション項目）に塗布**
新車時は走行距離 1,000km を目安に塗布
《三菱シャシーグリース》



3. アンカーフック〈キャブチルト車〉

● **自家用６か月ごと，事業用３か月ごと（シビアコンディション項目）に塗布**
新車時は走行距離 1,000km を目安に塗布
アンカーフック全体に塗布
《三菱シャシーグリース》



16章 故障の処置

故障の原因と処置 …… 16-2
故障したとき …… 16-8
発炎筒の使い方 …… 16-10
オーバーヒートしたとき …… 16-11
ヒューズが切れたとき …… 16-13
リレーがこわれたとき …… 16-20
ランプが切れたとき …… 16-22
バッテリーあがりのとき …… 16-36
燃料タンクが空になったとき …… 16-40
尿素水タンクが空になったとき …… 16-40
けん引するとき …… 16-41

故障の原因と処置

故障が発生したときは次の表にしたがって点検し，処置してください。
ご自身で表の処置をしても直らないときは日産販売会社へご連絡ください。

故障の内容		推定原因	処置	記載ページ
エンジンがかからない	スターターが回らない，または回転が遅い	• スタータースイッチのヒューズまたはハイカレントヒューズが切れている	• 規定アンペア数のヒューズまたはハイカレントヒューズと交換してください。	16-13 16-18
		• バッテリーあがり	• 充電するか，バッテリーを交換してください。	16-36
		• バッテリーケーブルの外れ，緩み，腐食がある	• 腐食部を修正して確実に取付けてください。	14-64
		• スターターの故障	• 日産販売会社で修理をお受けください。	—
		• エンジンイモビライザー用スターターキーの通信不良	• スターターキーに金属や他のキーが接触しないか点検してください。	4-3
		• エンジンイモビライザーシステムの故障	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
		• アース端子が外れている	• 確実に取付けてください。	—
		• エンジンオイルの粘度が高すぎる	• 適正粘度のオイルに交換してください。	15-7

故障の内容		推定原因	処置	記載ページ
エンジンがかからない	スターターは正常に回る	• 燃料がない	• 燃料を補給しエア抜きを行ってください。	16-40
		• 燃料系統にエアが入っている	• エア抜きを行ってください。	16-40
		• 燃料フィルターが詰まっている	• エレメントを交換してください。	14-14
		• 燃料が凍結している	• 燃料パイプをお湯(60 ℃以下)で暖めてください。	—
		• エアクリーナーが詰まっている	• エレメントを清掃するか交換してください。	14-19
		• 予熱時間が不足している	• 正しく操作してください。	7-7
		• 予熱回路のヒューズが切れている	• 規定アンペア数のハイカレントヒューズと交換してください。	16-18
		• 燃料装置の故障	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
		• AdBlue®(尿素水)がない	• 指定のAdBlue®(尿素水)を補給してください。	7-27
		• 指定のAdBlue®(尿素水)以外が補給されている	• スタータースイッチを“LOCK”位置にし，エンジンを停止した状態で直ちに日産販売会社に連絡し，誤補給した液体の抜き取り及び点検をお受けください。	—
エンジンはかかるがすぐに止まってしまう		• アイドリング回転数が低すぎる	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
		• 燃料フィルターが詰まっている	• エレメントを交換してください。	14-14
		• エアクリーナーが詰まっている	• エレメントを清掃するか交換してください。	14-19
		• DPF が詰まっている	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
エンジンが止まらない		• スタータースイッチの故障	日産販売会社で点検をお受けください。	—
		• 燃料噴射システムの故障		—

故障の内容	推定原因	処置	記載ページ
排気ガスが黒い	DPF が破損している	日産販売会社で点検をお受けください。	—
オーバーヒートする	• ラジエーター前面がゴミなどで詰まっている • 冷却水が不足している • プレッシャーキャップの取付けが不完全 • ファンベルトが緩んでいる • 冷却水が汚れている	• 軟らかいブラシなどで清掃してください。 • 補給してください。 • 確実に取付けてください。 • 日産販売会社で点検をお受けください。 • 冷却水系統を洗浄し，冷却水を交換してください。	— 14-26 — — 14-26
エンジン油圧が上がらない	• エンジンオイルの量が不足している • エンジンオイルの粘度が不適当	• エンジンオイルを補給してください。 • 適正粘度のエンジンオイルに交換してください。	15-7 15-7
燃料消費量が多い	• 燃料漏れがある • エアクリーナーが詰まっている • タイヤ空気圧が不足している	• 燃料系統を点検し，緩みのあるときは増し締めをしてください。 • エレメントを清掃するか，交換してください。 • 適正な空気圧に調整してください。	— 14-19 13-8
エンジンオイルの消費量が多い	• 使用オイルが不適当 • エンジンオイルの量が多すぎる • オイル漏れがある • エンジンオイルの交換時期が遅すぎる • オイルフィルターが詰まっている	• 適正なエンジンオイルに交換してください。 • 正規の油量にしてください。 • オイル系統を点検し，緩みのあるときは増し締めをしてください。 • 適正な時期にエンジンオイルを交換してください。 • エレメントを交換してください。	15-7 15-7 — 15-7 14-9

故障の内容	推定原因	処置	記載ページ
力がない	• 駐車ブレーキが効いている	• 確実に解放してください。	7-69
	• エアクリーナーが詰まっている	• エレメントを清掃するか，交換してください。	14-19
	• 燃料フィルターが詰まっている	• エレメントを交換してください。	14-14
	• クラッチが滑っている	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
	• 燃料系統にエアが入っている	• エア抜きを行ってください。	16-40
	• DPF が詰まっている	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
	• AdBlue®（尿素水）がマフラー内で結晶化し，詰まっている	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
クラッチの切れが悪い〈マニュアルトランスミッション搭載車〉	• 負圧が不足している	• エンジン回転を上げ，負圧を上げてください。	—
	• クラッチ液が不足している	• ブレーキ液を補給してください。	—
	• クラッチペダルの遊びが大きすぎる	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
アイドリングストップシステム＊が作動しない	• エンジン始動直後で，冷却水温インジケーターが 4 目盛り以下になっている	• そのまま走行し，エンジン冷却水温度が上昇するのを待ちます。	7-19
	• エンジンが過熱し，冷却水温インジケーターが 9 目盛り以上のとき	• 安全な場所に停車し，エンジンをアイドリングよりやや高めで回し続け冷却水温度が下がるのを待ってください。	16-11
	• インジケーターランプが点滅している	• DPF を手動再生します。	7-130
	• DPF 再生中	• DPFの再生が終了するのを待ちます。	7-130

故障の内容	推定原因	処置	記載ページ
ブレーキの効きが悪い	• 負圧が不足している	• エンジン回転を上げ，負圧を上げてください。	—
	• ブレーキ液が不足している	• 補給してください。	15-24
	• 負圧漏れがある	• 負圧系統を点検し，緩みのあるときは増し締めをしてください。	—
	• ブレーキパッドやブレーキライニングの摩耗	• 日産販売会社で交換してください。	—
	• エアが混入している	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
走行中またはブレーキをかけたときに車両が左右に流れる	• 各タイヤの空気圧が不均一である	• 適正な空気圧に調整してください。	13-8
	• タイヤが偏摩耗している	• タイヤを交換してください。	14-43
	• 積み荷が左または右にかたよっている	• 均等に積んでください。	8-14
ハンドル操作が重い	• 積み荷が前にかたよっている	• 均等に積んでください。	8-14
	• パワーステアリングオイルが不足している	• パワーステアリングオイルを補給してください。	15-26
	• フロントタイヤの空気圧が不足している	• 適正な空気圧に調整してください。	13-8
ハンドルが振れる	• ホイールナットが緩んでいる	• 規定トルクで締付けてください。	14-60
	• 空気圧が各タイヤで不均一である	• 適正な空気圧に調整してください。	13-8
	• タイヤが偏摩耗している	• タイヤを交換してください。	14-43
	• タイヤが損傷している	• タイヤを交換してください。	14-43
	• タイヤバランスが取れていない	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
	• ブレーキバランスが取れていない	• 日産販売会社で点検をお受けください。	—
ハンドルの戻りが悪い	各部の給脂が十分でない	給脂してください。	15-28

故障の内容	推定原因	処置	記載ページ
ランプがつかない	• バルブ（電球）が切れている • 断線や各部アース不良	• バルブ（電球）を交換してください。 • 日産販売会社で修理をお受けください。	16-22 —
たびたびバッテリーが上がる	• バッテリー端子の外れ，緩み，腐食がある • ファンベルトが緩んでいる • バッテリー液が不足している • バッテリーの寿命がきている • アイドリング回転が低すぎる • 夜間だけ走行している • スイッチが入れたままになっている • オルタネーターの不良	• 腐食部を修正して確実に取付けてください。 • 日産販売会社で点検をお受けください。 • バッテリー液を補給してください。 • バッテリーを交換してください。 • 日産販売会社で点検をお受けください。 • バッテリーを充電してください。 • スイッチをこまめに切ってください。 • 日産販売会社で点検をお受けください。	14-64 — 14-64 14-64 — — — —

故障したとき

万一，車両が故障したときは，あわてずに後続車に注意しながら徐々にスピードを落とし，他の交通の妨げにならないような安全な場所に停車してください。

⚠ 警告

トンネル内の停車は危険です。できるだけトンネルから出て停車してください。トンネル内で停車すると重大な事故につながるおそれがあります。

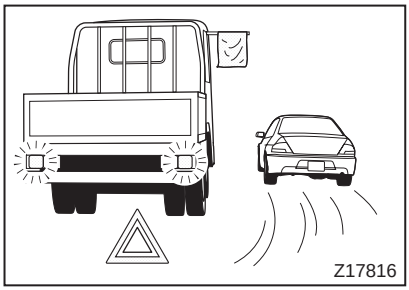
⚠ 注意

駐車ブレーキが効かないときは停車後，輪止めをかけてください。

1. 故障の表示

後続車の追突を避けるため停車後，故障の表示をします。表示には次の方法があります。

- 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる。
- 停止表示板を車両の後方に置く。
- 赤旗または白い布などを目立つ所に結び付ける。
- 非常信号灯を点灯させる。
- 場合によっては発炎筒を着火させる。



知識

高速道路や自動車専用道路で停止したときは非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させるとともに，停止表示板などを置いて後続車に注意を促してください。停止表示板などを使い，後続車に停止していることを知らせることは法律で義務付けられています。

2. 修理

故障個所を点検し，修理可能なときは他車の通行に十分注意しながら作業をしてください。修理が不可能なときは日産販売会社にご連絡ください。

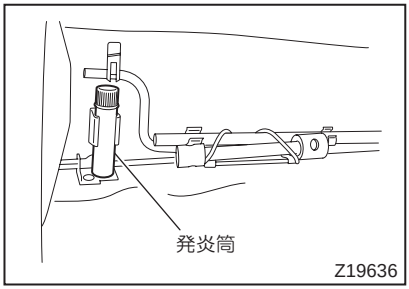
⚠ 警告

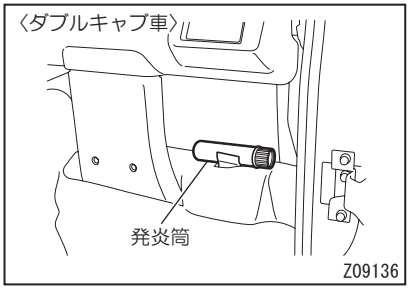
高速道路やトンネル内での修理は行わないでください。重大な事故につながるおそれがあります。

高速道路では，故障の表示などの処置を行った後に非常電話などで連絡し，ロードサービスの指示にしたがってください。また，車内に残らずガードレールの外などの安全な場所に避難してください。

発炎筒の使い方

- 高速道路や踏切などで故障した場合に緊急事態を知らせるときに使用します。
- 発炎筒は運転席の後部にあります。
- 使用したときや有効期限が過ぎる前に，日産販売会社にお申し付けください。





⚠ 警告

- 着火のときは，発炎筒の先を顔や体に絶対向けないでください。炎が 15cm 程度吹き出しやけどをするおそれがあります。
- お子さまには発炎筒をいじらせないでください。誤って着火するとやけどをするおそれがあります。
- 燃料などの燃えやすい物の近くでは使用しないでください。火災を起こすおそれがあります。
- トンネル内では使用しないでください。煙により視界が悪くなり，重大な事故につながるおそれがあります。非常点滅灯を使用するか白い布などを車外の目立つところに結び付けてください。

知識

- 使い方は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎時間は約 5 分間ですので非常点滅灯と併用してください。

オーバーヒートしたとき

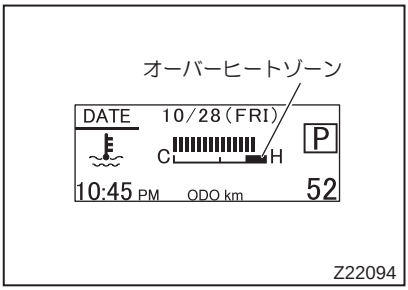
⚠ 警告

冷却水が高温時，プレッシャーキャップは絶対に外さないでください。
むやみに外すと熱湯や蒸気が噴き出して，やけどをするおそれがあります。
キャップを外すときは冷却水温が下がってから，厚手の布を重ねてかぶせ，ゆっくりと開けてください。

アドバイス

- エンジンをすぐに止めないでください。水温が急上昇しエンジンが焼付くことがあります。アイドリング調整ボタン未装着車はアクセルペダルを踏み，エンジンをアイドリングよりやや高めで回し続けて冷却してから止めてください。アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，アイドリングよりやや高めで回し続けて冷却してから止めてください。
- 冷たい水を急に入れるとエンジンにき裂が入ることがありますので少しずつ補給してください。

ウォーニングランプが点灯し，マルチインフォメーションディスプレイに DATE（赤色）が表示され，冷却水温インジケーターがレッドゾーンを示しているときはエンジンがオーバーヒートを起こしています。このとき同時にブザーが鳴ります。
安全な場所に停車し，アイドリング調整ボタン未装着車はアクセルペダルを踏み，エンジンをアイドリングよりやや高めで回し続け冷却します。アイドリング調整ボタン装着車はアイドリング調整ボタンをマニュアルアイドルにし，アイドリングよりやや高めで回し続け冷却します。7-6 ページをごらんください。



冷却水温インジケーターが中央付近まで戻り，マルチインフォメーションディスプレイに DATE（緑色）が表示されてからエンジンを止め，次の点検，処置を行います。

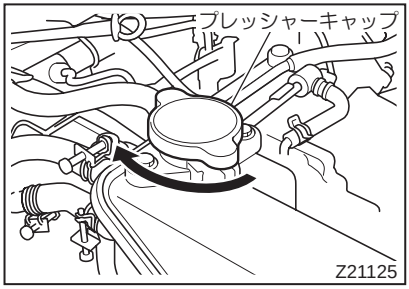
①シングルキャブ車のキャブチルトできる車は，キャブを上げます。4-20 ページをごらんください。ダブルキャブ車はエンジン点検口，及びパワーステアリングオイル，冷却水点検口を開けます。4-26 ページをごらんください。

②ラジエーターホースなどから冷却水が漏れていないか点検します。

③ファンベルトが切れていないか，またベルトを押し，著しくたわんでないか点検します。
13-15 ページをごらんください。

④冷却水の量を点検します。不足しているときは冷却水を補給します。
補給する冷却水については 14-26 ページをごらんください。

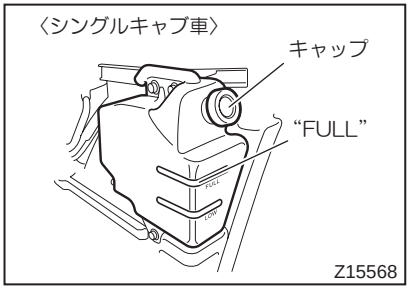
● プレッシャーキャップを外し，キャップの口元まで冷却水を補給します。
補給後，プレッシャーキャップを取付けます。

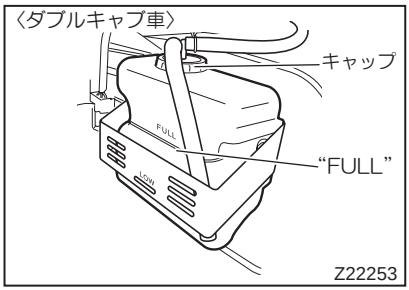


アドバイス

プレッシャーキャップは確実に閉じてください。プレッシャーキャップが確実に閉じられていないとオーバーヒートしたとき，熱湯や蒸気が噴き出すおそれがあります。

● リザーバータンクのキャップを外し “FULL” まで冷却水を補給します。
補給後，キャップは確実に取付けてください。





⑤ラジエーターの前面にゴミなどが付着していないか点検します。汚れているときは清掃します。

⑥キャブを上げた車はキャブを降ろします。ダブルキャブ車はエンジン点検口，及びパワーステアリングオイル，冷却水点検口を閉めます。

⑦冷却水漏れがあったり，たびたびオーバーヒートするときは冷却系統の故障です。日産販売会社へご連絡ください。

ヒューズが切れたとき

本車両の電圧は，12 ボルトです。
バッテリーイコライザーを搭載している車両には 12 ボルトと 24 ボルトの回路があり，ヒューズによって電圧が異なります。

⚠ 注意

- ヒューズやハイカレントヒューズを交換するときは，スタータースイッチを“LOCK”位置，各スイッチを OFF 位置にしてください。通電したままヒューズやハイカレントヒューズを交換すると電気装置が故障するおそれがあります。なお，EZGO 装着車が EZGO 作動中に EZGO のヒューズやハイカレントヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され，坂道では車が下がり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ご自身での追加配線や加工は行わないでください。追加配線や加工を行うと，装置の誤作動や配線の過熱により火災を起こすおそれがあります。電装品の取付けなどで追加配線や加工が必要となったときは日産販売会社にご相談ください。
- ヒューズは必ず純正部品を使用し，規定のアンペア数の物と交換してください。規定のアンペア数以外の物や針金等を使うと火災を起こすおそれがあります。ヒューズが切れたときは日産販売会社に連絡し，点検及び交換をお受けください。

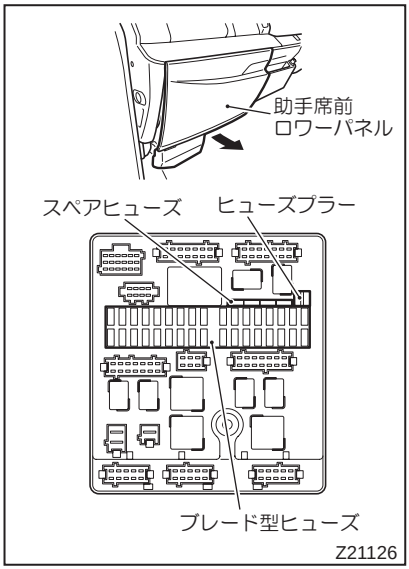
アドバイス

- 尿素水添加システムはスタータースイッチを“LOCK”位置にした後も約2分間作動しています。ヒューズを取外すときは 2 分以上経過してから行ってください。
- ヒューズボックスの周辺には水などをかけないでください。万一，かかってしまったときはヒューズボックスに水滴などが入っていないか確認してください。

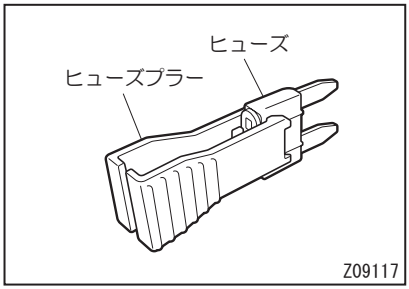
ブレード型ヒューズは車内のヒューズボックス内と車外のハイカレントヒューズボックス内にあります。大電流用のハイカレントヒューズは車外のハイカレントヒューズボックス内にあります。

1. ブレード型ヒューズの交換

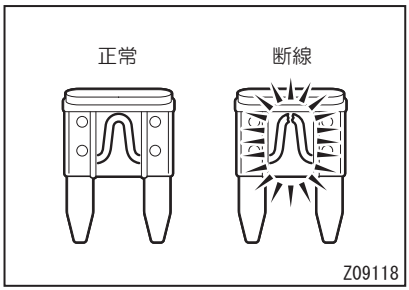
①スタータースイッチを “LOCK” 位置，各スイッチを “OFF” 位置にします。
②助手席前ロワーパネルを取外します。
ロワーパネルの取付けは，パネルの上側のつめを取付け部に合わせてから，押し込みます。
車外のハイカレントヒューズボックスのカバーの脱着は次項をごらんください。



③ヒューズの交換はヒューズボックスにあるヒューズプラーでヒューズをはさみ，抜き取ります。
ヒューズの使用先及びアンペア数（A）はロワーパネル裏側に記載されています。

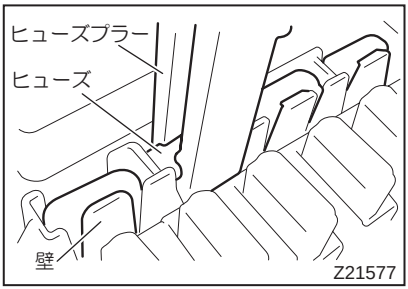


④ヒューズが切れているときは，必ず記載されたアンペア数のスペアヒューズに交換します。



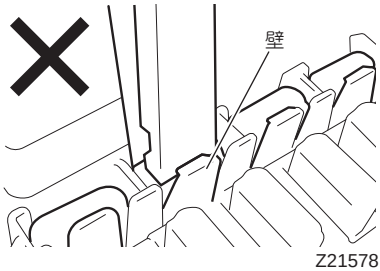
● **スペアヒューズの取外しかた**

スペアヒューズを取外すときは，スペアヒューズを固定している壁の外側からプラーを差し込んでください。

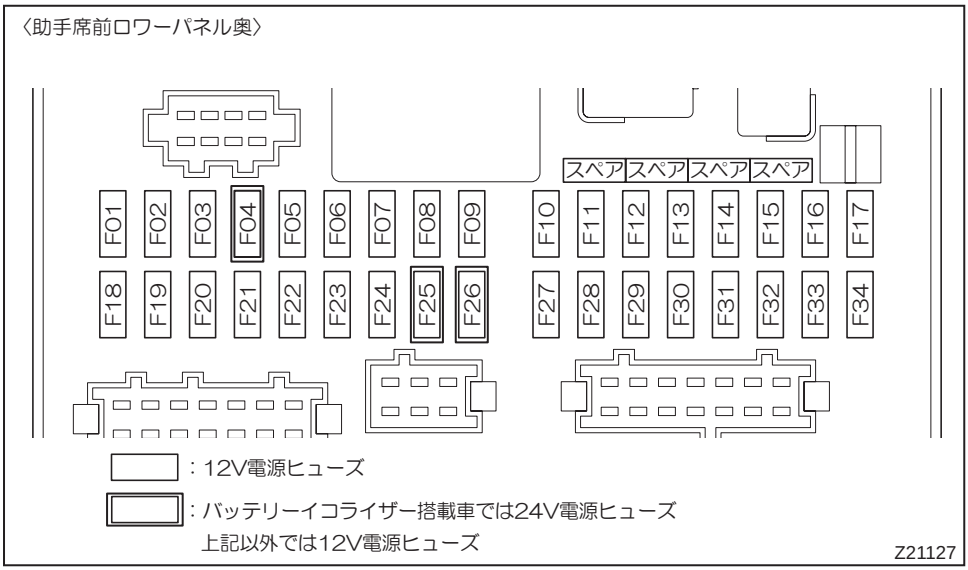


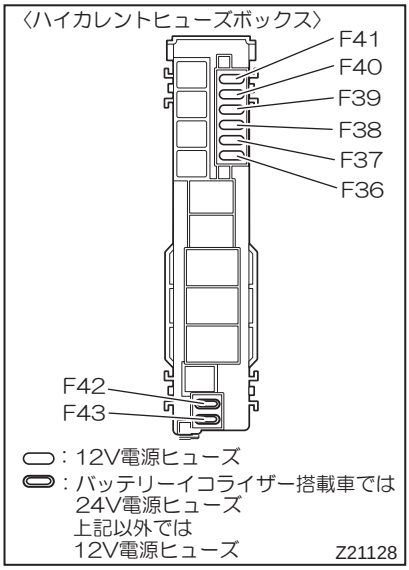
⚠ 注意

スペアヒューズを固定している壁の内側からプラーを差し込まないでください。機器が破損し，誤作動・火災の要因となります。



● ブレード型ヒューズの配置及び使用先





ブレード型ヒューズ		主な使用先
番号	アンペア数（ケース色）	
F01	10A（赤）	スターター
F02	10A（赤）	スペアアウトプット
F03	10A（赤）	SRS エアバッグ ECU
F04※	10A（赤）	オプション電源（IGN）
F05	30A（緑）	パワーウィンドー（運転席側）
F06	10A（赤）	ECU（バッテリー電源，作業用補助制動装置，EZGO（イージーゴー），ヒルスタートアシスト）
F07	30A（緑）	パワーウィンドー（助手席側）
F08	20A（黄）	オプション電源（キセノンヘッドランプ（R））
F09	10A（赤）	メーター，ダイアグコネクター
F10	30A（緑）	スペアアウトプット，アイドリングストップシステム（ECU）
F11	30A（緑）	ブロワー
F12	15A（青）	オーディオ，ルームランプ
F13	10A（赤）	スタータースイッチ，アイドリングストップシステム ECU
F14	10A（赤）	ホーン
F15	10A（赤）	オーディオ
F16	20A（黄）	パワーミラー，シガライター，スペアアウトプット
F17	20A（黄）	燃料ヒーター
F18	10A（赤）	ABS ECU
F19	15A（青）	エンジン ECU
F20	10A（赤）	ECU（IGN，作業用補助制動装置，EZGO（イージーゴー），ヒルスタートアシスト，アイドリングストップシステム，オートレベリング），4WD マグネットバルブ
F21	10A（赤）	—
F22	15A（青）	メーター
F23	10A（赤）	—
F24	10A（赤）	DUONIC 2.0 ECU
F25※	10A（赤）	オプション電源（ACC 電源）
F26※	10A（赤）	オプション電源（バッテリー電源）
F27	20A（黄）	オプション電源（キセノンヘッドランプ（L））
F28	15A（青）	エンジン ECU
F29	20A（黄）	排気処理システム
F30	20A（黄）	排気処理システム
F31	20A（黄）	エンジン ECU
F32	10A（赤）	エアコン

ブレード型ヒューズ		主な使用先
番号	アンペア数（ケース色）	
F33	—	—
F34	15A（青）	燃料ポンプ
F36	20A（黄）	DUONIC 2.0 ECU
F37	10A（赤）	リヤブロワーファン
F38	15A（青）	リヤコンデンサーファン
F39	—	—
F40	20A（黄）	コンデンサーファン
F41	30A（緑）	ハイドロリックユニット
F42※	10A（赤）	オルタネーター（バッテリーイコライザー搭載車のみ）
F43※	—	—

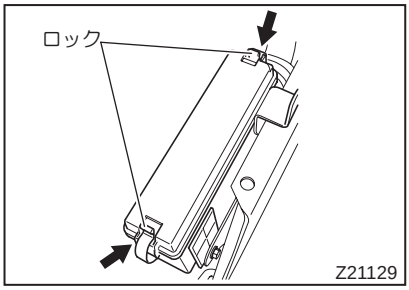
※バッテリーイコライザー搭載車の場合，主な使用先の電圧が 24 ボルトです。

2. ハイカレントヒューズの交換

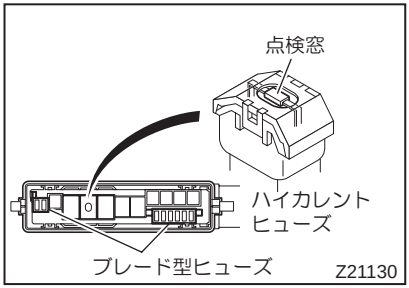
アドバイス

切れているときは直ちに日産販売会社に連絡し，点検，交換をお受けください。

①スタータースイッチを “LOCK” 位置，各スイッチを “OFF” にします。
②ハイカレントヒューズボックスはバッテリーボックスの横にあります。
③カバーのロック（2 個所）を外し，取外します。



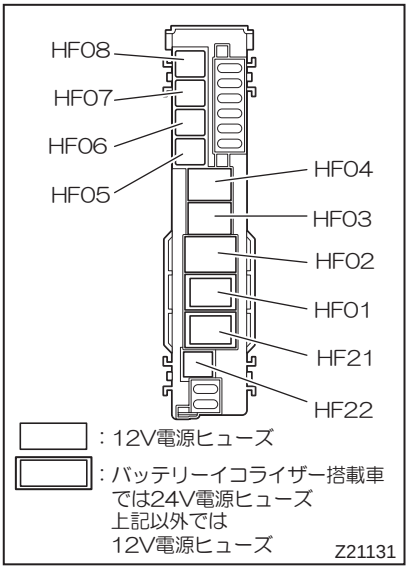
④ハイカレントヒューズの点検窓からヒューズが切れていないか点検します。切れているときは日産販売会社に連絡し，点検，交換をお受けください。
ハイカレントヒューズカバー裏側にアンペア数（A）が記載されています。



知識

ハイカレントヒューズボックスの位置によっては点検しづらい場合があります。
その場合は，キャブチルトをするか，手鏡などを使用してハイカレントヒューズの点検窓から点検をしてください。

● ハイカレントヒューズの配置及び使用先



ハイカレントヒューズ		主な使用先
番号	アンペア数（ケース色）	
HF01	140A（あずき）	SAM
HF02	—	—
HF03	80A（黒）	SAM
HF04	—	—
HF05	60A（黄）	グロー ECU
HF06	40A（緑）	スターターリレー
HF07	—	—
HF08	50A（赤）	ハイドロリックユニット
HF21※	—	—
HF22※	40A（緑）	SAM

※バッテリーイコライザー搭載車の場合，主な使用先の電圧が 24 ボルトです。

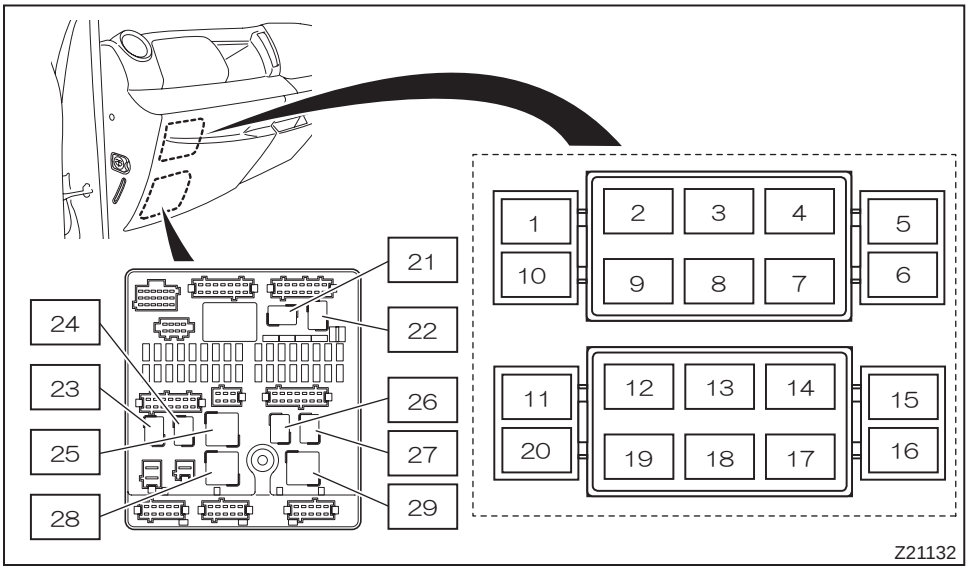
リレーがこわれたとき

アドバイス

リレーは必ず純正品を使用し，規定のリレーと交換してください。
交換は日産販売会社にご依頼ください。

リレーは車内の助手席前ロワーパネルの奥にあります。

● リレーの配置



番号	リレーの名称
1	―
2	燃料ヒーター用
3	コンデンサーファン用
4	ギヤシフトレバー用〈DUONIC 2.0 搭載車〉
5	パーキング，ニュートラル信号用(特装予備回路)※
6	作業用補助制動装置用
7	キセノンヘッドランプ（RH）用
8	スターター用
9	キセノンヘッドランプ（LH）用
10	―

番号	リレーの名称
11	―
12	電動格納ミラー（助手席）用（SET）
13	電動格納ミラー（助手席）用（CLOSE）
14	電動格納ミラー（運転席）用（SET）
15	―
16	―
17	アイドリングストップシステムヒルスタートカットスイッチ用
18	―
19	電動格納ミラー（運転席）用（CLOSE）
20	―
21	ブロワーファン用
22	ホーン用
23	オプション（ACC）用 ※
24	オプション（IGN）用 ※
25	キー信号（IGN）用
26	燃料ポンプ用
27	マグネットクラッチ用
28	エンジン ECU メーン電源用
29	キー信号（ACC）用

※バッテリーイコライザー搭載車の場合，主な使用先の電圧が 24 ボルトです。

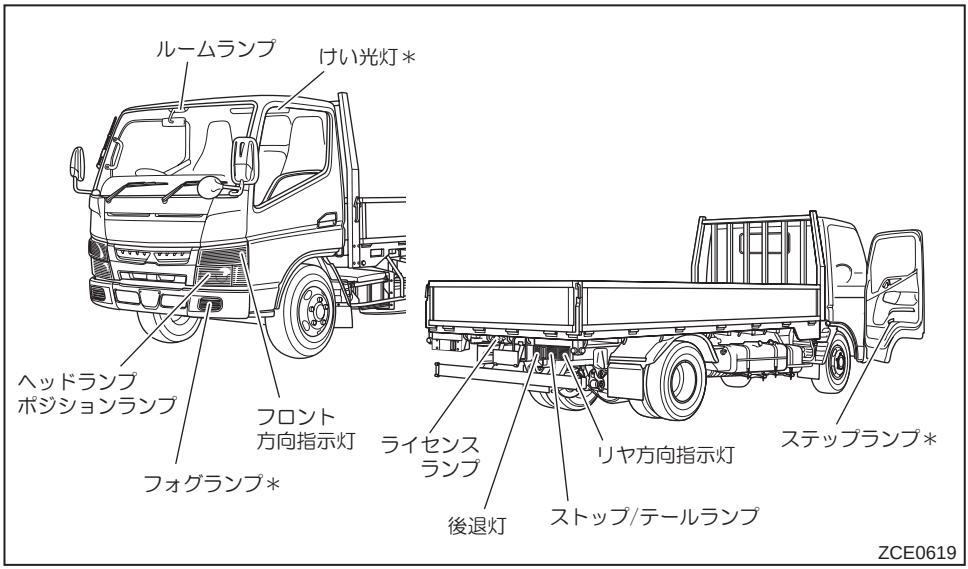
ランプが切れたとき

⚠ 注意

- バルブは必ず規定の物（電圧，ワット数）を使用してください。規定以外の物を使用するとキャブ及び架装物の電装品の制御機能が故障したり，配線の過熱により火災を起こすおそれがあります。
- 消灯直後はバルブ交換を行わないでください。バルブが高温になっているため，やけどをするおそれがあります。時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- バルブを落とさないように注意してください。バルブが破損するとガラス片が飛散しケガの原因になります。とくに，ハロゲンバルブは，ガラス内部の圧力が高いため注意してください。

アドバイス

- バルブの交換を行うときは必ずスタータースイッチを “LOCK” 位置，各スイッチを “OFF” 位置にしてから行ってください。
- ハロゲンバルブやキセノンバルブのガラス部は指で直接触れないでください。
  油などが付着すると電球の寿命が短くなります。
- ヘッドランプ，方向指示灯は樹脂製レンズを使用していますのでアルコールやシンナー等で清掃しないでください。
- ヘッドランプ等のランプは雨天走行や洗車などによりレンズ内面が結露することがあります。これは雨天時に窓ガラスがくもるのと同様に，ランプの内部と外部の温度差により発生するもので機能上の問題はなく自然に消えます。
- ヘッドランプのレンズ面にはシールやテープを貼り付けないでください。レンズの材質が樹脂ですので熱により変形するおそれがあります。



ランプ名称		バルブワット数（バルブの種類）	個数
ヘッドランプ〈ハロゲンバルブ装着車〉＊		12V-60/55W（H4）	2
ヘッドランプ〈キセノンバルブ装着車〉＊	キセノンバルブ（外側）	85V-35W（D2R）	2
	ハロゲンバルブ（内側）	12V-55W（H1）	2
ポジションランプ		12V-5W（W5W）	2
フォグランプ＊		12V-55W（H3）	2
フロント方向指示灯		12V-21W（W21W）	2
フロントサイド方向指示灯＊		12V-21W（P21W）	2
ストップ / テールランプ（ダブルフィラメントタイプ）		12V-21/5W（P21/5W）	2
後退灯		12V-21W（P21W）	2
リヤ方向指示灯		12V-21W（P21W）	2

ランプ名称	バルブワット数 （バルブの種類）	個数
ライセンスランプ	12V-10W （R10W）	1
ステップランプ＊	12V-5W （W5W）	2
ルームランプ＊	LED	1
マップランプ付ルームランプ＊	12V-8W	2
けい光灯＊	12V-10W	1

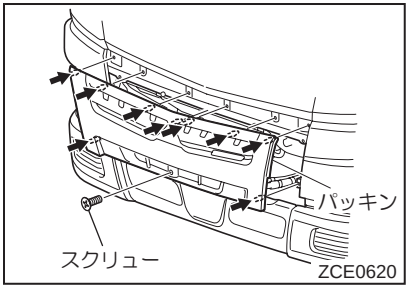
LED 式のランプが点灯しないときは，日産販売会社で点検をお受けください。

1. ヘッドランプの各バルブ交換

バルブの交換作業を安全，容易に行うため，ヘッドランプを外して行います。ヘッドランプは，ラジエーターグリル及びフロント方向指示灯を外してから取外します。

1.1 ヘッドランプの脱着

1.1.1 ラジエーターグリルの取外し，取付け

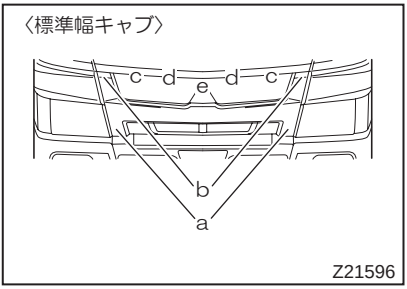


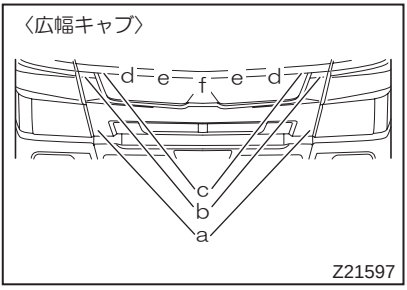
● 取外し

①ラジエーターグリルのスクリューを取外します。

②取外すときは，図示のａ，ｂ，ｃの順番でクリップ部を取外します。

> **アドバイス**
>
> グリルを引くときは車両前方に水平に引いてください。





● 取付け

①取付けるときは，取外しの逆手順で取付けます。
フロントグリルを取付けるとき，グリルの両脇にあるパッキンがランプとの隙間からはみ出ないようにして取付けます。

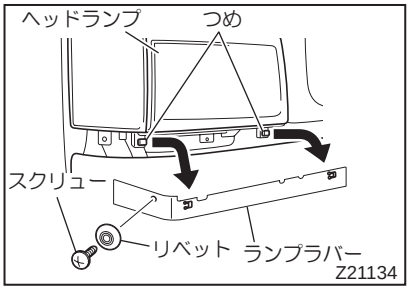
②スクリューを取付けます。

アドバイス

フロントグリル取付け後，グリル両脇にあるパッキンがランプとの隙間からはみ出ていないか，確認してください。
はみ出していた場合，表面から見えないように押し入れてください。
このとき，フロントグリルやランプを傷つけないようにしてください。

1.1.2　ヘッドランプの取外し

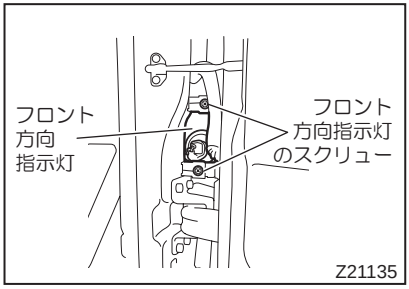
①スクリュー，リベットを外し，ヘッドランプ下部のランプラバーを車両内側に動かし，つめから抜き取ります。



アドバイス

ランプラバーを取外すときは無理に引っ張らないでください。つめが破損するおそれがあります。

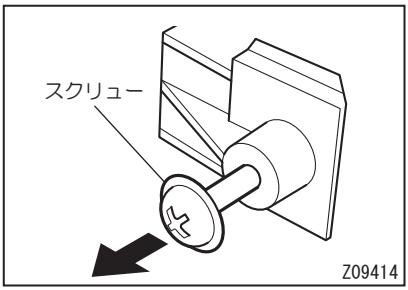
②ドアを開けて，フロント方向指示灯裏側のスクリューを空回りするまで緩めます。



アドバイス

スクリューは無理に引っ張らないでください。スクリューは外れて落ちない構造になっています。

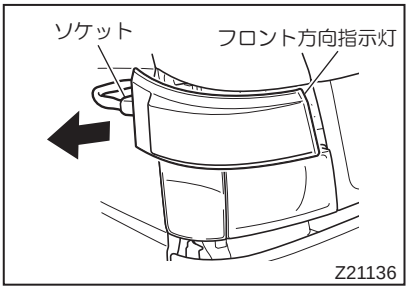
③スクリューは手前に引き出しておきます。



アドバイス

フロント方向指示灯は，スクリューを引き出しておかないと引っ掛かり取外しできません。

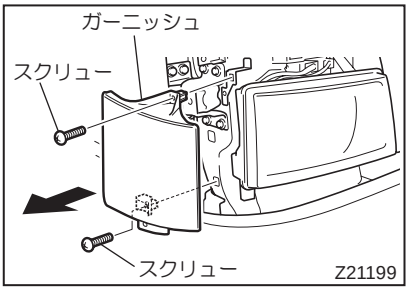
④ドアを閉めます。
⑤フロント方向指示灯を車両外側に取外します。
取外し後，ソケットを取外します。



アドバイス

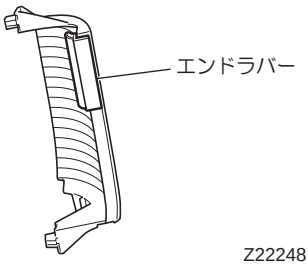
- フロント方向指示灯を取外すときは，手前に引っ張らないでください。つめが破損するおそれがあります。
- フロント方向指示灯を車両外側に動かしたままで，ドアを開けないでください。ドアがランプにぶつかり損傷するおそれがあります。

⑥ガーニッシュ上下のスクリューを外し，ガーニッシュを車両外側に取外します。

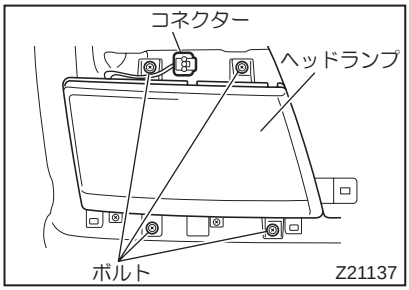


アドバイス

ガーニッシュのエンドラバーを取外さないでください。

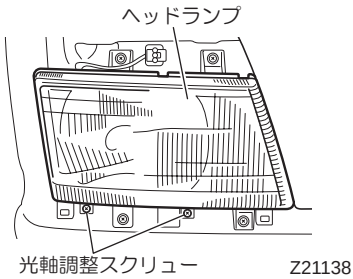


⑦ヘッドランプのボルトを取外します。
キセノンヘッドランプの場合はコネクターを取外します。

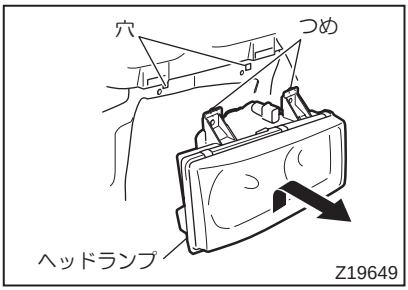


アドバイス

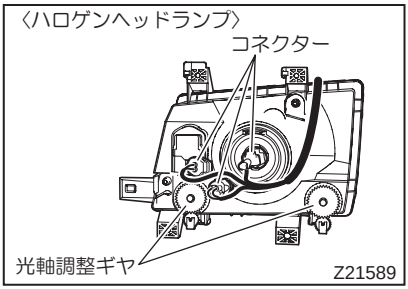
- キセノンバルブ装着車はヘッドランプを脱着するときに光軸調整スクリューを回さないでください。回してしまったときは日産販売会社で光軸調整をお受けください。
- ヘッドランプなどを取外して置くときは，レンズ面に傷が付かないように柔らかい布等の上に置いてください。



⑧ヘッドランプを少し上に持ち上げ，つめを穴から抜き取り，手前に引き出します。



⑨ハロゲンヘッドランプの場合は手前に引き出した後，コネクターを取外します。

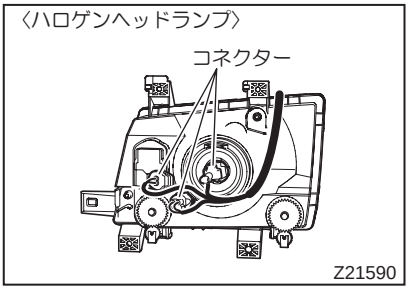


アドバイス

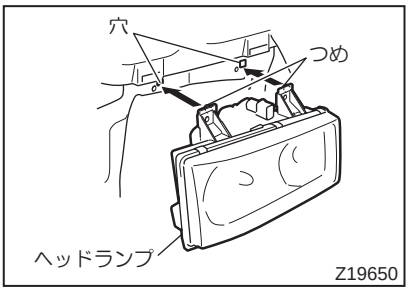
光軸調整ギヤは回さないでください。回してしまったときは日産販売会社で光軸調整をお受けください。

1.1.3　ヘッドランプの取付け

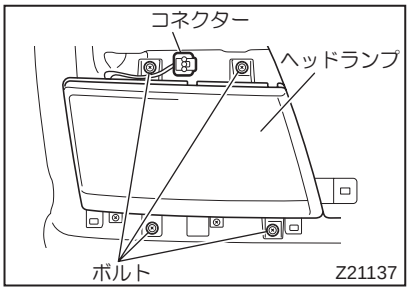
①ハロゲンヘッドランプの場合はコネクターを取付けます。



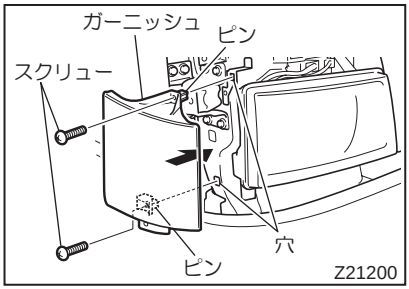
②ヘッドランプのつめを穴に差し込み，ヘッドランプを取付けます。



③ヘッドランプのボルトを取付けます。
キセノンヘッドランプの場合はコネクターを取付けます。



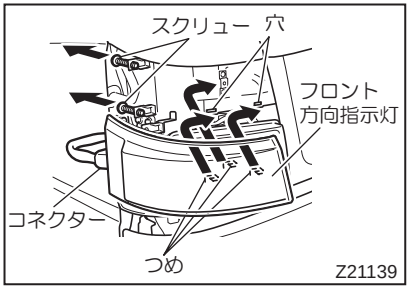
④ピンを穴に差し込み，ガーニッシュを取付けてからスクリューを締付けます。



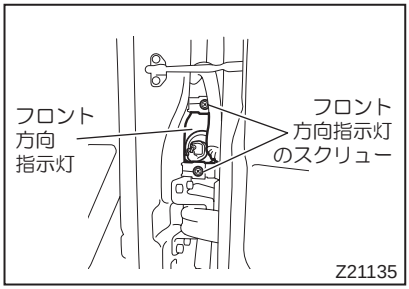
アドバイス

スクリューは強く締付けすぎないでください。取付け部が損傷するおそれがあります。

⑤フロント方向指示灯にコネクターを取付けます。
⑥スクリューを引き出しておきます。
⑦つめを穴に合わせて，ランプを車両内側に差し込みます。



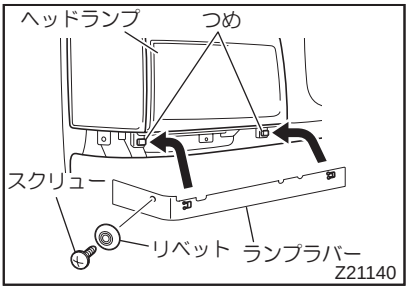
⑧ドアを開けて，フロント方向指示灯裏側のスクリューを締付けます。



アドバイス

- フロント方向指示灯は完全に車両内側に差し込んでください。不完全な状態でドアを開けるとドアがランプにぶつかり損傷するおそれがあります。
- スクリューは強く締付けすぎないでください。取付け部が損傷するおそれがあります。

⑨ヘッドランプ下部のランプラバーを車両外側に動かしながらつめに差し込みます。
⑩リベットを取付けてからスクリューを押し込みます。



1.2 ヘッドランプのバルブ交換

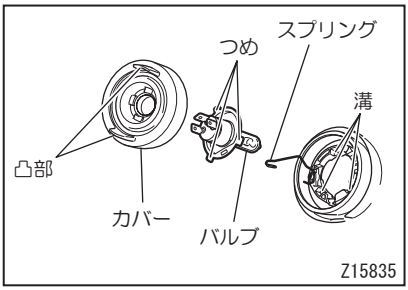
1.2.1 ハロゲンヘッドランプ（2 灯式）＊

● 取外し

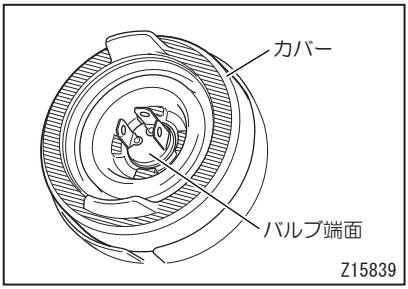
①カバーの凸部を持ち手前に引き取外します。
②バルブを押さえているスプリングを外します。
③バルブを抜き取ります。

● 取付け

①バルブのつめを溝に合わせて取付け，スプリングで固定します。
②カバーの内側が汚れているときは清掃します。



③カバーをバルブ端面が少し出るまで押し込み取付けます。カバーを押し込むときは図の斜線部を押します。



1.2.2　キセノンヘッドランプ（4 灯式）＊

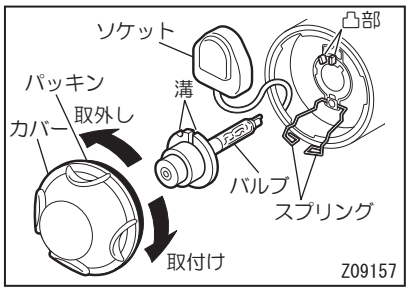
⚠ 注意

キセノンバルブには高電圧が流れています。バルブを交換するときは必ずライトスイッチを “OFF” にして，スタータースイッチを “LOCK” 位置にしてください。

● キセノンバルブ（外側）

• 取外し

①カバーを押し付けながら左に回して取外します。
②ソケットを押し付けながら止まるところまで左に回し，引き抜いて取外します。
③バルブを押さえているスプリングを外します。
④バルブを抜き取ります。



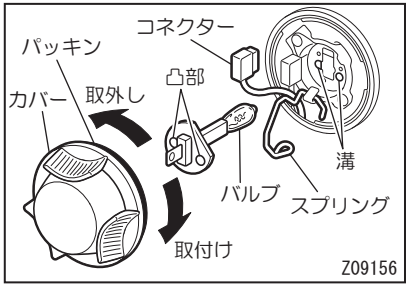
• 取付け

①バルブの溝を凸部に合わせて取付け，スプリングで固定します。
②ソケットを差し込み，押し付けながら止まるところまで右に回し取付けます。
③パッキンが汚れているときは清掃します。パッキンがねじれていないか確認し，ねじれているときは直します。
④コネクターを取付け，カバーを右に回して取付けます。

● ハロゲンバルブ（内側）

• 取外し

①カバーを押し付けながら左に回して取外します。
②バルブに付いているコネクターを取外します。
③バルブを押さえているスプリングを外します。
④バルブを抜き取ります。

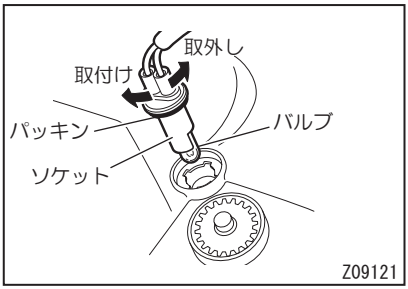


• 取付け

①バルブの凸部を溝に合わせて取付け，スプリングで固定します。
②コネクターを確実に差し込みます。
③パッキンが汚れているときは清掃します。パッキンがねじれていないか確認し，ねじれているときは直します。
④カバーを押し付けながら右に回して取付けます。

1.3　ポジションランプのバルブ交換

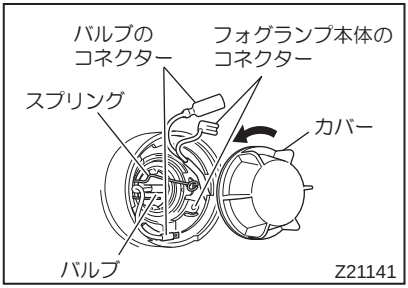
①ソケットを左に回し取外します。
②バルブを抜き取ります。
③取付けは逆順序で行います。
④パッキンが汚れているときは清掃してください。



2. フォグランプのバルブ交換＊

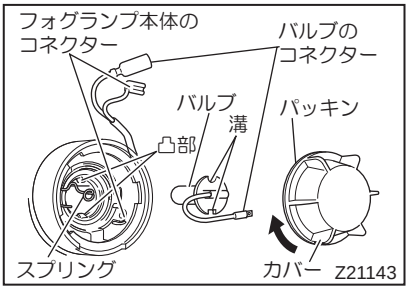
● 取外し

①キャブチルトできる車はキャブを上げます。
②カバーを左に回して取外します。
③バルブのコネクターを取外します。
④フォグランプ本体のコネクターを取外します。
⑤スプリングを外しバルブを抜き取ります。



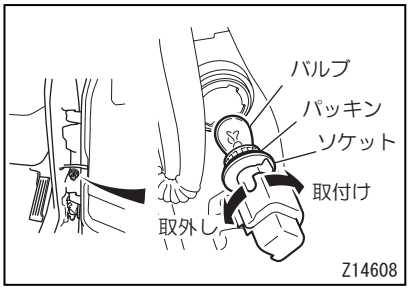
● 取付け

①バルブの溝をフォグランプ本体の凸部に合わせて取付け，スプリングで固定します。
②バルブのコネクターを取付けます。
③フォグランプ本体のコネクターを取付けます。
④パッキンが汚れているときは清掃します。パッキンがねじれていないか確認し，ねじれているときは直します。
⑤カバーを右に回して取付けます。
⑥キャブを降ろします。



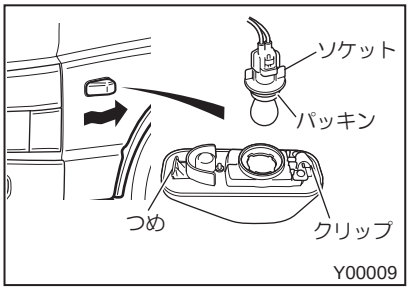
3. フロント方向指示灯のバルブ交換

①ドアを開きます。
②ソケットを左に回し抜き取ります。
③バルブを押しながら左に回し抜き取ります。
④取付けは逆順序で行います。
⑤パッキンが汚れているときは清掃してください。



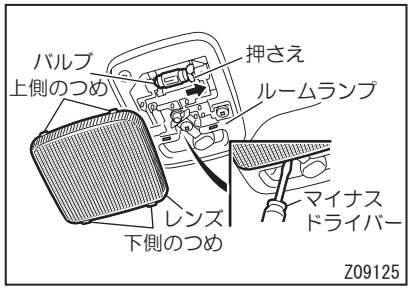
4. フロントサイド方向指示灯のバルブ交換＊

①ランプの前側を後ろに押し，つめを外して取外します。
②ソケットを左に回して抜き取ります。
③バルブを押しながら左に回し抜き取ります。
④バルブを押しながら右に回して取付けます。
⑤パッキンが汚れているときは清掃します。
⑥ソケットを右に回して取付けます。
⑦ランプ前側のつめをはめてから，クリップ側を軽くたたいて取付けます。



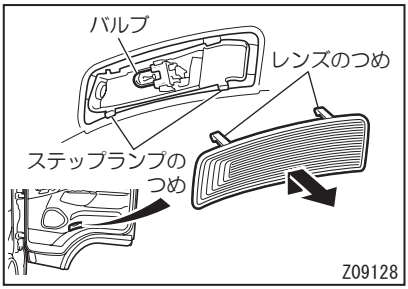
5. マップランプ付ルームランプのバルブ交換＊

①切り欠きにマイナスドライバーを差し込み，レンズの上側のつめを外して取外します。
②バルブを押し込みながら左に回し抜き取ります。
③取付けはレンズの下側のつめを差し込み，上側のつめを合わせて押し込みます。



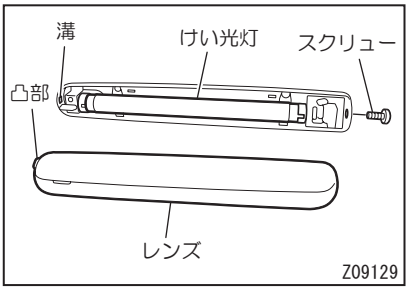
6. ステップランプのバルブ＊

①レンズ下側のつめ部にマイナスドライバーを差し込み，レンズを手前に引き上げ取外します。
②バルブを抜き取ります。
③取付けはレンズの下側のつめを差し込み，上側を押し込みます。



7. けい光灯の交換＊

①プラスドライバーでスクリューを外し，レンズを取外します。
②けい光灯を回して抜き取ります。
③取付けはレンズの凸部を溝に合わせてスクリューで固定します。



8. その他のランプのバルブ交換

①レンズを止めているスクリューを外しレンズを取外します。
②バルブは左に回し取外します。
③バルブは右に回し取付けます。
④パッキンがずれたり，ねじれたりしないようにレンズを取付けます。またパッキンが汚れているときは清掃します。
⑤レンズを取付けているスクリューはすべて均等に締付けます。

バッテリーあがりのとき

⚠ 危険

- ブースターケーブルの接続順序を間違えないでください。
  ブースターケーブルをフレームに接続するときに火花が出ることがありバッテリーから発生している水素ガスに引火し，爆発の原因になります。
  バッテリーからできるだけ離れた場所に接続してください。
- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下のときは補充してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり，発熱や爆発の原因になります。

⚠ 警告

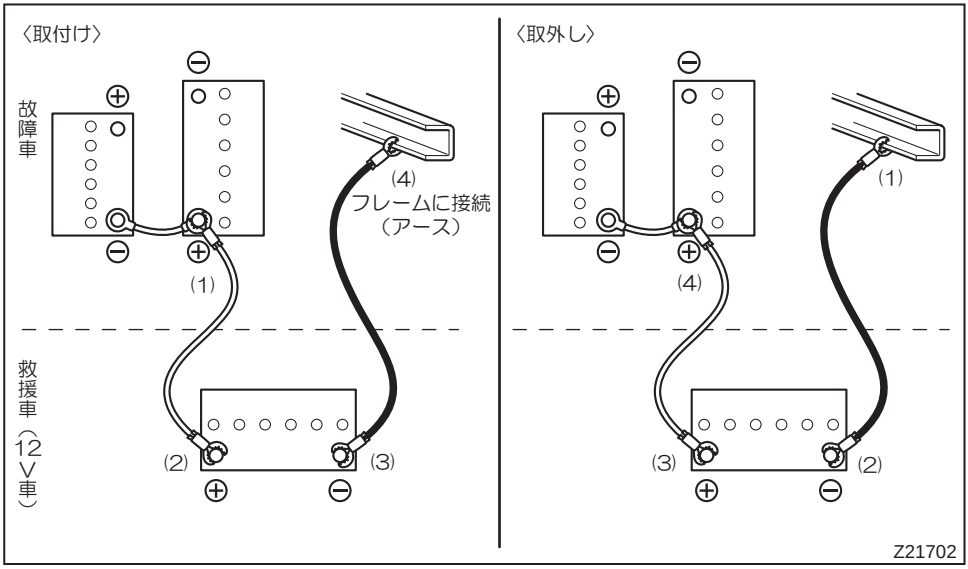
けん引または押しがけによるエンジンの始動は絶対に行わないでください。ブレーキの効きが悪く，ハンドル操作も異常に重くなり重大な事故につながるおそれがあります。

バッテリーあがりのためブースターケーブルを使用して救援車のバッテリーと接続してエンジンを始動するときは，次の方法で行ってください。

● タイプ 1（バッテリーイコライザ搭載車）

アドバイス

- ブースターケーブルは容量の大きいものを使用してください。
- バッテリーあがりのとき，救援車は 12V の車両を使用してください。24V 車は使用しないでください。
- バッテリーの充電は車から外して行ってください。



①救援車のエンジンを止めます。

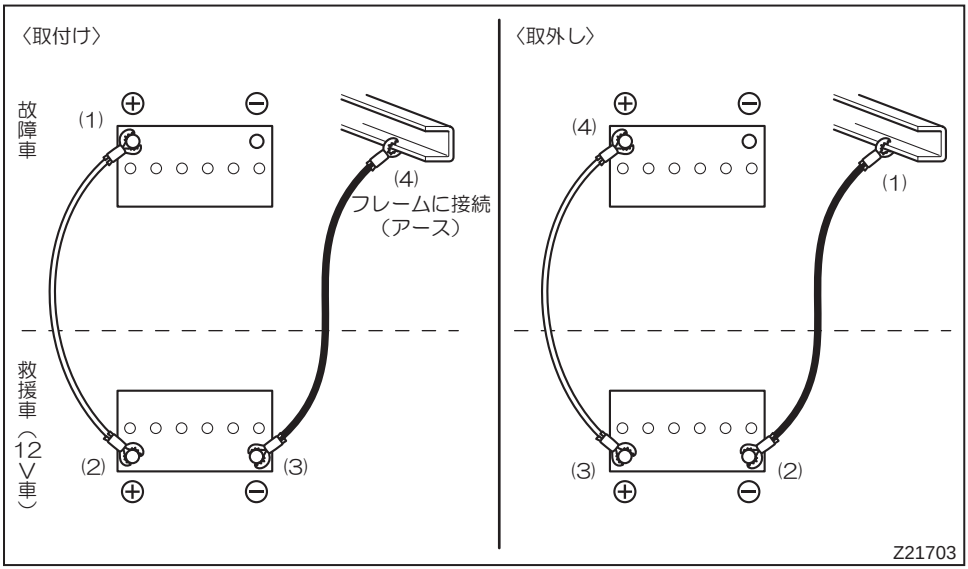
②ブースターケーブル（赤）を故障車メーンバッテリー⊕端子に接続します。他方を救援車のバッテリー⊕端子に接続します。

③ブースターケーブル（黒）を救援車バッテリーの⊖端子に接続し，他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続（アース）します。

④接続後，救援車のエンジンを始動し，アイドリングよりやや高めの回転数にします。次に故障車のエンジンを始動します。
寒冷時などでエンジンがかかりにくいときは救援車のエンジン始動後数分たってから行ってください。

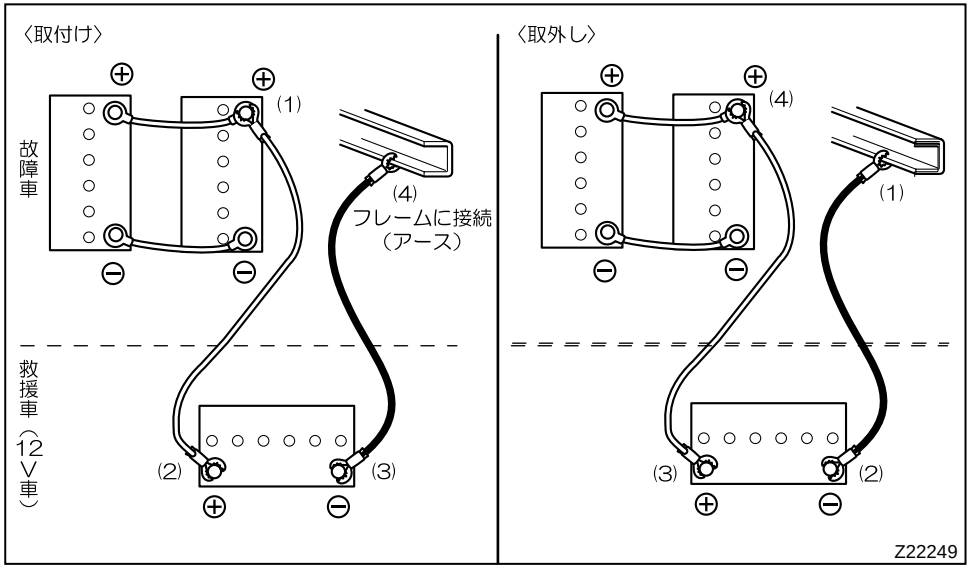
⑤故障車のエンジン始動後，ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取外してください。

● タイプ２（バッテリー１個搭載車）



①救援車のエンジンを止めます。
②ブースターケーブル（赤）を故障車バッテリー⊕端子に接続します。他方を救援車のバッテリー⊕端子に接続します。
③ブースターケーブル（黒）を救援車バッテリーの⊖端子に接続し，他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続（アース）します。
④接続後，救援車のエンジンを始動し，アイドリングよりやや高めの回転数にします。次に故障車のエンジンを始動します。
寒冷時などでエンジンがかかりにくいときは救援車のエンジン始動後数分たってから行ってください。
⑤故障車のエンジン始動後，ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取外してください。

● タイプ３（バッテリー２個搭載車（バッテリーイコライザ未搭載車））



①救援車のエンジンを止めます。

②ブースターケーブル（赤）を故障車バッテリー⊕端子に接続します。他方を救援車のバッテリー⊕端子に接続します。

③ブースターケーブル（黒）を救援車バッテリーの⊖端子に接続し，他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続（アース）します。

④接続後，救援車のエンジンを始動し，アイドリングよりやや高めの回転数にします。次に故障車のエンジンを始動します。
寒冷時などでエンジンがかかりにくいときは救援車のエンジン始動後数分たってから行ってください。

⑤故障車のエンジン始動後，ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取外してください。

燃料タンクが空になったとき

燃料切れでエンストしたときや燃料フィルターを交換したときは，燃料系統中に空気が入っているので燃料を補給しただけではエンジンを始動することはできません。
次の方法でエア抜きを行ってください。

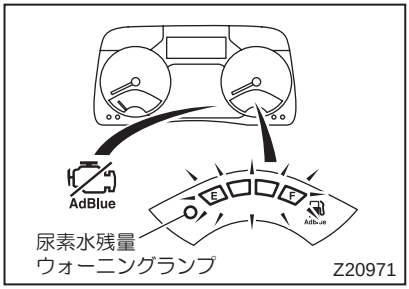
⚠ 警告

燃料フィルターを交換したときは，燃料フィルター周りから燃料が漏れてないことを確認してください。燃料漏れは火災の原因になり危険です。

①スタータースイッチを約 30 秒間 “ON” 位置にした後，“ACC” 位置にします。
②エンジンを始動します。
③燃料フィルターを交換したときはエンジンを始動してフィルター周りから燃料漏れがないか点検します。

尿素水タンクが空になったとき

- 尿素水タンクが空になると尿素水残量ウォーニングランプに加え，AdBlue ウォーニングランプの点灯及び尿素水レベルインジケーターが速い点滅をし，連続音のブザーが鳴ります。直ちに AdBlue®（尿素水）を補給してください。7-27 ページをごらんください。



知識

AdBlue®（尿素水）が空の状態（図の内容が表示，点灯し，ブザーが鳴っている状態）でエンジンを停止すると，エンジンが再始動できなくなります。

- 尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給したときは，エンジンの再始動方法が異なります。7-30 ページをごらんください。

けん引するとき

⚠ 注意

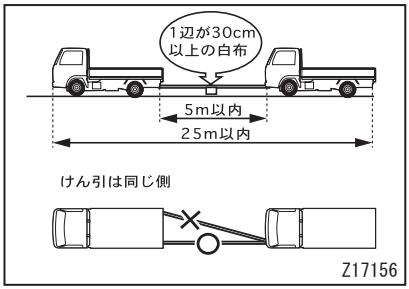
- 次の場合はけん引専用車でけん引してください。
  - エンジンが回らないとき。
  - トランスミッション，デファレンシャルの内部に故障があるとき。
  - ブレーキが正常に作動しないとき。
  - 高速道路でけん引するとき。
- DUONIC 2.0 搭載車のけん引はプロペラシャフトを外すか，けん引専用車で後輪を吊り上げてけん引してください。
  そのままけん引するとトランスミッションの損傷の原因になります。
- プロペラシャフトを取外したときは，エンジンブレーキや排気ブレーキが効きません。
- フルタイム 4WD 車は通常のレッカーによるけん引はできません。必ず全輪を持ち上げた状態で運びます。
  前輪や後輪の片方を台車などに載せてレッカー車でけん引することはやめてください。駆動装置が過熱し，焼付きを起こしたり，車が飛び出したりして危険です。
- パートタイム 4WD 車は全輪を持ち上げるか，前輪を持ち上げて後輪側のプロペラシャフトを取外してからけん引してください。

アドバイス

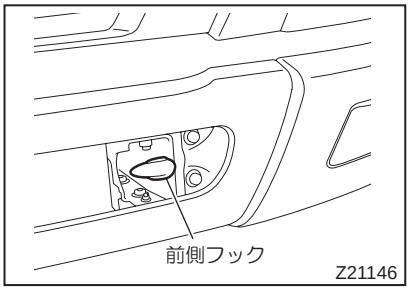
FUP（Front Under-run Protector）装着車は，FUP にけん引ロープを掛けてけん引したり，FUP で車両前部を持ち上げてけん引しないでください。FUP やフレームの損傷の原因になります。

1. ロープの接続

● けん引車と故障車の距離は図の寸法以内にしてください。

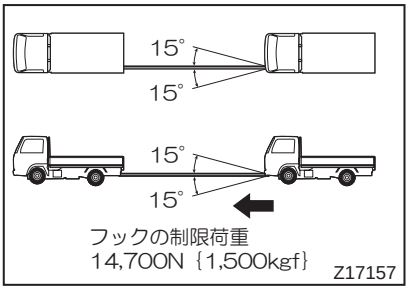


● けん引ロープは堅牢な物を使用し，フレームのフックから外れないようにかけてください。
フックの形状及び取付け位置が車種によって異なります。



2. けん引方法

● けん引角度は図の範囲内で使用してください。
また，急激な力がかかるような使い方（たとえば溝に落ちた車を引き上げるなど）をしますとフックが破損するおそれがあります。
また，自分の車より重い故障車なども絶対にけん引しないでください。



アドバイス

けん引フックの制限荷重は引っ張り方向（図の矢印方向）で 14,700N {1,500kgf} です。

● 故障車の積み荷はすべて降ろしてください。
● けん引専用車以外でけん引するときの最高速度は 30km/h です。高速道路は走行できません。
● 急発進を避けロープがたるまないようにしてください。
● 故障車は次の処置を行ってください。

①マニュアルミッション搭載車は，ギヤシフトレバーをニュートラル位置にします。
DUONIC 2.0 搭載車はギヤシフトレバーを “N” 位置にし，プロペラシャフトを外します。

②エンジンは必ず回しておきます。
エンジンを止めておくとブレーキの効きが悪くなり，ハンドル操作が極端に重くなります。

知識

排気ガスが高温になる場合があります。けん引ロープが過度にたれると排気ガスがけん引ロープにかかり，変色するおそれがあります。停車するときはけん引ロープがたるみすぎないようにします。

17章 サービスデータ

ご自身でできる点検整備の判定基準をまとめて記載してあります。

1. 点検整備値

点検整備項目			判定基準	参照ページ
エンジンアイドリング回転数（暖機運転終了後。アイドリング調整ボタン装着車はオートアイドル）（rpm）			約650	7-6
ブレーキペダルの遊び（パッド中央で）（mm）			0.1～3	14-36
ブレーキペダルの踏みしろ（ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだときの床板とのすきま）（mm）			10以上	13-18
駐車ブレーキの引きしろ（操作力　約294N｛30kgf｝時）（ノッチ）			7～9	14-37
ハンドルの遊び（mm）	エンジン停止時	フロントリジッドリーフ式サスペンション車	10～20	14-38
		フロントリジッドリーフ式サスペンション車	10～20	
	アイドリング回転時		5～50	
クラッチペダルの遊び（パッド中央で）（mm）			0.2～4	14-41
クラッチが切れたときのペダルと床板のすきま（mm）			20以上	14-41
タイヤ溝の深さの限度（mm）		一般走行時	1.6以上	13-9
		高速走行時	2.4以上（下記タイヤ以外）	
			3.2以上 215/70Rタイヤ 225/80Rタイヤ	
タイヤ空気圧			運転席側ドアピラーのラベル参照	13-8

点検整備項目		判定基準	参照ページ
ホイールナットの締付けトルク（N·m {kgf·m}）	FBA0 型	170 ～ 230 {17 ～ 23}	14-52
	上記以外	450 ～ 550 {45 ～ 55}	
バッテリー液の量		バッテリーの “UPPER” と “LOWER” レベルラインの間	13-10

2. その他

項目	容量	参照ページ
尿素水タンク容量（dm^3 {L}）	約 12 {12}	7-27

18章 さくいん

A

ABS（アンチロックブレーキシステム） ····· 7-148
AdBlue®（尿素水）の保管について ····· 7-31
AdBlue®（尿素水）の補給 ····· 7-27
AM/FM ラジオ ····· 11-8
AM/FM ラジオ& CD プレーヤー ····· 11-19
AM/FM ラジオ（スピーカー一体型） ····· 11-3

D

DPF 自動再生 ····· 7-129
DPF 手動再生 ····· 7-130
DPF 手動再生操作方法 ····· 7-131
DPF モニター ····· 6-17
DUONIC 2.0 ····· 7-37
DUONIC 2.0 搭載車の取扱い ··· 3-13

E

EBD（電子制動制動力配分装置） ····· 7-148
ECO モードスイッチ ····· 7-43
EDR（イベントデータレコーダー） ····· 7-147
EZGO（イージーゴー）（坂道発進補助装置） ····· 7-71

L

LSD（リミテッドスリップデフ） ····· 7-117

P

PCV フィルターの再生方法 ····· 14-25

S

SAM ····· 6-33
SRS エアバッグ ····· 7-137

あ

アイドリングストップシステム ··· 7-17
アイドリング調整ボタン ····· 7-6
アクセルペダル ····· 7-33
インストアッパー 2DIN ボックス（リッド付）····· 9-15
インタークーラーの清掃 ····· 14-79
ウォーニング表示，インジケーター表示 ····· 6-27
ウォーニングランプ，インジケーターランプ ····· 6-39
ウォッシャー液の噴霧状態 ····· 13-19
ウォッシャースイッチ ····· 7-93
ウォッシャーの液量 ····· 13-6
運転時には ····· 3-7
運転席 ····· 5-2
運転席 SRS エアバッグ ····· 7-139
運転の前に ····· 3-2
エアクリーナーの点検，清掃，交換 ····· 14-19
エンジンイモビライザー ····· 4-3
エンジンオイルの補給，交換 ····· 15-7
エンジンオイルの量 ····· 13-12
エンジンオイルフィルターの交換 ····· 14-9

エンジン点検口 ····· 4-26
エンジンのかかり具合，異音 ···· 13-17
エンジンの始動 ····· 7-7
エンジンの停止 ····· 7-15
エンジンの低速，加速の状態 ···· 13-21
オーディオの上手な使い方 ····· 11-2
オーバーヒートしたとき ····· 16-11
オーバーヘッドトレイ ····· 9-13
オイルの点検，補給，交換時の注意 ····· 15-2
お子さまを乗せるときは ····· 3-11
オドメーター（積算距離計）····· 6-10

か

外気導入口 ····· 14-72
カップホルダー ····· 9-14
簡単な点検，手入れ ····· 14-3
寒冷時に尿素水タンクが空になってから AdBlue®（尿素水）を補給し，そのまま駐車するときの処置 ····· 7-31
ギヤシフトレバー ····· 7-36，7-41
キャブチルト ····· 4-20
キャブ内はり付けラベル ····· 2-3
給脂 ····· 15-28
給油脂一覧表 ····· 15-3
クラッチオイルの点検，補給，交換〈DUONIC 2.0 搭載車〉····· 15-13
クラッチペダルの点検 ····· 14-41
車の手入れ ····· 14-74
けい光灯 ····· 9-10
けん引するとき ····· 16-41
コートフック ····· 9-7
後席〈ダブルキャブ車〉····· 5-6
降雪時の注意 ····· 12-3
故障したとき ····· 16-8
故障の原因と処置 ····· 16-2
故障を防ぐために ····· 3-28
コンビニフック ····· 9-13

さ

再生制御式 DPF システム ····· 7-125
作業用補助制動装置 ····· 7-118
サンバイザー ····· 9-7
シート，ハンドルの調整 ····· 5-1
シートベルト ····· 5-7
シートベルトの状態 ····· 14-73
シガーライター ····· 9-3
車外はり付けラベル ····· 2-6
車載工具 ····· 14-6
車台番号，エンジン番号 ····· 1-3
ジャッキアップ ····· 14-44
ジャッキの使い方 ····· 14-45
車両データの記録，蓄積及び取扱いについて ····· 1-5
12 ボルト及び 24 ボルト電源回路搭載車の取扱い ····· 3-24
乗降のしかた ····· 4-16
使用油脂 ····· 15-7
助手席，中央席 ····· 5-5
助手席 SRS エアバッグ ····· 7-140
新車時のならし運転について ····· 1-4
水温計 ····· 6-4
スターターキー ····· 4-2
スタータースイッチ ····· 7-3
ステップランプ ····· 9-10
スピードメーター ····· 6-2
スペアタイヤの点検，脱着 ····· 14-58
全国サービス網 ····· 1-2
センターコンソール ····· 9-13
センタートレイ ····· 9-13

た

タイヤチェーンの付け方 ····· 12-5
タイヤのき裂，損傷及び異常な摩耗 ····· 13-9
タイヤの空気圧 ····· 13-8
タイヤの交換 ····· 14-43

タイヤのローテーション ····· 14-57
タイヤ溝の深さ ····· 13-9
タコグラフ ····· 6-48
タコメーター ····· 6-3
縦型物入れ ····· 9-13
暖機運転 ····· 7-11
暖機スイッチ ····· 7-5
ダンプトラック ····· 7-100
注意，警告ラベル ····· 2-1
駐車するときは ····· 8-12
駐車ブレーキの点検 ····· 14-37
駐車ブレーキの引きしろ ····· 13-18
駐車ブレーキレバー ····· 7-69
駐停車時には ····· 3-19
定期点検 ····· 14-2
デファレンシャルオイルの点検，
補給，交換 ····· 15-21
点検，手入れ時の注意 ····· 14-4
点検整備情報 ····· 6-21
点検整備をするときは ····· 3-25
電源ソケット ····· 9-2
電動リモコンミラー ····· 7-96
ドアガラス
（手動式ドアガラスの開閉）····· 4-20
ドアの開閉 ····· 4-13
ドアの施錠，解錠 ····· 4-6
ドアポケット ····· 9-13
トランスファーオイルの点検，補給，
交換 ····· 15-18
トランスミッション PTO ····· 7-110
トランスミッションオイル
DUONIC 2.0 搭載車も含む）の
点検，補給，交換 ····· 15-14
トリップメーター
（区間距離計）····· 6-10

な

荷台の取扱い ····· 4-28
日常（運行前）点検 ····· 13-1
日産純正部品について ····· 1-2
尿素水タンクが空になったときの
再始動方法 ····· 7-30
尿素水タンクが空になったとき
····· 16-40
尿素水レベルインジケーター ····· 6-6
ぬかるみ，雪道や砂地からの脱出
····· 7-51
燃費情報 ····· 6-18
燃料計 ····· 6-5
燃料タンクが空になったとき ···· 16-40
燃料の補給 ····· 7-25
燃料フィルターの交換 ····· 14-14
燃料フィルターの水抜き ····· 14-23

は

パートタイム 4WD 車 ····· 7-58
パートタイム 4WD 車の取扱い
····· 3-15
排気後処理装置（尿素 SCR）···· 7-134
排気処理システム ····· 7-123
排気処理システムの取扱い ····· 3-30
排気ブレーキスイッチ ····· 7-34
灰皿 ····· 9-4
発炎筒の使い方 ····· 16-10
パッシング，ディマースイッチ
····· 7-88
バッテリーあがりのとき ····· 16-36
バッテリーの液量 ····· 13-10
バッテリーの脱着 ····· 14-67
バッテリーの点検 ····· 14-64
パワーウインドー
（ドアガラスの開閉）····· 4-18
パワーステアリングオイル，
冷却水点検口 ····· 4-27
パワーステアリングオイルの点検，
補給 ····· 15-26
ハンドル ····· 5-12
ハンドルの点検 ····· 14-38

ヒーター，エアコン用
　エアフィルターの清掃 ····· 14-80
非常点滅灯（ハザードランプ）
　スイッチ ····· 7-89
ヒューズが切れたとき ····· 16-13
ヒルスタートアシスト機能
　〈DUONIC 2.0 搭載車〉 ····· 7-81
フートブレーキの点検 ····· 14-36
ファンベルトの緩み（張り具合），
　損傷 ····· 13-15
フォグランプスイッチ ····· 7-89
フルオートエアコン ····· 10-11
フルタイム 4WD 車 ····· 7-67
フルタイム 4WD 車の取扱い ····· 3-17
ブレーキ液の点検，補給 ····· 15-24
ブレーキのかけ方 ····· 8-7
ブレーキの効き具合 ····· 13-21
ブレーキペダル ····· 7-33
ブレーキペダルの踏みしろ ····· 13-18
ブレーキリザーバータンクの
　ブレーキ液量 ····· 13-11
フロント吹き出し口 ····· 10-2
ヘッドランプオートレベライザー
　システム ····· 7-91
ヘッドランプレベライザースイッチ
　····· 7-90
ホーンスイッチ ····· 7-99
ホイール，ホイールナットの点検
　····· 14-60
ホイールナットの点検，増し締め
　····· 14-61
方向指示スイッチ ····· 7-88
保証について ····· 1-2

ま

マニュアルエアコン ····· 10-4
マフラーの機能点検 ····· 14-71
マルチインフォメーション
　ディスプレイ表示内容の切り替え
　及び設定 ····· 6-11
マルチ情報システム ····· 6-8
ミラー ····· 7-94
ミラーの格納 ····· 7-96
ミラーヒータースイッチ ····· 7-99
メーターの配置 ····· 6-2

ら

ライトスイッチ ····· 7-87
ランプが切れたとき ····· 16-22
ランプ類の点灯，点滅具合 ····· 13-20
ランプ類の汚れ，損傷 ····· 13-12
リモートコントロールエントリー
　システム ····· 4-9
リヤエアコン ····· 10-17
リヤヒーター ····· 10-22
リヤ吹き出し口〈ダブルキャブ車〉
　····· 10-3
リレーがこわれたとき ····· 16-20
ルームミラー ····· 9-11
ルームランプ ····· 9-8
冷却水の補給，交換 ····· 14-26
冷却水の量 ····· 13-7
ロードリミッター付プリテンショナー
　シートベルト ····· 5-9

わ

ワイパースイッチ ····· 7-92
ワイパーのふき取り状態 ····· 13-19
ワイパーブレードの交換 ····· 14-63

● 商標について

- AdBlue，アドブルーは，ドイツ自動車工業会の登録商標です。
- DUONIC® は Daimler AG の登録商標です。
- Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- Windows Media® は，米国 Microsoft Corporation の米国及び / またはその他の国における登録商標または商標です。
- iPod，iPhone は，米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。